熊本県文化財報告２８７集

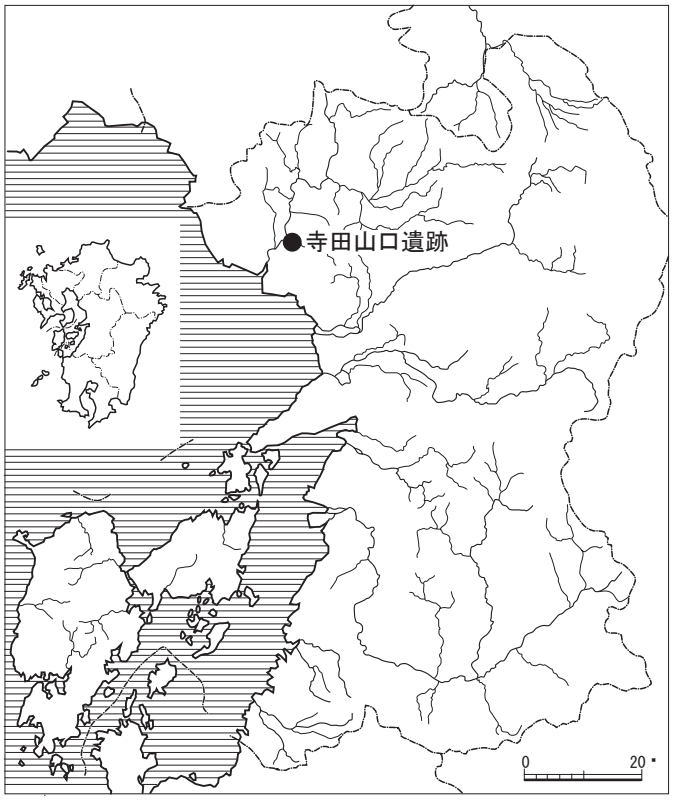
熊本県玉名市所在

寺 田 山 口 遺 跡

（城ヶ辻城跡）

−一般国道２０８号（玉名バイパス）改築事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告 −



熊本県教育委員会

２０１３

1.　A 区連結土坑 51-SK 燃焼面くびれ部（北東から）

2.　燃焼面遺物出土状況（南西から）

3.　出土遺物　縄文時代早期無文土器

1.　B1 区 001-SK
大型土器棺出土状況
（北から）

2.　出土遺物　縄文時代晩期末 土器棺

1.　B1 区 003-SK
小型土器棺出土状況
（東から）

2.　出土遺物　縄文時代晩期末 土器棺

1.　B1 区 010-SK 小壷出土状況（南西から）

2.　弥生時代前期初頭　小壷

序文

熊本県教育委員会は、一般国道 208 号玉名バイパス改築事業に伴い、平成 15ー18 年度にわたり、熊本県玉名市寺田に所在する、寺田山口遺跡の発掘調査を実施しました。

玉名地域では、隣接する吉丸西（榎原遺跡）・吉丸前遺跡で、縄文時代終わりの集落跡を検出していましたが、その時代の墓等の様子があまりわかっていませんでした。

縄文時代終わりから弥生時代はじめにかけての墓域を検出した、今回の調査は貴重な発見と言えます。

また、それにさかのぼる縄文時代早期の炉穴も検出しました。焚き口や煙道等が良く焼けて当時の調理の様子が見えてくるようです。

さらに、調査地の南側には「大堂」という地名が残るように、稲佐廃寺の存在する玉東町稲佐から、玉名郡衙や高瀬に伸びる道路に近接すると考えられます。

また八嘉台地（「寺田」丘陵）を下ると「津留」という地名も見られ、船着き場として絶好の地形が見られます。

今回報告する建物や溝等は、遺跡の隣接地では、古代から中世後期にかけて集落や舘を区画する溝や、それに伴うと推定できる掘立柱建物群も検出されており、それらとの関係も注目されるところです。

本報告書が、広く県民の皆様の文化財に対する認識と理解の深まりに貢献し、地元玉名市をはじめとする地域の歴史、社会教育、学術研究の進展に寄与することが適うならば、望外の喜びです。

末尾となりましたが、発掘調査を実施するにあたり文化財保護の観点から多大な協力をいただいた国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所、玉名市教育委員会をはじめとする地元関係者の方々及び御指導を賜りました諸先生方に深甚より感謝申し上げます。

平成２５年３月２９日

熊本県教育長　田崎　龍一

例　　言

1　本書は、熊本県玉名市寺田に所在する寺田山口遺跡（城ヶ辻城跡）の埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2　発掘調査は、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道時事務所の依頼を受け、熊本県教育委員会が実施した。調査費及び整理報告費については、、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道時事務所が負担した。

3　遺物の整理は、熊本県文化財資料室で実施した。

4　遺跡の発掘調査は平成15年度に実施し、整理報告作業を平成22から24年度まで実施した。

5　本書で用いる地形図は、玉名市都市計画課から提供された図幅、並びに国土地理院発行の2万5千分の1地形図玉名市教育委員会「吉丸前遺跡」掲載図面等をもとに作成した。
　また今回、地元地権者の方々に御協力を頂き、遺跡の測量の基準点測量及び水準測量は（株）有明測量開発社に委託して実施した。

6　現地での写真撮影は洲崎（水上）明子、水上 悌、三宅一生、伊藤（手柴）友美子、宇田員将、が行った。遺構実測は、前記３人の他に、権藤 功、原田英佳、田畑良勝、飯塚千恵美、西嶋ヨシエ、高津千尋、吉田ムツ子、吉川ゆかり、道口真由美、堀田祐子、田上俊子、渕上久史、尾浦公治、梅林将旨、坂口沙耶花、坂門みつよ、北嶋百合子が実施した。現地での掘削作業は、先程挙げた方々の他、多数の作業員の協力を得た。

　遺物の写真撮影は、藤島友美・亀田が行い、これを村田百合子、上田佳奈子、蓮池千絵、平川恵里子、那須 昭、生 美恵、田中洋子が補助した。

　遺物の実測は、平川、川井田久子、藤島友美、藤島志考、亀田、製図は、主に、平川、川井田、渕上、増田千春が実施した。遺物洗浄・接合・復元は、松本直枝、瀬口絹代、上田律子、上野栄子、三井佳子、松原泰子、井上秀子、水牧藤美、高松孝子、富田知子等が行った。遺跡地図の一覧表は中川治が作成した。

7　自然科学分析（花粉分析及び炭素年代測定）は株式会社古環境研究所、株式会社パレオ･ラボ、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。

8　本書の執筆は、亀田、藤島友美が執筆した。

9　整理後の保管は熊本県文化財資料室で保管されている。

10　本書の編集は、熊本県教育庁文化課が行い、平川・藤島友美が担当し、亀田が総括した。

凡　　例

1　**方位／座標**　国土座標第Ⅱ系（日本測地系）を基準とし、方位もそれに準じた。

2　**遺跡地区名**　遺跡全体の地区の通りである。寺田山口遺跡A区、B区の中央付近を(0,0)とし、北をN、南をS、東をE,西をWとし、N5E10等と地点を標記し、南西杭をグリッドの代表杭とした。

3　**遺構名略号**　次の通りである。SI；竪穴建物、SB;掘立柱建物、SK;土坑、SP;ピット、SD;溝、SX；その他

4　**遺構図版**　標高は東京湾平均海水面（Tokyo Peil［T.P.］）

5　**遺構図版 縮尺**　遺構図版は、ブロックごとに掲載し、縮尺はキャプション及びスケールで図示した。

6　**遺構図版 線種**　遺構平面図は原則として確定ラインは実線で掲載し、遺構上・下端の推定線は破線で示した。また撹乱および調査区範囲については一点破線で示した。

7　**遺構図版**　スクリーントーン 焼土等について施している。図面内に凡例を付加している。断面については検出面を斜線で示している。

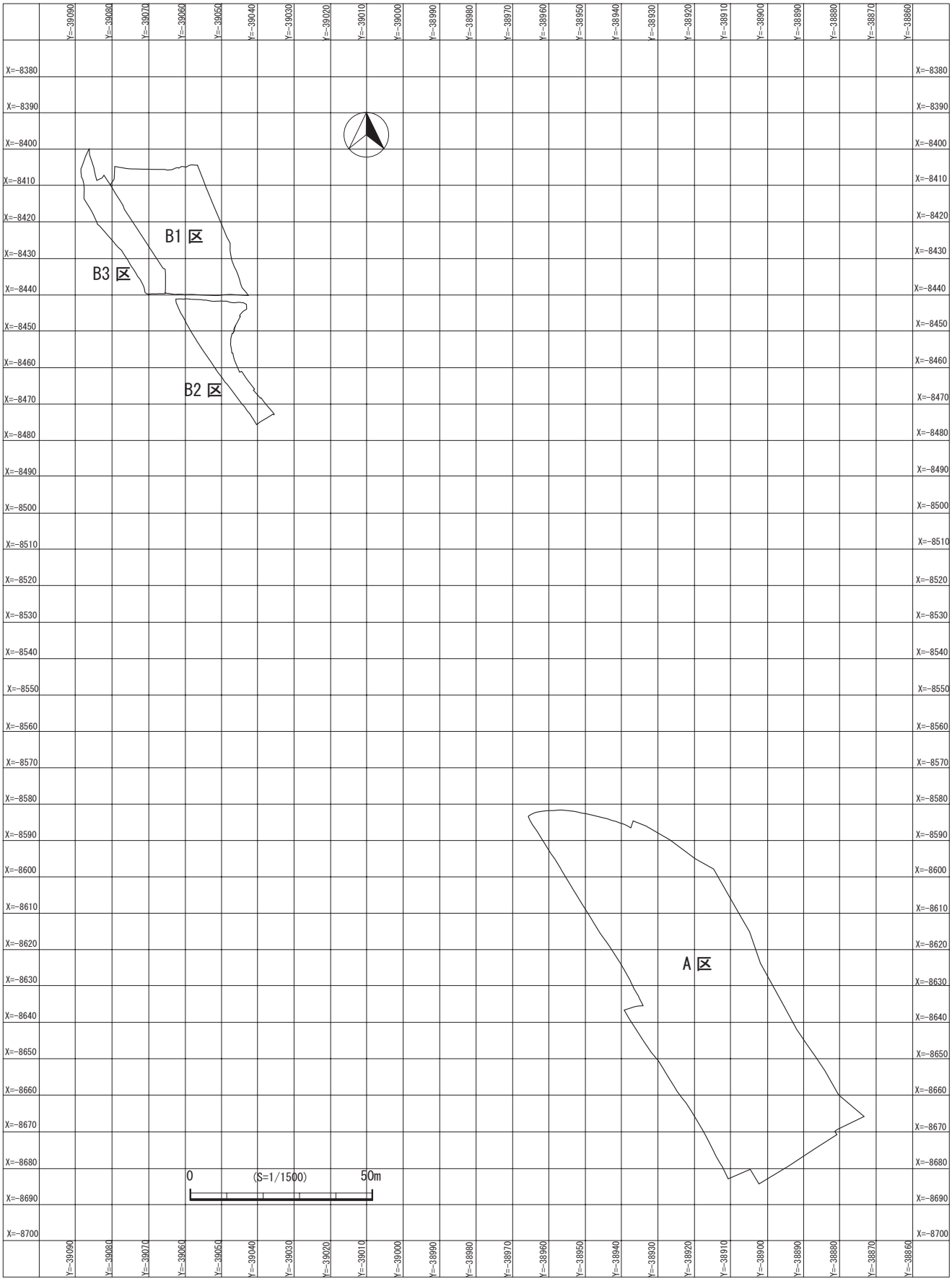
8　**遺構図版 断面ポイント**　各遺構の平面及び断面図では､―ラインの内側をポイントとしている。

9　**遺物図版 縮尺**　遺物実測は原則として、土器は1/3、石器は石斧・敲石等については1/3、その他は2/3で掲載した。またこれに該当しないものは、その縮尺を図中に示した。

10　**遺物図版 線種**
土器　外形線、中心線及び区画線は実線、稜線は一点破線または二点破線、推定線は破線で示した。また、須恵器については、断面を塗りつぶし、回転ヘラ削りを実線で示したのち、以下底部まで砂粒の動きを示している。
石器　外形線、稜線、剥離痕は実線、推定線は破線で示した。擦り面についてはトーン、礫面については、点描及び文字、欠損部については黒く塗りつぶしている。

11　**遺物図版**　土器の小破片については、断面図の左を内　面、右を外面の立面図にしている。須恵器は断面を黒塗りしている。拓本もこれに準じている。接合痕跡は、断面の内側に細線を入れている。

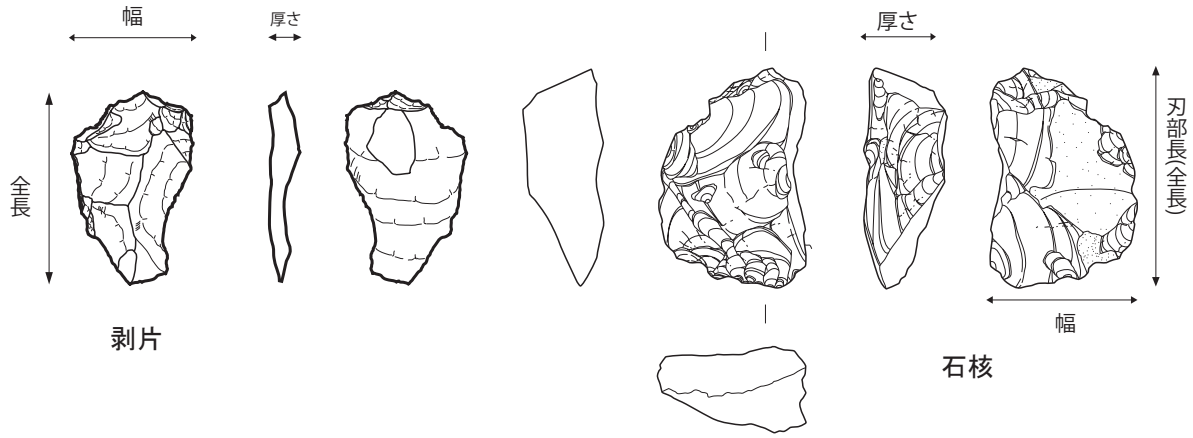
12　**遺物観察表**　すべての実測個体について、遺物観察表を掲載した。その凡例は、各観察の下に別項にて注記している。

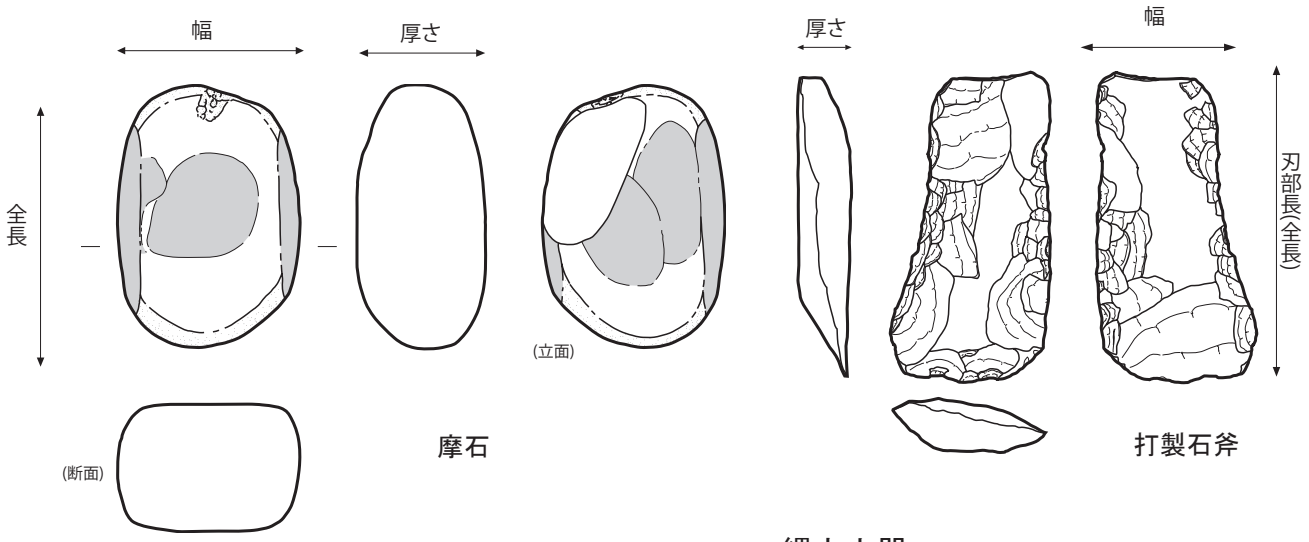


寺田山口遺跡　グリット＆座標図 (1/1500)

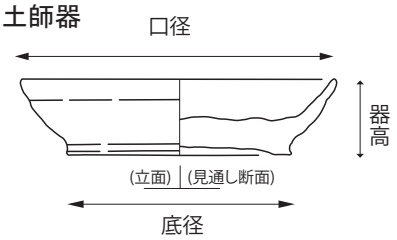
凡　例　図

石器

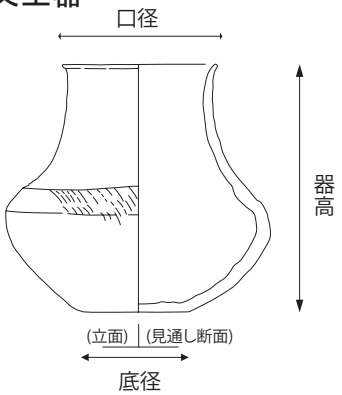




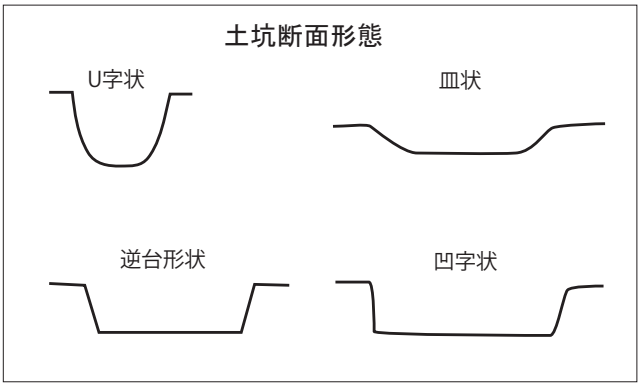
土師器



縄文土器



遺構



本文目次

第Ⅰ章　調査の経過

第１節　調査に至る経緯と経過 …… 1

第２節　調査の組織 …… 1

第Ⅱ章　遺跡の環境 …… 3

第Ⅲ章　調査の成果

第１節　調査区の位置 …… 5

第２節　調査概要 …… 5

第３節　基本土層 …… 6

第４節　縄文時代早期の遺構と遺物 …… 6

1　概要 …… 6

2　土坑（炉穴） …… 6

A 区 …… 6

第５節　縄文時代後・晩期の遺構と遺物 ……13

概要 ……13

1　土坑 ……13

概要 ……13

A 区 ……13

B1 区 ……19

B3 区 ……24

B2 区 ……27

2　竪穴建物 ……35

B3 区 ……35

3　遺物包含層の遺物（縄文時代） ……35

石器 ……35

第６節　弥生時代の遺構と遺物 ……37

B1 区 ……37

第７節　古代の遺構と遺物 ……38

1　竪穴建物関連 ……38

B1 区 ……38

2　土坑 ……38

A 区 ……38

3　掘立柱建物 ……39

A 区 ……39

B 区

B1 区 ……42

B1・B3 区 ……43

B2 区 ……44

4　溝 ……46

概要 ……46

1　溝 ……46

5　遺物包含層及び

他の時代の遺構から出土した遺物 ……46

第８節　中世後期の遺構と遺物 ……47

概要 ……47

1　溝 ……47

2　遺物包含層出土の遺物 ……48

第９節　近世以降の遺構と遺物 ……49

概要 ……49

1　溝 ……49

第Ⅳ章　考古学的分析

第１節　縄文時代早期の連結土坑 ……51

1　立地 ……51

2　時期 ……51

3　構造 ……51

4　使用状況 ……51

第２節　縄文時代後・晩期の生活エリア ……52

1　建物 ……52

2　貯蔵穴 ……52

3　時期 ……53

4　まとめ ……53

第３節　縄文時代後・晩期の墓について ……53

1　埋設土器から土器棺へ ……53

2　土器棺の立地について ……53

3　小壷の供献について ……54

4　土壙（墓）の構造 ……54

5　時期 ……54
6　分布 ……54
第 4 節　縄文時代の土器について ……56
1　早期 ……56
2　晩期 ……56
(1) 土器棺……57
第 5 節　古代・中世の掘立柱建物について ……59
1　はじめに ……59
2　A 区の掘立柱建物について ……59
(1) 時期……59
(2) 建物の分布と区画溝 ……59
(3) 構造……59
(4) 小結……59
3　B 区の掘立柱建物について ……60
(1) 時期……60
(2) 分布……60
(3) 小結……60
4　まとめ ……60
第 6 節　中世の溝について ……61
第 7 節　近世以降の溝について ……62
第Ⅴ章　まとめ
調査成果……63
1　縄文時代 ……63
2　弥生時代 ……63
3　古代 ……63
4　中世 ……64
5　近世以降 ……64
（参考引用文献）……65
第Ⅵ章　自然科学的分析 ……66

図面・写真図版・表 目次

図面

位置図関連

Pl.1　調査位置図（1/2000）
Pl.2　周辺遺跡分布図（1/12,000）
Pl.3　付表①　遺跡周辺遺跡名一覧
Pl.4　付表②　遺跡周辺遺跡名一覧
Pl.5　遺跡周辺古地図（1/10,000）
Pl.6　説明文
Pl.7　玉名バイパス計画路線内遺跡位置図(菊池川左)(1/5,000)
Pl.8　基本土層図 寺田山口遺跡（1/60）吉丸前遺跡（1/40）
Pl.9　A 区縄文時代早期遺構配置図（1/800）(1/150)
Pl.10　A 区縄文時代早期連結土坑配置図（1/60）
Pl.11　A区連結土坑　46・42・75・64-SK 平面・断面図(1/40)
Pl.12　A区連結土坑　53・50・56・41-SK 平面・断面図(1/40)
Pl.13　A区連結土坑　40・48・39・49-SK 平面・断面図(1/40)
Pl.14　A 区連結土坑　45・44-SK 平面・断面図（1/40）
Pl.15　A区連結土坑　51・43・47・57-SK 平面・断面図(1/40)
Pl.16　A 区連結土坑　37-SK・38-SK 平面・断面図（1/40）
Pl.17　A 区縄文時代後晩期遺構配置図（1/600）
Pl.18　A区縄文時代土坑　129・08・09-SK・21・22-SX 平面・断面図(1/40)
Pl.19　A区縄文時代土坑　115-SK・140-SK 平面・断面図(1/40)
Pl.20　A区縄文時代土坑　117・116・110-SK(1/40)・126-SK(1/20) 平面・断面図
Pl.21　A区縄文時代土坑　124-SK・05-SK・12-SX 平面・断面図(1/40)
Pl.22　A区縄文時代土坑　134・29・127・新・旧133・135-SK 平面・断面図(1/40)
Pl.23　B 区縄文時代後晩期土坑配置図（1/ ３00）
Pl.24　B3区縄文時代竪穴建物　101号 平面・断面図(1/60)
Pl.25　B3区縄文時代土坑　2号土坑完掘状況・埋土3層遺物出土状況 平面・断面図(1/10)
Pl.26　B3区縄文時代土坑　2号土坑埋土2層・埋土1層遺物出土状況 平面・断面図(1/10)
Pl.27　B1区縄文時代土坑　001-SK 平面・断面図（1/20）
Pl.28　B1区縄文時代土坑　003-SK(1/10)・001-SK・002-SK(1/40) 平面・断面図
Pl.29　B1区縄文時代土坑　153・007・008・026・155(100)・156・157-SK 平面・断面図(1/40)
Pl.30　B1区縄文時代土坑　010・011・012・013・170・118・152(119)-SK 平面・断面図(1/40)
Pl.31　B1区縄文時代土坑　135・034・033・036・035-SK 平面・断面図(1/40)
Pl.32　B1区縄文時代土坑　029・028・030・137・032・048-SK 平面・断面図(1/40)
Pl.33　B1区縄文時代土坑　169・113・006-SK(1/40)・168-SK(1/20) 平面・断面図(1/20)
Pl.34　B3区縄文時代土坑　1・3号土坑 平面・断面図(1/40)
Pl.35　B3区縄文時代土坑　12・36・9・13・35号土坑 平面・断面図(1/40)
Pl.36　B3区縄文時代土坑　18・11・20・24・14号土坑 平面・断面図(1/40)
Pl.37　B3区縄文時代土坑　26・28・10・6号土坑・21-SK 平面・断面図(1/40)
Pl.38　B2区縄文時代後晩期土坑配置図(1/２00)
Pl.39　B2区縄文時代土坑　13・15・14・51・06・12-SK 平面・断面図(1/40)
Pl.40　B2区縄文時代土坑　03・05-SK 平面・断面図（1/40）
Pl.41　B2区縄文時代土坑　08・09-SK 平面・断面図（1/40）
Pl.42　B2区縄文時代土坑　35・01・04・19・16-SK 平面・断面図(1/40)
Pl.43　B2区縄文時代土坑　20・36・53・07・11・21-SK 平面・断面図(1/40)
Pl.44　B2区縄文時代土坑　28・41・65・40・39・42-SK 平面・断面図(1/40)
Pl.45　B2区縄文時代土坑　50・52・26・43・23・27・37-SK 平面・断面図(1/40)
Pl.46　B2区縄文時代土坑　38-SK・61-SK(SX)平面・断面図(1/40)
PL.47　B1区弥生時代後期～古墳時代遺構配置図(1/300)
Pl.48　B1区　037-SI(SX)平面・断面図(1/60)
Pl.49　B1区　037-SI(SX)・150-SK関係図 150-SK平面・断面図(1/60)
Pl.50　A区古代～中世掘立柱建物配置図(1/600)
Pl.51　A区　125-SB・130-SB平面・断面図(1/80)
Pl.52　A区　131-SB・06-SB・07-SB平面・断面図(1/80)
Pl.53　A区　132-SB・139-SB平面・断面図(1/80)
Pl.54　A区　122-SB・121-SB・146-SA平面・断面図(1/80)
Pl.55　A区　128-SB(1/80)・24-SK(1/40)平面・断面図

P1.56　A 区　123-SB・120-SB 平面・断面図（1/80）
P1.57　A 区　119-SB・118-SB 平面・断面図（1/80）
P1.58　B 区古代～中世掘立柱建物配置図（1/400）
P1.59　B1 区　163-SB・164-SB・165-SB 平面・断面図（1/80）
P1.60　B1・B3 区　160-SB・172-SB 平面・断面図（1/80）
P1.61　B1・B3 区　173-SB・161-SB・167-SB 平面・断面図（1/80）
P1.62　B2 区　1003-SB・1004-SB・2001-SA 平面・断面図（1/80）
P1.63　B2 区　02-SB・66-SB・67-SB 平面・断面図（1/80）
P1.64　B2 区　1001-SB・1002-SB 平面・断面図（1/80）
P1.65　A 区中世後期溝配置図（1/600）
P1.66　A 区近世以降溝＆等高線（1/600）
P1.67　A 区中世後期～近世溝 23・33-SD 断面図（1/60）
P1.68　A 区中世後期～近世溝 36・28・27-SD 断面図（1/60）
P1.69　A 区中世後期～近世溝 03・04-SD 断面図（1/60）
P1.70　A区近世以降溝100・108・106・02・102a・103-SD 断面図(1/60)
P1.71　B 区近世以降溝配置図（1/200）
P1.72　B2 区近世溝 25-SD 平面（1/100）断面図（1/60）

遺物

P1.73　A 区 08-SK 出土黒曜石接合資料（1/1）
P1.74　A 区 08-SK 出土黒曜石接合資料（1/1）
P1.75　A 区 SK・SP 出土石器実測図（1/3）
P1.76　A 区 SP・SX・SD 出土石器実測図（1/3）
P1.77　A 区 SD・包含層出土石器実測図（2/3）
P1.78　A 区包含層出土石器実測図（2/3）（1/3）
P1.79　A 区土坑・溝・包含層出土遺物実測図（1/3）
P1.80　A 区土坑・溝・包含層・表土出土縄文土器実測図（1/3）
P1.81　A・B1 ～ 3 区土坑出土縄文土器実測図（1/3）（1/4）
P1.82　B 区 001-SK 出土土器棺（1/6）・管玉実測図（1/1）
P1.83　A 区 SD(SX)・包含層出土遺物実測図（1/3）

遺物出土分布図・区画想定図

P1.84　A 区黒曜石出土分布図（1/600）
P1.85　B 区黒曜石出土分布図（1/400）
P1.86　A 区縄文時代早期土器出土分布図（1/ ８00）(1/150)
P1.87　A 区縄文時代土器出土分布図（1/600）
P1.88　B 区縄文時代土器出土分布図（1/400）
P1.89　A 区土師器出土分布図（1/600）
P1.90　B 区土師器出土分布図（1/400）
P1.91　A 区須恵器出土分布図（1/600）
P1.92　A 区青磁出土分布図（1/600）
P1.93　A 区瓦質土器出土分布図（1/600）
P1.94　A 区陶器出土分布図（1/600）
P1.95　A 区陶磁器出土分布図（1/600）
P1.96　A 区瓦出土分布図（1/600）
P1.97　A 区掘立柱建物 A ～ D 群分類図案（1/600）
P1.98　区画溝想定図　（ 中世 ）（1/5000）
P1.99　区画溝想定図　（ 近世 ）（1/5000）

遺構法量表

表①　縄文時代早期連結土坑法量表
表②　縄文時代後晩期土坑法量表
表③　縄文時代後晩期竪穴建物法量表
表④　弥生時代竪穴建物法量表
表⑤　古代土坑法量表
表⑥　掘立柱建物法量表

遺物観察表

表 1　遺構・遺物包含層出土石器観察表
表 2　遺構・遺物包含層出土縄文土器観察表
表 3　遺構・遺物包含層出土土器観察表
表 4　遺構・遺物包含層出土弥生土器観察表
表 5　玉類観察表

写真図版

巻頭カラー

巻頭カラー①
1. A 区連結土坑 51-SK 燃焼面くびれ部（北東から）
2. 燃焼面遺物出土状況（南西から）
3. 出土遺物　縄文時代早期無文土器

巻頭カラー②
1. B1 区 001-SK 大型土器棺出土状況（北から）
2. 出土遺物　縄文時代晩期末土器棺

巻頭カラー③
1. B1 区 003-SK 小型土器棺出土状況（東から）
2. 出土遺物　縄文時代晩期末土器棺

巻頭カラー④
1. B1 区 010-SK 小壷出土状況（南西から）
2. 弥生時代前期初頭　小壷

Ph. 1　A･B 区全景
1. 調査区全景（北から）

Ph. 2　A 区全景
1. 調査区全景（北東から）

Ph. 3　A 区連結土坑 1
1. 連結土坑全景（北西から）
2. 連結土坑完掘全景（南西から）

Ph. 4　A 区連結土坑 2
1. 37-SK 完掘状況（南から）
2. 40-SK 完掘状況（北東から）
3. 39-SK 燃焼部（北から）
4. 39-SK 完掘状況（北東から）

Ph. 5　A 区連結土坑 3
1. 38-SK（北西から）
2. 38-SK 燃焼部・土層断面（南から）
3. 38-SK 完掘状況（南から）

Ph. 6　A 区連結土坑 4
1. 41-SK 遺物出土状況（北東から）
2. 41-SK 土層断面（東から）
3. 42-SK 完掘状況（南東から）
4. 42-SK 土層断面（南東から）

Ph. 7　A 区連結土坑 5
1. 43-SK 完掘状況（南東から）
2. 43-SK 土層断面（東から）
3. 44-SK 天井部崩落検出状況（南西から）
4. 44-SK 廃絶状況（南東から）

Ph. 8　A 区連結土坑 6
1. 45-SK 燃焼面検出状況（北東から）
2. 45-SK 土層断面（西から）
3. 50-SK 燃焼面検出状況（北西から）
4　50-SK 土層断面（南西から）

Ph. 9　A 区連結土坑 7
1. 46-SK 燃焼面検出状況（東から）
2. 46-SK 燃焼面土層断面（東から）
3. 46-SK 廃絶状況（西から）
4. 49-SK 遺物出土状況（西から）

Ph. 10　A 区連結土坑 8
1. 51-SK 燃焼面遺物出土状況（南西から）
2. 51-SK 燃焼面くびれ部（北東から）
3. 53-SK 燃焼面検出状況（南東から）
4. 53-SK 焼土立ち上がり状況（南東から）

Ph. 11　A 区全景 1
1. 調査区全景（南から）
2. 調査区北側全景（東から）

Ph. 12　A 区全景 2
1. 調査南側全景（北から）
2. 調査南側 Pit 群全景（西から）

Ph. 13　A 区縄文時代土坑
1. 08・09-SK 検出状況（南西から）
2. 133-SK（北東から）
3. 115-SK 完掘状況（南から）
4. 115-SK 土層断面（西から）
5. 124-SK 完掘状況（北東から）
6. 127-SK（北東から）
7. 126-SK 完掘状況（東から）
8. 126-SK 土層断面（南から）

Ph. 14　A 区遺構検出状況 1
1. 129-SK（南西から）
2. 135-SK（南東から）
3. 05-SK（南から）
4. 12-SX（南西から）
5. 16-SK 不確か
6. 21・22-SX（木棺部か）検出状況（東から）
7. 21・22-SX（木棺部か）完掘状況（西から）

Ph. 15　A 区遺構検出状況 2
1. 24-SK（南西から）
2. 08-SK（南東から）
3. 110-SK（南西から）
4. 119-SB（西から）
5. 118-SB（西から）
6. 120-SB（東から）
7. 123-SB（北から）
8. 121-SB（北から）

Ph. 16　A 区遺構検出状況 3
1. 122-SB（北から）
2. 125・132-SB（北から）
3. 130・131-SB（北から）
4. 近代道路（北西から）
5. 139-SB（北から）
6. 03-SD（北西から）
7. 28-SD（南西から）
8. 28-SD 土層断面（北西から）

Ph. 17　A 区遺構検出状況 4
1. 27・28-SD（南東から）
2. 23-SD（南東から）
3. 36-SD（北西から）
4. 調査区北半（南から）

Ph. 18　B1・2 区全景
1. 調査区全景（南から）

Ph. 19　B1 区全景
1. 調査区南西端（北東から）
2. 調査区北東端（東から）

Ph. 20　B1 区土器棺検出状況
1. 001・002・003-SK（東から）
2. 003-SK（東から）
3. 001-SK（北から）
4. 001-SK 管玉出土状況（南から）

Ph. 21　B1 区遺構検出状況 1
1. 37-SI（南東から）
2. 008-SK（北東から）
3. 010-SK 周辺（東から）
4. 010-SK（南西から）
5. 008・153・007-SK（北西から）
6. 154-SK（南から）
7. 152(119)-SK（北から）
8. 155(100)-SK（南東から）

Ph. 22　B1 区遺構検出状況 2
1. 156・157-SK（東から）
2. 168-SK（南から）
3. 161-SB（南西から）
4. 163-SB（北から）
5. 164-SB（南から）
6. 165-SB（南から）
7. 167-SB（南から）
8. 160-SB（北から）

Ph. 23　B3 区遺構検出状況
1. 2 号土坑（南から）
2. 2 号土坑周辺、住居跡削平状況（西から）
3. 03・09・11・13-SK（北から）
4. 09・13・35-SK（北から）
5. 10・28-SK（南西から）
6. 12 号土坑（北西から）
7. 6 号土坑（東から）
8. 調査区中央（南西から）

Ph. 24　B2 区全景 1
1. 調査区中央（南東から）
2. 調査区南端（北から）

Ph. 25　B2 区全景 2
1. 調査区北西端（南東から）
2. 調査区北半（南西から）

Ph. 26　B2 区全景 3
1. 調査区全景（北から）
2. 調査区西壁土層断面（東から）

Ph. 27　B2 区遺構検出状況 1
1. 01・03 ～ 05-SK（東から）
2. 01-SK 検出状況（東から）
3. 03-SK（北から）
4. 03-SK 土層断面（西から）
5. 06-SK 土層断面（東から）
6. 07 ～ 09・11・21・28・36-SK（東から）
7. 07-SK 土層断面（南東から）
8. 11-SK 土層断面（北から）

Ph. 28　B2 区遺構検出状況 2
1. 19・20-SK 土層断面（東から）
2. 25-SD（北西から）
3. 26-SK（北から）
4. 1001 ～ 1004-SB・2001-SA（東から）
5. 35-SK 土層断面（南から）
6. 51-SK 土層断面（東から）
7. 1004-SB 周辺（北から）

Ph. 29　B1 区出土土器棺 1

Ph. 30　B1 区出土土器棺 2

Ph. 31　A 区出土縄文土器 1

Ph. 32　A、B3 区出土縄文土器 2

Ph. 33　A 区出土縄文土器 3

Ph. 34　A 区出土縄文土器 4

Ph. 35　A・B1 区出土縄文土器 5

Ph. 36　A、B1・3 区出土土器・管玉

Ph. 37　A 区出土土器

Ph. 38　A 区出土印鑑・土器

Ph. 39　A 区出土陶磁器 1

Ph. 40　A 区出土陶磁器 2

Ph. 41　A 区出土陶磁器 3

Ph. 42　A 区出土陶磁器 4

Ph. 43　A 区出土陶磁器 5

Ph. 44　A 区出土石器 1

Ph. 45　A 区出土石器 2

Ph. 46　A 区出土石器 3

Ph. 47　A 区出土石器 4

Ph. 48　A 区出土石器 5

Ph. 49　A 区出土鉄器・石器

Ph. 50　B1・3 区出土石器

第Ⅰ章　調査の経過

第１節　調査に至る経緯と経過

今回報告する寺田山口遺跡の調査地は、一般国道 208 号の改築事業の路線上にあたる。平成７年度に試掘確認調査が実施され、調査区域が設定され（平成８年２月７日付け教文 1520 号で報告）平成 13 年度になり、玉名市教育委員会により吉丸前遺跡の調査が実施された。その過程で、遺構が北側まで伸びている事が判明し、平成 13 年度に試掘調査を実施し、北側に調査範囲を拡大することになった。その際、吉丸前遺跡の隣接地であり、吉丸前遺跡の範囲拡大も考えられたが、玉名市教育委員会との協議等により縄文時代や古代を中心とした遺跡が広がり遺跡の性格が変わることなどから大字と小字の山口を採って寺田山口遺跡として熊本県教育委員会が国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所の依頼を受けて、平成１５年度から発掘調査を実施した。

その際、玉名市教育委員会の南側の吉丸前遺跡の調査も実施しながら、再度北側の遺跡の範囲を確定する試掘・確認調査を実施した。(平成 15 年８月７日ー 12 日)その結果、120m 北側（A 区）に広がることと B 区は南側に遺構が存在することが確認でき、その部分を調査範囲とした。

平成 18 年度には路線の設計の変更に伴い B3 区の調査を実施した。(平成 18 年４月 14 日付け教文 105 号の通知)

その後、整理作業の一部を実施したが、その後、一般国道 208 号玉名バイパス改築事業の菊池川右岸へのの道路延長に伴い、まずは現地の発掘調査（山田松尾平遺跡・築地館跡等）を主体に実施したたため、寺田山口遺跡の整理作業は、平成 22 年度から吉丸前・吉丸西遺跡の報告書等と併行に整理作業を再開した。

遺跡名については、玉名市遺跡地図（玉名市文化財調査報告第 26 号　2011.10)により城ヶ辻城跡に含まれている。

第２節　調査の組織

【平成１５年度】現地調査

調査主体者　田中　力男（熊本県教育長）

調査責任者　成瀬　烈大（文化課長）

調査総括　　島津　義昭（教育審議員）

　　高木　正文（主幹兼文化財調査第１係長）

調査事務　　小田　信也（教育審議員）

　　欄杭　正義（主幹兼総務係）

　　天野　寿久（総務係主任主事）

調査担当者　亀田　学（文化財調査第一係主任学芸員）

　　米村　大（文化財調査第一係嘱託）

　　洲崎（水上）明子（文化財調査第一係嘱託）

　　三宅　一生（文化財調査第一係嘱託）

【平成１６年度】現地調査

調査主体者　田中　力男（熊本県教育長）

調査責任者　島津　義昭（文化課長）

調査総括　　倉岡　博（課長補佐）

　　高木　正文（主幹兼文化財調査第１係長）

調査事務　　吉田　恵（課長補佐）

　　欄杭　正義（主幹兼総務係長）

　　天野　寿久（総務係主任主事）

調査担当者　亀田　学（文化財調査第一係主任学芸員）

　　水上　悌（文化財調査第一係嘱託）

　　洲崎（水上）明子（文化財調査第一係嘱託）

　　宇田　員将（文化財調査第一係嘱託）

　　早田　利宏（文化財調査第一係嘱託）

　　橋口　剛士（文化財調査第一係嘱託：

　　現　上益城郡御船町教育委員会）

【平成１８年度】現地調査

調査主体者　柿塚　純男（熊本県教育長）

調査責任者　梶野　英二（文化課長）

調査総括　倉岡 博（課長補佐）

高木 正文［課長補佐（文化財調査第１係担当）］

調査事務　高宮 優美（主幹兼総務係長）

塚原 健一（総務係参事）

小谷 仁志（総務係主任主事）

調査担当者　亀田 学（文化財調査第一係主任学芸員）

伊藤（手柴）友美子(文化財調査第一係嘱託)

【平成１９年度】報告書作成

調査主体者　柿塚 純男（熊本県教育長）

調査責任者　梶野 英二（文化課長）

調査総括　江本 直（課長補佐）

高木 正文（課長補佐（文化財調査第１係担当）

調査事務　宗村 士郎（教育審議員兼課長補佐）

高宮 優美（主幹兼総務係長）

塚原 健一（総務係参事）

高松 克行（総務係主任主事）

調査担当者　亀田 学（文化財調査第一係主任学芸員）

【平成２２年度】整理報告書

整理主体者　山本 隆生（熊本県教育長）

整理責任者　小田 信也（熊本県文化課長）

整理総括　村崎 孝宏（文化財調査第一係長）

坂田 和弘（参事兼文化財資料室長）

整理事務　宗村 士郎（教育審議員兼課長補佐）

元島 茂（高校教育課課長補佐兼総務係担当）

山田 京子（高校教育課参事）

松島 英二（高校教育課主任主事）

整理担当者　亀田 学（文化財調査第一係主任学芸員）

赤星 和美（文化財調査第一係嘱託）

【平成２３年度】整理・報告書作成

整理主体者　山本 隆生（熊本県教育長）

整理責任者　小田 信也（熊本県文化課長）

整理総括　村崎 孝宏（文化財調査第１係長）

坂田 和弘（参事兼文化財資料室長）

整理事務　川上 勝美（課長補佐）

水元 敬浩（高校教育課主幹兼総務係長）

山田 京子（高校教育課総務係参事）

松島 英二（高校教育課主任主事）

整理担当者　亀田 学（文化財調査第一係主任学芸員）

坂井（西野）由葉（文化財調査第一係嘱託）

専門調査員　江浦 久志（天草高浜焼久窯主宰）

竹田 知美（元県教育庁文化課嘱託）

【平成２４年度】報告書作成

調査主体者　山本 隆生（熊本県教育長）（6月15日まで）

田崎 龍一（熊本県教育長）(6月16日から）

整理責任者　小田 信也（熊本県文化課長）

整理総括　西住 欣一郎（課長補佐）

村崎 孝宏（文化財調査第一係長）

後藤 克俊（文化財資料室長）

整理事務　川上 勝美（課長補佐）

中津 幸三（課長補佐;施設課総務･助成担当）

稲本 尚子（施設課総務・助成係参事）

天草 英子（施設課総務・助成係主任主事）

整理担当者　亀田 学（文化財調査第一係参事）

西野 由葉（文化財調査第一係嘱託）（平成24年5月まで）

藤島 友美（文化財調査第一係嘱託）（平成24年6月から）

＊その他報告書には多数の方の協力を得た。

第Ⅱ章 遺跡の環境（Pl.1～7）

八嘉台地は、金峰山系の二ノ岳・三ノ岳等から伸びる丘陵の一部に存在する。寺田山口遺跡は、八嘉台地の北側に八つ手状に伸びる尾根の東端部に位置する。金峰山の基盤層、安山岩層からなっており、1km 北には菊池川が流れている。

縄文時代は南側約 2.5km の地点に片諏訪貝塚、金峰山の南裾の内湾に尾田貝塚、竹崎貝塚等が、小岱山から南に伸びる丘陵の裾の菊池川右岸には古閑原貝塚、庄司貝塚、尾崎貝塚等が分布する。貝塚遺跡は標識遺跡となる遺跡があるが、かならずしも生活空間全体が判明するような遺跡は確認されていない。今回の調査及び隣接する吉丸前遺跡で縄文時代後晩期の遺構が検出されたことにより、台地上に集落があることを確認できた。金峰山系の二ノ岳・三ノ岳等から伸びる丘陵の吉張り出した部分に立地し、玉名市教育委員会の調査で縄文時代晩期の土坑が検出され、台地上に縄文時代の集落が点在する可能性を示唆した。

貝塚等が分布する遺跡との関連性が今後解明されることが望まれる。

本調査区の約 700m 南に位置する吉丸西遺跡では、九州磨消縄文土器様式の北久根山式土器から突帯文土器様式の時期の竪穴建物を確認している。また、土坑群を検出し、焼土坑や墓等と考えられる遺構を発見されている。

そして、縄文時代の終わりから弥生時代の遺跡については、本調査区の寺田山口遺跡から、縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての土器棺や土坑墓群が検出されている。

また東側の木の葉川右岸の田崎にある北の崎遺跡では、弥生時代中期後半の甕棺墓や中期後半から後期前半にかけての集落域、貯蔵域等を確認している。特に検出された竪穴建物は、隅丸方形の住居と方形の住居に大別でき、後期前半には張り出し（ベッド状遺構）等を持つようになることが判明している。赤彩された北部九州系の壷等も含み、弥生時代中期から後期にかけての玉名平野の様相を伺う上で重要な遺跡である。

古墳時代の遺跡は、北側約 500m に前期から後期まで続く城ケ辻古墳群や南東側約 2km には田崎横穴群等が存在する。

城ヶ辻古墳群は古墳時代前期から後期の 6 世紀前半にわたって存続する。玉名平野を南から一望できる場所であり、玉名平野左岸を治めていた豪族の奥津城であったであろう。

飛鳥時代（7 世紀）には、菊池川右岸と想定される小田宮の前遺跡でも集落が営まれている。

8 世紀初頭に玉名郡衙が存在しており、肥後国府と大宰府との中継役を担っていたと考えられる。また、周辺には古代の駅（玉名郡和水町江田）が存在する。

大堂・大道端の字名が残る大道は、鹿本郡玉東町稲佐に通じる道と国道 208 号に沿って東西に走る。台地を北東におりると菊池川の水運に関わる津留に近い位置にある。菊池川の対岸の立願寺廃寺や玉名郡衙に通じるルートの通過地点としての立地及び玉名平野を南から一望できる重要な立地を占めていたと考える事ができよう。

また、八嘉台地は津に隣接した場所にあり、交通の要所として重要な位置を占めていたと考えられる。北東には菊池川の「津留」の地名も残る。また、中世では高瀬川の津として機能した丹倍津「伊倉」があり、また菊池川・繁根木川・浦川に囲まれた「高瀬」も控える。

玉名市教育委員会が調査した吉丸前遺跡は、本調査区の南側に隣接する。調査成果から、東西方向に 170m（1 町半）、南北方向に 220m（2 町）以上にも及ぶ遺構を検出している。検出された堀の内部は、削平され詳細は不明である。

玉名市教育委員会は、これらの遺構の性格を検討したところ、連郭式城館の可能性があるとし、この遺跡から南西 2km 離れた場所に港として栄えた伊倉が存在していることから、伊倉氏との関係を示唆しているが、明確な資料がないため、現在のところは不明である。

本調査区の南東側に隣接して吉丸の地名が残り、その東側に中世の集落が広がっている可能性があり、その北西側に近世の集落が広がっていたと考えられている。南側の現208号線に隣接地して大堂の地名が残り、主要道としての地名と寺等が立地していたとする想定もある。

本調査区は、縄文時代、古代、中世と断続的に営まれている。吉丸西、吉丸前遺跡と隣接しており、その集落域の端に位置する。遺跡の広がりは西側にあたると思われ、周辺遺跡の中心部を考える上で重要な遺跡だと考えられる。また立地として、菊池川を見下ろせること、東側や北側に谷部があること、水をすぐに供給出来るという好条件であることから、八嘉台地に所在する遺跡を検討する上で、本調査区は重要な位置を占めるであろう。

第Ⅲ章　調査の成果

第１節　調査区の位置（Pl.1・2・7）

一般国道208号が玉東町から玉名に入り八嘉台地を上ると左手に浦島海苔の工場が見えてくる。少し過ぎると、左手のトッパンホームズの工場付近で西に向かう道（一般国道208号本線）と右手に向かう道（玉名バイパス）が分岐する。吉丸西遺跡はその分岐点付近に位置し、その約200m先が本調査地である。金峰山から伸びる二ノ岳・三ノ岳が菊池川の方に伸びる丘陵のやせ尾根の基部にあたり、八嘉台地と呼ばれる。隣接地の吉丸前遺跡では、玉名市教育委員会が平成13年度より平成15年度まで、熊本県教育庁文化課が平成15年度に調査を実施し、平成15年度から平成17年度にわたり南側隣接地の吉丸西遺跡（榎原遺跡）で調査を実施した。

第２節　調査概要（Pl.1・2・6・7・14・20・38・47・51・59・66・70・72）

縄文時代早期の連結土坑を９基検出した。

また、縄文時代後晩期の土坑を106基検出した。南側約500mの吉丸西遺跡では竪穴建物を鐘崎式、北久根山式、天城式、古閑式、黒川式、九州突帯文土器様式６型式段階以上の時期の住居33軒以上検出しているが、寺田山口遺跡では、B地点で晩期にあたる建物を１軒を確認している。A地点は土坑を100基以上検出しており、B地点では縄文時代晩期から弥生時代前期の土器棺及び土坑墓群を検出しており、集落、貯蔵区域、及び墓域として機能していたと考えられる。

また、古代の集落及び倉庫の建物は南側500mの吉丸西遺跡で検出されているが、寺田山口遺跡A地点でも10棟以上の掘立柱建物を検出し、溝、道路状遺構なども確認している。建物の時期を決定する材料に決め手をかくが、７世紀初頭から９世紀前半の遺物が出土しており、それらの時期に当てはまると考える。特に８世紀後半代の遺物が多く出土しているため、その時期を主体とする建物であると推定する。また、一部は中世後期に下るものもあると思われる。

南側には玉名市教育委員会が平成13年度より平成15年度までの調査で中世後期の溝を検出しており、さらにその南側でもその時期に対応する溝を確認している。調査成果から、短辺東西170m（１町半）、長辺南北220m（２町）以上にも及ぶ連郭式城館の可能性を推定している。他に区画溝や中世後期から近世後期にかけての溝を検出しており、中世後期の居館や近世の屋敷の区画溝と考えられる。

寺田山口遺跡でも中世の溝と考えられる幅1.5～2m以上の溝が２条出土しており、中世の耕作地や敷地が北側に広がっていることを示唆するものである。

第３節　基本土層（Pl.8）

基本的には、吉丸前遺跡の層序と共通する。Ⅰ層は現代耕作土、Ⅱ層は近代の耕作土で、Ⅳ層が黒色シルト（7.5YR2/1）しまり・粘性ともに弱い。古代（から中世の）遺物包含層と考えられる。Ⅳ層から主に８世紀後半代の遺物等を検出しており、その時期を中心とするものと考えられる。玉名市教育委員会の調査区ではⅢａ層［極暗色シルト（7.5YR2/3）；しまり・粘性ともに弱い、ローム粒・炭化物・小礫を含む］、Ⅲｂ層［(黒褐色シルト（7.5YR2/2）しまり・粘性ともに弱い、Ⅲａ層に比べてローム粒の混入が少ない)、Ⅲｃ層［(黒褐色シルト（7.5YR2/1.5）しまり・粘性ともに弱い、Ⅲａ層に比べてローム粒の混入が少なくⅣ層の色調に近い）が確認されているが、今回の調査区では明確には確認できなかった。

Ⅳ層には、若干下位の層の粒子を含む部分があり、それより上位をⅣａ（2a）層、下位をⅣｂ(2b) 層とする。上位は古代の層、下位は縄文時代後晩期にあたると考えられる。

Ⅴ層は褐色シルト（7.5YR4/4）しまり・粘性ともやや強い。混入物は非常に少ない。縄文晩期の遺物包含層であり、遺物の他、焼土・炭化物を含む部分もある。

Ⅴ層以下は玉名市教育委員会の調査で確認されている。以下に転載する。

Ⅵ層は黒色シルト（7.5YR2/1）でしまりが強く、粘性がやや強い。遺物は検出できていない。縄文時代早期の層と考えられ、この層の途中で、連結土坑を検出している。Ⅶ層は黄褐色から褐色（7.5YR4/6）ローム層であり、遺物が確認できていない。B 地点はこの層まで、調査区の北西側は 2/3 以上はこの層まで削平されている。包Ⅶ層は、遺構出土遺物で、遺構検出時に取り上げたものである。

第４節　縄文時代早期の遺構と遺物

１　概要（Pl.9・10、Ph.3 ～ 10）

A 地区南側から玉名市教育委員会調査区の北側で、縄文早期の円筒形土器の段階の連結土坑８基と 10 基以上の土坑を確認している。今回、地面をやや下げて検出しているため、本来の検出面は 10 ～ 20cm 程高いと考えられる。

周辺に集落が広がっていたと考えられるが、竪穴建物等は確認できていない。

２　土坑（炉穴）

A 区（Pl.9・10、Ph.3 ～ 10）

46-SK(Pl.11、Ph.9・31)

位置　A 区の南隅の S60E5 に位置する。

構造　掘り方の形状は楕円形で長軸約 3.8m、短軸約 1m、検出面からの深さは約 40cm である。主軸方向は N-85°-E である。東側の端から 50cm のところから、80cm の範囲で特に顕著に焼けている。手前の掘り方を囲うように、U 字状に粘土が焼土の塊になって焼けている。38-SK も同様な構造が見られる。その部分がやや傾斜して上がっていることから煙道部分と推定され、奥の部分が焼けて土手状に焼けた粘土が形成されたと思われる。

また、西側の掘り方で、底面の端が 30 ～ 100cm の範囲で焼けており、煙道部と考えられる。

煙道や焚き口の焼土範囲は少なくとも２時期に分類でき、何度か使用したと考えられる。

遺物出土状況　遺物は埋土から６点出土しているが、いずれも流れ込みの遺物である。底面のピット内から長軸 10cm、短軸 7cm、厚さ 5cm の磨石兼敲石も出土している。

土器　Ph.31-7 は厚手の破片であり、円筒形土器の破片と考えられる。

まとめ　いわゆる連結土坑と考えられる。炉穴と考えられるが、天井部を検出できなかった。本来は焚き口及び煙道が土坑状に、その他はトンネル状の構造と考えられる。

燻製等の料理用に使用されたと考えられる。

42-SK(Pl.11、Ph.6)

位置　A区の南隅のS60E5に位置する。

構造　掘り方の形状は楕円形で長軸約1m、短軸90cm、検出面からの深さは約40cmである。埋土は1層に焼土塊をわずかに含み、3層には焼土ブロックと黄色粘土塊を多く含む。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

まとめ　46-SKの煙道部との関係が問題であるが、土層では明らかに46-SKを切っており、連結土坑の煙道部を意識的に壊して、また、埋めるという可能性も考えた。しかし、他の遺構も同様な状況であることから、埋める段階で落ち込んで、あたかも遺構の切り合い状況のような断面及び平面を呈している、と考えた方が妥当と推定したい。

53-SK(Pl.12、Ph.10・31)

位置　A区の南隅のS60E5に位置する。

構造　掘り方の形状は楕円形で長軸約3.8m、短軸0.9～1.2m、検出面からの深さは約35cmである。主軸方向はN-25°-Wである。床面5cmの厚さで燃焼面があるが、掘り方の西側の端から1.5mのところが特に焼けている。焼土を取り除くと長軸80cm、短軸40cm、厚さ5cmの土坑状にくぼむ。焚き口の可能性もある。土坑の大きさもこのあたりで広がっていることから、土坑が拡張か縮小された可能性もあろう。50-SKとの関係も問題であろうが、50-SKの焼土が水平で53-SKとの床面と30cmの比高差があることから、別の連結土坑がこの53-SKによって壊されたと考えられる。

遺物出土状況　遺物は埋土から3点出土しているが、いずれも流れ込みの遺物である。

土器　Ph.31-8厚手の破片であり、円筒形土器の破片と考えられる。

まとめ　連結土坑である。炉穴と考えられるが、天井部を検出できなかった。本来は焚き口及び煙道が土坑状に、その他はトンネル状の構造と考えられる。この連結土坑は、長さを縮小して使用された可能性もあろう。

燻製等の料理用等に使用されたと推定する。

50-SK(Pl.12、Ph.8)

位置　A区の南隅のS60E0に位置する。

構造　掘り方の形状は楕円形で長軸約70cm以上、短軸約90cm、検出面からの深さは約20cmである。53-SKとの関係が問題であるが、50-SKの焼土が平坦で53-SKとの床面と30cmの比高差があることから、別の連結土坑が53-SKによって壊されたと考える。

埋土は3層に分けられるが、2層に焼土を含み、3層は厚さ3cmの焼土層である。傾斜から見て煙道部と考えられる。

遺物出土状況　長さ18cm、厚さ7.5cmの石皿が出土している。

まとめ　53-SKの煙道部との関係が問題である。土層では明らかに53-SKに切られており、連結土坑の中央部や焚き口の面を意識的に深くして作り直した可能性もあるが、38-SKのように2段階の10cmの段を持つ煙道があることを考えると、30cm以上の比高差があるが53-SKの煙道の一部と考えることも可能である。

ただ、比高差と他の遺構との関係を考えると、次に記述する56-SKとセットで、楕円形を呈する長さ2.7m、幅1.1m、深さ20cm程の連結土坑とすることも考えられる。

56-SK(Pl.12)

位置　A区の南隅のS60E0に位置する。

構造　掘り方の形状は隅丸方形で長軸1.1m以上、短軸約1.1m、検出面からの深さは約20cmである。41-SKに切られているが、おそらく53-SKにも壊されていて本来は東側伸びていた可能性がある。埋土は3層に分けられるが、2層に焼土ブロックを含み、3層は厚さ3cmの焼土層である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　前述したが、50-SKとセットで、連結土坑の焚き

口付近と考えて楕円形を呈する長さ2.7m、幅1.1m深さ20cm程の連結土坑と考えられる。

41-SK(Pl.12、Ph.6・31)

位置　A区の南隅のS60E0に位置する。

構造　掘り方の形状は楕円形で長軸45cm以上、短軸約60cm、検出面からの深さは約20cmである。53-SKに切られているが、おそらく46-SKにも切られており、本来は東側に伸びていた可能性がある。

別の連結土坑が53-SK等によって壊されたと考えたい。

ただし、56-SKと50-SKが1つの連結土坑とすれば、中央が陥没して土坑状になった可能性も考えられる。

埋土は3層に分けられるが、2層に焼土ブロックを含み、3層は厚さ3cmの焼土層である。傾斜から見て煙道部と考えられる。

遺物出土状況　遺物は埋土から12点出土しているが、いずれも流れ込みの遺物である。

土器　厚手の破片が明確でなく、上層からの流れ込みの可能性がある。

まとめ　53-SKに切られているが、おそらく46-SKにも壊されていて、本来は東側に伸びていた可能性がある。46-SKの西側は、41-SKの一部の可能性があるが、明確でない。いずれにしても、連結土坑の一部の可能性が高い。

また、46-SK自体の（北側部分かも）の落ち込んだ煙道の一部の可能性もないわけではない。

40-SK(Pl.13・80、Ph.4・33)

位置　A区の南隅のS60E5に位置する。

構造　掘り方の形状は楕円形で長軸2.8m以上（推定約3m）、短軸約95cm、検出面からの深さは約25cmである。主軸方向はN-60°-Eである。西側の床面に、5cmの厚さで80cmの範囲で燃焼面があるが、東側は顕著でない。48-SKによって煙道等が切られている可能性が高い。4・5層は黒褐色粘質土で、焼土ブロック・炭混じりで床面の焼土面とセットと考えられる。

遺物出土状況　遺物は埋土から17点出土しているが、いずれも流れ込みの遺物である。

土器　厚手の破片が明確でなく、上層からの流れ込みの可能性がある。(Pl.80-8)

まとめ　連結土坑と考えられる。炉穴と考えられるが、煙道部及び天井部を検出できていない。本来は焚き口及び煙道が土坑状に、その他はトンネル状の構造と考えられる。この連結土坑は、長さを縮小して使用された可能性もあるだろう。

燻製等の料理用等に使用されたと考えられる。

64-SK(Pl.11)

位置　A区の南隅のS60E0に位置する。

構造　掘り方の形状は楕円形で長軸60cm以上、短軸20cm以上、検出面からの深さは約15cmである。40-SKに切られていて、本来は東側伸びていた可能性がある。埋土は4層に分けられるが、3層に焼土・炭を含む。傾斜から見て煙道部と考えられる。位置的に見て焚き口部に近い部分とも考えられる。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　40-SKに切られているが、本来は東側へ伸びていた可能性がある。連結土坑の一部の可能性が高い。

65-SK(Pl.10)

位置　A区の南隅のS60E0に位置する。

構造　掘り方の形状は楕円形で長軸40cm以上、短軸20cm以上、検出面からの深さは約10cmである。53-SKにも切られていて、本来は南北方向に伸びていた可能性がある。深さ等から見て、50-SK等と関連し連結土坑の一部を構成していた可能性がある。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　53-SKに切られているが、本来は南北方向に伸びていた可能性がある。連結土坑の一部の可能性がある。

39-SK(Pl.13、Ph.4)

位置　A区の南隅のS55E0に位置する。

構造　掘り方の形状は楕円形で長軸約3m、短軸約80cm、検出面からの深さは約40cmである。主軸方向はN-5°-Eである。

北側の端から1mまでは焼土は顕著でないが、4層が地山の崩落土の間にきめの細かい黒色土が詰まっていることから、灰等の可能性があり、この部分が焚き口の可能性がある。その他の床面は焼土が全面に顕著である。6層も、ある程度掘削した床面に土が堆積した（ある程度炉穴を使用して）後の､床面の可能性がある。煙道部分の推定部に、49-SKが来る。煙道の可能性もあるが、断面の検出状況から考えると、39-SKの煙道部が陥没したと考える方が理解しやすい。

また、構造的には焚き口部分の断面が袋状になっているが、他の土坑等から考えると、壁が崩落して袋状になった可能性がある。

遺物出土状況　遺物は埋土から6点出土しているが、いずれも流れ込みの遺物である。

土器　厚手の破片が明確でなく、上層からの流れ込みの可能性がある。

まとめ　連結土坑と考えられる。炉穴と考えられるが、天井部を検出できていない。本来は焚き口及び煙道が土坑状に、その他はトンネル状になった構造と考えられる。

燻製等の料理用等に使用されたと考えられる。

49-SK(Pl.13・80、Ph.9・32・33)

位置　A区の南隅のS60E5に位置する。

構造　掘り方の形状は隅丸方形ー楕円形（丸みを帯びた6角形）で長軸約1.1m、短軸約1.1m、検出面からの深さは約30cmである。埋土は2層に分けられる。

1層には焼土粒、炭化物を含み、2層と同様だがしまりが弱い。2層との境に土器を含む。

断面から見ると、39-SKが埋没してから土坑が掘られたように見えるが、42-SKやその他の同様の土坑も同じような状況である。おそらく、39-SKの煙道部が崩落して土坑状になったと推定できる。

遺物出土状況　遺物は1層の下層に土器を含む。黒曜石剥片3点出土している。

土器　Pl.80-5は黒色磨研土器様式の古閑式併行期の精製土器の浅鉢である。横方向のミガキが丁寧に施されている。

Pl.80-2、Pl.80-4は黒色磨研土器様式の黒川式併行期の浅鉢である。ミガキが施されていると思われるが、摩滅により明瞭でない。

まとめ　埋土1層の土器群は縄文時代の晩期のものである。ただ、位置的に見て39-SKの煙道部の崩落と見ると、上層の土器が崩落して流れ込んだと考えられる。形状は不明だが、土坑等の埋土が落ち込んだ可能性もある。

48-SK(Pl.13)

位置　A区の南隅のS55E5に位置する。

構造　掘り方の形状は楕円形で長軸約2m、短軸約1.2m、検出面からの深さは約10cmである。主軸方向はN-5°-Eである。40-SKを切っていると考えられるが浅いため明瞭でない。位置的に見ると40-SKの煙道部にあたる。しかしながら､42-SK等と同様に40-SKとの比高差は30cmある。42-SKの断面や検出状況からは後から煙道部を壊している状況である。

別遺構と考えたい。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　状況から見ると単独の炉穴と断定できない。

40-SKの煙道部崩落の可能性と別の炉穴床面の痕跡の可能性等を考えたい。時期的にも縄文時代後・晩期まで下る

かどうかも不明である。

位置的には39-SK等と主軸方向等も合うため関連する可能性もある。

45-SK(Pl.14・75・79、Ph.8・31)

位置　A区の南隅のS60E0に位置する。

構造　掘り方の形状は楕円形で長軸2.7m以上（推定約3m)、短軸約85cm、検出面からの深さは約70cmである。主軸方向はN-60°-Eである。

手前は廃絶状況では約50cmの範囲でくぼみ、灰が土壌化したような土が入る。この部分が焚き口と考えられる。床面は西側北側の端から60cm～1mまでは焼土が顕著である。49-SKは39-SKを切っており、煙道部の上部を壊していると考えられる。そのため、この遺構の煙道部は壊れてなくなっていると考えられる。

遺物出土状況　敲石兼磨石の石器(Pl.75-1)が出土している。

石器　長軸の長さが約8.5cmの河原石である。火を受けているためか表面の風化が激しい。

片方の平坦面に3箇所､特に擦痕跡が顕著な部分がある。また、一方の端部に叩いた痕跡があり、反対側には擦り痕が残る。敲石兼磨石の用途を果たしていたと考えられる。

まとめ　連結土坑と考えられる。炉穴と考えられるが、天井部を検出できていない。本来は焚き口及び煙道が土坑状に、その他はトンネル状になった構造と考えられる。

燻製等の料理用等に使用されたと考えられる。

44-SK(Pl.14、Ph.7・31)

位置　A区の南隅のS60E0に位置する。

構造　掘り方の形状は楕円形で長軸約2.7m、短軸約1m、検出面からの深さは約50cmである。天井部は少なくとも、20cm以上高かったと考えられる。主軸方向はN-145°-Eである。

北西側の掘り方の手前には、灰等は検出できなかった。床面は北西側の30cm～1mまでは焼土が顕著である。煙道と推定される部分の幅は、1.2m程に広がって検出しているが、痕跡は不明である。

遺物出土状況　遺物は埋土から6点出土しているが、いずれも流れ込みの遺物である。

土器　厚手の破片が明確でなく、上層からの流れ込みの可能性がある。

まとめ　連結土坑と考えられる。炉穴と考えられるが、煙道部、天井部を検出できていない。焚き口は明確には検出されていないが、焚き口及び煙道が土坑状に、その他はトンネル状になった構造と考えられる。

燻製等の料理用等に使用されたと考えられる。

43-SK(Pl.15、Ph.7)

位置　A区の南隅のS55W5に位置する。西側が調査区外に伸びる。

構造　掘り方の形状は楕円形で長軸1.3m以上、短軸約90cm、検出面からの深さは約60cmである。天井部は少なくとも、20cm以上高かったと考えられる。主軸方向はN-70°-Eである。

調査区の壁面（北東掘り方から1m）のところでは床面に焼土が顕著である。埋土は黄褐色系の土で炭粒、5層に焼土が顕著に入る。最終床面の可能性がある。煙道部は44-SKの炉穴に壊されて不明である。

南側に検出された段は、別の炉穴等の掘り方か段掘りかは不明である。段の深さは30cmである。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

まとめ　調査区外に半分以上伸びるため、詳細は不明であるが、連結土坑と考えられる。炉穴と考えられるが、天井部を検出できていない｡本来は焚き口及び煙道が土坑状に、その他はトンネル状になった構造と考えられる。

燻製等の料理用等に使用されたと考えられる。

51-SK(Pl.15・79、Ph.10・31)

位置　A区の南隅のS60E0に位置する。

構造　掘り方の形状は楕円形で長軸約2.5m、短軸約90cm、検出面からの深さは約60cmである。北東側には長軸80cm、短軸60cmの隅丸方形の土坑状の落ち込みがあるが，焚き口の痕跡の可能性がある。主軸方向はN-60°-Eである。

手前の煙道部分は43-SK等に切られており、煙道部は不明である。ただし、43-SKが煙道部の落ち込みの可能性もある。床面は、南西側の端から約1mの範囲で焼土が顕著である。厚さは約5cmで、焼土面の下面は波打っている状況である。

遺物出土状況　遺物は縄文土器が3点出土している。流れ込みの遺物である。

土器　Pl.79-1・2は、厚さ1.5cmの条痕を施すもので、円筒形条痕文土器と考えられる。Pl.79-1は、口縁端部1cm下に5mm程の穿孔が外側から、焼成後に開けられている。補修孔の可能性がある。

まとめ　連結土坑と考えられる。炉穴と考えられるが、天井部を検出できていない。本来は焚き口及び煙道が土坑状に、その他はトンネル状になった構造と考えられる。

燻製等の料理用等に使用されたと考えられる。

57・47-SK(Pl.15)

位置　A区の南隅のS55W5に位置する。西側が調査区外に伸びる。

構造　47-SKは掘り方の形状は楕円形で長軸60cm以上、短軸60cm以上、検出面からの深さは約30cmである。天井部は少なくとも20cm以上高かったと考えられる。主軸方向はN-70°-Eである。

埋土は3層に分けられるが、2・3層には炭が入る。

57-SKは掘り方の形状が楕円形で長軸80cm以上、短軸70cm以上、検出面からの深さは約45cmである。天井部は少なくとも20cm以上高かったと考えられる。主軸方向はN-70°-Eである。

埋土は2層に分けられるが、1層には赤色粒が入る。

2つの連結土坑の端の部分の可能性があるが、南側から埋没して2つの土坑に見える可能性もある。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

まとめ　調査区外に半分以上伸びるため、詳細は不明であるが、連結土坑の可能性がある。

75-SK(Pl.11)

位置　A区の南隅のS60E0に位置する。

構造　掘り方の形状は楕円形で長軸約95cm、短軸約60cm、検出面からの深さは約15cmである。主軸方向はN-45°-Eである。浅いため構造は明瞭でない。断面を見ると大きく2層に分けられる。1層は褐色土できめが細かく、しまりのある土である。上部が削平されたと考えると、炉穴の焚き口部（炉の燃焼部）等の下部の可能性もある。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　状況から見ると炉穴と断定できる状況ではない。

煙道部の崩落の可能性と、別の炉穴床面の痕跡と考えたい。時期的にも、縄文時代後・晩期まで下るかどうかも不明である。

位置的には、45・51-SK等と主軸方向等も合うため、関連する可能性もある。

55-SK(Pl.10)

位置　A区の南隅のS60E0に位置する。

構造　掘り方の形状は楕円形で長軸約1.1m、短軸約75cm、検出面からの深さは約10cmである。主軸方向はN-50°-Eである。浅いため構造は明瞭でない。上部が削平されたと考えると、炉穴等の下部の可能性もある。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　状況から見ると炉穴と断定できる状況ではない。

煙道部の崩落の可能性と、別の炉穴床面の痕跡の可能性

等も考えたい。時期的には、縄文時代後・晩期まで下るかどうかも不明である。

位置的には、45・51-SK 等と主軸方向等も合うため、関連する可能性もある。

52-SK(Pl.9・10)

位置　A 区の南隅の S55E0 に位置する。

構造　掘り方の形状は楕円形で長軸約 40cm、短軸約 30cm、検出面からの深さは約 10cm である。主軸方向は N-90°-E である。浅いため構造は明瞭でない。上部が削平されたと考えると、貯蔵穴や炉穴等の下部の可能性もある。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　上部が削平されたと考えると、貯蔵穴や炉穴等の下部の可能性もある。

時期的には、縄文時代後・晩期まで下るかどうかも不明である。

37-SK(Pl.16、Ph.4・31)

位置　A 区の中央の S10W20 に位置する。

構造　掘り方の形状は楕円形で長軸約 2.6m、短軸約 75cm、検出面からの深さは約 20cm である。主軸方向は N-30°-W である。掘り方の床面から焼土・炭を含み、地山によく似た土が、約 5cm 程堆積している。その土層の上面南側の端、100cm のところから、円形 150cm の範囲で顕著に焼けており、最終使用面と考えられる。床面は北側に向かって緩やかに傾斜している。

煙道部は、上部が削平されているため不明であるが、焼土の残存状況などから連結土坑（炉穴）の下部と考えられる。

遺物出土状況　遺物は埋土から 4 点出土しているが、いずれも流れ込みの遺物である。

土器　厚手の破片が明確でなく、上層からの流れ込みの可能性がある。

まとめ　連結土坑と考えられる。炉穴と考えられるが、天井部を検出できていない。本来は焚き口及び煙道が土坑状に、その他はトンネル状になった構造と考えられる。

燻製等の料理用等に使用されたと考えられる。

38-SK(Pl.16、Ph.5)

位置　A 区の南隅の S60E5 に位置する。

構造　掘り方の形状は楕円形で長軸約 3.3m、短軸約 1m、検出面からの深さは約 35cm である。主軸方向は N-85°-E である。3 段になっている。1 段目は長さ 2.1m、2 段目は長さ 50cm、3 段目は 75cm である。手前から約 1m の範囲が顕著に焼けている。手前の掘り方を囲うように、U 字状に粘土が焼土塊になっている。46-SK も同様の構造が見られる。炉穴奥壁部分がよく焼けたうえに、煙道部の良く焼けた壁が崩落した状況である。すると、段の部分はその前の炉穴の可能性があり、同じ場所に炉穴を作り、だんだん深くしていったとも考えられる。

1 段目は床面が全面に焼けており、2 段目も表面だけ焼けている。

遺物出土状況　遺物は埋土から 6 点出土しているが、いずれも流れ込みの遺物である。

土器　Ph.31 は　厚手の破片であり、円筒形土器の破片と考えられる。

まとめ　連結土坑と考えられる。炉穴と考えられるが、天井部を検出できていない。本来は焚き口及び煙道が土坑状に、その他はトンネル状になった構造と考えられる。

燻製等の料理用等に使用されたと考えられる。

3　遺物包含層出土の（早期）土器

S60E0 グリッドから厚さ 1cm 以上の円筒形土器の破片が 11 点出土している。これらは連結土坑が重複している箇所にあたり、それらに関連する可能性があると考えている。

また S10E10 からも厚さ 1cm 以上の円筒形土器の破片が１点出土している。これは 37-SK の周辺に存在していた連結土坑に関連する可能性がある。

さらに S20E0 からも厚さ 1cm 以上の円筒形土器の破片が１点出土している。これは 38-SK に関連する土器の可能性がある。

S10E10 や S20E0 に円筒形の土器が分布することは、さらにこの周辺に数基の連結土坑があったことを表しているとも考えられる。

第５節　縄文時代後・晩期の遺構と遺物

概要

(Pl.17 ～ 22・73 ～ 75・78 ～ 81、Ph.11 ～ 15・18 ～ 28・29・30・34・35・44 ～ 50)

基本土層Ｖ層から掘り込んでいると推定できる。遺構検出はやや下層から検出している。検出した遺構は土坑 14 基以上で、やや下層で検出したため時期を細かく認定できるものは少ない。出土した土器から、縄文時代後・晩期のものと推定できる。石器については、石匙、鏃、スクレーパー、石斧等が出土している。

１　土坑 (Pl.17・23、Ph.11 ～ 15・18 ～ 28)

概要

10 基以上の土坑を検出した。遺物が少なく、検出面もやや下げて検出したものが多く、時期を決定するのは困難であるが、A 区のものは主に貯蔵穴、B 区のものは主に墓と考える。

古代・中世後期の遺構・遺物があるため、時期が下る可能性もあるが、縄文時代後晩期の遺構と考えたい。

A 区 (Pl.17、Ph.11 ～ 15)

05-SK(Pl.21、Ph.14)

位置　A 区の中央東側の N5W5 に位置する。丘陵の東側である。

構造　掘り方は楕円形を呈する。断面は緩やかな逆台形状を呈する。長軸 1.1m、短軸 90cm、検出面からの深さは約 40cm である。

埋土は 3 層に分けられる。黒褐色系の埋土である。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

まとめ　大きさや位置や断面の形状等を考えると、貯蔵穴の用途が考えられる

124-SK(Pl.21、Ph.13)

位置　A 区の中央東側の N15W20 に位置する。

構造　長軸約 2.3 m、短軸約 1.6 m、検出面からの深さは

72cm である。

埋土は4層に分けられる。1層は褐色シルトで黄褐色土と炭が少し混じる。3層は、黒褐色シルトで土器粒、炭粒をわずかに含む。4層は黒褐色のしまりのある土で、炭粒及び黄褐色のローム層を含む。

遺物出土状況　遺物は細片のみしか出土していない。

まとめ　大きさや断面の形状を考えると、貯蔵穴であった可能性がある。

25-SK(Pl.17)

位置　A区の南東側のS20E5に位置する。

構造　掘り方は隅丸方形で断面は凹字状を呈する。長軸約1.6m、短軸約1m、検出面からの深さは40cm程度である。主軸方向はN-65°-Eである。

遺物出土状況　縄文土器片と考えられる破片が2点出土しているが、時期を判定できるような遺物は出土していない。黒曜石の剥片が1点出土している。

まとめ　平面形状等から墓や貯蔵穴の用途が考えられる。

117-SK(Pl.20、Ph.44)

位置　A区の北側のN30W30に位置する。

構造　掘り方は楕円形で、断面は逆台形状だが、底面の北側の長さ50cmがやや深い。長軸約1.4m、短軸約1.1 m、検出面からの深さは約35cmである。主軸方向はN-5°-Wである。

埋土は褐色シルトでやや粘質が強い。赤色粒が混じる。

遺物出土状況　縄文土器片と考えられる破片が33点出土している。黒曜石の剥片5点、安山岩の剥片2点、砂岩の敲石1点も出土している。

土器　条痕が残る粗製土器等の破片である。

まとめ　大きさや断面の形状を考えると、墓や貯蔵穴であった可能性がある。

116-SK(Pl.20・79)

位置　A区の北側のN35W30に位置する。

構造　掘り方は楕円形で断面は逆台形状を呈する。長軸約1.3m、短軸約60cm、検出面からの深さは約30 cmである。底面の長さは約1.1mである。主軸方向はN-40°-Eである。

埋土は褐色粘質土である。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

まとめ　この遺構が所属するグリッドの遺物包含層から黒曜石の剥片が10点、縄文土器片（Pl.79-7・9等）が125点出土していることから縄文時代後晩期の遺構と推定できる。

大きさや断面の形状を考えると、墓もしくは貯蔵穴であった可能性がある。

126a-SK(Pl.20・81、Ph.13・35)

位置　A区の北側のN35W30に位置する。126b-SKを切っている状況である。

構造　掘り方は円形ー隅丸方形で、断面は逆台形状を呈する。長軸約60cm、短軸約50cmである。検出面からの深さは約40cmである。主軸方向は、やや東に振れている。埋土は3層に分けられる。1層は暗褐色シルトでしまりがあるが、2層はしまり・粘性が弱く、褐色シルトで炭粒・土器粒を含む。3層はしまりがあり、ローム層を含む。

遺物出土状況　埋土1層から倒立して崩れた状況の刻目突帯文土器（Pl.81-1、Ph.35）が出土している。埋土2層が締まりのない土であり、土器で蓋をするような、いわゆる埋設土器の可能性がある。

土器　Pl.81-1は九州突帯文土器様式の粗製土器である。口縁部直下に刻目を持ち、胴部下半には条痕が残存する。内部はナデ調整である。夜臼式併行期と推定される。

まとめ　埋設土器の可能性があり、貯蔵穴の可能性を考えたいが、墓である可能性も考慮には入れておきたい。

126b-SK(Pl.20、Ph.13)

位置　A区の北側のN35W30に位置する。126a-SKに切られている状況である。

構造　掘り方は隅丸方形で断面は逆台形状を呈する。長軸約1.9m、短軸約1mである。検出面からの深さは約15cmである。主軸方向はN-15°-Wである。

埋土は3層に分けられる。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

まとめ　126a-SK等との切り合い関係から、縄文時代後・晩期と推定できる。

貯蔵穴や墓の可能性を考えたい。

110-SK(Pl.20、Ph.15)

位置　A区の北西側隅のN40W50に位置する。

構造　掘り方は楕円形で、断面は緩やかな2段掘りの逆台形状を呈する。長軸1.8m、短軸1m以上、検出面からの深さは約25cmである。主軸方向はN-80°-Wである。

埋土は2層に分けられる。

遺物出土状況　下層から縄文土器が出土している。27点の破片である。形態や型式を表すような土器は出土していない。縁泥片岩の打製石斧の破片が出土している。

まとめ　断面の形状から墓の可能性もあるが、土器の出土状況から考えると貯蔵穴の可能性がある。

12-SX(Pl.21、Ph.14)

位置　A区の南東側のS25E15に位置する。

構造　掘り方は楕円形で断面は凹字状を呈する。長軸約2m、短軸約75cm、検出面からの深さは25cmである。主軸方向はN-5°-Wである。墓の可能性があり、内側が遺体を安置した部分、外側を堀方と考えられる。

埋土は、2層に分けられ、内側（中央部約130cm）と、その外側で分けられる。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

まとめ　この遺構が所属する周辺グリッドの遺物包含層から、黒曜石の剥片が1点、縄文土器片が12点出土している。

形状から縄文時代後・晩期の墓の可能性が高いと考えられる。

29-SK(Pl.22)

位置　A区の南西側のS25W10に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約2.4m、短軸約1.2mである。断面が逆台形状ー緩やかなU字状を呈する。検出面からの深さは約15cmである。主軸方向はN-70°-Eである。

上層が削平されており、底面の長さは約2mで、東側1m程がやや深くなっている。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

まとめ　この遺構が所属するグリッドからは、23-SDに縄文土器を約60点出土していることから、縄文時代に属すると考え、形態等から、貯蔵穴や炉穴、墓等の用途が考えられる。

127-SK(Pl.22・79・80、Ph.13・34)

位置　A区の西側のNOW30に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する長軸約90cm、短軸約70cmである。断面は逆台形状を呈する。検出面からの深さは約20cmである。

埋土は2層に分けられる。

遺物出土状況　埋土からは縄文土器2個体分が出土している。残存する深さが浅いので何とも言えないが、土器が据えられていた可能性もあると考えている。

土器　Pl.79-13は深鉢の頸部の破片である。条痕が頸部の上側及び下側に残存する頸部にヘラ状工具などによる段が見られる。頸部周辺は条痕がナデ消されている。

Pl.80-6は深鉢の口縁である。口縁端部は平坦でやや外反すると推定できる。一部条痕が残存する。

まとめ　土器の型式から九州黒色磨研土器様式古閑式併行期と推定でき、その時期の埋設土器で身と蓋の関係の土器とも考えられる。

133-SK(Pl.22、Ph.13)

位置　A区の西側のNOW25に位置する。

構造　重複した土坑を１つと考え掘削したようである。１つは掘方の形状が隅丸方形で長軸約1.1m、短軸約90cmである。断面は緩やかな逆台形状を呈する。検出面からの深さは約10cmである。主軸方向はN-20°-Wである。

もう１つは掘り方の形状が隅丸方形ー楕円形で、長軸約1.1m、短軸約90cmである。断面は緩やかな逆台形状を呈する。検出面からの深さは約10cmである。掘り返しの可能性もある。

埋土には炭化物・燈色粒・地山ブロックが混じる。

遺物出土状況　埋土からは遺物は出土していない。

まとめ　周辺のNOW25のグリッドの遺物包含層から縄文土器の破片が出土していることから、縄文時代後・晩期の貯蔵穴と考えたい。

135-SK(Pl.22、Ph.14)

位置　A区の西側のNOW20に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約2m、短軸約1.4mの土坑である。断面は逆台形状を呈する。検出面からの深さは約25cmである。主軸方向はN-65°-Eである。

遺物出土状況　埋土からは遺物は出土していない。

まとめ　周辺のNOW20グリッドの遺物包含層から縄文土器の破片が2点出土していることから、縄文時代後・晩期の貯蔵穴もしくは墓と考えたい。

129-SK(Pl.18、Ph.14)

位置　A区の中央東側のN10W15に位置する。

構造　掘り方は隅丸方形を呈する。断面は緩やかな逆台形状を呈する。長軸1m、短軸80cm、検出面からの深さは約30cmである。埋土は中央部（幅50cm、長さ60cm）と、肩部の埋土に分けられる。

褐色系の埋土である。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

まとめ　大きさや位置や断面の形状等を考えると、貯蔵穴や小児用の墓の用途が考えられる。

断面の形状から考えると後者の可能性がある。

21-SX(Pl.18・76、Ph.14・44)

位置　A区の中央東側のN10W10に位置する。

構造　掘り方は隅丸方形を呈する。断面は緩やかな逆台形状を呈する。長軸1.2m、短軸60cm、検出面からの深さは約25cmである。埋土は中央部（幅45 cm）と肩部の埋土に分けられる。

暗褐色系の埋土である。

遺物出土状況　埋土からは打製のスクレーパー（穂摘具等）や磨石が出土している。黒曜石剥片も26点出土している。縄文土器も23点出土している。粗製土器の破片である。

石器　Pl.76-2は緑色片岩製の打製のスクレーパーで長側縁の一方に細かい剥離が片方から施されている。革滑しやスクレーパーとして使用可能である。

Pl.76-3は側縁に打撃痕跡があり、敲石としても使用されたと考えられるが、平坦面は擦り痕跡が4箇所にわたり残存している。磨石として使用されたと推定できる。

まとめ　大きさや位置や断面の形状等を考えると、貯蔵穴や小児用の墓の用途が考えられる。

断面の形状から考えると後者の可能性が高いと考えている。

出土土器から縄文後・晩期と推定できる。

22-SX(Pl.18・76、Ph.14・44)

位置　A区の中央東側のN10W10に位置する。21-SX、129-SKに切られている状況である。

構造　掘り方は隅丸方形を呈する。断面は緩やかな逆台形状を呈する。長軸 1.5m、短軸 75cm、検出面からの深さは約 20cm である。埋土は中央部（幅 45　cm）と、肩部の埋土に分けられる。

暗褐色系の埋土である。

遺物出土状況　埋土からは打製のスクレーパー（穂摘具等）が出土している。

石器　Pl.76-2 は緑色片岩製の打製のスクレーパーで長側縁の一方に細かい剥離が片方から施されている。革滑しやスクレーパーとして使用可能である。

まとめ　大きさや位置や断面の形状等を考えると、貯蔵穴や墓の用途が考えられる。

断面の形状から考えると後者の可能性がある。

08-SK(Pl.18・73 ～ 75・79・80、Ph.13・34・44・45・48・49)

位置　A 区の北東側の N25W15 に位置する。

構造　掘り方は隅丸方形を呈する。断面は緩やかな逆台形状を呈する。長軸約 1.5m、短軸約 1m、検出面からの深さは約 45cm である。

埋土は北東側から埋没している。埋土 2 層には 4 ～ 6mm の炭が混じる他、土器片が多数出土している。他の 1・3 層からは焼土の少量出土している。褐色系の埋土である。

遺物出土状況　埋土 2 層から土器片が多数（137 点以上）出土している。縄文深鉢 8 個体以上と推定できる。底部は 2 片出土している。

石器は、25cm 以上の打製石斧と、安山岩の使用痕剥片が出土している。

黒曜石の剥片が 89 点、石核が 1 点出土している。接合資料も存在し、石器製作した残りの剥片が北東側から流れ込んだような状況で出土している。

土器　Pl.79-5 は粗製土器の深鉢である。口径 24cm で口縁部は直立する。

Pl.79-14 も粗製土器で胴部下半である。ナデ調整が残る。

Pl.79-12 も粗製土器でナデのち指ナデが残存する。

Pl.80-3 は黒色磨研土器様式の浅鉢で、全面の横方向のミガキが施される。黒川式併行期以降と考えられる。

石器　Pl.75-4 は縦長剥片で、側縁部に使用痕による細かい剥離が見られる。

Pl.75-5 は打製石斧で長さ約 25cm である。一側縁は直線だが、もう片方の辺は湾曲している。湾曲した側縁は、片側から基部付近と先端部付近を荒く調整し、湾曲する屈曲部付近は、反対から丁寧に調整している。

基部から 6cm 程に、両側縁に細かい剥離があり、紐等で固定する箇所と考えられる。

接合資料が 4 点ある。

Pl.73-1 は黒曜石の縦長剥片の接合資料である。長さ 4.5cm、幅 2.8cm、厚さ約 1cm の剥片と長さ 3.0cm、幅 2.3cm、厚さ 5mm の剥片が接合する。短い方の剥片は頂部が折れており、打点は失われている。長い方の剥片は礫面が残存している。

Pl.73-2 は黒曜石の横長の剥片の接合資料である。幅 3.0cm、長さ 2.1cm、厚さ 6mm の剥片と長さ 3.0cm、幅 2.8cm、厚さ 5mm の剥片が接合する。両方の剥片に礫面が残存する。

Pl.74-1 は黒曜石の石核と剥片 2 点の接合資料である。石核は長さ 2.8cm で厚みが 1.8cm のもので礫面が残存する。その石核に長さ 3.2cm、幅 1.8cm、厚さ 5mm の縦長剥片と長さ 3.2cm、幅 1.8cm、厚さ 5mm の縦長剥片が接合する。打面を 180 度転移して打ち変えていることが確認できる。

Pl.74-2 は黒曜石の剥片 3 点の接合資料である。長さ 3.0cm、幅 3.0cm、厚さ 0.8cm の剥片と長さ 1.7cm、幅 2.0cm、厚さ 5mm の剥片と長さ 8mm、幅 1.1cm、厚さ 4mm の剥片が接合している。小さな剥片の接合面に隙間があり、打撃の衝撃により砕けた細片と考えられる。一番大きな剥片のネガ面には、縦長方向の剥片を規則的に採った痕跡があり、打面を調整する際の調整剥片の接合資料と考えられる。

まとめ　大きさ等や遺物の出土状況や断面の形状等を考えると、貯蔵穴等の用途が考えられる。接合資料を含むことから石器製作にかかる遺構の廃棄土坑になっていると考えられる。

09-SK(Pl.18、Ph.13)

位置　A区の北東側のN25W10に位置する。

構造　掘り方は隅丸方形を呈する。断面は緩やかな逆台形状を呈する。長軸1.5m、短軸75cm、検出面からの深さは約20cmである。埋土は、１層はしまりがなく炭が混じる。２層はしまりがある土である。暗褐色ー褐色系の埋土である。

遺物出土状況　埋土からは7点程、縄文土器片が出土しているが、器面摩滅のため詳細な時期は不明である。黒曜石の剥片3点出土している。

まとめ　大きさや位置や断面の形状等を考えると、貯蔵穴や墓の用途が考えられる。

115-SK(Pl.19・75・79・80、Ph.13・33・34・44)

位置　A区の北東側のN30W30に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。断面は緩やかな逆台形状を呈する。長軸約3m、短軸約2.9m、検出面からの深さは約75cmである。中場を長軸2.6m、短軸1.1mのN-40°-Wの平面プランで検出している。

西側に隣接して、長軸1.4m、短軸約１mの平面プランを推定した140-SKを検出したが、掘削していると若干広がり、上記のような土坑として掘削できた。

2層に分けられ、褐色系の埋土である。

遺物出土状況　遺物は上層下層から共に、土器及び黒曜石の剥片(18点)検出している。安山岩の剥片10点も出土している。

土器　Pl.80-9は深鉢で口縁部は直立する。ナデで内外面とも調整して整形している。 Pl.79-8・11、Pl.80-10は条痕の調整が残る粗製土器である。10は口縁部が一度屈曲して直立するもので、9に類似する。組織痕土器のPl.80-1にも類似している。08-SK出土粗製土器とも類似しており、黒色磨研土器様式黒川式以降と推定できる。

石器　Pl.75-3は打製石斧で安山岩製である。最終的に、主要面の左側縁を丁寧に調整している。裏面は左側縁を丁寧に調整して基部を調整している。

Pl.75-2は緑色片岩製のもので、側縁を斜めに丁寧に剥離を行い整形している。形態的に見ると、打製石斧と言うより一側縁を刃部とするスクレーパー（石製穂摘具等）と考えられる。

まとめ　大きさや位置や断面の形状等を考えると、貯蔵穴と考えられる。

140-SK(Pl.19、Ph.33・35)

位置　A区の北東側のN30W30に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。断面は緩やかな逆台形状を呈する。長軸約1.4m、短軸約１m、検出面からの深さは約25cmである。

遺物出土状況　遺物は縄文晩期と見られる底部が２点出土しているが、流れ込みと考えられる。

まとめ　大きさ等や遺物の出土状況や断面の形状等を考えると、貯蔵穴と考えられる。

B1 区（Pl.23・27 ～ 33、Ph.18 ～ 22・29・30・36）

土器棺（Pl.27・28・81・82、Ph.20・29・30）

001-SK（SX）（Pl.27・28・82、Ph.20・29・30・36）

位置　B 区の北東部隅、B1 区の N30W25 に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約 1.7m、短軸約 95 cmの土坑である。断面は 2 段掘りの逆台形状を呈する。

埋土は 3 層に分けられる。

埋土 1 層には長さ 35cm、幅 25cm、厚さ 23cm の石が土器棺の口縁部推定位置近くに落ち込んで出土している。2 層下面に土器の下半部が、横方向からやや上方の斜め方向に据えられていた状況で出土している。掘り方の基底部から高さ 17cm の範囲で土器の下半分が原位置で出土している。上半部は削平や一部攪乱により失われている。2 段掘りで１段目の掘り方の 2/3 までなんとか形を保っている状況である。原位置を保っている土器の内部に割れた土器片が落ち込んでいる。底面の胴部は一部 2 重になっており、側面から割れて落ち込んだと考えられる。主軸方向は、座標軸北から 5°程西に振れている。底部は南側を向いている。

遺物出土状況　下段（1 段目）北側の掘り方から約 30cm のところに、割れた土器の隙間から長さ 2cm の管玉が 1 点出土している。（Pl.82-2）

土器　Pl.82-1 は底径 15cm、残存する高さは 134cm である。底部は平底で胴部との境の調整も丁寧であるが、踏ん張った形状である器面の調整も丁寧で全面にミガキが入る。

器壁の厚さは底部付近で 2.6 ㎝、胴部の上部の厚さは 1.0cm である。口縁部破片が出土しており、如意状口縁を呈する可能性がある。

まとめ　土器は、胴部下半部分しか出土しておらず、詳細な形式は不明である。しかし、底部の形状及び胴部下半部分の立ち上がり、土器を横位置に据えるために 2 段階にを掘削していることから、弥生時代の「甕棺」を指向する土器形式は夜臼式土器と考えられる土器棺と推定できる。

003-SK（Pl.28・81、Ph.20・30）

位置　B 区の北東部隅、B1 区の N30W25 に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約 70cm、短軸約 50cm の土坑である。上部が削平されており、少なくとも長軸 1 m 以上（1.2m 程か）の掘り方と推定できる。

土器の下半部が水平から 50°程傾いて出土している。

南側に底部があり、底部の下から土器が出土しているが、掘削時に動いてしまい、その位置に出土したと考えられる。

土器　Pl.81-6 は底径 8.8cm で平底の底部を持つ。胴部が上方に伸び、肩部で屈曲してすぼまる形状である。残存高は 43.5cm である。夜臼式から板付式併行期の壷と考えられる。内面の調整は摩滅して不明であるが、ミガキを施していたと考えられる。肩部は段を持つかどうか不明である。

また、同一個体でない破片も出土しており、合わせ棺であった可能性が高いと考えている。

遺物出土状況　土器内部からは、遺物や骨片等は出土していない。

まとめ　土器は、胴部下半部分しか出土していないので、詳細な形式が不明である。しかし、底部の形状及び胴部下半部分の立ち上がり、斜め方向に据えられていたことから、縄文時代晩期ー弥生時代前期に属する土器棺と推定できる。

002-SK（Pl.28、Ph.20）

位置　B 区の北東部隅、B1 区の N30W25 に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約 1.8m、短軸約 1.3m の土坑である。主軸方向は座標軸とほぼ同一である。断面は 2 段掘りの逆台形状を呈する。

埋土は大きく 3 層に分けられる。3 層目が 1 段階の坑である。2 段坑のやや南側に 1 段目の坑が見られる。

その状況から、土器棺の底部を南側に斜めに据えるための坑のように想定できる。

まとめ　土器なしで埋葬したか、土器が抜かれたか等が考

えられるが、前者の可能性を考えたい。

010-SK(Pl.30・81、Ph.21・35)

位置　B区の北東側、B1区のN30W25に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1.7 m、短軸約80cmの土坑である。断面は逆台形状を呈する。検出面からの深さは約40cmである。主軸方向はほぼ東西である。

埋土は3層に分けられる。最上層の埋土はしまりがあるが、2・3層はしまりがない。

遺物出土状況　埋土2層上層から、小壷(Pl.81-4)が倒立して（うつぶせで）出土している。

まとめ　平面・断面の形態や上層に、小壷が出土していることなどから墓と考えられる。土器は、落ち込んだときに倒立した可能性がある。土器型式は夜臼式併行期と考えられる。

土壙墓であろうが、小壷が上層から出土していることから木棺墓の可能性がある。

011-SK(Pl.30)

位置　B区の北東側、B1区のN25W25に位置する。

構造　掘り方は隅丸方形を呈する。長軸約1.5m、短軸約70cmの土坑である。断面は逆台形状を呈する。検出面からの深さは約30cmである。主軸方向はN-40°-Eである。

埋土は2層に分けられる。最上層の埋土はしまりがあるが、2層はしまりがない。

まとめ　平面・断面の形態等から貯蔵穴や墓が考えられるが、010-SK等と埋土も類似することから、墓の可能性が高い。

012-SK(Pl.30)

位置　B区の北東側、B1区のN25W25に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1.5m、短軸約70cmの土坑である。断面は逆台形状を呈する。検出面からの深さは約35cmである。主軸方向はN-75°-Eである。

埋土は3層に分けられる。最上層はしまるが、2層はしまりがない。

まとめ　平面・断面の形態等から、貯蔵穴や墓が考えられるが、010・011-SK等と埋土も類似することから、墓の可能性が高い。

013-SK(Pl.30)

位置　B区の北東側、B1区のN25W25に位置する。

構造　掘り方は隅丸方形を呈する。長軸約1.5m、短軸約80cmの土坑である。断面は逆台形状を呈する。検出面からの深さは約40cmである。主軸方向はN-70°-Eである。

埋土は3層に分けられ、2層はしまりがない。

まとめ　平面・断面の形態等から、貯蔵穴や墓が考えられるが、010-SK等と埋土も類似することから墓の可能性が高い。

170-SK(Pl.30、Ph.32)

位置　B区の北西側、B1区のN30W35に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1m、短軸約90cmの土坑である。断面は2段掘りの逆台形状を呈する。検出面からの深さは約60cmである。

埋土は3層に分けられる。3層はしまりがあり、炭化物を含む。2層も炭化物が多い。

遺物出土状況　埋土2層で縄文土器片が出土しているが、流れ込みの遺物である。

まとめ　平面･断面の形態等から貯蔵穴や墓が考えられる。

135-SK(Pl.31)

位置　B区の中央部、B1区のNOW5に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約2.5m、短軸約1mの土坑である。断面は逆台形状を呈する。検出面からの深さは約15cmである。主軸方向はN-30°-Wである。

まとめ　浅いので詳細は不明であるが、平面・断面の形態等から貯蔵穴や墓が考えられる。

033-SK(Pl.31)

位置　B区の中央部、B1区のN10W20に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1.35m、短軸約1mの土坑である。断面は逆台形状を呈する。検出面からの深さは約35cmである。主軸方向はN-70°-Eである。

まとめ　平面・断面の形態等から貯蔵穴や墓が考えられる。

035-SK(Pl.31)

位置　B区の中央部、B1区のN15W15に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1.9m、短軸約70cmの土坑である。断面は逆台形状を呈する。検出面からの深さは約30cmである。主軸方向はN-50°-Eである。

まとめ　平面・断面の形態等から貯蔵穴や墓が考えられる。

034-SK(Pl.31)

位置　B区の中央部、B1区のN10W25に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約90cm、短軸約70cmの土坑である。断面は逆台形状を呈する。検出面からの深さは約30cmである。

まとめ　平面・断面の形態等から貯蔵穴や墓が考えられる。墓だとすれば、長さが短いため小児用と考えられる。

036-SK(Pl.31)

位置　B区の中央部、B1区のN10W15に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約80cm、短軸約70cmの土坑である。断面は逆台形状を呈する。検出面からの深さは約30cmである。

まとめ　平面・断面の形態等から、2つの切り合った柱穴の可能性もあるが、貯蔵穴や墓等の可能性も考えられる。

029-SK(Pl.32)

位置　B区の中央部、B1区のN15W15に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1.1m、短軸約90cmの土坑である。断面は逆台形状を呈する。検出面からの深さは約30cmである。主軸方向はほぼ東西である。

まとめ　平面・断面の形態等から貯蔵穴や墓が考えられる。墓だとすれば、長さが短いため小児用と考えられる。

028-SK(Pl.32)

位置　B区の中央部、B1区のN20W15に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約40cm、短軸約30cmの土坑である。断面は逆台形状を呈する。検出面からの深さは約5cmである。

まとめ　平面・断面の形態等から、貯蔵穴や墓が考えられる。30cm以上削平を受けていると考えるが、浅いため、貯蔵穴等の可能性があると思われる。規模的には一回り以上大きくなると推定できる。

030-SK(Pl.32)

位置　B区の中央部、B1区のN15W15に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約70cm、短軸約60cmの土坑である。断面は逆台形状を呈する。検出面からの深さは約20cmである。主軸方向はほぼ南北である。

まとめ　平面・断面の形態等から貯蔵穴や墓が考えられる。

137-SK（ピット）(Pl.32)

位置　B区の中央部、B1区のN15W20に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約70cm、短軸約60cmの土坑である。断面は逆台形状を呈する。検出面からの深さは約20cmである。

まとめ　平面・断面の形態等から貯蔵穴や墓が考えられる。

032-SK(Pl.32)

位置　B区の中央部、B1区のN15W20に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約70cm、短軸約60cmの土坑である。断面は逆台形状で東方向にやや下がる。検出面からの深さは約20cmである。主軸方向はほぼ東西である。

まとめ　平面･断面の形態等から貯蔵穴や墓が考えられる。

048-SK(Pl.32)

位置　B区の北側、B1区のN20W25に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1.2m、短軸約80cmの土坑である。断面は逆台形状を呈する。底面の長さは40cmで、検出面からの深さは約20cmである。主軸方向はN-60°-Eである。

まとめ　平面・断面の形態等から貯蔵穴や墓等が考えられる。

113-SK(Pl.33)

位置　B区の北側、B1区のN25W15に位置する。

構造　掘り方は隅丸方形を呈する。長軸約85cm、短軸約65cmの土坑である。断面は逆台形状を呈する。底面の長さは40cmで、検出面からの深さは約20cmである。主軸方向はほぼ東西である。

まとめ　平面･断面の形態等から貯蔵穴や墓が考えられる。

006-SK(Pl.33)

位置　B区の北東側、B1区のN25W20に位置する。

構造　掘り方は方形を呈する。長軸約1.3m、短軸約80cmの土坑である。断面は逆台形状を呈する。底面の長さは70cmで、検出面からの深さは約25cmである。主軸方向はほぼ南北である。

まとめ　平面･断面の形態等から貯蔵穴や墓が考えられる。

169-SK(Pl.33)

位置　B区の北端、B1区のN30W35に位置する。

構造　掘り方は方形を呈する。長軸約1.5m、短軸約75cm以上の土坑である。断面は逆台形状を呈する。底面の長さは1.2mで、検出面からの深さは約30cmである。主軸方向はほぼ南北方向である。

まとめ　平面･断面の形態等から貯蔵穴や墓が考えられる。

152(119)-SK(Pl.30、Ph.21・32)

位置　B区の北東側、B1区のN30W20に位置する。

構造　掘り方は隅丸方形を呈する。長軸1.3m以上、短軸約80cmの土坑である。断面は埋土3層は凹字状、埋土1・2層は逆台形状に開く。底面の長さは1.2m以上で、検出面からの深さは約45cmである。主軸方向はN-20°-Eである。

遺物出土状況　埋土3層から、縄文土器と思われる破片が出土している。

まとめ　平面･断面の形態等から貯蔵穴や墓が考えられる。

153-SK(Pl.29、Ph.21)

位置　B区の北東側、B1区のN30W25に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1.6 m、短軸約90cmの土坑である。断面はU字状から逆台形状を呈する。検出面からの深さは約30cmである。主軸方向はN-60°-Eである。

埋土は2層に分けられるが、暗褐色シルトー粘質土で、上層に白色粒を多く含む。

遺物出土状況　埋土からは遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から縄文土器の破片が出土していることから、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えたい。

長軸の長さと断面の形態からは、墓の可能性が高い。

008-SK(Pl.29、Ph.21)

位置　B区の北東側、B1区のN30W25に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約80㎝、短軸約80cmの土坑である。断面は逆台形状で、さらに北西側に幅40cm程掘り込んでいる状況である。検出面からの深さは約40cmである。主軸方向はN-32°-Wである。

埋土下層は赤褐色粘質土で3ー5mmの砂粒を含む。

遺物出土状況　埋土からは遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から縄文土器の破片が出土していることから、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えたい。

断面を2段掘りしている状況から、小児用の墓の可能性がある。

026-SK(Pl.29)

位置　B区の中央部、B1区のN15W20に位置する。

構造　掘り方は隅丸方形を呈する。長軸約85cm、短軸約75cmの土坑である。断面は逆台形状である。検出面からの深さは約30cmである。主軸方向はほぼ東西である。

埋土は暗褐色ー褐色粘質土である。

まとめ　周辺の遺物包含層から縄文土器の破片が出土していることから、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えたい。

155(100)-SK(Pl.29、Ph.21)

位置　B区の中央部、B1区のN5W20に位置する。

構造　掘り方は楕円形に近い隅丸方形を呈する。長軸約1.2 m、短軸約1mの土坑である。断面は逆台形状を呈する。検出面からの深さは約40cmである。主軸方向はN-70°-Eである。

埋土は内側と肩部に分けられる。暗褐色、褐色のシルト、粘質土で、内側は3層に分けられる。特に1ー2層はしまりが弱い。上部の土が流れ込んで堆積したと見られる。

遺物出土状況　埋土からは遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から縄文土器の破片が出土していることから、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓もしくは貯蔵穴と考えたい。

断面の形態や埋土の状況からは、小児用等の墓の可能性が高い。

156-SK(Pl.29)

位置　B区の中央部、B1区のN5W20に位置する。

構造　掘り方は楕円形に近い隅丸方形を呈する。長軸約1.7 m、短軸約1.4mの土坑である。断面は変形した逆台形状を呈する。底面は南側が緩やかで北側が深くなっている。検出面からの深さは約50cmである。主軸方向はN-10°-Wである。

埋土は内側と肩部に分けられる。暗褐色、褐色のシルト、粘質土で、内側は3層に分けられる。特に1ー2層は粘質が弱い。上部の土が流れ込んで堆積したと見られる。

肩部の堆積には地山ブロックを含み、埋め戻した状況である。

遺物出土状況　埋土からは遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から縄文土器の破片が出土していることから、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えたい。

断面の形態や埋土の状況からは、小児用等の墓の可能性を考えたい。

157-SK(Pl.29)

位置　B区の中央部、B1区のN5W20に位置する。156-SKに切られている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸1m以上、短軸約1mの土坑である。断面は逆台形状である。南側に深くなっているが、156-SKに壊されているため詳細は不明である。検出面からの深さは約30cmである。主軸方向はN-10°

-W である。

埋土は褐色系粘質土で、肩部の堆積には地山ブロックを含み、埋め戻した状況である。

遺物出土状況　埋土からは遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から縄文土器の破片が出土していることから、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えたい。

規模や断面の形状から、小児用の墓の可能性がある。

168-SK(Pl.33、Ph.22)

位置　B 区の中央部、B1 区の NOW15 に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約 85cm、短軸約 75cm の土坑である。断面は逆台形状から U 字状になっている。検出面からの深さは約 10cm である。主軸方向はほぼ東西である。

埋土はほぼ 1 層である。

遺物出土状況　黒曜石のチップを多く含む。

石器　黒曜石のチップのほとんどが微細剥片で 5mm 以下である。Pl.33 の No.16・17・18・26 等は底面付近、その他は埋土中層を中心に出土している。

まとめ　石器のチップの出土は必ずしも底面ではないが、土層が薄いことや、石器は自然現象で高低の変化が見られることから、1 時期とは限らないまでも、比較的短期間に石器を制作した場であると考えられる。

B3 区 (Pl.23・34 ～ 37、Ph.23)

1 号土坑 (Pl.34)

位置　B 区の中央部、B3 区の N15W40 に位置する。36 号土坑を壊している。3・11・13 号土坑に壊されている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸 2.5 m 以上、短軸約 2.5m の土坑である。断面は逆台形状を呈する。検出面からの深さは約 65cm である。主軸方向 N-30°-E である。

埋土は 4 層に分けられる。最下層は赤白色粘質土混暗褐色粘質土で、床面のような状況ではある。

また、完掘した状況で径約 30cm、深さ約 30cm の柱穴を検出した。

まとめ　最初の検出時は 4m 程の方形プランで検出した。掘削していくと、最終的に検出した遺構の周辺部分は浅く、遺構としては認識できなかった。残った部分については調査用ベルトを残して掘削していき、土坑の切り合い（重複）であることを確認した。平面・断面の形態や柱が 1 基出土したが、建物とするには要素が不足している。貯蔵穴等の用途と考えたい。

11 号土坑 (Pl.36、Ph.23)

位置　B 区の中央部、B3 区の N15W40 に位置する。1・3・9 号土坑を壊している。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約 2m、短軸約 1.2m の土坑である。断面は緩やかな V 字状ー U 字状を呈する。検出面からの深さは約 70cm である。主軸方向は N-5°-W である。

埋土は 3 層に分けられるが、最下層は中央部と肩部で土質が若干変わる。

まとめ　平面・断面の形態などから、墓もしくは貯蔵穴の用途と考えたい。

3 号土坑 (Pl.34、Ph.23)

位置　B 区の中央部、B3 区の N15W40 に位置する。1 号土

坑を壊している。9・11・13号土坑に切られている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約2.3m、短軸約1.8mの土坑である。断面は緩やかなU字状ー逆台形状を呈する。検出面からの深さは約50cmである。主軸方向はN-60°-Wである。南側の肩部は深さ30cm程で段を持つ。

まとめ　平面・断面の形態などからは、墓もしくは貯蔵穴の用途と考えたい。断面の形態から考えて、墓の可能性を考えたい。

36号土坑（Pl.35）

位置　B区の中央部、B3区のN15W40に位置する。1・3・12号土坑に壊されている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約2m、短軸約1.1mの土坑である。断面は逆台形状を呈する。検出面からの深さは約70cmである。主軸方向はN-50°-Wである。

最下層及び下から2層目は、中央部の土層と肩部の土層が類似するが、若干異なる。

まとめ　平面、特に断面の形態から、墓の可能性を考えたい。

12号土坑（Pl.35、Ph.23）

位置　B区の中央部、B3区のN15W40に位置する。13・36号土坑を壊している。

構造　掘り方は楕円形を呈する。南西側の大部分が調査区外に伸びるため、詳細は不明である。長軸90cm以上、短軸約1.5ー1.7mの土坑である。断面は逆台形状を呈する。検出面からの深さは約50cmである。

最下層は40cm程の厚さで、中央部と肩部の埋土が若干異なる。

まとめ　断面の形態などから、墓の可能性を考えたい。

13号土坑（Pl.35、Ph.23）

位置　B区の中央部、B3区のN15W40に位置する。1・3・36号土坑を壊している。12号土坑に切られている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。南西側の部分が調査区外に伸びるため、詳細は不明である。長軸1.3m以上、短軸約1.3mの土坑である。主軸方向はN-30°ー45°-Eである。断面は２段掘りの、逆台形状ーU字状を呈する。検出面からの深さは約65cmである。

最下層は50cm程の厚さで、中央部と肩部の埋土が若干異なる。

まとめ　断面の形態等から、墓の可能性を考えられる。

9号土坑（Pl.35、Ph.23）

位置　B区の中央部、B3区のN15W40に位置する。3・35号土坑を壊している。11号土坑に壊されている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1.4m、短軸約1.1mの土坑である。断面は緩やかな逆台形状を呈するが、やや北側に向かって上がっている。検出面からの深さは約45cmである。主軸方向はN-20°-Eである。

埋土は3層に分けられる。

まとめ　断面の形態等から、墓の可能性を考えられる。

35号土坑（Pl.35、Ph.23）

位置　B区の中央部、B3区のN15W40に位置する。14号土坑を切っている。9・13・14号土坑に切られている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。南西側の部分が調査区外に伸びるため、詳細は不明である。長軸約1.3m以上、短軸約1.3mの土坑である。主軸方向はN-65°-Eである。台形状ーU字状を呈する。検出面からの深さは約65cmである。

最下層は50cm程の厚さで、中央と肩部の埋土が若干異なる。

まとめ　断面の形態等から、墓の可能性を考えられる。

18号土坑（Pl.36）

位置　B区の中央部、B3区のN20W40に位置する。14号土

坑を壊している。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1.7m、短軸約1.2mの土坑である。主軸方向はN-40°-Eである。断面の形状は逆台形状を呈する。北東側が緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは約20cmである。

中央部と肩部の埋土が若干異なる。

まとめ　断面の形態等から、墓の可能性を考えられる。

14号土坑（Pl.36）

位置　B区の中央部、B3区のN20W40に位置する。18号土坑に切られている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。南西側の大部分が調査区外に伸びるため、詳細は不明であるが、長軸1.6m以上の土坑であると推定する。主軸方向は不明であるが、平面形態から東西方向と考える。断面の形状は台形状を呈し、直に立ち上がる。検出面からの深さは約70cmである。

まとめ　断面の形態等から墓の可能性を考えられる。

24号土坑（Pl.36）

位置　B区の中央部、B3区のN20W35に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1.3m、短軸約80cmの土坑である。断面の形状は、緩やかな変形のV字状で、南側に緩やかに上がっている。やや段掘りの様相を呈する。主軸方向はほぼ南北である。検出面からの深さは約65cmである。

まとめ　断面の形態等から、墓の可能性を考えられる。

20号土坑（Pl.36）

位置　B区の中央部、B3区のN20W35に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1.6m、短軸約80cmの土坑である。主軸方向はN-60°-Wである。断面の形状は逆台形状ーU字状を呈する。検出面からの深さは約50cmである。

最下層は40 cm程の厚さで、中央部（幅約60cm）と肩部の埋土が若干異なる。

まとめ　断面の形態等から、墓の可能性を考えられる。

28号土坑（Pl.37、Ph.23）

位置　B区の北西側、B3区のN20W40に位置する。10号土坑を切っている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1.8m、短軸約1mの土坑である。主軸方向はほぼ南北である。断面の形状は逆台形状を呈する。検出面からの深さは約45cmである。

中央部（幅約60cm、長さ約1m）と肩部の埋土が若干異なる。

まとめ　平面の形態や規模、断面の形態から、墓の可能性を考えられる。

26号土坑（Pl.37）

位置　B区の北西側、B3区のN20W40に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1.4m、短軸約1.1mの土坑である。主軸方向はほぼ南北である。断面の形状は逆台形状を呈する。検出面からの深さは約35cmである。

最下層は40 cm程の厚さで、中央部（幅約60cm）と肩部の埋土が若干異なる。

まとめ　平面の形状や断面の形態等から、墓の可能性を考えられる。

10号土坑（Pl.37、Ph.23）

位置　B区の北西側、B3区のN20W40に位置する。28号土坑に南側の掘り方の一部を切られている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約2m、短軸約1.1mの土坑である。主軸方向はほぼ南北である。断面の形状は逆台形状を呈する。検出面からの深さは約25cmである。

中央部（長さ約80cm）と肩部の埋土が若干異なる。

まとめ　平面の形態や規模、断面の形態等から、墓の可能

性を考えられる。

6号土坑(Pl.37)

位置　B区の中央部、B3区のN10W30に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1m、短軸約80cmの土坑である。主軸方向はほぼ南北であると推定する。断面の形状はU字状ー逆台形状を呈する。検出面からの深さは約40cmである。

埋土は3層に分けられるが、上層の2層はブロック等の土を含み、人為的に埋め戻されている。

まとめ　平面の大きさ、形態から貯蔵穴の可能性が高い。北西約6mに2号土坑があり、関連があると考えられる。周りに柱穴と思われる遺構を検出したが、掘削すると樹痕のような断面を呈し、柱穴と確定できるものは少なかった。

遺物もほとんど出土していない。

21号土坑(Pl.37)

位置　B区の中央部、B3区のN5W25に位置する。

構造　掘り方は円形である。径60cmの土坑である。断面の形状はV字形ー逆台形状を呈する。検出面からの深さは約30cmである。

埋土は3層に分けられるが、上層の2層はブロック等の土を含み、人為的に埋め戻されている。

まとめ　平面の大きさ、形態から貯蔵穴の可能性が高い。北西約6mに6号土坑があり、関連があると考えられる。

B2区(Pl.38～46、Ph.24～28)

13-SK(Pl.39)

位置　B区の南端、B2区のS35E0に位置する。南西部分は調査区外である。14-SKを切っている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1.3 m、短軸約1mの土坑である。断面は逆台形状を呈する。検出面からの深さは約25cmである。主軸方向はN-55°-Eである。

埋土は赤褐色粘質ブロックが混じる褐色粘質土である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。

長軸の長さと断面の形態から、墓の可能性が高い。

14-SK(Pl.39)

位置　B区の南端、B2区のS35E0に位置する。13・15-SKに切られている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸1.3m以上、短軸70cm以上の土坑である。断面は2段掘りの逆台形状を呈する。検出面からの深さは約30cmである。主軸方向は明確でないが、13-SKの方に伸びている。

埋土は暗褐色粘質土で、土坑の中央にU字形の埋土が入る。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から縄文土器の破片が出土していることから、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えたい。

断面の埋土の埋没状況から、墓の可能性が高い。

51-SK(Pl.39)

位置　B区の南端、B2区のS35E0に位置する。15-SKを切っている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約2.1m、短軸約

90cmの土坑である。断面は逆台形状を呈する。検出面からの深さは約20cmである。主軸方向はN-85°-Eである。

埋土は暗褐色粘質系の土で2層に分けられる。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。

長軸の長さと断面の形態から、墓の可能性が高い。

06-SK(Pl.39)

位置　B区の南側、B2区のS30E0に位置する。35-SKを切っている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1.8m、短軸約1.2mの土坑である。断面は逆台形状ー緩やかなU字状を呈する。検出面からの深さは約30cmである。底面の平坦部分は、長さ約80cm、幅約60cmである。北西部分には幅60cm、奥行20cmのテラスがある。主軸方向はほぼ南北である。

埋土は暗褐色粘質系の土で2層に分けられる。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。

12-SK(Pl.39)

位置　B区の南側、B2区のS30E5に位置する。東側の大部分は調査区外である。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1.1m、短軸約40cmの土坑である。断面はU字状を呈する。検出面からの深さは約30cmである。底面の平坦部分の幅は約50cmである。主軸方向は45°程東に振れると考えられる。

埋土は褐色粘質土である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片が形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。

05-SK(Pl.40)

位置　B区の南側、B2区のS25E0に位置する。03・04-SKに壊されている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸2.4ー2.6mの土坑と推定されるが、北東側が調査区外に伸びるため、溝の可能性もある。断面はU字状を呈する。検出面からの深さは約60cmである。

埋土は3層に分けられる。黒褐色系の土層がレンズ状に堆積している。埋土は褐色粘質土である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の貯蔵穴と考える。周辺の状況から、墓の可能性も考えておきたい。

03-SK(Pl.40、Ph.27)

位置　B区の南側、B2区のS25E0に位置する。05-SKを切っている。04-SKに切られている。

構造　05-SKの上層を別遺構と考えると、掘り方は楕円形を呈する。長軸2m以上の土坑と推定される。05-SKと同様に、北東側が調査区外に伸びるため、溝の可能性もある。断面はU字状を呈する。検出面からの深さは約40cmである。

黒褐色系の土層が、レンズ状に堆積している。埋土は褐色粘質土である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から縄文土器の破片が出土していることと形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の貯蔵穴と考える。周辺の状況から、墓の可能性も考えておきたい。

08-SK(Pl.41、Ph.27)

位置　B区の南側、B2区のS20W5に位置する。09・28-SKを切っている。

構造　長軸約2.4m、短軸約1.8mの土坑である。底面の平坦部分は長さ約1.5m、幅約1.3mである。検出面からの深さは約20cmである。

埋土は黒褐色のブロックを含む暗褐色粘質土である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。

長軸の長さと断面の形態から、墓の可能性が高い。

09-SK(Pl.41、Ph.27)

位置　B区の南側、B2区のS20W5に位置する。08・28・11-SKに切られている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約3.5m、短軸約2.7mの土坑である。断面はU字状を呈する。底面の平坦部分は約1.3mの幅と長さがある。検出面からの深さは約60cmである。

埋土は4層に分けられる。最下層が2層に分けられる。埋土は褐色粘質土である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片がと形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の貯蔵穴と考えられる。周辺の状況から、墓の可能性も考えておきたい。

35-SK(Pl.42、Ph.28)

位置　B区の南側、B2区のS30E0に位置する。06-SKに切られている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1.6 m、短軸推定1.6mの土坑である。断面はU字状を呈する。底面の平坦部分は、長さ約1.1m、幅約90cmである。検出面からの深さは約20cmである。主軸方向はN-80° -Eである。

埋土は3層に分けられる。南側が三角堆積である。埋土は暗褐色粘質土である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。底面に平坦面があることや周辺の状況から、墓の可能性が高いと考える。

01-SK(Pl.42、Ph.27)

位置　B区の南側、B2区のS25E0に位置する。04-SKを切っている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1.4 m、短軸約1mの土坑である。断面はU字状を呈する。

埋土は黒褐色粘質土で、2層に分けられる。南側が三角堆積である。主軸方向はN-60° -Eである。底面の平坦部分は、長さ約1.1m、幅約90cmである。検出面からの深さは約45cmである。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。底面に平坦面があることや周辺の状況から、墓の可能性が高いと考える。

04-SK(Pl.42、Ph.27)

位置　B区の南側、B2区のS25E0に位置する。03・05・16-SKを切っている。01-SKに切られている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸2 m以上、短軸約2mの土坑である。断面はU字状を呈する。断面は60cm程と平坦面が少ないが、土坑の中央部に長さ約1.1 m、幅約1mの堆積がある。検出面からの深さは約60cmである。主軸方向はN-40° -Eである。

埋土は大きくは3層に分けられる。埋土は黒褐色ー暗褐色粘質土である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。土坑の中央の堆積状況や周辺の状況から、墓の可能性が高いと考える。

19-SK(Pl.42、Ph.28)

位置　B区の南側、B2区のS25W5に位置する。20-SKを切っている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸、短軸ともに約80cmの土坑である。断面は逆台形状を呈する。検出面からの深さは約55cmである。

埋土は、黄褐色及び褐色粘質土ブロック混暗褐色粘質土で、人工的に埋められたと考えられる。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　法量的には柱穴の規模であるが、周辺の柱穴の状況から考えて、貯蔵穴や墓の可能性がある。遺物包含層から縄文土器の破片が出土していることと形態から、縄文時代後・晩期と考えられる。

16-SK(Pl.42)

位置　B区の南側、B2区のS25W5に位置する。04-SKに切られている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1.8m、短軸約1.3mの土坑である。断面は逆台形状を呈する。底面の平坦に近い部分は、長さ約1.1m、幅約80cmである。検出面からの深さは約60cmである。主軸方向はN-40°-Eである。

埋土は中央部に3層、外側に1層堆積している。埋土は褐色ー暗褐色粘質土である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。土坑の中央の堆積状況や周辺の状況から、墓の可能性が高いと考える。

20-SK(Pl.43、Ph.28)

位置　B区の南側、B2区のS25W5に位置する。19-SKに切られている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1.8m、短軸推定1.6mの土坑である。断面は2段掘りの逆台形状を呈する。底面の平坦に近い部分は、長さ約1.2m、幅約80cmである。検出面からの深さは約50cmである。主軸方向はN-15°-Eである。

埋土は3層に分けられ、3層と1・2層で段が形成されている。埋土は黄褐色粘質ブロック混の褐色粘質土である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。土坑の下部の堆積状況や周辺の状況から、墓の可能性が高いと推定する。最下層が埋葬空間の可能性がある。

07-SK(Pl.43、Ph.27)

位置　B区の南側、B2区のS25W10に位置する。36-SKを切っている。21-SKに切られている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1.8m、短軸推定1.5mの土坑である。断面は2段掘りの逆台形状を呈する。底面の平坦に近い部分は、長さ約1.1m、幅約70cmである。検出面からの深さは約60cmである。主軸方向はN-105°-Eである。

埋土は4層に分けられ、3層と1・2・4層で段が形成されている。埋土は暗黄褐色粘質ブロック混の褐色ー暗褐色粘質土である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と

形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。土坑の下部の堆積状況や周辺の状況から、墓の可能性が高いと推定する。中央の土層堆積部分が、埋葬空間の可能性がある。

53-SK(Pl.43)

位置　B区の南側、B2区のS25W10に位置する。11-SKに切られている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸推定1.4m、短軸推定1mの土坑である。断面は2段掘りのU字状ー逆台形状を呈する。検出面からの深さは約30cmである。

埋土には白色粘質ブロックを含む褐色粘質土である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴等と考えられる。周辺の状況から、墓の可能性が高いと推定する。

11-SK(Pl.43、Ph.27)

位置　B区の南側、B2区のS20W10に位置する。南西部分は調査区外である。53-SKを切っている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約2.2m、短軸約1.8mの土坑である。断面は、東から南側にかけて2段掘り（テラス状）の逆台形状を呈する。底面の平坦に近い部分は、長さ約1.5m、幅約80cmである。検出面からの深さは約55cmである。主軸方向はN-60°-Eである

埋土は3層に分けられ、1層と2・3層で段が形成されている。。埋土は黄褐色粘質ブロック混の褐色粘質土である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。土坑の下部の堆積状況や周辺の状況から、墓の可能性が高いと推定する。最下層が埋葬空間の可能性がある。

21-SK(Pl.43、Ph.27)

位置　B区の南側、B2区のS25W5に位置する。07・36-SKを切っている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1.2m、短軸約80cmの土坑である。断面はU字状ー逆台形状を呈する。検出面からの深さは約20cmである。主軸方向はN-45°-Eである。深さから考えるとひと回り大きかったと考えられる。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。周辺の状況から、墓の可能性が高いと推定する。

28-SK(Pl.44、Ph.27)

位置　B区の南側、B2区のS20W10に位置する。09-SKを切っている。08・11-SKに切られている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約2.2m、短軸約1.8mの土坑である。断面は逆台形状を呈する。底面の平坦に近い部分は、長さ約1.5m、幅約1.2mである。検出面からの深さは約35cmである。主軸方向はN-25°-Wである。

埋土は2層に分けられる。埋土は褐色粘質土である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。土坑の下部の堆積状況や周辺の状況から、墓の可能性が高いと推定する。

41-SK(Pl.44)

位置　B区の中央部、B2区のS15W10に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1.5m、短軸約1.1mの土坑である。断面は逆台形状を呈する。底面の平坦に近

い部分は、長さ約1.3m、幅約80c mである。検出面からの深さは約20cmである。主軸方向はほぼ南北である。

埋土は1層に分けられる。埋土は黄褐色ブロック混褐色粘質土である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。土坑の平面や断面形態や周辺の状況から、墓の可能性が高いと推定する。

40-SK(Pl.44)

位置　B区の中央部、B2区のS15W15に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸2.1m以上、短軸約1.6mの土坑である。断面は逆台形状を呈する。底面の平坦に近い部分は、長さ約1.6 m、幅約1.2mである。検出面からの深さは約20cmである。主軸方向はN-55° -Eである。

埋土は2層に分けられる。埋土は暗褐色ー褐色粘質土である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。土坑の平面や断面形態や周辺の状況から、墓の可能性が高いと推定する。

39-SK(Pl.44)

位置　B区の中央部、B2区のS15W10に位置する。65-SKに切られている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約2.4m、短軸約1.2mの土坑である。断面は逆台形状を呈する。底面の平坦に近い部分は、長さ約2m、幅約1.5mである。検出面からの深さは約20cmである。主軸方向はN-105° -Eである。

埋土は3層に分けられる。埋土は暗褐色ー褐色粘質土である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。土坑の平面や断面形態や周辺の状況から、墓の可能性が高いと推定する。

42-SK(Pl.44)

位置　B区の中央部、B2区のS20W10に位置する。南西側が調査区外に続く。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約2m、短軸85cm以上の土坑である。断面は逆台形状を呈する。底面の平坦に近い部分は長さ約1.5mである。検出面からの深さは約20cmである。主軸方向はN-35° -Wである。

埋土は暗褐色ー褐色粘質土である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。土坑の平面や断面形態や周辺の状況から、墓の可能性が高いと推定する。

65-SK(Pl.44)

位置　B区の中央部、B2区のS15W10に位置する。39-SKが埋没してから掘削されている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1m、短軸約60cmの土坑である。断面は逆台形状を呈する。底面の平坦に近い部分は長さ約90cmである。検出面からの深さは約15cmである。主軸方向はN-65° -Eである。埋土は褐色粘質土混黄褐色粘質土である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。小形ではあるが土坑の平面や断面形態、周辺の状況から、小児用等の墓の可能性が高いと推定する。

52-SK(Pl.45)

位置　B区の中央部、B2区のS20W5に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1m、短軸約60cmの土坑である。断面はU字状ー逆台形状を呈する。底面の平坦に近い部分は長さ約50cmである。北側15cm程の部分にやや高い部分を残す。検出面からの深さは約30cmである。主軸方向はN-5°-Wである。

埋土は黄褐色粘質土混褐色粘質土である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。小形ではあるが土坑の平面や断面形態、周辺の状況から、小児用等の墓の可能性があると推定する。

50-SK(Pl.45)

位置　B区の中央部、B2区のS20W5に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1.7m、短軸約1.2mの土坑である。断面はU字状ー逆台形状を呈する。平坦面に近い部分は長さ約50cmである。検出面からの深さは約30cmである。断面の形状はやや異なるが、52-SKと規模等は類似する。主軸方向はほぼ南北である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。小形ではあるが土坑の平面や断面形態、周辺の状況から、小児用等の墓の可能性があると推定する。

43-SK(Pl.45)

位置　B区の中央部、B2区のS10W5に位置する。23-SKに切られている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約2m、短軸約1.2mの土坑である。断面はU字状ー逆台形状を呈する。平坦面に近い部分は長さ約1.5mである。検出面からの深さは約25cmである。主軸方向はN-20°-Eである。

埋土は褐色粘質土と暗褐色の粘質土である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。小形ではあるが土坑の平面や断面形態、周辺の状況から、墓の可能性が高いと推定する。

23-SK(Pl.45)

位置　B区の中央部、B2区のS10W5に位置する。43-SKを切っている。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約2m、短軸約1.2mの土坑である。断面はU字状ー逆台形状を呈する。底面の平坦に近い部分は長さ約1.6mである。検出面からの深さは約35cmである。主軸方向はN-20°-Eである。

埋土は褐色ー暗褐色の粘質土ブロックを含む暗褐色ー褐色粘質土である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。土坑の平面や断面形態や周辺の状況から、墓の可能性が高いと推定する。

26-SK(Pl.45、Ph.28)

位置　B区の中央部、B2区のS10W10に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸約1.4m、短軸約1.1mの土坑である。断面はU字状ー逆台形状を呈する。底面の平坦に近い部分は長さ約1.1mである。検出面からの深さは約40cmである。主軸方向はN-20°-Eである。

埋土は中央部と肩部に分けられ、外側の埋土には明褐色の粘質土を含む。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。土坑の平面や特に断面形態等や周辺の状況から、墓の可能性が高いと推定する。

27-SK(Pl.45)

位置　B区の中央部、B2区のS10W5に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸1.8m以上、短軸約1.2mの土坑である。断面はU字状ー逆台形状を呈する。検出面からの深さは約20cmである。主軸方向はN-60°-Eである。

埋土は暗褐色ー褐色粘質土である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。土坑の平面や断面形態や周辺の状況から、墓の可能性が高いと推定する。

37-SK(Pl.45)

位置　B区の中央部、B2区のS10W15に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸1.7m以上、短軸約1.1mの土坑である。断面は2段掘りのU字状ー逆台形状を呈する。東側の肩から40ー80cmは10cm程高くなっている。検出面からの深さは約25cmである。主軸方向はN-80°-Eである。

埋土は暗褐色ー褐色粘質土である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。土坑の平面や断面形態や周辺の状況から、小児用の墓の可能性があると推定する。

38-SK(Pl.46)

位置　B区の南側、B2区の北西部のS10W15に位置する。

構造　掘り方は楕円形を呈する。長軸1.3m以上、短軸約1.1mの土坑である。断面はU字状ー逆台形状を呈する。検出した時点では、長軸1.7mで検出したが、掘削すると前述のようになった。遺構面からの深さは約20cmであるので、2段掘りの形状であった可能性がある。主軸方向N-80°-Wである。

埋土は暗褐色ー褐色粘質土である。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の貯蔵穴、もしくは墓と考えられる。

61-SK(SX)(Pl.46、Ph.26)

位置　B区の中央部、B2区のS5W20に位置する。南西部分は調査区外である。

構造　掘り方は隅丸方形ー楕円形を呈する。長軸約3m、短軸約1.9mの土坑である。断面は調査区の壁で観察しており、明確ではないが、25-SDに切られていると考えられる。断面の外（北）側の堆積が土坑の堆積である。堆積を見ると自然堆積だけではない縦方向の土層の境が見られる。

検出面からの深さは約50cmである。

埋土は白色粘質ブロックを含む褐色粘質土から暗褐色粘質系の土で埋没し、人工的に埋めていると考えられる。

遺物出土状況　埋土から遺物は出土していない。

まとめ　周辺の遺物包含層から出土した縄文土器の破片と形態から、縄文時代後・晩期ー弥生時代前期の墓、もしくは貯蔵穴と考えられる。

３　竪穴建物（Pl.24、Ph.23）

B3 区（Pl.23 ～ 26、Ph.23）

101 号竪穴建物（Pl.24 ～ 26）

位置　B 区の中央部、B3 区の N15W30 を中心に位置する。検出面はⅦ層である。

構造　1 つの土坑（2 号土坑）と 7 つの柱穴で形成される遺構である。周りの柱穴の掘り方は円形で、径 30cm を測り、深さは 30cm 前後である。柱の距離は、長軸方向約 4.5m、短軸方向約 3m である。

埋土は暗褐色のシルトである。

関連遺構　101 号竪穴建物の中央に、2 号土坑（Pl.25・26）が位置する。長軸約 85cm、短軸約 65cm、検出面からの深さは約 20cm の土坑である。断面は U 字状で 2 層に分けられる。

土坑の西側の 1 層及び 2 層の境界で、焼土を検出している（Pl.26）。

遺物出土状況　出土遺物は 2 号土坑からのみで、埋土 3 層からは黒曜石の剥片が 2 点、埋土 2 層からは黒曜石の剥片が 6 点、土器 3 点で流れ込みの遺物である。埋土 1 層からは中央に破砕して流れ込んだ土器と 10 点程の黒曜石が出土している。

まとめ　長軸 6m 以上、短軸 4m 以上の規模の円形の建物の可能性がある。上面が削平されていることから、竪穴建物であったと考えられる。

2 号土坑の埋土から、土器片及び石器の剥片が出土しており、また焼土も上層に含まれていることから周りを囲む作業場兼炉（いろり）等の用途が推定される。

４　遺物包含層の遺物（縄文時代）（Pl.75・77 ～ 80・83・32・36 ～ 38・41・43・45・46、Ph.45）

縄文時代以外の遺構から出土している遺物を、簡単に解説する。

（１）石器（Pl.75 ～ 78、Ph.45）

Pl.75-6 は打製の石斧である。N25W20 グリッドの 144-SP から出土している。128-SB を構成する柱穴と推定したが、周辺に 124-SK 等の縄文時代後晩期の貯蔵穴等があり、集落エリアと考えている地点の出土である。117・115・140-SK が一部所属するグリッドのため、それらに伴う遺物の可能性があろう。安山岩製である。先端部は欠損している。基部は右側縁を粗く、そのあと左側縁を丁寧に調整している。基部から 2.5cm 程の箇所の剥離が細かくなっているので、紐等で柄を固定していたと考えられる。刃部先端部付近も調整は基部と同様である。形態的には、ややナスビ形になっており、先端部付近が擦れている事からスコップ状に用いられたと考えられる。

Pl.75-7 は N30W25 グリッドに位置する。140-SK 等との関連が注目される。安山岩製のスクレーパーであり、末端部に細かい剥離が見られ、 使用痕跡によると考えられる。Pl.76- 1 は 66-SK 内の 68-Pit からの出土である。縄文時代早期の連結土坑 53-SK の関連遺構である。焼成を受けているためか風化が激しい。河原石である。長軸の長さは約 10cm である。側縁の平坦部分に擦り痕がいくつも見られる。磨石として使用される。一方の端部に打撃痕跡があり、敲石としても使用されている。

Pl.77- 1 は 100-SD の埋土 1 層、グリッド N40W50 の出土である。礫面を残す縦長剥片の側片に、幅 5mm の細かい剥離を施している。使用痕が残存する。剥片の先端部は欠損している。

Pl.77-2 は 100-SD の埋土 1 層、N40W50 グリッドの出土である。黒曜石の石核である。打面を調整しながら、ある 1 方向から剥片を採っている。

Pl.76-4は、100-SD上の表土からの出土である。出土グリッドはN40W30である。打製石斧である。刃部と基部の裏面が欠損する。基部は後から調整しているが、側面から刃部に向けて剥離を行っている。N40W50グリッドには110-SKが存在する。110-SKに伴う遺物の可能性がある。

Pl.76-5は103-SDの埋土１層からの出土である。磨製石斧である。側面を丁寧に磨いており、基部に磨いた面が残存する。斜め方向の磨き痕跡が残存する。先端部は欠損している。117・126-SKは103-SDに近接しており、それらの遺構に伴う遺物の可能性もある。

Pl.77-3は、103-SDの埋土１層からの出土である。打製の石斧とも考えられるが、形態から打製穂摘具と推定できる。刃部側の先端には幅約1cmの剥離を施す。裏面は幅約3cmで粗い。反対の側面は幅1.5ー2cmの幅で剥離が施されている。両面からの剥離である。

117・126-SKは103-SDに近接しており、それらの遺構に伴う遺物の可能性もある。Pl.77-4は03-SDからの出土である。安山岩製のスクレーパーもしくは尖頭器と考えられる。横長剥片に側面の一部及び打点と反対方向の先端部に細かい剥離を施している。剥離が刃つぶしか、先端部の調整の剥離と見るかにより器種が異なる。近接する08・09-SKに伴う遺物の可能性がある。

Pl.77-5はN30W20の表土からの出土である。礫面を残し、打面を転移しながら剥離していると考えられる。下部に細かい剥離があり、角度も30°程あるため刃部を形成している。スクレーパーとも言える。115・117・140-SK等が近接しており、それらに伴う遺物の可能性があろう。

Pl.78-1はS10E10からの出土である。黒曜石の石核である。礫面が残存する。幅１cm程の縦長の剥片を採っている。24-SK等が近接しており、それに伴う遺物の可能性もあると考えられよう。

Pl.78-2はグリッドN40W45からの出土である。石匙である。黒曜石製である。基部及び側縁に細かい剥離が入る。一側縁は片方からのみの剥離である。刃部は片方から主に剥離が入り、反対の面は使用痕跡の可能性がある。石鏃のような形態をしており、剥片鏃の可能性も考えたが、一側縁の刃部が鋭利で、形態的に左右のバランスが悪いこと、角度を変えればつまみ状の剥離とも考えられることから、小形の石匙と考えられる。110-SKが出土グリッドに位置し、その遺構に伴う遺物の可能性がある。

Pl.78-3はグリッドN30W40から出土している。黒曜石の石核である。打面を調整し、幅1cmに満たない細かい剥離痕跡が見られる。片側に礫面が大きく残存する。109・117・115・140-SK等が近接しており、それらに伴う遺物の可能性がある。

Pl.78-4は打面を形成し、1方向からの5mmに満たない細かい剥離痕跡が残存する。礫面が残存する。

Pl.78-5は磨石と敲石の兼用の石器である。砂岩製と思われる。半分程が割れていると推定できる。平らな両方の面に擦り痕跡が見られる。何回か使用されており、一面は2ヶ所に顕著な擦り痕跡、反対の面はほぼ全面に擦り痕跡が残存する。先端の面は顕著な敲打痕が残存している。使用回数は多いと考えられる。

Pl.78-6は磨石及び石皿、敲石を兼ねる石器と考えられる。平坦な面の両側に擦り痕跡が残存する。中央付近の5cm程が、特に擦り痕跡が顕著である。反対の平坦面も同様である。平坦面の片側に敲打された痕跡があり、何かを砕いたと推定できる。側縁にも敲打痕跡が見られ、同様に側縁で何かを敲き、潰したものと考えられる。

第６節　弥生時代～古墳時代の遺構と遺物(Pl.47～49、Ph.19・21・36)

B1区(Pl.47～49・81、Ph.19・21・36)

037-SI(SX)(Pl.47～49・81、Ph.19・21・36)

位置　B区の中央部、B1区のN10W15を中心に位置する。検出面はⅦ層である。150-SXに床面を壊されている。

構造　掘り方は隅丸方形を呈すると推定される。長軸が約4.1mで短軸が約3.2mの大きさと推定できる。主軸の方向はN-115°-Wである。検出面の深さは約30cmである。検出面からすると30cm以上は深かった可能性がある。

断面観察によると、床面の周りには幅約20～30cm、深さ約10cmの溝がめぐる。ただし、平面ではうまくとらえられなかった。

柱穴は5基以上検出されている。柱穴の掘り方は約30～40cmで深さは約20～40cmである。柱痕跡は約10～15 cmである。実際の柱よりはやや大きく検出されると考えられる。南東側床面に、150-SKに切られたように幅80cmの範囲に焼土を検出している。150-SK伴わなければ、掘方の端なのでカマド等の一部の可能性がある。

当初37-SXとして、長軸約4m、短軸約3.2mの隅丸方形のプランで検出したが、竪穴建物と考え掘削していくと、中央部分に、掘り方の部分とはやや軸の振れた、隅丸方形～楕円形に近い低い床面を検出した。当初はベッド状遺構を持つ住居とも考えたが、北東側のプランが丸く膨らむ点や、低い床面に壁溝が検出された点と断面観察により、別遺構と理解した方が良いと判断して報告する。

遺物出土状況　流れ込みの遺物が細片として出土している。

土器　Pl.81-8の3は埋土１層出土で外面横方向のタタキを持つもので内面が削っているかは明瞭でない。Pl.81-11は鉢である。口縁部付近の器壁が4mmであるが、胴部は7mmと厚い。口縁部は横ナデ、胴部外面は指ナデによる調整。内面は縦方向のヘラによるナデ（ヘラミガキ）により丁寧に調整している。

Pl.81-10は150-SKの埋土２層出土である。鉢で胴部の厚さは4mmで口縁部は内傾し、厚さ2mmで内側にやや肥厚している。

Pl.81-9は150-SK埋土１層出土で甕の口縁部で端部は下方に平坦面を持つ。胴部外面は上部ナデ調整で内面は左上がりのハケ目である。

Pl.81-7は037-SIの出土で把手付きの鉢と推定できる。底部に凸帯が見られる。把手の剥離痕跡が見られる。

他には図化できるものがなく、細片のみである。土器等が削平により失われたと考えられる。

他には内面ケズリの約2mmの厚さの甕片である。

また、古代に下りそうな土師器片も出土している。

まとめ　一応、柱穴も4基揃い、竪穴建物と考える。

しかしながら構造的には、可能性としては２通りの考え方がある。１つ目は、150-SKも含め、竪穴建物とし、ベッド状遺構を持つ、弥生時代後期の終末から古墳時代の竪穴建物と考えることである。そうした仮定のもとに平面を図示したのはPl.49の上段である。

もう１つは、150-SKを古代の遺構として、ベッド状遺構を持たない（確認できない）竪穴建物と考えることである。

平面プランを見ると150-SKのある部分の平面形が胴張りになっており、撹乱された可能性がある。古代の遺物も混入しており後者の可能性が高いと考えている。

小結

037-SI以外に弥生時代の遺構は調査区内では確認できない。遺物包含層が削平されて、弥生時代の遺物の分布も定かでないが、地形から言って西側の丘陵頂部に竪穴建物からなる集落が展開していたことが考えられる。

第７節　古代の遺構と遺物（Pl.49～57・59～65・81・83、Ph.15・16・18・19・22・24～26・28・36・39）

B1区（Pl.49・81、Ph.18・19・36）

1　竪穴建物関連

150-SK（Pl.49・81、Ph.18・19・36）

位置　B区の中央部、B1区のN10W15を中心に位置する。検出面はⅦ層である。

構造　掘り方は隅丸方形を呈すると推定される。断面から推測すると、長軸約3.5m、短軸約2.8mの大きさと推定できる。主軸の方向はN-100°-Wである。

検出面の深さは約50cmであるが、検出面からすると20～30cm以上は深かった可能性がある。

床面の周りには幅約20～30cm、深さ約15cmの溝がめぐる。壁溝と考えられる。床面には柱は検出できなかった。

当初37-SXとして長軸約4m、短軸約3.2mの隅丸方形のプランで検出したが、最終的には、中央にやや軸の振れた隅丸方形～楕円形に近い低い床面を検出した。壁溝の検出と断面観察により、別遺構と理解した方が良いと判断して別項を設けて報告する。

遺物出土状況　細片の遺物が出土しており、流れ込みである。弥生土器片と考えられる

土器　Pl.81-9・10（Ph.36-7・8）が出土している。他には図化できるものがなく、細片のみである。廃棄された土器等が削平により失われたと考えられる。

037-SIに150-SKも含み遺物の詳細は記述しているが、古代に下るであろう土師器片も出土している。

Pl.81-11が、037-SIで取りあげられているが、底部外面に削りが見られ土師器の杯とも考えられる。150-SKに伴う可能性がある。

まとめ　150-SKを建物と理解するには037-SIの一部として理解しないと困難である。そうすると構造的に見ると弥生時代後期終末から古墳時代前期の竪穴建物と考えられる。

埋土から古代と見られる土器片も出土していることからそれらは流れ込みの混入遺物となる。

そうした可能性もあるが、037-SIの項で記述したように、037-SIとは別遺構として理解して置きたい。柱穴が検出できなかったが、仮に古代の建物とするのであれば、床面南東側で検出された焼土はカマドに伴うものの可能性がある。

しかしながら、柱穴が検出していない以上、床面が平坦な貯蔵穴等の古墳時代～古代の土坑と理解しておきたい。

２　土坑（Pl.50、Ph.15）

A区（Pl.50、Ph.15）

24-SK（Pl.55、Ph.15）

位置　A区の南東側のS20E10に位置する。

構造　掘り方は隅丸方形を呈する。長軸約1.1m、短軸約70cmである。断面は凹字状を呈する。検出面からの深さは約35cmである。

埋土は２層に分けられる。下層は崩れて崩落した土と考えられる。

遺物出土状況　須恵器片及び陶器片が出土している。陶器片は混入の可能性がある。

まとめ　古代の貯蔵穴の可能性がある。

３　掘立柱建物（Pl.50～64、Ph.11・12・15・16）

A区（Pl.50～57、Ph.11・12・15・16）

125-SB(Pl.51、Ph.16)

位置　A区の中央部のNOW20を中心に位置する。

柱配置　2間×2間以上の側柱建物と推定される。柱間距離は桁行・梁行とも約2.1m（7尺）である。柱の掘り方は径約25～30cmの円形から隅丸方形の掘り方を持つ。柱痕跡は約10cmである。柱穴の検出面からの深さは約40～50cmである。検出面はⅤ層であり、10cm以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、N-18°-Wである。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　関連する建物の復元は難しいが、主軸方向や位置関係から見ると132・118-SB等と関連があると考えられる。

130-SB(Pl.51、Ph.16)

位置　A区の中央部のNOW30を中心に位置する。

柱配置　2間×1間の側柱建物と推定する。柱間距離は桁行約2.1mで7尺を基本とし、梁行は約3m（10尺）である。梁行は､間の柱穴が削平されていれば約1.5m(5尺)となる。

径約25～40cmの円形から隅丸方形の掘り方を持つ。柱痕跡は約10cmである。柱穴の検出面からの深さは約20～40cmである。検出面はⅤ層であり、10cm以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、N-20°-Wである。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　関連する建物の復元は難しいが、主軸方向や位置関係から見ると123・118-SB等と関連があると考えられる。

131-SB(Pl.52、Ph.16)

位置　A区の中央部のNOW30を中心に位置する。

柱配置　2間×2間の建物と推定する。柱間距離は桁行約2.1mで7尺である。梁行約1.5m（5尺）である。径約25～30cmの円形から隅丸方形の掘り方を持つ。柱痕跡は約10cmである。柱穴の検出面からの深さは約20～30cmである。P1は樹痕等が入り込んでいる可能性がある。検出面はⅤ層であり、10cm以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、N-50°-Wである。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　床面中央付近に柱穴が位置する。総柱建物の可能性がある。

関連する建物の復元は難しいが、主軸方向や位置関係から見ると06-SB等と関連があると考えられる。

06-SB(Pl.52)

位置　A区の中央部東側のNOW5を中心に位置する。

柱配置　2間×2間の側柱建物と推定する。柱間距離は桁行約1.8m（6尺）である。梁行約1.5m（5尺）である。径約20～25cmの円形から隅丸方形の掘り方を持つ。柱痕跡は約10cmである。柱穴の検出面からの深さは約20～30cmである。検出面は削平されており、10cm以上は削平されていると考えられる。建物の軸は､N-55°-Wである。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　関連する建物の復元は難しいが、主軸方向や位置関係から見ると建物の主軸方向から131-SB等と関連があると考えられる。

07-SB(Pl.52)

位置　A区の中央部東側のNOW10を中心に位置する。

柱配置　2間×2間の側柱建物と推定する。柱配置は整然としたものではない。柱間距離は桁行約1.5m（5尺）である。梁行約1.2m(4尺)である。径約20～25cmの円形～隅丸方形の掘り方を持つ。柱痕跡は約10cmである。柱穴の検出面からの深さは約20～30cmである。検出面は削平されており、10cm以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、N-55°-Wである。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　建物と認定するのは困難である。検出面が削平を受けているので可能性として提示したい。

132-SB(Pl.53、Ph.16)

位置　A区の中央部のN5W25を中心に位置する。

柱配置　2間×2間の総柱建物と推定する。柱間距離は桁行・梁行とも約1.8m（6尺）である。径約30～50cmの円形～隅丸方形の掘り方を持つ。柱痕跡は約10～15cmである。柱穴の検出面からの深さは約40～50cmである。検出面はⅤ層であり、10cm以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、N-25°-Wである。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　柱の掘り方は大きく､深く頑丈な建物と推定できる。倉庫等の機能を果たした可能性がある。関連する建物の復元は難しいが、主軸方向や位置関係から見ると125-SB、118-SB等と関連があると考えられる。

139-SB(Pl.53、Ph.16)

位置　A区の中央部のN10W35を中心に位置する。

柱配置　2間×3間の側柱建物と推定される。柱間距離は桁行約1.8m（6尺）である。･梁行は約1.5m（5尺）である。径約25～40cmの円形～隅丸方形の掘り方を持つ。柱痕跡は約10～15cmである。柱穴の検出面からの深さは約30～40cmである。検出面はⅤ層であり、10cm以上は削平されていると考えられる。建物の軸は､N-18°-Wである。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　関連する建物の復元は難しいが、主軸方向や位置関係から見ると130-SB等と関連があると考えられる。

122-SB(Pl.54、Ph.16)

位置　A区の北側のN15W20を中心に位置する。

柱配置　2間×2間の側柱建物と推定する。柱間距離は桁行・梁行とも約1.8m（6尺）である。径約20～35cmの円形～隅丸方形の掘り方を持つ。柱痕跡は約10～15cmである。柱穴の検出面からの深さは約10～25cmである。検出面はⅤ層であり、10cm以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、N-15°-Wである。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　関連する建物の復元は難しいが、主軸方向や位置関係から見ると118・119（132・125）-SB等と関連があると考えられる。

121-SB(Pl.54、Ph.15)

位置　A区の北側のN15W25を中心に位置する。

柱配置　2間×2間の総柱建物と推定する。柱間距離は桁行・梁行とも約1.2m（4尺）である。径約25～40cmの円形～隅丸方形の掘り方を持つ。柱痕跡は約10～15cmである。柱穴の検出面からの深さは約10～30cmである。検出面はⅤ層であり、10cm以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、ほぼ南北方向である。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　関連する建物の復元は難しい。主軸方向が他の建物とやや違う。また柱も整然としないが、総柱建物の可能性もあり、柱間も短いことから、簡易な倉庫の可能性があろう。

146-SA(Pl.54)

位置　A区の北側のN20W20を中心に位置する。

柱配置　柱が3基並ぶだけである。柱間距離は約1.8m（6尺）である。径約20～25cmの円形の掘り方を持つ。柱痕跡は約10cmである。柱穴の検出面からの深さは約25～30cmである。検出面はⅤ層であり、10cm以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、N-50°-Eである。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　関連する建物の復元は難しい。位置関係からすると122-SBと考えられる。

128-SB(Pl.55)

位置　A区の北側のN15W25を中心に位置する。

柱配置　2間×2間の変形の建物と推定する。柱間距離は桁行5尺を単位とし、梁行は7尺を単位とすると考えられる。それに南西側に梁行7尺が付属するという構造が考えられる。径約25～40cmの円形から隅丸方形の掘り方を持つ。柱痕跡は約10～15cmである。柱穴の検出面からの深さは約10～30cmである。検出面はⅤ層であり、10cm以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、ほぼ南北方向である。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　関連する建物の復元は難しい。主軸方向が他の建物とやや違う。柱も整然としないが、総柱建物の可能性もあり、柱間も短いことから、簡易な倉庫の可能性があろう。

123-SB(Pl.56、Ph.15)

位置　A区の北側のN25W40を中心に位置する。

柱配置　3間×3間の側柱建物と推定される。柱間距離は桁行・梁行は約1.5m（5尺）である。径約20～30cmの円形の掘り方を持つ。柱痕跡は約10cmである。柱穴の検出面からの深さは約10～25cmである。検出面はⅤ層であり、10cm以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、N-15°-Wである。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　関連する建物の復元は難しいが、主軸方向や位置関係から見ると120・130・139-SB等と関連があると考えられる。

120-SB(Pl.56、Ph.15)

位置　A区の北側のN30W45を中心に位置する。

柱配置　2間×2間の側柱建物と推定される。柱間距離は桁行約1.8m（6尺）である。・梁行は約1.5m（5尺）である。径約25～40cmの円形隅丸方形の掘り方を持つ。柱痕跡は約10cmである。柱穴の検出面からの深さは約10～30cmである。検出面はⅤ層であり、10cm以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、N-20°-Wである。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　関連する建物の復元は難しいが、主軸方向や位置関係から見ると123-SB等と関連があると考えられる。

119-SB(Pl.57、Ph.15)

位置　A区の北側のN30W30を中心に位置する。

柱配置　2間×2間の側柱建物と推定する。柱穴は整然としていない。柱間距離は桁行約1.8m(6尺)で、梁行は約1.8m（6尺）である。径約25cmの円形の掘り方を持ち、柱痕跡は約10cmである。柱穴の検出面からの深さは約10～30cmである。検出面はⅤ層であり、10cm以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、N-40°-Wである。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　関連する建物の復元は難しいが、主軸方向や位置関係から見ると06・118-SB等と関連があると考えられる。

118-SB(Pl.57、Ph.15)

位置　A区の中央のN35W35を中心に位置する。

柱配置　2間×2間の側柱建物と推定される。柱間距離は桁行約1.8m（6尺）で、梁行も約1.8m（6尺）を基準とするが北東側の柱間距離がやや短い。径約25cmの円形の掘り方を持ち、柱痕跡は約10cmである。柱穴の検出面からの深さは約30～40cmである。検出面はⅤ層であり、10cm以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、N-25°-Wである。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　関連する建物の復元は難しいが、主軸方向や位置関係から見ると122・119-SB等と関連があると考えられる。

B区

B1区（Pl.59～61、Ph.18・19・22）

163-SB(Pl.59、Ph.22)

位置　B区の中央部、B1区のNOW20を中心に位置する。

柱配置　南側が近世以降の道（溝）に攪乱されており詳細は不明であるが、2間×2間以上の南北に長い側柱建物と推定する。柱間距離は桁行・梁行とも約1.2m（4尺）である。径25～30cmの円形から隅丸方形の掘り方を持つ。柱痕跡は約10cmである。柱穴の検出面からの深さは約10～15cmである。検出面はⅦ層であり、30cm以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、ほぼ南北方向である。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　関連する建物の復元は難しいが、主軸方向から見るとB1区160-SB、B3区173-SB等と関連があると考えられる。

164-SB(Pl.59、Ph.22)

位置　B区の北側、B1区のN15W25を中心に位置する。

柱配置　2間×2間の建物と推定した。柱間距離は桁行・梁行とも約2.7m（9尺）である。径40～45cmの円形～隅丸方形の掘り方を持ち、柱痕跡は約15cmである。柱穴の検出面からの深さは約60cmである。検出面はⅦ層であり、20～30cm以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、N-20°-Wである。

遺物出土状況　遺構に伴う遺物は出土していない。ただしP-3（Q55-p）からは黒曜石7点出土しており、竪穴建物の柱穴と重複していた可能性がある。

小結　1間×1間の建物を推定するのは難しいが、柱穴の深さが60cmで深いことから物見櫓の用途に使われた可能性があると考える。

主軸方向から見るとB1区165-SB、B3区172-SB等と関連があると考えられる。

165-SB(Pl.59、Ph.22)

位置　B区の中央部、B1区のN5W10を中心に位置する。

柱配置　2間×2間の建物と推定した。柱配列は規格性が乏しいが、柱間距離は桁行・梁行とも約1.5m（5尺）を中心とすると考えた。径30～40cmの円形～隅丸方形の掘り方を持つ。柱痕跡は約10cmである。柱穴の検出面からの深さは約15～25cmである。検出面はⅦ層であり、20～30cm以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、N-20°-Wである。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　2間×2間の側柱建物と推定できる。

主軸方向から見るとB1区164・172-SB(B3区青色建物）等と関連があると考えられる。

160-SB(Pl.60、Ph.22)

位置　B区の北側、B1区のN25W30を中心に位置する。

柱配置　2間×2間の建物と推定した。柱配列は規格性が乏しいが、柱間距離は桁行・梁行とも約1.5mで5尺を中心とすると考えた。径30～40cmの円形～隅丸方形の掘り方を持つ。柱痕跡は約10cmで、柱穴の検出面からの深さは約10～20cmである。075-SPは樹痕等が入り込んで深くなっている可能性もある。検出面はⅦ層であり、20～30cm以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、N-15°-Eである。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　2間×2間の側柱建物と推定できる。

主軸方向から見るとB1区167-SB等と関連があると考えられる。

B1・B3区（Pl.60・61、Ph.18・22）

172-SB(Pl.60)

位置　B区の北西側、B1ーB3区のN25W35を中心に位置する。

柱配置　2間×2間の建物と推定した。柱配列は規格性が乏しいが、柱間距離は桁行・梁行とも約1.8m（6尺）を中心とすると考えた。径25ー40cmの円形から隅丸方形の掘り方を持ち、柱痕跡は約10cmである。柱穴の検出面からの深さは約15ー35cmである。検出面はⅦ層であり、20ー30cm以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、N-15°-Wである。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　2間×2間の側柱建物と推定できる。

主軸方向から見るとB1区164・165 -SB等と関連があると考えられる。

173-SB(Pl.61)

位置　B区の北西側、B1ーB3区N25W35を中心に位置する。

柱配置　2間×1間の建物と推定した。柱配列は規格性が乏しいが、柱間距離は桁行7尺(約2.1m)・梁行8尺(約2.4m)を中心とすると考えた。径25ー40cmの円形ー隅丸方形の掘り方を持ち、柱痕跡は約10cmである。柱穴の検出面からの深さは約15ー35cmである。検出面はⅦ層であり、20ー30cm以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、ほぼ南北である。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　2間×2間の側柱建物と推定できる。

主軸方向から見るとB1区163-SB等と関連があると考えられる。

161-SB(Pl.61、Ph.22)

位置　B区の北西側、B1ーB3区のN30W35を中心に位置する。

柱配置　2間×2間の建物と推定した。柱配列は規格性が乏しいが、柱間距離は桁行・梁行とも約1.5m（5尺）を中心とすると考えた。径25ー40cmの円形から隅丸方形の掘り方を持ち、柱痕跡は約10cmである。柱穴の検出面からの深さは約15ー20cmである。P-6は樹痕等が入り込んで深くなっている可能性がある。検出面はⅦ層であり、20ー30cm以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、N-15°-Wである。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　2間×2間の側柱建物と推定できる。

主軸方向から見るとB1区164・165-SB等と関連があると考えられる。

167-SB(Pl.61、Ph.22)

位置　B区の北西側、B1ーB3区のN30W35を中心に位置する。

柱配置　北側が調査区外で、さらに削られており詳細は不明であるが、南北に長い1間以上×2 間以上の建物の可能性がある。柱間距離は桁行・梁行とも約2.4m（8尺）を中心とすると考えた。径35ー40cmの円形ー隅丸方形の掘り方を持つ。柱痕跡は約15cmである。柱穴の検出面からの深さは約20ー50cmである。検出面はⅦ層であり、20ー30cm以上は削平されていると考えられる。深いため物見櫓の建物の可能性がある。建物の軸は、N-45°-Wである。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　建物の詳細は不明であり、可能性だけ提示する。

主軸方向から見るとやや軸がぶれるが、B区164・165-SB等と関連がある可能性がある。

B2 区（Pl.62 ～ 64、Ph.24 ～ 26・28）

1001-SB(Pl.64、Ph.28)

位置　B 区の中央部、B2 区の S15W10 を中心に位置する。

柱配置　2 間× 2 間以上の建物と推定した。柱間距離は桁行・梁行とも約 1.8m（6 尺）を中心とすると考えた。径約 35cm の円形の掘り方を持つ。柱痕跡は約 10cm である。柱穴の検出面からの深さは約 10 ～ 50cm である。P-3 は樹痕等が入り込んで深くなっている可能性がある。検出面はⅦ層であり、20 ～ 30cm 以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、N-5°-W である。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　2 間× 2 間以上の側柱建物と推定できる。

主軸方向から見ると B1 区 163・173-SB 等と関連があると考えられる。

1002-SB(Pl.64、Ph.28)

位置　B 区の中央部、B2 区の S15W10 を中心に位置する。

柱配置　2 間× 3 間以上の建物と推定した。柱間距離は桁行が 1.5m（5 尺）を中心にやや南側が短く、梁行は約 1.8m（6 尺）を中心とすると考えた。南側径約 25 ～ 40cm の円形の掘り方を持ち、柱痕跡は約 10cm である。柱穴の検出面からの深さは約 20 ～ 30cm である。検出面はⅦ層であり、20 ～ 30cm 以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、ほぼ座標の南北方向である。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　2 間× 2 間以上の側柱建物と推定できる。

主軸方向から見ると B1 区 163・173-SB 等と関連があると考えられる。

1003-SB(Pl.62、Ph.28)

位置　B 区の中央部、B2 区の S15W10 を中心に位置する。

柱配置　2 間× 2 間以上の建物と推定した。柱間距離は桁行・梁行とも約 1.5m で 5 尺を中心とすると考えた。径約 25 ～ 40cm の円形の掘り方を持つ。柱痕跡は約 10cm である。柱穴の検出面からの深さは約 25 ～ 30cm である。P-5 は樹痕等が入り込んで深くなっている可能性がある。検出面はⅦ層であり、20 ～ 30cm 以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、N-5°-E である。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　2 間× 2 間以上の側柱建物と推定できる。

主軸方向から見ると B1 区 163・173-SB 等と関連があると考えられる。

1004-SB(Pl.62、Ph.28)

位置　B 区の中央部、B2 区の S10W10 を中心に位置する。

柱配置　2 間× 2 間以上の建物と推定した。柱間距離は桁行・梁行とも約 1.5m（5 尺）を中心とすると考えた。径約 25 ～ 40cm の円形の掘り方を持ち、柱痕跡は約 10cm である。柱穴の検出面からの深さは約 20 ～ 35cm である。検出面はⅦ層であり、20 ～ 30cm 以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、N-30°-E である。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　2 間× 2 間以上の側柱建物と推定できる。

主軸方向から見ると B1 区 165-SB 等と関連があると考えられる。

2001-SA(Pl.62、Ph.28)

位置　B 区の中央部、B2 区の S15 W10 を中心に位置する。

柱配置　3 基の柱が並ぶのみである。周辺に 1001・1002・1003・1004-SB を復原した中で残った柱列である。

柱間距離約 2.1m（7 尺）である。2 間× 2 間以上の建物と推定した。柱間距離は桁行・梁行とも約 1.5m（5 尺）を中心とすると考えた。径約 35 ～ 40cm の円形の掘り方を持ち、柱痕跡は約 10cm である。柱穴の検出面からの深さは約 30 ～ 40cm である。検出面はⅦ層であり、20 ～ 30cm 以上は削平されていると考えられる。軸は、ほぼ座標の東

西方向である。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

02-SB(Pl.63、Ph.25)

位置　B区の南側、B2区のS30E0を中心に位置する。

柱配置　2間×1間以上の建物と推定した。柱間距離は桁行約1.8m（6尺）、梁行は約2.4m（8尺）を中心とすると考えられる。径約25～30cmの円形の掘り方を持つ。柱痕跡は約10cmである。柱穴の検出面からの深さは約30～35cmである。検出面はⅦ層であり、20～30cm以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、N-5°-Wである。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　2間×2間以上の側柱建物と推定できる。

主軸方向から見ると、B1区163-SB、B2区1001・1002・1003-SB等と関連があると考えられる。

66-SB(Pl.63、Ph.26)

位置　B区の中央部、B2区のS20W15を中心に位置する。

柱配置　3間×2間以上の建物と推定した。柱間距離は桁行、梁行ともに約1.2m（4尺）を中心とするものと考えられる。径約25～30cmの円形の掘り方を持ち、柱痕跡は約10cmである。柱穴の検出面からの深さは約15～40cmである。検出面はⅦ層であり、20～30cm以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、N-20°-Wである。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　2間×2間以上の側柱建物と推定できる。

主軸方向から見るとB1区165-SB、B2区67-SB等と関連があると考えられる。

67-SB(Pl.63、Ph.26)

位置　B区の中央部、B2区のS10W5を中心に位置する。

柱配置　2間×2間以上の建物と推定した。柱間距離は桁行、梁行共に約1.2m(4尺)を中心とするものと考えられる。径約25～40cmの円形の掘り方を持つ。柱痕跡は約10cmである。柱穴の検出面からの深さは約20～25cmである。検出面はⅦ層であり、20～30cm以上は削平されていると考えられる。建物の軸は、N-20°-Wである。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

小結　2間×2間以上の側柱建物と推定できる。

主軸方向から見ると、B1区165-SB、B2区66-SB等と関連があると考えられる。

溝（Pl.65・66、Ph.17・39）

概要　掘立柱建物に併行して伸びる溝が出土している。建物に関連するような区画溝の可能性を考えている。

１　溝（Pl.67、Ph.17）

（105）・111・112・113・36-SD（Pl.67、Ph.17・39）

調査位置　調査区の中央のS15W20を中心とするグリッドに位置する。36-SDは112・113-SD等の延長にあたる。上層は近世まで下ると思われる遺構で玉名市教育委員会の調査で検出されたS021等に平行する溝である。

構造　検出した溝の最大幅は約3.5mである。長さは8mしか検出できなかった。調査時には１つの溝と考えていたが、断面の基底部や土層の乱れを考えると２つ以上の溝が重複していたと考えられ、幅1.5m以上の溝が重複していると推定する。断面はU字状から逆台形状を呈する。最深部は約40cmで上部は削平されていると考えられる。

36-SDは、中世後期ー近世の区画の溝の延長にもあたり、上層や切り合いがあった可能性がある。

遺物出土状況

36-SDからは陶器が2点、縄文土器2点，土師器が3点出土している。105-SDからは陶磁器類が出土しているが、いずれも、103-SD等と切り合っており気付かずに掘削してしまった可能性がある。36-SDは近世以降と報告しておくが、古代から中世の溝の可能性があると考えている。105-SDからは縄文土器片3点、土師器2点、須恵器1点のほか陶磁器が1点出土している。陶磁器は混入品の可能性がある。

111-SDからは縄文時代の土器が出土しているのみである。

まとめ　中世後期と推定できる区画と若干方位が異なっており、これらの溝が古代にさかのぼる可能性がある。

古代の可能性を考えているが、建物の規模が2間×2間のものもあることから中世まで下ると考えられる。

５．遺物包含層及び他の時代の遺構から出土した遺物

Pl.83-7は23-SD（中世後期の溝）から出土した底部調整をしていない須恵器の杯の底部である。底径は約11cmである。

Pl.83-9は23-SD（中世後期の溝）から出土した底部をヘラ削りで調整した後ナデ調整をした須恵器杯の底部である。底径は約7.5cmである。

Pl.83-10は23-SD（中世後期の溝）から出土した底部をヘラ削りで調整した須恵器杯の底部である。底径は約7.5cmである。

Pl.83-21は須恵器の壷もしくは杯の底部である。底径は約13cmである。底部が踏ん張る形である。

Pl.83-34は須恵器の壷もしくは杯の底部である。底径は約13cmである。底部が踏ん張る形である。

Pl.83-25はS10W10出土の須恵器の壷類の口縁である口縁端部はやや下垂する。吹き出しとでも言う1mm未満の黒色粒を含む。

Pl.83-33はS10W10出土の須恵器の壷類の口縁である口縁端部はやや下垂する。

Pl.83-24は須恵器高杯の脚部である。現存高約4cmで短脚である。

小結　短脚の高杯（Pl.83-24）や底部のナデ調整したもの（Pl.83-8）や高台の形状（Pl.83-21）等からは大宰府編年のⅣ期併行期と推定できる。

また，ヘラ削りで底部調整した杯（Pl.83-9）は大宰府編年のⅤ期併行期と考えられる。

また底部調整を施していないPl.83-7は大宰府編年のⅥ期併行期）と推定する。つまり8世紀中葉から9世紀前半頃までの年代と考えられる。

第８節　中世後期の遺構と遺物（Pl.65・67～69・83、Ph.16・17・31・36～39・41・42・45・46）

概要

A区の隣接地の吉丸前遺跡で玉名市教育委員会の調査で中世後期の溝を検出している。一番北側の溝（S019・S062）は方１町半×１町を囲む溝として機能していたと推定されており、それは周辺地形からも伺える。

今回、幅3m以上の溝をS019・062から約50m北側で検出している。また，遺構としては認識するのは困難であったが、100m北側には32-SDとして若干のくぼみを検出した。いずれも近世後期以降まで使用され、拡張されており解明が困難であるが、半町及び１町四方の区画が北側にも存在して連郭式の舘の区画が続いていた可能性がある。玉名市教育委員会調査の空堀状遺構（S021）等と併せて再度区画を考える必要がある。

１　溝（Pl.65・67～69・83、Ph.16・17・31・36～39・41・42・45・46）

23-SD(Pl.65・67・83、Ph.17・36～39)

調査位置　A区の南側中央のS30W5を中心とするグリッドに位置する。吉丸前遺跡で玉名市教育委員会の調査で検出されS021・S019・S062等に平行する溝である。

構造　遺構の上半部とか下半部では大きく形状が異なる。細かく追ってみると下半部でも段状の断面を呈し、２～３時期はある可能性がある。上層は土色①～⑤に対応する。近世から近代にかけて機能したものであろうと考えられるので後述する。

中層は土色⑥～⑧に対応する。下層は⑨～⑫までと考えられる。

構造は底面が約幅1.4mで逆台形状を呈する。最深部が検出面からではあるが約2mである。溝の幅は上層部分が拡張されているのを修正すると下層～中層の段階では約3．5mと推定できる。長さは約12mで東側は途切れる。

また、82-SDの北側の肩部に段があり，近世の段階でを検出している際に暗褐色のブロックが混じる黄褐色粘質土を検出した。北側に別の溝を想定できる可能性がある。幅1.5m以上、深さ1.2mで断面形状はU字形である。埋土は最下層には暗褐色土を含むがブロック等を含まず、自然堆積層と考えられる。それより上はロームブロックを含み両側から崩れて堆積したか埋められたような状況である。⑨は人為的に埋められている可能性が高い。断面形状からみると⑨～⑫の下層が中世後期の溝が廃絶した段階であると推定している。

遺物出土状況　該当する溝の埋土は小片で流れ込みであろうが、瓦質土器２点、中世中国輸入陶磁器の青磁２点が出土している。

遺物　Pl.83-2・３は中国製の青磁の椀で連弁の表現があるが形骸化しており、14世紀以降のものと推定できる。

Pl.83-4は火鉢の口縁であり，口縁部直下に２重円のスタンプ文が施される。

Pl.83-12は中国製の青磁の皿である。見込みに沈線が残存する。

小結　検出した位置や埋土の状況から玉名市教育委員会の調査成果を考慮に入れると14世紀前半頃までさかのぼる可能性があろう。中層の段階が近世まで下るかは不明である。

28-SD(Pl.65・68・83、Ph.16・17・31・36～39)

位置　調査区の南側S55W5を中心として位置する。で途切れる。

構造　遺構の上半部とか下半部では埋土の堆積が変わる。細かく追ってみると下半部はやや逆台形状を呈し、溝の底面幅は約50cm、である。幅は約1m程であった可能性がある。埋土は３層に分けられるが、２層までとそれより上層は埋土の堆積の仕方が異なる。上層は、緩やかなU字状を呈し、検出面からの深さは30cmを測る。溝幅は約2.5mを検出した。上層は近世後期に拡張されて掘り直されている可能

性があるので近世後期の項で詳述する。

遺物出土状況　流れ込みの遺物が出土している。埋土からは中国製輸入陶磁器の破片や捏ね鉢等が出土している。

土器　Pl.83-14は中世須恵器（瓦質土器）の捏ね鉢の口縁部である。

Pl.83-16は中世須恵器の擂鉢で擂り目の間隔が空いている。中世後期に属する。

Pl.83-15は土師器の皿の底部である。底部調整は指なでで時期は明確でない。

106-SD(Pl.65・68、Ph.41・42)

調査位置　調査区の北端のN15W35を中心とするグリッドに位置する。111・105・112・113-SDに直交しており、それらを切っている。また、107-SDに切られている関係である。

構造　幅約3.8m、深さ約40cmで検出している。断面の形状を見ていると3ー4段掘りの状況である。こうした溝は32-SD等に見られたもので下層は中世後期に属する可能性がある。

下層の構造を見ると、幅約2m以上、深さ40cm以上の溝として機能していたと思われる。

遺物出土状況　埋土上層から近世後期の遺物が中心に流れ込んだ状況で出土している。下層の遺物は明確でない。

まとめ　中世後期に属する可能性がある。32-SDからの距離は約55mで半町程の規模である。中世の舘に伴う区画が北まで広がっていたと考えられる。

03-SD(Pl.65・69・83、Ph.16・37・38・42・45・46)

調査位置　E0を中心にして南北方向に伸びる溝である。地形に沿って北側は西側に曲がっている。南側の40m程は削平のため不明である。

最大のところでは幅約4mで深さは約1.3mである。断面を観察すると段掘り状になっている。32-SD等と同様に下層は中世後期にかけて機能していた可能性が高い。

下層の底断面が逆台形状で溝の幅は約3mで検出面からの深さは約1mである。埋土は⑦層までがしまりがあり、それより下層が中世後期の可能性がある。

遺物出土状況　上層（近世後期）に陶磁器が25点以上、瓦片下層からは縄文土器や須恵器、土師器片が出土しているが小片である。埋土１層から瓦質の火鉢が出土している。

土器　Pl.83-18は瓦質の火鉢で口縁部直下に花文のスタンプを持つ破片である。中世後期に属すると考えられる。

小結　丘陵の東端にあたり、中世後期の連郭式城館とすればそれに伴う東側の溝と考えられる。

2　遺物包含層出土の遺物(Pl.65・83、Ph.36・38)

32-SX(Pl.65、Ph.36・38)

位置　S20W15を中心に位置する。幅は2.5m前後と推定できる。最初遺構として認識していたが、落ち込みとして認識されている。

Pl.83-29は中世須恵器の捏ね鉢の口縁部である。口縁部に面を持つ。

同じグリッドから青磁碗の破片が出土している。

このようなことから中世後期の区画があった可能性がある。

まとめ

現地調査では落ち込みとして認識していたが、遺物出土状況から見て32-SXは溝の用途としては、区画溝兼排水溝の役割を果たしており、中世後期の連郭式城館の区画の一部とすれば注目すべきものである。

第９節　近世以降の遺構と遺物（Pl.68～70、Ph.16・17・36～42・44～46）

概要　隣接する吉丸前遺跡では中世後期に利用された溝を耕作等と共に広げて区画及び耕作地として利用されている。

さらに南側の吉丸西遺跡（榎原遺跡）では中世後期に成立した区画を一部踏襲した耕作に伴う溝等を検出した。

また、吉丸西遺跡で検出したようには耕作に伴う区画溝以外にも谷地形に沿った耕作地等を囲む溝も検出している。

１　溝（Pl.68～70、Ph.16・17・36～42・44～46）

112・113・36-SD（Pl.68、Ph.17・39）

調査位置　調査区の中央のS15W20を中心とするグリッドに位置する。112・113-SD等の延長にあたる。吉丸前遺跡で玉名市教育委員会の調査で検出されS021等に平行する溝である。

構造　検出した溝の最大幅は約3.5mである。長さは8mしか検出できていない。調査時には１つの溝と考えていたが、断面の基底部や土層の乱れを考えると２つ以上の溝が重複していた可能性も考えている。幅1.5m以上の溝が重複した可能性がある。断面はU字状から逆台形状を呈する。最深部は約40cmで上部は削平されていると考えられる。

遺物出土状況　36-SDからは陶器が２点、縄文土器２点，土師器が３点出土している。105-SDからは陶磁器類が出土しているがいずれもいずれも、103-SD等と切り合っており一緒に掘削してしまった可能性がある。一応近世以降と報告しておくが、古代から中世の溝の可能性があると考えている。

小結　古代から中世の溝の可能性があると考えている。一応ここでは一部近世以降に下る可能性を考えてこの項でも報告しておく。

検出した位置や埋土の状況から玉名市教育委員会の調査成果を考慮に入れると14世紀前半頃に機能していたものが徐々に埋まり近世に屋敷や耕作面を区画するために以前の区画を踏襲して再整備したものとも考えられる。

106-SD（Pl.68、Ph.41・42）

調査位置　調査区の北端のN15W35を中心とするグリッドに位置する。111・105・112・113-SDに直交しており、それらを切っている。また、107-SDに切られている関係である。

構造　幅約3.8m、深さ約40cmで検出している。断面の形状を見ていると３～４段掘りの状況である。下層に中世後期の項で触れたように溝が存在した可能性が高い。

近世後期に属すると推定できる上層の構造を見ると、幅約3.8m以上、深さ20cm以上の溝として機能していたと思われる。近世時期でも少なくとも２～３時期あると推定できる。

断面観察からは近世から近代にかけて106-SD下層が埋没した後、機能したものであろうと考えられる。

遺物出土状況　埋土上層に近世後期を中心とする遺物が流れ込んで出土している。

土器　埋土上層から肥前系銅緑釉碗や武雄系刷毛目、肥前系黒釉薬椀等の18世紀前半からのものと擂鉢や土瓶等18世紀後半から19世紀にかけてのものが混在している。

小結　検出した位置や埋土の状況から玉名市教育委員会の調査成果を考慮に入れると14世紀前半頃に機能していたものが徐々に埋まり、近世に屋敷や耕作面を区画するために以前の区画をほぼ踏襲して掘り直し再整備したものと考えられる。

03-SD（Pl.69、Ph.16・37・38・42・45・46）

調査位置　E0を中心にして南北方向に伸びる溝である。地形に沿って北側は西側に曲がっている。南側の40m程は削平のため不明である。

最大のところでは幅約4mで深さは約1.3mである。断面を観察すると段掘り状になっている。32-SD等と同様に

下層は中世後期にかけて機能していたと考えられる。

下層の底断面が逆台形状で溝の幅は約 3m で検出面からの深さは約 1m である。埋土は⑦層までがしまりがあり、それより上層が近世後期の可能性がある。

溝の規模は幅約 3m で深さ約 1m（土色③から⑥）から幅約 4m，深さ 40cm の溝に変遷していったと考えられる。

遺物出土状況　上層（近世後期）に陶磁器が 25 点以上、瓦片 10 点以上出土している。

土器　Ph.42-13 は肥前系染付の碗である。Ph.42-23 は香炉の底部と考えられる。近世後期（18 世紀後半以降）に属すると考えられる。

小結　丘陵の東端にあたり、中世後期の連郭式城館とすればそれに伴う東側の溝を再利用して、近世後期の時期に再。

108・100-SD 他 (Pl.70、Ph.36 ～ 38・40 ～ 42・44 ～ 46)

調査位置　調査区の東端の旧里道の西側に位置する溝である。3 段以上の段掘りで 3 時期以上の時期にわたり，機能していたと考えられる。地形に沿って北側は西側に曲がっている。

構造　幅は最大のところでは幅約 3.5m で深さは約 70cm である。しかしながら、3 ～ 3.5m 幅で深さ 50cm、60cm、70cm と溝状に緩やかな U 字状になる。

溝というよりは、道として利用されたと考えられる。

遺物出土状況　埋土から近世陶磁器類が出土している。流れ込みの遺物と考えられる。

遺物　Ph.40-18 は氷烈文の肥前系磁器である。Ph.40-20 は型紙のプリント刷りである。丸形碗も出土しており、18 世紀から 19 世紀後半まで機能していたと考えられる。

小結　中世後期の区画を踏襲しながらさらに外側に道路を築いたと考えられる。さらに外側に里道が硬化面として検出されるが、近世後期においてはやや内側に道が存在したと考えられる。

第Ⅳ章　考古学的分析

第１節 縄文時代早期の連結土坑

１　立地

今回Ａ区の南側に集中して連結土坑を７基、また、それと 30 m と 50m 以上離れて別に２基検出した。

集中している部分は台地の縁辺部ではあるが、東側以外は開かれた平坦地を持ち、集落を形成するには良好な位置にある。

集中している部分は互いに意識しながら、煙道や焚き口を作り直していた可能性がある。90°振れて共有しており、季節の風等の関係もあったかもしれない。

ただ、大きく分けて、主軸方向が地形に沿っているか 90°ふれるものと座標の南北に沿うか 90°振れるものがあり、大きく２時期、小時期としては、遺構の数だけあったと考えられる。

２　時期

時期的には 51-SK 等の埋土から外面に貝殻条痕を持つ円筒土器の破片が流れ込んで出土していること等から縄文時代早期と推定できる。また、連結土坑の埋土から黒色磨研土器様式併行期の土器が出土しているが、それらは煙道や焚き口部の崩落により上層の土が落ち込んだ時の流れ込みと考えられる。

38-SK と 37-SK とは単独に位置する。ただ、37-SK は残存の深さが約 20cm と深く、遺物包含層となっているが、32-SD（SX）が存在したと考えられる位置であり、削平を多く受けている。周辺に連結土坑が他に存在した可能性は高いと推定できる。

38-SK は北側にある深さ 10cm の 1.7m 以上の長さの土坑が重複する。周辺に連結土坑が存在した可能性が高い。

そうすると、20m ー 30m 置きに位置を変えて立地する。集落の縁辺部に展開するとすれば、西側に縄文時代早期の集落が存在したと考えられる。

３　構造

幅は約 80cm ー 1．2m、長さは 2.6 ー 3.1m である。深さは 20 ー 60cm 程だが、検出時に地山を下げて検出していることから深さ 80cm 以上はあった可能性が高い。

検出した状況では煙道や焚き口が崩れて落ち込んで土坑状に検出されているものが多い。

断面では煙道部分の方が緩やかに傾斜していると考えられる。（39-SK、44-SK 等）焚き口側は直に近い状態で掘られているものや 39-SK のように陥没したためか、抉れているものさえある。構造的には焚き口部分の幅がやや広く、煙道部分が狭くなっている構造と推定できる。しかし、陥没の形状であり必ずしもそういう形で検出されるものばかりではない。

４　使用状況

使用状況は人や道具類が残らないため、炉穴の廃棄状況から推測するしかない。推測する上で必要となるが、構造とともに焼成を顕著に受けた残存状況である。

焼土の残存状況は大きく分けて２通りである。１つ目は中央部が焼けている例である。（37-SK、53-SK 等）53-SK は特に深くまで焼土が入り込んでいる。44-SK は中央の焼土が顕著であるが全体的に広がっている。中央付近にモノを入れて焼いたり、燻したりしたと考えられる。

２つ目は、煙道や焚き口が良く焼けている状況である。38-SK は中央付近よりも煙道付近の方が顕著に焼けている。

連結土坑の奥の方に物を置いて、焼成や燻製をしているとも考えられようし、火力があがり、奥の壁が顕著に焼けている等様々な要因があげられよう。38-SK や 51-SK は奥壁で粘土が土手状に検出された。煙道部の焼土が顕著でないものは、焼成後の片付け頻度や煙道の落ち込みによる焼土面の消失等があろうが、若干の使用方法の違いがあるかもしれないので注意を要すると考えられる。

いずれにしても床面がかなり焼けていることや煙道部まで焼土がひろがっている状態であることから、焼成や燻製に使用されたと考えられる。

また、先に立地の項で述べたが、51-SK や 44-SK は焚き口を 90°に振って設置し、煙道部分がほぼ同様の位置関係である。（ただし、43-SK が切り合っているので証明が難しかった。）意識して作っていると推定できる。

他のについてはそうした関係が難しいが、45-SK や 44-SK の関係のように焚き口と煙道の機能は異なるが、同じような位置関係にある。おそらく、風向き等を考えてくぼみをどちらかに再利用することで連結土坑を作りかえていたのではないだろうか。

第２節　縄文時代後・晩期の生活エリア

１　建物

300m 南側の吉丸西遺跡では縄文時代後期の竪穴建物が 35 軒検出している九州磨消縄文系土器の鐘崎式や北久根山式土器から黒色磨研土器様式の天城・古閑・黒川式土器、刻目突帯文土器の年代まで存続すると考えられる。今回、B 区で竪穴建物と考えられる周辺にピットを伴う 2 号土坑から石器のチップが多量に出土したのみである。B1 区の 168-SK も可能性があるが、南側が近世以降の道により壊され、不明である。

２　貯蔵穴

A 区で 115・08-SK 等から土器が出土し、貯蔵穴の可能性がある。

115-SK 等は径約 3m，深さ 80cm であり、特殊な遺構と考えられる。

他は、2m のものや 1.4m 程の遺構等もあり、等墓と考えられるものとほぼ同じ大きさのため区別が困難である。

115-SK 等のように大きな土坑は調査区に１つしかないと思われる。

形態的には断面形が U 字状で長軸、短軸の長さの差のない遺構は貯蔵穴の可能性が高いが、127-SK などのように埋土上層に倒立した土器が出土する場合があるので、埋設土器等の下部と区別するのが困難である。

A 区は先述したように 08・115-SK の他に、形態的には 05・11-SK 等が貯蔵穴の可能性がある。

21-SX は断面の形状から墓と見られるが、遺物が多数出土しているため、貯蔵穴の可能性もある。

また、大形の土坑として 124-SK は、長軸 2．2m あり掘り方も段掘りし、貯蔵穴の可能性もあろう。

B 区についても同様である。西側には B ３区の 3 号土坑や B2 区の 05・09-SK 等 2.5 ～ 3m の土坑が見られ、墓の可能性もあるが、B ３区の 2 号土坑や 168-SK のように明ら

かな集落の痕跡があるので貯蔵穴の可能性も考えたい。

３　時期

吉丸西遺跡では竪穴建物が 35 軒検出している。縄文時代後期の九州磨消縄文系土器の鐘崎式や北久根山式土器から黒色磨研土器様式の天城・古閑・黒川式土器をへて刻目突帯文土器の年代まで存続すると考えられる。今回の調査では粗製土器も多く出土し、時期を決定するには不安定である。ただ、黒色磨研土器様式でも古い段階は含まれないと推定している。

黒川式から突帯文土器様式、板付式にかけての集落が展開したと考える。

４　まとめ

このように、A 区は丘陵の縁辺部に貯蔵穴があり、特に北側では上層が撹乱されながらも、縄文土器の出土が多い。土坑が検出できなかった北側の N20W30 付近から西側にに竪穴建物等が存在した可能性が高いと考えられる。

B 区についても 2 号土坑周辺は土坑が少ない。2 号土坑周辺及びその西側が集落域と考えられる。

第３節　縄文時代後・晩期の墓について

1　埋設土器から土器棺へ

A 区では土器が原位置に近く出土している土坑が 2 基ある。

126-SK は調査区の北側縁辺に位置し、口縁部が逆さまに出土している。土圧で斜めになっているが、土壙の形状から倒立していた可能性がある。いわゆる埋設土器である。土器は刻目突帯文土器で蓋として活用されたと考えられる。

127-SK は底の部分しか検出していないが、口縁部から上半部が残存している。これも倒立していた可能性がある。

これも「埋設土器」の範疇である。

いずれも深鉢で粗製土器である。

それに対して B 区、001-SK には大形棺が横方向に埋置されている。内部から管玉が出土しており、埋葬に対する変化が伺える。器種的には壷であるが、北部九州のいわゆる「甕棺」である。

また、隣接する 003-SK も土圧はあろうが、横位であり、器種も壷である。小形壺の小児埋葬と考えられる。

位置的に B 区は標高が高く、回りを見渡せる区域である。

埋設土器が墓かどうかの議論や階層差等の問題はあるが、縄文の文化から弥生時代の文化への変遷と考えたい。

２　土器棺の立地について

土器棺が B 区の北側に検出できたのは興味深い。北東側は古墳時代ではあるが、城ヶ辻古墳群が位置する丘陵であり、幅が 15m も無い平坦面である。集落を営むには適していないが、見晴らしがいいため墓城として営まれたのであろう。残念なことに調査を入る前に進入路で北東側が大規模に削られており、墓域が続いていたか確認できなかった。

それでも、北東側には続いていた可能性が高いと考える。

3　小壷の供献について

B 区の 10-SK の上層から倒立した状況で小壷が出土している。

10-SK は長軸 1.7m、短軸約 80cm で深さ約 40cm である。

熊本市の江津湖遺跡群でも小壷の供献が見られ、墓と推定されている。また、北部九州の支石墓や石棺墓や土坑墓の埋葬にも小壷の供献が見られる。

北部九州や大陸からの影響を受け、埋葬形態が変化した可能性が考えられる。

また、平面形で同様の断面の形態を持つ遺構が多く、上部を削平されている本調査区では他にも小壷を供献していた可能性がある。

ただ、010-SK の位置が 003・001-SK から 2m も離れていないことが注目される。明らかに意識していると考えられ、階層差を考慮すると、北側に首長層クラスの人物が埋葬されている可能性がある。

4　土壙（墓）の構造

長軸 1.5 ー 2m 程度、短軸 1 m 前後の楕円形のものと長軸 2 ー 2.6m を呈し、短軸 1.5m 前後を呈するものが多い。

底面の長軸が 1.5m 前後の遺構が多く、墓として利用された可能性を考える。後者は 152-SK、B ３区 28 号土坑のように 2 段堀りのものも見られる。内部の構造は内(中央)側と外（肩）側の埋土が区別される土坑もあり、木棺墓等の可能性も考えられよう。

B2 区や B3 区で、3m 以上の規模の土坑や逆に小規模のものについては墓かどうかの判断が困難である。墓城になる前の集落の縁辺部の貯蔵穴等と考えられる。しかしながら、上部が削平されているのも一因であろうが、遺物もほとんどなく、墓と考えられる形状の土坑と重複関係にあることから、墓と考えてよいものが多いと考えられる。

５　時期

遺物包含層を含めて吉丸西遺跡のように北久根山式土器等縄文時代後期の遺物を含まないため、黒色磨研土器様式の黒川式から刻目突帯文土器、さらに板付式の土器までぐらいの段階と考えられる。

６　分布

A 区では確実に墓と断定できる遺構はないが、規模や断面形態で墓と推測できるものは各項で述べた。しかし、A 区では墓と考えられ集落推定区域の東側縁辺部に点在している可能性がある。

それに対して B 区では土器棺も近接して墓坑を共有している傾向にあり、点在するものもありながら、切り合い関係を持つ土坑が見られる。墓の向きも関係あるが、集中している区域に向きによりグループが見られる可能性がある。

主軸方向は大きく分けて地形を利用した北西から南東に向かうグループ、北東から南西に向かうグループ、南北を主軸とするグループ、東西を主軸とするグループの計 4 グループである。

切り合い（重複）関係にあるものはその軸か 90°振れるものが多い。親族関係等を意識している可能性があるが、人骨等が出土していないため、今後の他の遺跡の事例が待たれる。

第４節　縄文時代の土器について

1　早期

37・45・51-SK から早期前半の無文土器が数十点出土しているが、ほとんどが細片で、図化に耐えうるものが４点のみであった。全て A 区からの出土である。

37-SK 出土の Pl.79-4 は胴部のみの残存で、内外面下半分にススが付着している。

45-SK 出土の Pl.79-3 は口縁部のみの残存で、内外面ともナデ調整で口縁端部は丁寧に施す。

51-SK は２点出土している。Pl.79-1 は口縁部のみの残存である。外面は貝殻条痕で波状に施文したのち一部ヘラ状工具で施行し、その後、外面からヘラ状工具痕を切るように棒状工具で一孔穿っている。一方向の穿孔である。また、口縁部は丁寧になでている。Pl.79-2 で口縁部のみの残存で、外面貝殻条痕で施文し、内面はナデである。

（小結）

45・51-SK は連結土坑からの出土であるが、遺構に伴うものではなく流れ込みと思われる。しかし、連結土坑の時期を考えると縄文時代早期と合致するので、矛盾は生じない。

また、遺構の性格を考慮すると、土器の使用は不要だったと思われる。そして、37-SK から出土した Pl.79-4 は２層目からの出土なので、これも流れ込みと考えられる。

A 区の南端で連結土坑が検出されているため、早期に人が生活していたことは間違いないだろう。また、南側に隣接する吉丸前遺跡では縄文時代早期の遺構は検出されていないため、八嘉台地上での早期前半の集落域を推測できる良好な資料といえるのではないだろうか。

２　晩期

A 区 08-SK から出土した土器は Pl.79-14、Pl.79-5、Pl.79-12、Pl.80-3 の４点である。

Pl.79-14 は深鉢の胴部のみの残存で、外面ミガキ調整、内面は横方向のナデを施す。粗製土器で、時期は器形の特徴から黒川式を中心とする時期と推測する。Pl.79-5 は口縁部から胴部まで残存している深鉢である。内外面とも横方向のナデ調整を行う。粗製土器で、時期は黒川式を中心とする時期と考えられる。Pl.79-12 は深鉢の胴部のみの残存で、擬口縁を有し底部に近い破片である。内外面ともナデ調整で被熱している。粗製土器で、時期は黒川式を中心とする時期と推測する。Pl.80-3 は浅鉢の口縁部のみの残存である。内外面ともに横方向のヘラミガキを施し、ススが付着する。精製土器で、時期は黒川式を中心とする時期と考えられる。

A 区 40-SK から出土した土器は Pl.80-8 の１点である。

Pl.80-8 は 40･49-SK から出土している。深鉢の胴部で、内外面とも横方向の貝殻条痕のちナデ消し調整を施す。粗製土器で、時期は黒川式から山ノ寺式と推測する。

A 区 49-SK から出土した土器は Pl.80-4、Pl.80-5、Pl.80-8、Pl.80-2 の４点である。

Pl.80-4 は 49-SK、包含層（S60E0）からの出土で、底部を欠損する浅鉢である。内外面とも横方向のヘラミガキで調整し、一部ススが付着する。精製土器で、時期は黒川式と考えられる。Pl.79-5 は浅鉢の口縁部から胴部まで残存する。内外面とも横方向のヘラミガキで調整し、一部ススが付着する。精製土器で、時期は黒川式である。Pl.80-2 は波状口縁を呈する浅鉢で口縁部の残存である。内外面ともミガキを施す。口縁部は内傾し、胴部径が口径よりも小さい特徴から古閑式であろう。

A 区 115-SK から出土して報告する土器は Pl.78-6、Pl.80-1、Pl.80-10、Pl.80-9、Pl.79-8　、Pl.81-2、Pl.79-10、Pl.79-11 の８点である。

Pl.79-6 は口縁部のみの残存である。外面は器面摩耗のため調整不明瞭だが内面は横方向のミガキを施し、粗製土器である。時期は古閑式〜黒川式併行期と考えられる。Pl.80-1 は口縁部のみを残す組織痕土器である。全体的に

ナデで調整しており、外面被熱し口縁は内傾する。粗製土器で、時期は黒川式併行期であろう。Pl.80-10 は口縁部のみの残存である。外面は貝殻条痕のちナデ消し、内面は横方向のナデを施し、外面被熱している。粗製土器で、時期は黒川式～山ノ寺式と推測する。Pl.80-9 は口縁部のみの残存である。内外面とも横方向のナデを施し、屈曲部分は外面ユビオサエ、内面強い横方向のナデで調整し、被熱している。粗製土器で、時期は黒川式～山ノ寺式と考えられる。Pl.79-8 は深鉢の口縁部のみの残存である。内外面とも貝殻条痕のちナデ消し調整をし、口縁端部は丁寧にナデている。粗製土器で、時期は古閑式～黒川式と推測される。Pl.81-2 は深鉢の底部のみの残存である。内外面ともナデのちユビオサエで調整しており、全体的に被熱している。底部が長脚化しているため時期は山ノ寺式と考えられる。Pl.79-10 は深鉢の口縁部のみの残存である。外面は貝殻条痕のちナデ消し、内面はナデを施す。粗製土器で、時期は黒川式と考えられる。Pl.79-11 は 115-SK、包含層からの出土である。深鉢の口縁部のみの残存である。内外面とも貝殻条痕のちナデ消しを施す。粗製土器で、時期は古閑式～黒川式と考えられる。もしかしたら、擬口縁の可能性もあるが、明確でないため口縁として報告しておく。

A 区 126-SK から出土した土器は Pl.81-1 の１点である。

Pl.81-1 は刻目突帯文土器である。外面は上半をナデ、下半を貝殻条痕のちナデで施し、内面はナデ調整である。突帯は口縁端部と頸部に一条ずつの二条突帯の貼付けで、棒状工具により刻みを入れる。外面は被熱しており一部灰カブリである。時期は夜臼Ⅰ式にあたると考えられる。

A 区 127-SK から出土した土器は Pl.80-6、Pl.79-13 の２点である。

Pl.80-6 は口縁部から頸部にかけての残存である。外面は貝殻条痕のちナデ、内面は横方向のナデで調整している。頸部に一条の突帯が見られるが残りが悪く刻目の有無は確認できない。時期は古閑式～黒川式にあたると考えられる。Pl.79-13 は深鉢の頸部から胴部にかけて残存している。外面は貝殻条痕のちナデ、内面は横方向のナデ調整を施す。粗製土器で、時期は古閑式～黒川式と考えられる。

A 区 140-SK から出土した土器は Pl.80-11、Pl.81-3 の２点である。

Pl.80-11 は深鉢の底部である。外面は貝殻条痕のちユビオサエ、内面はユビオサエで調整している。粗製土器で、やや長脚化しているため黒川式と推測する。Pl.81- 3 は高坏形の縄文土器である。坏部と脚部の境目に一条の突帯を施す。内外面ともミガキ調整をしている。精製土器で、時期は夜臼式と考えられる。

A 区 28-SD から出土した土器は Pl.80-7 の１点である。

Pl.80-7 は 28-SD、表土、包含層（S60E0）から出土し、深鉢の口縁部から胴部にかけての残存である。内外面とも貝殻条痕のちナデ調整を施し、外面にスス付着で、一部被熱により剥離している。時期は黒川式～山ノ寺式と考えられる。

A 区 104-SD から出土した土器は Pl.79-16 の１点である。

Pl.79-16 は深鉢の底部である。底部は円盤形に成形し、上面から粘土紐を積み上げている。内外面ともナデで調整している。粗製土器で、時期は黒川式と考えられる。

A 区表土から出土した土器は Pl.80-12、Pl.79-15、Pl.79-9、Pl.79-7 の４点である。

Pl.80-12 は N40W30 から出土し、深鉢の底部である。外面は横方向のナデのちユビオサエ、内面はユビオサエを施す。粗製土器で、やや長脚化している特徴から黒川式と推測する。Pl.79-15 は N45W50 から出土し、底部のみの残存である。内外面ともユビオサエで調整している。底部は円盤形に成形し、側面から粘土紐を積み上げている。時期は天城式～古閑式と考えられる。Pl. 79-9 は N30W30 から出土し、深鉢の口縁部のみの残存である。内外面ともナデ調整で、内面はミガキを施している可能性がある。粗製土器で、時期は黒川式と考えられる。Pl.79-7 は N30W30 から

の出土で、深鉢の口縁部のみの残存である。外面は貝殻条痕のちナデ消し、内面は横方向のナデを施す。粗製土器で、時期は黒川式を中心とした時期と考えられる。

B3区152-SKから出土した土器はPl.81-5の１点である。

Pl.81-5は刻目突帯文土器の胴部である。内外面ともナデ調整である。突帯は貼付けで、刻目は棒状工具を押し当てて施文している。時期は山ノ寺式と考えられる。

(1) 土器棺（Pl.81、Pl.82）

B3区001-SK、003-SKは出土遺物から墓坑と考えられる。001-SKから出土した壷は全体的に摩耗、剥離しているため調整不明瞭だが、内外面とも全面ミガキを施し、外面一部赤色顔料が付着している。胴部下半はやや太い縦方向のミガキ、胴部屈曲部、口縁部ではやや細かい横方向のミガキを施し、丁寧な印象を受ける。底部内側はやや上げ底で外側が接する。胴部、肩部、口縁部にはそれぞれ接合面がなく、肩部は沈線から、口縁部は口縁端部の破片から傾きを推定した。肩部の沈線は摩耗のためか段が明瞭ではない。埋置は横位で縄文時代晩期から見られる埋設土器とは異なり、土器を棺桶として使用した可能性が高い。また、管玉１点が共伴し、010-SKから出土した小壷を副葬品と考えると、土器棺はほぼ確定である。土器の特徴、010-SK出土の小壷などから時期は夜臼式古段階以降であろう。本来、蓋となる土器が共伴すると考えられるが、今回の調査では確認されなかった。

003-SKは001-SKと隣接して検出されている。003-SKから出土した壷は、全体的に器面摩耗、剥離のため調整不明瞭である。肩部が張っており、形態から口縁部は屈曲すると考えられるが欠損しているため不明である。底部は外側が接して、内側はやや上げ底状である。時期は土器の特徴から、001-SKとほぼ変わらないと思われ、性格も同様の土器棺であろう。

（小結）

A 区で出土した縄文時代晩期の土器で図化できるものは合計で 27 点と少なく、出土層位も１、２層がほとんどで遺構に直接伴うものではなかった。土器の時期としては縄文時代晩期の古閑式、黒川式、山ノ寺式、夜臼式の４段階あることがわかった。各時代で土器の出土に傾向があるか確認したところ、古閑式は出土数が少ないため不明だが、黒川式、山ノ寺式、夜臼式は A 区北半に集中している。黒川式は、特にグリッド N30W30（表土･遺構含める）、08-SK に集中していることがわかった。グリッド N30W30 では８点､08-SK では４点出土している。山ノ寺式はグリッド N30W30 内の 115-SK から２、３点、夜臼式はグリッド N30W30 内の 115・126・140-SK から１点ずつ、計３点出土している。（点数はある程度形式が推定できる破片）

（まとめ）

南側に隣接して吉丸前遺跡が存在する。この遺跡は縄文時代後晩期の集落が発見されており、住居址を３３軒以上検出している。本調査区は金峰山系二ノ岳、三ノ岳北側から伸びる八つ手状の丘陵の一部である八嘉台地上に立地する。南から北に伸びているため、本遺跡から出土した土器は吉丸前遺跡や西側からも流れ込みの可能性も考えられるが、遺物包含層が削平されており、竪穴式建物等も削平されており、地形からは縁辺部であり，墓等も存在するが，集落域を調査したと考えられる。。

どれも遺構に伴うものではなく、出土した遺構も土坑や溝、表土がほとんどだからである。B3 区に縄文時代の住居と思われる 02 号土坑とピット群が検出されている。遺物は黒曜石のチップ、晩期と思われる土器片が出土している。

また、B1 区の南端 168-SK から石器のチップが数点出土しており、これも縄文時代の遺構と考えられる。B1、3 区では他にもピットが多数検出されているため、確認されていないだけで住居の可能性がある。B1 区では縄文時代晩期から弥生時代前期前半の墓坑が３､４基検出されている。このことは、B1 区は墓域として利用されていたと考えてもいいのではないだろうか。しかし、確定する要素が少なく明確には言えず、今回の時点では妄想に留まるため、今後の調査の成果を俟ちたい。

第５節　古代・中世の掘立柱建物について

1　はじめに

調査ではかなり多数の柱穴を検出した。現場での調査で建物の復元を極力試みる方針で臨んだ。調査期間や詳細な検証を十分できなかった感は否めない。

図面で記述した建物に事実誤認があるかもしれない。批判はあおぎたい。A 区 28-SD と 23-SD の間には柱群が検出されているが、十分検出できなかった。

2　A 区の掘立柱建物について

(1)　時期

遺物包含層の大部分を削平されており、明確に建物に伴って出土する土器もなく、年代を推定する材料は少ない。近世以降に堆積した埋土や表土を含めた遺物の分布を考えると溝等を中心に瓦質土器や青磁等が数点出土しているが、中世と明確に確認できる土器は少数である。

その一方、須恵器・土師器等は少ないながらも中世土器よりも出遺物は多い。そのことを考えると建物群の時期について古代を中心とする時期のものと判断するのが、妥当と考える。

古代の遺物は遺物包含層の項で触れたように大宰府編年Ⅳ期からⅥ期併行期（8 世紀中葉から 9 世紀前半）までの時期幅があると考えられる。

ただ 2 間× 2 間の構造的に簡易な構造のものも含まれることから、中世後期まで降ることも可能性としては考えておきたい。

(2)　建物の分布と区画溝

A 区では調査区北側の部分に地形に沿って掘立柱建物を検出している。

120・123・139・130-SB 等が 5 ～ 10m 置きに調査区西側に分布する。(A 群)

中央部ではそれらの分布のすぐ東側に北から 121・132・125-SB の 3 棟が地形に沿って並んでいる。(B 群)

さらに東側に 120・123・139・130-SB 等の列と 15 ～ 20m 離れて 118・119・122-SB が並んでいるような状況である。(C 群)

また、完全に建物が復元されていないが、128・06・07-SB 等がさらに東側に分布している。(D 群)

それらの分布をどう理解するかの鍵は、区画溝である。

まず，古代の溝と考えられる 105-SD、111-SD である。それらは 123・139・130・131-SB（A 群の建物の大半）と重複するため、区画溝にはなりえない。

118-SB、119-SB、122-SB の C 群 は 105-SD、111-SD と東側に約 12m 離れて等距離で並んでいる。そのため、105-SD、111-SD が 118-SB、119-SB、122-SB の C 群の区画溝と推定できる。

また、132・125-SB（B 群）は 105-SD、111-SD の東側約 5m に位置する。105-SD、111-SD が 132・125-SB の区画溝として機能していたと考えられるが、C 群の建物とはやや主軸と全体のは配置がずれており、別時期の可能性が高い。

建物の配置から見ると少なくとも 3 時期に分けられ、古代の遺物包含層の型式の差に一致する。

(3)　構造

庇やその他の構造柱が削平を受けている可能性もあるが、建物構造としては 2 間× 2 間構造の掘立柱建物が多い。

ただ、123-SB は 3 間 × 3 間、139-SB は 2 間 × 3 間、130-SB は 2 間× 3 間とこの遺跡では規模が大きい方である。西側の建物群（A 群）の規模が大きい。

建物の軸方向を考えると D 群の振れが西側に振れており、次に振れているのが C 群である。

A 群、B 群の建物群は 107-SD の軸にほぼ振れているように中世後期から近世にかけての軸方向に近い。

(4)　小結

残念ながらどの建物群がどの時期の属するのかを決定づける材料はない。

例えば、1つの考え方として、西側が遺跡の中心にあることを考えて、次第に東側に展開したとすれば、A群→B群→C群→D群になる。建物構造からも西側の比較的大きな建物から簡易な構造の建物へとなる。

建物の軸方向から考えると、中世後期の溝方向るに次第建物の主軸方向がが変遷して行ったと考えると、(D群)→C群→（A群・B群）となる。さらにC群とA群の位置関係が意識されて配置されていると推定するとC群→A群→B群と変遷すると考えられる。

調査担当者としては、配置や主軸方向を重視して、後者の見解を指示したい。

竪穴建物は明確ではなく、位置から見て集落の縁辺部であるが、補助的な機能を持つ掘立柱建物建物から3間×3間や3間×2間の規格的なやや規模の大きい建物が出現し、やがて縮小して行くと行った変遷を考えたい。

3　B区の掘立柱建物について

(1)　時期

B区の遺物包含層の削平はA区より激しくⅦ層（黄褐色ローム）まで削平されているため、遺物包含層で時期を限定できる遺物はほとんどない。

B1区の37-SXで土師器片が出土しているが、時期を限定できるものではない。

A区とほぼ同様な時期と推定している。中世に降る可能性もあるが､A区の状況からも考えて古代に属すると考えている。

(2)　分布

B1区では地形に沿って2間×2間、2間×1間が3棟（164・165・161-SB)、南北に沿って2間×2間が3棟2カ所（175SB）-SB復原できたのみである。

その他の方角が2棟である。(160・167-SB)

B2区では地形に沿って2間×2間が1棟復原でき，南北に沿って検出できたのは3棟重複して1カ所とあと1棟（02-SB）である。

またその他の方角の建物が1棟（1004-SB）である。

(3)　小結

建物の軸方向からは3時期、調査区が狭いので規則性は難しいが、列が揃っているものもある（B1区164-SBとB2区67-SB・02-SB）とが、A区程規則性は伺えない。調査区が狭く、地形の変換点際と考えられるため、時期や区画も含めて調査区外の西側の調査により明らかにするほかないと考えられる。

4　まとめ

古代は玉名郡衙が８世紀初頭には存在すると見られ、肥後国府や大宰府との中継地点としての機能を担っていたと考えられる。この遺跡周辺には、玉名郡和水町江田に存在した古代の駅と鹿本郡玉東町稲佐に通じる道と国道208号に沿って東西に走る大道（大堂・大道端の字名が残る）の２本の道に近く、台地を北東におりれば菊池川の水運に関わる津留に近い。

そうしたことから当地は玉名郡衙や玉名平野や菊池川にいたる交通の要所であった可能性が高く、八嘉台地上に位置する。そうしたところから，吉丸西（榎原）遺跡等で総柱の倉庫的な建物を含むことから，奈良時代前後を中心に営まれた倉庫群が建てられたとすれば、寺田山口遺跡は、小規模建物であり、その時期の掘立柱建物が住居や簡易な倉庫等であればそれらを支えた集落の一部と考えられる。

また，中世後期まで降る建物が一部にあるとすれば、連郭式居館内部の建物となり、区画の縁辺部の住居や倉庫等の建物となろう。

第6節　中世の溝について

吉丸前遺跡では玉名市教育委員会の調査で短辺（東西）170m、長辺360mに及ぶ城館の可能性が指摘されている。県の調査でさらに東側にも区画（溝）が伸びている可能性を指摘した。

吉丸前遺跡で南北に検出された溝（S017）にややずれながらも続く溝（03-SD）を検出している。またそれに直交するのが、EOW15付近で検出された28 ・32-SDである。28-SDは幅約2.5m、32-SDは幅3.5mで、東西方向に伸びる。

位置から考えると現在も里道として使用されている吉丸前遺跡の中世の東西方向の溝から約25mと約55m離れており、1町四方の区画が北側に続く区画の可能性がある。

溝の方向は等高線により区画されているほかは、周辺の区画を含めて南北方向に区画される傾向にあると言える。

吉丸前遺跡は、玉名市教育委員会の調査で中世後期の溝を検出し、南北220m以上、東西170m以上の連郭式城館と推定される。東側の隣接地には吉丸の地名が残り、近世には東側に集落が広がっている。中世の段階にも東側に広がっていた可能性があり、南側に隣接地として大堂の地名が残り、主要道としての地名と寺等が立地していたとする想定もある。

この地周辺は津に隣接した台地状にあり、重要な交通の地点として重要な位置を占めていたと考えられる。北東には菊池川の「津留」の地名も残る。

また、中世の高瀬川の津として機能した泗川、繁根木川、浦川に囲まれた丹倍（にべ）津「伊倉」や菊池川・繁根木川・浦川に囲まれた津である「高瀬」も控える。

今回は玉名市教育委員会の調査の中世後期のさらに北側を区画する溝を検出した。地形的には東側と北側と北側は谷になっている丘陵の細くなった部分にあたり、平坦部で区画できるところはできるだけ利用していたと考えられる。

南北を区画する溝は南側から28・23-SD、32-SD（遺物包含層扱いになっている。）、106-SD（近世として報告、中世後期までさかのぼる可能性があると考えている）、03-SDとほぼ約25m間隔で検出されている。

東西を区画する大きな溝は03-SDであり、近世の溝と報告下したが約25m西側に位置する107-SDが中世後期までさかのぼれば25mという区画で土地利用されていた可能性がある。

ただ、屋敷の区画としていたか屋敷をとりまく耕作地等として利用されていたかは、遺物包含層が削平されており、明確に中世後期にさかのぼる建物が検出できていないので

不明である。今後北側や東側の谷部に埋没している遺物や西側を調査する際には、建物等が検出される可能性はあるし、古代として報告した建物も構造的に中世後期まで降るものもあるかもしれない。

第７節　近世以降の溝について

吉丸前遺跡で検出された居館の溝は、近世から近代にかけて道路の側溝や耕作地の溝として利用されて、埋まって行ったと考えられる。

寺田山口遺跡でも 03-SD や 28-SD、23-SD のように中世後期を利用して区画や排水の溝等として利用されている。中世後期の溝の項で指摘したように 25m 程の間隔で土地が区画されていた可能性が高い。

陶磁器も 18 世紀前半段階のも出土しており、早くから中世後期の区画を踏襲しながら利用されていたと考えられる。

本遺跡では、耕作の溝もいくつか検出されているが、台地の東側の縁辺部にもあたり、耕作地を区画する溝としての機能が考えられる。

近代以降になると、03-SD のさらに東側を削って平らにし、道路として機能させていったと考えられる。

第Ⅴ章　まとめ

調査成果

1　縄文時代

今回A区南側で早期の連結土坑を密集して検出した。上益城郡益城町の櫛島遺跡以来の良好な残存状況で、煙道や焚き口の構造も推測できた。遺構の共有や切り合いによる工夫も見られた。遺構は円筒系条痕文土器の段階であることが流れ込みの遺物からではある判明した，熊本県上益城郡益城町櫛島遺跡と共に、貴重な資料となった。

300m南側の吉丸西遺跡（榎原遺跡）では縄文時代後期の九州磨消縄文系土器の鐘崎式や北久根山式土器から黒色磨研土器様式の天城・古閑・黒川式土器から刻目突帯文土器の年代まで存続すると考えられる竪穴建物が35軒検出しているが今回は竪穴建物と考えられるようなものはB区の石器のチップを多量に出土し、周りにピットを伴う2号土坑ぐらいである。

B1区の168-SKも竪穴建物の一部可能性があるが、南側が近世以来の道で壊されており、不明である。

包含層や土坑の埋土から出土する遺物が少ないため，時期の決定は難しいが、削平されていなければ、縄文黒色磨研土器様式の天城・古閑・黒川式土器から刻目突帯文土器様式の竪穴建物が多数検出した可能性がある。

土坑の用途は貯蔵穴や炉等が考えられるが、底面の長さが1.5m～2m前後で幅80cm～1mのものが多い。規模がひとまわり大きい長さ2.5m、幅1.5mのものも底面を見ると同様な構造ものが多く、墓坑の可能性が考えられる。そうした墓城に伴う居住域の主体は北東の調査区外に広がる可能性が高い。

居住域、貯蔵エリア、墓域、煮炊きするエリア等が時代を交錯しながら存続していたと考えられる。

2　弥生時代

B１区に１軒だけ竪穴建物を検出している。

埋土からの出土した土器から外面に叩きが見られ、弥生時代後期後半と推定できる。

構造がベッド状遺構を持つものと考えたが切り合いの可能性もある。柱構造は４本柱で掘り方の周縁部に柱穴を持つ。

ベッド状遺構の外側に壁溝を持ち，掘り方と若干軸が振れる。出土した土師器もあり、混入物か判断に迷うところである。

今後周辺の調査により、集落の様相が明確になると考えられる。

3　古代

A区・B区とも遺物包含層から須恵器・土師器が出土している。その幅は土器から8世紀中葉から後葉から9世紀代にかけてと考えられる。

溝の年代を確定するのは困難であるが、111・36・105-SD等が古代に属するとすれば，土地区画が中世後期と異なり、地形を意識してやや西側に振れる区画が想定できる。

吉丸西遺跡（榎原遺跡）では竪穴建物が1軒出土している。ただ、かまどが検出したが、使用された痕跡がない。一時的なものの可能性がある。ただ、隣接する吉丸前遺跡では、8世紀前半の竪穴建物を検出しており、丘陵上部には竪穴建物を主体とする集落が分布していたと考えられる。その一方、その周辺の吉丸西遺跡や寺田山口遺跡では、等高線を軸にする方向の掘立柱建物群が中心に分布する。その主体の時期は、包含層出土の遺物により、8世紀代～9世紀前半と考えられる。

包含層が良好に残存した吉丸西遺跡（榎原遺跡）では溝や道路状遺構は2～3時期あり、区画を変えながら中世にかけて建物群が存在したと考えられる。

東側は谷であり、水の確保も容易と思われ、木の葉川も北側約300mに位置する。

この地は津に隣接した台地状にあり、重要な交通の地

点として重要な位置を占めていたと考えられる。南側約500mには大堂の地名が残り、主要道としての地名と寺等が立地していたとする想定があり、北東には菊池川の「津留」の地名も残る。そうした交通の要衝の道路からやや奥まっているものの少し行けば、木の葉川を見下ろせる丘陵の先端に溝で区画された建物がある程度整然と並んで建てられていたと考えられる。

4　中世

吉丸前遺跡は、玉名市教育委員会の調査で中世後期の溝を検出し、南北220m以上、東西170m以上の連郭式城館と推定される。

今回は玉名市教育委員会が調査した吉丸前遺跡で検出されたS019b位置関係から約50m北に28-SD、約75m北に23-SDとなり25m程の区画が伺える。ただ、規模的には23-SDが幅約3.5mでその他は削平されており、規模は60～80cmの幅のものしか検出されていない。

屋敷を区画している溝か耕作の区画溝かは不明であるが、中世後期の建物を明確に検出できていないため、今後の周辺の調査により再検討が必要と考えられる。東西方向の溝は西側の幅の残存状況が良いため、遺物の分布状況や溝内部の土器から今後明らかになると思われる。

南側に隣接地として大堂の地名が残り、北東には菊池川の「津留」の地名が残る。

また、中世の高瀬川の津として機能した津「伊倉」や菊池川・繁根木川・浦川に囲まれた津である「高瀬」も控える。

今回は玉名市教育委員会の調査の中世後期に併行する溝をさらに北側で検出した。今まで検出した北西側に別の区画が想定され、連郭式居館の想定域のさらに北東側に溝が伸び、南北方向の区画溝を検出した。時期は多少ずれる可能性があるが、重要な地点であると考えられる。

5　近世以降

近世の遺構は中世後期の溝を利用して再整備した溝が伸びる他、新たに数条の溝を検出した。位置関係から見ると中世後期までさかのぼる溝の可能性が高く、中世後期以来の土地区画を踏襲している可能性が高い。

その当時利用されていた里道の谷側に道が検出され、中世後期の区画をベースに溝の両側に道や土塁等を築いている様相が考えられる。

吉丸前遺跡で見られたような中世後期に掘削された溝が埋まる段階で幅を広げて掘り広げられており、耕作地として利用されている溝の他、ある時期に集落を囲む溝としての機能及びは屋敷地の排水等に伴う溝という役割を追っていた可能性もある。陶磁器類も18世紀前半からみられ、隣接して吉丸という地名の集落があるように早くから開発されたことを裏付けられる場所と言えよう。

（参考引用文献）

・荒木隆宏編『吉丸前遺跡』

・『玉名市史』通史編　上　2005

・『玉名市史』資料編　1　絵図・地図 1992　玉名市文化財調査報告第 16 集　2007

・玉名市教育委員会『玉名市遺跡地図』玉名市文化財調査報告第 26 集　2011

・亀田　学『吉丸西遺跡』熊本県文化財調査報告第 275 集　2012　熊本県教育委員会

・高谷　和生編『柳町遺跡Ⅰ』熊本県文化財調査報告第 200 集　2001　熊本県教育委員会

・坂田　和弘『柳町遺跡Ⅱ』熊本県文化財調査報告第 218 集　2004　熊本県教育委員会

・廣田　静学『小田宮の前・養寺遺跡』熊本県文化財調査報告第 255 集　2010　熊本県教育委員会

・長谷部　善一『玉名平野条里跡（古閑前地区）』熊本県文化財調査報告第 200 集　2011　熊本県教育委員会

・別府大学考古学研究室『古保山・古閑・天城』熊本県文化財調査報告第 47 集　1980

・小林　達雄編『総覧 縄文土器』2008

・網田龍生「古代肥後の土器」『大江遺跡群 1』熊本市教育委員会 2007

・ 網田龍生「奈良時代肥後の土器」『先史学・考古学論究』龍田考古会 1994

・網田龍生「肥後における回転台土師器の成立と展開」『中近世土器の基礎研究』X　中世土器研究会　1994

・山本信夫「北部九州の 7 ー 9 世紀中頃の土器」古代土器研究会第 1 回シンポジュウム資料　奈良国立文化材研究所　1992

・「太宰府市史」考古資料編　1999

・舟山良一「牛頸窯跡群出土須恵器」、中島恒次郎「年代推定のための手続き」九州土器研究会第 11 回シンポジウム資料　2000

・舟山良一・松本敏三・池田栄史『須恵器集成図録』第 5 巻　西日本編　1996

・馬場正弘『北の崎・釼抜遺跡』熊本県文化財調査報告 264 集　2011

自然科学分析

・パリノ・サーヴェイ株式会社

・放射性炭素年代測定（パレオ・ラボ）

・土坑内土壌のリン・カルシウム分析（パレオ・ラボ）

・寺田山口遺跡出土赤色物の蛍光Ｘ線分析（パレオ・ラボ）

・寺田山口遺跡土坑から出土した炭化材の樹種同定（パレオ・ラボ）

・古環境研究所

Ⅰ．　自然科学分析の概要

Ⅱ．　放射性炭素年代測定

Ⅲ．　樹種同定

Ⅳ．　リン・カルシウム分析

Ⅴ．　植物珪酸体分析

・古環境研究所

Ⅰ．　寺田山口遺跡における植物珪酸体分析

Ⅱ．　寺田山口遺跡の各試料におけるリン・カルシウム含量分析

寺田山口遺跡

パリノ・サーヴェイ株式会社

○はじめに

今回は、縄文時代の集落跡とされた玉名市寺田山口遺跡において、発掘調査所見では性格が不明とされた土坑について、覆土の化学分析（リン・カルシウム成分の含量）を行い、内容物に関する検討を行う。

㈤．寺田山口遺跡における土坑の分析

1. 試料

試料は、寺田山口遺跡 B-㈤区で検出された土坑 07SK の覆土および地山から採取された土壌試料 5 点である。試料の採取層位および土性等は、結果を示した表 3 に併記する。

2. 分析方法

リン酸は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法、カルシウムは硝酸・過塩素酸分解－原子吸光光度法でそれぞれ行った（土壌養分測定法委員会，1981）。以下に操作工程を示す。試料を風乾後、軽く粉砕して 2.00mm の篩を通過させる(風乾細土試料)。風乾細土試料の水分を加熱減量法(105℃､5 時間)により測定する。風乾細土試料 2.00g をケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸（HNO3）約 5ml を加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸（HClO4）約 10ml を加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で 100ml に定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P2O5）濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム（CaO）濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P2O5mg/g）とカルシウム含量（CaOmg/g）を求める。

3. 結果

結果を表 3 に示す。リン酸含量は、埋 2 層中央㈫を除く 4 点は、地山試料も含めて 1.5mg/g 前後の値を示す。埋 2 層中央㈫は、これら 4 点より若干高い 1.7mg/g である。一方、カルシウム含量は、埋 1 層㈰を除く 3 点の覆土試料は 2.1 ー 2.2mg/g であり、埋 1 層㈰はこれらより若干高い 2.4mg/g を示す。地山㈭は、覆土試料より若干低い 1.9mg/g である。

4. 考察

土壌中に普通に含まれるリン酸量、いわゆる天然賦存量については、いくつかの報告事例があるが（Bowen,1983;Bolt・Bruggenwert,1980；川崎ほか，1991；天野ほか，1991）、これらの事例から推定される天然賦存量の上限は約 3.0P2O5mg/g 程度である。また、人為的な影響（化学肥料の施用など）を受けた黒ボク土の既耕地では 5.5P2O5mg/g（川崎ほか，1991）という報告例があり、当社におけるこれまでの分析調査事例では骨片などの痕跡が認められる土壌では 6.0P2O5mg/g を越える場合が多い。一方、カルシウムの天然賦存量は普通 1 ー 50CaOmg/g（藤貫，1979）といわれ、含量幅がリン酸よりも大きい傾向にある。今回の覆土試料は、リン酸含量、カルシウム含量ともに天然賦存量の範囲にあり、実際に地山試料の含量と比較しても特に多いと言うことはできない。覆土間で若干の含量の違いは認められるが、現時点ではこの程度の差から、リン酸およびカルシウムの層位的な富化があるという評価はできない。したがって、今回の分析結果からは、

07SK 内においてリン酸やカルシウムを富化させるような状況があったとは言えない。すなわち、墓壙や貯蔵穴などであった可能性は低いと思われる。ただし、覆土中におけるリン酸やカルシウム成分は、経年により周囲へ拡散してしまうこともあることから、今後も類例の分析による検討が必要であると考えられる。

熊本県教育庁文化課：寺田山口遺跡における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

表 3.　リン・カルシウム分析結果

試料名	土　性	土　色		P2O5(mg/g)	CaO(mg/g)
寺田山口 B-Ⅱ 07SK 埋 1 層①	HC	7.5YR3/3	暗褐	1.51	2.43
寺田山口 B-Ⅱ 07SK 埋 2 層西側②	HC	7.5YR3/4	暗褐	1.46	2.13
寺田山口 B-Ⅱ 07SK 埋 2 層中央③	HC	7.5YR4/3	褐	1.71	2.19
寺田山口 B-Ⅱ 07SK 埋 3 層④	HC	7.5YR4/3	褐	1.57	2.14
寺田山口 B-Ⅱ 07SK 地山⑤	HC	7.5YR4/4	褐	1.51	1.88

注.（１）土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修，1967）による。
（２）土性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編，1984）の野外土性による。
HC･･･ 重埴土（粘土 45 ～ 100%、シルト 0 ～ 55%、砂 0 ～ 55%）

引用文献

天野洋司・太田　健・草場　敬・中井　信 , 1991, 中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量 . 農林水産省農林水産技術会議事務局編　土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発 , 28-36.

Bowen, H. J. M. , 1983, 環境無機化学 - 元素の循環と生化学 -. 浅見輝男・茅野充男訳 , 博友社 , 297p.

Bolt, G. H. ・Bruggenwert, M. G. M, 1980, 土壌の化学 . 岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽　捷行訳 , 学会出版センター, 309p.

土壌養分測定法委員会編 , 1981, 土壌養分分析法 . 養賢堂 , 440p.

藤貫　正 , 1979, カルシウム . 地質調査所化学分析法 , 52, 57-61.

川崎　弘・吉田　澪・井上恒久 , 1991, 九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量 . 農林水産省　農林水産技術会議事務局編　土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発 , 23-27.

キーリ　C. T. ・武藤康弘 , 1982, 縄文時代の年代 . 縄文文化の研究 1, 雄山閣 , 246-275.

農林省農林水産技術会議事務局監修 , 1967, 新版標準土色帖 .

ペドロジスト懇談会 , 1984, 野外土性の判定 . ペドロジスト懇談会編　土壌調査ハンドブック , 博友社 , 39-40.

放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤茂・丹生越子・廣田正史・瀬谷薫・小林紘一

Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・山形秀樹

1.　はじめに

熊本県・寺田山口遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

2.　試料と方法

測定試料の情報、調製データは表 1 のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた 14C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、14C 年代、暦年代を算出した。

表 1　測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-10072	遺構：2 号土坑 調査区：B3 層位:埋土 1 層（南東）	試料の種類:炭化材（アカガシ亜属） 試料の性状：最外以外部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1N, 塩酸:1.2N） サルフィックス

3.　結果

表 2 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ ^{13}C)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した 14C 年代、14C 年代を暦年代に較正した年代範囲を、図 1 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は年代値、誤差を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C 年代（yrBP）の算出には、^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示すものである。

なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

暦年較正

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正することで、より実

際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal3.10（較正曲線データ：INTCAL04）を使用した。なお、1 σ暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2 σ暦年代範囲は 95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

表 2　放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	δ 13C（‰）	暦年較正用年代（yrBP ± 1 σ）	14C 年代（yrBP ± 1 σ）	14C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲
PLD-10072	-25.45 ± 0.25	2959 ± 27	2960 ± 25	1260BC(12.1%)1230BC 1220BC(56.1%)1120BC	1290BC(1.1%)1280BC 1270BC(94.3%)1050BC

4.　　考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。得られた暦年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。

較正した結果、1 σ暦年代範囲において 3170-3070 calBP（1220-1120 calBC;56.1%）、2 σ暦年代範囲において 3220-3000 calBP（1270-1050 calBC;94.3%）であった。この年代範囲は、縄文時代晩期前葉～中葉（小林謙一,2007）の年代範囲を示す。

参考文献

Bronk Ramsey, C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program. Radiocarbon, 37, 425-430.

Bronk Ramsey, C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal. Radiocarbon, 43, 355-363.

小林謙一（2007）AMS 炭素 14 年代測定を利用した東日本縄紋時代前半期の実年代の研究．平成 17 年～ 18 年度科学研究費補助金基礎研究（c）（1）研究成果報告書、124p

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の 14C 年代．3-20.

Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Bertrand, C.J.H., Blackwell, P.G., Buck, C.E., Burr, G.S., Cutler, K.B., Damon, P.E., Edwards, R.L., Fairbanks, R.G., Friedrich, M., Guilderson, T.P., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, G., Manning, S., Bronk Ramsey, C., Reimer, R.W., Remmele, S., Southon, J.R., Stuiver, M., Talamo, S., Taylor, F.W., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer, C.E. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26 cal kyr BP. Radiocarbon, 46, 1029-1058.

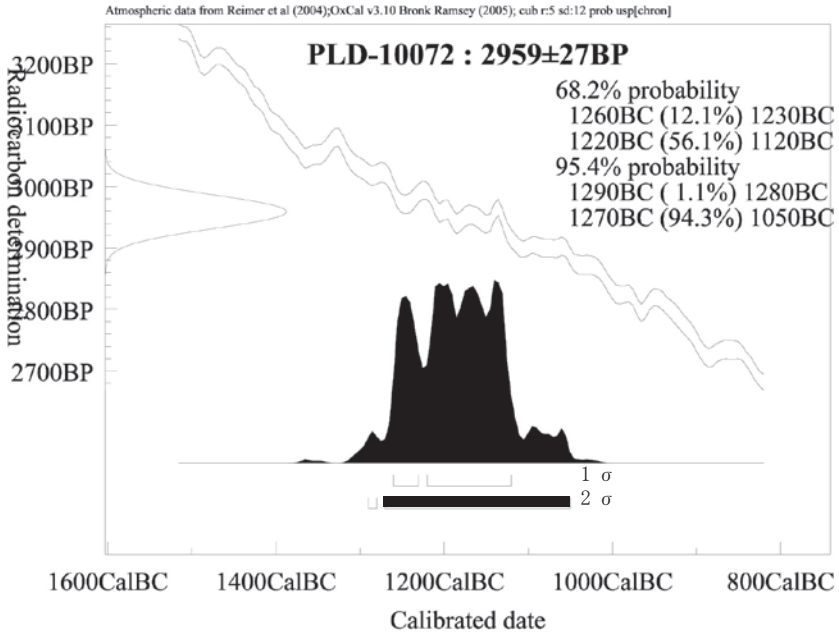

Atmospheric data from Reimer et al (2004);OxCal v3.10 Bronk Ramsey (2005); cub r:5 sd:12 prob usp[chron]
PLD-10072 : 2959±27BP
68.2% probability
1260BC (12.1%) 1230BC
1220BC (56.1%) 1120BC
95.4% probability
1290BC (1.1%) 1280BC
1270BC (94.3%) 1050BC
3200BP
3100BP
3000BP
2900BP
2800BP
2700BP
Radiocarbon determination
1 σ
2 σ
1600CalBC
1400CalBC
1200CalBC
1000CalBC
800CalBC
Calibrated date

図１　暦年較正結果

土坑内土壌のリン・カルシウム分析

藤根　久・中村賢太郎（パレオ・ラボ）

1. はじめに

寺田山口遺跡の調査では、性格の不明な土坑が検出された。

ここでは、土坑内土壌を対象として、骨成分を調べるためにリン・カルシウム分析を行った。

2. 試料と方法

試料は、4基の土坑内土壌8試料と比較試料として土坑外の地山層2試料である（表1）。

試料は、約20g程度採取して乾燥させた後、礫を取り除いた後セラミック乳鉢で軽く粉砕した。粉砕した試料は、塩化ビニール製リングに充填した後、油圧プレス機を用いて20tプレスをして測定用ブリケットを作成した。

表1　土坑試料とその特徴

分析№	遺構	層位	色調	堆積物
1	01SK	埋土1層	にぶい黄褐色（10YR 4/3）	砂混じり粘土質シルト
2		埋土2層	褐色（10YR 4/4）	シルト質粘土
3		地山	にぶい黄褐色（10YR 6/4）	砂混じり粘土質シルト
4	11SK	①層	褐色（10YR 4/6）	砂混じり粘土質シルト
5		②層	黄褐色（10YR 5/6）	砂混じり粘土質シルト
6	12SK	①層	褐色（10YR 4/6）	砂混じり粘土質シルト
7	13SK	①層	褐色（10YR 4/4）	砂混じり粘土質シルト
8		②層	にぶい黄褐色（10YR 6/4）	砂混じり粘土質シルト
9		③層	にぶい黄褐色（10YR 6/4）	砂混じり粘土質シルト
10		南側地山	黄褐色（10YR 5/6）	砂混じり粘土質シルト

リン・カルシウム分析は、元素マッピング分析を行った後、リン（P）マッピング画像およびカルシウム（Ca）マッピング画像の濃度の高い位置を各5箇所選定して点分析を行った。

測定は、X線分析顕微鏡(㈱堀場製作所製XGT-5000Type Ⅱ)を用いた。元素マッピングの測定条件は、X線導管径100μm、電圧50KV、電流自動設定、測定時間10,000secである。点分析の測定条件は、X線導管径100μm、電圧50KV、電流自動設定、測定時間500secである。定量計算は、標準試料を用いないFP（ファンダメンタルパラメータ）法で半定量分析を行った。

3. 結果および考察

人間を含め動物の骨や歯を構成する主要な無機成分は、水酸燐灰石（ハイドロキシアパタイト：Ca5（OH）（PO4）3）からなり、リン（P）とカルシウム（Ca）がほぼ等量含まれている。

土壌中の分析値から、骨成分が残存しているかどうかの判定は、リンおよびカルシウムの両元素がほぼ等量で高い値で

あることが必要であると思われる。

また、貝類の殻は、炭酸カルシウム（CaCO3）から構成されていることから、貝殻片が残留していればカルシウムが高く検出される。

ただし、カルシウムは、長石類や輝石類（例えば斜長石の端成分である灰長石 Anorthite（CaAl2Si208)、普通輝石 Augite（(Ca,Na)（Mg,Fe,Al)（Si,Al）206）に含まれる（黒田・諏訪,1989)）として普通に含まれる元素である。

元素マッピング分析では、リン濃度の高い部分が複数箇所検出された（図 1 および図 2)。検出された部分について点分析を行った結果、リンが最大 18.92%（13SK ①層）検出された。なお、カルシウムは最大 16.17%（13SK ①層）であった（表 1)。なお、地山層の試料において、リンが 0.00 ～ 0.06%（01SK 地山試料および 13SK 南側地山試料）であり、カルシウムが 0.24 ～ 10.47% であった。01SK 地山点№.1 はカルシウムが 10.47% であるが、蛍光 X 線スペクトルにおいて回折ピークが複数確認されたことから、長石と思われる結晶と考えられる。

リン濃度が地山層試料の濃度より明らかに高い値を示す試料は、13SK ①層（点№.1）と 11SK ①層（点№.4）の 2 試料である。このうち、13SK ①層（点№.1）は、カルシウムが 16.17% であり、リンとカルシウムがほぼ同じ値を示していることから、骨質と考えられる。なお、11SK ①層（点№.4）は、カルシウムが 0.42% と低い値であり、骨質の可能性はあるものの、断定できない。

また、地山層試料と比べてリン濃度がやや高い試料は、01SK 埋土 1 層（点№.2 と№.3)、01SK 埋土 2 層（点№.3)、11SK ②層（点№.1、№.4、№.5)、13SK ③層（点№.4）である。

これ以外の試料は、リン濃度が 0.1% 未満であり、地山試料のリン濃度に近い値を示している。

以上のことから、13SK ①層において骨成分が含まれていることが推定された。なお、01SK 埋土 1 層、01SK 埋土 2 層、11SK ①層、11SK ②層、13SK ③層も骨成分を含んでいる可能性がある。

4. おわりに

土坑の特徴を調べるために、埋土についてリン・カルシウム分析を行った。リン・カルシウム分析の結果では、13SK ①層（点№.1）において骨成分が含まれていることが確認された。なお、01SK 埋土 1 層、01SK 埋土 2 層、11SK ①層、11SK ②層、13SK ③層も骨成分を含んでいる可能性がある。

引用文献

黒田吉益・諏訪兼位（1989）偏光顕微鏡と岩石鉱物［第 2 版］. 共立出版， 343p

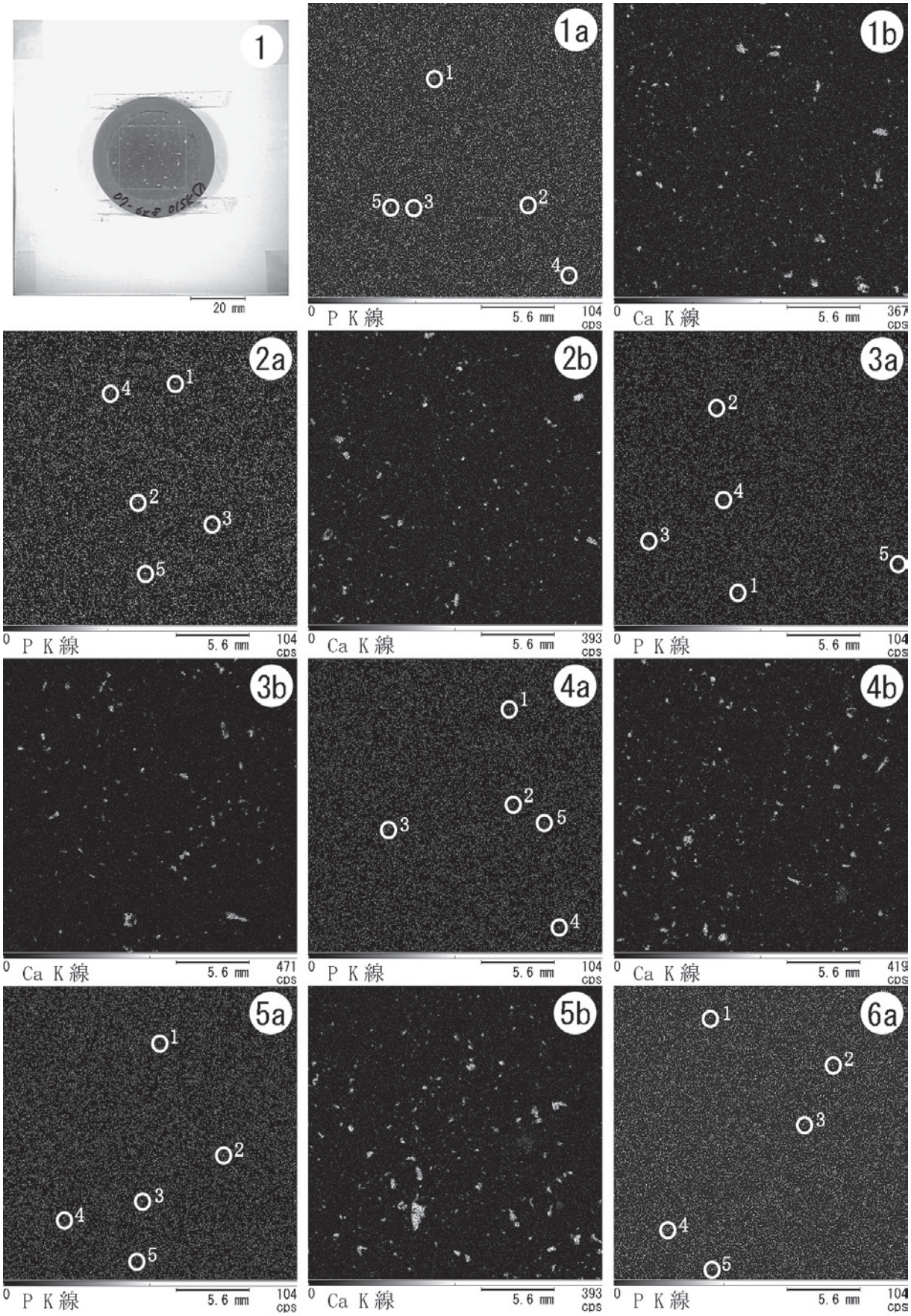


図１　土坑内土プレス試料の元素マッピング図（P: リン、Ca: カルシウム）

1. 全体像（No.1）　1a.P（No.1）　1b.Ca（No.1）　2a.P（No.2）　2b.Ca（No.2）

3a.P（No.3）　3b.Ca（No.3）　4a.P（No.4）　4b.Ca（No.4）5a.P（No.5）　5b.Ca（No.5）　6a.P（No.6）

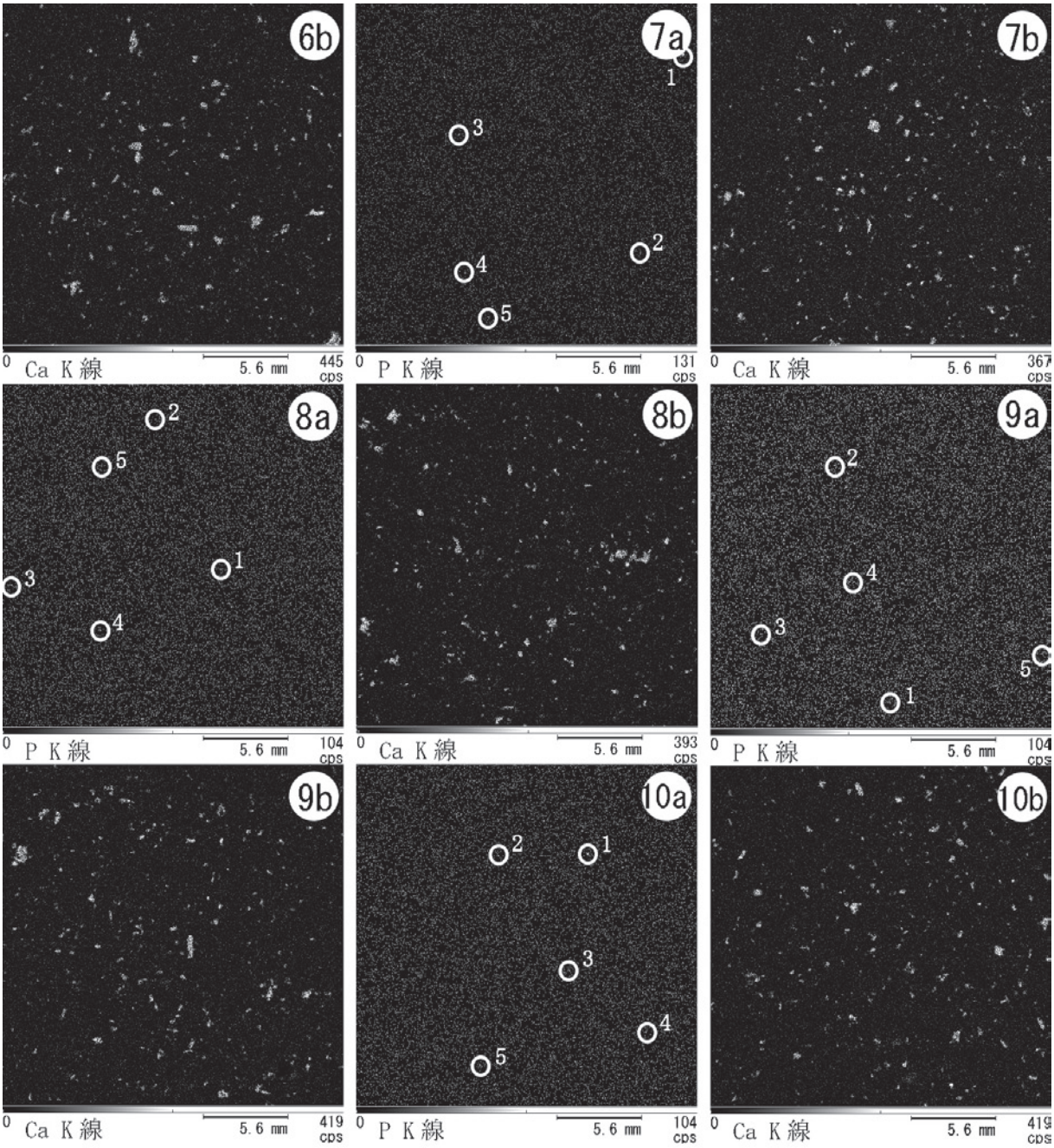


図2　土坑内土プレス試料の元素マッピング図（P: リン、Ca: カルシウム）

6b. Ca（No. 6）　7b. P（No. 7）　7a. Ca No. 7）　8b. P（No. 8）　8a. Ca（No. 8）

9b. P（No. 9）　9a. Ca No. 9）　10b. P（No. 10）　10a. Ca（No. 10）

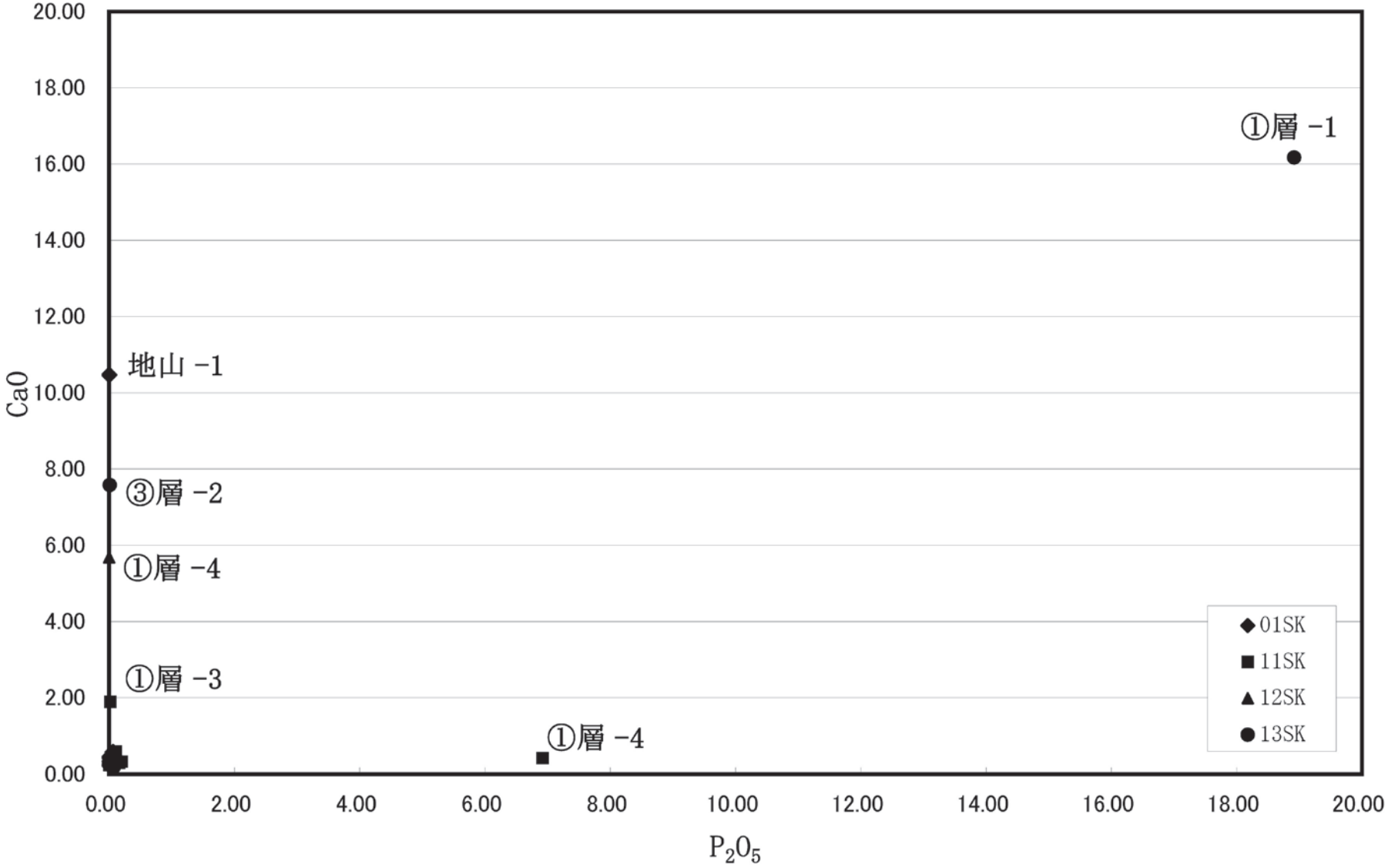


図 3　土坑内土点分析のリン（P205）ーカルシウム（CaO）分布図

寺田山口遺跡出土赤色物の蛍光X線分析

竹原弘展（パレオ・ラボ）

1. はじめに

寺田山口遺跡の複数の土坑から赤色物が検出された。これら赤色物について蛍光X線分析を行い、組成を検討した。

2. 試料と方法

分析対象資料は、27号土坑、23号土坑、8号土坑、25号土坑より検出された赤色物である。また、比較対照資料として、27号土坑、23号土坑、8号土坑それぞれの埋土および土坑周辺土も同時に分析した。（表1）。赤色物は、特に25号土坑出土赤色物はかなり赤色が強いが、それ以外の土坑出土赤色物は埋土と較べてやや赤褐色がかる程度である（図版1）。

表1　分析対象資料

分析№	出土遺構	種別
№.1	27号土坑	埋土赤色部
№.2		埋土
№.3		土坑周辺土
№.4	23号土坑	埋土赤色部
№.5		埋土
№.6		土坑周辺土
№.7	8号土坑	埋土赤色部
№.8		埋土
№.9		土坑周辺土
№.10	25号土坑	埋土赤色部

分析装置はエネルギー分散型蛍光X線分析装置である（株）堀場製作所製分析顕微鏡XGT-5000Type Ⅱを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV･1mAのロジウムターゲット、X線ビーム径が100μmまたは10μm、検出器は高純度Si検出器（Xerophy）で、試料室の大きさは350×400×40mmである。検出可能元素はナトリウム～ウランであるが、ナトリウム、マグネシウムといった軽元素は蛍光X線分析装置の性質上、検出感度が悪いため、試料中に少量含む程度ではピークを検出し難く、検出できてもその定量値はかなり誤差が大きい。また、試料ステージを走査させながら測定することにより元素の二次元的な分布画像を得る、元素マッピング分析も可能である。

分析は、先に元素マッピング分析を行い、その結果を基に各試料の平均的な組成を示すと考えられる箇所を3点ずつ選びポイント分析を実施した。分析に先立ち、資料をφ20mmの塩化ビニル製リング中に充填し、油圧プレス機で20tプレスしたものを約1cm四方程度に切り出し、それを分析試料とした。

本分析での測定条件は、元素マッピング分析では、50kV、1.00mA、ビーム径100μm、測定時間3000sを7回走査、パルス処理時間P3に設定し、ポイント分析では、50kV、0.10～0.44mA（自動設定による）、ビーム径100μm、測定時間500s、パルス処理時間P4に設定した。なお、定量分析は標準試料を用いないファンダメンタル・パラメータ（FP）法による半定量分析を装置付属ソフトで行った。そのため、定量値は誤差を大きめに見積もっておく必要がある。

また、セロハンテープに各資料を少量採取して光学顕微鏡下での観察も行った。

3. 結果

元素マッピング分析により得られた画像を図1に示す（註）。

まず鉄（Fe）を見てみると、分析№.1～№.9では、全体的な輝度に大きな差異は見られなかった。9点とも局所的に輝度の高い箇所も散在するが、試料中に占める存在比は決して高くはなく、また試料間の差異もほとんどない。しかしながら、分析№.10だけは全面的に高い輝度を得られ、他試料とは明らかに異なる。また、硫黄（S）は赤色物を含む試料（分析№.1、№.4、№.7、№.10）のみ若干輝度が高いという傾向を示した。他の元素は、局所的に輝度の高い箇所が散在する元素もあったが、各試料間に大きな差異は見られなかった。

FP 法による半定量分析結果を表 2 に示す。アルミニウム (Al)、ケイ素 (Si)、鉄 (Fe) が主に検出され、その他にリン (P)、硫黄 (S)、カリウム (K)、カルシウム (Ca)、チタン (Ti)、マンガン (Mn)、ストロンチウム (Sr)、ジルコニウム (Zr) が検出された。各試料の鉄 (Fe) の半定量値に注目すると、赤色物試料の分析№.1、№.4、№.7 は 19.37 ～ 24.47% の値を示し、分析№.10 は 29.57 ～ 31.34% の値を示した。その他土坑埋土や周辺土の試料は 16.29 ～ 24.90% の値を示した。同様に硫黄 (S) は、分析№.1、№.4、№.7 は 1.43 ～ 4.96%、分析№.10 は 1.58 ～ 5.42%、その他試料は 0.14 ～ 0.68% の値を示した。

また、光学顕微鏡観察により得られた画像を図版 2 に示す。

(註) なお、元素マッピング図のうちアルミニウム (Al)、ケイ素 (Si)、鉄 (Fe) 以外の元素は、画像を強調処理している。

4. 考察

古代に主に使用されていた赤色顔料としては、朱 (水銀朱) とベンガラが挙げられる。水銀朱は、硫化水銀 (HgS) で鉱物としては辰砂と呼ばれ、産出地はある程度限定される。ベンガラは狭義には三酸化二鉄 (Fe2O3、鉱物名は赤鉄鉱) を指すが、広義には鉄 (Ⅲ) の発色に伴う赤色顔料全般を指し (成瀬 , 2004)、広範な地域で採取可能である。また、ベンガラは直径約 1 μ m のパイプ状の粒子形状からなるものも多く報告されている。これは鉄バクテリアを起源とすることが判明しており (岡田 , 1997)、含水水酸化鉄を焼いて得た赤鉄鉱がこのような形状を示す (成瀬 , 1998)。

赤色物を含む試料 4 点 (分析№.1、№.4、№.7、№.10) とも、ケイ素など土中成分に由来すると考えられる元素は検出されたものの、水銀は検出されなかった。一方、鉄が多く検出されていることから、赤い発色は鉄によるものであると推定できる。すなわち、顔料としてはベンガラにあたる。しかしながら、分析№.10 は明らかに他試料より鉄の含有量が多かったものの、その他の赤色試料 3 点 (分析№.1、№.4、№.7) は、赤色ではない埋土や周辺土と較べて、鉄の含有量にそれほど大きな差は見られなかった。これは、例えば土 (通常、鉄分をある程度含んでいる) を酸素供給下で焼くと赤っぽい焼土となるように、鉄分の酸化状態の違いに起因すると考えられる。なお、硫黄については、周囲の埋土や周辺土にはあまり多く含まれて居ないことから、赤色物の堆積環境あるいは生成環境に由来するものと推測される。

光学顕微鏡下で観察したところ、いずれからもパイプ状の粒子は観察されなかった。

5. おわりに

寺田山口遺跡の 4 土坑より出土した赤色物について分析した結果、いずれも鉄が多く検出され、鉄 (Ⅲ) による発色と推定された。特に 25 号土坑出土赤色物は鉄の含有量が多かった。これらは、顔料とするとベンガラにあたるが、埋土と組成が似ていることから、分析結果からは顔料であるとは断定できない。

引用文献

成瀬正和 (1998) 縄文時代の赤色顔料Ⅰ―赤彩土器―, 考古学ジャーナル№.438, 10-14, ニューサイエンス社 .

成瀬正和 (2004) 正倉院宝物に用いられた無機顔料 , 正倉院紀要 , 13-61, 宮内庁正倉院事務所 .

岡田文男 (1997) パイプ状ベンガラ粒子の復元 . 日本文化財科学会第 14 回大会研究発表要旨集 , 38-39.

表2　ポイント分析結果

分析No.		Al	Si	P	S	K	Ca	Ti	Mn	Fe	Sr	Zr
No.1	a	27.21	37.77	0.35	2.22	0.71	3.43	4.21	0.73	23.22	0.07	0.09
	b	28.88	43.42	0.32	1.92	0.92	0.64	1.87	0.28	21.49	0.12	0.12
	c	27.88	40.35	0.29	1.90	0.72	0.57	3.23	0.31	24.47	0.12	0.16
	平均	**27.99**	**40.51**	**0.32**	**2.01**	**0.78**	**1.55**	**3.10**	**0.44**	**23.06**	**0.10**	**0.12**
	標準偏差	0.84	2.83	0.03	0.18	0.12	1.63	1.18	0.25	1.50	0.03	0.04
No.2	a	28.29	48.62	0.04	0.15	0.43	0.39	2.19	0.40	19.24	0.06	0.19
	b	27.69	49.22	0.05	0.19	0.71	0.45	2.02	0.60	18.88	0.04	0.15
	c	28.76	49.00	0.03	0.21	0.38	0.44	2.11	0.26	18.58	0.06	0.17
	平均	**28.25**	**48.95**	**0.04**	**0.18**	**0.51**	**0.43**	**2.11**	**0.42**	**18.90**	**0.05**	**0.17**
	標準偏差	0.54	0.30	0.01	0.03	0.18	0.03	0.09	0.17	0.33	0.01	0.02
No.3	a	29.07	47.23	0.07	0.19	0.73	0.52	2.05	0.67	19.26	0.06	0.16
	b	22.91	57.23	0.10	0.16	0.56	0.40	1.60	0.52	16.29	0.06	0.16
	c	27.06	47.27	0.08	0.22	2.70	0.93	1.95	0.25	19.31	0.06	0.17
	平均	**26.35**	**50.58**	**0.08**	**0.19**	**1.33**	**0.62**	**1.87**	**0.48**	**18.29**	**0.06**	**0.16**
	標準偏差	3.14	5.76	0.02	0.03	1.19	0.28	0.24	0.21	1.73	0.00	0.01
No.4	a	28.64	45.44	0.24	2.45	1.06	0.63	1.61	0.34	19.37	0.10	0.12
	b	28.31	43.33	0.06	2.09	0.91	0.53	2.48	0.77	21.29	0.09	0.16
	c	28.97	45.29	0.01	2.30	1.14	0.59	1.67	0.18	19.61	0.08	0.15
	平均	**28.64**	**44.69**	**0.10**	**2.28**	**1.04**	**0.58**	**1.92**	**0.43**	**20.09**	**0.09**	**0.14**
	標準偏差	0.33	1.18	0.12	0.18	0.12	0.05	0.49	0.31	1.05	0.01	0.02
No.5	a	28.54	47.42	0.02	0.18	0.60	0.62	1.65	0.29	20.46	0.07	0.14
	b	29.44	47.48	0.07	0.20	0.66	0.59	1.93	0.24	19.22	0.03	0.13
	c	28.92	47.81	0.07	0.23	0.62	0.59	1.80	0.23	19.57	0.05	0.14
	平均	**28.97**	**47.57**	**0.05**	**0.20**	**0.63**	**0.60**	**1.79**	**0.25**	**19.75**	**0.05**	**0.14**
	標準偏差	0.45	0.21	0.03	0.03	0.03	0.02	0.14	0.03	0.64	0.02	0.01
No.6	a	28.00	49.32	0.00	0.14	0.71	0.55	1.97	0.55	18.55	0.04	0.16
	b	28.37	47.91	0.02	0.19	0.71	0.63	2.01	0.27	19.62	0.10	0.18
	c	28.69	48.28	0.07	0.25	0.61	0.57	1.87	0.24	19.20	0.05	0.16
	平均	**28.35**	**48.50**	**0.03**	**0.19**	**0.68**	**0.58**	**1.95**	**0.35**	**19.12**	**0.06**	**0.17**
	標準偏差	0.35	0.73	0.04	0.06	0.06	0.04	0.07	0.17	0.54	0.03	0.01
No.7	a	27.68	44.97	0.10	1.96	1.10	0.45	1.93	0.31	21.21	0.11	0.18
	b	28.92	44.88	0.06	1.43	0.74	0.44	1.80	0.23	21.27	0.10	0.12
	c	27.83	39.21	0.27	4.96	1.34	0.50	2.26	1.03	22.33	0.11	0.16
	平均	**28.14**	**43.02**	**0.14**	**2.78**	**1.06**	**0.46**	**2.00**	**0.52**	**21.60**	**0.11**	**0.15**
	標準偏差	0.68	3.30	0.11	1.90	0.30	0.03	0.24	0.44	0.63	0.01	0.03
No.8	a	28.24	45.52	0.05	0.62	0.96	0.52	1.82	0.34	21.69	0.05	0.18
	b	26.88	42.99	0.06	0.68	0.49	0.40	3.13	0.23	24.90	0.06	0.19
	c	28.86	48.14	0.04	0.58	0.60	0.46	1.95	0.30	18.85	0.05	0.16
	平均	**27.99**	**45.55**	**0.05**	**0.63**	**0.68**	**0.46**	**2.30**	**0.29**	**21.81**	**0.05**	**0.18**
	標準偏差	1.01	2.58	0.01	0.05	0.25	0.06	0.72	0.06	3.03	0.01	0.02
No.9	a	27.61	48.76	0.05	0.26	0.51	0.46	2.21	0.51	19.36	0.07	0.19
	b	29.09	46.64	0.10	0.35	0.56	0.46	2.04	0.46	20.06	0.09	0.16
	c	28.22	47.93	0.06	0.31	0.64	0.51	1.80	0.33	19.94	0.07	0.18
	平均	**28.31**	**47.78**	**0.07**	**0.31**	**0.57**	**0.48**	**2.02**	**0.43**	**19.79**	**0.08**	**0.18**
	標準偏差	0.74	1.07	0.03	0.05	0.07	0.03	0.21	0.09	0.37	0.01	0.02
No.10	a	24.51	37.79	0.17	1.58	0.71	0.29	3.24	0.14	31.34	0.06	0.18
	b	25.41	39.15	0.08	2.38	0.76	0.34	1.56	0.12	30.02	0.04	0.15
	c	25.30	35.76	0.24	5.42	1.26	0.41	1.45	0.39	29.57	0.06	0.15
	平均	**25.07**	**37.57**	**0.16**	**3.13**	**0.91**	**0.35**	**2.08**	**0.22**	**30.31**	**0.05**	**0.16**
	標準偏差	0.49	1.71	0.08	2.03	0.30	0.06	1.00	0.15	0.92	0.01	0.02

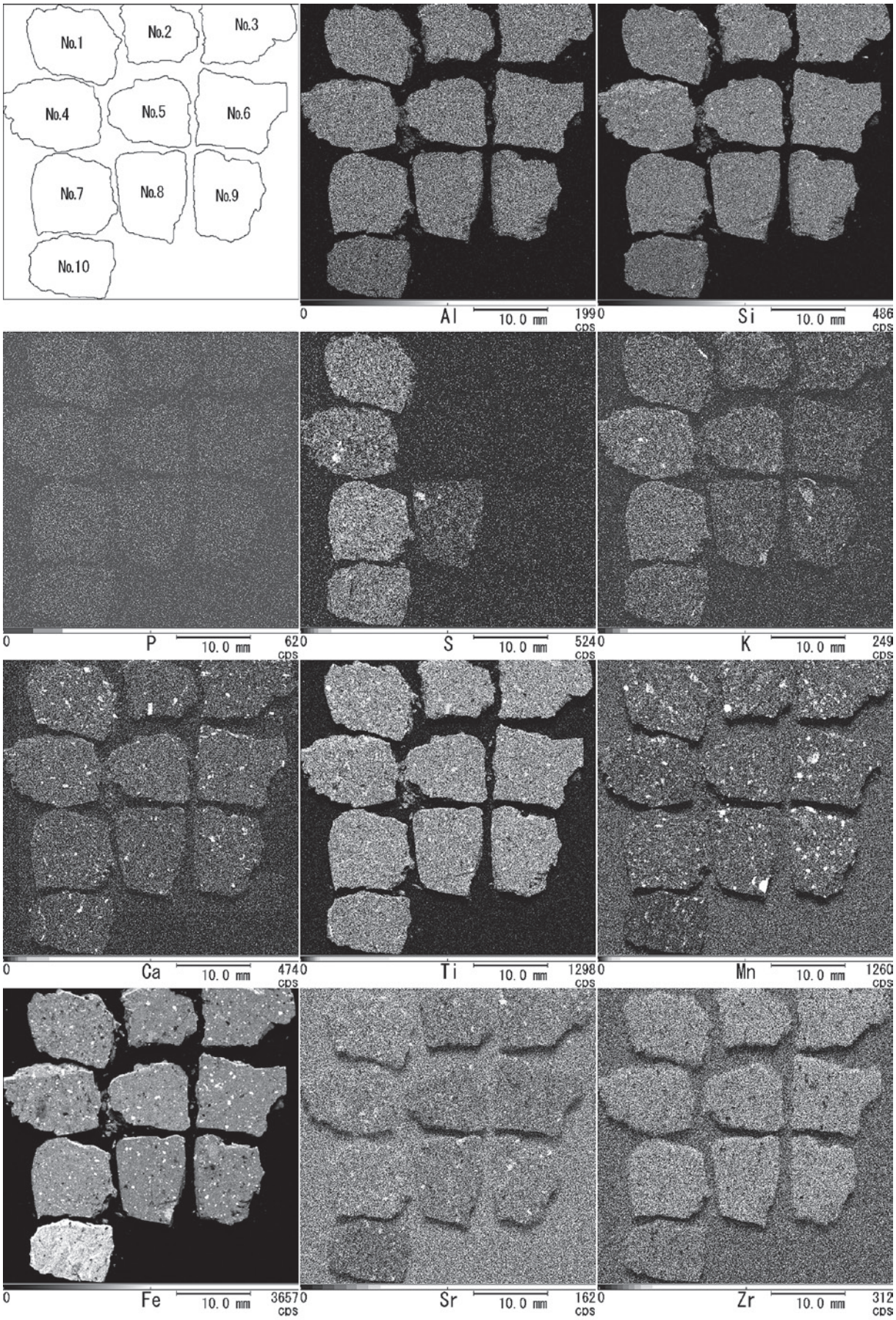
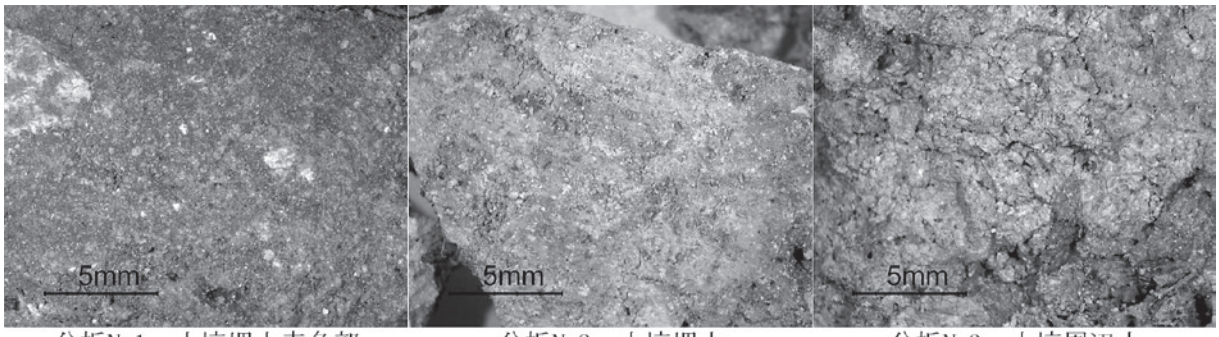
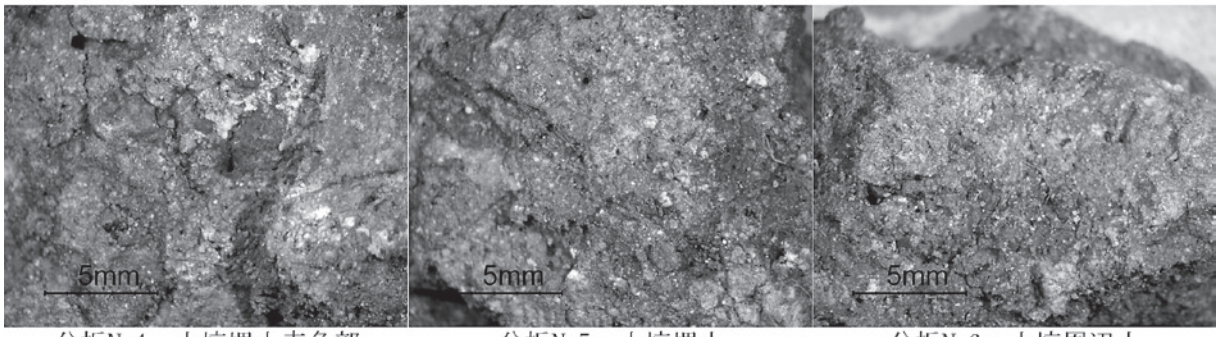

No.1
No.2
No.3
No.4
No.5
No.6
No.7
No.8
No.9
No.10
0 Al 10.0 mm 1990 cps
0 Si 10.0 mm 486 cps
0 P 10.0 mm 620 cps
0 S 10.0 mm 5240 cps
0 K 10.0 mm 249 cps
0 Ca 10.0 mm 4740 cps
0 Ti 10.0 mm 12980 cps
0 Mn 10.0 mm 1260 cps
0 Fe 10.0 mm 36570 cps
0 Sr 10.0 mm 1620 cps
0 Zr 10.0 mm 312 cps

図１　元素マッピング図



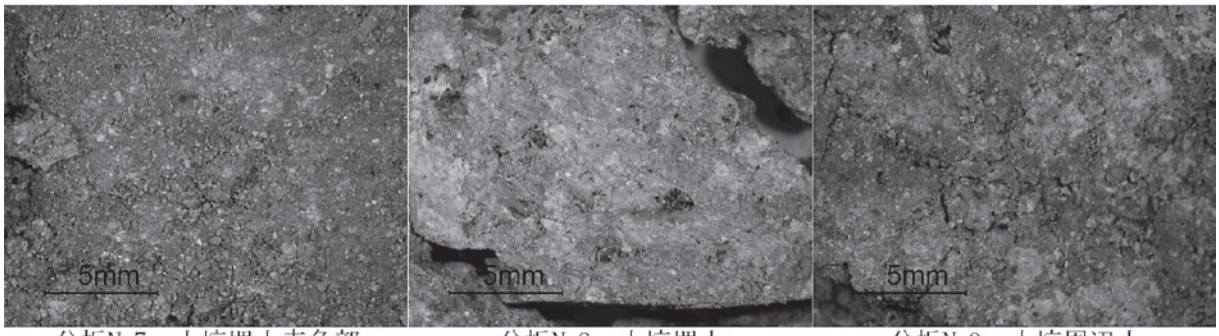
分析No.1　土坑埋土赤色部　　分析No.2　土坑埋土　　分析No.3　土坑周辺土

27 号土坑



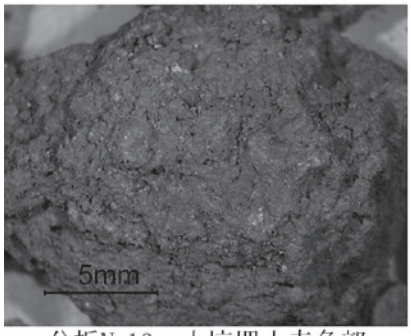
分析No.4　土坑埋土赤色部　　分析No.5　土坑埋土　　分析No.6　土坑周辺土

23 号土坑



分析No.7　土坑埋土赤色部　　分析No.8　土坑埋土　　分析No.9　土坑周辺土

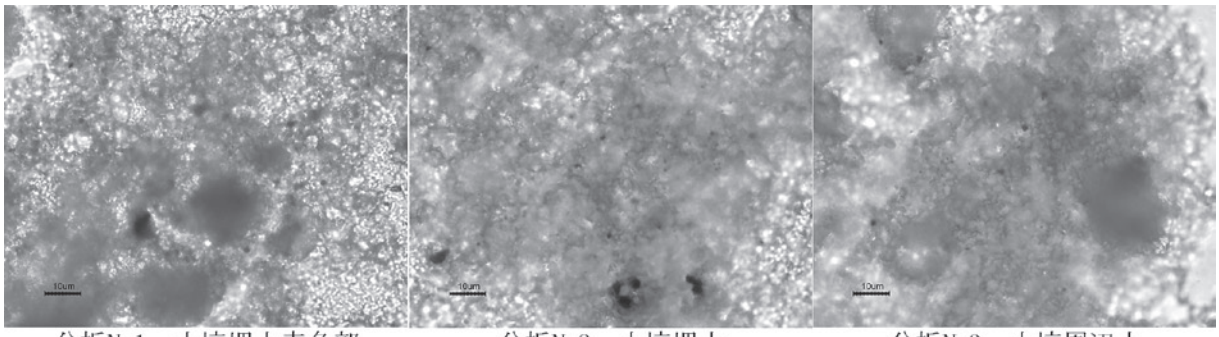
8 号土坑



分析No.10　土坑埋土赤色部

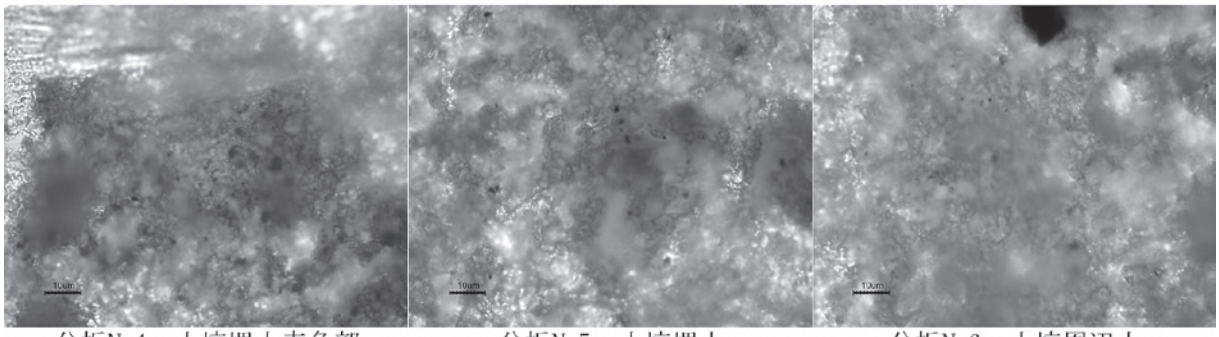
25 号土坑

図版１　分析対象資料



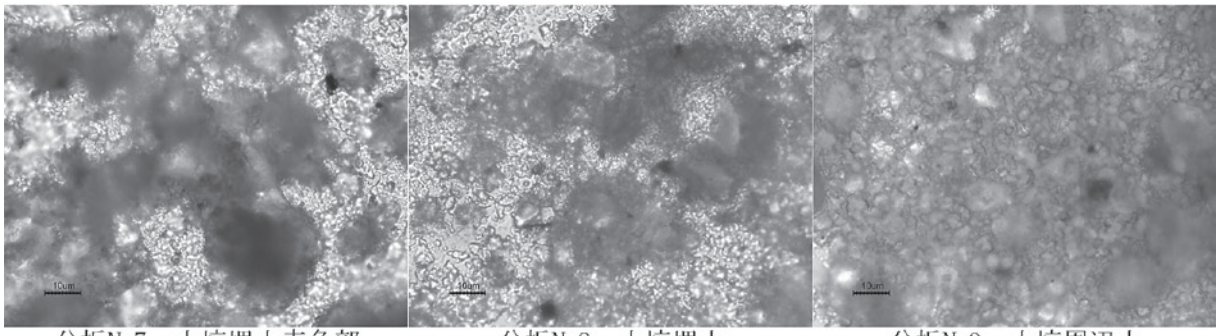
分析No.1　土坑埋土赤色部　　分析No.2　土坑埋土　　分析No.3　土坑周辺土

27 号土坑



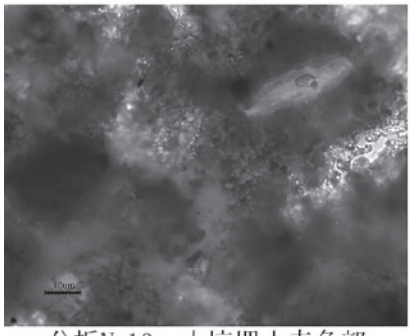
分析No.4　土坑埋土赤色部　　分析No.5　土坑埋土　　分析No.6　土坑周辺土

23 号土坑



分析No.7　土坑埋土赤色部　　分析No.8　土坑埋土　　分析No.9　土坑周辺土

8 号土坑



分析No.10　土坑埋土赤色部

25 号土坑

図版 2　光学顕微鏡写真

寺田山口遺跡土坑から出土した炭化材の樹種同定

藤根　久（パレオ・ラボ）

1．はじめに

寺田山口遺跡の調査では、土坑内から炭化材が検出された。ここでは、この土坑から出土した炭化材について樹種同定を行った。なお、同一の炭化材試料について AMS 法による放射性炭素年代測定を行っている。

2．試料と方法

炭化材試料は、B3 区の 2 号土坑埋土 1 層（南東）から出土した炭化材 1 試料である。

炭化材試料は、放射性炭素年代測定用に採取した残り試料であり、横断面と接線断面について、直径 1 cm の真鍮製試料台に両面テープで固定し銀ペーストを塗布した後、金蒸着を行った。観察および同定は、走査型電子顕微鏡（日本電子㈱製　JSM-5900LV 型）を使用した。

3．結果および考察

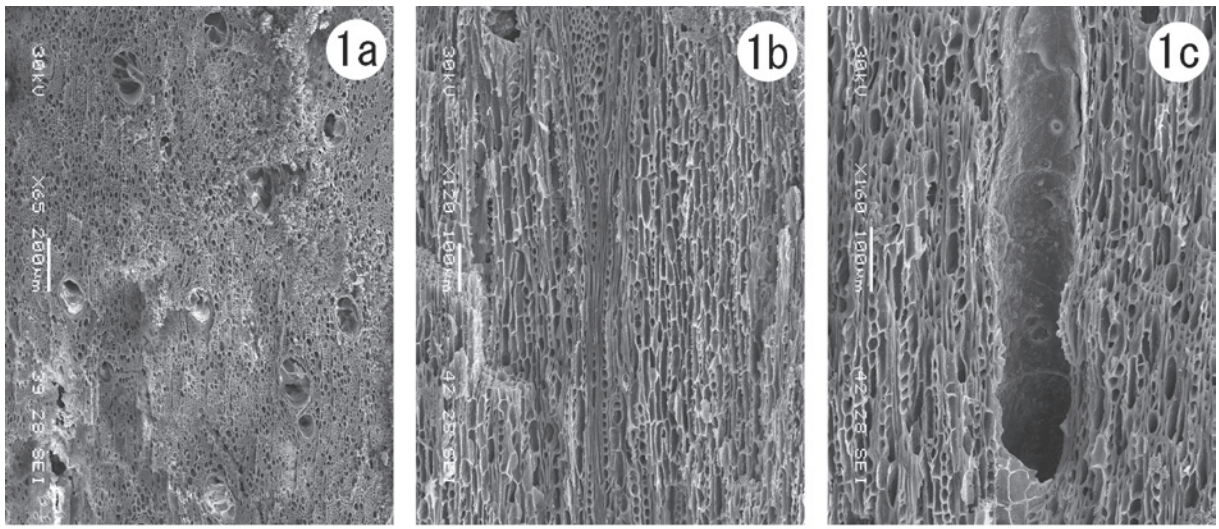
炭化材の樹種同定を行った結果、常緑広葉樹のコナラ属アカガシ亜属であった。

以下に、炭化材の材組織の特徴を述べる。なお、主な断面の走査電子顕微鏡写真を図版 1 に示す。

(1) コナラ属アカガシ亜属　Quercus subgen. Cyclobalanopsis　ブナ科　図版 1　1a-1c

小型～中型の単独管孔が放射方向に配列する放射孔材である。接線状の柔組織が顕著である。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性、単列のものと集合放射組織とがある。

アカガシ亜属は、常緑高木であり、暖温帯に分布するアラカシ・アカガシ・シラカシ、関東以南に多いイチイガシ・ツクバネガシ、海岸や乾燥地に多いウバメガシ、寒さに強くブナ帯の下部まで分布するウラジロガシなどがある。材は、丈夫で弾性や耐湿性があり、農具として用いられる。



図版 1　出土炭化材木材組織の走査電子顕微鏡写真（a: 横断面 , b: 接線断面）

1a-1b. コナラ属アカガシ亜属

熊本県教育庁文化課：寺田山口遺跡における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

Ⅰ．自然科学分析の概要

寺田山口遺跡の発掘調査では、縄文時代の集落跡に伴って多数の土坑が検出された。ここでは、これらの遺構の年代や性格および当時の周囲の植生や環境を把握する目的で、放射性炭素年代測定、樹種同定、リン・カルシウム分析、植物珪酸体分析を行った。自然科学分析の試料リストおよび分析項目と試料数を次表に示す。

試料No.	調査区	遺構名	層位	備考	年代測定	樹種同定	ﾘﾝ・ｶﾙｼｳﾑ	植物珪酸体
1	Ａ－２	115-SK		炭化材	○	○		
2	Ｂ－Ⅰ	03-SK	土器棺埋土				○	○
3	Ｂ－Ⅱ	01-SK	埋土１層				○	○
4	Ｂ－Ⅱ	01-SK	埋土２層	周辺地山			○	○
5	Ｂ－Ⅱ	24-SK	埋土１層				○	○
6	Ｂ－Ⅱ	24-SK		周辺地山			○	○
7	Ｂ－Ⅰ	10-SK	埋土２層	土器内			○	○
8	Ｂ－Ⅰ	10-SK	埋土２層				○	○
9	Ｂ－Ⅱ	11-SK					○	○
10	Ｂ－Ⅱ	11-SK	埋土１層				○	○
11	Ｂ－Ⅰ	01-SK	埋土２層	南側堀方			○	○
12	Ｂ－Ⅱ	12-SK	埋土２層				○	○
				試料数	1	1	11	11

Ⅱ．放射性炭素年代測定

１．はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素（^{14}Ｃ）の濃度が放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壌、土器付着炭化物などが測定対象となり、約５万年前までの年代測定が可能である。

２．試料と方法

次表に、試料の採取箇所、種類、前処理・調整法および測定法を示す。

試料No.	採取箇所	種類	前処理・調整法	測定法
No.１	Ａ－２区，115-SK	炭化材（クリ）	超音波洗浄，酸－ｱﾙｶﾘ－酸処理	AMS

AMS：加速器質量分析法（Accelerator Mass Spectrometry）

３．測定結果

加速器質量分析法（AMS）によって得られた 14 Ｃ濃度について同位体分別効果の補正を行い、放射性炭素（^{14}Ｃ）年代および暦年代（較正年代）を算出した。次表にこれらの結果を示し、図１に暦年較正結果（較正曲線）を示す。

試料No.	測定No.（PED-）	δ ^{13}C（‰）	^{14}C 年代：年 BP（暦年較正用）	暦年代（較正年代）：cal-	
				１σ（68.2%確率）	２σ（95.4%確率）
No.１	21284	-27.05 ± 0.17	2730 ± 20 （2729 ± 20）	BC900-835(68.2%)	BC915-820(95.4%)

BP：Before Physics (Present)，cal：calibrated ，BC：紀元前

（１）δ（デルタ）^{13}Ｃ測定値

試料の測定 ^{14}Ｃ /^{12}Ｃ比を補正するための炭素安定同位体比（^{13}Ｃ /^{12}Ｃ）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。試料のδ ^{13}Ｃ値を -25(‰）に標準化することで同位体分別効果を補正する。

（２）放射性炭素（^{14}Ｃ）年代測定値

試料の ^{14}Ｃ /^{12}Ｃ比から、現在（AD1950 年基点）から何年前かを計算した値。^{14}Ｃの半減期は 5730 年であるが、国際的慣例により Libby の 5568 年を用いた。統計誤差（±）は１σ（68.2%確率）である。^{14}Ｃ年代値は下１桁を丸めて表記するのが慣例であるが、暦年較正曲線が更新された場合のために下１桁を丸めない暦年較正用年代値も併記した。

（３）暦年代（Calendar Years）

過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中 ^{14}Ｃ濃度の変動および ^{14}Ｃの半減期の違いを較正することで、放射性炭素（^{14}Ｃ）年代をより実際の年代値に近づけることができる。暦年代較正には、年代既知の樹木年輪の詳細な ^{14}Ｃ測

定値およびサンゴのU/Th（ウラン／トリウム）年代と^{14}C年代の比較により作成された較正曲線を使用した。較正曲線のデータはIntCal 09、較正プログラムはOxCal 3.1である。

暦年代（較正年代）は、^{14}C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅で表し、OxCalの確率法により１σ（シグマ）(68.2%確率)と２σ（シグマ）(95.4%確率)で示した。較正曲線が不安定な年代では、複数の１σ・２σ値が表記される場合もある。() 内の%表示は、その範囲内に暦年代が入る確率を示す。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

４．所見

加速器質量分析法（AMS）による放射性炭素年代測定の結果、№１の炭化材（クリ）では2730±20年BP（２σの暦年代でBC 915～820年）の年代値が得られた。

文献

Bronk Ramsey C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy, The OxCal Program, Radiocarbon, 37(2), p.425-430.

Bronk Ramsey C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon, 43, p.355-363.

Paula J Reimer et al., (2009) IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 51, p.1111-1150.

中村俊夫（2003）放射性炭素年代測定法と暦年代較正．環境考古学マニュアル．同成社，p.301-322.

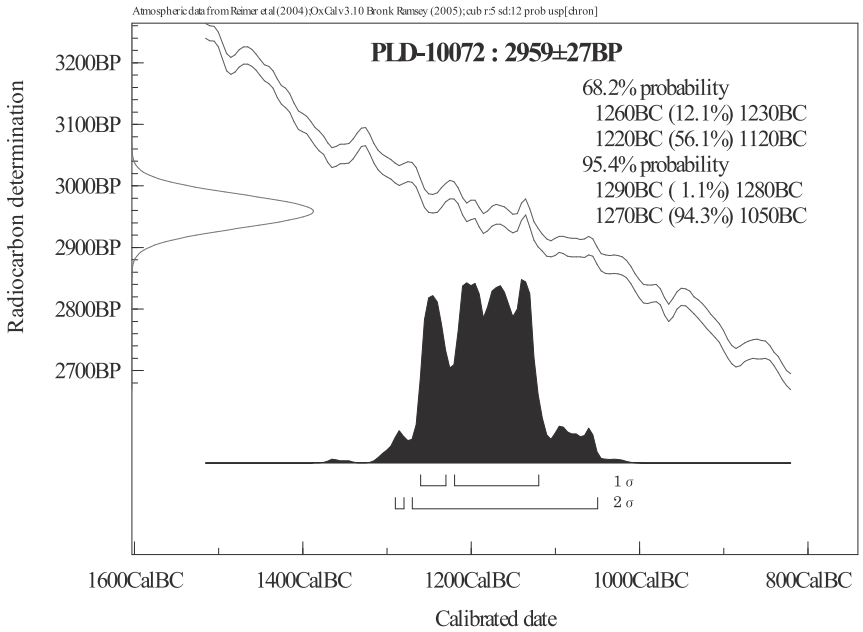


図１　歴年較正結果

Ⅲ．樹種同定

１．はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が小さいことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

２．試料

試料は、Ａ－２区の 115-SK から採取された炭化材１点である。

３．方法

以下の手順で樹種同定を行った。

１）試料を洗浄して付着した異物を除去

２）試料を割折して、木材の基本的三断面（横断面：木口，放射断面：柾目，接線断面：板目）を作成

３）落射顕微鏡（40 ～ 1000 倍）で観察し、木材の解剖学的形質や現生標本との対比で樹種を同定

４．結果

樹種同定の結果、№１の炭化材は、クリ　Castanea crenata Sieb. et Zucc.　と同定された。以下に同定根拠となった特徴を記し、写真図版に顕微鏡写真を示す。

クリ　Castanea crenata Sieb. et Zucc.　ブナ科

横断面：年輪のはじめに大型の道管が数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりクリに同定される。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ 20 m、径 40cm ぐらいであるが、大きいものは高さ 30 m、径２mに達する。耐朽性強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で、現在では建築、家具、器具、土木、船舶、彫刻、薪炭、椎茸ほだ木など広く用いられる。

５．所見

樹種同定の結果、Ａ－２区の 115-SK から採取された炭化材は、クリと同定された。クリは、温帯に広く分布する落葉高木であり、暖温帯と冷温帯の中間域では純林を形成することもある。乾燥した台地や丘陵地や排水のよい場所を好み、二次林要素でもある。

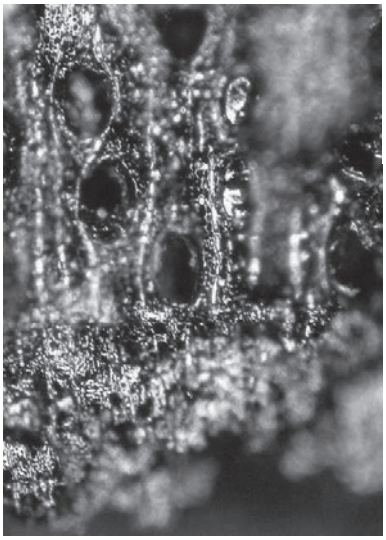
文献

島地 謙・佐伯 浩・原田 浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司（1985）木材の構造．文永堂出版，290p.

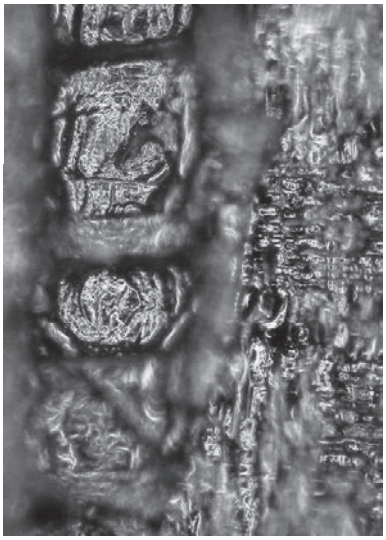
島地 謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧．雄山閣，296p.

山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成−用材から見た人間・植物関係史．植生史研究特別１号．植生史研究会，242p.

寺田山口遺跡の炭化材



横断面 ：0.4mm



放射断面 ：0.2mm

接線断面 ：0.2mm

炭化材　クリ

Ⅳ．リン・カルシウム分析

１．はじめに

土壌中に含まれるリンやカルシウムの起源としては、土壌の母材、動物遺体、植物遺体などがあり、遺跡の生活面や遺構内には遺体、排泄物、代謝物、食物残渣、燃料灰などに由来するリンやカルシウムが蓄積している。人骨など動物の骨はリン酸カルシウムが主成分であるが、貝殻や石灰石は炭酸カルシウムが主成分であり、リンはほとんど含まれていない。カルシウムは一般に水に溶解しやすいが、リンは土壌中の鉄やアルミニウムと強く結合して難溶性の化合物となるため、土壌中における保存性が高い（竹迫、1993）。このようなリンやカルシウムの性質を利用して、墓状遺構などにおける生物遺体（人骨など）の確認および生活面や遺構面の確認などが試みられている。

２．試料

分析試料は、墓の可能性が指摘されている土坑から採取された№.２～№.12 の計 11 点である。このうち、№.４（地山）、№.６（地山）、№.11（堀方）は比較試料である。

３．分析方法

エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置（XGT-5000Type Ⅱ）を用いて、元素の同定およびファンダメンタルパラメータ法（FP 法）による定量分析を行った。試料の処理法は次のとおりである。

１）試料を絶乾（105℃・24 時間）

２）試料を粉砕して塩化ビニール製リング枠に入れ、圧力 20t/? でプレスして錠剤試料を作成

３）測定時間 500 秒、照射径 100 μ m、電圧 50kV、試料室内真空の条件で測定

今回の分析では、まず元素マッピング分析による元素の分布図からリン（P）の輝度の高い箇所を選び、各試料ごとに５ポイント（a ～ e）についてポイント分析を行った。

４．分析結果

表１に蛍光Ｘ線分析結果、図２にリン（P_2O_5）とカルシウム（CaO）の含量、写真図版に元素マッピング図とポイント分析の箇所を示す。定量分析結果は、慣例により代表的な酸化物名で表記した。

５．考察

分析の結果、リン（P_2O_5）の含量が 1.0％を超えるのは 10-SK の土器内（№.７）だけであり、ポイント a ～ d では含量が 2.0 ～ 4.8％と高い値である。カルシウム（CaO）の含量は 0.5 ～ 0.8％と比較的低い値であることから、骨や歯の存在については言及できないが、土器内にはリンを多く含む何らかの生物遺体が存在した可能性が考えられる。なお、カルシウムは一般に溶解性が大きいことから（竹迫，1993）、土壌中で拡散・移動した可能性も考えられる。

カルシウム（CaO）の含量が高いのは、11-SK の埋土（№.10-a）の 11.9％、10-SK の埋土（№.８-a）の 7.1％、11-SK

の埋土（№9-a）の5.4%などであるが、各試料ともリンの含量は0.0～0.2%と低い値であることから、ここで検出されたカルシウムは、人骨や歯ではなく貝殻や石灰石などに由来する可能性が考えられる。

その他の遺構の試料では、リン酸含量が0.0～0.3%と低い値であり、比較試料の№4、№6、№11と同程度である。また、カルシウム含量についてもとくに明瞭な特徴が認められないことから、生物遺体の存在について積極的に評価することは困難である。

なお、墓遺構や貯蔵穴の分析では、リン酸やカルシウムの分布が平面的および層位的に大きく偏る傾向があることから、生物遺体等が存在したと思われる部分を中心に、より多くの試料について検討を行うことが望まれる。

文献

竹迫 紘（1993）リン分析法．第四紀試料分析法２，研究対象別分析法．日本第四紀学会編．東京大学出版会，p.38-45.

藤根久・佐々木由香・中村賢太郎（2008）蛍光X線装置を用いた元素マッピングによるリン・カルシウム分析．日本文化財科学会第25回大会研究発表要旨集，p.108-109.

表１　寺田山口遺跡における蛍光Ｘ線分析結果

単位：wt%

試料№	ポイント	MgO	Al2O3	SiO2	P2O5	SO3	K2O	CaO	TiO2	MnO2	Fe2O3	Rb2O	SrO	Y2O3	ZrO2
2	a	0.59	31.16	54.08	0.08	0.31	0.99	0.41	1.26	0.32	10.69	0.01	0.02	0.02	0.08
	b	1.42	29.31	55.36	0.00	0.16	0.84	0.31	1.27	0.29	10.90	0.01	0.02	0.02	0.08
	c	0.63	29.30	55.48	0.08	0.25	0.79	0.38	1.31	0.75	10.91	0.01	0.01	0.01	0.07
	d	0.53	35.16	51.33	0.07	0.33	0.78	0.36	1.58	0.33	9.49	0.00	0.01	0.01	0.03
	e	0.60	30.32	56.47	0.00	0.42	0.85	1.13	1.10	0.23	8.71	0.01	0.07	0.01	0.07
3	a	0.65	22.92	62.92	0.32	0.24	1.47	0.38	1.14	0.50	9.36	0.02	0.01	0.01	0.05
	b	0.75	23.33	62.69	0.07	0.24	1.57	0.37	1.06	0.49	9.33	0.02	0.01	0.02	0.04
	c	0.69	20.63	66.47	0.12	0.23	1.46	0.25	1.00	0.41	8.64	0.02	0.01	0.01	0.04
	d	0.73	24.74	61.30	0.09	0.32	1.24	0.31	1.07	0.55	9.54	0.02	0.01	0.01	0.05
	e	0.99	26.42	59.37	0.16	0.27	1.30	0.37	1.16	0.37	9.49	0.02	0.02	0.02	0.04
4	a	0.71	25.30	58.88	0.09	0.50	1.50	0.35	1.28	0.43	10.83	0.02	0.02	0.02	0.06
	b	0.61	30.19	56.06	0.17	0.39	1.18	0.27	1.04	0.36	9.63	0.02	0.01	0.02	0.06
	c	0.77	22.74	64.56	0.00	0.25	1.55	0.30	1.06	0.32	8.36	0.02	0.01	0.02	0.05
	d	0.68	26.44	59.49	0.08	0.32	1.38	0.32	1.03	0.42	9.72	0.02	0.02	0.02	0.05
	e	0.78	22.59	65.04	0.10	0.20	1.72	0.51	1.49	0.29	7.18	0.01	0.06	0.00	0.02
5	a	0.65	27.80	56.55	0.00	0.25	1.44	0.37	1.39	0.32	11.12	0.02	0.02	0.02	0.06
	b	0.71	26.37	61.34	0.00	0.36	1.00	1.75	1.02	0.33	6.96	0.01	0.09	0.01	0.04
	c	0.69	26.72	57.73	0.00	0.24	1.30	0.38	1.19	0.45	11.18	0.02	0.03	0.02	0.05
	d	0.71	24.62	61.56	0.09	0.32	1.04	0.35	1.18	0.19	9.81	0.01	0.02	0.02	0.07
	e	0.70	26.35	59.78	0.09	0.28	1.31	0.49	1.25	0.13	9.51	0.01	0.02	0.02	0.05
6	a	0.52	35.32	48.74	0.11	0.52	0.98	0.20	1.51	0.31	11.69	0.01	0.02	0.01	0.07
	b	0.51	35.48	47.37	0.06	0.33	1.15	0.32	1.49	0.34	12.83	0.02	0.01	0.01	0.07
	c	0.48	31.87	42.17	0.13	0.31	0.57	0.22	1.64	0.28	22.21	0.01	0.02	0.01	0.09
	d	2.36	35.01	47.57	0.02	0.43	1.04	0.30	1.52	0.28	11.31	0.01	0.08	0.01	0.06
	e	0.54	32.99	48.48	0.00	0.46	1.05	0.25	1.53	0.48	14.08	0.01	0.02	0.01	0.09
7	a	0.79	25.24	52.12	2.01	0.49	3.25	0.69	2.28	0.13	12.85	0.04	0.05	0.01	0.05
	b	0.66	31.95	42.91	4.82	0.81	1.25	0.58	3.21	0.09	13.55	0.02	0.03	0.02	0.10
	c	0.56	28.90	45.72	3.96	1.39	1.15	0.53	2.62	0.23	14.68	0.03	0.04	0.01	0.17
	d	0.17	21.75	48.74	2.67	0.54	1.98	0.83	4.58	0.28	18.32	0.02	0.02	0.02	0.09
	e	2.23	27.10	53.28	0.61	0.38	1.68	0.61	1.94	0.23	11.81	0.02	0.02	0.01	0.07
8	a	0.63	30.18	51.33	0.08	0.35	0.62	7.10	0.35	0.11	8.43	0.02	0.04	0.67	0.09
	b	2.02	28.02	59.28	0.00	0.29	0.96	1.84	0.92	0.23	6.31	0.01	0.07	0.01	0.05
	c	0.74	24.80	60.97	0.00	0.24	1.41	0.33	1.21	0.62	9.56	0.02	0.02	0.02	0.06
	d	0.75	25.32	61.67	0.04	0.31	1.02	0.33	1.19	0.30	8.96	0.01	0.01	0.01	0.05
	e	0.66	29.75	56.23	0.09	0.31	0.88	0.27	1.25	0.36	10.06	0.01	0.01	0.01	0.11
9	a	0.79	21.80	66.64	0.02	0.21	0.58	5.37	0.44	0.13	3.93	0.01	0.05	0.01	0.03
	b	2.07	20.24	65.51	0.11	0.30	1.30	0.37	1.01	0.44	8.56	0.02	0.03	0.01	0.04
	c	1.60	25.11	59.42	0.11	0.31	1.59	0.40	1.28	0.50	9.58	0.02	0.01	0.02	0.05
	d	0.85	19.77	66.59	0.19	0.25	1.53	0.39	1.09	0.53	8.68	0.02	0.02	0.02	0.06
	e	0.73	24.55	60.13	0.20	0.36	1.53	0.56	1.14	0.33	10.35	0.02	0.02	0.02	0.05
10	a	1.17	21.42	48.65	0.01	0.31	0.77	11.93	0.45	0.43	13.92	0.06	0.06	0.62	0.18
	b	0.82	20.81	65.69	0.11	0.34	1.39	0.36	1.10	0.51	8.78	0.02	0.01	0.01	0.04
	c	0.86	19.47	67.20	0.00	0.29	1.25	0.44	1.20	0.42	8.77	0.02	0.02	0.01	0.06
	d	0.88	18.30	67.23	0.11	0.33	1.75	0.46	1.25	0.42	9.12	0.02	0.02	0.05	0.05
	e	0.48	21.10	64.99	0.08	0.29	1.37	0.36	1.27	0.52	9.46	0.02	0.02	0.01	0.04
11	a	0.00	33.99	51.59	0.07	0.18	0.68	0.37	1.44	0.27	11.29	0.01	0.02	0.01	0.08
	b	0.57	32.20	55.75	0.00	0.26	0.59	0.30	1.38	0.21	8.64	0.01	0.01	0.01	0.06
	c	0.59	32.04	53.20	0.01	0.32	0.76	0.53	1.33	0.32	10.77	0.01	0.04	0.01	0.08
	d	0.44	37.19	48.68	0.07	0.23	0.63	0.32	1.42	0.28	10.62	0.01	0.03	0.01	0.09
	e	0.61	33.82	54.71	0.00	0.12	0.44	0.29	1.20	0.19	8.53	0.00	0.02	0.01	0.07
12	a	0.60	32.05	54.12	0.20	0.34	1.12	0.31	1.46	0.20	9.49	0.01	0.02	0.01	0.07
	b	0.63	31.06	55.30	0.26	0.27	0.76	0.26	1.12	0.29	9.94	0.02	0.02	0.01	0.06
	c	0.96	30.20	55.78	0.10	0.20	0.77	0.36	1.34	0.32	9.87	0.01	0.01	0.01	0.07
	d	0.65	29.32	56.33	0.00	0.26	0.99	0.33	1.48	0.29	10.24	0.01	0.01	0.02	0.06
	e	0.64	30.17	55.19	0.17	0.14	0.82	0.62	1.34	0.64	10.14	0.01	0.02	0.01	0.08

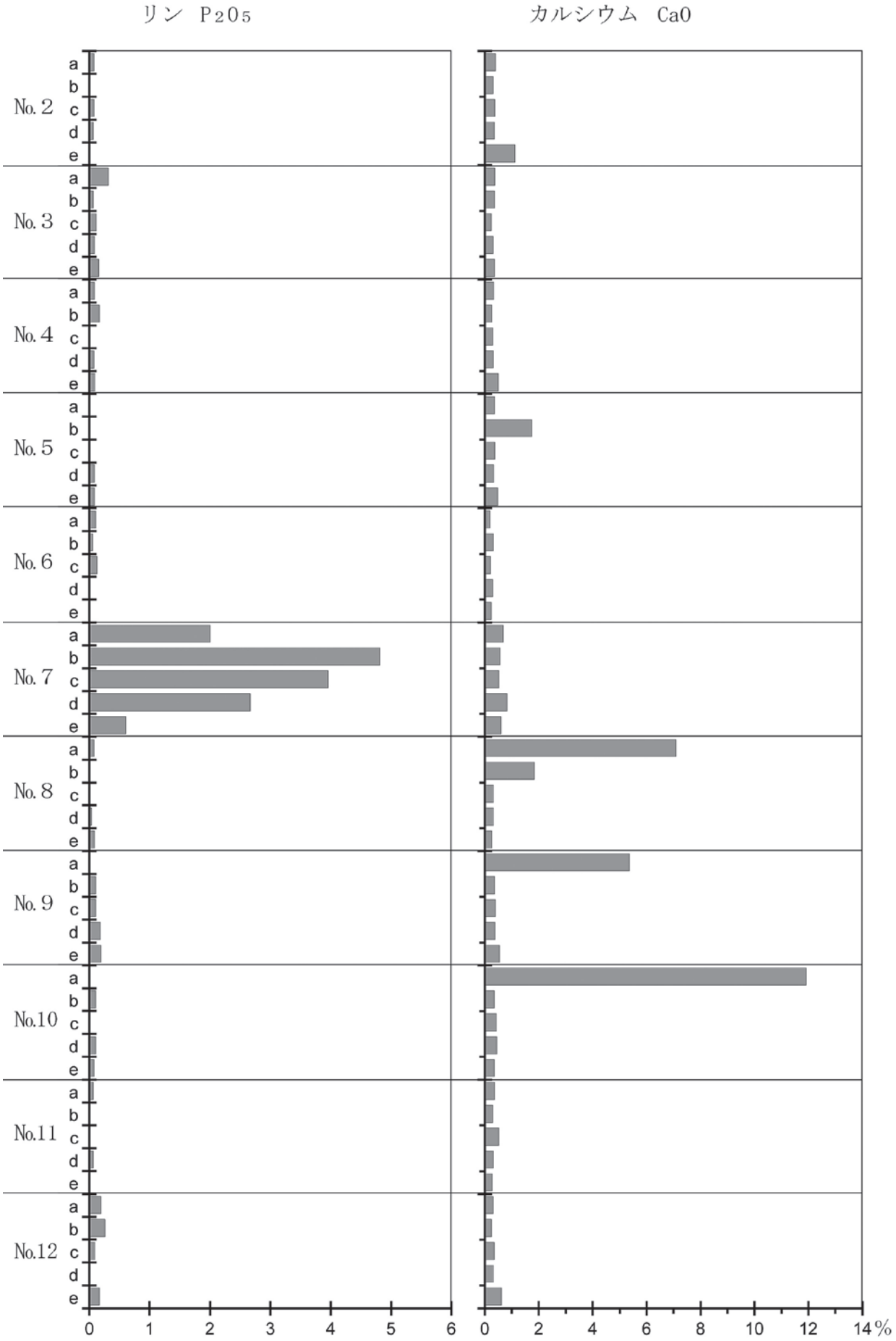
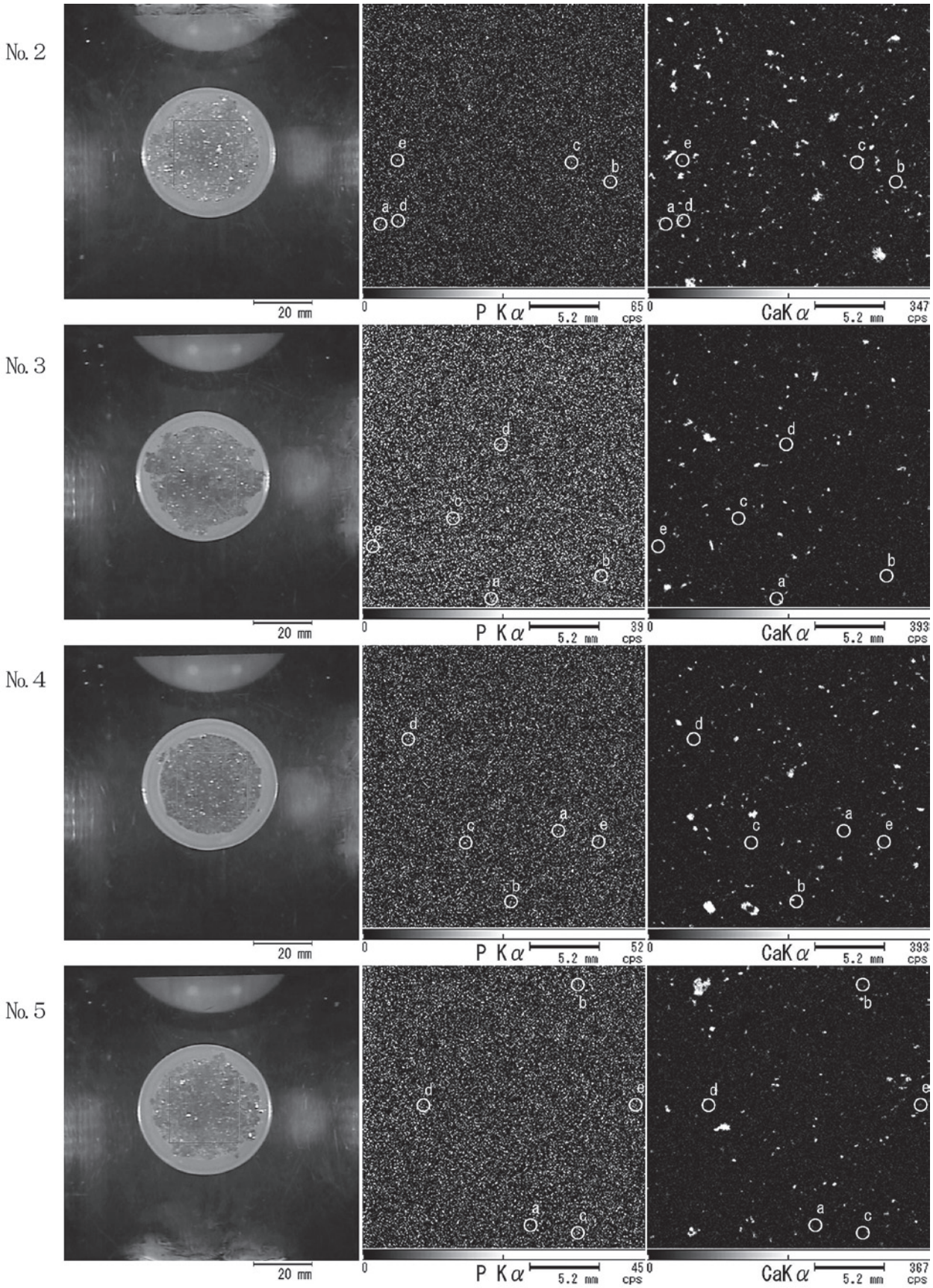
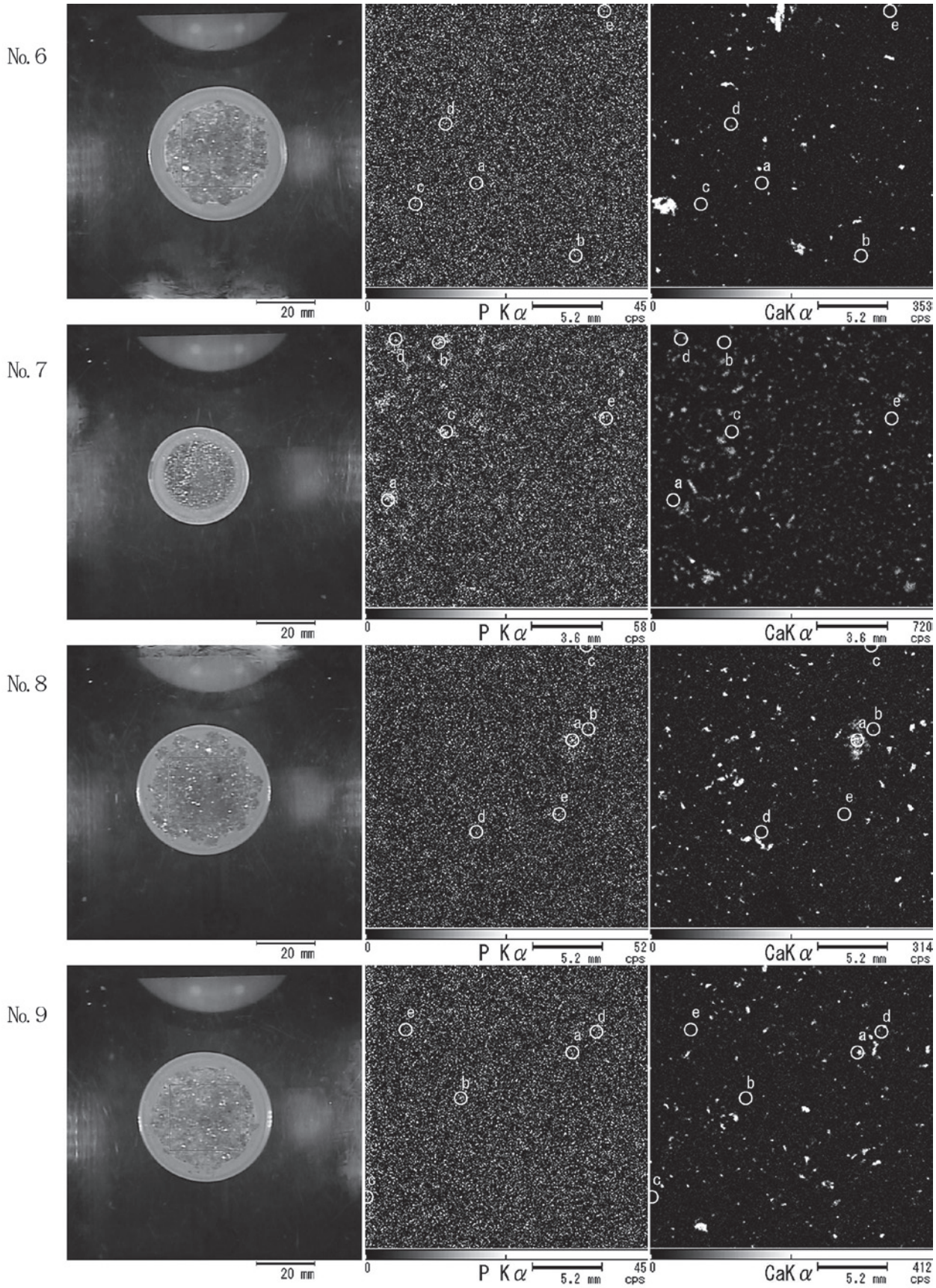


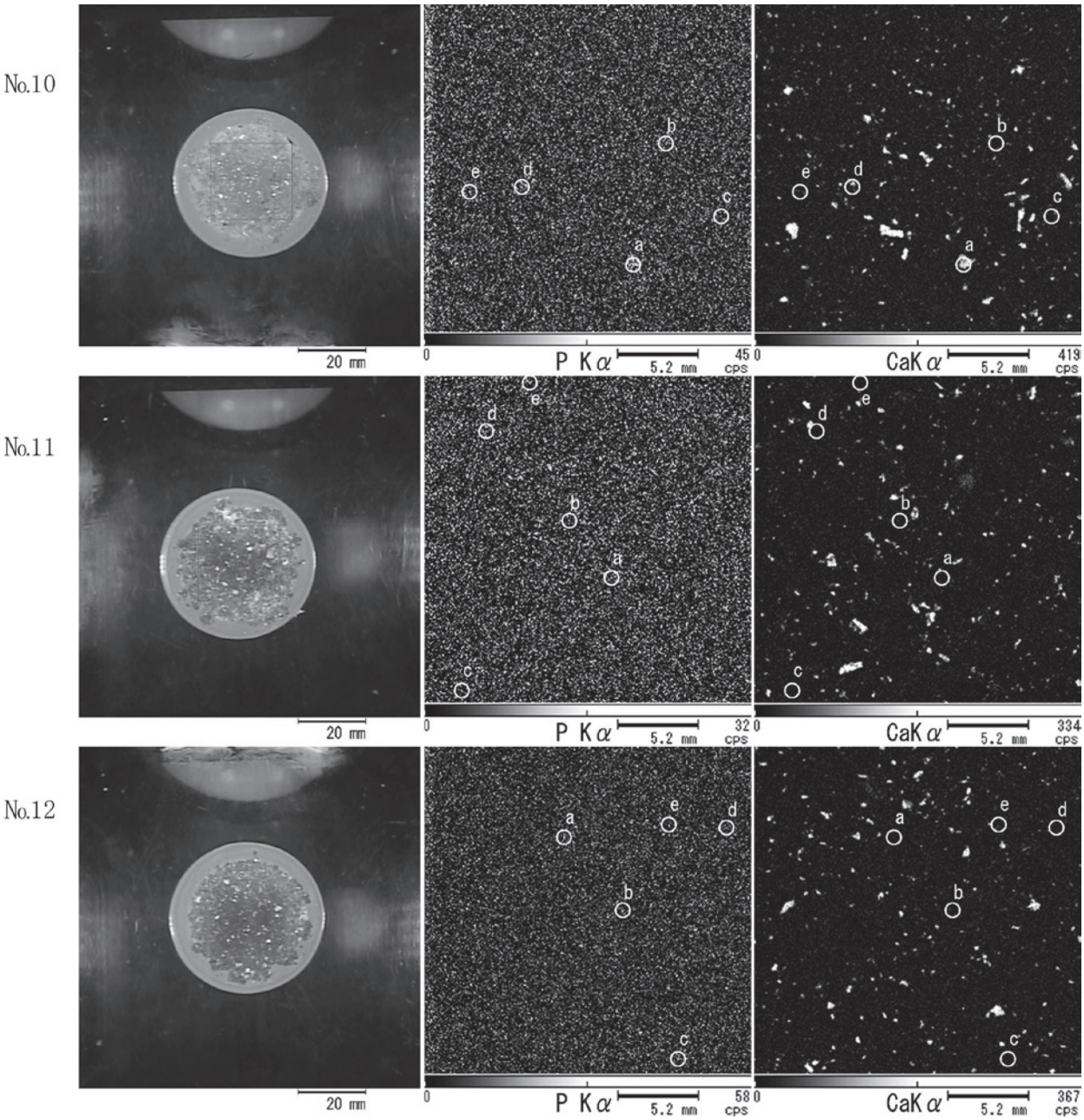
図２ 寺田山口遺跡における各試料のリン・カルシウム含量



プレス試料と元素マッピング図およびポイント分析箇所（１）



プレス試料と元素マッピング図およびポイント分析箇所（１）



プレス試料と元素マッピング図およびポイント分析箇所（２）

Ｖ．植物珪酸体分析竹原弘展（パレオ・ラボ）

１．はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（Si0 ２）が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，2000)。

２．試料

分析試料は、リン・カルシウム分析に用いられたものと同一の計 11 点である。

３．分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法（藤原，1976）を用いて、次の手順で行った。

１）試料を 105℃で 24 時間乾燥（絶乾）

２）試料約１g に対し直径約 40 μ m のガラスビーズを約 0.02g 添加（0.1mg の精度で秤量）

３）電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理

４）超音波水中照射（300W・42KHz・10 分間）による分散

５）沈底法による 20 μ m 以下の微粒子除去

６）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成

７）検鏡・計数

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。試料１g あたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料１g 中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0 と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重）をかけて、単位面積で層厚１cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる（杉山，2000)。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

４．分析結果

（１）分類群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表２および図３に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕

ヨシ属、シバ属型、キビ族型、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族Ａ（チガヤ属など）、ウシクサ族Ｂ（大型）

〔イネ科−タケ亜科〕

メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、未分類等

〔イネ科−その他〕 表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

〔樹木〕 ブナ科（シイ属）、クスノキ科、その他

（２）植物珪酸体の検出状況

01-SK の埋土（№.３）では、ミヤコザサ節型が比較的多く検出され、ヨシ属、キビ族型、ススキ属型、ウシクサ族Ａ、ネザサ節型、チマキザサ節型、および樹木（その他）も検出された。同遺構の地山（№.４）でも、おおむね同様の結果であるが、ヨシ属、キビ族型、ススキ属型などは検出されなかった。11-SK の埋土（№.９、№.10）では、ミヤコザサ節型が比較的多く検出され、ウシクサ族Ａ、および樹木（照葉樹）のブナ科（シイ属）、クスノキ科なども認められた。樹木は一般に植物珪酸体の生産量が低いことから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある（杉山, 1999)。なお、すべての樹種で植物珪酸体が形成されるわけではなく、落葉樹では形成されないものも多い（近藤・佐瀬, 1986)。その他の試料では、ウシクサ族Ａ、ミヤコザサ節型、樹木（その他）などが検出されたが、いずれも比較的少量である。おもな分類群の推定生産量によると、01-SK と 11-SK の試料では、量的には比較的少ないもののミヤコザサ節型が優勢となっている。

５．植物珪酸体分析から推定される植生と環境

墓の可能性が指摘されている 01-SK や 11-SK などの埋土の堆積当時は、比較的少量ながらササ属（おもにミヤコザサ節）などの笹類やウシクサ族などの草本類が生育していたと考えられ、遺跡周辺にはシイ属やクスノキ科などの樹木（照葉樹）が分布していたと推定される。笹類については、樹木の林床植生として生育していた可能性も想定される。

01-SK の埋土では、ヨシ属やススキ属などが特徴的に検出されることから、これらの植物が何らかの形で利用された可能性も示唆されるが、量的に少ないことから確定的なことは言えない。

文献

近藤錬三・佐瀬隆（1986）植物珪酸体，その特性と応用．第四紀研究，25，p.31-63.

杉山真二・藤原宏志（1986）機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定−古環境推定の基礎資料として−．考古学と自然科学，19，p.69-84.

杉山真二（1999）植物珪酸体分析からみた九州南部の照葉樹林発達史．第四紀研究，38(2)，p.109-123.

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．考古学と植物学．同成社，p.189-213.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) −数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法−．考古学と自然科学，9，p.15-29.

表２　寺田山口遺跡における植物珪酸体分析結果

検出密度（単位：× 100 個 /g）

分類群	学名	地点・試料 2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
イネ科	Gramineae											
ヨシ属	Phragmites		7									
シバ属型	Zoysia type										14	
キビ族型	Paniceae type		7									
ススキ属型	Miscanthus type		7									
ウシクサ族Ａ	Andropogoneae A type	31	20	7	7		7	13	34	19	14	6
ウシクサ族Ｂ	Andropogoneae B type											6
タケ亜科	Bambusoideae											
メダケ節型	Pleioblastus sect. Nipponocalamus						7					
ネザサ節型	Pleioblastus sect. Nezasa		7			6						
チマキザサ節型	Sasa sect. Sasa etc.		7									
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi	6	185	161	21	12	7	74	174	132	28	32
未分類等	Others	19	92	87	28	42	14	27	114	107	36	19
その他のイネ科	Others											
表皮毛起源	Husk hair origin	6	7	7			7		13			6
棒状珪酸体	Rodshaped	25	66	54	21	6	21	34	20	50	21	13
未分類等	Others	43	106	94	90	48	49	94	134	138	114	84
樹木起源	Arboreal											
ブナ科（シイ属）	Castanopsis							7	27	13		
クスノキ科	Lauraceae							7	7	6		6
その他	Others	6	7		7		7	13	34	25	14	13
(海綿骨針)	Sponge spicules								7	6		
植物珪酸体総数	Total	136	515	408	173	115	119	268	556	489	242	188

おもな分類群の推定生産量（単位：kg / m²・cm）：試料の仮比重を 1.0 と仮定して算出

ヨシ属	Phragmites		0.42									
ススキ属型	Miscanthus type		0.08									
メダケ節型	Pleioblastus sect. Nipponocalamus						0.08					
ネザサ節型	Pleioblastus sect. Nezasa		0.03			0.03						
チマキザサ節型	Sasa sect. Sasa etc.		0.05									
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi	0.02	0.55	0.48	0.06	0.04	0.02	0.22	0.52	0.39	0.09	0.10

タケ亜科の比率（%）

メダケ節型	Pleioblastus sect. Nipponocalamus						79					
ネザサ節型	Pleioblastus sect. Nezasa		5			44						
チマキザサ節型	Sasa sect. Sasa etc.		8									
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Crassinodi	100	87	100	100	56	21	100	100	100	100	100
メダケ率	Medake ratio	0	5	0	0	44	79	0	0	0	0	0

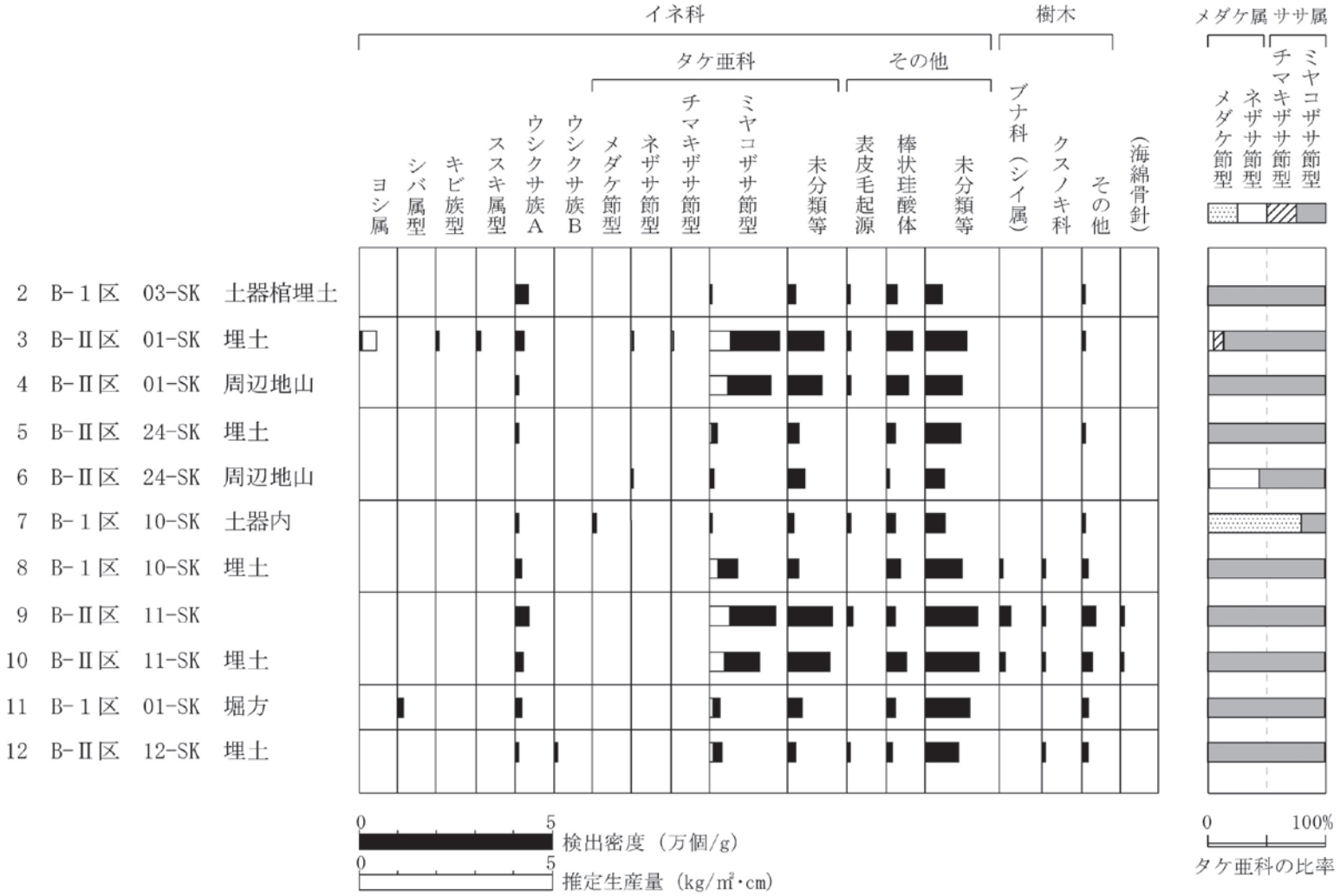
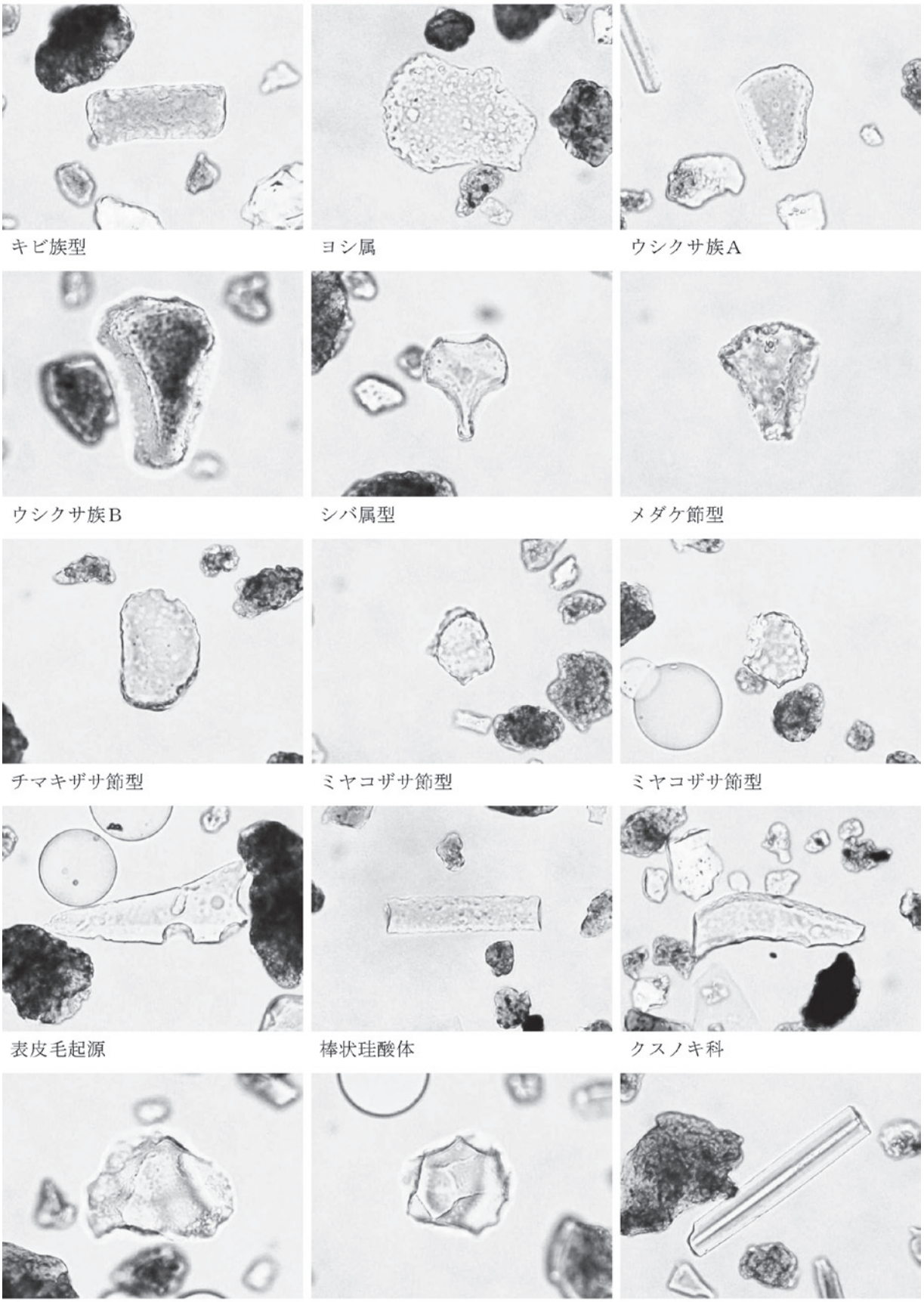


図３ 寺田山口遺跡における植物珪酸体分析結果

寺田山口遺跡の植物珪酸体（プラント・オパール）



熊本県玉名市、寺田山口遺跡における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

Ⅰ．寺田山口遺跡における植物珪酸体分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（Si02）が蓄積したものであり、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，2000)。

2. 試料

分析試料は、A1 区 23-SD から採取された 9 点、および A1 区 03-SD から採取された 13 点の計 22 点である。試料の詳細を分析結果図に示す。

3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法（藤原，1976）を用いて、次の手順で行った。

1）試料を 105℃で 24 時間乾燥（絶乾）

2）試料約 1g に対し直径約 40 μ m のガラスビーズを約 0.02g 添加（電子分析天秤により 0.1mg の精度で秤量）

3）電気 炉灰化法（550℃・6 時間）による脱有機物処理

4）超音波水中照射（300W・42KHz・10 分間）による分散

5）沈底法による 20 μ m 以下の微粒子除去

6）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成

7）検鏡・計数

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1g あたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1g 中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重、単位：10-5g）をかけて、単位面積で層厚 1cm あたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は 2.94（種実重は 1.03)、ヨシ属（ヨシ）は 6.31、ススキ属（ススキ）は 1.24、メダケ節は 1.16、ネザサ節は 0.48、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は 0.75、ミヤコザサ節は 0.30 である。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

4. 分析結果

(1) 分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1、図2に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕

イネ、ムギ類（穎の表皮細胞）、キビ族型、ヨシ属、シバ属、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族A（チガヤ属など）

〔イネ科－タケ亜科〕

メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、クマザサ属型（チシマザサ節やチマキザサ節など）、ミヤコザサ節型（おもにクマザサ属ミヤコザサ節）、分類等

〔イネ科－その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

〔樹木〕

ブナ科（シイ属）、クスノキ科、アワブキ科、はめ絵パズル状（ブナ科ブナ属など）、その他

(2) 植物珪酸体の検出状況

1) 23-SD（図1）

遺構埋土の1層～9層について分析を行った。その結果、下位の9層から6層にかけては、メダケ節型やネザサ節型が比較的多く検出され、ミヤコザサ節型なども検出された。また、部分的にブナ科（シイ属）やクスノキ科などの樹木（照葉樹）も検出された。樹木は一般に植物珪酸体の生産量が低いことから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。なお、すべての樹種で植物珪酸体が形成されるわけではなく、落葉樹では形成されないものも多い。5層から1層にかけては、メダケ節型やネザサ節型が増加しており、ミヤコザサ節型はあまり見られなくなっている。また、1層、2層、5層ではイネ、1層と2層ではムギ類（穎の表皮細胞）が検出された。イネの密度は700～2,200個/gと比較的低い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている3,000個/gを下回っている。ムギ類の密度は700個/gと低い値であるが、穎（籾殻）は栽培地に残されることがまれであることから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。おもな分類群の推定生産量によると、全体的にメダケ節型やネザサ節型が優勢であり、とくに3層ではメダケ節型が卓越している。

2) 03-SD（図2）

遺構埋土の1層～13層について分析を行った。その結果、下位の11層ではメダケ節型やクスノキ科などが検出されたが、いずれも少量である。10層では、メダケ節型やネザサ節型が増加している。9層から8層にかけては、メダケ節型やネザサ節型が大幅に増加しており、ウシクサ族Aやブナ科（シイ属）も出現している。7層から1層にかけては、メダケ節型やネザサ節型が多量に検出され、部分的にウシクサ族A、ミヤコザサ節型、ブナ科（シイ属）、クスノキ科なども検出

された。また、1 層、3 層、5 層ではイネが検出された。イネの密度はいずれも 700 個 /g と低い値である。12 層と 13 層では、メダケ節型が多量に検出され、ネザサ節型も比較的多く検出された。また、ススキ属型、ウシクサ族 A、クスノキ科なども検出された。おもな分類群の推定生産量によると、全体的にメダケ節型やネザサ節型が優勢であり、とくに 6 層や 13 層ではメダケ節型が卓越している。

5. 考察

(1) 23-SD

遺構埋土の堆積当時は、メダケ属（メダケ節やネザサ節）などの竹笹類を主体としたイネ科植生であったと考えられ、遺跡周辺にはブナ科（シイ属）やクスノキ科などの照葉樹林が分布していたと推定される。また、埋土中部より上位の時期には、周辺で稲作およびムギ類の栽培が行われていたと考えられ、そこから何らかの形で遺構内にこれらの植物珪酸体が混入したと推定される。なお、遺跡の立地や周辺の植生などから、ここで行われた稲作は畑作の系統（陸稲）と考えられる。陸稲栽培の場合は、連作障害や地力の低下を避けるために輪作を行ったり休閑期間をおく必要があることから、一般にイネの密度は水田よりもかなり低くなる。

(2) 03-SD

遺構埋土の堆積当時は、メダケ属（メダケ節やネザサ節）などの竹笹類を主体としたイネ科植生であったと考えられ、遺跡周辺にはブナ科（シイ属）やクスノキ科などの照葉樹林が分布していたと推定される。また、埋土中部より上位の時期には、周辺で稲作が行われていたと考えられ、そこから何らかの形で遺構内にイネの植物珪酸体が混入したと推定される。前述と同様に、ここで行われた稲作は畑作の系統（陸稲）と考えられる。

文献

杉山真二（1987）タケ亜科植物の機動細胞珪酸体．富士竹類植物園報告，第 31 号 , p. 70-83.

杉山真二（1999）植物珪酸体分析からみた九州南部の照葉樹林発達史．第四紀研究 . 38（2）, p. 109-123.

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．考古学と植物学．同成社 , p. 189-213.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－. 考古学と自然科学 , 9, p. 15-29.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）－プラント・オパール分析による水田址の探査－. 考古学と自然科学 , 17, p. 73-85.

表１　熊本県、寺田山口遺跡における植物珪酸体分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

分類群	学名	地点・試料	A1区、23-SD									A1区、03-SD												
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
イネ科	Gramineae (Grasses)																							
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)		7	21			22					7		7		7								
ムギ類(穎の表皮細胞)	*Hordeum-Triticum* (husk Phytolith)		7	7																				
キビ族型	Paniceae type		7												6									
ヨシ属	*Phragmites* (reed)						7																	7
シバ属	*Zoisia*		7																					
ススキ属型	*Miscanthus* type		14	7					5									7					7	7
ウシクサ族A	Andropogoneae A type		7	63	7		7		5			22	26	35		7		21	20	7			22	7
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)																							
メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*		97	134	245	118	88	44	42	48	21	94	91	159	124	183	287	198	239	165	68	8	166	423
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa*		118	105	72	28	66	52	32	27	42	151	78	131	53	135	174	113	109	79	53		123	40
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*)			7	29	14			11				7			27		7	14	14				13
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. *Miyakozasa*		35		7			22	11	7	7	29	20	21		20	13	49		14			14	
未分類等	Others		83	91	50	42	37	66	16	34	28	86	26	28	12	47	40	99	75	57	45		43	34
その他のイネ科	Others																							
表皮毛起源	Husk hair origin		7	7				15			7		7	7	12	7	7	14	7					7
棒状珪酸体	Rod□ shaped		228	141	86	42	29	37	5	48	42	166	65	180	59	196	267	332	150	136	23	15	108	195
未分類等	Others		477	365	403	320	302	294	138	225	201	360	300	429	306	501	548	564	499	445	128	38	490	518
樹木起源	Arboreal																							
ブナ科(シイ属)	*Castanopsis*		14	14	22				5		7		7	21			7		7	7			29	
クスノキ科	Lauraceae		14	21		7		7		7		14			12	7	7	7	14	14	15	8	29	7
アワブキ科	Sabiaceae							7						7										
はめ絵パズル状(ブナ属など)	Jigsaw puzzle shaped (*Fagus* etc.)			7																				
その他	Others		21	14	7	28	7	7	16	7	14	22	7	21	12	14	7	14	14	22	8		29	13
植物珪酸体総数	Total		1141	1005	928	599	566	552	287	403	367	951	633	1044	594	1150	1356	1425	1147	961	339	68	1060	1270

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/m²・cm）：試料の仮比重を1.0と仮定して算出

イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)		0.20	0.62			0.65					0.21		0.20		0.20								
ヨシ属	*Phragmites* (reed)						0.46																	0.42
ススキ属型	*Miscanthus* type		0.17	0.09					0.07									0.09					0.09	0.08
メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*		1.12	1.55	2.84	1.37	1.02	0.51	0.49	0.55	0.24	1.09	1.06	1.84	1.43	2.12	3.33	2.29	2.77	1.91	0.79	0.09	1.92	4.91
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa*		0.56	0.51	0.35	0.13	0.32	0.25	0.15	0.13	0.20	0.73	0.38	0.63	0.25	0.65	0.83	0.54	0.52	0.38	0.25		0.59	0.19
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*)			0.05	0.22	0.10			0.08				0.05			0.20		0.05	0.10	0.11				0.10
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. *Miyakozasa*		0.10		0.02			0.07	0.03	0.02	0.02	0.09	0.06	0.06		0.06	0.04	0.15		0.04			0.04	

タケ亜科の比率（%）

メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*		63	73	83	85	76	62	65	79	52	57	69	73	85	70	79	76	82	78	76	100	75	94
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa*		32	24	10	8	24	30	20	19	43	38	24	25	15	21	20	18	15	16	24		23	4
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*)			3	6	6			11				3			7		2	3	4				2
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. *Miyakozasa*		6		1			8	4	3	5	5	4	2		2	1	5		2			2	

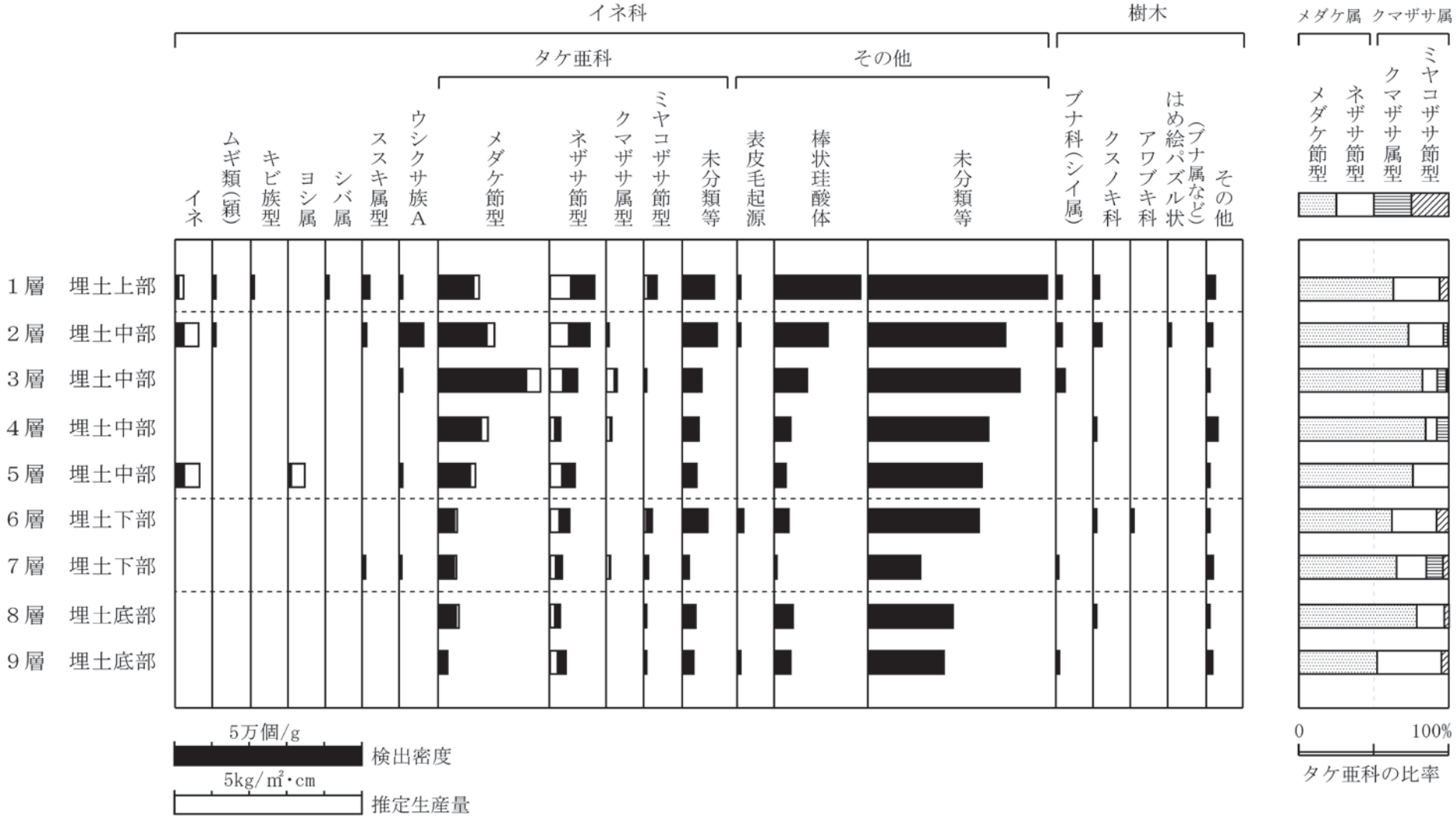
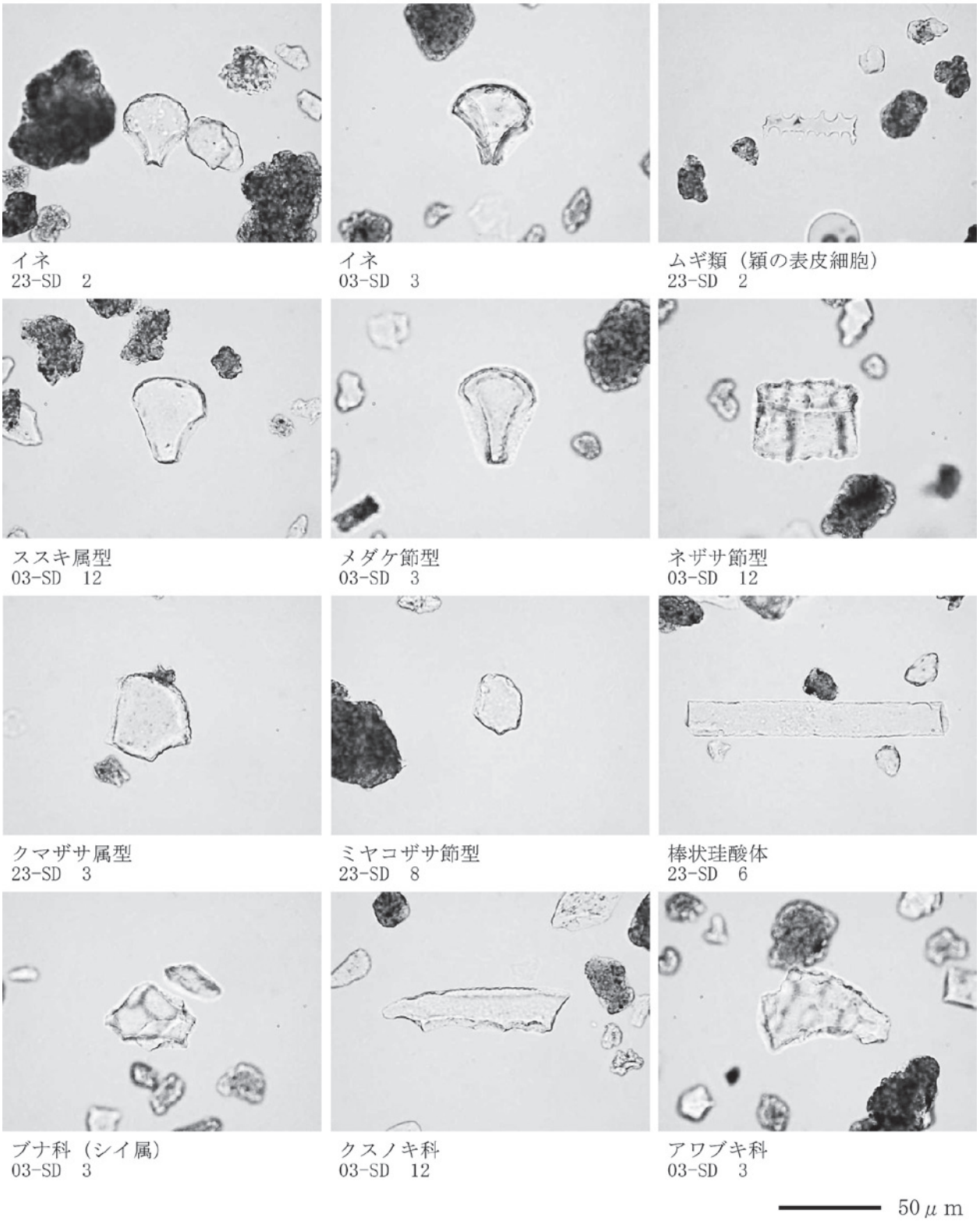


図1 熊本県、寺田山口遺跡 23-SD における植物珪酸体分析結果



寺田山口遺跡の植物珪酸体（プラント・オパール）

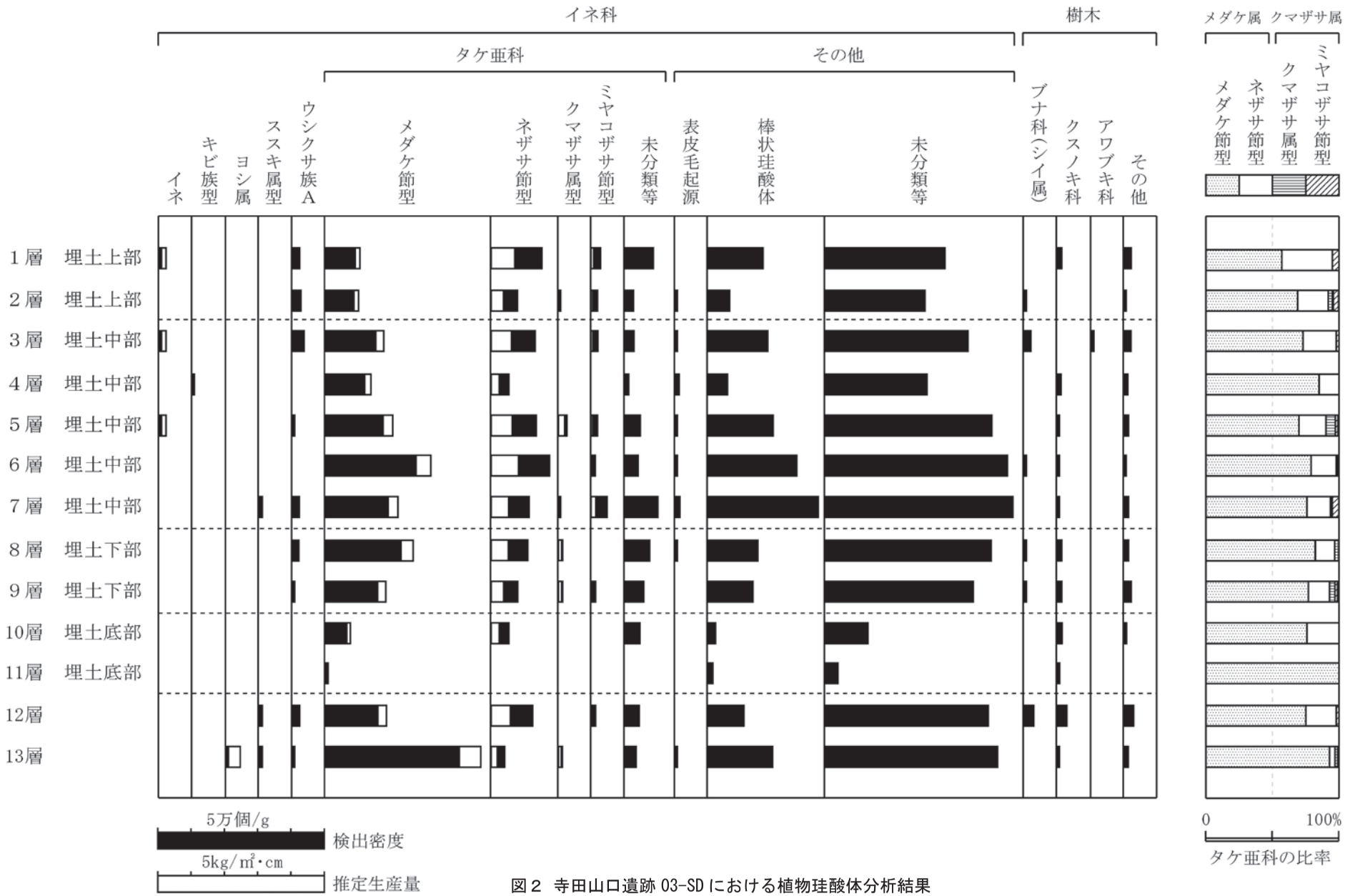


図２ 寺田山口遺跡 03-SD における植物珪酸体分析結果

Ⅱ．寺田山口遺跡におけるリン・カルシウム含量分析

１．はじめに

土壌中に含まれるリンやカルシウムの起源としては、土壌の母材、動物遺体、植物遺体などがある。また、遺跡の生活面や遺構内には遺体、排泄物、代謝物、食物残渣、燃料灰などに由来するリンやカルシウムが蓄積している。カルシウムは一般に水に溶解しやすいが、リンは土壌中の鉄やアルミニウムと強く結合して難溶性の化合物となるため、土壌中における保存性が高い。このようなリンやカルシウムの性質を利用して､墓状遺構などにおける生物遺体（人骨など）の確認、および生活面や遺構面の確認などが試みられている。

２．試料

分析試料は、010-SK の埋土（１、２層)、土坑の地山層、および南側の地山層から採取された計４点である。

３．分析方法

エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析システム（日本電子㈱製，JSX3201）を用いて、元素の同定およびファンダメンタルパラメータ法（FP 法）による定量分析を行った。試料の処理法は次のとおりである。

１）試料を絶乾（105℃・24 時間)

２）メノウ製乳鉢を用いて試料を粉砕

３）試料を塩化ビニール製リング枠に入れ、圧力 15t/　でプレスして錠剤試料を作成

４）測定時間 300 秒、照射径 20mm、電圧 30keV、試料室内真空の条件で測定

４．分析結果

各元素の定量分析結果（wt%）を表１に示し、リン酸（Ｐ２０５）とカルシウム（CaO）の含量を図１に示す。

５．考察

一般に、未耕地の土壌中におけるリン酸含量は 0.1 ～ 0.5%程度、耕地土壌でリン酸肥料が投入された場合は 1.0%程度である。農耕地では施肥による影響が大きく、目的とする試料の分析結果のみから遺構・遺物内における生物遺体の存在を確認するのは困難である。このため、比較試料（遺物・遺構外の試料）との対比を行う必要がある。

分析の結果、リン酸含量は遺構埋土（１層、２層）では 1.21%および 1.11%であり、地山層の 1.03%および 0.75%よりも比較的高くなっている。カルシウム含量は、遺構埋土では 0.81%および 0.64%であり、地山層の 0.57%および 0.50%よりも比較的高くなっている。

以上の結果から、010-SK の内部にはリン酸やカルシウムを多く含む何らかの生物遺体が存在していた可能性が考えられが、遺構埋土の上位層について検討が行われていないことから、後代の農耕に伴う施肥などの影響も否定できない。

文献

竹迫 紘（1993）リン分析法．日本第四紀学会編．四紀試料分析法２，研究対象別分析法．東京大学出版会，p.38-45.

単位：wt(%)

地点・試料		10	11	12	13
原子№	化学式				
11	Na_2O	0.122	0.073	0.047	0.133
12	MgO	0.962	1.060	0.689	0.867
13	Al_2O_3	29.753	28.847	34.647	37.718
14	SiO_2	49.049	50.708	46.037	40.035
15	P_2O_5	1.205	1.116	1.032	0.749
16	SO_3	0.027	0.090	0.168	0.371
19	K_2O	1.484	1.519	0.627	1.043
20	CaO	0.814	0.638	0.573	0.498
22	TiO_2	1.768	1.780	1.957	2.017
23	V_2O_5	0.047	0.044	0.001	0.033
25	MnO	0.499	0.478	0.475	0.560
26	Fe_2O_3	14.135	13.510	13.566	15.803
37	Rb_2O	0.025	0.020	0.013	0.014
38	SrO	0.024	0.026	0.059	0.032
40	ZrO_2	0.087	0.092	0.110	0.127

表１　熊本県、寺田山口遺跡における蛍光Ｘ線分析結果

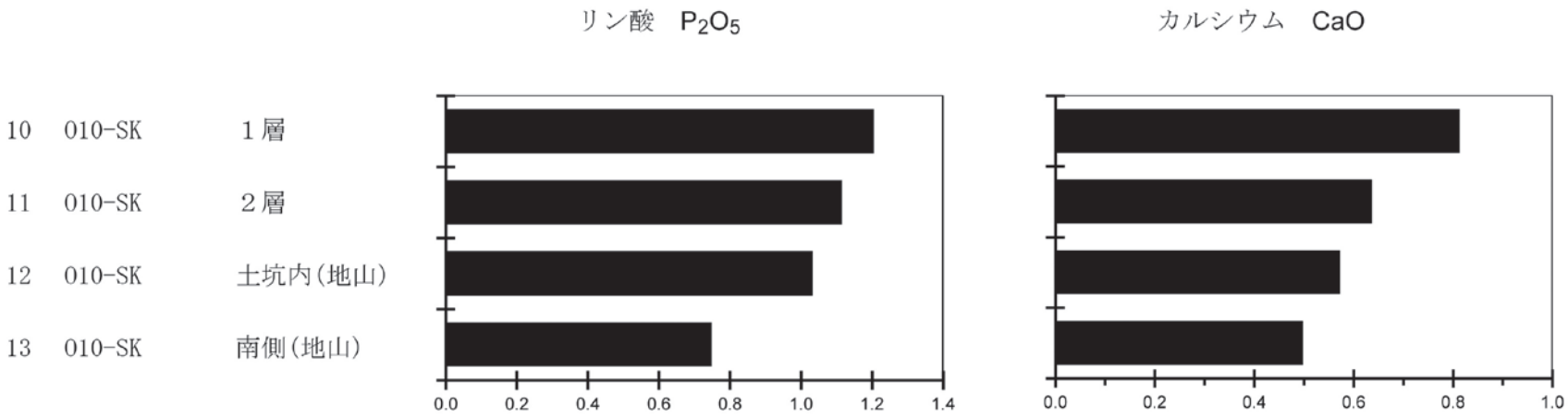


図１　熊本県、寺田山口遺跡の各試料におけるリン・カルシウム含量（wt%）

遺構法量表

凡例

A 区のグリッドは Y:-38910m を E0、X:-8630m を N0、B 区のグリッドは Y:-39045m を E0、X:-8440m を N0 とする。

長軸・短軸：各辺の 1/2 を結んだ線を軸とし長い方を長軸とする。

円形の遺構については最も長い部分と短い部分を測る。

深　　さ：中央部の安定した部分を検出面から測る。

実　　番：実測番号の略称である。

断面形状

すり鉢状：底が尖った V 字のような形状とする。

皿状：底がなだらかで深さが浅い形状とする。

凹字状：底が平坦で逆台形状とする。

表①縄文時代早期 連結土杭法量表

	区	遺構番号	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	長軸方位	平面形状	断面形状	備考	遺物　実	遺物　図面番号
1	A	42	S60/E5	1.0	0.9	0.4	N-23°　-W	楕円	凹字状			
2	A	46	S60/E5	3.8	1.0	0.4	N-85°　-E	楕円	凹字状	42-SK に切られる		
3	A	50	S60/E5	0.7 ∽	0.9	0.2	N-38°　-W	楕円	凹字状	53-SK に切られる		
4	A	55	S60/E0	1.1	0.75	0.1	N-50°　-E	楕円	皿状			
5	A	53	S60/E5	3.8	0.9 ∽	0.35	N-25°　-W	楕円	凹字状			
6	A	56	S60/E0	1.1 ∽	1.1	0.2	N-68°　-W	隅丸方形	皿状	41-SK に切られる		
7	A	41	S60/E0	0.45 ∽	0.6	0.2	N-10°　-W	楕円	凹字状	53-SK に切られる		
8	A	64	S60/E0	0.6 ∽	0.2 ∽	0.15	-	楕円	皿状	40-SK に切られる		
9	A	65	S60/E0	0.4 ∽	0.2	0.1	-	楕円	皿状？	40.64.63.53-SK に切られる		
10	A	60	S60/E0	0.42 ∽	0.4 ∽	0.1	-	楕円？	皿状？	66.56.53-SK に切られる		
11	A	61	S60/E0	0.5 ∽	0.4 ∽	0.1	N-25°　-W	楕円？	皿状？	60.56-SK に切られる		
12	A	62	S60/E0	0.65 ∽	0.35 ∽	0.1	-	楕円？	皿状？	61.56.60-SK に切られる		
13	A	63	S60/E0	0.2 ∽	0.1 ∽	0.1	-	楕円？	皿状？	60.53-SK に切られる		
14	A	66	S60/E0	0.22 ∽	0.16 ∽	-	-	楕円？	皿状？	53.56-SK に切られる		
15	A	40	S60/E0	2.8 ∽	0.95	0.25	N-60°　-E	楕円	皿状	48.49.53-SK に切られる		
16	A	39	S55/E0	3.0	0.8	0.4	N-5°　-E	楕円	凹字状	49-SK に切られる		
17	A	45	S60/E0	2.7 ∽	0.85	0.7	N-60°　-E	楕円	凹字状	39.49-SK に切られる	S-4. No.129	Pl.75-1.　79-3
18	A	49	S60/E0	1.1	1.1	0.3	N-40°　-W	楕円	凹字状？		No.103・119・121・124	Pl.80-4・5・8・2
19	A	48	S55/E5	2.0	1.2	0.1	N-5°　-E	楕円	皿状			
20	A	44	S60/E0	2.7	1	0.5	N-145°-E	楕円	凹字状	45-SK に切られる		
21	A	70	S60/W5	0.4	0.2	0.15	N-50°　-W	楕円	すり鉢状			
22	A	74	S60/W5	0.68 ∽	0.7 ∽	0.15	N-20°　-W	楕円	凹字状	70-SK に切られる		
23	A	51	S60/E0	2.5	0.9	0.6	N-60°　-E	楕円	凹字状	43-SK に切られる	No.127・128	Pl.79-1・2
24	A	43	S55/W5	1.3 ∽	0.9	0.6	N-70°　-E	楕円	凹字状	44-SK に切られる		
25	A	47	S55/W5	0.6 ∽	0.6 ∽	0.3	N-70°　-E	楕円	凹字状	南西部は調査区外。57-SK に切られる		
26	A	57	S55/W5	0.8 ∽	0.7 ∽	0.45	N-70°　-E	楕円	凹字状	南西部は調査区外		
27	A	37	S10/W20	2.6	0.75	0.2	N-30°　-W	楕円	皿状		No.130	Pl.79-4
28	A	38	S60/E5	3.3	1.0	0.35	N-85°　-E	楕円	凹字状			

表②縄文時代後・晩期土杭法量表

	区	遺構番号	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	長軸方位	平面形状	断面形状	備考	遺物　実	遺物　図面番号
1	A	129	N10/W15	1.0	0.8	0.3	N-20°　-E	隅丸方形	凹字状			
2	A	21	N10/W10	1.2	0.6	0.25	N-60°　-E	隅丸方形	逆台形状		S-1・5	Pl.76-2・3
3	A	22	N10/W10	1.5	0.75	0.2	N-60°　-E	隅丸方形	逆台形状	21.129-SK に切られる	S-1	Pl.76-2
4	A	08	N25/W15	1.5	1.0	0.45	N-65°　-E	隅丸方形	凹字状		S-7・8. No.122・123・125・126	Pl.73.74.75-4・5. 79-14・5・12. 80-3
5	A	09	N25/W10	1.45	0.74	0.2	N-20°　-E	楕円	凹字状			
6	A	140	N30/W30	1.4	1.0	0.25	N-10°　-E	楕円	？		No.104・110	Pl.80-11. 81-3
7	A	115	N30/W30	3.0	2.9	0.75	N-40°　-W	楕円	逆台形状		S-2・3. No.111 ～ 114・116 ～ 118・131	Pl.75-2・3. 79-6. 80-1・10・9. 79-8. 81-2. 79-10・11
8	A	117	N30/W30	1.4	1.1	0.35	N-5°　-W	楕円	逆台形状			
9	A	116	N35/W30	1.3	0.6	0.3	N-40°　-E	楕円	逆台形状			
10	A	126a	N35/W30	0.6	0.5	0.15	N-45°　-E	隅丸方形	逆台形状		No.101	Pl.81-1
11	A	126b	N35/W30	1.9	1.0	0.58	N-15°　-W	楕円	逆台形状	126a-SK に切られる		
12	A	110	N40/W50	1.8	1.0 ～	0.25	N-80°　-E	楕円	逆台形状	西側を撹乱に切られる		
13	A	05	N5/W5	1.1	0.9	0.4	N-60°　-W	卵形	逆台形状			
14	A	124	N15/W20	2.3	1.6	0.72	N-30°　-E	楕円	逆台形状			
15	A	25	S20/E5	1.6	1.0	0.4	N-65°　-E	隅丸方形	凹字状			
16	A	12	S25/E15	2.0	0.75	0.25	N-5°　-W	楕円	凹字状			
17	A	29	S25/W10	2.4	1.2	0.15	N-70°　-E	楕円	皿状			
18	A	127	N0/W30	0.9	0.7	0.7	N-20°　-E	卵形	凹字状		No.102・107	Pl.80-6. 79-13
19	A	133	N0/W25	1.1	0.9	0.1	N-20°　-W	隅丸方形	逆台形状	2 つの重複した土坑		
20	A	134	S5/W25	0.7	0.46	0.3	N-60°　-E	楕円	逆台形状？			

表②縄文時代後・晩期土杭法量表

	区	遺構番号	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	長軸方位	平面形状	断面形状	備考	遺物　実	遺物　図面番号
21	A	135	N0/W20	2.0	1.4	0.25	N-65°　-E	楕円	逆台形状			
1	B1	001	N30/W25	1.7	0.95	0.52	N-5°　-E	楕円	逆台形状	002-SK に切られる	S-28No.203	Pl.82-1
2	B1	002	N30/W25	1.0 〜	0.5 〜	0.25	N-12°　-E	楕円	逆台形状	003-SK に切られる		
3	B1	003	N30/W25	1.8	1.3	0.9	N-10°　-E	楕円	皿状		No.202	Pl.81-6
4	B1	153(007)	N30/W25	1.6	0.9	0.3	N-60°　-E	楕円	逆台形状			
5	B1	008	N30/W25	0.8	0.8	0.4	N-32°　-W	楕円	逆台形状			
6	B1	026	N15/W20	0.75	0.8	0.2	N-90°　-E	隅丸方形	逆台形状			
7	B1	156	N5/W20	1.7	1.4	0.5	N-10°　-W	隅丸方形	逆台形状			
8	B1	157	N5/W20	1.0 〜	1.0	0.3	N-10°　-W	楕円	逆台形状	156-SK に切られる		
9	B1	155(100)	N5/W20	1.2	1.0	0.4	N-70°　-E	隅丸方形	逆台形状			
10	B1	168	N0/W15	0.85	0.75	0.1	N-90°　-E	楕円	逆台形状			
11	B1	010	N30/W25	1.7	0.8	0.4	N-90°　-E	楕円	逆台形状		No.37	Pl.81-4
12	B1	011	N25/W25	1.5	0.7	0.35	N-40°　-E	隅丸方形	逆台形状			
13	B1	012	N25/W25	1.5	0.7	0.35	N-75°　-E	楕円	逆台形状			
14	B1	013	N25/W25	1.5	0.8	0.4	N-70°　-E	隅丸方形	逆台形状			
15	B1	002b	N40/W20	1.3 〜	0.9	0.45	N-20°　-E	隅丸方形	逆台形状			
16	B1	170	N30/W35	1.0	0.9	0.6	N-10°　-E	楕円	逆台形状			
17	B1	152(119)	N30/W20	1.3 〜	0.8	0.45	N-20°　-E	隅丸方形	逆台形状		No.201	Pl.81-5
18	B1	135	N0/W5	2.5	1.0	0.15	N-30°　-W	楕円	皿状			
19	B1	034	N10/W25	0.9	0.7	0.3	N-6°　-E	楕円	逆台形状			
20	B1	033	N10/W20	1.35	1.0	0.35	N-70°　-E	楕円	逆台形状			
21	B1	036	N10/W15	0.8	0.7	0.3	N-62°　-W	楕円	凹字状			
22	B1	035	N15/W15	1.9	1.3	0.5	N-45°　-E	楕円	逆台形状			
23	B1	029	N15/W15	1.1	0.9	0.3	N-90°　-E	楕円	逆台形状			

表②縄文時代後・晩期土杭法量表

	区	遺構番号	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	長軸方位	平面形状	断面形状	備考	遺物　実	遺物　図面番号
24	B1	028	N20/W15	0.4	0.3	0.05	N-41°　-E	楕円	皿状			
25	B1	030	N15/W15	0.7	0.6	0.2	N-3°　-W	楕円	逆台形状			
26	B1	137	N15/W20	0.7	0.6	0.2	N-70°　-E	楕円	逆台形状			
27	B1	032	N15/W20	0.7	0.6	0.2	N-90°　-W	楕円	逆台形状			
28	B1	048	N20/W25	1.2	0.8	0.2	N-60°　-E	楕円	逆台形状			
29	B1	113	N25/W15	0.85	0.65	0.4	N-90°　-E	隅丸方形	逆台形状			
30	B1	006	N25/W20	1.3	0.8	0.25	N-3°　-E	方形	逆台形状			
31	B1	169	N30/W35	1.5	0.75〜	0.3	N-4°　-E	方形	逆台形状	撹乱に切られる		
1	B2	13	S35/E0	1.3	1.0	0.25	N-55°　-E	楕円	逆台形状	南西部は調査区外		
2	B2	15	S35/E0	1.6	0.9	0.3	N-30°　-W	隅丸方形	皿状	51-SK に切られる		
3	B2	14	S35/E0	1.3〜	0.7〜	0.3	-	円？	逆台形状	13・15-SK に切られる		
4	B2	51	S35/E0	2.1	0.9	0.2	N-85°　-E	楕円	逆台形状			
5	B2	06	S30/E0	1.8	1.2	0.3	N-15°　-E	楕円	逆台形状			
6	B2	12	S30/E5	1.1	0.4	0.3	N-45°　-W	楕円	皿状	北東半分は調査区外。		
7	B2	05	S25/E0	2.4〜2.6	-	0.6	-	楕円？	台形状？	東側は調査区外。03・04-SK に切られる		
8	B2	03	S25/E0	2.0〜	-	0.4〜	-	楕円？	台形状？	東側は調査区外。04-SK に切られる		
9	B2	08	S20/W5	2.4	1.8	0.2	N-65°　-E	楕円	皿状			
10	B2	09	S20/W5	3.5	2.7	0.6	N-70°　-E	楕円	U 字状	08・28-SK に切られる		
11	B2	35	S30/E0	1.6	1.6	0.2	N-80°　-E	楕円	皿状	06-SK に切られる		
12	B2	01	S25/E0	1.4	1.0	0.45	N-60°　-E	楕円	U 字状			
13	B2	04	S25/E0	2.0〜	2.0	0.6	N-40°　-E	楕円	U 字状	01-SK に切られる		
14	B2	16	S25/W5	1.8	1.3	0.25	N-50°　-W	楕円	逆台形状	04-SK に切られる		
15	B2	19	S25/W5	0.8	0.8	0.55	N-50°　-W	楕円	逆台形状			
16	B2	20	S25/W5	1.8	1.6	0.5	N-15°　-E	楕円	逆台形状	19-SK に切られる		

表②縄文時代後・晩期土杭法量表

	区	遺構番号	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	長軸方位	平面形状	断面形状	備考	遺物　実	遺物　図面番号
17	B2	36	S25/W5	2.15	1.1〜	0.5	N-20°　-E	楕円	台形状	07・21-SK に切られる		
18	B2	07	S25/W10	1.8	1.5	0.65	N-105° -E	楕円	逆台形状	21-SK に切られる		
19	B2	53	S25/W10	1.4	1.0	0.3	N-60°　-E	楕円	逆台形状	11-SK に切られる		
20	B2	11	S20/W10	2.2	1.8	0.55	N-60°　-E	楕円	逆台形状	南西部は調査区外		
21	B2	21	S25/W5	1.15	0.8	0.2	N-45°　-E	楕円	逆台形状			
22	B2	28	S20/W10	2.2	1.8	0.35	N-25°　-W	楕円	逆台形状	08・11-SK に切られる		
23	B2	41	S15/W10	1.5	1.1	0.2	N-3°　-E	楕円	逆台形状			
24	B2	40	S15/W15	2.1〜	1.6	0.2	N-55°　-E	楕円	逆台形状	ピット群に切られる		
25	B2	65	S15/W10	1.0〜	0.6	0.15	N-65°　-E	楕円	逆台形状			
26	B2	42	S20/W10	2.0	0.85	0.2	N-35°　-W	楕円	逆台形状	南西半分は調査区外		
27	B2	39	S15/W10	2.4	1.2	0.4	N-105° -E	楕円	逆台形状	65-SK に切られる		
28	B2	52	S20/W5	0.95	0.6	0.3	N-5°　-W	楕円	逆台形状			
29	B2	50	S20/W5	1.7	1.2	0.3	N-10°　-W	楕円	逆台形状			
30	B2	23	S10/W5	2.0	(1.2)	0.35	N-20°　-E	楕円	逆台形状	東側半分が調査区外		
31	B2	43	S10/W5	2.0	(1.2)	0.25	N-20°　-E	楕円	逆台形状	23-SK に切られる		
32	B2	26	S10/W10	1.4	1.1	0.4	N-20°　-E	楕円	逆台形状			
33	B2	27	S10/W5	1.8〜	(1.2)	0.2	N-60°　-E	楕円	逆台形状	北東部は調査区外。ピットに切られる		
34	B2	37	S10/W15	1.7〜	(1.1)	0.25	N-80°　-E	楕円	逆台形状			
35	B2	38	S10/W15	1.3〜	(1.1)	0.2	N-80°　-W	楕円	逆台形状			
36	B2	61	S5/W20	(3.0)	1.9	0.5	N-20°　-E	隅丸方形	逆台形状	南西側は調査区外。25-SD.63-SD に切られる		
1	B3	2 号	N10/W35	0.85	0.65	0.2	N-70°　-E	楕円	凹字状	黒曜石、土器片出土。焼土あり。101 号 SI に関係		
2	B3	1 号	N15/W40	2.5〜	2.5	0.65	N-30°　-E	楕円	逆台形状	3 号 . 11 号 . 13 号土坑に切られる		
3	B3	3 号	N15/W40	2.3	1.8	0.5	N-60°　-W	楕円	逆台形状	9 号 . 11 号 . 13 号土坑に切られる		
4	B3	36 号	N15/W40	2.0	1.1	0.7	N-50°　-W	楕円	逆台形状	1 号 . 3 号 . 12 号土坑に切られる		

表②縄文時代後・晩期土杭法量表

	区	遺構番号	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	長軸方位	平面形状	断面形状	備考	遺物　実	遺物　図面番号
5	B3	12 号	N15/W40	0.9 ∽	1.5 ∽ 1.7	0.5	-	楕円	逆台形状	南西半分は調査区外		
6	B3	13 号	N15/W40	1.3 ∽	1.3	0.65	N-40° -E	楕円	すり鉢状	南西半分は調査区外。12 号土坑に切られる		
7	B3	35 号	N15/W40	1.3 ∽	1.3	0.65	N-65° -E	楕円	すり鉢状	南西部は調査区外。9.13 号土坑に切られる		
8	B3	9 号	N15/W30	1.4	1.1	0.45	N-20° -E	楕円	逆台形状	11 号土坑に切られる		
9	B3	11 号	N15/W40	2.2	1.2	0.7	N-5° -W	楕円	凹字状			
10	B3	18 号	N20/W40	1.7	1.2	0.2	N-40° -E	楕円	逆台形状			
11	B3	14 号	N20/W30	1.6 ∽	1.5 ∽	0.7	-	楕円	凹字状	南西半分は調査区外。18.35 号土坑に切られる		
12	B3	24	N20/W35	1.25	0.8	0.65	N-5° -W	楕円	すり鉢状			
13	B3	20	N20/W35	1.6	0.8	0.5	N-60° -W	楕円	すり鉢状			
14	B3	28 号	N20/W40	1.8	1.0	0.45	N-4° -E	楕円	凹字状			
15	B3	26 号	N20/W35	1.4	1.1	0.35	N-3° -W	楕円	凹字状			
16	B3	10 号	N25/W40	2.0	1.1	0.25	N-7° -E	楕円	凹字状	28 号土坑に切られる		
17	B3	6 号	N10/W30	1.0	0.8	0.4	N-3° -E	楕円	すり鉢状			
18	B3	21	N5/W25	0.6	0.56	0.2	-	円	すり鉢状			

表③縄文時代後∽晩期竪穴建物法量表

	区	遺構番号	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)	pit 数	pit 直径 (cm)	最大柱痕 (cm)	pit 深さ (cm)	長軸方位	炉	備考	遺物　実番	遺物　図面番号
1	B3	101 号	N15/W30	4.5	3.0	-	7	30	14	30	N-15° -W	土坑 (0.85 × 0.65 × 0.2)			

表④弥生時代 竪穴建物法量表

	区	遺構番号	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)	pit 数	pit 直径 (cm)	最大柱痕 (cm)	pit 深さ (cm)	長軸方位	炉	備考	遺物　実番	遺物　図面番号
1	B1	037	N10/W15	4.1	3.2	32.0	5	20 ∽ 36	16	30 ∽ 40	N-115° -W	-	床面を 150-SK に切られる		

表⑤古代土杭法量表

	区	遺構番号	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	長軸方位	平面形状	断面形状	備考	遺物　実	遺物　図面番号
1	A	24	S20/E10	1.1	0.7	0.35	N-55° -E	隅丸方形	凹字状			
1	B1	150	N10/W15	3.5	2.8	0.5	N-100° -W	隅丸方形	逆台形状	床面の周りに幅 20 ∽ 30 cm、深さ約 15 cmの溝		

表⑥堀立柱建物法量表

	区	遺構番号	グリッド	桁行（m）	梁行（m）	床面積（m2）	桁×梁（間）	梁－間（m）	pit数	pit直径（cm）	最大柱痕（cm）	pit深さ（cm）	長軸方位	炉	備考	遺物実番	遺物　図面番号
1	A	125	N0/W20	4.4	3.7	16.28	2×2	2.1	8	24～30	10	40～50	N-18°　-W	－			
2	A	130	N0/W30	4.2	3.0	12.6	2×1	2.1	6	25～40	10	20～40	N-20°　-W	－			
3	A	131	N0/W30	4.2	2.8	11.76	2×2	2.1	8	25～30	10	20～30	N-50°　-W	－			
4	A	06	N0/W5	3.6	2.8	10.08	2×2	1.8	7	20～25	10	20～30	N-55°　-W	－			
5	A	07	N0/W10	3.0～	2.5～	－	2×2	1.5	5	20～25	10	20～30	N-55°　-W	－			
6	A	132	N5/W25	3.6	3.2	11.52	2×2	1.8	9	30～50	15	40～50	N-25°　-W	－			
7	A	139	N10/W35	5.6	3.2	17.92	3×2	1.8	9	25～40	15	30～40	N-18°　-W	－	南西隅は調査区外		
8	A	122	N15/W20	3.6	3.4	12.24	2×2	1.8	9	20～35	15	10～25	N-15°　-W	－			
9	A	121	N15/W25	2.2	2.1	4.62	2×2	1.2	9	25～40	15	10～30	N-2°　-E	－			
10	A	146	N20/W20	3.8～	－	－	－	1.8	3	20～25	10	25～30	N-50°　-E	－			
11	A	128	N15/W25	2.5	2.2	5.5	2×2	1.5	7	25～40	15	10～30	N-13°　-W	－			
12	A	123	N25/W40	4.6	4.4	20.24	3×3	1.5	12	20～30	10	10～25	N-15°　-W	－			
13	A	120	N30/W45	2.5	3.0	7.5	2×2	1.8	7	25～40	10	10～30	N-20°　-W	－			
14	A	119	N30/W30	3.4	3.2	10.88	2×2	1.8	8	25	10	10～30	N-40°　-W	－			
15	A	118	N35/W35	3.6	3.2	11.52	2×2	1.8	8	25	10	30～40	N-25°　-W	－			
1	B1	163	N0/W20	1.2～	2.6	－	2～×2	1.2	5～	25～30	15	10～15	N-3°　-E	－			
2	B1	164	N15/W25	3.2	2.8	8.96	2×2	2.7	6	40～45	15	20～30	N-20°　-W	－			
3	B1	165	N5/W10	3.2	3.2	10.24	2×2	1.5	9	30～40	10	15～25	N-20°　-W	－			
4	B1	160	N25/W30	3.2	3.8	12.16	2×2	1.5	7	30～40	10	10～20	N-15°　-E	－			
5	B1.3	172	N25/W35	4.0	3.6	14.4	2×2	1.8	7	25～40	10	15～35	N-15°　-W	－			
6	B1.3	173	N25/W35	2.6	4.0	10.4	2×1	2.1	6	25～40	10	15～35	N-3°　-W	－			
7	B1.3	161	N25/W35	3.0	3.0～	9.0～	2×2	1.5	6	25～40	10	15～20	N-15°　-W	－			
8	B1.3	167	N30/W35	2.4～	2.4～	5.76～	2～×1～	2.4	3	35～40	15	20～50	N-45°　-W	－			
1	B2	1001	S15/W10	3.6	3.8	13.68	2×2～	1.8	7	35	10	10～50	N-5°　-W	－			
2	B2	1002	S15/W10	3.8	3.6	13.68	2×3～	1.5	8	25～40	10	20～30	N-2°　-W	－			
3	B2	1003	S15/W10	4.9	3.2～	15.68～	2×2～	1.5	7	25～40	10	25～30	N-5°　-E	－			
4	B2	1004	S10/W10	3.2～	2.8～	8.96～	2×2～	1.5	13	25～40	10	20～35	N-30°　-E	－			
5	B2	2001	S15/W10	4.0～	－	－	－	2.1	3	35～40	10	30～40	－	－			
6	B2	02	S30/E0	3.6	2.4	8.64	2×1～	1.8	6	25～30	10	30～35	N-5°　-W	－			
7	B2	66	S20/W15	3.6	1.8～	6.48～	2～×3	1.2	6	25～30	10	15～40	N-20°　-W	－			
8	B2	67	S10/W5	2.4～	1.2～	2.88～	2×2～	1.2	4	25～40	10	20～25	N-20°　-W	－			

遺物観察表

表１　遺構・遺物包含層出土石器観察表

図版番号	遺物番号	実測番号	登録番号	区	グリッド	遺構名	遺構種類	出土層位	器種	石材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	備考	Ph. No.
73	1	S-24	42	A	N25/W15	08	SK	一括	剥片	黒曜石	3.7	3.25	1.1	12.0	接合資料	50
73	2	S-25	35	A	N25/W15	08	SK	一括	剥片	黒曜石	3.0	3.4	1.5	10.4	接合資料	50
74	1	S-26	35・42	A	N25/W15	08	SK	一括	剥片・石核	黒曜石	3.2	2.7	2.8	21.8	接合資料	49
74	2	S-27	35	A	N25/W15	08	SK	一括	剥片	黒曜石	3.1	2.8	1.2	5.6	接合資料	50
75	1	S-4	A1-536	A	S60/E0	45	SK	－	敲石．磨石	砂岩	8.3	6.4	4.5	348.0	砂岩のためすり痕の判別困難	－
75	2	S-2	A2-776	A	N30/W30	115	SK	一括	打製石鎌	緑色片岩	6.4~	4.8	1.7	50.5	主要面は刃部と背面一部のみ。裏面から基部調整。背面は裏面から調整。刃部幅 4mm	44
75	3	S-3	A2-755	A	N30/W30	115	SK	埋１層	打製石斧	砂岩	5.9~	5.1	2.3	72.8	刃部は左	44
75	4	S-7	A-32	A	N25/W15	08	SK	一括	剥片	安山岩	7.6	4.8	1.2	38.5	使用痕あり	44
75	5	S-8	A1-523	A	N25/W15	08	SK	－	打製石斧	砂岩	24.5	12.6	4.3	1495.0		45
75	6	S-18	A2-847	A	N25/W20	144	SP	－	打製石斧	安山岩	11.8	4.8	1.7	128.7	先端部は欠損。基部は右側縁を粗く、左側側縁を丁寧に調整	45
75	7	S-20	A2-850	A	N30/W25	137	SP	一括	スクレーパー	安山岩	4.7	6.4	1.0	23.8	末端部に使用痕跡による細かい剥離	45
76	1	S-15	A-532	A	S60/E0	68	Pit	－	敲石．磨石		10.4	7.2	5.1	560.6	焼成を受けているのか風化が激しい。側縁の平坦部分に擦り跡。一方の端部に打撃痕跡。	45
76	2	S-1	A-50	A	N10/W10	21.22	SX	上層	打製石鎌	緑色片岩	9.6~	5.1~	1.4	94.1	主要面が最終剥離面。基本的に刃部から基部へ。裏面の表面はすれあり。背面中央はこちら側から最終調整あり。刃部幅 1 cm	44
76	3	S-5	A-54	A	N10/W10	21	SX	上層	磨石	砂岩	8.8	9.4	2.8	290.9	摩滅がひどく使用痕の判別困難	44
76	4	S-21	A2-787	A	N40/W30	100	SD	表土一括	打製石斧	緑泥片岩	(11.6)	(5.3)	(1.3)	(95.1)	刃部と基部の裏面が欠損。側面から刃部に向けて剥離を行う。	45
76	5	S-6	A1-528	A	N30/W40	103	SD	埋１層	磨製石斧		11.5	4.0	2.5	161.5	側面を丁寧に磨いている。先端部は欠損。斜め方向の磨き痕跡が残存	44
77	1	S-10	A-232-1	A	N40/W50	100	SD	埋１層	スクレーパー	黒曜石	3.8	1.7	0.5	3.6	縦長剥片。側片に幅 5mm の細かい剥離。使用痕が残存。先端部は欠損	45
77	2	S-13	A-232-2	A	N40/W50	100	SD	１層	石核	黒曜石	1.9	3.7	1.9	12.5	打面を調整しながら、１方向からある程度剥片を採る	46
77	3	S-19	A2-873	A	N0/W45	103	SD	埋１層	打製穂摘具	緑泥片岩	(4.4)	(8.2)	0.8	(34.2)	刃部側の先端に幅約１cmの剥離を施す	45
77	4	S-22	A-5	A	－	03	SD	黒色土層一括	スクレーパー	安山岩（サヌカイト）	8.7	4.5	2.0	76.2	スクレーパーもしくは尖頭器。打点と反対方向の先端部と側面の一部に細かい剥離を施す	45
77	5	S-12	A2-590	A	N30/W20	－	－	表土一括	石核	黒曜石	4.4	2.9	1.7	17.7	細かい剥離により刃部を形成。石核を利用したスクレーパー	46
78	1	S-23	A-47	A	S10/E10	－	－	一括	石核	黒曜石	3.6	5.0	1.6	21.9	礫面が残存。幅１cmほどの縦長の剥片を採っている	46
78	2	S-9	A2-772	A	N40/W45	－	－	一括	石匙	黒曜石	(2.1)	3.2	0.5	2.6	基部及び側縁に細かい剥離あり	45
78	3	S-11	A-470	A	N30/W40	－	－	－	石核	黒曜石	2.2	3.8	2.1	14.8	細かい剥離痕跡が残存	46
78	4	S-14	A2-592	A	－	－	－	一括	石核	黒曜石	2.1	2.8	2.5	11.5	１方向からの細かい剥離痕跡が残存	46
78	5	S-16	A-541	A	－	－	－	一括	敲石．磨石		7.1	9.4	5.9	554.5	平坦な面の両側に擦り痕跡。先端の面に顕著な敲打痕	45
78	6	S-17	A-525	A	－	－	－	一括	敲石．磨石．石皿		8.8	7.6	4.1	369.2	平坦な面の両側に擦り痕跡。片側の面と側縁には敲打痕。	45

表２　遺構・遺物包含層出土縄文土器観察表

図面番号	遺物番号	実測番号	登録番号	区	グリッド	遺構名	遺構種類	出土層位	種別	器種	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調（外）（内）	焼成	調整（外）	調整（内）	備考	残存率	Ph. No.
79	1	127	A1-432	A	S60E0	51	SK	－	縄文	深鉢	口縁部	－	6.65~	－	長石、角閃石	外）にぶい黄橙 10YR7/4 ～灰黄褐 10YR5/2 内）灰黄褐 10YR4/2	良好	条痕、ヘラ沈線	ナデ	無文土器。穿孔有り。	1/10 以下	29
79	2	128	A1-431	A	S60E0	51	SK	－	縄文	深鉢	口縁部	－	4.75~	－	長石、角閃石、石英、白色砂粒	外）にぶい黄褐 10YR4/3 内）橙 7.5YR6/6	良好	条痕	ナデ、ユビオサエ	無文土器。	1/10 以下	29
79	3	129	A1-439	A	S60E0	45	SK	－	縄文	深鉢	口縁部	－	6.6~	－	長石、角閃石、白色砂粒	外）黒褐 10YR3/2 内）にぶい黄橙 10YR6/4	良好	ナデ、口唇部丁寧なナデ	ナデ	無文土器。	1/10 以下	29
79	4	130	A1-420	A	S60W20	37	SK	2 層	縄文	深鉢	胴部	－	9.0~	－	長石、角閃石	外）黄橙 10YR8/6 ～橙 7.5YR6/6 内）にぶい黄褐 10YR5/3 ～黒褐 10YR3/1	良好	ナデ	ナデ	無文土器。内外面、スス付着。	1/10 以下	29
79	5	123	A1-36	A	S25W15	08	SK	－	縄文	深鉢	口縁～胴部	(24.1)	9.8~	－	長石、角閃石、石英	外）明黄褐 10YR6/6 ～橙 7.5YR6/6 内）にぶい褐 7.5YR5/3、褐灰 7.5YR4/1	良好	横方向のナデ	横方向のﾅﾃﾞ	黒川式。被熱している。	1/10 以下	－
79	6	111	A2-753	A	S30W30	115	SK	－	縄文	深鉢	口縁部	－	5.7~	－	長石、角閃石、石英	外）明黄褐 10YR7/6 ～灰黄褐 10YR5/2 内）褐灰 10YR4/1	良好	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞのちﾕﾋﾞｵｻｴ、ヘラミガキ	黒川式。	1/10 以下	－
79	7	115	A2-735	A	N30W30	－	－	－	縄文	深鉢	口縁部	－	5.1~	－	長石、角閃石、石英	外）内）黒 7.5Y2/1	良好	条痕のちナデ	横方向のナデ	黒川式。精製。	1/10 以下	－
79	8	116	A2-764	A	N30W30	115	SK	－	縄文	深鉢	口縁～胴部	－	7.9~	－	長石、角閃石、石英	外）灰 5Y4/1 ～にぶい黄褐 10YR5/3 内）灰 5Y4/1	良好	条痕のちナデ、口縁部丁寧なナデ	条痕のちナデ	黒川式。精製か。	1/10 以下	－
79	9	109	A2-735	A	N30W30	－	－	－	縄文	深鉢	口縁部	－	5.35~	－	長石、角閃石、石英	外）黒褐 2.5Y3/2 ～黒 5Y2/1 内）黒褐 2.5Y3/2	良好	横方向のナデ	ナデ、ヘラミガキの可能性有り	黒川式。精製。	1/10 以下	－
79	10	118	A2-774	A	N30W30	115	SK	－	縄文	深鉢	口縁部	－	4.3~	－	長石、角閃石、石英	外）内）黄灰 2.5Y4/1	良好	条痕のちナデ	ナデ	黒川式。精製。	1/10 以下	－
79	11	131	A2-401,782	A	N30W30	115	SK	－	縄文	深鉢	口縁～胴部	－	9.8~	－	やや荒。長石、角閃石、石英、黄褐・白色砂粒	外）内）黒 5Y2/1	良好	条痕のちナデ、丁寧なナデ	条痕のちナデ	黒川式。	1/10 以下	－
79	12	125	A1-43	A	S25W15	08	SK	2 層	縄文	深鉢	胴部	－	14.4~	－	長石、角閃石	外）明赤褐 5YR5/6、灰黄褐 10YR4/2 内）黄灰 2.5Y4/1	良好	ナデ、ユビオサエ	ナデ、ユビオサエ	黒川式。擬口縁。全体的に被熱している。	1/10 以下	－
79	13	107	A2-830	A	N30W30	127	SK	－	縄文	深鉢	胴部	－	13.5~	－	長石、角閃石、石英	外）黒褐 5YR3/1 ～赤褐 5YR4/6 内）明赤褐 5Y5/6 ～黒褐 7.5YR3/1	良好	条痕のちナデ、上部横方向のナデ、下部左上がりのナデ	横方向のナデ	黒川式。	1/5 × 1/10	34
79	14	122	A1-43,A2-635	A	N25W15	08	SK	2,3 層	縄文	深鉢	胴部	－	7.4~	－	長石、角閃石	外）にぶい黄橙 10YR7/4、にぶい黄褐 10YR5/3 内）にぶい黄橙 10YR7/4	良好	ﾅﾃﾞのちユビオサエのちミガキ	横方向のﾅﾃﾞ	黒川式。精製。被熱している。	1/10 以下	34
79	15	106	A1-419	A	N45W50	－	－	－	縄文	深鉢	底部	－	3.0~	(7.3)	長石、角閃石、石英	外）にぶい黄橙 10YR7/4 ～橙 5YR6/6 内）にぶい黄橙 10YR6/4	良好	ナデのちユビオサエ	ナデのちユビオサエ	黒川式か。全体的に被熱している。	1/10 × 2/5	－
79	16	108	A1-56	A	－	104	SD	－	縄文	深鉢	底部	－	2.6~	(8.8)	長石、角閃石、石英	外）明赤褐 2.5Y5/8 内）黒褐 10YR3/1	良好	ナデ	ナデ	黒川式。	1/10 × 2/5	－
80	1	112	A2-774	A	N30W30	115	SK	－	縄文	深鉢	口縁部	－	4.1~	－	長石、角閃石	外）黄灰 2.5Y4/1、橙 7.5YR6/6 内）黄灰 2.5Y4/1	良好	横方向のナデ	横方向のﾅﾃﾞ	黒川式。組織痕土器。外面、被熱。	1/10 以下	－
80	2	124	A2-801	A	S60E0	49	SK	1 層	縄文	深鉢	口縁～胴部	(20.9)	5.7~	－	密。長石	外）にぶい黄橙 10YR7/4、褐灰 10YR4/1 内）黒褐 2.5YR3/2	良好	ヘラミガキ	ヘラミガキ	黒川式。精製。	1/10 以下	32
80	3	126	A1-43	A	N25W15	08	SK	2 層	縄文	浅鉢	口縁～胴部	－	4.5~	－	長石、角閃石	外）にぶい黄橙 10YR6/3 ～10YR6/5 内）黄灰 2.5Y4/2	良好	ヘラミガキ	ヘラミガキ	黒川式。内外面、スス付着。	1/10 以下	－
80	4	103	A1-431	A	S60E0	49	SK	－	縄文	浅鉢	口縁～胴部	(25.8)	8.25~	－	長石、石英	外）にぶい黄橙 10YR7/4 内）にぶい黄橙 10YR6/4	良好	ヘラミガキ	ヘラミガキ	黒川式。内外面、スス付着。外面一部被熱。	4/5 × 1/8	－
80	5	119	A2-801	A	S60E0	49	SK	1 層	縄文	浅鉢	口縁～胴部	－	4.2~	－	長石、石英	外）明黄褐 10YR7/6、灰黄褐 10YR6/2 内）黒褐 2.5Y3/1	良好	ヘラミガキ	ヘラミガキ	黒川式。一部、スス付着。	1/10 以下	32

表２　遺構・遺物包含層出土縄文土器観察表

図面番号	遺物番号	実測番号	登録番号	区	グリッド	遺構名	遺構種類	出土層位	種別	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	胎土	色調（外）（内）	焼成	調整（外）	調整（内）	備考	残存率	Ph. No.
80	6	102	A2-810	A	N5W30	127	SK	－	縄文	深鉢	口縁～頸部	(39.6)	9.7~	－	長石、角閃石、白色・黒色砂粒	外）橙 7.5YR7/6 ～ 5YR6/6 内）橙 7.5YR 6/6	良好	条痕（左上がり）のちﾅﾃﾞ消し	横方向のﾅﾃﾞ	一条突帯。山ノ寺式。	1/6 × 2/5	34
80	7	120	A1-178,427,431, A2-749	A	－	28	SD	－	縄文	深鉢	口縁～胴部	(39.8)	17.7~	－	長石、角閃石、石英	外）にぶい黄橙 10YR7/4 ～にぶい橙 7.5YR6/4 内）黒褐 2.5YR3/1	良好	左方向の条痕のちﾅﾃﾞ消し	右方向の条痕のちﾅﾃﾞ消し	外面一部ススス付着、被熱。山ノ寺式か。	1/4 × 1/7	33
80	8	121	A2-752,798,801	A	S6OE0	40・49	SK	1 層	縄文	深鉢	胴部	－	20.0~	－	長石、角閃石、石英	外）にぶい褐 7.5YR5/4 内）黒褐 2.5Y3/1	良好	条痕のちナデ、丁寧なナデ	条痕のちナデ、丁寧なナデ	山ノ寺式。精製。	1/10 以下	33
80	9	114	A2-817	A	N3OW30	115	SK	1 層	縄文	深鉢	口縁～胴部	(24.4)	7.05~	－	長石、角閃石、石英、粗砂	外）にぶい褐 7.5YR5/3 ～黒褐 10YR3/2 内）褐 7.5YR4/3 ～黒褐 7.5YR3/2	良好	条痕のち横方向のナデ	横方向のナデ	山ノ寺式か。内外面、被熱。	1/4 × 1/6	－
80	10	113	A2-782	A	N3OW30	115	SK	－	縄文	深鉢	口縁～胴部	－	9.0~	－	長石、角閃石、石英、雲母	外）黒褐 5YR3/1 ～灰黄褐 10YR4/2、褐 7.5YR4/3 内）黒褐 2.5Y3/1	良好	条痕のち横方向のナデ、丁寧なナデ	横方向のナデ	山ノ寺式。精製。外面、被熱。	1/10 以下	－
80	11	104	A2-829	A	N4OW30	140	SK	1 層	縄文	深鉢	底部	－	4.1~	(10.4)	長石、角閃石、石英	外）にぶい褐 7.5YR5/4 ～褐灰 10YR4/1 内）黄灰 2.5YR4/1	良好	ナデのち条痕のちユビオサエ、底部ナデ	ユビオサエ	山ノ寺式か。内外面、被熱。	1/10 × 2/3	33
80	12	105	A1-295	A	N4OW30	－	－	－	縄文	深鉢	底部	－	3.6~	(9.3)	長石、角閃石、石英	外）にぶい褐 7.5YR5/4 内）褐灰 10YR4/1	良好	横方向のナデのちユビオサエ	ユビオサエ	山ノ寺式か。	1/10 × 1/4	－
81	1	101	A2-809,827	A	N35W30	126	SK	1 層	縄文	深鉢	口縁～胴部	(34.1)	21.1~	－	長石、角閃石	外）橙 7.5YR6/6 ～ 5YR6/6 内）にぶい黄橙 10YR6/4 ～黄灰 2.5YR4/1	良好	条痕（左上がりのち下から上）のちﾅﾃﾞ消し	右上がり方向のﾅﾃﾞ、横方向のﾅﾃﾞ	外面一部ススス付着。刻目突帯文。夜臼式。	1/2 × 1/3	35
81	2	117	A2-843	A2	N3OW30	115	SK	－	縄文	深鉢	底部	－	6.6~	9.9	長石、角閃石、石英	外）赤 10YR5/6 ～橙 2.5YR6/6、にぶい黄橙 10YR6/4 内）にぶい褐 7.5YR5/3、黄灰 2.5Y4/1	良好	ナデ、ユビオサエ	ユビオサエ	山ノ寺式か。全体的に被熱している。	1/10 以下	33
81	3	110	A2-820	A	N3OW30	140	SK	1 層	縄文	高坏	頸部	－	6.1~	－	長石、角閃石、石英	外）にぶい褐 7.5YR5/4 内）褐 7.5YR4/3	良好	ヘラミガキ	ヘラミガキ	夜臼式か。	1/5 × 1/6	35
81	4	37	B1-290	B1	N3OW25	010	SK	2 層	縄文	小壷	口縁～底部	10.0	4.2	9.8	長石．石英．雲母．角閃石	外）5YR5/6 明赤褐 内）5YR5/4 にぶい赤褐	良好	横ナデ．ななめ方向のハケ目のち横ナデ．ナデ	たて方向のナデ（捲き上げ）．指ナデ	夜臼式。底部に黒斑有り	4/5	35
81	5	201	B3-116	B1	N3OW20	152	SK	3 層	縄文	深鉢	胴部	－	6.1~	－	長石、角閃石	外）黒褐 10YR3/1 内）にぶい黄橙 10YR6/3 ～褐灰 10YR4/1	良好	ナデ、丁寧なナデ、刻目突帯文	ナデ	山ノ寺式。刻目、棒状工具で施工。	1/10 以下	32
81	6	207	B3-67,69 他	B1	N3OW25	003	SK	1 層	縄文	土器棺	胴部～底部	－	43.5~	8.8	密。長石、石英、角閃石、赤色粒	外）　明赤褐 2.5YR5/8 内）橙 7.5YR 7/6 ～ 6/6	良好	縦方向のナデのち横方向のナデ．ミガキ不明	縦方向のナデのち横方向のナデ．ミガキ不明．ユビオサエ	夜臼式。胴部に黒斑有り	3/4 × 1/2	31
82	1	208	B3-81,82 他	B1	N3OW25	001	SK	2 層	縄文	土器棺	口縁～底部	(32.4)	(134.0)	15.0	密。長石、石英、角閃石	外）内）明赤褐 5YR5/6 ～ 5/8	良好	縦方向のナデのちミガキ．底部ナデ	ナデ消しのち丁寧なナデ．底部縦方向のナデ	山ノ寺式から夜臼式に変わる過渡期に併行するものか。胴部に黒斑有り。	2/3 × 4/5	30

表３　遺構・遺物包含層出土土器観察表

図面番号	遺物番号	実測番号	登録番号	区	グリッド	遺構名	遺構種類	出土層位	種類	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	胎土	色調（外）（内）	焼成	調整（外）	調整（内）	備考	残存率	Ph. No..
83	1	31	A1-189	A	－	23	SX	埋４層	須恵器	鉢	底部	－	1.6~	－	密（長石）	灰色	良好	静止ヘラ削り．静止ヘラ削りのちナデ	－	内面部分の残存なし	1/10 以下	38
83	2	14	A1-163	A	－	23	SD	埋３層	青磁	椀	胴部	－	2.4~	－	密（長石粒まれに混）	外内）10Y5/2 オリーブ灰色	良	回転ナデ．釉薬．蓮弁の省略した縦方向の沈線文．貫入入る	回転ナデ．釉薬	中世．龍泉窯系Ⅳ類椀．G 期 14C ～後半。大宰府編年Ⅳ期併行期か	1/15 以下	37
83	3	13	A1-153	A	－	23	SD	埋３層	青磁	椀	胴部	－	3.0~	－	密（長石粒まれに混）	外内）10Y5/2 オリーブ灰色	良	回転ナデ．釉薬．蓮弁の省略した縦方向の沈線文．貫入入る	回転ナデ．釉薬	中世．龍泉窯系Ⅳ類椀．G 期 14C ～後半	1/15 以下	37
83	4	8	A1-121	A	－	23	SD	埋２層	土師質	火鉢	口縁	－	3.3~	－	密（長石．石英．雲母）	外）2.5YR 赤褐色 内）2.5YR6/6 橙色	良好	横ナデ．円形スタンプ	指ナデ		1/10 以下	38
83	5	9	A1-396	A	－	23	SD	埋３層	軟質瓦質	火鉢	胴部	－	5.0~	－	密（雲母．赤色粒．石英．長石）	外）10YR4/1 褐灰色 内）7.5YR6/3 にぶい褐色	良	横方向のナデ（一次調整削り）	指ナデ	外面に黒灰色のスス	1/10 以下	38
83	6	2	A2-701	A	－	23	SD	埋２層	須恵質	すり鉢	胴部	－	5.4~	－	密（長石．雲母）	外）10YR4/1 褐灰色 内）10YR6/4 にぶい黄橙	良好	横方向指ナデ	スリ目	中世須恵器	1/10 以下	38
83	7	1	A2-701	A	－	23	SD	埋２層	土師質	火鉢	底部	－	1.8	14.0	密（長石．角閃石．赤色粒）	外）10YR5/3 にぶい黄褐色 内）10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	ナデ	ナデ．横方向のナデ	大宰府編Ⅳ期併行期か	1/10 以下	38
83	8	5	A-1157	A	－	23	SD	埋３層	須恵器	杯	底部	－	2.0~	7.8	密	外）10YR6/2 灰黄褐色 内）10YR5/2^6/2 灰黄褐色	良好	不定方向の荒いナデ．横ナデ	横方向の指ナデ	断面 橙灰色。外 赤褐色。還元焼成は不完全。8C 中葉～ 9C 前半、大宰府編年Ⅵ期併行期か	1/4 × 1/4	37
83	9	29	A1-280	A	－	23	SX	埋１層	須恵器	杯	底部	－	2.0~	8.8	密（角閃石．長石）	青灰色	良好	ヘラ削り．ナデ	回転ナデ	9C 代	1/7	38
83	10	30	A2-648	A	－	23	SX	－	須恵器	杯	底部	－	1.5~	7.2	密（角閃石．長石）	青灰色	良好	回転ナデ．ヘラ削り	回転ナデ．一定方向のナデ	8C 後半～ 9C 初。大宰府編年Ⅴ期併行期か	1/10 以下	38
83	11	4	A1-340	A	－	23	SD	埋１層	土師質	火鉢？	底部	－	2.0~	－	密（石英．長石）	外内）2.5YR5/6 明赤褐色	良好	指ナデ	横ナデ．横方向の丁寧なナデ		1/10 以下	37
83	12	7	A-197	A	－	23	SD	一括	青磁	皿	口縁	10.8	1.3	－	密	淡緑灰色（やや黄味帯びる）2.5GY7/1 明オリーブ灰	良好	回転ナデ．釉薬	回転ナデ．釉薬	見込みに沈線が残存。同安窯系？	3/4 × 1/8	37
83	13	12	A1-60	A	S10/E10	103	SD	一括	土師質	捏ね鉢	口縁	(32.0)	6.4~	－	密（長石．角閃石）	外）2.5Y6/3 にぶい黄色 内）2.5Y6/4 にぶい黄色	良好	ナデ．横ナデ	横ナデ．ナデ	断面中央は淡灰色	1/12 以下	38
83	14	3	A1-238	A	－	28	SD	埋２層	軟質瓦質	捏ね鉢	口縁	－	5.0~	－	密（長石．角閃石）	外）7.5YR3/1 黒褐色 内）10YR4/2 灰黄褐色	良好	指ナデ．横ナデ	丁寧な指ナデ．横ナデ		1/10 以下	38
83	15	18	A1-204	A	－	28	SD	埋１層	土師器	皿	底部	－	0.8~	7.3	密（長石．角閃石）	外）5YR6/6 橙色 内）5YR6/6 橙色	良好	横方向の指ナデ．横方向のナデ	横方向のナデ．指ナデ		1/8 × 1/2 以下	38
83	16	6	A2-657	A1	－	28	SD	一括	瓦質土器	すり鉢	胴部	－	2.9~	－	密（長石）	外）N3/ 黒灰色．暗灰色 内）N7/ 灰白色．淡黒灰色	良好	指ナデ	丁寧なナデのちスリ目	摩滅多い。擂目の間隔が空いている。中世後期に属する	1/10 以下	38
83	17	32	A1-2	A	－	03	SD	埋１層	軟質瓦質	火鉢	口縁	－	2.9~	－	密（角閃石．長石．石英．雲母）	外）7.5Y5/1 灰色	良好	右上がり削りのちナデ．横ナデ	横ナデ．横方向のナデ		1/10 × 1/8	－
83	18	15	A1-2	A	－	03	SD	埋１層	軟質瓦質	火鉢	口縁	(31.4)	5.5~	－	密（長石．角閃石）	外）10YR6/4 にぶい黄褐色 内）5Y4/1 灰色	良	横ナデ．花弁と X 字スタンプ文．縦方向の刺突文	横ナデ．ナデ	中世後期に属するか	1/15 × 1/5 以下	－
83	19	17	A2-629	A	－	03	SD	埋１層	軟質瓦質	捏ね鉢	口縁	(32.4)	3.7~	－		外）7.5Y4/1 灰色（いぶし） 内）10YR6/4 にぶい黄橙	良好	横方向のナデ．横ナデ	横方向のナデ．横ナデ		1/10 以下（× 1/5）	－
83	20	16	A1-2	A	－	03	SD	埋１層	軟質瓦質	捏ね鉢	口縁	(33.4)	5.0~	－	密（長石．角閃石）	外）7.5Y1/1 灰色（いぶし） 内）10YR6/4 にぶい黄橙	良好	横方向のナデ	横方向のナデ．ナデ		1/10 以下（× 1/5）	－
83	21	36	A1-503	A	－	100	SD	埋５層	瓦質	杯	底部	－	2.0~	(12.4)	密（長石）	灰色	良好	回転ヘラ削り．横ナデ．削りのち横ナデ	指ナデ	壷の底部の可能性あり。大宰府編年Ⅳ期併行期か	1/10 以下	38
83	22	34	A2-785	A	－	100	SD	上層	土師器	杯	口縁～胴部	8.0	3.0~	－	密（長石．石英）	橙色	良	横ナデ．ナデ	横ナデ．ナデ		1/10 以下	36
83	23	11	A1-358	A	N10/W30	107	SD	一括	瓦質	火鉢	口縁	－	3.5~	－	密（長石．黒色粒．角閃石）	外内）オリーブ黒 5Y3/1	良	横ナデ．花弁スタンプ文	横ナデ		1/15 × 1/4 以下	－
83	24	38	A2-595	A	－	03	SD	埋１層	須恵器	高杯	脚部	－	3.8~	－	密	外）黄 灰 2.5Y4/1 内）/ 暗黄灰 2.5Y5/2	良好	回転ナデ	回転ナデ	杯部径 5.8cm、脚部短い。大宰府編年Ⅳ期併行期か	1/10 以下	38
83	25	27	A2-691	A	S10/W10	－	－	3 層	須恵器	壷	口縁	(13.4)	2.5~	－	密（赤色酸化粒．長石）	淡灰色	良	回転ナデ	回転ナデ	口縁端部やや下垂。吹き出し（1mm 未満）を含む	1/13 × 1/12	36

表３　遺構・遺物包含層出土土器観察表

図面番号	遺物番号	実測番号	登録番号	区	グリッド	遺構名	遺構種類	出土層位	種類	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	胎土	色調（外）（内）	焼成	調整（外）	調整（内）	備考	残存率	Ph. No..
83	26	33	A1-83	A	－	23	SX	③Tr	土師質	火鉢	口縁	－	3.5~	－	密	外）10YR4/1 褐灰色 内）5YR6/6 橙色	良好	横ナデ．ナデ	横ナデ．ナデ		1/10 以下	38
83	27	10	A1-216	A	－	23	SD	一括	瓦質	火鉢	胴部	－	4.6~	－	密（長石）	外）青灰色 内）5PB7/1 明青灰色	良好	櫛描羽状文．板ナデ．貼付突帯	横方向のナデ		1/10 以下	38
83	28	26	A2-860	A	S30/E20	－	－	一括	瓦質	すり鉢	口縁	(22.0)	4.0~	－	密（長石．赤色酸化粒）	外）5YR4/6 にぶい橙色 内）7.5YR6/4 にぶい橙色	良好	横方向のナデ（指か?）	横ナデ．横方向のナデ		1/9	－
83	29	25	A1-312	A	S10/W20	－	－	一括	瓦質	捏ね鉢	口縁	(23.0)	4.0~	－	密（長石．角閃石．赤色酸化粒）	外）10YR6/4 にぶい黄橙色 内）10YR6/4 にぶい黄橙色	良好	指ナデ．右上がりのスリ目	横ナデ．指ナデ		1/10 以下	－
83	30	21	A1-312	A	S10/W20	32	SX	一括	軟質瓦質	捏ね鉢	口縁	(18.8)	4.5~	－	密	外）7.5Y6/1 灰色 内）7.5Y6/1 灰色	良	指ナデ．横ナデ	横ナデ．ナデ	口縁部に面を持つ	1/10 以下	38
83	31	20	A1-304	A	S20/W20	32	SX	一括	土師器	皿	口縁～底部	(8.0)	1.8	(1.8)	密	外）5YR6/6 橙色 内）5YR6/6 橙色	良好	指ナデ．横ナデ	横ナデ．丁寧なナデ．ナデ		1/12 × 1/2	－
83	32	19	A2-836.840	A	W15/W20	－	－	一括	土師器	皿	口縁～底部	8.2	2.0	6.0	密（赤色粒．角閃石．長石）	外）5YR6/6 橙色 内）5YR6/6 橙色	良好	横方向のナデ．横ナデ	横ナデ．糸切り．糸切りのちナデ		1/1 × 4/5	36
83	33	28	A1-200	A	－	－	－	一括	須恵器	壷	口縁	(11.8)	3.5~	－	密（長石）	外）赤灰色 内）灰色	良好	回転ナデ	回転ナデ	口縁端部やや下垂	1/7	36
83	34	39	A2-690	A	S20/W10	－	－	一括	須恵器	壷	底部	－	1.8~	(12.0)	密	外）灰褐 5YR4/2 内）灰オリーブ 5Y6/2	良好	回転ナデ．ケズリ	回転ナデ．ケズリ	壷もしくは杯	1/10 以下	38
83	35	35	A2-706	A	S20/W20	－	－	表土	青磁	椀	口縁	－	2.7~	－	密（赤色酸化粒．長石．角閃石．雲母）	橙色	良	回転ナデのち青磁釉	回転ナデのち青磁釉		1/10 以下	37
83	36	23	A2-672	A	S20/W20	－	－	一括	瓦質	捏ね鉢	底部	－	5.0~	(21.2)	密（長石）	外）5YR6/6 橙色 内）10Y6/1 灰色	良好	左上がりのタタキ．ナデ	横方向のナデ．ナデ．横ナデ		1/12	－

各計測については、（　）の数値は復元値を表し、器高の～は残存高である。

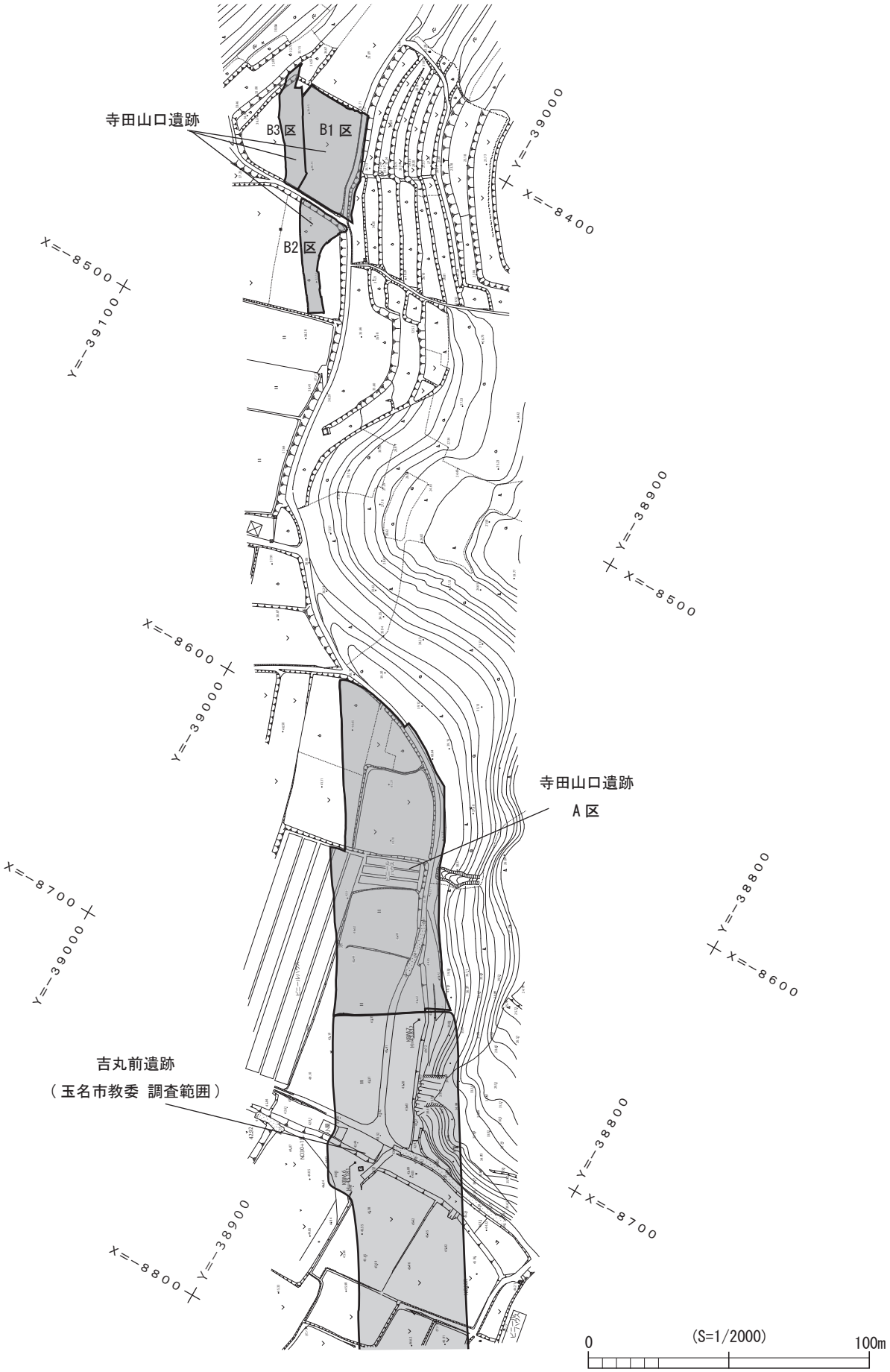
表４　遺構・遺物包含層出土弥生土器観察表

図面番号	遺物番号	実測番号	登録番号	区	グリッド	遺構名	遺構種類	出土層位	種別	器種	部位	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	胎土	色調（外）（内）	焼成	調整（外）	調整（内）	備考	残存率	Ph. No.
81	7	202	18.54.58	B1	N10W15	037	SI	－	弥生？	把手付土器	口縁～底部	(9.8)	(8.2)	－	良。長石、雲母、石英、角閃石	外）内）明褐 7.5YR5/6	良	ナデ	ナデ、ユビオサエのちナデ	把手欠損。全体的に摩耗	1/5 × 1/1	36
81	8	204	65	B1	N10W15	037	SX	埋１層	弥生	甕	胴部	－	(6.2)	－	やや粗。長石、角閃石、石英	外）黒 2.5YR2/1 内）にぶい黄褐 10YR5/3 ～暗黄褐 2.5YR5/2	良	横方向ナデ、タタキ	横方向ナデ、ヘラケズリ	内外面にススス付着。弥生終末か	1/10 以下	36
81	9	205	169	B1	N10W15	150	SK	－	弥生	甕	口縁	－	(4.1)	－	不良。石英、長石、雲母	外）灰褐 7.5YR4/2 内）褐 7.5YR4/3	やや良	横ナデ、横ナデのち縦ハケ	横ナデのち横ハケ	粘土輪積み	1/10 以下	36
81	10	203	63	B1	N10W15	150	SK	埋２層	弥生	鉢	口縁～底部	(12.0)	(5.7)	－	良。石英、長石、雲母、角閃石	外）明黄褐 10YR6/6 内）黄褐 10YR5/6	良	横ナデ、強い指ナデ	強い横ナデ、強い指ナデ	粘土輪積み	1/4 × 1/1	36
81	11	206	58	B1	N10W15	037	SI	－	弥生？	鉢	口縁～底部	(12.2)	(6.0)	－	良。長石、角閃石、石英	外）内）黒 10YR2/1	良	ナデのち左上方向にヘラミガキ、口縁端部はつまみ上げ	ナデのち左上方向にヘラミガキ	全体的にススス付着。被熱のため底部剥離か。古墳時代？	1/10 以下	36

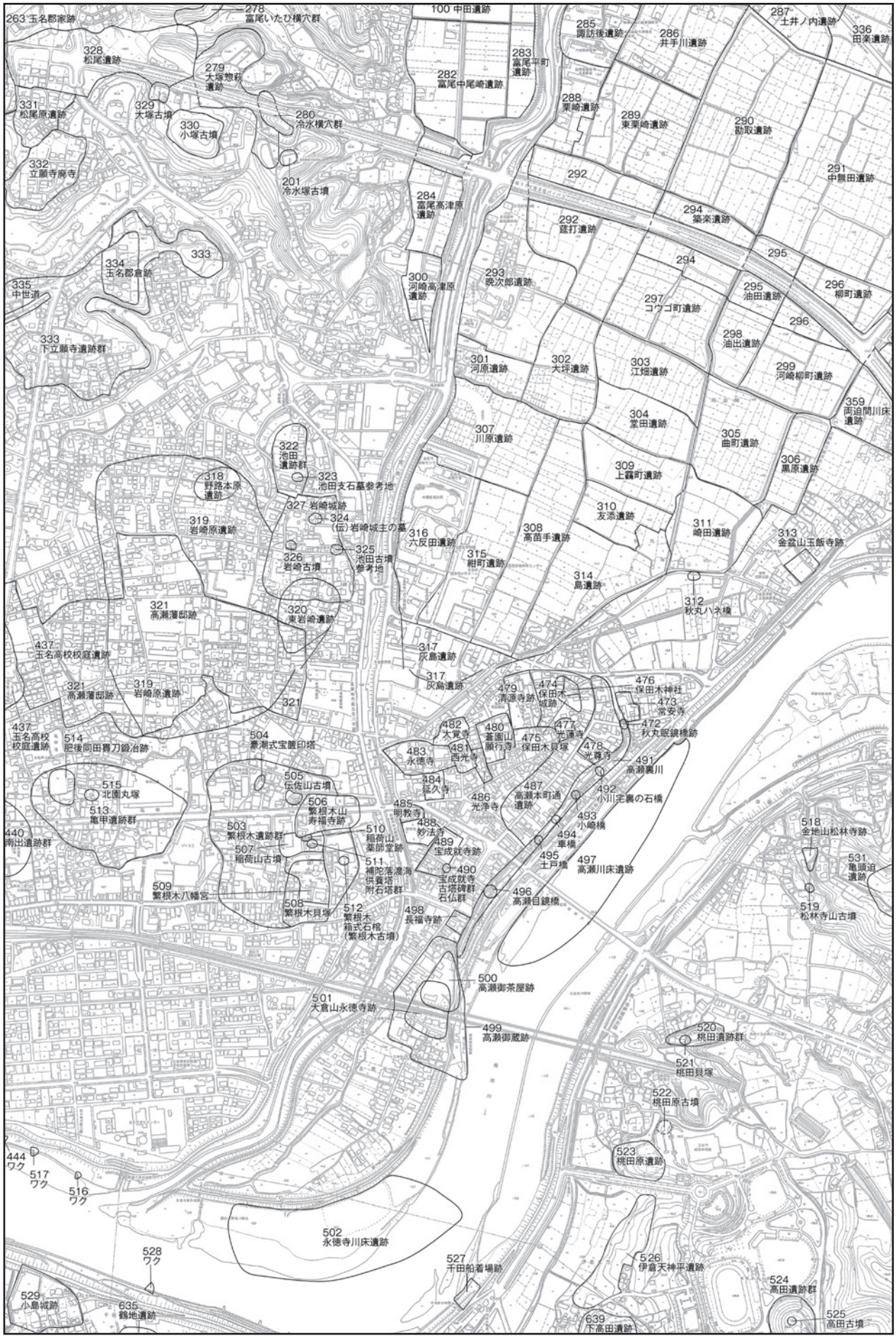
表５　玉類観察表

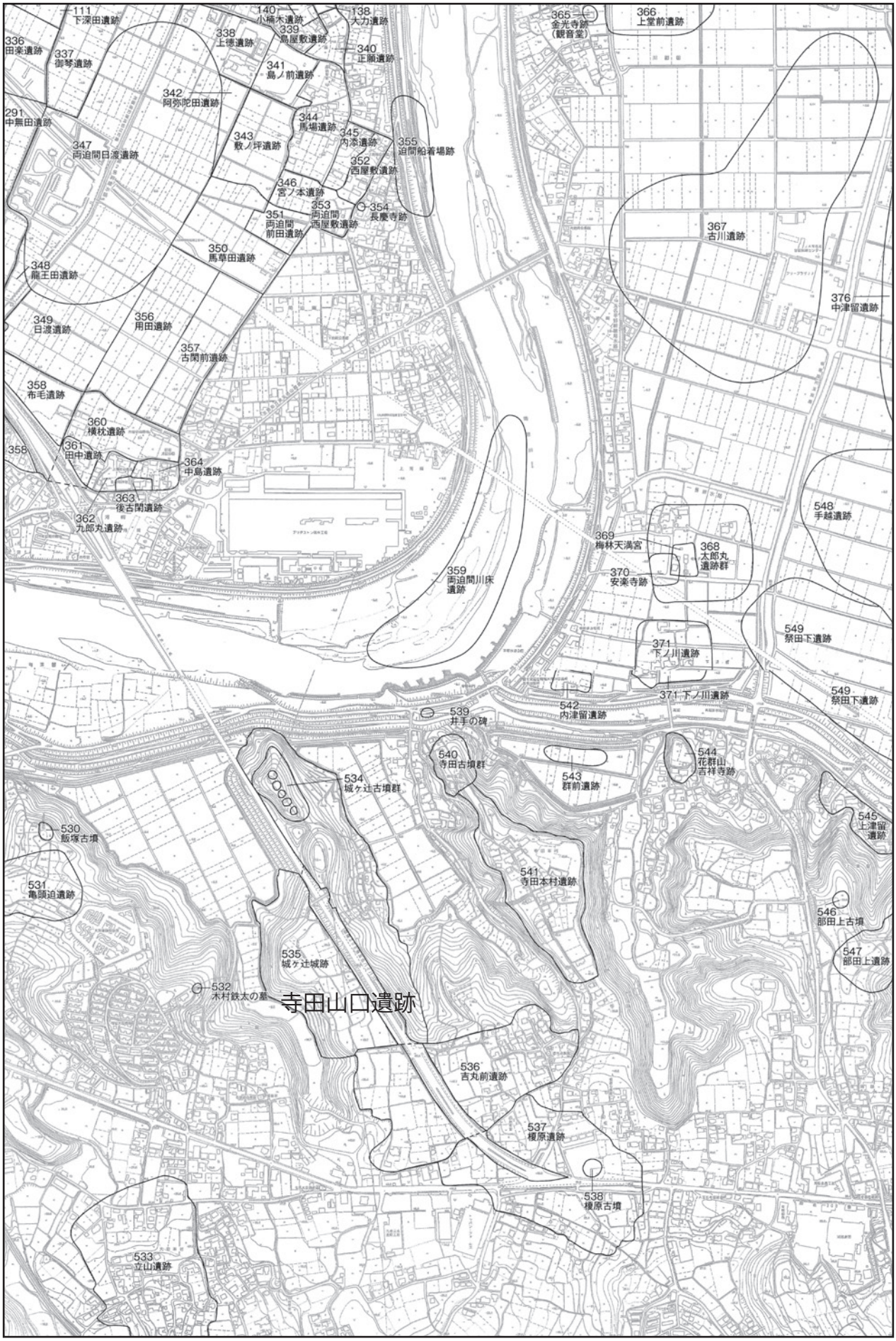
図面番号	遺物番号	実測番号	登録番号	区	グリッド	遺構名	遺構種類	出土層位	器種	材質	形状	色調	長さ（cm）	幅（cm）	器高（cm）	孔径（mm）	残存度	接合	質量（g）	備考	Ph. No	Ph. No.
82	2	S-28		B1	N30W25	001	SK	掘り方下層	管玉				1.1	0.5	0.5	2.5			0.3	取り上げ No.1（北側から）。　欠けた後みがいて再利用している	36	36

図面・写真　図版



Pl.1　調査位置図　(1/2000)


263 玉名郡家跡
278 富尾いたび横穴群
100 中田遺跡
285 諏訪後遺跡
286 井手川遺跡
287 土井ノ内遺跡
336 田楽遺跡
328 松尾遺跡
279 大塚惣秋遺跡
283 富尾平町遺跡
282 富尾中尾崎遺跡
288 栗崎遺跡
289 東栗崎遺跡
290 勘取遺跡
331 松尾原遺跡
329 大塚古墳
330 小塚古墳
280 冷水横穴群
332 立願寺廃寺
201 冷水塚古墳
292
291 中無田遺跡
284 富尾高津原遺跡
292 筵打遺跡
294 築楽遺跡
295
334 玉名郡倉跡
333
293 映次郎遺跡
294
295 油田遺跡
296 柳町遺跡
335 中世道
300 河崎高津原遺跡
297 コウゴ町遺跡
296
298 油出遺跡
333 下立願寺遺跡群
301 河原遺跡
302 大坪遺跡
303 江畑遺跡
299 河崎柳町遺跡
359 両迫間川床遺跡
304 堂田遺跡
305 曲町遺跡
307 川原遺跡
322 池田遺跡群
323 池田支石墓参考地
309 上霜町遺跡
306 黒原遺跡
318 野路本原遺跡
327 岩崎城跡
324 (伝)岩崎城主の墓
310 友添遺跡
319 岩崎原遺跡
316 六反田遺跡
308 高苗手遺跡
311 崎田遺跡
313 金盆山玉飯寺跡
326 岩崎古墳
325 池田古墳参考地
315 柑町遺跡
314 島遺跡
321 高瀬藩邸跡
320 東岩崎遺跡
312 秋丸八ネ橋
437 玉名高校校庭遺跡
317 灰島遺跡
317 灰島遺跡
479 清源寺跡
474 保田木城跡
476 保田木神社
473 常安寺
472 秋丸眠鏡橋跡
321 高瀬藩邸跡
319 岩崎原遺跡
321
482 太覚寺
480 蓋園山願行寺
477 光蓮寺
475 保田木貝塚
478 光尊寺
437 玉名高校校庭遺跡
514 肥後同田貫刀鍛冶跡
504 豪潮式宝篋印塔
483 永徳寺
481 西光寺
491 高瀬裏川
505 伝佐山古墳
484 証久寺
487 高瀬本町通遺跡
492 小川宅裏の石橋
515 北園丸塚
486 光浄寺
493 小崎橋
513 電甲遺跡群
506 繁根木山寿福寺跡
485 明教寺
518 金地山松林寺跡
440 南出遺跡群
503 繁根木遺跡群
510 稲荷山薬師堂跡
488 妙法寺
489 宝成就寺跡
494 車橋
507 稲荷山古墳
511 補陀落渡海供養塔附石塔群
495 土戸橋
497 高瀬川床遺跡
531 亀頭迫遺跡
490 宝成就寺古塔碑群石仏群
509 繁根木八幡宮
496 高瀬目鏡橋
519 松林寺山古墳
508 繁根木貝塚
512 繁根木箱式石棺(繁根木古墳)
498 長福寺跡
500 高瀬御茶屋跡
501 大倉山永徳寺跡
499 高瀬御蔵跡
520 桃田遺跡群
521 桃田貝塚
522 桃田原古墳
523 桃田原遺跡
444 ワク
517 ワク
516 ワク
502 永徳寺川床遺跡
528 ワク
527 千田船着場跡
526 伊倉天神平遺跡
524 高田遺跡群
529 小島城跡
635 鶴地遺跡
639 下高田遺跡
525 高田古墳



周辺遺跡地分布図（1/12000）

0 (S=1/12000) 400m

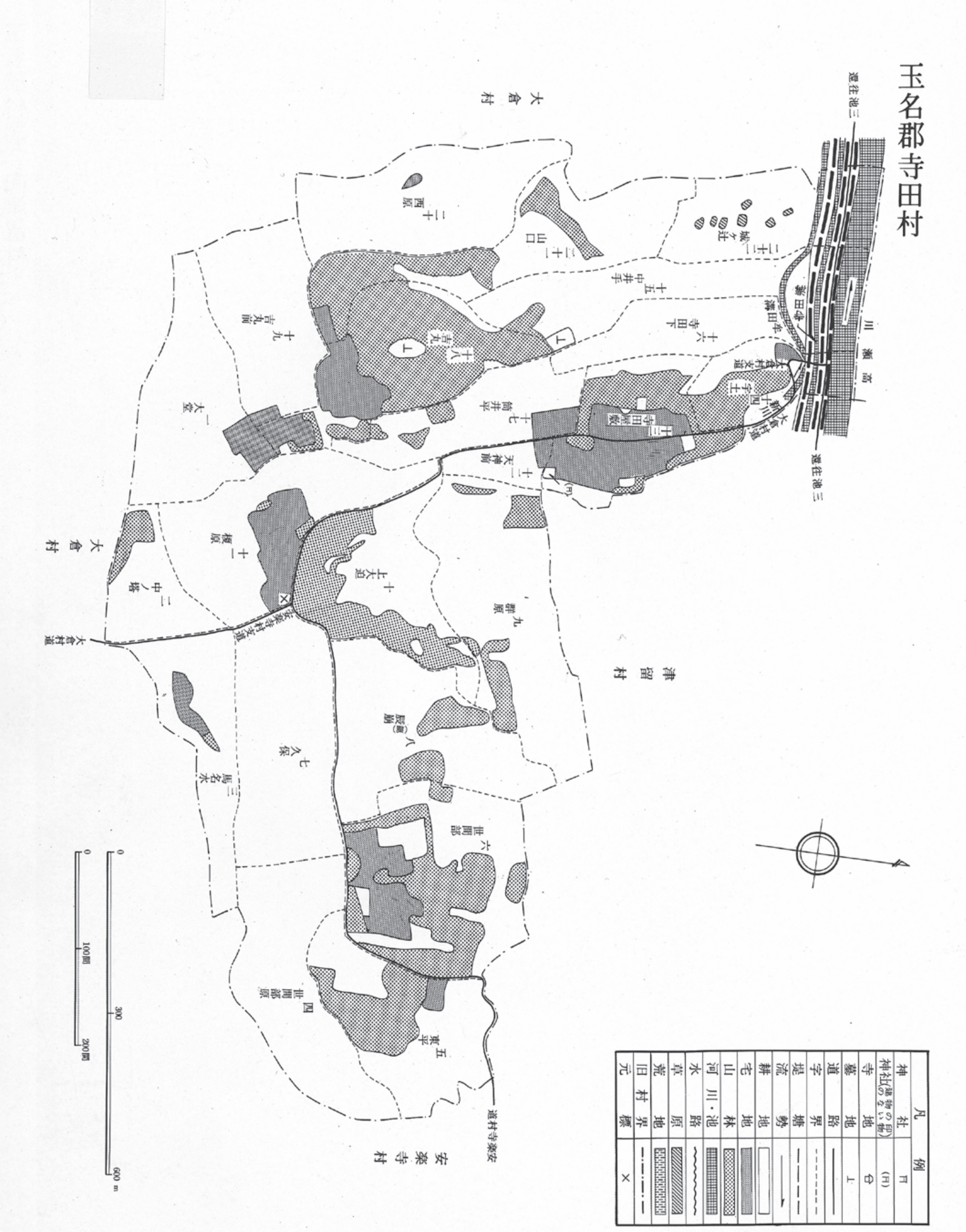
※『『玉名市遺跡地図』玉名市文化財調査報告第 26 集 玉名市教育委員会 2011』 引用、一部改変

遺跡一覧①

遺跡番号	地図番号	名称		種類	所在地大字　小字	時代	備考	
100	18・25	中田遺跡	ナカダイセキ	生産	富尾	中田	古代	条里跡
111	18・19・26	下深田遺跡	シモフカダイセキ	生産	玉名	下深田	古代	旧玉名平野菜里跡
138	19・26	大力遺跡	ダイリキイセキ	生産	玉名	大力	古代	旧玉名平野条里跡
140	19・26	小楠木遺跡	コクスキイセキ	生産	玉名	小楠木	古代	旧玉名平野条里跡
263	24・25	玉名郡家跡	タマナグンケアト	官衛	立願寺	石丸	古代	上立願寺部落北部、布目瓦多量散布。
279	25	大塚惣萩遺跡	オオツカソウハギイセキ	包蔵地	富尾	焼古閑	弥生・古墳・中世	弥生土器・土師器・須恵器片散布。須恵器多数出土。
282	25	富尾中尾崎遺跡	トミノオナカオザキイセキ	生産	富尾	中尾崎	古代	条里跡
283	18･25	富尾平町遺跡	トミノオヒラマチイセキ	生産	富尾	平町	古代	条里跡
284	25	富尾高津原遺跡	トミノオコオズハライセキ	生産	富尾	高津原	古代	条里跡
285	18･25	諏訪後遺跡	スワノウシロイセキ	生産	玉名	諏訪後	古代	旧玉名平野菜里跡
286	25	井手川遺跡	イデガワイセキ	生産	玉名	井手川	古代	旧玉名平野菜里跡
287	18･25	土井ノ内遺跡	ドイノウチイセキ	生産	玉名	土井/内	古代	旧玉名平野条里跡
288	25	栗崎遺跡	クリサキイセキ	生産	玉名	栗崎	古代	旧玉名平野条里跡
289	25	東栗崎遺跡	ヒガシクリサキイセキ	生産	玉名	東栗崎	古代	旧玉名平野条里跡
290	25	勘取遺跡	カンドリイセキ	生産	玉名	勘取	古代	旧玉名平野条里跡
291	25･26	中無田遺跡	ナカムタイセキ	生産	玉名	中無田	古代	旧玉名平野条里跡
292	25	筵打遺跡	ムシロウチイセキ	生産	玉名	筵打	古代	旧玉名平野乗里跡
293	25	晩次郎遺跡	バンジロウイセキ	生産	玉名	晩次郎	古代	旧玉名平野条里跡
294	25	築楽遺跡	チクラクイセキ	生産	両迫間	築楽	古代	旧玉名平野条里跡
295	25	油田遺跡	アブラダイセキ	生産	両迫間	油田	古代	旧玉名平野条里跡
296	25	柳町遺跡	ヤナギマチイセキ	生産	両迫間	柳町	古代	旧玉名平野条里跡
297	25	コウゴ町遺跡	コウゴマチイセキ	生産	河崎	コウゴ町	古代	旧玉名平野条里跡
298	25	油出遺跡	ユデイセキ	生産	河崎	油出	古代	旧玉名平野条里跡
299	25	河崎柳町遺跡	カワサキヤナギマチイセキ	生産	河崎	柳町	古代	旧玉名平野条里跡
300	25	河崎高津原遺跡	カワサキコオツハライセキ	生産	河崎	高津原	古代	旧玉名平野乗里跡
301	25	河原遺跡	カワハライセキ	生産	河崎	河原	古代	旧玉名平野条里跡
302	25	大坪遺跡	オオツボイセキ	生産	河崎	大坪	古代	旧玉名平野条里跡
303	25	江畑遺跡	エバタイセキ	生産	河崎	江畑	古代	旧玉名平野条里跡
304	25	堂田遺跡	ドウダイセキ	生産	河崎	堂田	古代	旧玉名平野条里跡
305	25	曲町遺跡	マガリマチイセキ	生産	河崎	曲町	古代	旧玉名平野条里跡
306	25	黒原遺跡	クロハライセキ	生産	河崎	黒原	古代	旧玉名平野菜里跡
307	25	川原遺跡	カワハライセキ	生産	岩崎	川原	古代	旧玉名平野条里跡
308	25	高苗手遺跡	タカナエテイセキ	生産	岩崎	高苗手	古代	旧玉名平野条里跡
309	25	上靄町遺跡	カミツルマチイセキ	生産	秋丸	上靄町	古代	旧玉名平野条里跡
310	25	友添遺跡	トモゾエイセキ	生産	秋丸	友添	古代	旧玉名平野菜里跡
311	25	崎田遺跡	サキダイセキ	生産	秋丸	崎田	古代	旧玉名平野条里跡
314	25	島遺跡	シマイセキ	生産	秋丸	島	古代	旧玉名平野条里跡
315	25	紺町遺跡	コンマチイセキ	生産	岩崎	紺町	古代	旧玉名平野条里跡
316	25	六反田遺跡	ロクタンダイセキ	生産	岩崎	六反田	古代	旧玉名平野条里跡
317	25･32	灰島遺跡	ハイジマイセキ	生産	岩崎	灰島	古代	旧玉名平野菜里跡
318	25	野路本原遺跡	ノジモトハライセキ	包蔵地	岩崎	野路・本原	古代	須恵器・土師器　多量に散布。
320	25	東岩崎遺跡	ヒガシイワサキイセキ	包蔵地	岩崎	西	古代	
322	25	池田遺跡群	イケダイセキグン	包蔵地	岩崎	池田	弥生・古代	弥生土器・大型甕棺。須恵器・土師器。
324	25	（伝）岩崎城主の墓	（デン）イワサキジョウシュノハカ	包蔵地	岩崎	池田	中世	城館北部に大自然石
327	25	岩崎城跡	イワサキジヨウアト	城館	岩崎	池田・西	中世	菅原神社々地、土塁、周濠あり。
328	25	松尾遺跡	マツオイセキ	包蔵地	立願寺	松尾・焼古閑	縄又・古墳・古代	縄文土器・土師器・須恵器片散布。
332	25	立願寺廃寺	マツオハライセキ	寺社	立願寺	塔尾・松尾	古代	布目瓦多量に出土。白鳳期単弁文軒丸瓦出土。
333	24・25	下立願寺遺跡群	シモリュウガンジイセキグン	包蔵地	立願寺	曲松・西段	弥生・古代・中世	単式甕棺・弥生土器片・布目瓦散布。中世道を含む
334	25	玉名郡倉跡	タマナグンソウアト	官衙	立願寺	西段	古代	礎石７個配列。布目瓦、焼米、礎石が出土。
335	24・25	中世道	チュウセイドウ	包蔵地	立願寺	西段	中世	蓮華院と疋野神社を結ぶ道
336	18・25・26	田楽遺跡	デンラクイセキ	生産	玉名	田楽	古代	旧玉名平野菜里跡
337	19・26	御琴遺跡	オコトイセキ	生産	玉名	御琴	古代	旧玉名平野条里跡
338	26	上徳遺跡	ジョウトクイセキ	生産	玉名	上徳	古代	旧玉名平野条里跡
339	19・26	島屋敷遺跡	シマヤシキイセキ	生産	玉名	島屋敷	古代	旧玉名平野条里跡
340	26	正願遺跡	ショウガンイセキ	生産	玉名	正願	古代	旧玉名平野条里跡
341	26	島ノ前遺跡	シマノマエイセキ	生産	玉名	島ノ前	古代	旧玉名平野条里跡
342	26	阿弥陀田遺跡	アミダデンイセキ	生産	玉名	阿弥陀田	古代	旧玉名平野条里跡
343	26	敷ノ坪遺跡	シキノツボイセキ	生産	玉名	敷ノ坪	古代	旧玉名平野条里跡
344	26	馬場遺跡	ババイセキ	生産	玉名	馬場	古代	旧玉名平野条里跡

遺跡一覧②

遺跡番号	地図番号	名称		種類	所在地大字　小字	時代	備考	
345	26	内添遺跡	ウチゾエイセキ	生産	玉名	内添	古代	旧玉名平野条里跡
346	26	宮ノ本遺跡	ミヤノモトイセキ	生産	玉名	宮ノ本	古代	旧玉名平野条里跡
348	26	龍王田遺跡	リュウオウダイセキ	生産	両迫間	龍王田	古代	旧玉名平野菜里跡
349	26	日渡遺跡	ヒワタシイセキ	生産	両迫間	日渡	古代	旧玉名平野菜里跡
350	26	馬草田遺跡	マグサダイセキ	生産	両迫間	馬草田	古代	旧玉名平野乗里跡
351	26	両迫間前田遺跡	リョウハザママエダイセキ	生産	両迫間	前田	古代	旧玉名平野条里跡
352	26	西屋敷遺跡	ニシヤシキイセキ	生産	両迫間	西屋敷	古代	旧玉名平野乗里跡
353	26	両迫間西屋敷遺跡	ﾘｮｳﾊｻﾞﾏﾆｼﾔｼｷｲｾｷ	包蔵地	両迫間	西屋敷	中世	
355	26	迫間船着場跡	ハザマフナツキバアト	水運	両迫間	上川端	古代	堤防内に埋没
356	26	用田遺跡	ヨウダイセキ	生産	両迫間	用田	古代	旧玉名平野条里跡
357	26	古閑前遺跡	コガマエイセキ	生産	両迫間	古閑前	古代	旧玉名平野条里跡
358	26	布毛遺跡	フケイセキ	生産	河崎	布毛	古代	旧玉名平野菜里跡
359	25・26	両迫間川床遺跡	リヨウハザマカワトコイセキ	包蔵地	両迫間	堤外地	縄文～中世	採集品多数。
360	26	横枕遺跡	ヨコマクライセキ	生産	河崎	横枕	古代	旧玉名平野菜里跡
361	26	田中遺跡	タナカイセキ	生産	河崎	田中	古代	旧玉名平野条里跡
362	26	九郎丸遺跡	クロウマルイセキ	生産	河崎	九郎丸	古代	旧玉名平野条里跡
363	26	後古閑遺跡	アトコガイセキ	生産	河崎	後古閑	古代	旧玉名平野条里跡
364	26	中島遺跡	ナカシマイセキ	生産	河崎	中島	古代	旧玉名平野条里跡
365	26	金光寺跡（観音堂）	ｷﾝｺｳｼﾞｱﾄ(ｶﾝﾉﾝﾄﾞｳ)	寺社	川部田	南屋敷	中世	江戸期。堂は明治８年造。明治十年の役の弾痕あり。
366	19・26	上堂前遺跡	カミドウノマエイセキ	包蔵地	下小田	上堂前ほか	中世	青磁・土師質土器・土器・赤焼の陶器。
367	26	古川遺跡	フルカワイセキ	包蔵地	下	古川	弥生～中世	弥生土器･陶磁器･瓦質土器･土師質土器･鉄彩陶器･灰彩陶器。
368	26	太郎丸遺跡群	タロウマルイセキグン	包蔵地	津留	太郎丸	中世	青磁・白磁・土師器・黒色土器・天目・瓦質土器。
369	26	梅林天満宮	バイリンテンマングウ	寺社	津留	太郎丸	中世	承平６年勧請。祭神は菅原道真。
370	26	安楽寺跡	アンラクジアト	寺社	津留	高畑	中世	
371	26・33	下ノ川遺跡	シモノカワイセキ	包蔵地	津留	下ノ川ほか	中世	
376	２６・２７	中津留遺跡	ナカツルイセキ	包敵地	下	中津留	縄文～中世	晩期土器・弥生中期・後期土器・須恵器・土師器・陶磁器
440	31・32	南出遺跡群	ミナミディセキグン	包蔵地	中	内田	弥生・古代	弥生麦棺出土、玉名高校蔵。
474	32	保田木城跡	ホタキジョウアト	城館	高瀬	保田木	中世	保田木神社内。外濠一部残存。高瀬城ともいう。
475	32	保田木貝塚	ホタキカイヅカ	貝塚	高瀬	保田木	縄文	神社境内全域。阿高式中心。
479	32	清源寺跡	セイゲンジアト	寺社	高瀬	魚屋町	中世	正平２年固山一鞏を開山とし建立。
480	32	蒼園山願行寺	ソウエンザンガンギョウジ	寺社	高瀬	横町	中世	貞和５年開基
487	32	高瀬本町通遺跡	タカセホンマチトオリイセキ	包蔵地	高瀬	本町	中世	道路 3.5ｍの下層。鎌倉期の遺物大量出土。
489	32	宝成就寺跡	ホウジヨウジュジアト	寺社	高瀬	下町	中世	多くの古塔碑・石仏を残す。跡地小学校建つ。
490	32	宝成就寺古塔碑群・石仏群	ﾎｳｼﾞｮｳｼﾞｭｼﾞｺﾄｳﾋｸﾞﾝ･ｾｷﾌﾞﾂｸﾞﾝ	石造物	高瀬	下町	中世	市指定
497	32	高瀬川床遺跡	タカセカワトコイセキ	包蔵地	高瀬	堤外地	縄文～中世	縄文前期～弥生後期土器・甕棺・須恵器・土師器・陶磁器
498	32	長福寺跡	チョウフクジアト	寺社	高瀬	八日町	中世	
501	32	大倉山永徳寺跡	オオクラサンエイトクジアト	寺社	永徳寺	上出・出口	中世	石勝子介が開山。形跡なし。
502	32	永徳寺川床遺跡	エイトクジカワトコイセキ	包蔵地	永徳寺	堤外地	弥生・中世	甕棺・陶磁器多数。
506	32	繁根木山寿福寺跡	ハネギサンジュフクジアト	寺社	繁根木	北	中世	天長元年創立加善大徳という。跡地郡役所をおく。
508	32	繁根木貝塚	ハネギカイヅカ	貝塚	繁根木	宮中	縄文	縄文土器多数。繁根木八幡宮境内
509	32	繁根木八幡宮	ハネギハチマングウ	寺社	繁根木	宮中	中世	応和元年（961）に建立。
510	32	稲荷山薬師堂跡	イナリヤマヤクシドウアト	堂	繁根木	北・堂ノ後	古代	稲荷山古墳円部上。法隆寺系布目瓦大量。
511	32	補陀落渡海供養塔附石塔群	ﾌﾀﾞﾗｸﾄｶｲｸﾖｳﾄｳﾂﾂｹﾀﾘｾｷﾄｳｸﾞﾝ	石造物	繁根木	北	中世	稲荷山古墳後円部上。永禄11、方圓・善心・道圓。県指定
513	32	亀甲遺跡群	カメノコウイセキグン	包蔵地	亀甲	上ヱ畑	中世	
515	32	北園丸塚	キタソノマルツカ	墳墓	亀甲	北国	中世	国道 208 号北入、墓地の一隅楕円状封土
521	32	桃田貝塚	モモダカイヅカ	貝塚	大倉	北	縄文	阿高式土器出土。
524	32・40	高田遺跡群	タカダイセキグン	包蔵地	大倉	高田	中世	
529	32	小島城跡	オシマジヨウアト	城館	小島	後畑・居屋敷	中世	小島天神前。
535	33	城ヶ辻城跡	ジヨウガツジジヨウアト	城館	寺田	山口・西原ほか	中世	今回調査区旧寺田山口遺跡が含まれる。
536	33	吉丸前遺跡	ヨシマルマエイセキ	包蔵地	寺田	吉丸ほか	中世	菊花文人瓦器多量出土。
537	33	榎原遺跡	エノキバライセキ	包蔵地	寺田	榎原	縄文～中世	一部吉丸西遺跡として調査
542	33	内津留遺跡	ウチツルイセキ	包蔵地	津留	内津留	縄文～中世	
543	33	群前遺跡	ムレノマエイセキ	包蔵地	津留	群前	弥生～中世	土坑溝。掘立技建物。畝状遺構
544	33	花群山吉祥寺跡	カムロサンキツシヨウジアト	寺社	津留	堂園	中世	狭い高台上、跡地に毘沙門天を祀る。
545	33・34	上津留遺跡	カミツルイセキ	包蔵地	津留	稲田	縄文～中世	付近畑地耕作で発見と伝えられる。
547	33・34	部田上遺跡	ヘタカミイセキ	包蔵地	津留	部田上ほか	縄文	
549	26・27・33・34	祭田下遺跡	サイデンシタイセキ	包蔵地	津留	祭田下	弥生～古代	弥生前期甕。中世の土師器･須恵器･瓦質土器･瓦・青磁。
639	32・40	下高田遺跡	シモタカダイセキ	包蔵地	伊倉北方	下高田	古代・中世	



Pl.5　寺田山口遺跡周辺古地図（1／10,000）

引用文献『玉名市史　資料篇１　絵図・地図』玉名市史編集委員会　玉名市　95頁抜粋

四　玉名郡村図

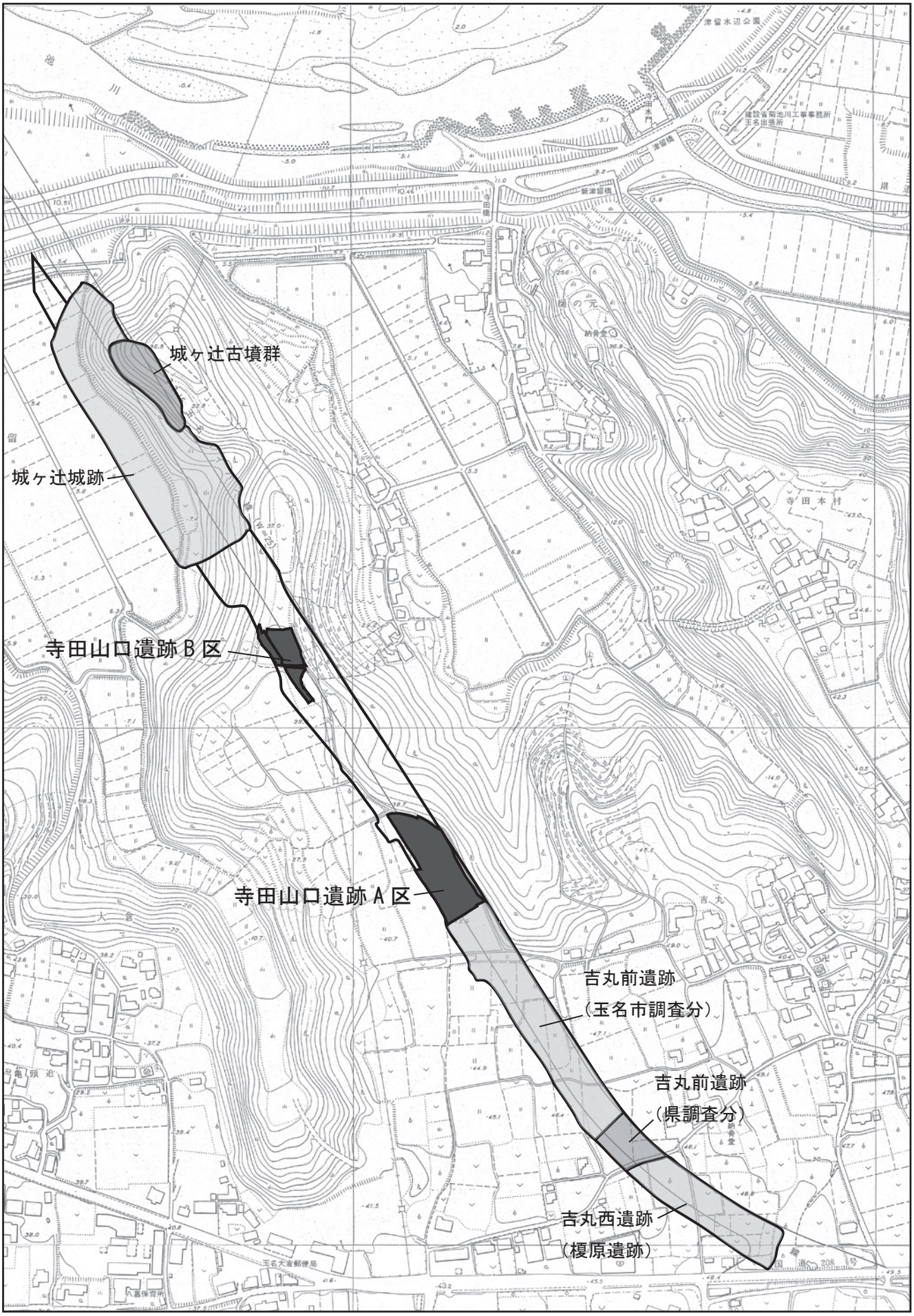
18～66　玉名郡村図（玉名市関係旧村図）
玉名郡村図
明治十二（一八七九）年から明治十五年（一八八二）年
熊本県立図書館
二・5・〇二九五、以下（各旧村の目録番号は解説の文中に別表とする）
高瀬町図、以下（玉名市旧村図）
三二×四七cm、以下（各旧村図の法量は解説の文中に別表とする）

「郡村図」は、『熊本県古地図目録』（『熊本県史料集成』所収）の解題、森下功「明治前期地図について」によると、明治初年に編纂された郡村地誌の附図である。地誌の編纂は明治五（一八七二）年の太政官布告によって着手され、ついで明治七年十一月には「村図ハ例則中掲載セスト雖モ便宜ノタメ可成ハ製図致シ、一町六分ノ割ヲ以取調、字地・元標・社寺等記載スヘシ」として、村図と名勝真景図の提出を希望している。次いで編集の業は同八年九月には太政官から修史局の所管に移され、翌年には内務省地理局に移管されて村図の作成が行われた。地図は地誌編集とともに庶務課地誌調掛で測量作成されたが、調掛に熟練者がなく支障が多いため、同十四（一八八一）年には土木課に依頼して作成された。「玉名郡村図」についても、玉名郡図とともに各村図が右のような過程を経て作成されたであろうが、「玉名郡誌」の起稿が明治十二年四月であり、また「玉名郡村誌稿本」の起稿が明治十二（一八七九）年から始まり、明治十五年に定稿が作成された。さらに明治十六年七月の熊本県知事富岡敬明から地理局長宛の進達書案（熊本県立図書館蔵）に「一玉名郡誌一冊、一同郡全図壱葉、一同郡村誌五冊、一同郡村図百七拾弐葉、一同郡古城跡略図並真景図共拾五葉、右調整候ニ付、本日通達便より則差出候也」とあって、郡村誌と共に郡図（一枚）、郡村図（一七二葉）を調整して地理局に提出したのである。これらのことから、掲載の「玉名郡村図」は明治十二年から作成に着手し、明治十五年に完成させた図であるといえよう。しかし今日では「玉名郡図」一葉は残存しておらず、「玉名郡村図」一七二葉のすべてが熊本県立図書館に所蔵されている。玉名市史の関係図の目録番号と法量は、次表の通りである。（表略）

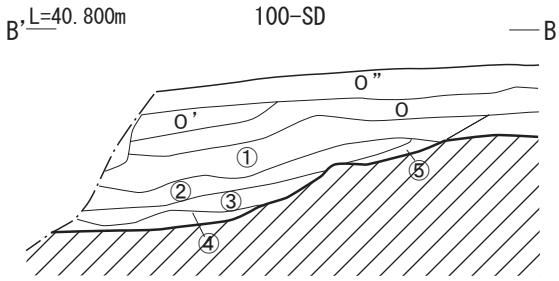
製図の方法については、「玉名郡村誌」の凡例に、「村図ハ例ニヨリ一町六分ノ割ヲ以テ調整スト雖モ、土地広濶ノ小天村外二一か村ハ一町三分ノ割ヲ以テ、尤分割ハ該村図ニ記載ス」とあるので、一町を六分の縮尺、即ち六千分一に、広い村二一か村は一町を三分の縮尺、即ち一万二千分一の縮小をもって、一間を六尺と表し（玉名市域では山田村・石貫村・三津川村）、タテ三二×四七cmの用紙を多く使用して描図した。そしてその村図内に、字名と字境、社地、寺地、宅地、墓地、耕地、山林・原野、堤塘、道路、河溝、水路、堀を彩色して区分（河溝、水路、堀は水として同一色）し、また×をもって村の元標の位置を示すようにして作図されているので、明治初期の当時の村の姿の概観を知ることが出来る。それらの各村々の項目内容については、『郡村誌』（『玉名市史　資料篇2　地誌』所収）に記載されているので、両者を併用すると、なおさら明確に村の姿が判明する。なお本『玉名市史　資料篇1　絵図・地図』には、玉名市関係の旧村図を掲載するとともに、その村図のトレース版をも掲載した。トレース版の図版の作成方法は各村図の凡例を参照していただきたい。また下村、三津川村、石貫村、築地村の四か村については、小字名を明確にする意味で部分的に拡大した図版とした。

（森山恒雄）

引用文献『玉名市史　資料篇1　絵図・地図』
玉名市史編集委員会　玉名市
203・204頁　抜粋



Pl.7　玉名バイパス計画路線内遺跡位置図（菊池川左岸）（1/5,000）



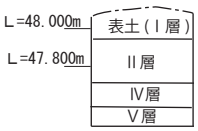
100-SD

0　にぶい橙色シルト (7.5YR 7/4) 橙色粒混。灰褐色シルト。
①　にぶい橙色シルト (7.5YR 6/4) 赤色粒混。
②　にぶい橙色シルト (7.5YR 7/4) 赤色粒混。
③　(7.5YR 5/3) にぶい褐色シルト。橙色粒混。
④　(7.5YR 6/8) 橙色シルト。やや灰色混。
⑤　(7.5YR 5/6) 明褐色粘質土 (5/6)④よりやや暗い。

0　2m

寺田山口遺跡　基本土層図 (1/60)

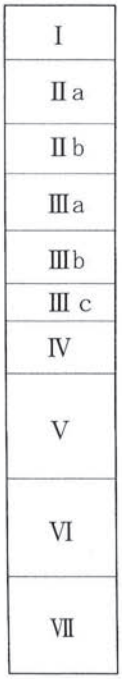
参考



Ⅰ層　表土。現代の耕作土。調査区外。
Ⅱ層　近代の耕作土。調査区外。
Ⅳ層　7.5YR2/1　黒色土。しまり・粘性とも弱い。
古代～中世(？)の包含層。
中世の遺構の下位にある。
Ⅴ層　7.5YR 4/4　褐色土。しまり・粘性ともやや強い。
混入物は非常に少ない。縄文晩期の包含層。
遺物のほか焼土・炭化物を含む部分もある。

0　1m

吉丸前遺跡　基本土層図 (1/40)



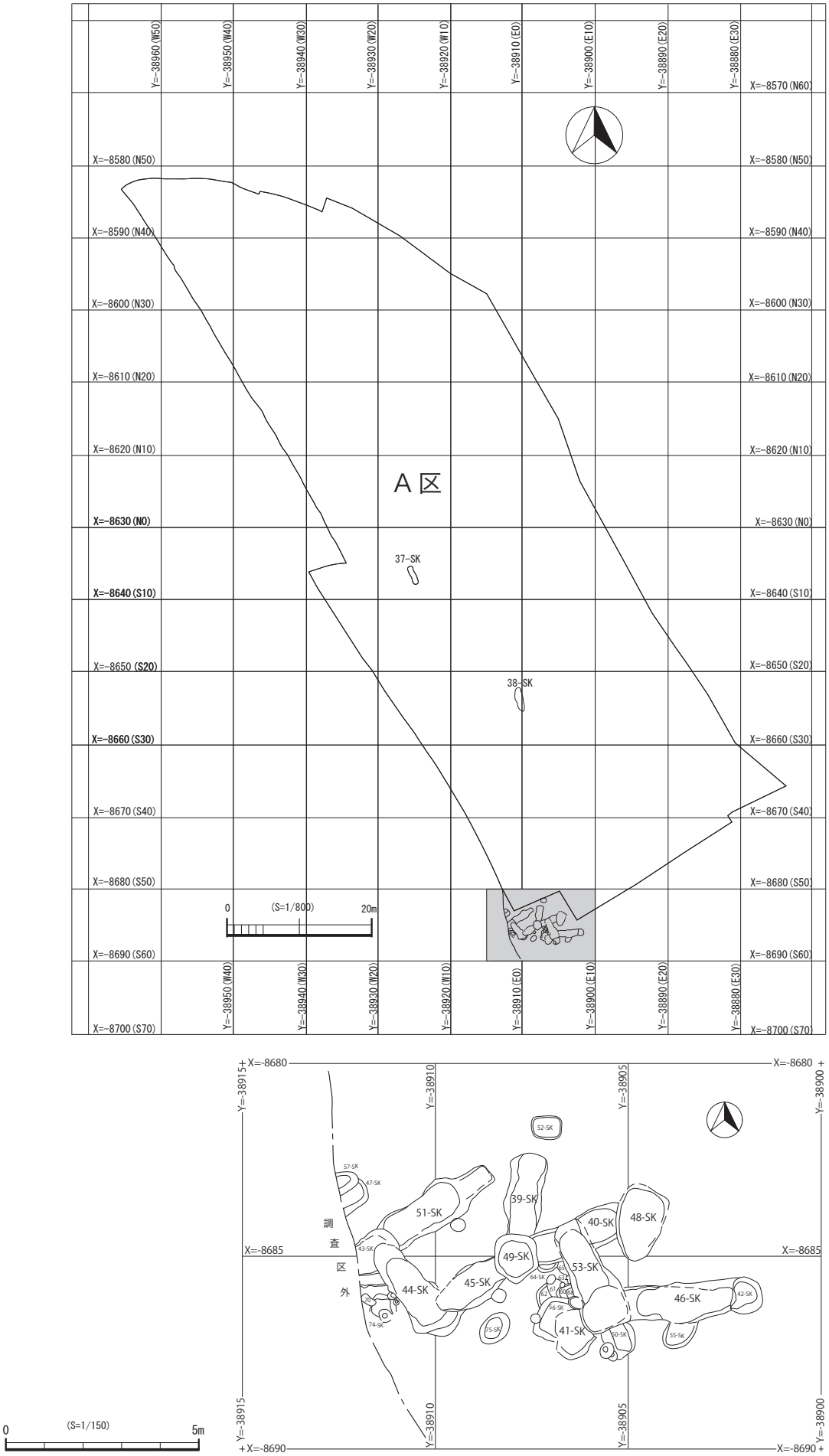
層位名	色調*		特徴
Ⅰ			現代の耕作土
Ⅱa ・Ⅱb			近代の耕作土
Ⅲa	極暗褐色土層	(Hue7.5YR2/3)	しまり、粘性ともやや弱い。ローム粒の混入多く、それが均質に混じる。炭化物・小礫をやや含む。中～近世の耕作土層。
Ⅲb	黒褐色土層	(Hue7.5YR2/2)	しまり、粘性ともやや弱い。Ⅲa層に比べローム粒の混入少ない。中～近世の耕作土層。
Ⅲc	黒褐色土層	(Hue7.5YR2/1.5)	しまり、粘性ともやや弱い。Ⅲa・Ⅲb層に近似するが、ローム粒の混入少なく、色調はⅣに近づく。Ⅳ層が攪拌されたもの。中～近世の耕作土層。
Ⅳ	黒色土層	(Hue7.5YR2/1)	しまり、粘性とも上層より弱い。粒子が細かく、若干下位の層の粒子を含む。古代の包含層。
Ⅴ	褐色土層	(Hue7.5YR4/4)	しまり、粘性ともやや強い。下位の層の小ブロックをまれに含むが、混入物は非常に少ない。縄文晩期の包含層。
Ⅵ	黒色土層	(Hue7.5YR2/1)	しまり強く、粘性やや強い。灰色～にぶい橙色の粒子をやや含む。無遺物層。
Ⅶ	褐色土層	(Hue7.5YR4/6)	しまり、粘性とも非常に強い。若干の砂粒を含むローム層。

＊小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帳』　日本色研事業株式会社　1986

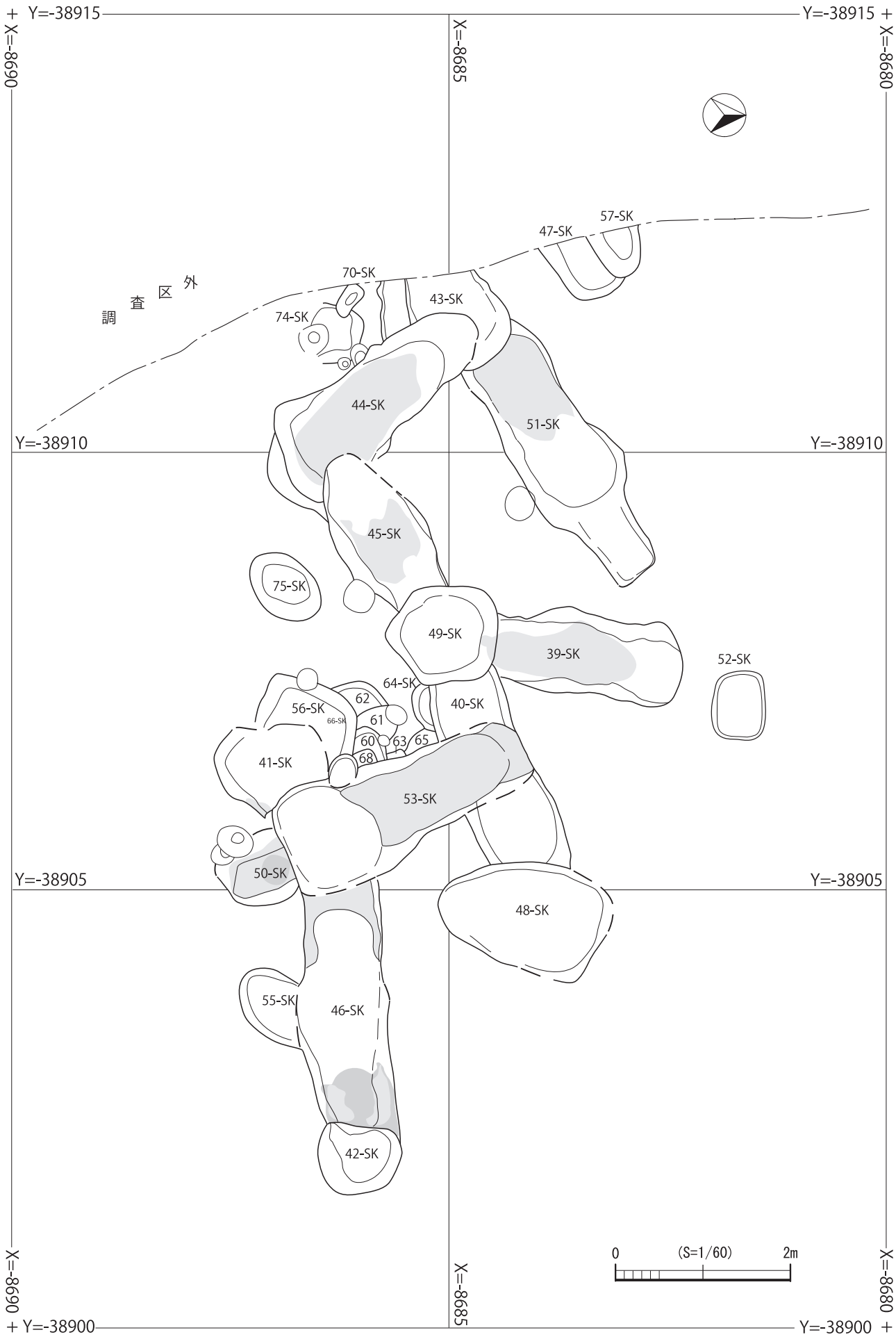
土層柱状図および観察表

吉丸前遺跡（玉名市教育委員会）　基本土層図（「吉丸前遺跡」玉名市文化財調査報告第16集P.18より転載）

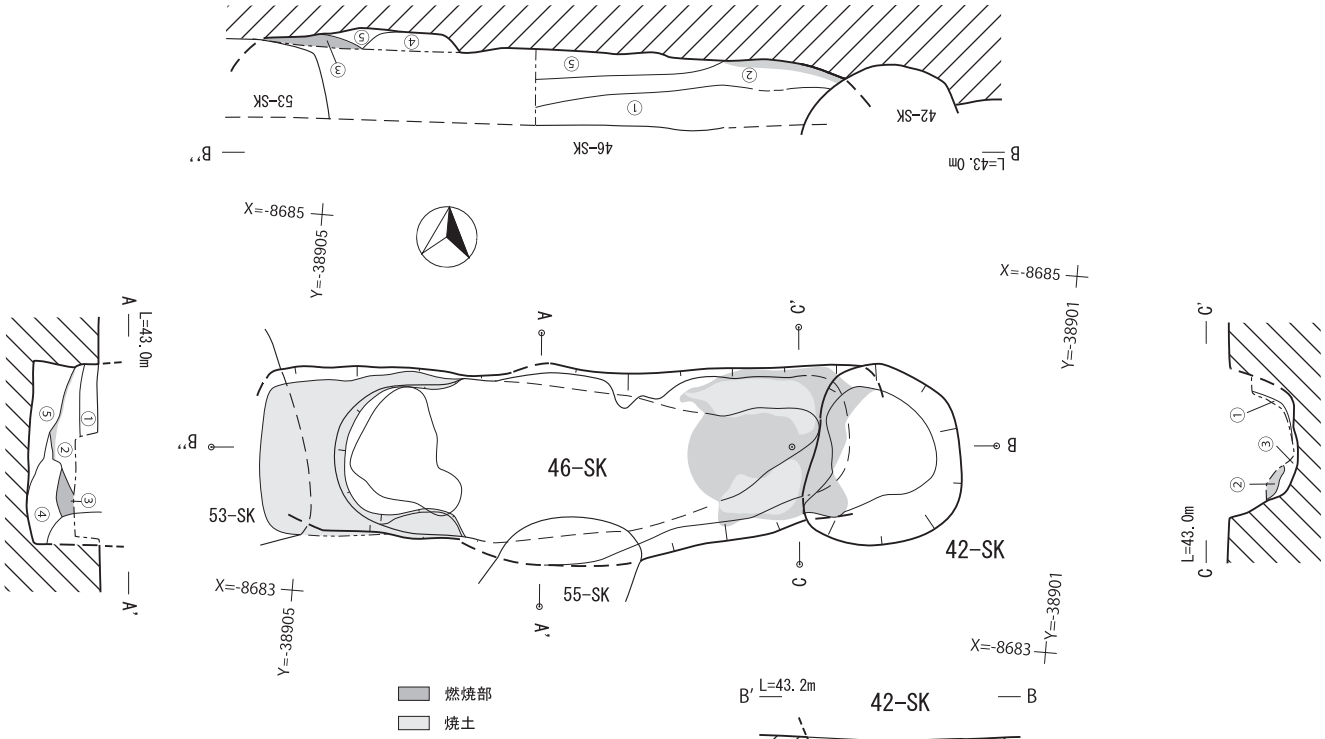
Pl.8　基本土層図　寺田山口遺跡 (1/60)・吉丸前遺跡 (1/40)

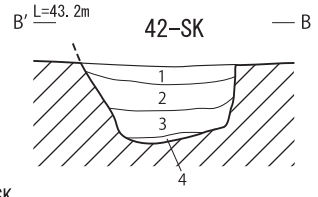


Pl.9　A区縄文時代早期遺構配置図 (1/800) (1/150)



Pl.10　A区縄文早期連結土坑遺構配置図　(1/60)



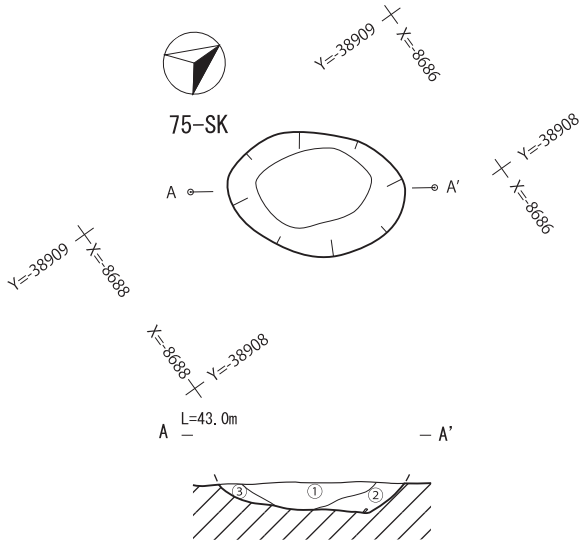


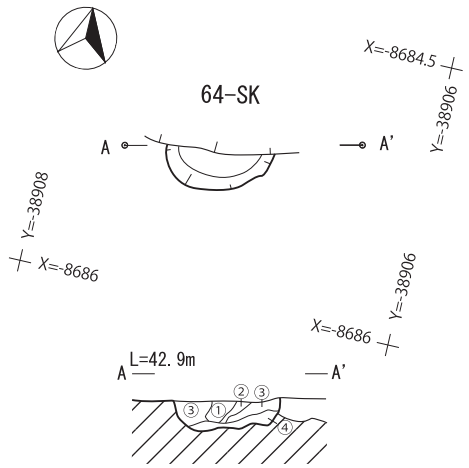
46-SK

① 暗褐色土(Hue10YR3/3)
しまりが強く、砂礫をわずかに含む
② 褐色土(Hue7.5YR4/3)
燃焼面で焼土ブロック(5mm～1cm)を多く含む
ただし火を燃やしていた面よりしまっている
1枚上の層になる
③ 褐色土(Hue7.5YR4/4)
焼土の層で一番よく火が燃えていた部分と考えられる
②よりも非常に良くしまっている
④ 黒褐色土(Hue10YR3/2)
焼土塊と粘土をブロック状に多く含む　しまりのある土
⑤ 灰黄褐色土(Hue10YR4/2)
粘土(白)をブロック状に多く含む　しまりのある

42-SK

① 暗褐色土(Hue10YR3/3)　キメの細かい土でしまりはない
焼土を粒状にわずかに含む
② 暗褐色土(Hue10YR3/4)　①と同様の土であるが、焼土ブロック(1～2mm)と
黄色粘土塊を多く含む
③ 灰黄褐色土(Hue10YR4/2)　やや粘質気味でしまりはある
焼土ブロック(1～2mm)と黄色粘土塊を多く含む
④ にぶい黄褐色土(Hue10YR6/4)　キメの細かくしまりのない土
地山の崩れた土である



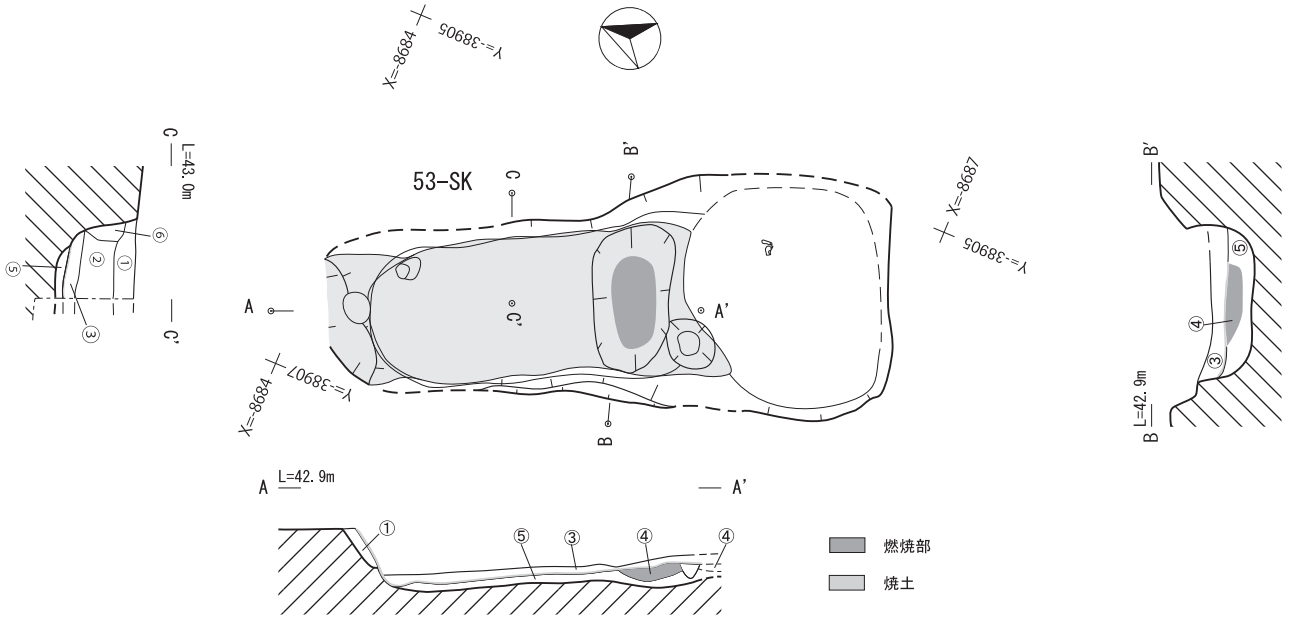


① 褐色土(Hue7.5YR4/4)　キメが細かく、しまりある土
5mm大の黄色 土ブロックをわずかながら含む
② 褐色土(Hue7.5YR4/3)　粘り、しまりともにある土
5mm大の炭化物を全体に含む
③ 褐色土(Hue7.5YR4/4)　①層と違い粘性の強い土

① 灰褐色土(Hue7.5YR4/2)　キメ細かく、かなりしまりの
ある土　1cm大の黄色土が全体に見られる　柱痕か？
② 褐色土(Hue7.5YR4/4)　キメ細かく、かなりしまりのある土
黄色土が全体的に見られて入る
③ 褐色土(Hue7.5YR4/3)　①層に比べしまりが弱い土
わずかではあるが1cm大の黄色土・焼土が見られる
④ 褐色土(Hue7.5YR4/4)　しまりがある土
黄色土が乱れて入り、にごりある土

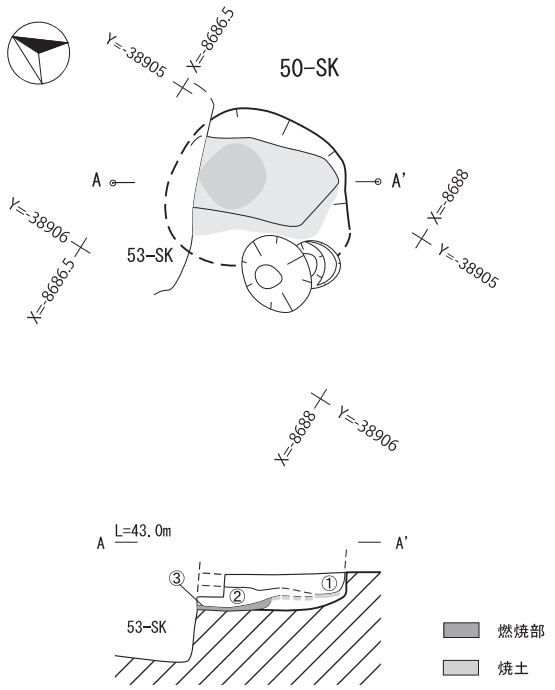
0　2m

Pl.11　A区連結土坑　46.・42・75・64-SK 平面・断面図 (1/40)

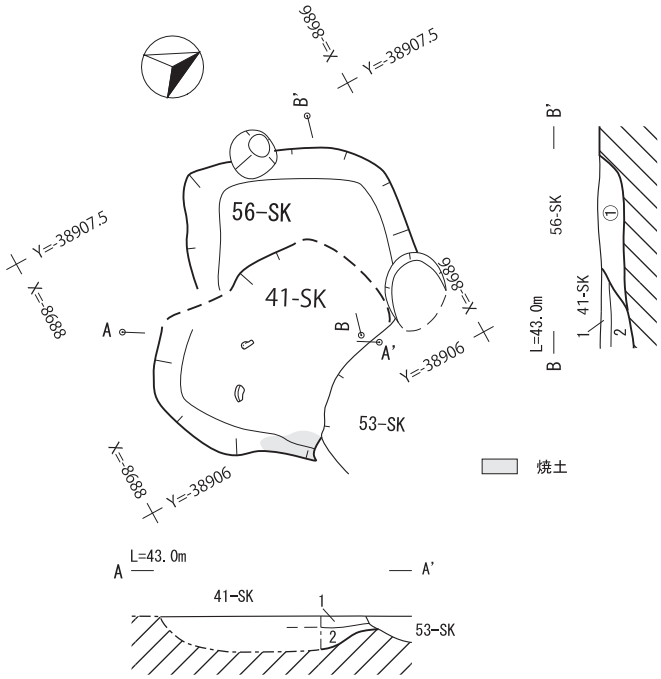


53-SK

① 暗褐色土 (Hue7.5YR3/3) 2mm 前後の焼土粒・黄色土粒を多く含み、粘性があり、しまる。
② 黒褐色土 (Hue7.5YR3/2) 2mm 前後の焼土粒・黄色土粒を多く含み、①よりもやや暗く、しまりも弱い。
③ 黒褐色土 (Hue7.5YR3/2) 焼土ブロックを全体的に含み、炭粒を含む。しまっている。
④ 暗褐色土 (Hue7.5YR3/4) 1cm 前後の焼土ブロック混在。しまりは弱い。
⑤ 灰褐色土 (Hue7.5YR4/2) 1cm 前後の焼土・黄色土ブロック混在。炭粒子も若干含む。
⑥ 褐色粘質土 (Hue7.5YR3/2) 5mm~1cm の黄色粘土が混在。壁の地山崩落土か？



① 暗褐色土(Hue10YR3/3) キメの細かな土で強くしまっている 砂礫と白粘土をわずかに含む
② にぶい黄褐色土(Hue10YR5/3) 焼土粒(0.5cm～1cm)を多く含み、サクサクとした土の感触である
③ 赤褐色土(Hue2.5YR4/5) 焼土層

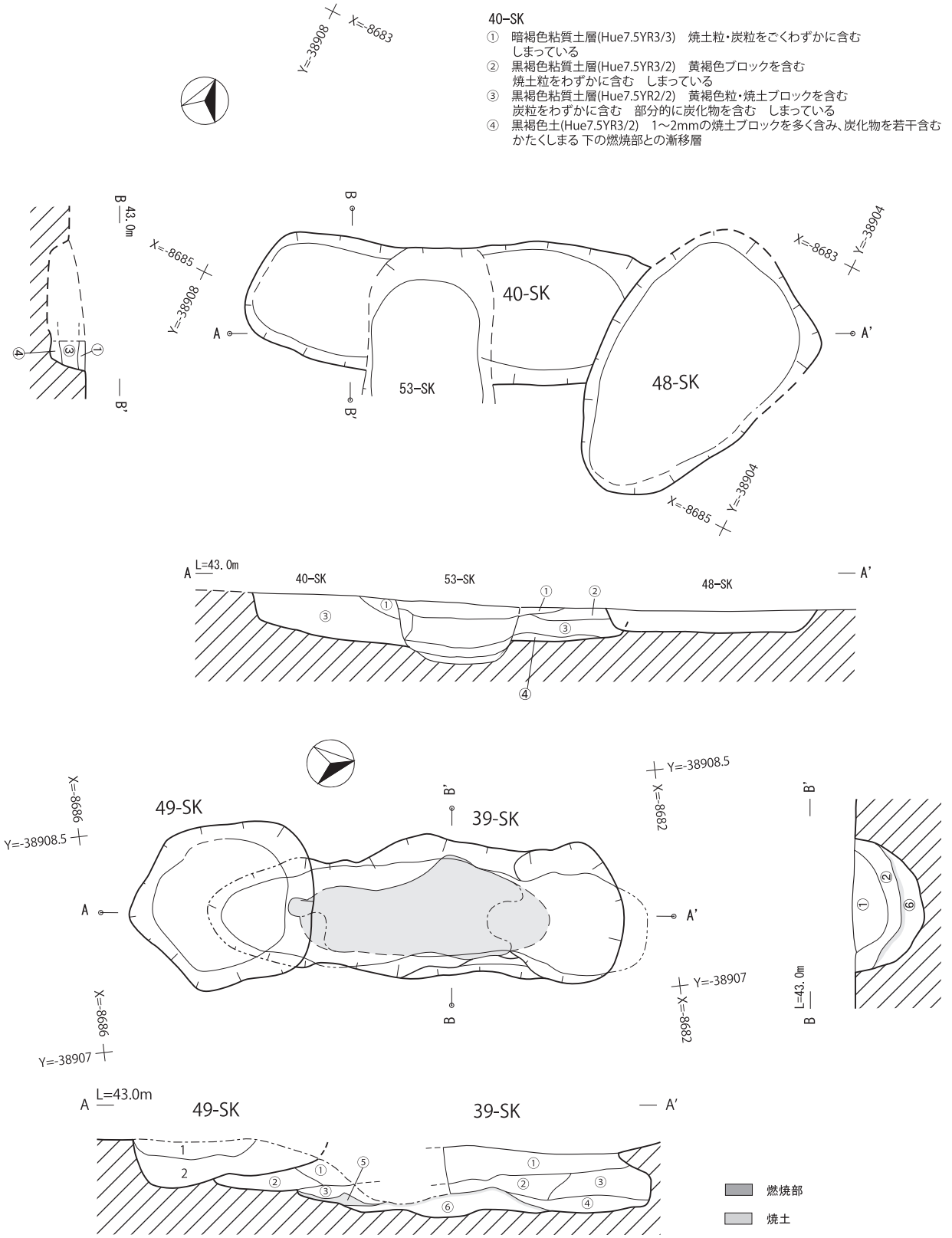


56-SK ① 褐色土(Hue7.5YR4/4) キメ細かいが①に比べてしまりは弱い土 微粒の黄色土が全体に混じる わずかながら微細の炭化物も見られる

41-SK ① 褐色土(Hue7.5YR4/3) 軟らかい土
② 暗褐色土(Hue7.5YR3/4) キメ細かくしまりある土 微小の黄色土と焼土粒を全体に含む わずかながら炭化物も含まれる

0 2m

Pl.12 A区連結土坑 53・50・56・41-SK 平面・断面図 (1/40)



49-SK

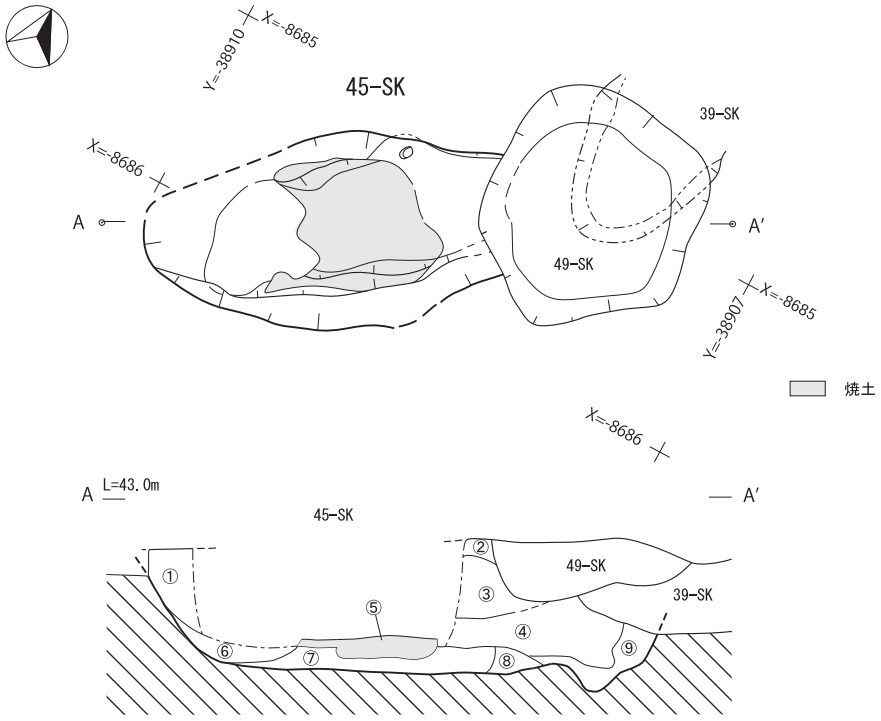
① 暗褐色粘質土(Hue7.5YR3/3) 焼土粒1～5mm前後の炭化物を若干含む しまり強い ②層との境に土器片数点出土
② 暗褐色粘質土(Hue7.5YR3/4) ①層よりもやや暗く しまりも弱まる

039-SK

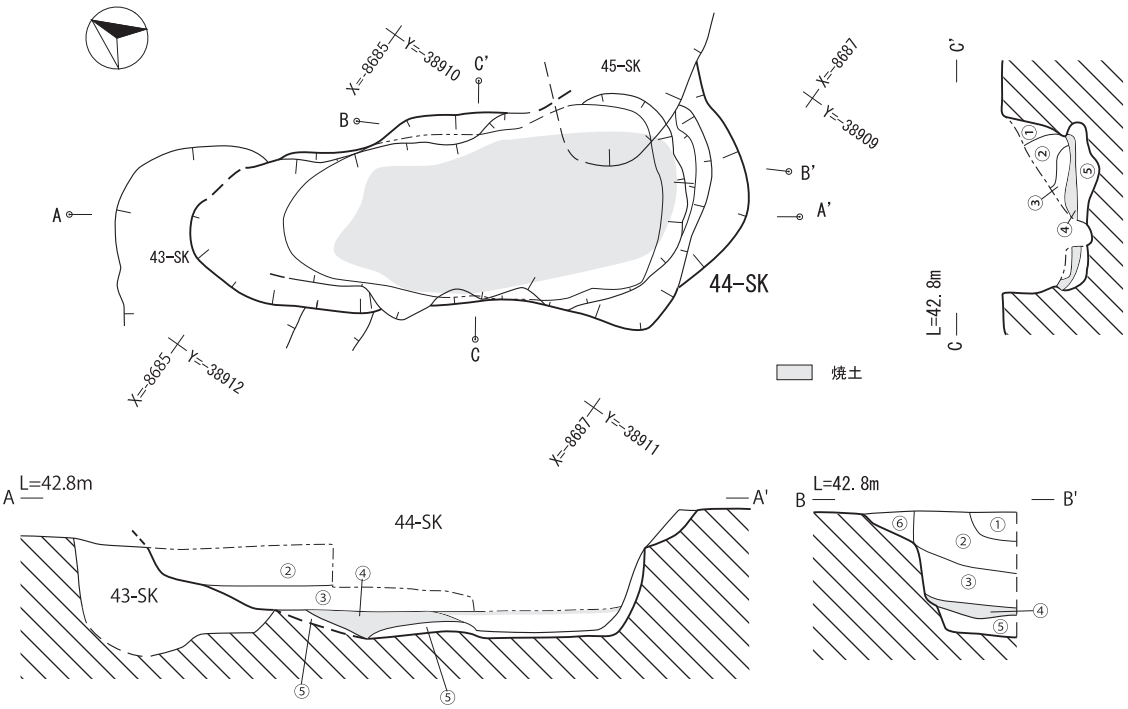
① 黒褐色土(Hue10YR3/2) 焼土を粒状に多く含む 土の堆積は②層上面に水平に堆積している
② 褐色土(Hue10YR4/3) 焼土が細かい粒状にまんべんなく含むため、明るい褐色を呈する ③層によりかかるように堆積しているため
③ 暗褐色土(Hue10YR5/4) 焼土をブロック状に多く含む
④ にぶい黄褐色土(Hue10YR5/4) 地山の崩落土と思われる キメの細かな黒色土がすきまにつまっている
⑤ 暗褐色土(Hue7.5YR3/4) 焼土ブロックと黄褐色のブロックを全体的に多く含む 炭粒ごくわずかに含む しまり弱い
⑥ 褐色土(Hue7.5YR4/6) 全体的に焼土の粒を含む 暗褐色土の粒ブロックをわずかに含む サラサラしている

0 2m

Pl.13 A区連結土坑 40・48・39・49-SK 平面・断面図 (1/40)



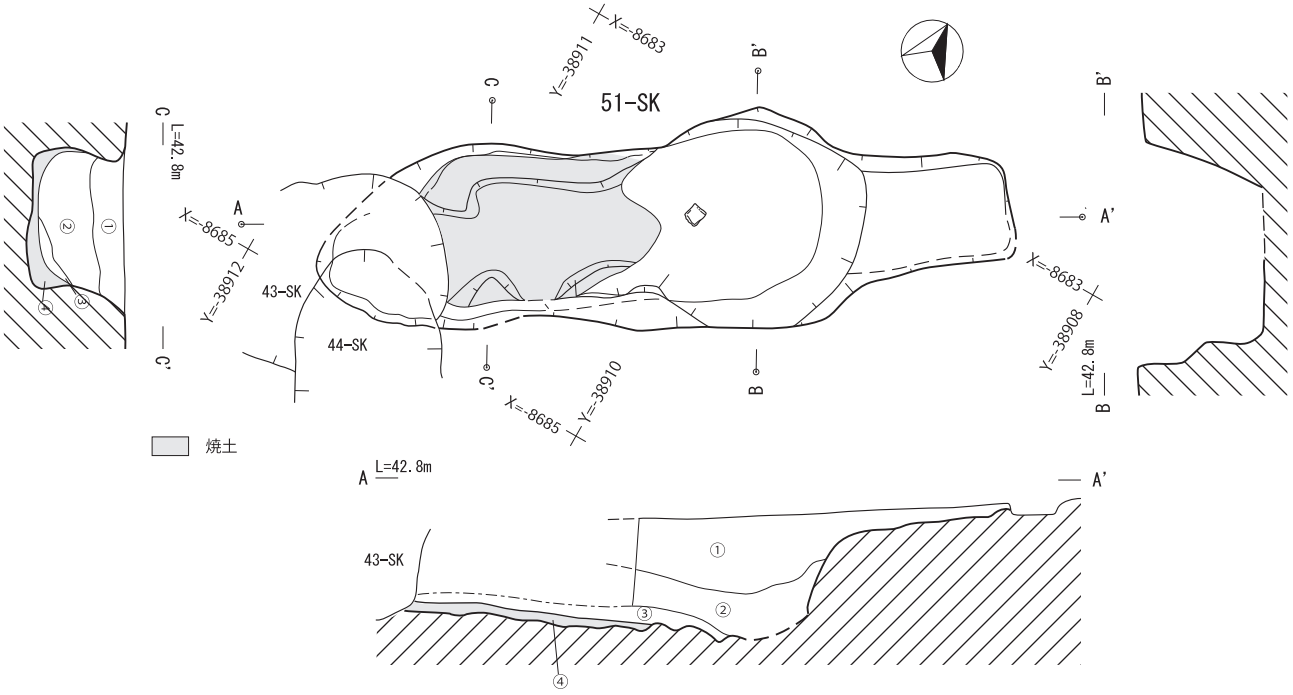
45-SK
① 暗褐色粘質土(Hue7.5YR3/4)　2～3mmの黄色土粒を微量に含む　ややしまる
② 褐色粘質土(Hue7.5YR4/3)　5mm前後の黄色土・焼土を若干含む　粘性・しまりともに強い
③ 暗褐色土(Hue7.5YR3/4)　混入物少　しまり弱い　粘性はややある
④ 暗褐色土(Hue7.5YR3/4)　全体的に焼土ブロック(1～2cm)を多く含む　炭粒をわずかに含む
⑤ 黒褐色土(Hue7.5YR3/2)　黄褐色・赤色ブロック(1～2cm)を全体的に含む
炭粒も多く含む　⑥の下には黄褐色土・赤色土のブロック少ない
⑥ 褐色土(Hue7.5YR4/6)　黄褐色土のブロックを全体的に多く含む　しまり強い
暗褐色・赤色土粒(5mm～1cm)わずかに含む



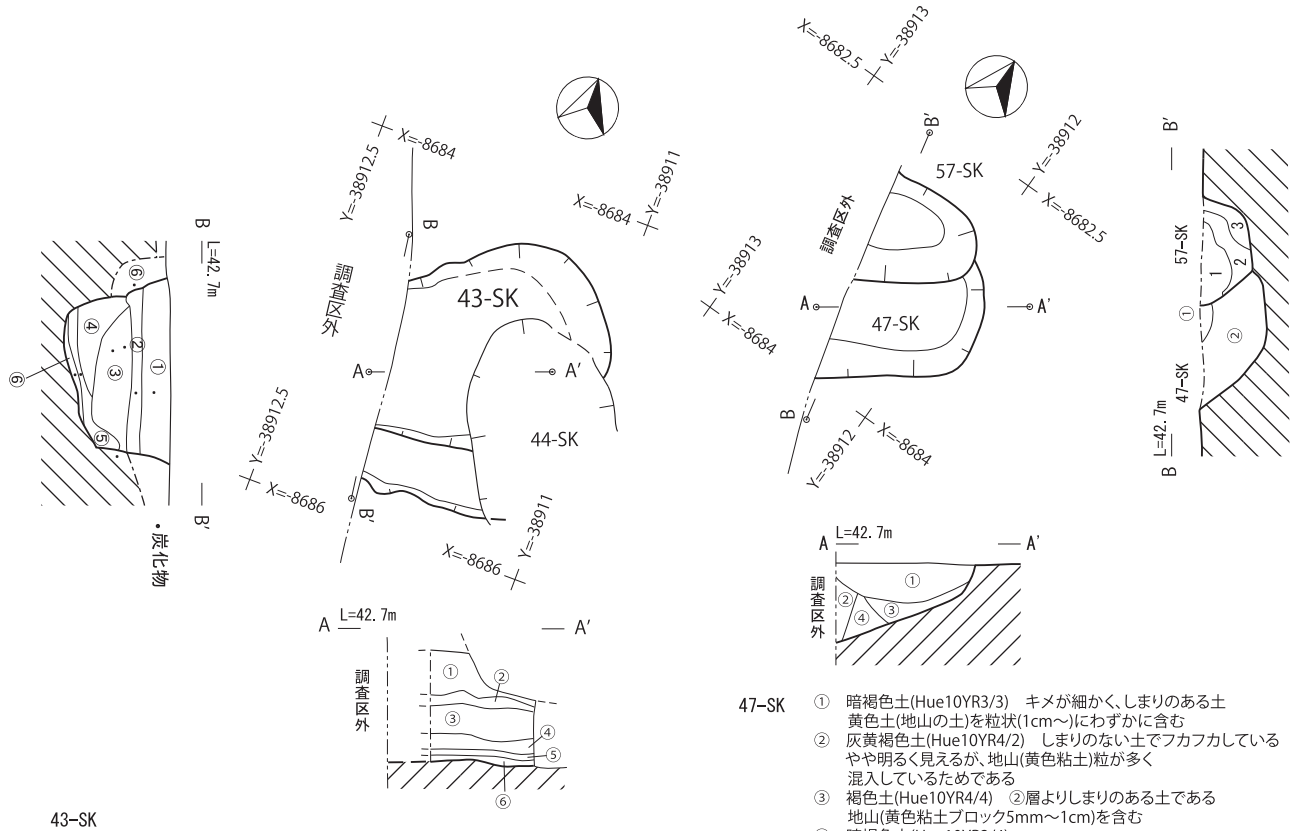
44-SK
① 暗褐色粘質土(Hue7.5YR3/4)　2～3mmの黄色土粒を微量に含む　ややしまる
② 黒褐色粘質土(Hue7.5YR3/2)　①層よりもやや暗く、しまりは強まる　混入物のキメが細かくなる
③ 黒褐色粘質土(Hue10YR2/2)　土色は②層に似ているがしまりは弱く、混入物の量が増える
④ 褐色土(Hue7.5YR4/4)　1～2cmの焼土ブロック混在　土坑使用工時の燃焼部堆積層
⑤ 黒褐色土(Hue7.5YR3/2)　1cm前後の黄色土ブロックが若干混ざる　しまりは弱い
⑥ 褐色粘質土(Hue7.5YR4/3)　5mm前後の焼土粒・炭を微量に含む　粘性が強い

0　2m

Pl.14　A区連立土坑　45・44-SK 平面・断面図 (1/40)



51-SK
① 暗褐色粘質土(Hue10YR3/3) 赤色・黄褐色の粒・炭粒をわずかに含む ねばりがあり、しまりのある土 石(約4cm)を含む
② 暗褐色粘質土(Hue10YR3/3) 赤色・黄褐色の粒 を全体的に含む 焼土粒もごくわずかに含む 石(4～6cm)を含む
③ 暗褐色土(Hue10YR3/2) 全体的に焼土と黄褐色のブロックを含む わずかに炭粒を含む しまり弱い 燃焼面
④ 暗褐色土(Hue10YR3/4) 全体に焼土と黄褐色土のブロックを多く含む わずかに炭粒を含む ジャリジャリしている しまりが弱い ③よりも火の影響を強く受けている



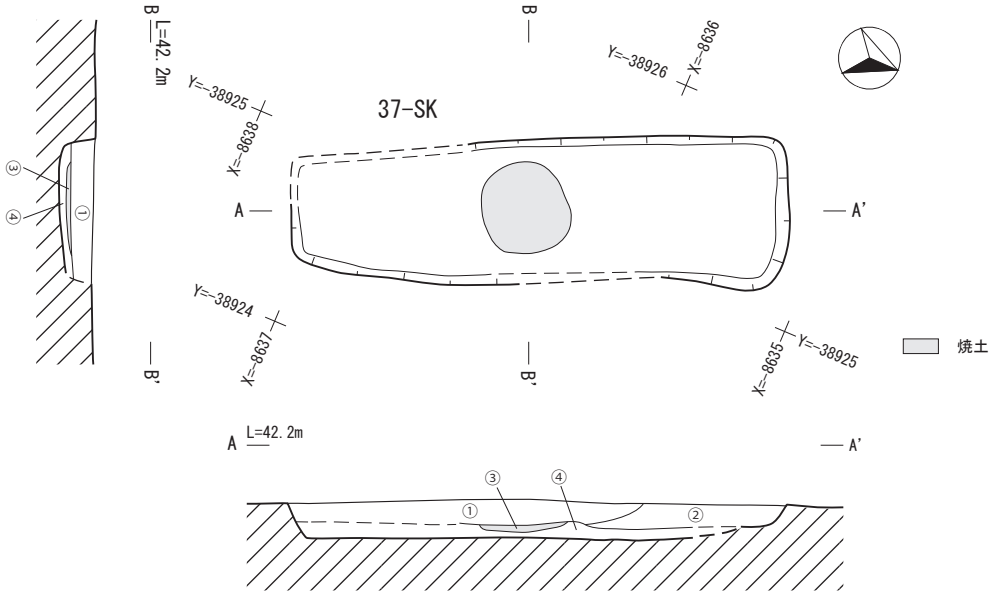
43-SK
① 暗褐色土(Hue7.5YR3/3) 黄褐色土・焼土粒をかすかに含む 炭粒をごくわずかに含む しまり強い
② 暗褐色土(Hue7.5YR3/3) 全体的に黄褐色土・焼土ブロック(1～3cm)を多く含む 炭粒をごくわずかに含む しまり強い
③ 暗褐色土(Hue7.5YR3/3) 黄褐色土・焼土粒をごくわずかに含む(炭粒) しまり強い
④ 暗褐色土(Hue7.5YR3/4) 全体的に黄褐色土・焼土ブロック(1cm)を含む 炭粒をごくわずかに含む しまりやや強い
⑤ 暗褐色土(Hue7.5YR3/4) 全体的に焼土ブロックを多く含む 炭粒をごくわずかに含む 燃焼面
⑥ 褐色土(Hue7.5YR4/4) 黄褐色土・焼土・炭粒をごくわずかに含む しまり強い

47-SK
① 暗褐色土(Hue10YR3/3) キメが細かく、しまりのある土 黄色土(地山の土)を粒状(1cm～)にわずかに含む
② 灰黄褐色土(Hue10YR4/2) しまりのない土でフカフカしている やや明るく見えるが、地山(黄色粘土)粒が多く 混入しているためである
③ 褐色土(Hue10YR4/4) ②層よりしまりのある土である 地山(黄色粘土ブロック5mm～1cm)を含む
④ 暗褐色土(Hue10YR3/4)

57-SK
① 暗褐色粘質土(Hue7.5YR3/3) 黄色土の粒が混じる 炭を若干含む しまりが強い
② 暗褐色粘質土(Hue7.5YR3/4) 黄色土の粒を若干含む 炭を若干含む ①層に比べてややしまりが弱い
③ 褐色粘質土(Hue7.5YR4/4) 炭を若干含むが混じりはなく、全体的に均一の色 粘りが強い

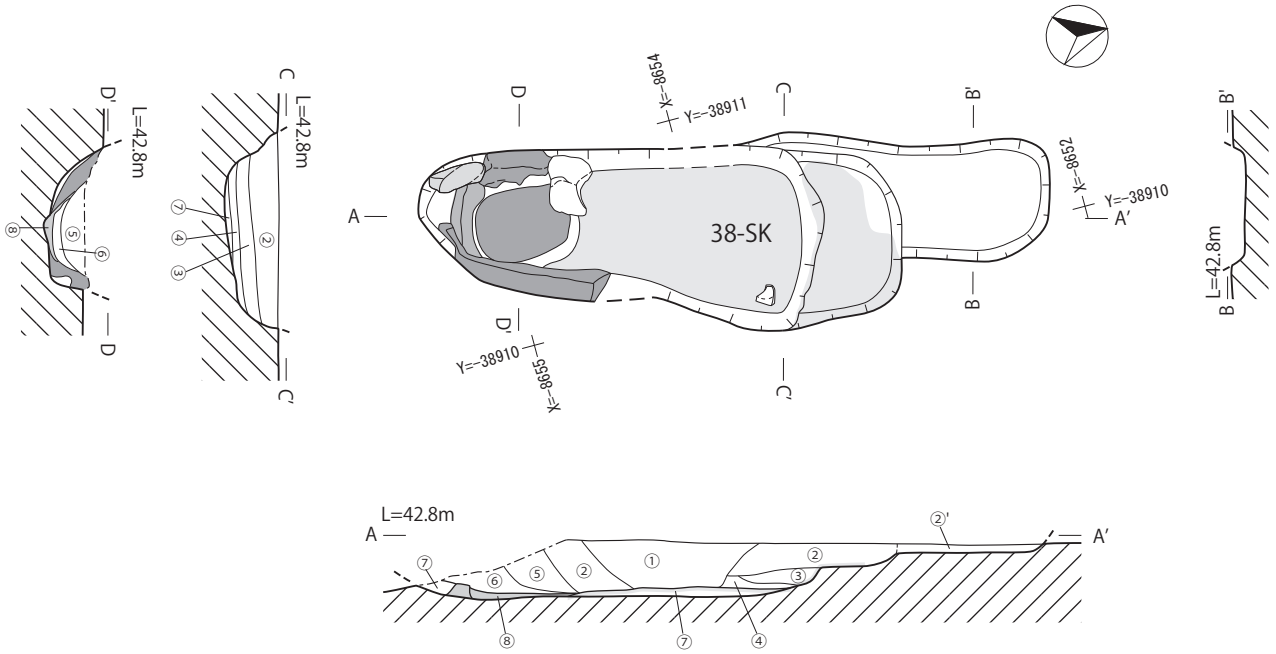
0 2m

Pl.15 A区連立土坑 51・43・47・57-SK 平面・断面図(1/40)



37-SK

① 黒褐色土(Hue7.5YR3/2)
焼土塊(2～3mm)をブロック状に多く含む　しまりのない土である
② 黒褐色土(Hue7.5YR2/2)
ややしまりのある土となるが①とは焼土塊の量が減るだけ位しか違いはない
③ 赤褐色土(Hue5YR4/8)
焼土　サクサクとしたキメの細かな土でカーボン等の混入は見られない　燃焼面の中心部
④ 褐色土(Hue7.5YR4/4)
ややしまった土で地山にかなり近い　しかし焼土・カーボンの混入があり掘れる土である

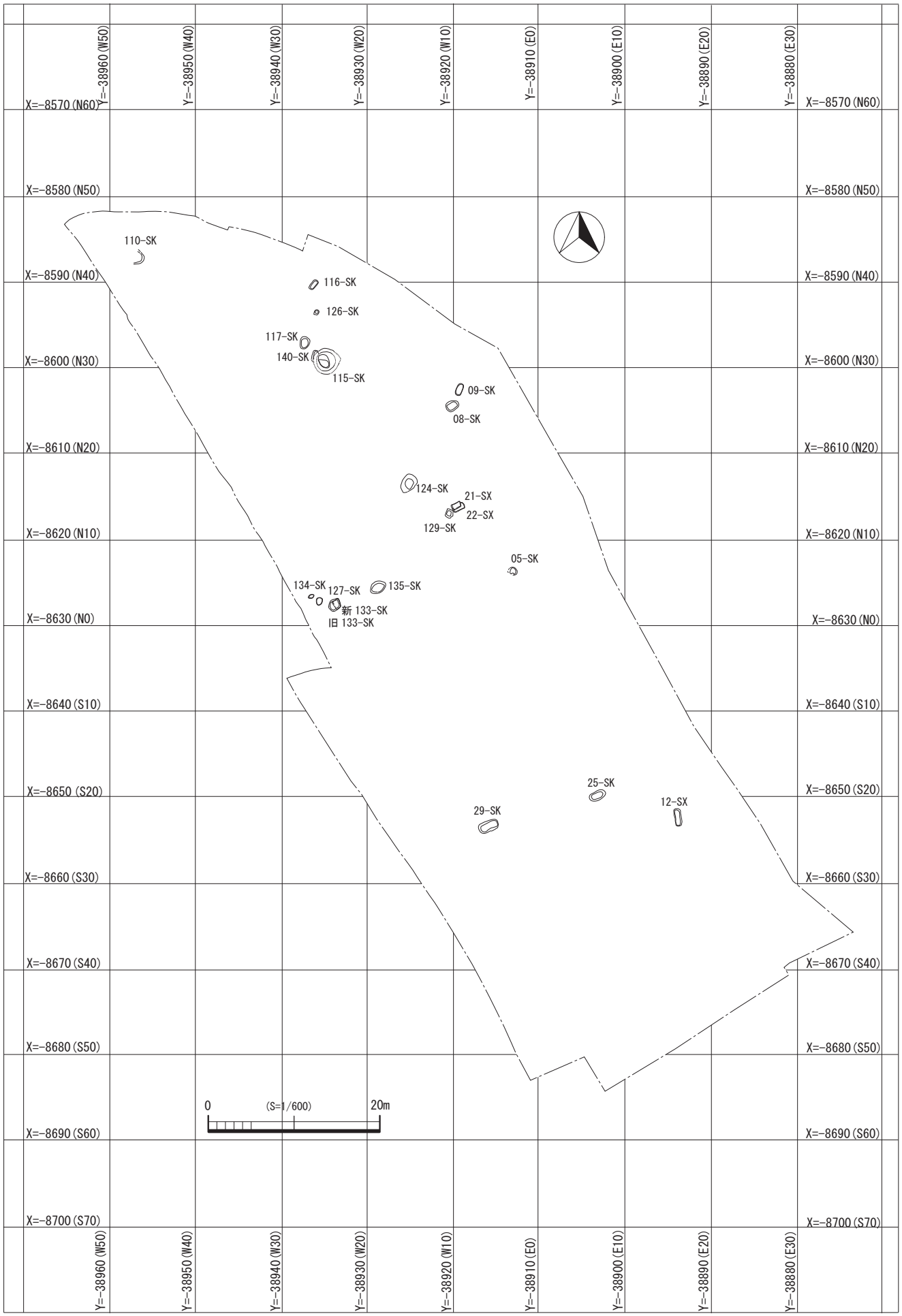


38-SK

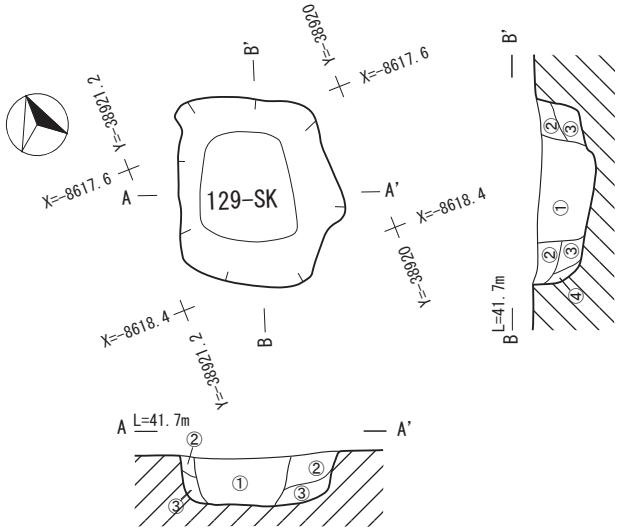
① 黒褐色土(Hue7.5YR3/2)　焼土塊(2～3mm)をブロック状に多く含む　しまりのない土である
② 黒褐色土(Hue7.5YR2/2)　ややしまりのある土となるが①とは焼土塊の量が減るだけ位しか違いはない
③ 赤褐色土(Hue5YR4/8)　焼土　サクサクとしたキメの細かな土でカーボン等の混入は見られない　燃焼面の中心部
④ 褐色土(Hue7.5YR4/4)　ややしまった土で地山にかなり近い　しかし焼土・カーボンの混入があり掘れる土である

0　2m

Pl.16　A区連結土坑　37-SK 38-SK 平面・断面図 (1/40)



Pl.17　A区縄文時代後晩期遺構配置図(1/600)



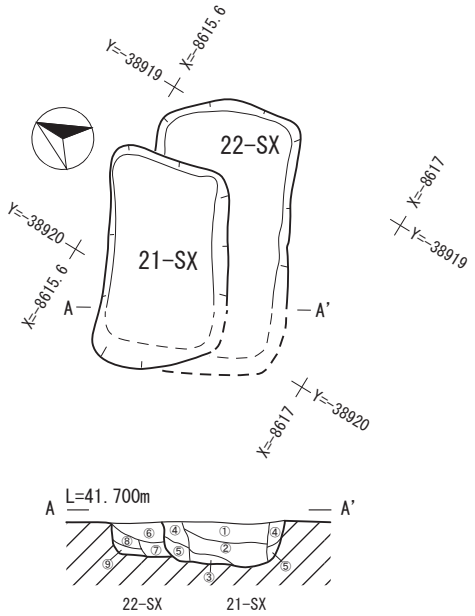
129-SK

① 褐色土層（7.5YR 4/3）非常に良くしまっている。
スミ粒、焼土粒をごくわずか含む。

② 褐色土層（7.5YR 4/4）しまっている。炭を含む。
黄褐色土のブロックを含む。

③ 褐色土層（7.5YR 4/6）しまっている。
スミ粒をごくわずか含む。

④ 褐色土層（7.5YR 4/3）しまっている。
スミ粒、焼土粒をごくわずか含む砂質。



21-SX

① 灰褐色（7.5YR 4/2）暗褐色ブロック少量混粘質土

② 橙色（7.5YR 5/4）ブロック混

④ 褐色（7.5YR 4/4）粘質土

⑤ にぶい褐色（7.5YR 5/4）粘質土

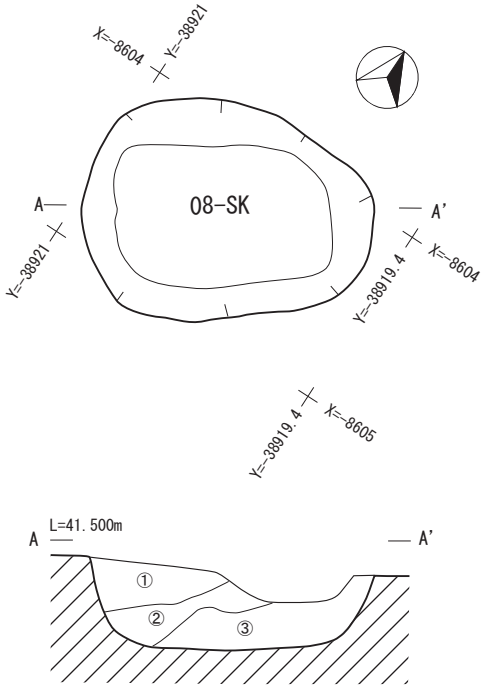
22-SX

⑥ （7.5YR 4/4）褐色粘質土

⑦ にぶい褐色。（7.5YR 5/4）黄褐色ブロック混。

⑧ 橙色（7.5YR 7/6）ブロック混。

⑨ （7.5YR 5/4）

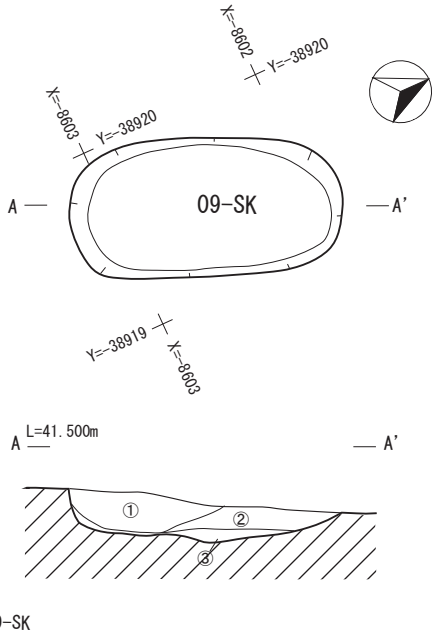


08-SK

① （7.5YR 4/4）褐色粗粒シルト．細礫（2mm～4mm）
ほどの大きさのカーボンがわずかに混じる。

② （7.5YR 3/4）暗褐色粗粒シルト。中礫（4mm～60mm）ほどの
大きさのカーボンがわずかに混じる。焼土も混じり、土器
片も多数出土している。土器は、この層に、かんでいる物
と思われる。

③ （7.5YR 4/6）褐色粗粒シルト。焼土、カーボンが極微量に
混じる。あまり良くしまらない埋土。



09-SK

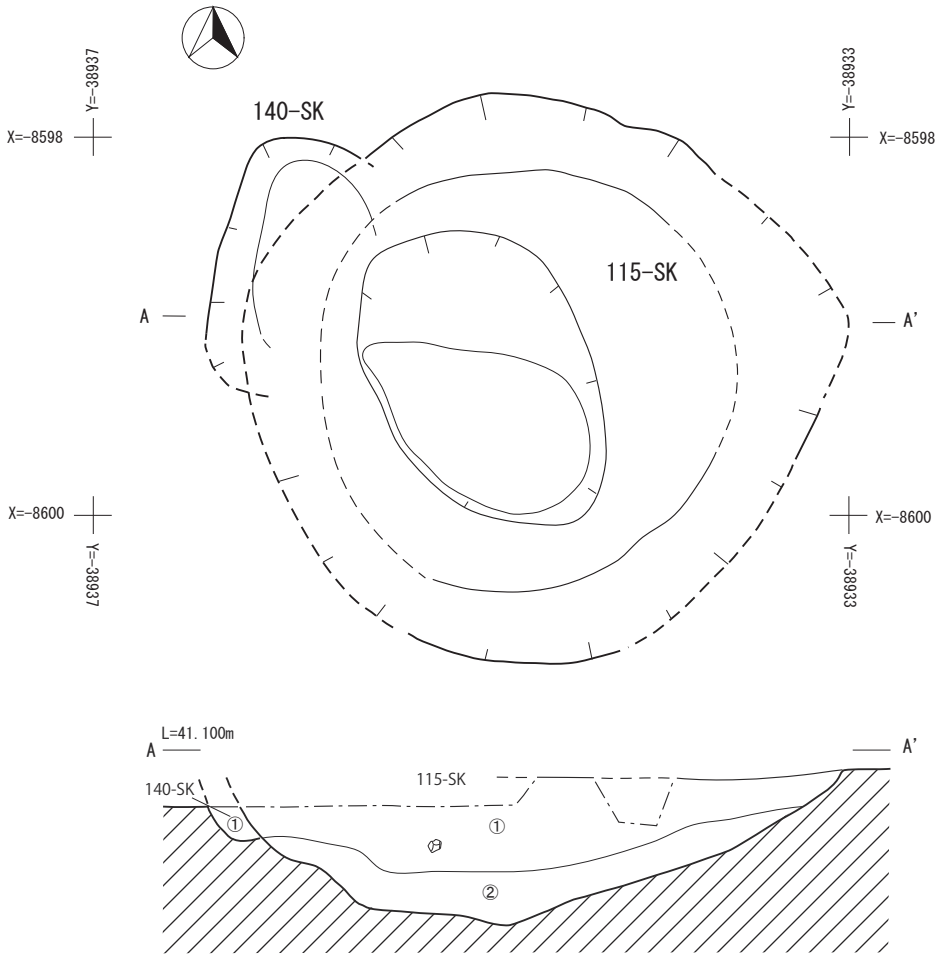
① （7.5YR 4/4）褐色粗粒シルト。極粗粒砂（1mm～2mm）ほどの
大きさのカーボンがポツポツと混じる。

② （7.5YR 3/4）暗褐色微粒砂。①より粘質が強く，固く
しまる。①層と同じようなカーボンの入り方をしている。

③ （7.5YR 4/6）褐色粗粒シルト。②より粘質はあるが、
固くしまらず、ふわふわしている。

0　　2m

Pl.18　A区縄文時代土坑　129・08・09-SK 21・22-SX 平面・断面図（1/40）



115-SK

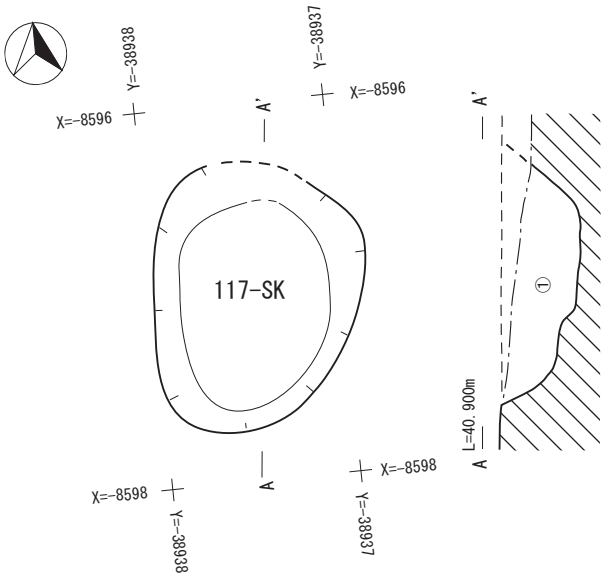
① 褐色土層 (7.5YR 4/4) 縄文土器を含む。しまっている。土器粒、スミ粒を含む。

② 褐色土層 (7.5YR 4/6)①よりも、しまっている。スミ粒、土器粒を全体的に含む。黄褐色土ブロックを含む。

140-SK

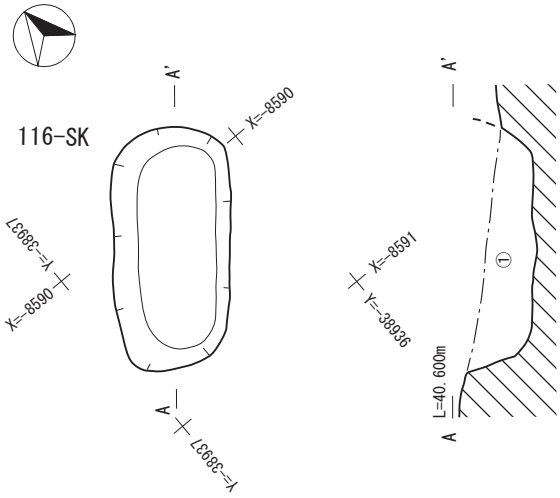
① 灰褐色土層 (7.5YR 5/2) 黄褐色土ブロックを含む。しまっている。土器粒、スミ粒を含む。

Pl.19 A区縄文時代土坑 115-SK・140-SK 平面・断面 (1/40)



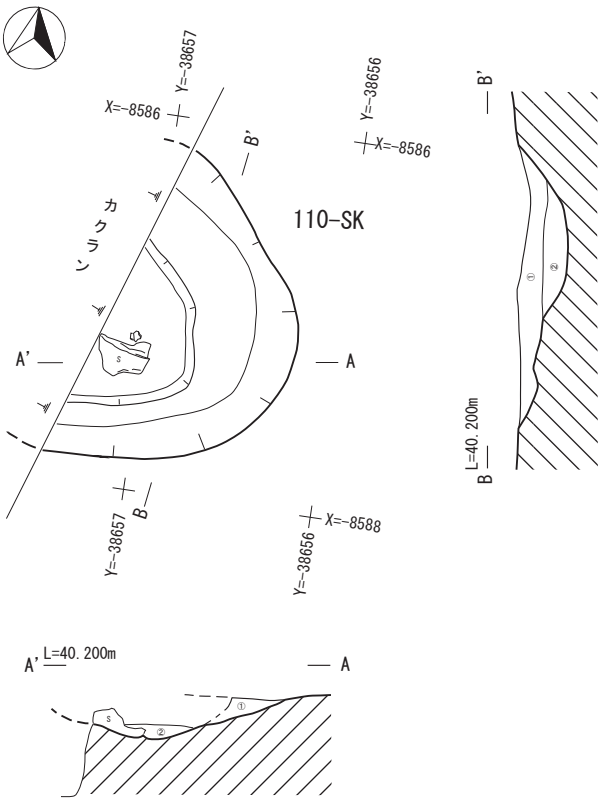
117-SK

① 褐色土層 (7.5YR 3/4) しまっている。土器粒をわずかに含む。
やや粘質がある。

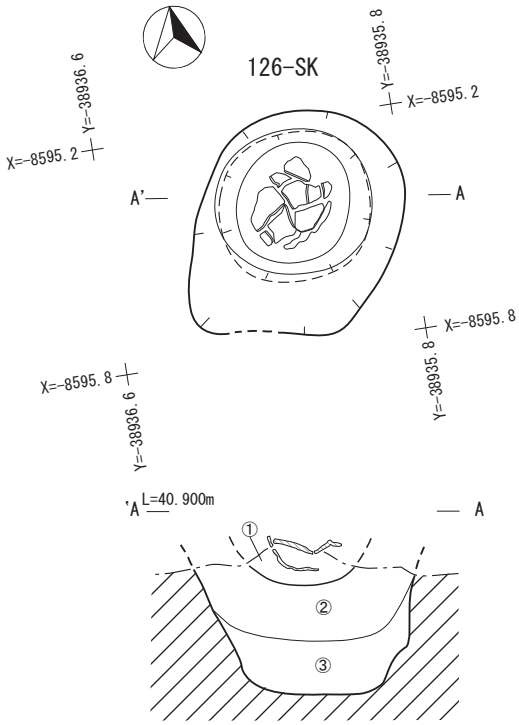


116-SK

① 褐色土層 (7.5YR 4/4) 粘質がある。



110-SK ① 遺構の埋土というより、くぼみに自然堆積した土層の可能性がある。
② 縄文土器を含む，石材を含む。



126-SK 完掘状況
埋１層遺物出土状況

126-SK

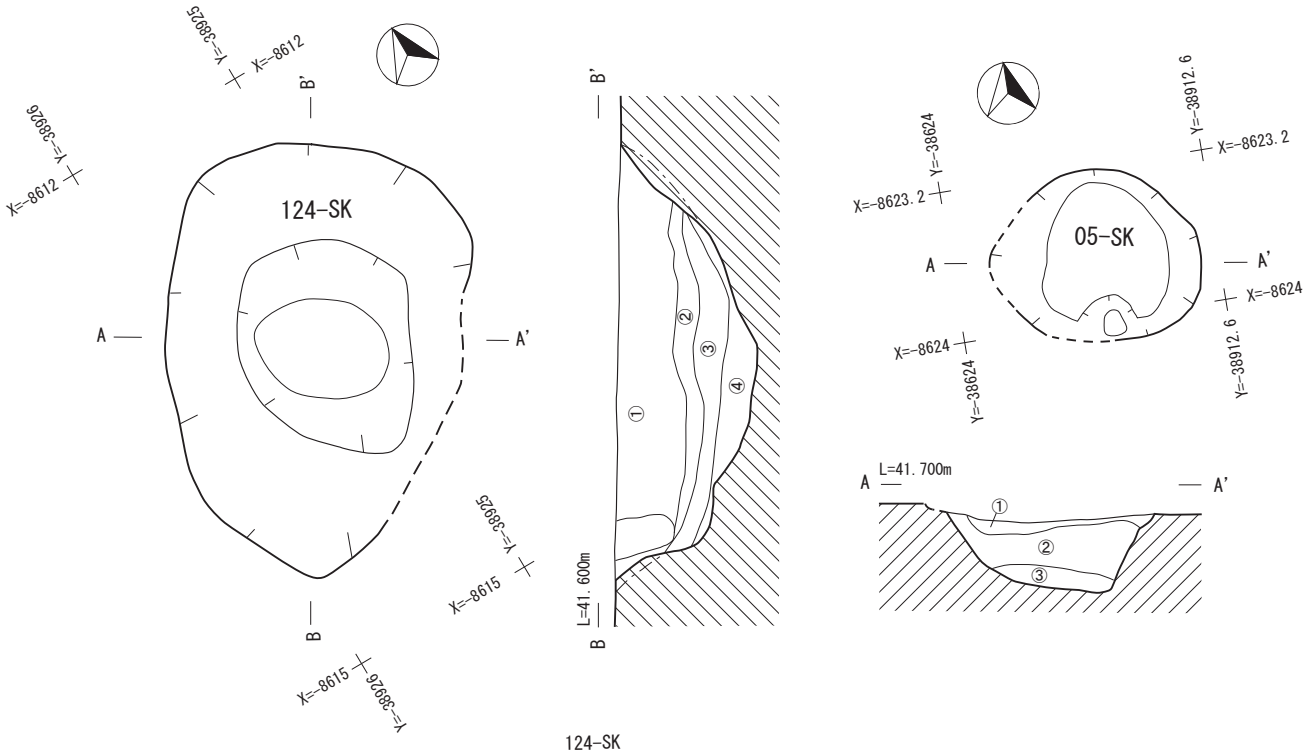
① 暗褐色土層 (7.5YR 3/4) しまっている。土器を含む。
② 褐色土層 (7.5YR 4/6) しまりがあまりなく粘質が①に比べて弱い。一部分にスミ粒、土器粒を含む。
③ 褐色土層 (7.5YR 4/6)①、②を比べ最もしまりがある。スミ粒を全体的に含む。黄褐色土ブロックを含む。

0 2m

0 50cm

126-SK 平面・断面図 (1/20)

Pl.20 A区縄文時代土坑 117・116・110-SK(1/40)・126-SK (1/20) 平面・断面図



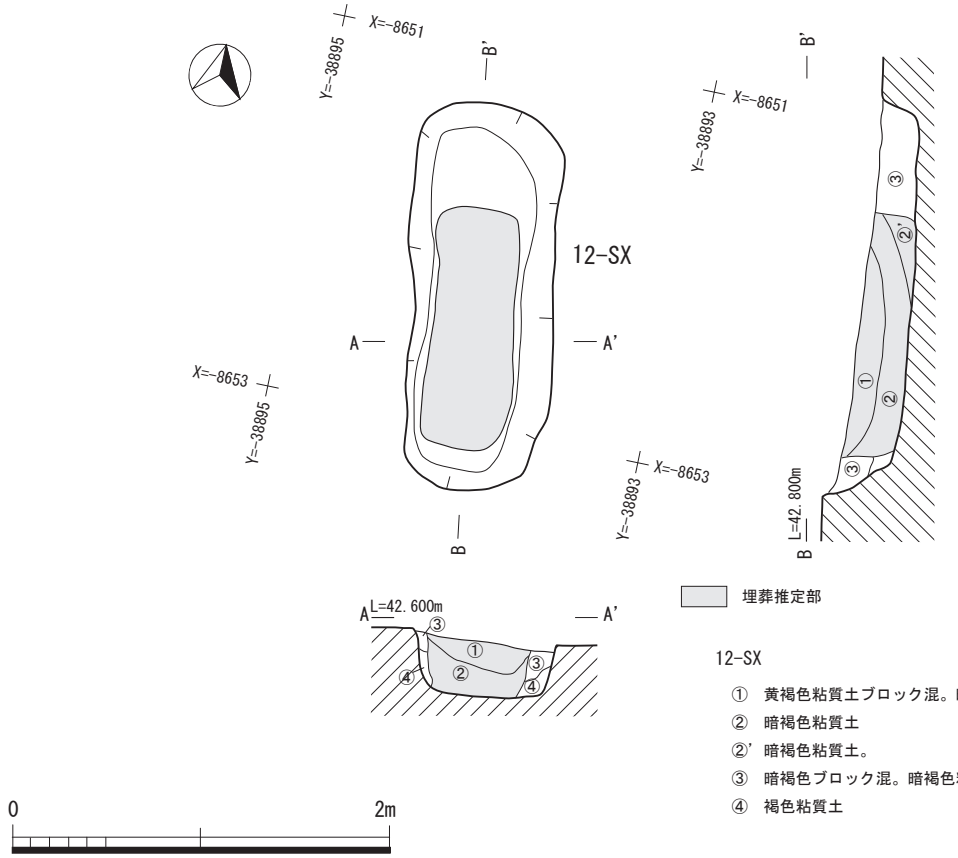
124-SK

① 褐色土層 (7.5YR 4/3) 非常に良くしまっている。
スミ粒を含む。黄褐色土ブロックをわずかに含む。

② 褐色土層 (7.5YR 3/4)①層よりしまりは弱い。
黄褐色土ブロックを全体的に含む。

③ 暗褐色土層 (7.5YR 3/4) しまっている。土器粒、
スミ粒をごくわずか含む。

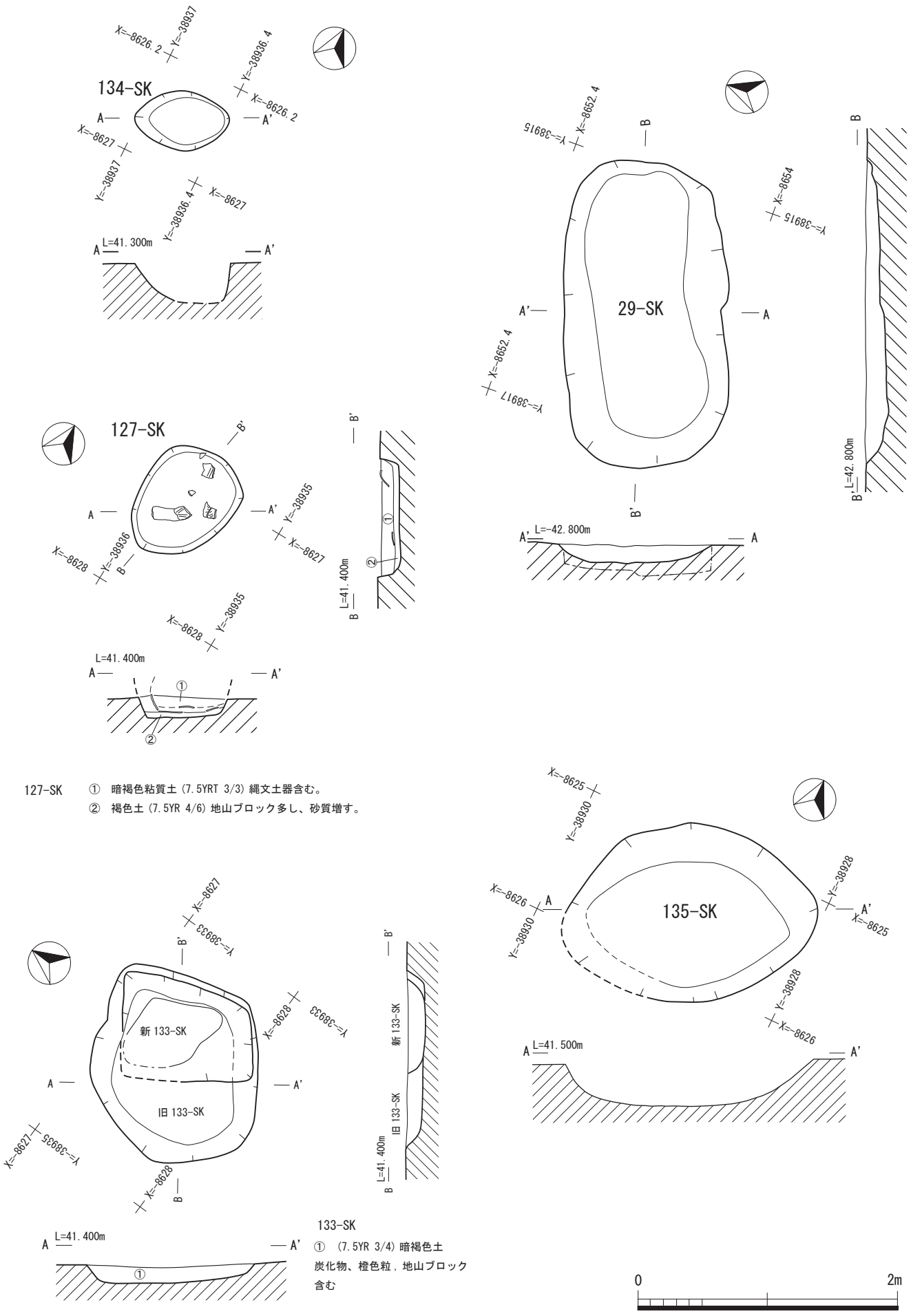
④ 黒褐色土層 (7.5YR 3/2) しまっている。
スミ粒を含む。黄褐色土のブロックを多く含む。



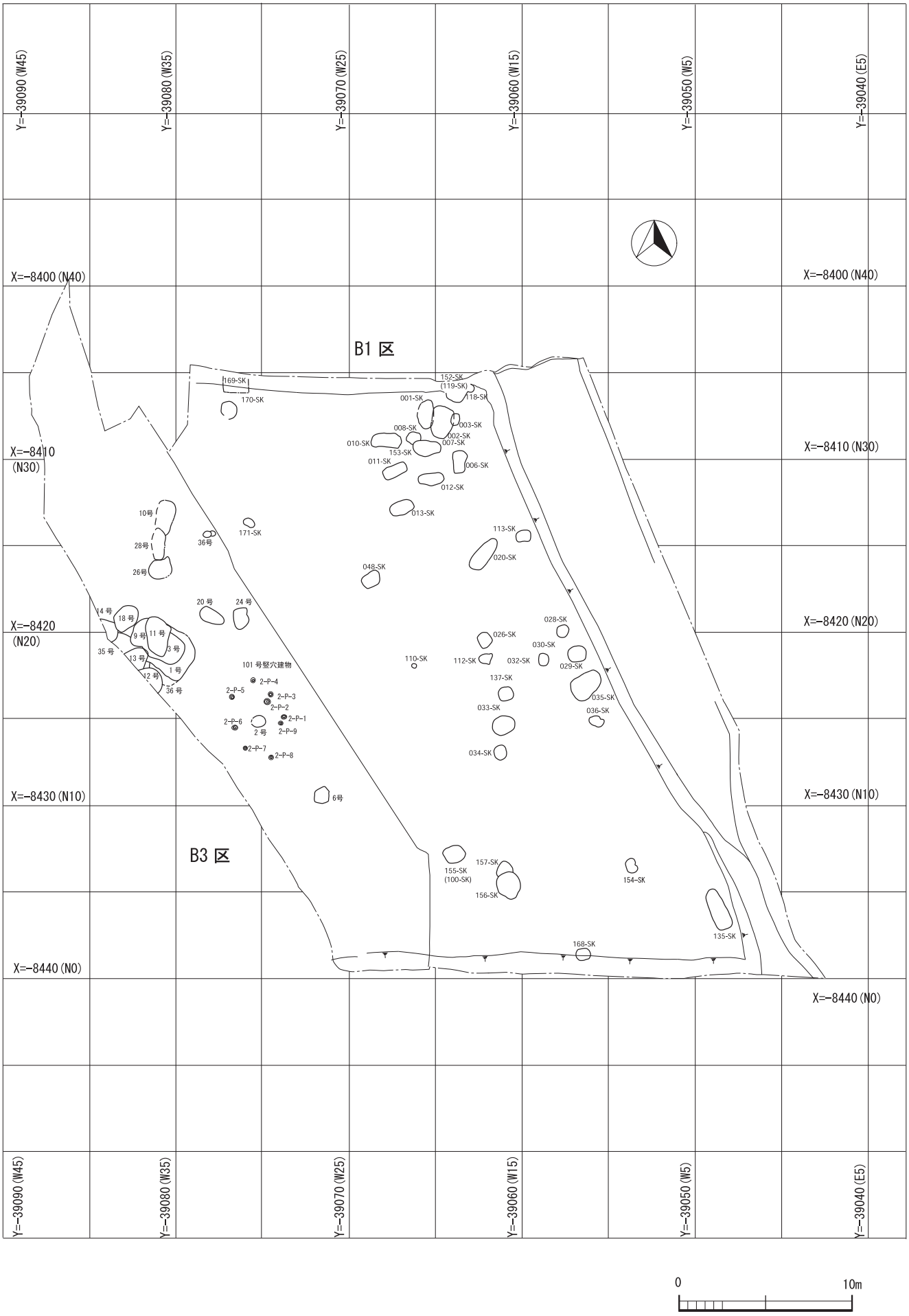
12-SX

① 黄褐色粘質土ブロック混。暗褐色粘質土。
② 暗褐色粘質土
②' 暗褐色粘質土。
③ 暗褐色ブロック混。暗褐色粘質土
④ 褐色粘質土

Pl.21 A区縄文時代土坑 124-SK・05-SK・12-SX 平面・断面図 (1/40)

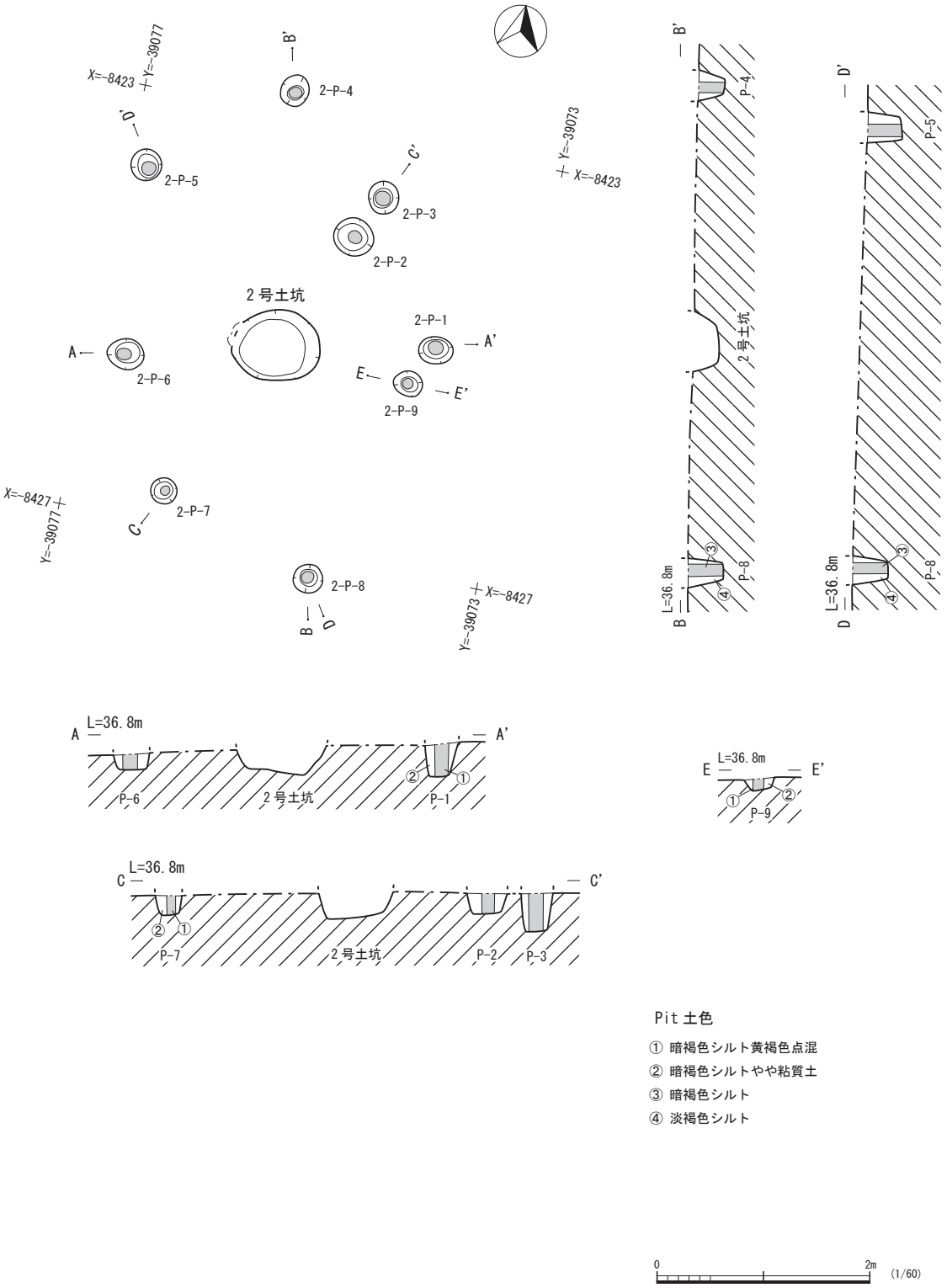


Pl.22 A区縄文時代土坑 134・29・127・新・旧133・135-SK平面・断面図 (1/40)

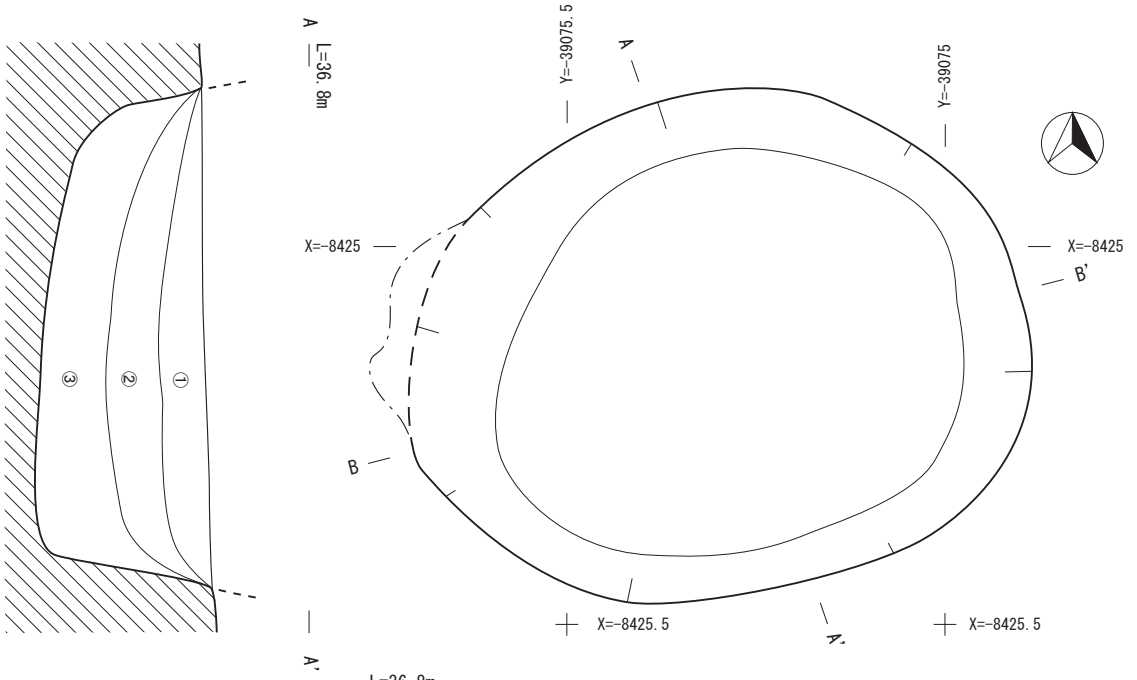


Pl.23　B1.3 区縄文時代後晩期土坑配置図　(1/300)

101 号竪穴建物



Pl.24　B3 区縄文時代竪穴建物 101 号 平面・断面図 (1/60)



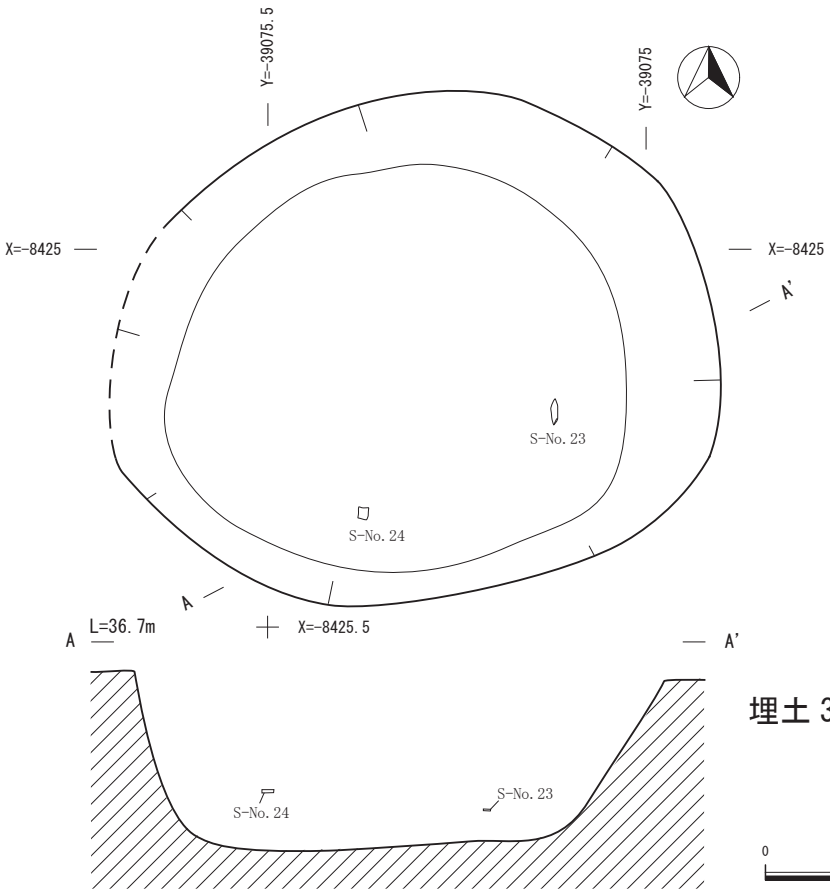
2号土坑

① 暗褐色粘質土

② 暗茶褐色土。③の黄褐色土を
1〜3㎝大のブロックで含む。
しまりがありやや粘質。
縄文土器片と黒曜石チップを含む。

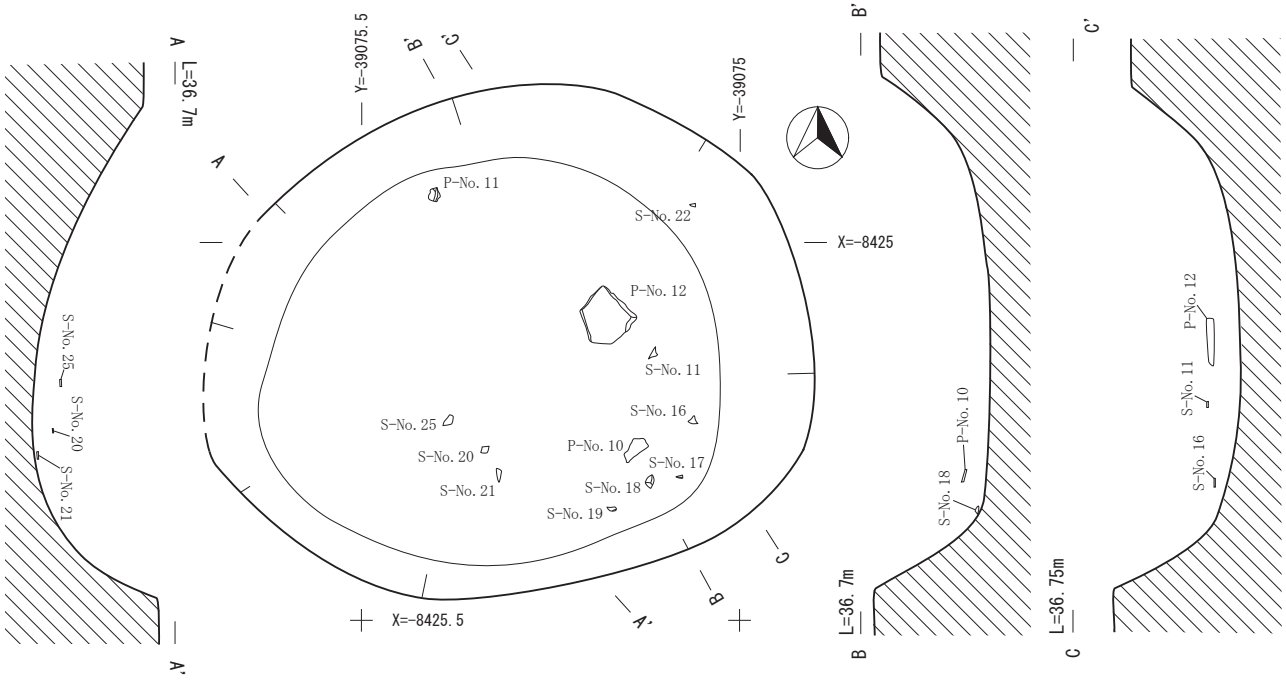
③ 黄褐色土。粘性が高くしまり強い。
地山の土（明黄褐色土）の粘土
ブロックを1〜3㎝の大きさで少量
含む。黒曜石チップをわずかに含む。

2号土坑完掘状況

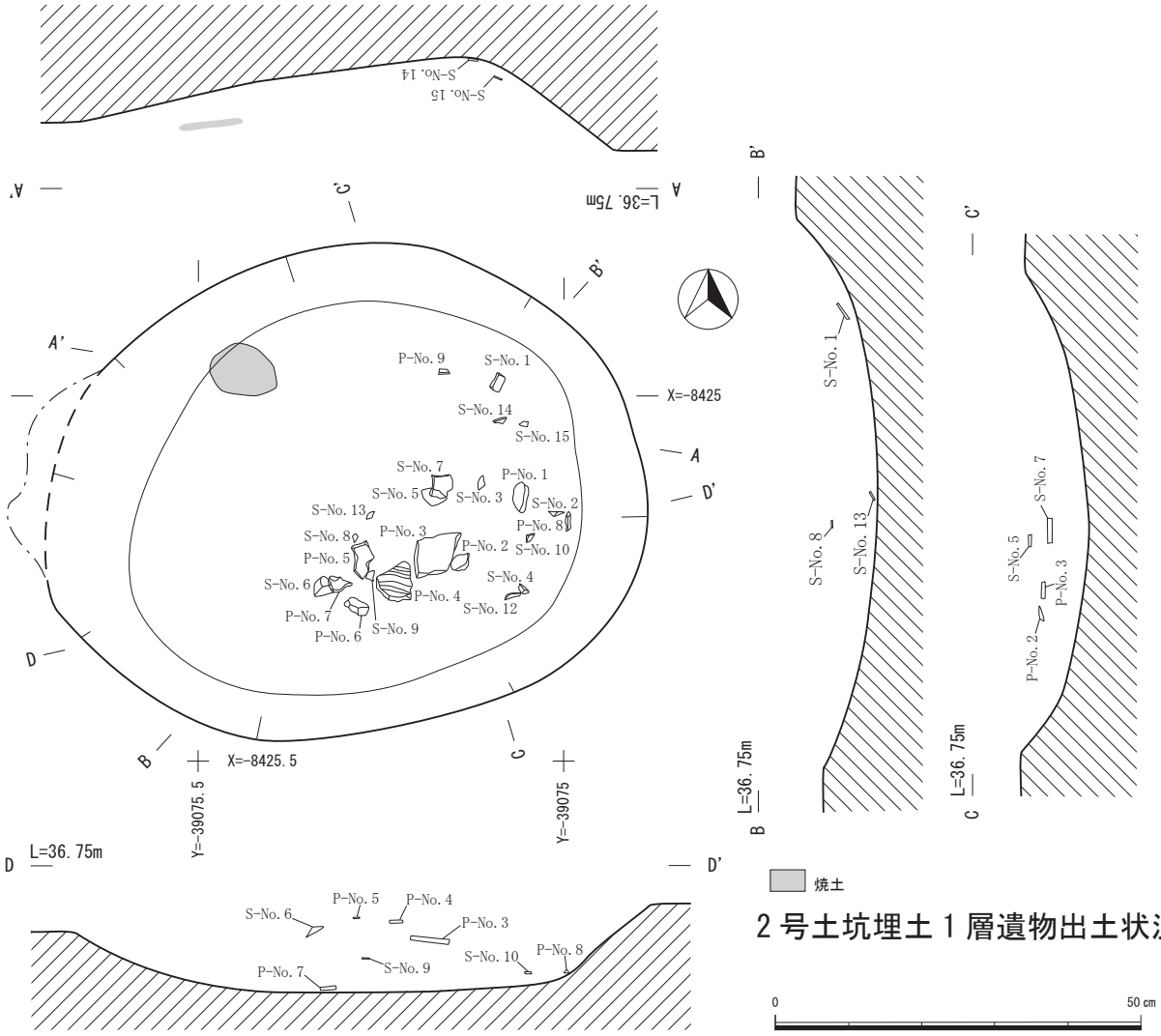


埋土3層遺物出土状況

Pl.25　B3区縄文時代土坑 2号土坑完掘状況・埋土3層遺物出土状況 平面・断面図 (1/10)

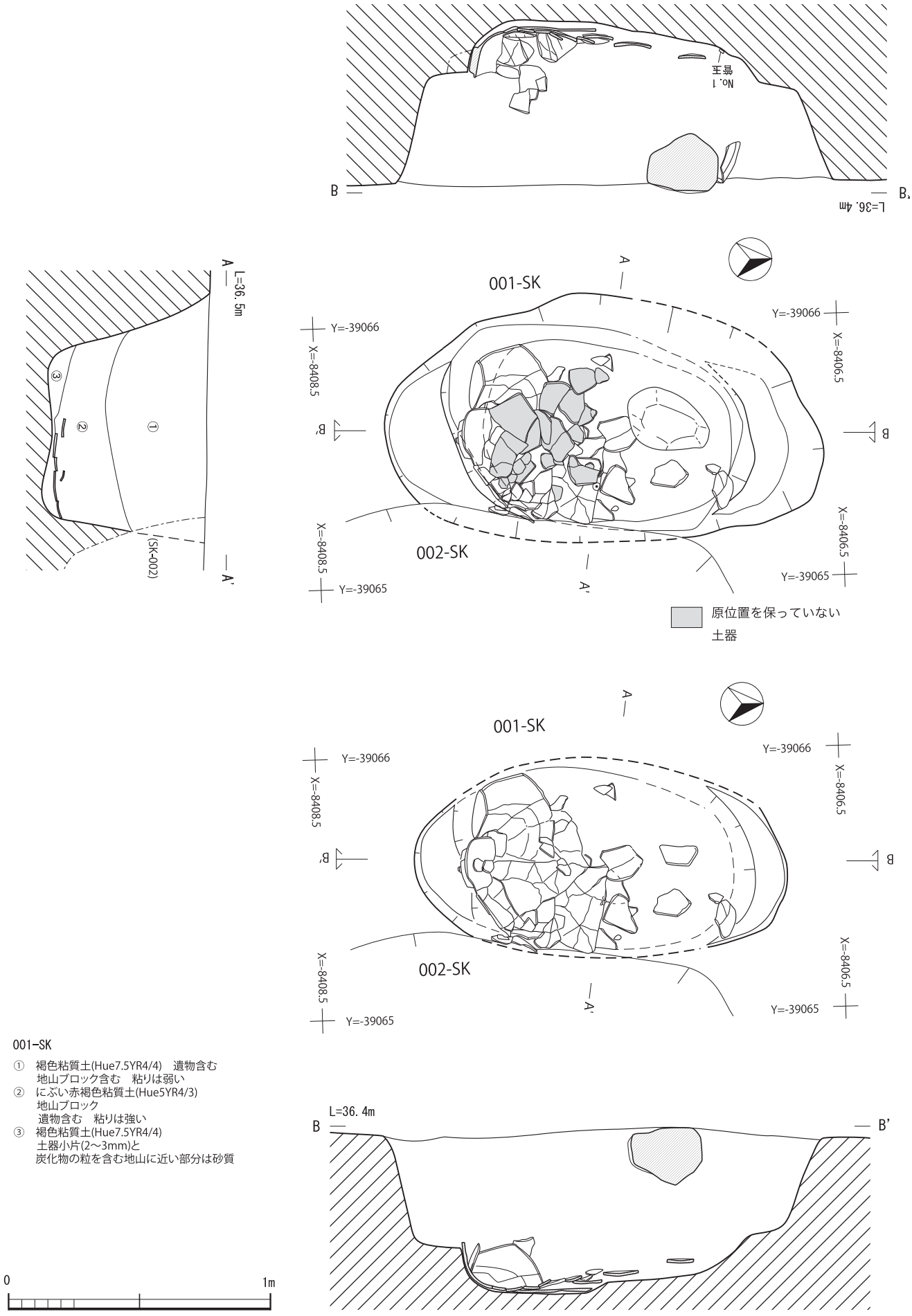


2号土坑埋土2層遺物出土状況

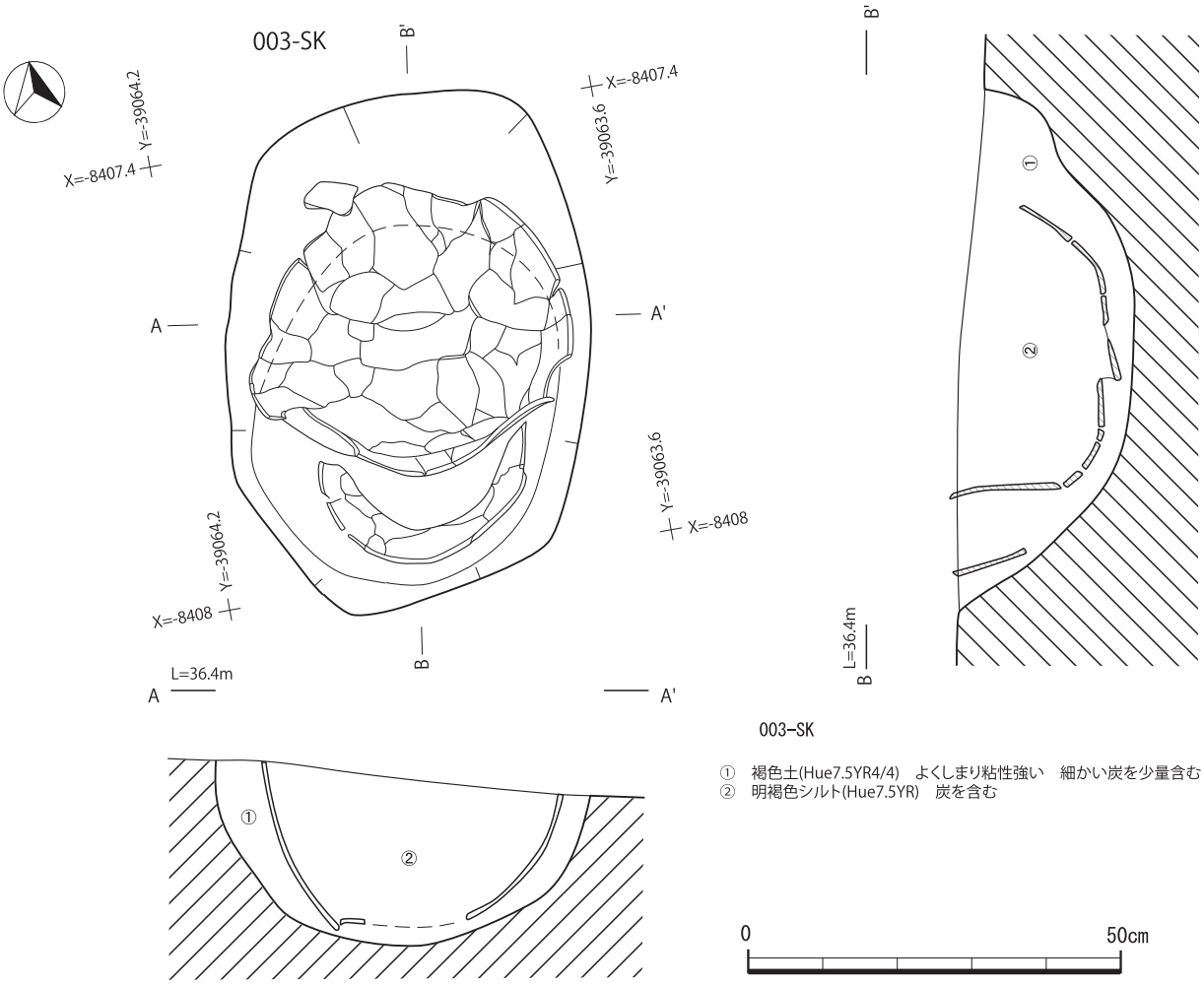


2号土坑埋土1層遺物出土状況

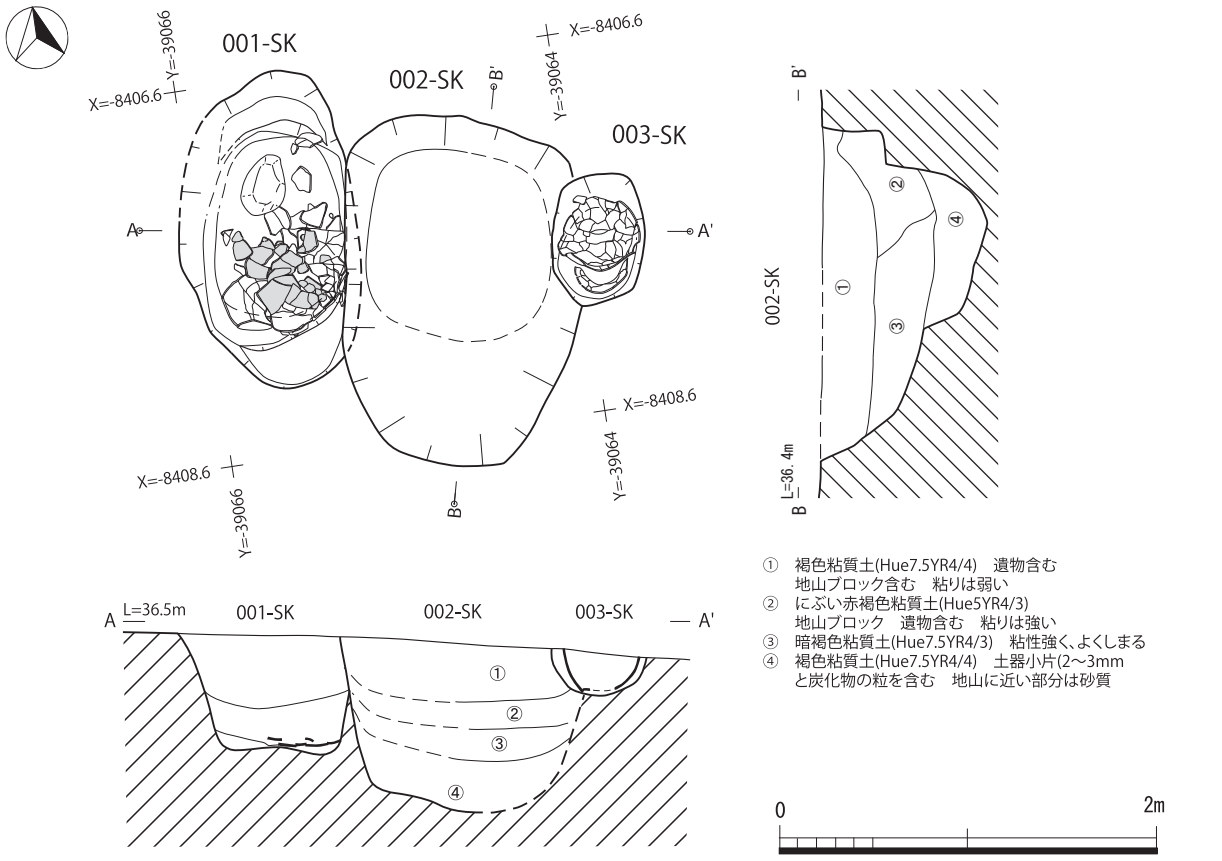
Pl.26　B3区縄文時代土坑2号土坑埋土2層・埋土1層遺物出土状況 平面・断面図 (1/10)



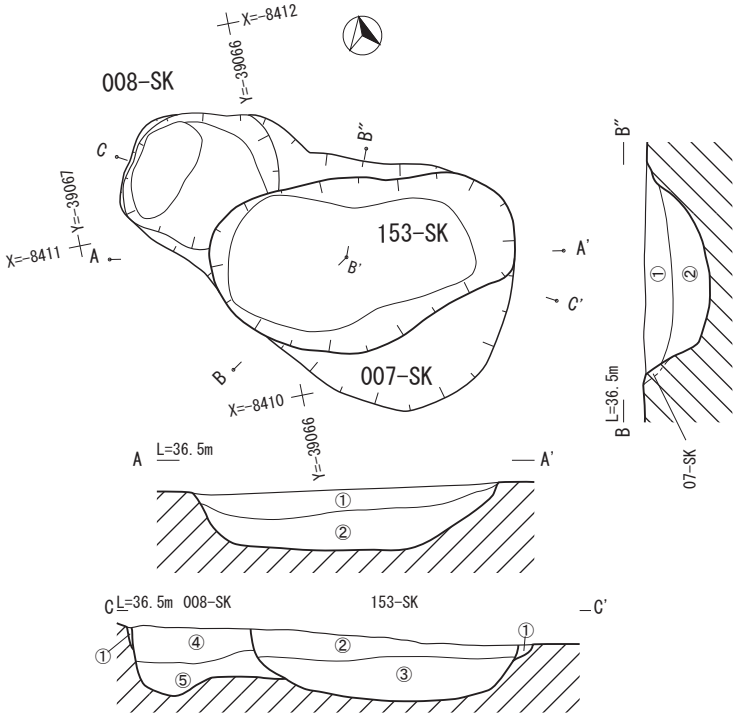
PI.27 B1区縄文時代土坑 001-SK平面・断面図（1/20）

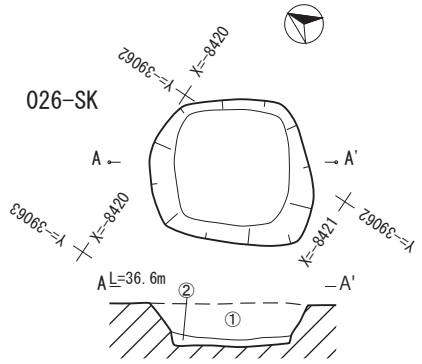


003-SK 平面・断面図 (1/10))



Pl.28 B1 区縄文時代土坑 003-SK(1/10)・001-SK・002-SK(1/40) 平面．断面図





026-SK
① 暗褐色粘質土(Hue7.5YR3/4)
② 褐色粘質土(Hue7.5YR4/6)

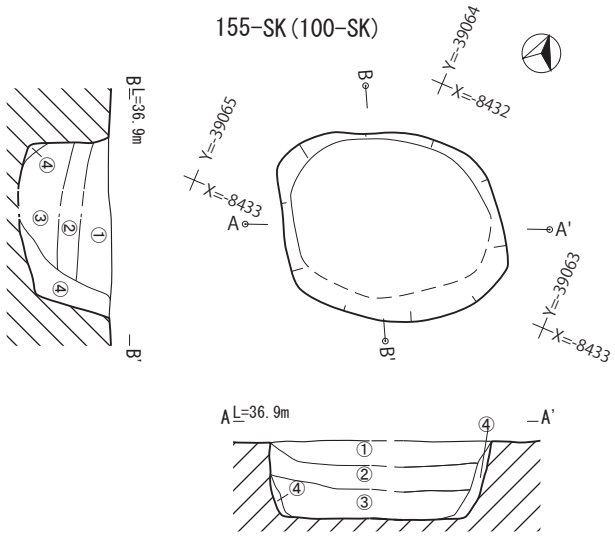
157-SK
① 褐色粘質土(Hue7.5YR4/3) 炭化物含む
② 褐色粘質土(Hue7.5YR4/4) 黒色粒含む
③ 褐色粘質土(Hue7.5YR4/3) 黒色粒含む
④ 褐色粘質土(Hue7.5YR4/4) 黒色粒含む 地山ブロック含む
⑤ 褐色粘質土(Hue7.5YR4/3) 黒色粒含む 地山ブロック含む

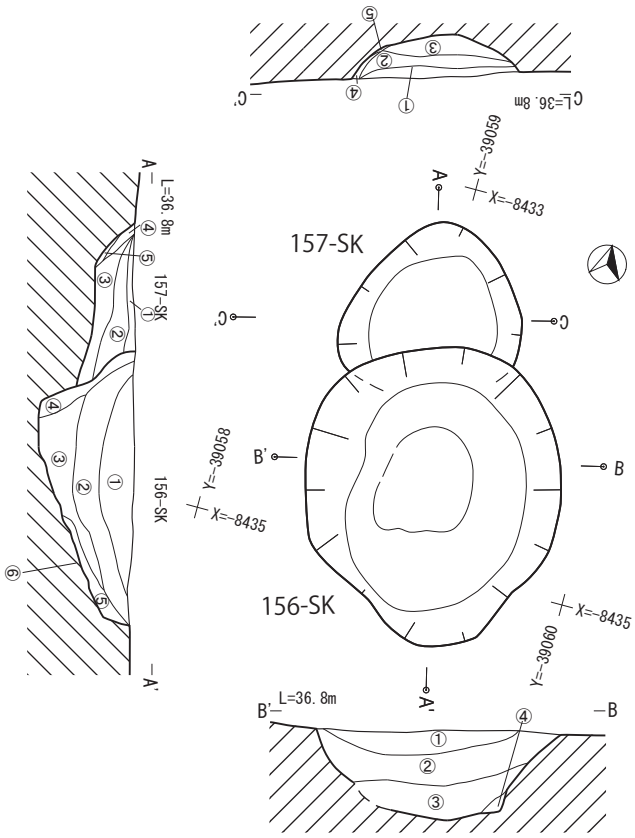
153-SK

① 暗褐色シルト(Hue7.5YR3/3) やや粘質 白色粒(石)を多く含む
② 暗褐色シルト(Hue7.5YR3/4) 粘質も含む

008-SK

① 褐色シルト(Hue7.5YR4/3) 1mm程度の礫を含む
② 暗褐色粘質土(Hue7.5YR3/4) ややしまりが弱いが、粘土層を掘り込んだ埋土であるため粘土が高い
③ 褐色粘質土(Hue7.5YR4/4) ①よりよくしまる 粘性強い
④ 赤褐色粘質土(Hue5YR4/6) よくしまり、粘性強い 径3mm～5mm程度の軽石を含む





155-SK(100-SK)

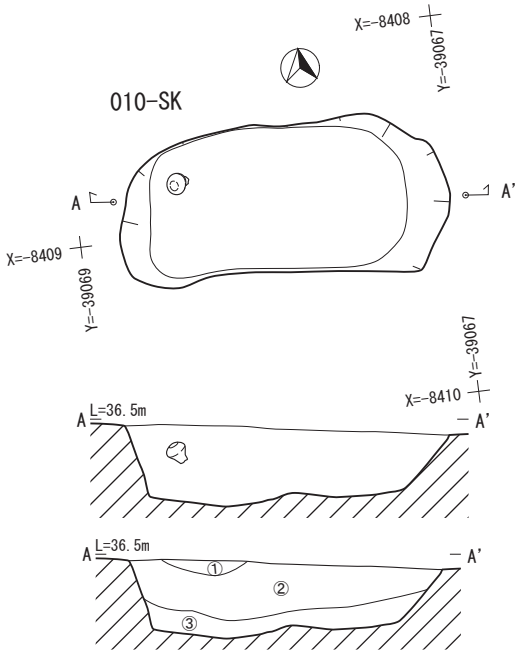
① 暗褐色粘質土(Hue7.5YR3/4) しまりやや強め 粘質弱め 褐色のブロック状のものを含む
② 褐色粘質土(Hue7.5YR4/3) しまり強め 粘質弱め
③ 褐色粘質土(Hue7.5YR4/6) しまり強め 粘質やや強め
④ 暗褐色粘質土(Hue7.5YR3/3) しまりやや強め 粘質やや弱め

156-SK

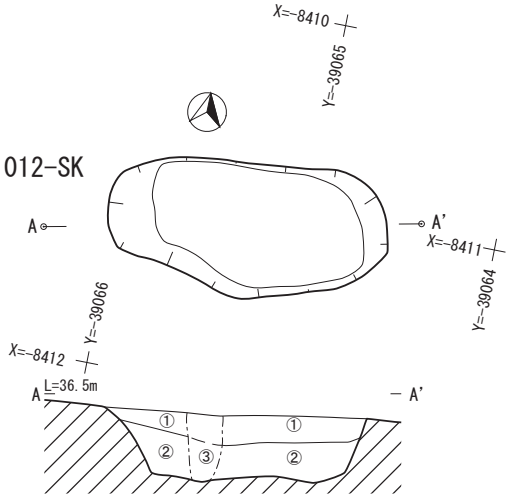
① にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 炭化物含む 茶色粒あり
② にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 黒色粒含む
③ 褐色粘質土(Hue7.5YR4/4) 黒色粒含む
④ にぶい黄褐色粘質土(Hue10YR4/3) 黒色粒含む 地山ブロック含む
⑤ にぶい黄褐色粘質土(Hue10YR4/3) 黒色粒含む
⑥ 褐色粘質土(Hue10YR4/4) 地山

0 2m

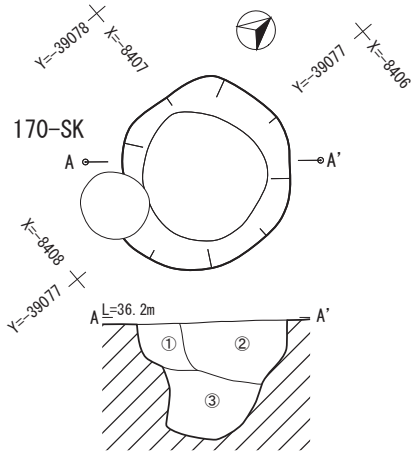
Pl.29 B1区縄文時代土坑 153・007・008・026・155（100）・156・157-SK 平面・断面図（1/40）



010-SK
① 暗褐色粘質土(Hue7.5YR3/4) 赤褐色粒子 黒褐色粒子含み固くしまる
② 褐色粘質土(Hue7.5YR4/6) 赤褐色粒子含む しまりは悪くぼそぼそしている
③ 赤褐色粘質土(Hue5YR4/6) 全体的に混ざりが少ない しまりがなくぼそぼそしている

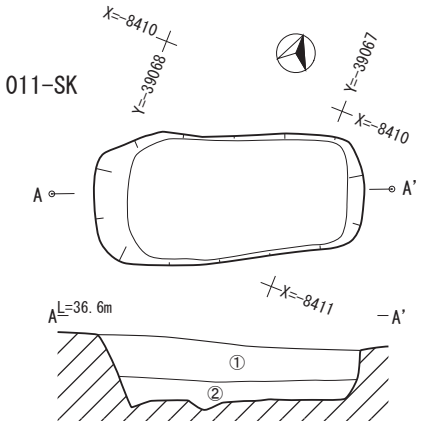


012-SK
① 褐色粘質土(Hue7.5YR4/4) 黒褐色粒子 赤褐色粒子若干含む
② 赤褐色粘質土(Hue5YR4/6) 黒褐色粒子若干含む しまりがなくぼそぼそしている
③ 暗褐色粘質土(Hue7.5YR3/4) 黒褐色粒子 赤褐色粒子含む 樹痕の可能性大

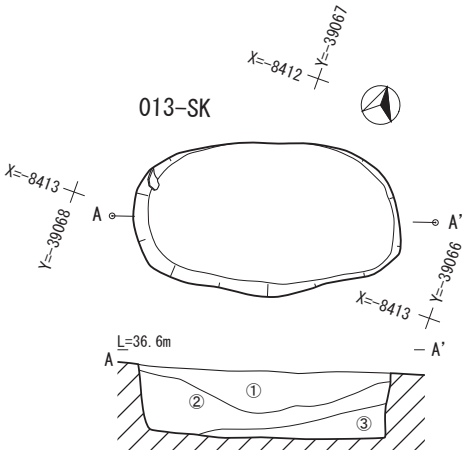


170-SK

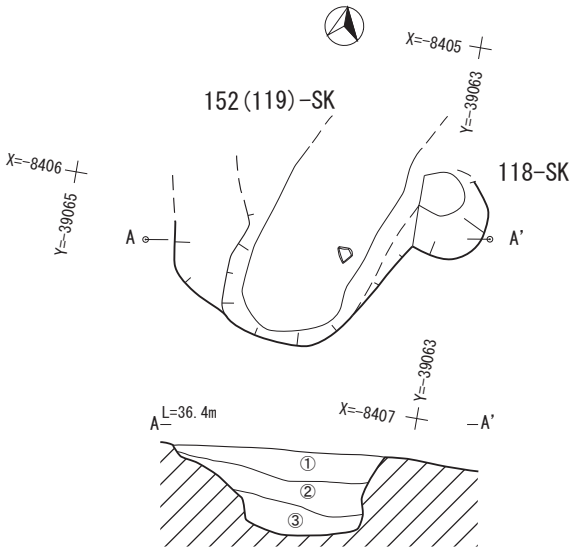
① 暗褐色粘質土(Hue10YR3/4) 地山ブロックをほとんどふくまない
炭化物・土器片含む 軟質で粘性強い
② 褐色土(Hue7.5YR4/6) ①を基調とし地山ブロックを多く含む
縄文土器等も含む 炭化物多い やや硬質
③ 褐色土(Hue10YR4/6) ①、②よりかなり硬質 地山土が多く、
炭化物および1cm以下の土器小片を多く含む



011-SK ① 褐色粘質土(Hue7.5YR4/6) 赤褐色粒子含む
しまりが悪くぼそぼそしている
② 赤褐色粘質土(Hue5YR4/6) 全体的に混ざりが少ない
しまりはなくぼそぼそしている

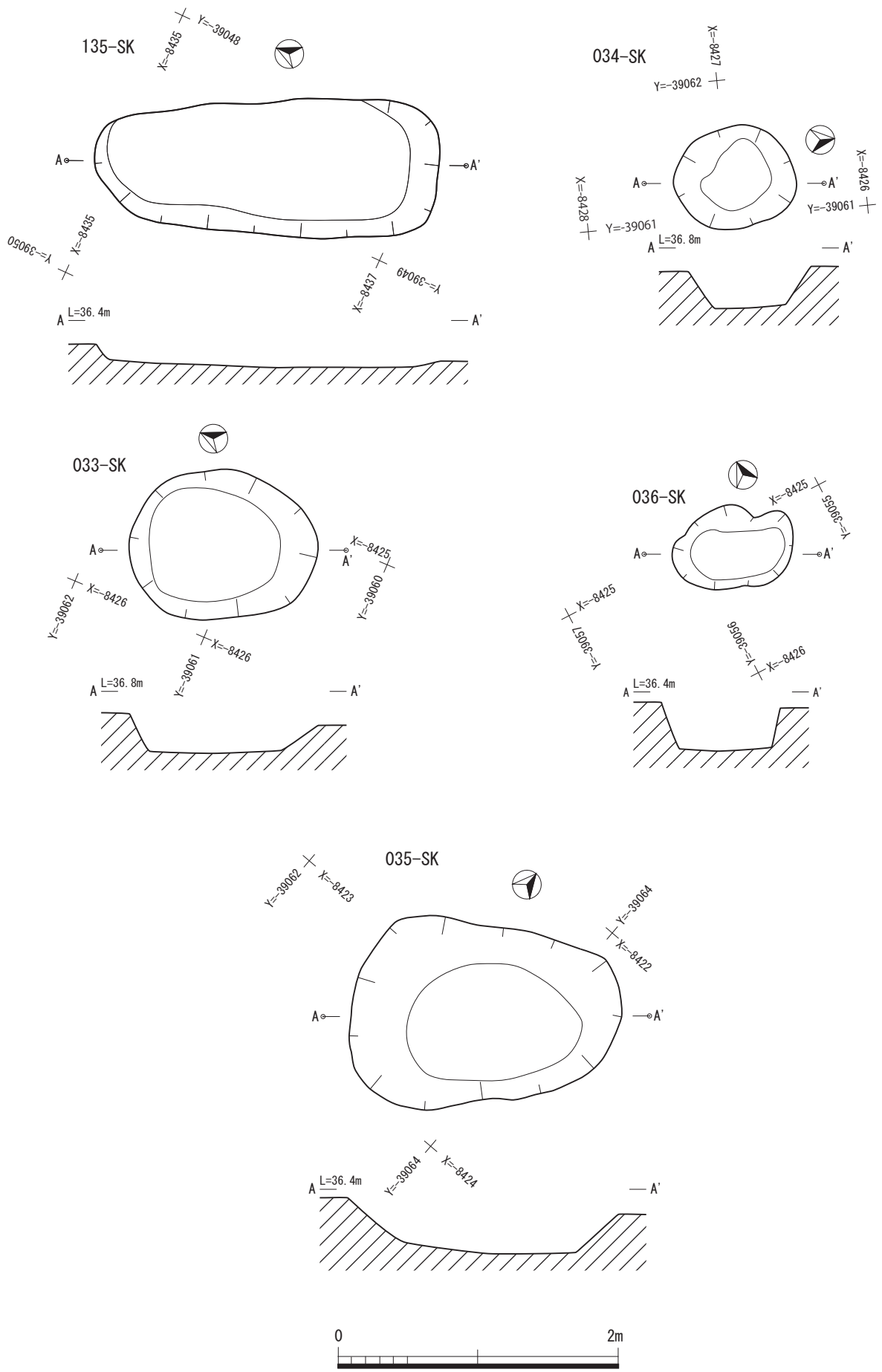


013-SK
① 褐色粘質土(Hue7.5YR4/4) 地山ブロックを多く含む
② 褐色粘質土(Hue7.5YR4/6) 赤褐色粒子若干含む
しまりがなくぼそぼそしている
③ にぶい赤褐色粘質土(Hue5YR4/4) 粘りはあるが粒子細かい

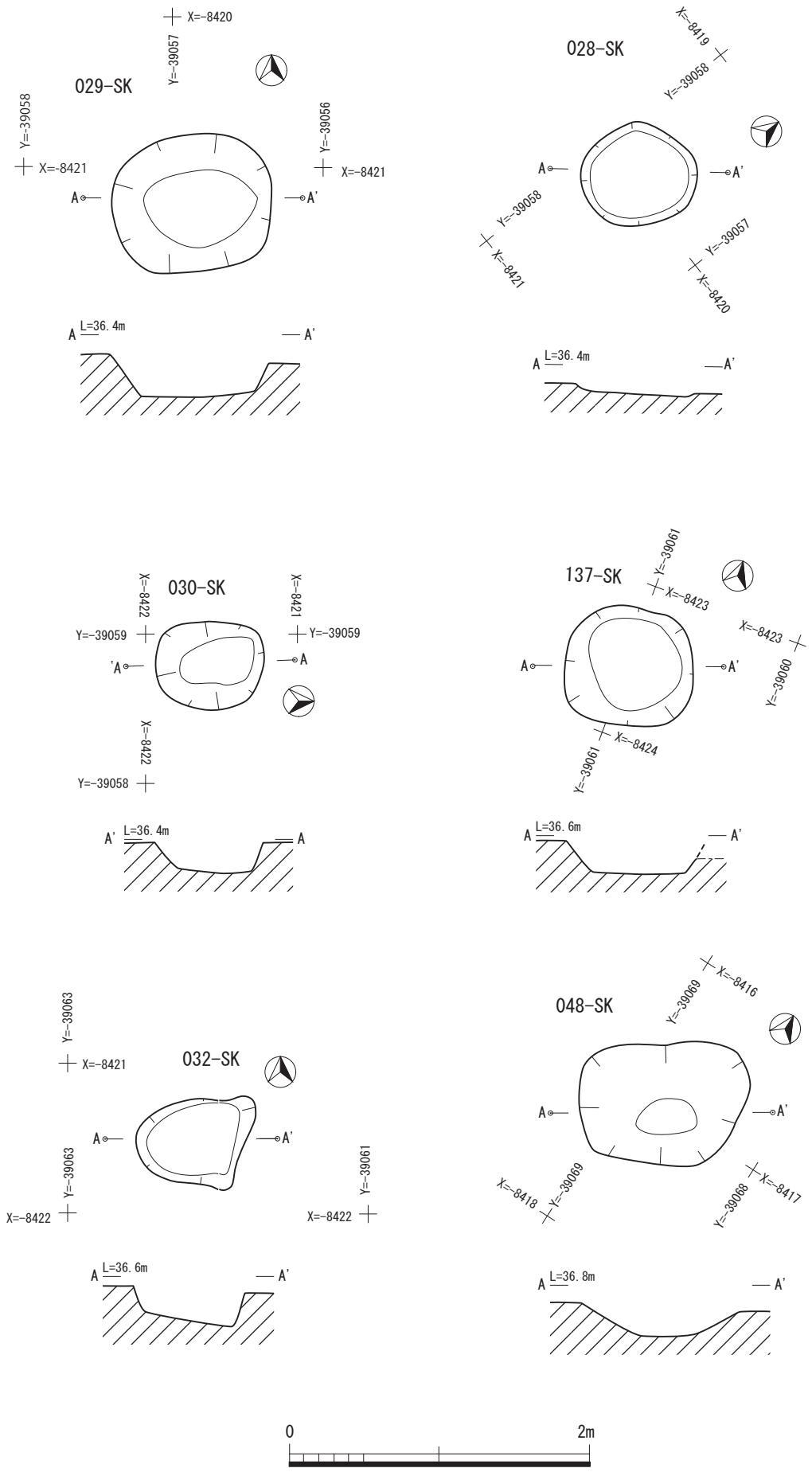


152(119)-SK.
① 褐色粘質土(Hue7.5YR4/4) 赤色・白色粒を多く含む
② にぶい褐色粘質土(Hue7.5YR5/4) 2～3mmの白色粒(石粒)、ロームを含む
③ にぶい褐色粘質土(Hue7.5YR5/5) 2～3mmの白色粒(石粒)、ロームを含む

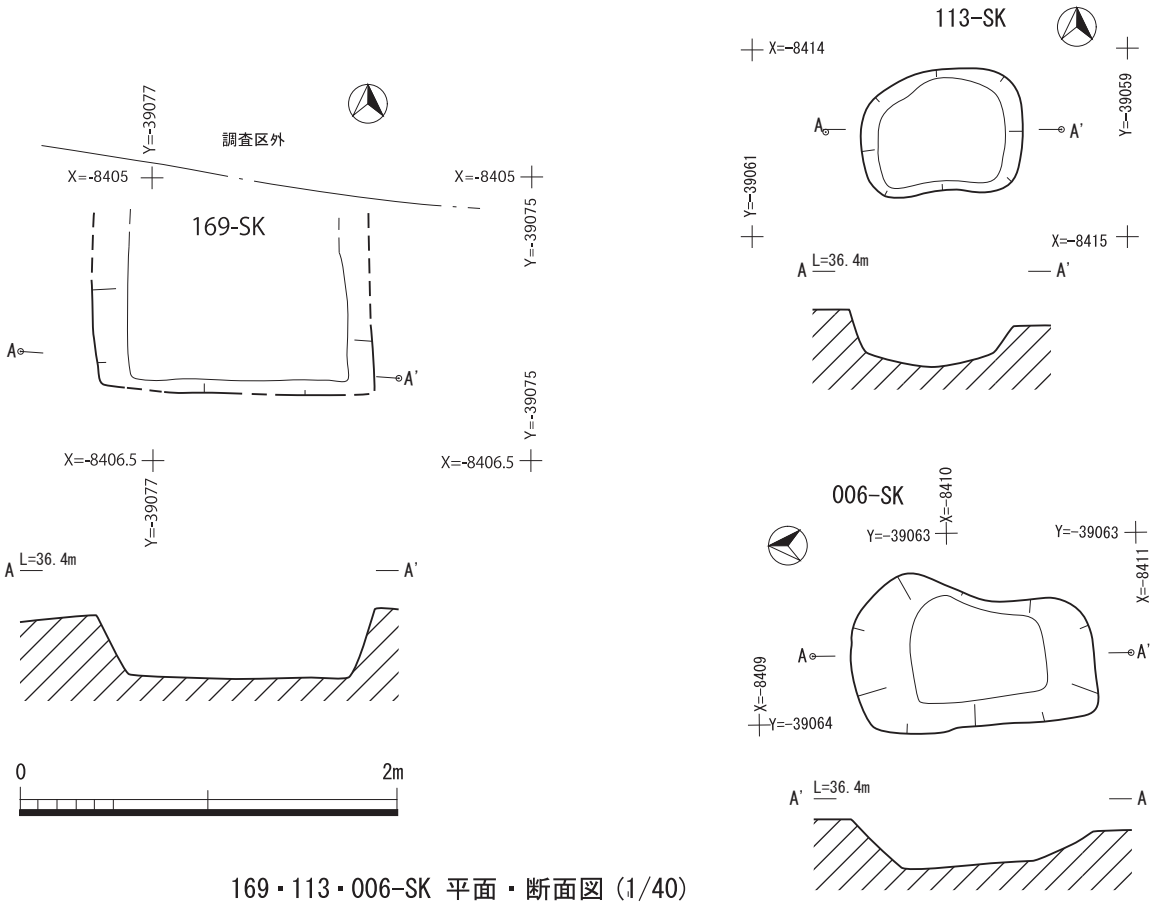
Pl.30 B1区縄文時代土坑 010・011・012・013・170・152(119)・118-SK 平面・断面図 (1/40)



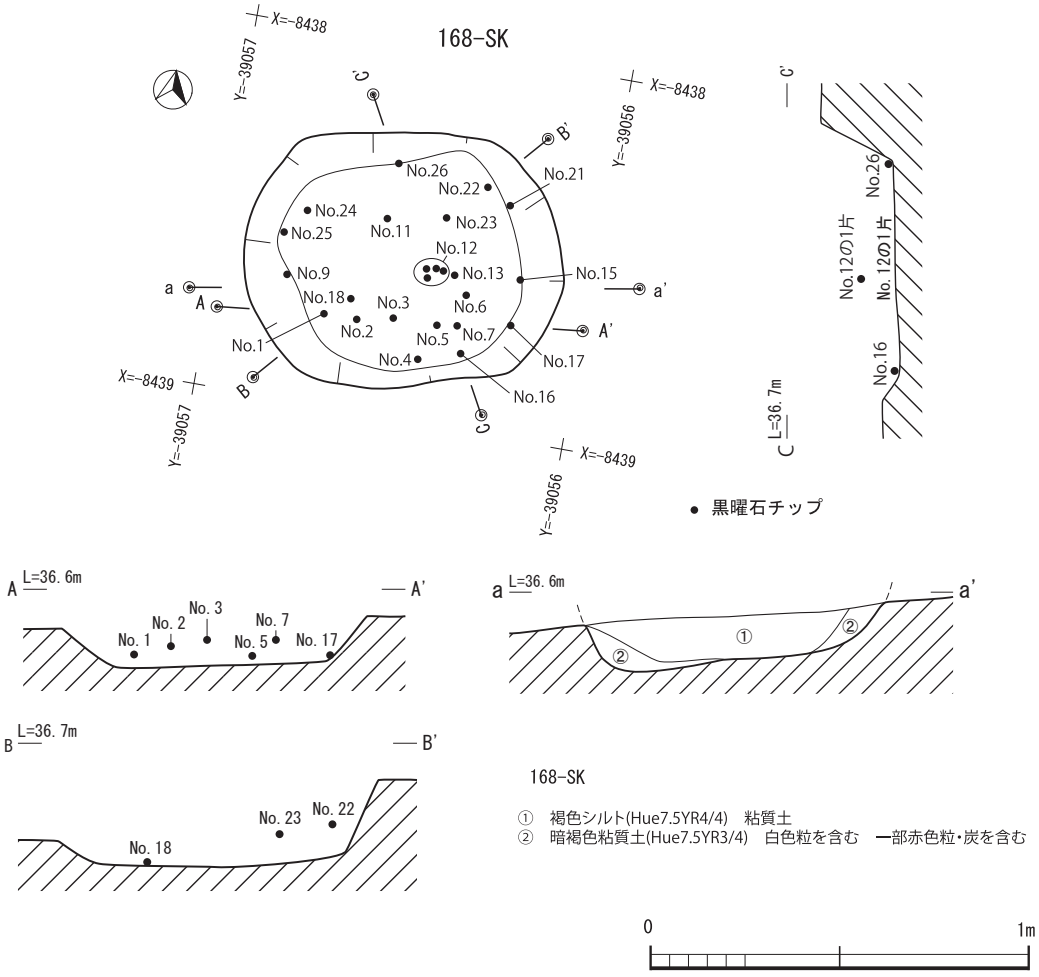
Pl.31　B1 区縄文時代土坑 135・034・033・036・035-SK 平面・断面図 (1/40)



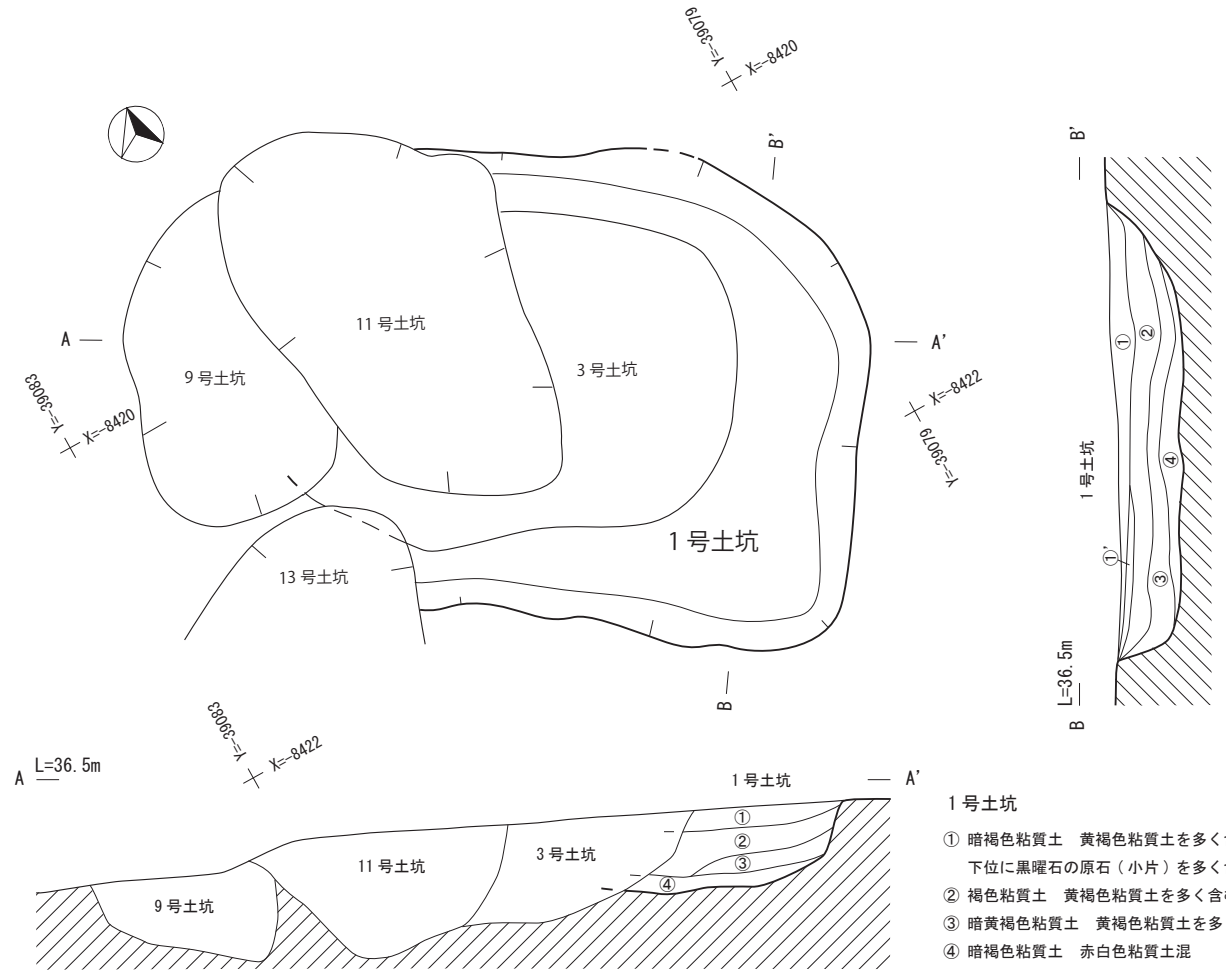
Pl.32　B1 区縄文時代土坑 029・028・030・137・032・048-SK 平面・断面図 (1/40)



169・113・006-SK 平面・断面図（1/40）

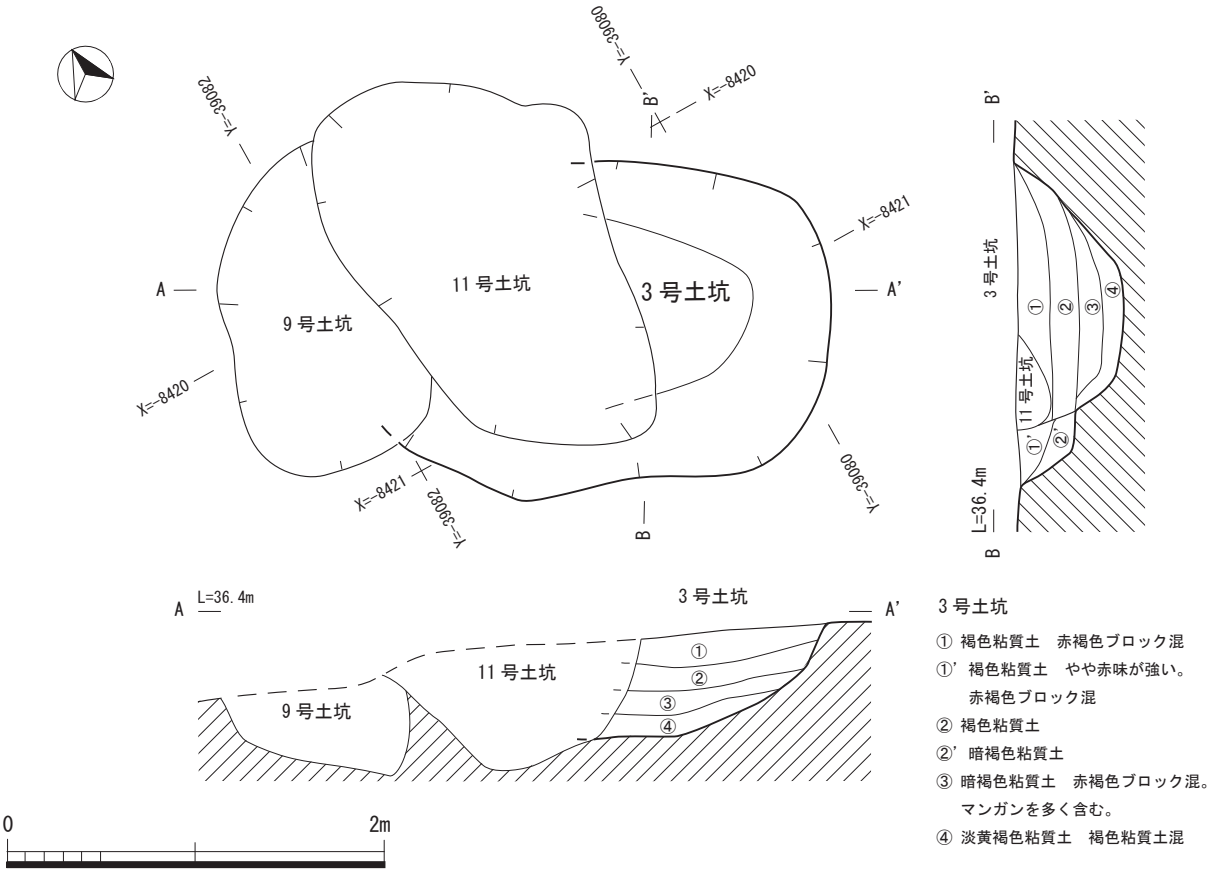


Pl.33 B1区縄文時代土坑 169・113・006-SK（1/40）168-SK（1/20）平面・断面図



1 号土坑

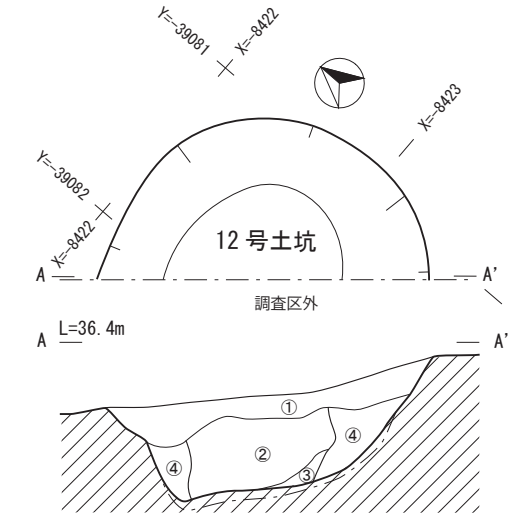
① 暗褐色粘質土　黄褐色粘質土を多く含む。
　下位に黒曜石の原石（小片）を多く含む。
② 褐色粘質土　黄褐色粘質土を多く含む。
③ 暗黄褐色粘質土　黄褐色粘質土を多く含む。
④ 暗褐色粘質土　赤白色粘質土混



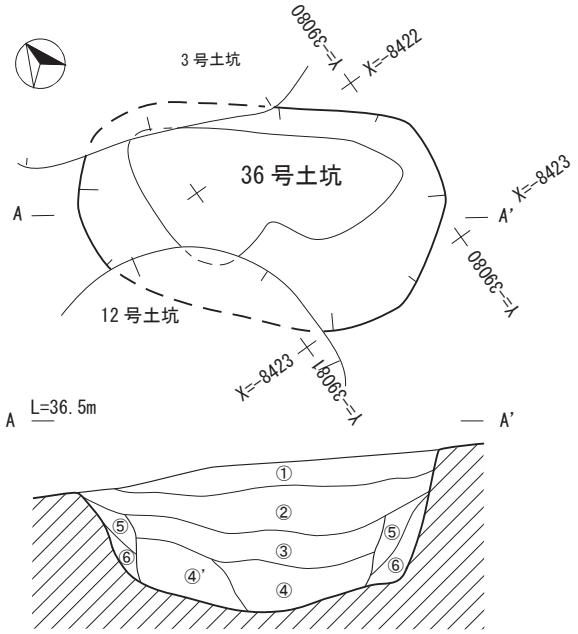
3 号土坑

① 褐色粘質土　赤褐色ブロック混
①' 褐色粘質土　やや赤味が強い。
　赤褐色ブロック混
② 褐色粘質土
②' 暗褐色粘質土
③ 暗褐色粘質土　赤褐色ブロック混。
　マンガンを多く含む。
④ 淡黄褐色粘質土　褐色粘質土混

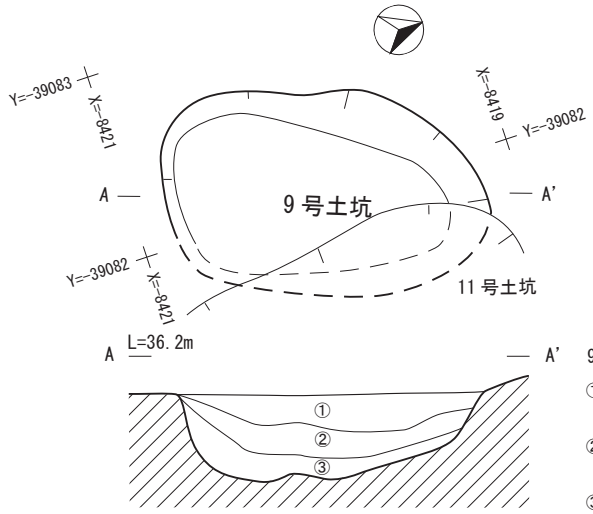
Pl.34　B3 区縄文時代土坑　1・3 号土坑平面・断面図 (1/40)



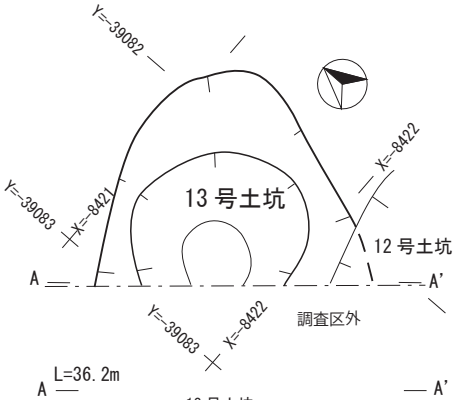
12 号土坑
① 暗赤褐色粘質土　赤色粒・白色粒を含む。
② 暗褐色シルト　やや砂質土。白色粒など風化土を含む。粒子細かい。①の土を含む。
③ ②よりやや粘質土
④ 土色の記録なし

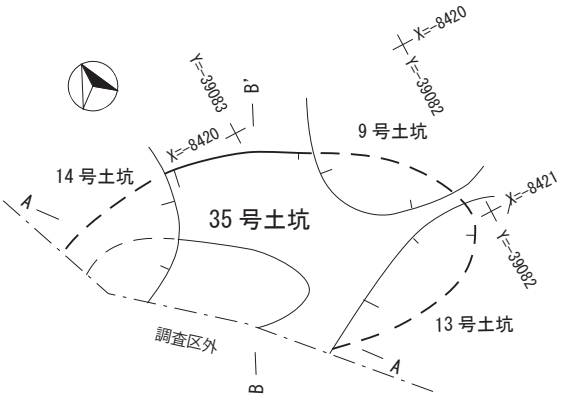


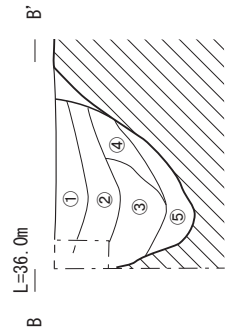
36 号土坑
① 暗灰黄褐色粘質土　白色礫・マンガン含む。
② 暗灰黄褐色粘質土　赤色ブロック・赤白色地山ブロックを含む。
③ 暗茶褐色粘質土
④ 暗褐色粘質土　マンガン・赤白色粘土を顕著に含む。
④'④よりマンガン・赤白色粒砂土を多く含む。
⑤ 暗灰茶褐色粘質土　白色粒・マンガンを少量含む。
⑥ 暗茶褐色粘質土　白色礫・マンガンを多く含む。

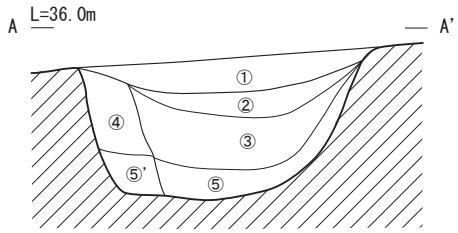


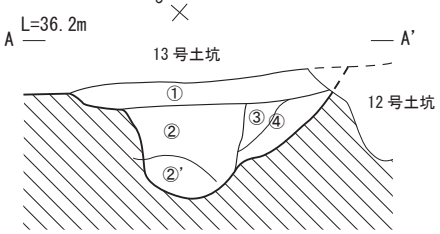
9 号土坑
① 褐色粘質土　黄褐色粘質土混
② 茶褐色粘質土　マンガンを多く含む。
③ 暗茶褐色粘質土









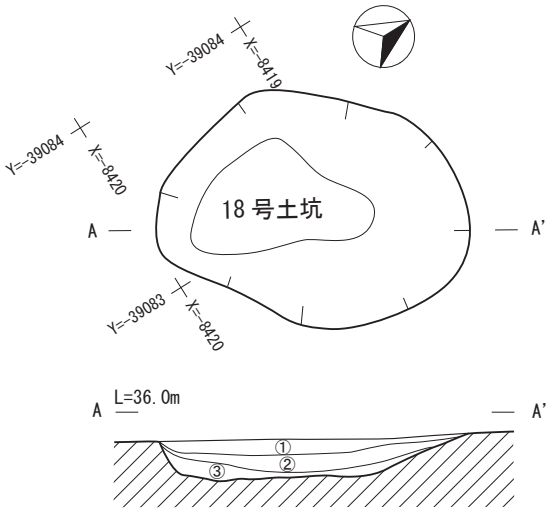


13 号土坑
① 暗赤褐色シルト
② 淡褐色シルト　①の土を含む。鉄分・赤色粒を多く含む。マンガン・明褐色シルト・赤褐色地山混
②' ②に準ずる。下方に褐色の細かい粒子を含む。
③ 淡灰褐色シルト　赤褐色粒・白色粒を含む。
④ 褐色シルト　鉄分・白色粒・赤色粒を多く含む。

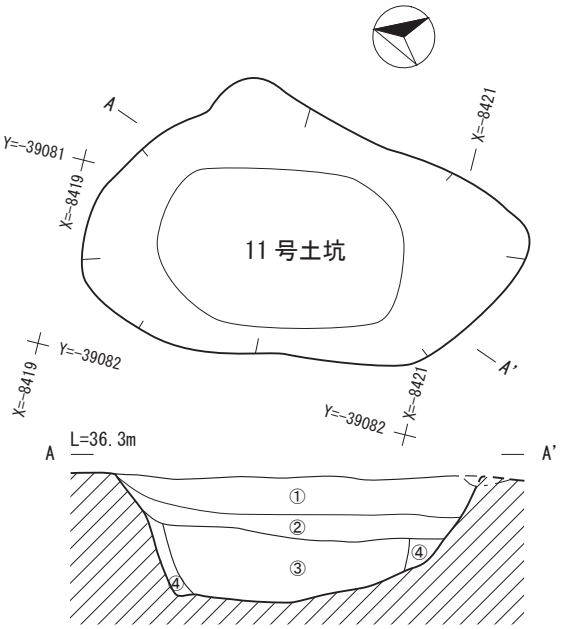
35 号土坑
① 暗褐色粘質土
② 褐色シルト　黄褐色粘質土混
③ 暗褐色シルト　マンガン少量含む。
④ 暗黄褐色シルト　マンガン・赤色粒混
⑤ 褐色シルト　マンガン混
⑤' ⑤に準ずる。

0　2m

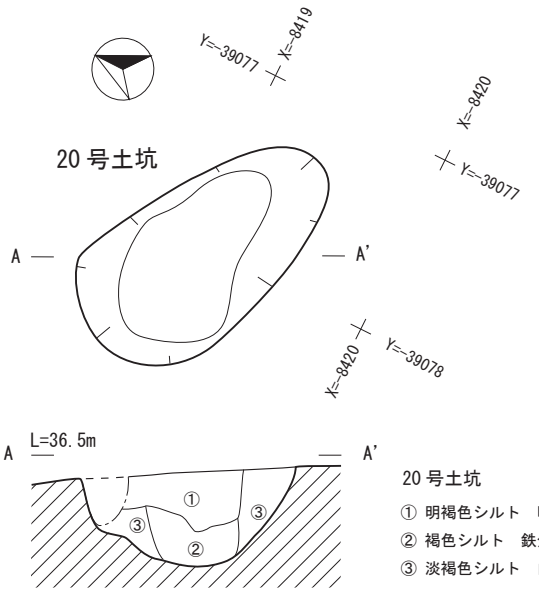
Pl.35　B3 区縄文時代土坑　12・36・9・13・35 号土坑平面・断面図 (1/40)



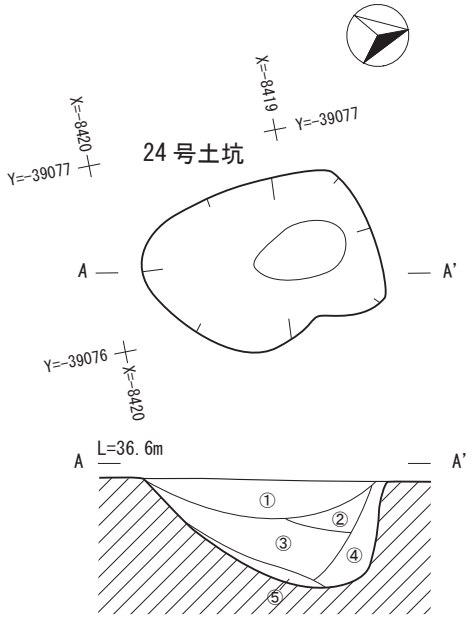
18 号土坑　① 暗黄褐色シルト　やや砂質。マンガン含む。
② 淡黄褐色シルト　マンガンを含む。
③ 淡褐色シルト



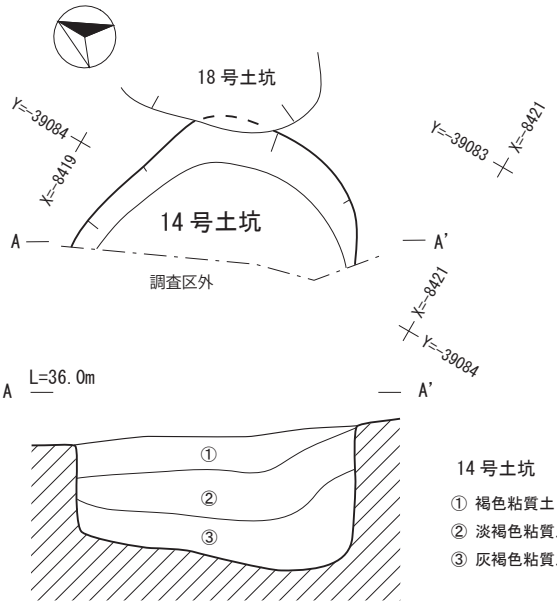
11 号土坑　① 淡黄褐色粘質土　褐色土混
② 褐色粘質土　淡黄褐色粘質土混
③ 淡茶褐色粘質土　黄褐色粘質土混
④ 茶褐色粘質土　黄褐色ブロック混



20 号土坑
① 明褐色シルト　明褐色粒を含む。
② 褐色シルト　鉄分を含む。
③ 淡褐色シルト　白色粒・鉄分を多く含む。



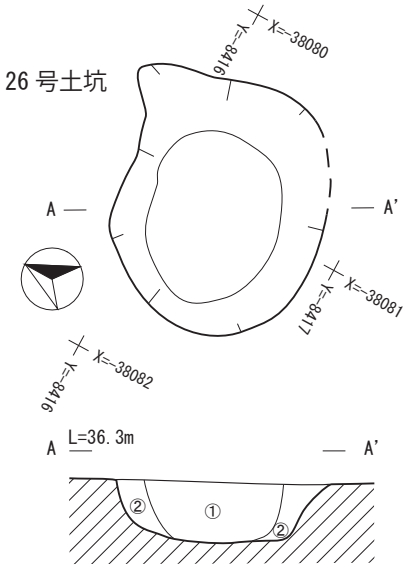
24 号土坑
① 灰褐色粘質土
② 茶褐色粘質土　淡黄褐色粘土ブロック混
③ 淡茶褐色粘質土　淡灰黄褐色粘土ブロック混。マンガン含む。
④ 淡茶褐色粘質土　③層のブロックを含まない。
⑤ 暗灰黄褐色粘質土



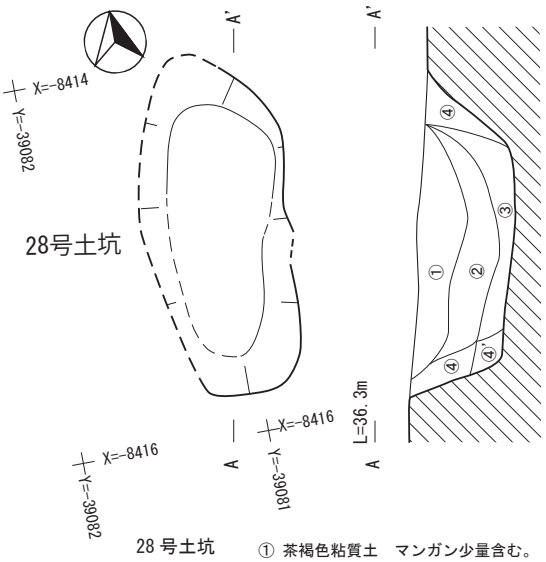
14 号土坑
① 褐色粘質土　黄褐色粘質土混
② 淡褐色粘質土
③ 灰褐色粘質土　黄褐色粘質土混

0　2m

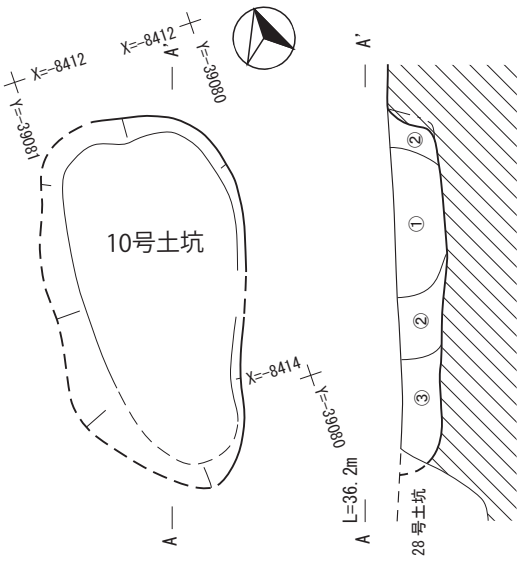
Pl.36　B3 区縄文時代土坑　18・11・20・24・14 号土坑平面・断面図 (1/40)



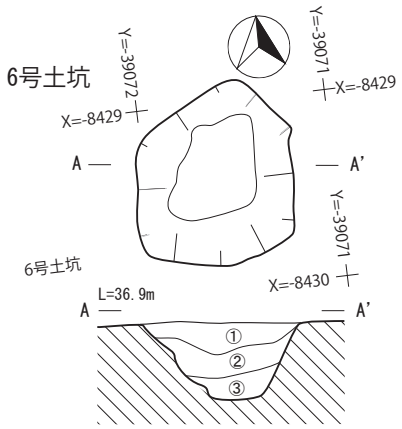
26 号土坑
① 茶褐色粘質土　黄褐色・赤褐色粘質土混
② 暗茶褐色粘質土　黄褐色粘質土混



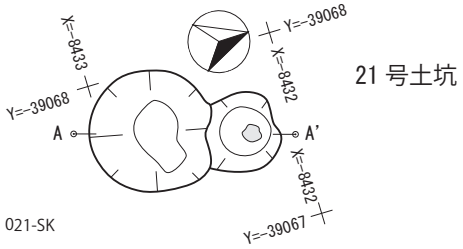
28 号土坑
① 茶褐色粘質土　マンガン少量含む。
② 暗茶褐色粘質土　黄褐色・淡赤褐色粘質土混
③ 暗茶褐色粘質土　黄褐色粘質土混
③' ③に準ずる。
④ 淡黄褐色粘質土　黄褐色粘質土混

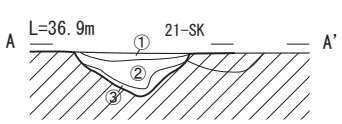


10 号土坑
① 暗褐色シルト　淡赤褐色粘質土混
② 淡褐色シルト　黄褐色粘質土混
③ 淡褐色シルト　黄褐色粘質土混



6 号土坑
① 茶褐色粘質土　黄褐色粘質土点混
② 淡褐色粘質土　淡黄褐色粘質土ブロック含む。
③ 淡褐色粘質土

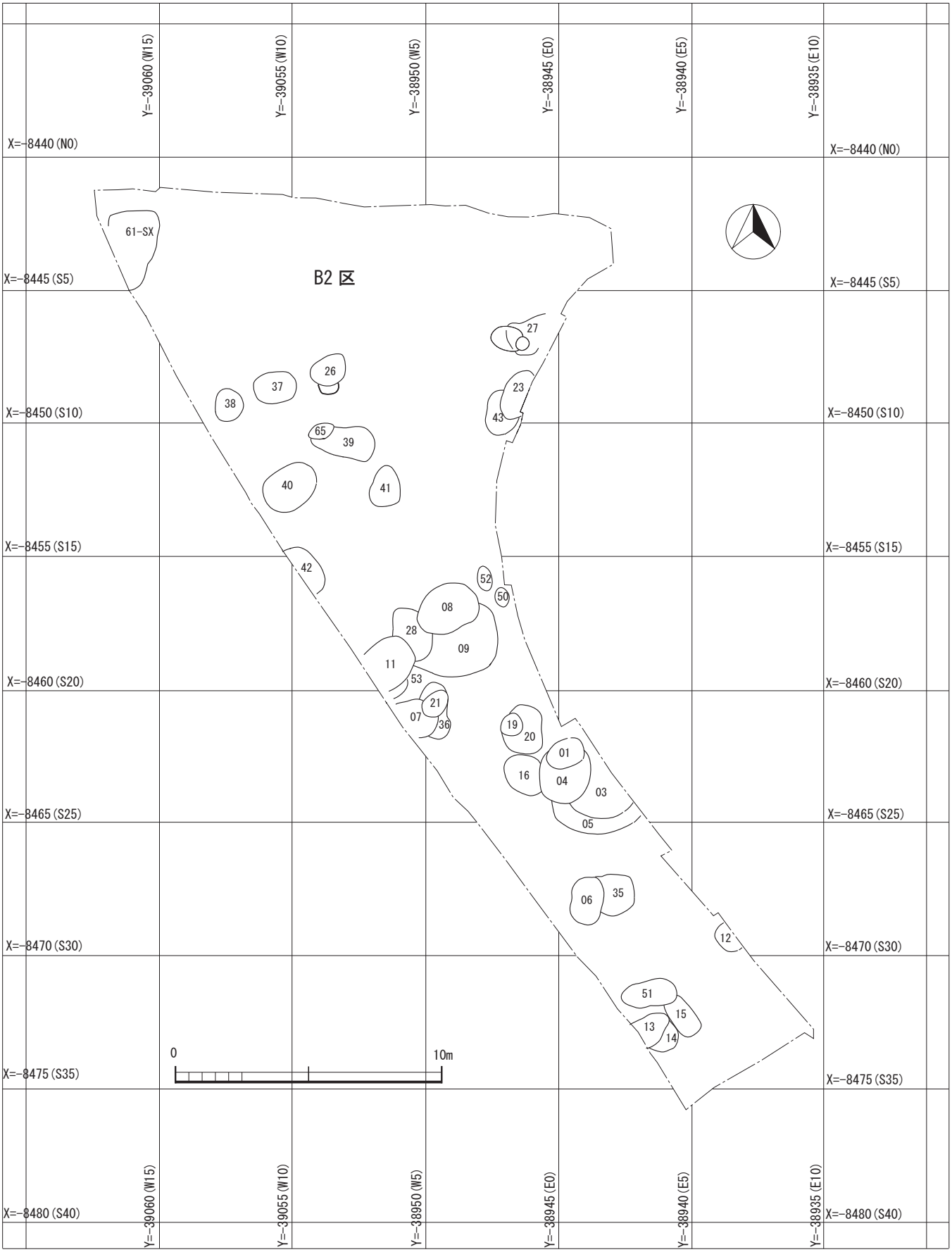




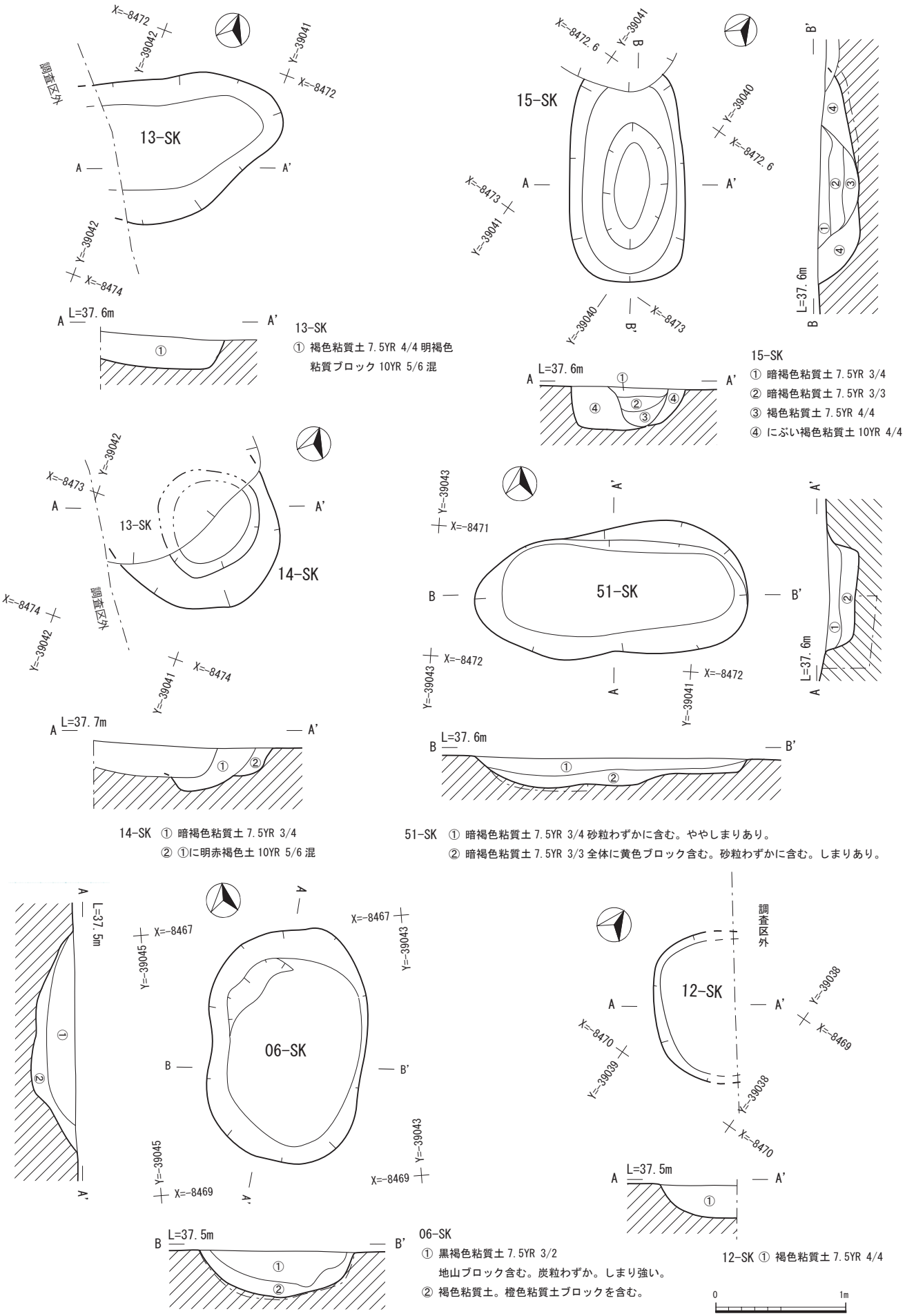
21 号土坑
① 暗褐色粘質土　黄褐色粘質土ブロック少量含む。
② 淡茶褐色粘質土　黄褐色ブロック（3〜4 ㎜大）含む。
③ 暗黄褐色粘質土　②の土混

0　2m

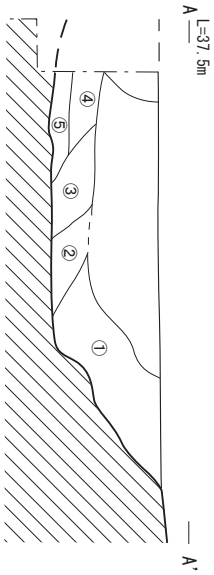
Pl.37　B3 区縄文時代土坑 26・28・10・6 号土坑・21-SK 平面・断面図 (1/40)

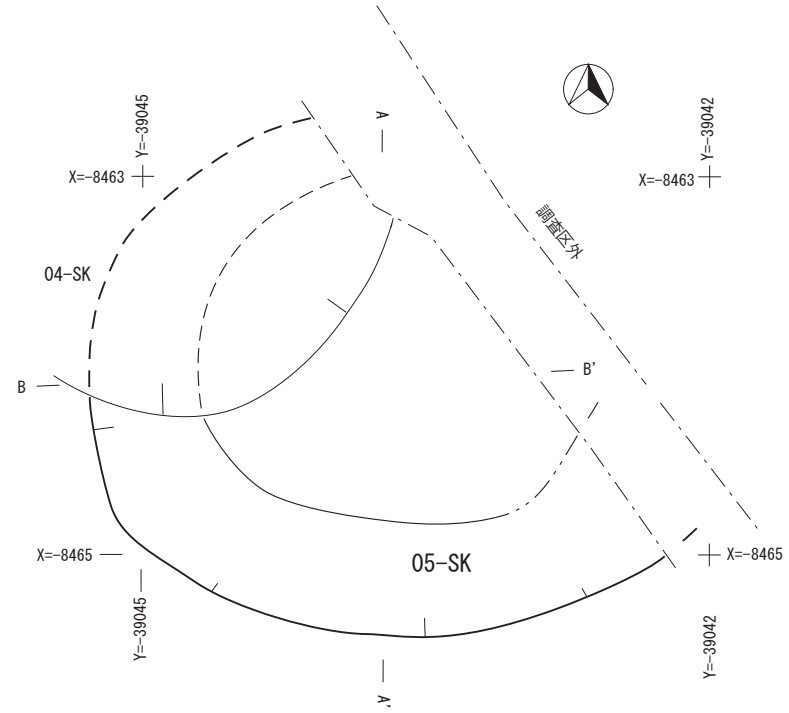


PI.38　B2 区縄文時代後晩期土坑配置図　(1/200)



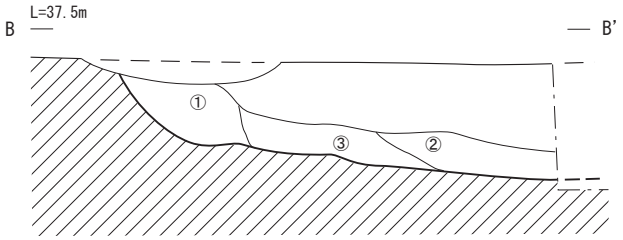
Pl.39　B2 区縄文時代土坑　13・15・14・51・06・12-SK 平面・断面図 (1/40)

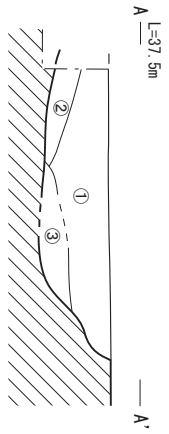


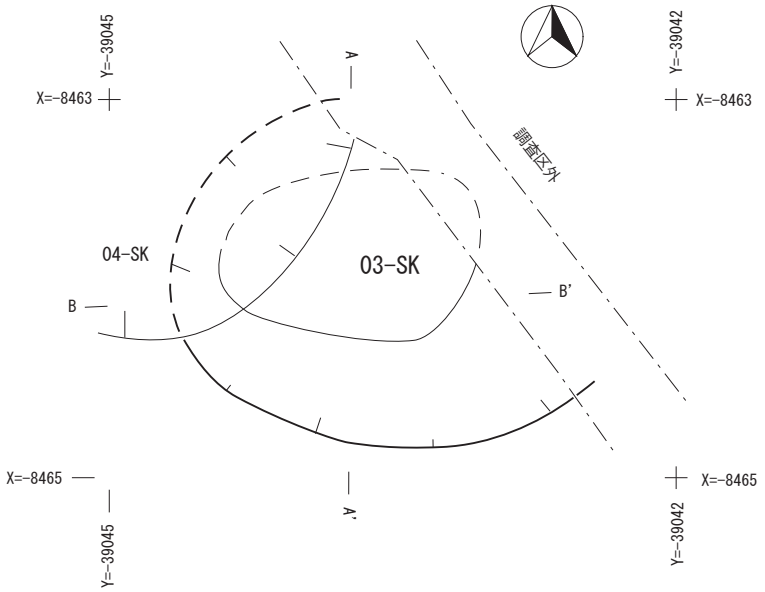


05-SK

① 暗褐色土 7.5YR 2/4 粘質強い。しまり強い。
② 褐色土 7.5YR 4/6 地山土を多く含む。
砂質。粘性なし。シャリシャリしている。
しまり弱い。
③ 黒褐色土 7.5YR 3/2 黒色ブロック・地山ブロック
含む。粘質。しまり弱い。

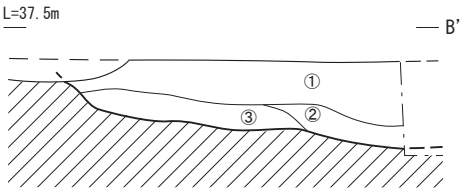




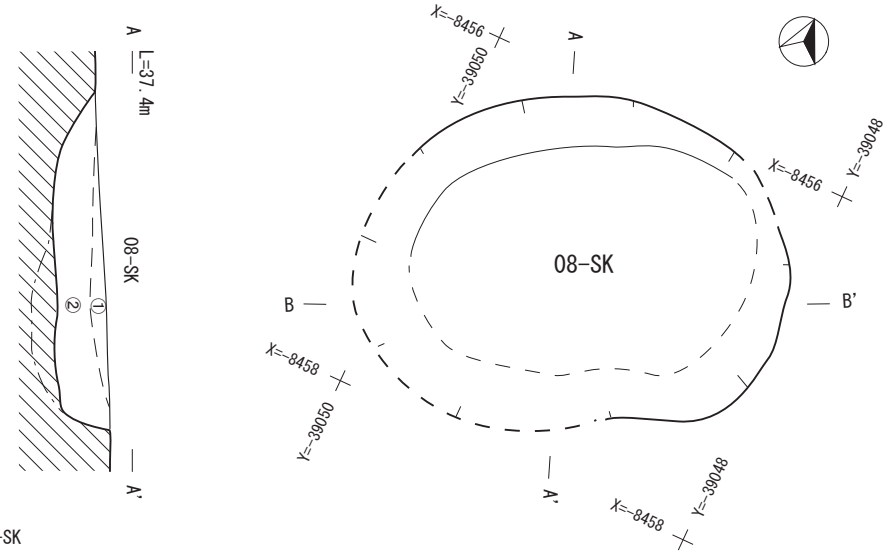


03-SK

① 暗褐色土 7.5YR 3/3 砂粒多く含む。
炭粒わずか。ややしまりあり。
② 暗褐色土 7.5YR 3/4 黄色ブロック
多く含む。しまりあり。
③ 暗褐色土 7.5YR 3/2 黒色ブロック
含む。地山ブロック多く含む。
しまり弱い。

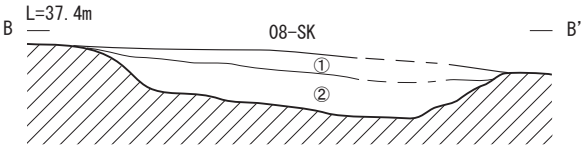


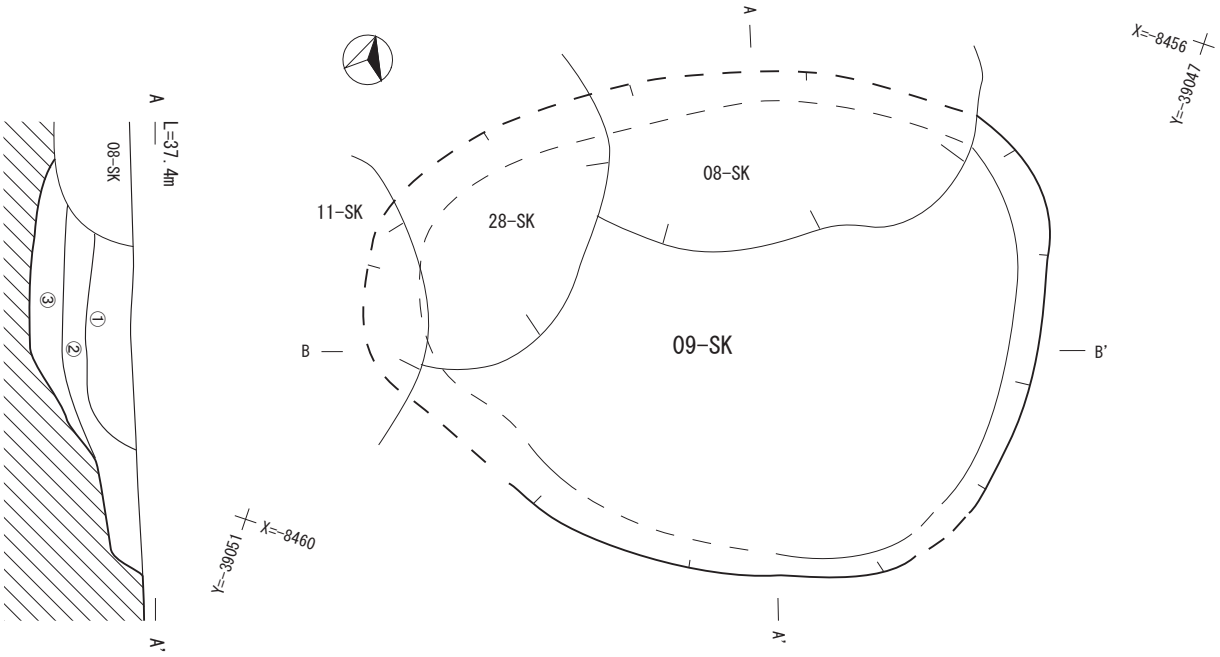
PI.40　B2 区縄文時代土坑 03・05-SK 平面・断面図 (1/40)



08-SK

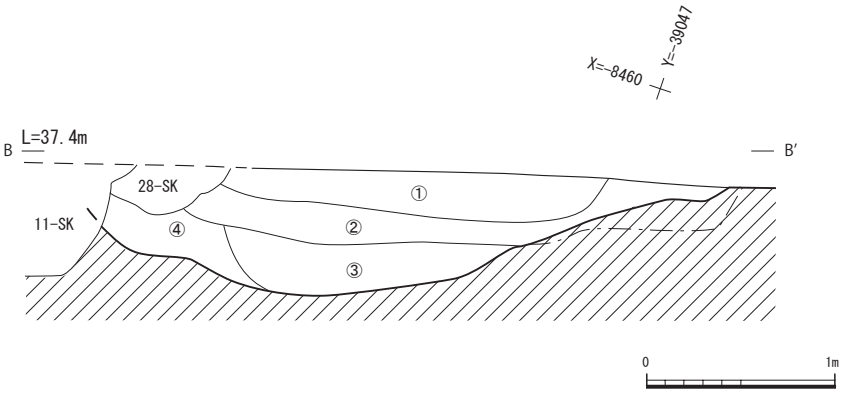
① 暗褐色粘質土 7.5YR 3/3
黒褐色粘質ブロック混
② ①の土に浅黄橙色粘質ブロック
7.5YR 8/4 混
③ 暗褐色粘質土 7.5YR 3/4
暗黄褐色粘土ブロック混



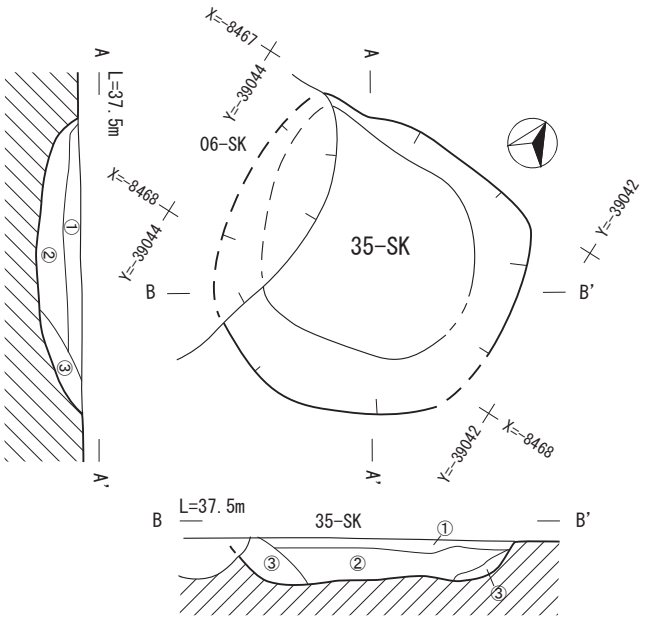


09-SK

① 暗褐色粘質土 7.5YR 3/3 黒褐色粘質ブロック混石化粘土ブロック全体に含む。粘質強い。しまり強い。
② ①より石化粘土ブロック少ない。
③ 暗褐色粘質土 7.5YR 3/3 浅黄橙色粘質ブロック
7.5YR 8/4 混。地山土含む。粘質強い。しまり強い。
④ 暗褐色粘質土 7.5YR 3/3 粘質強い。しまり強い。



Pl.41　B2 区縄文時代土坑 08・09-SK 平面・断面図 (1/40)

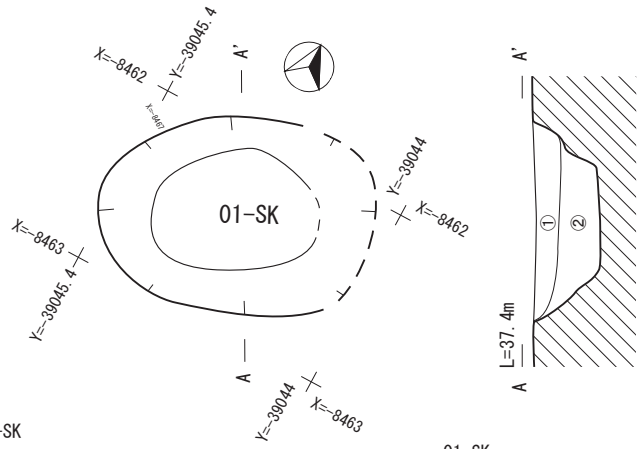


35-SK

① 暗褐色粘質土 7.5YR 3/3
黒色・黄色ブロック含む。しまりあり。

② 暗褐色粘質土 7.5YR 3/4
全体に地山ブロック含む。しまり強い。

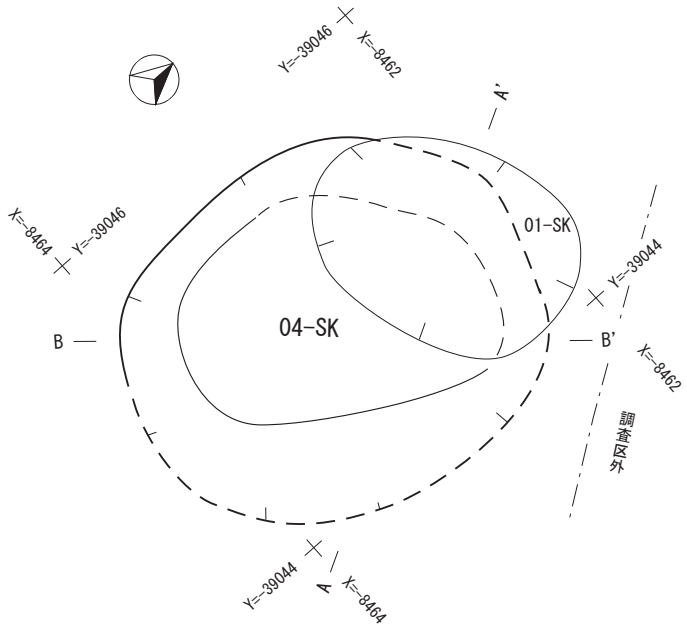
③ 暗褐色粘質土 7.5YR 3/3
地山ブロック含む。しまり強い。



01-SK

① 黒褐色粘質土 7.5YR 3/2
黒色ブロック多く含む。
褐色土含む。しまりあり。

② ①よりしまり強い。



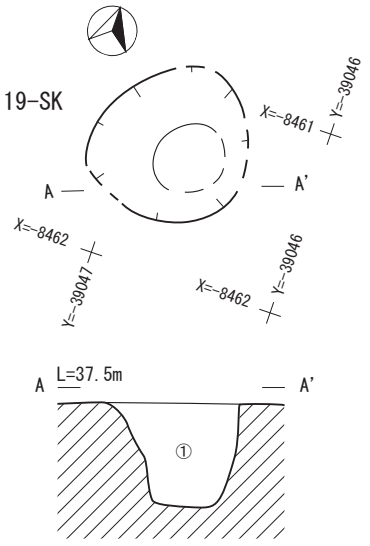
04-SK

① 暗褐色土 7.5YR 3/3 粘質強い。しまりあり。

② 黒褐色土 7.5YR 3/2 粘質強い。しまりあり。

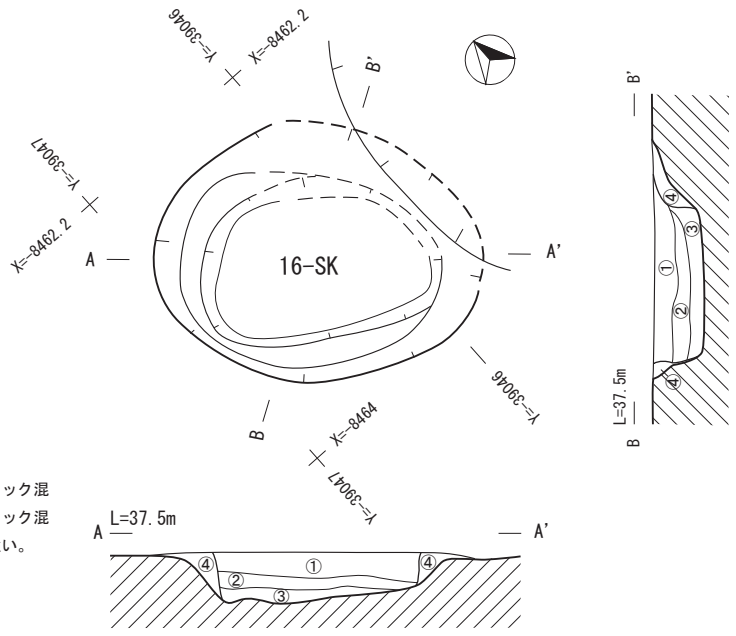
③ 暗褐色土 7.5YR 3/4 地山ブロック含む。粘質強い。

④ 暗褐色土 7.5YR 3/3 黄色ブロック含む。



19-SK

① 暗褐色粘質土 7.5YR 3/4
黄褐色・褐色粘質ブロック混



16-SK

① 暗褐色粘質土 7.5YR 3/3

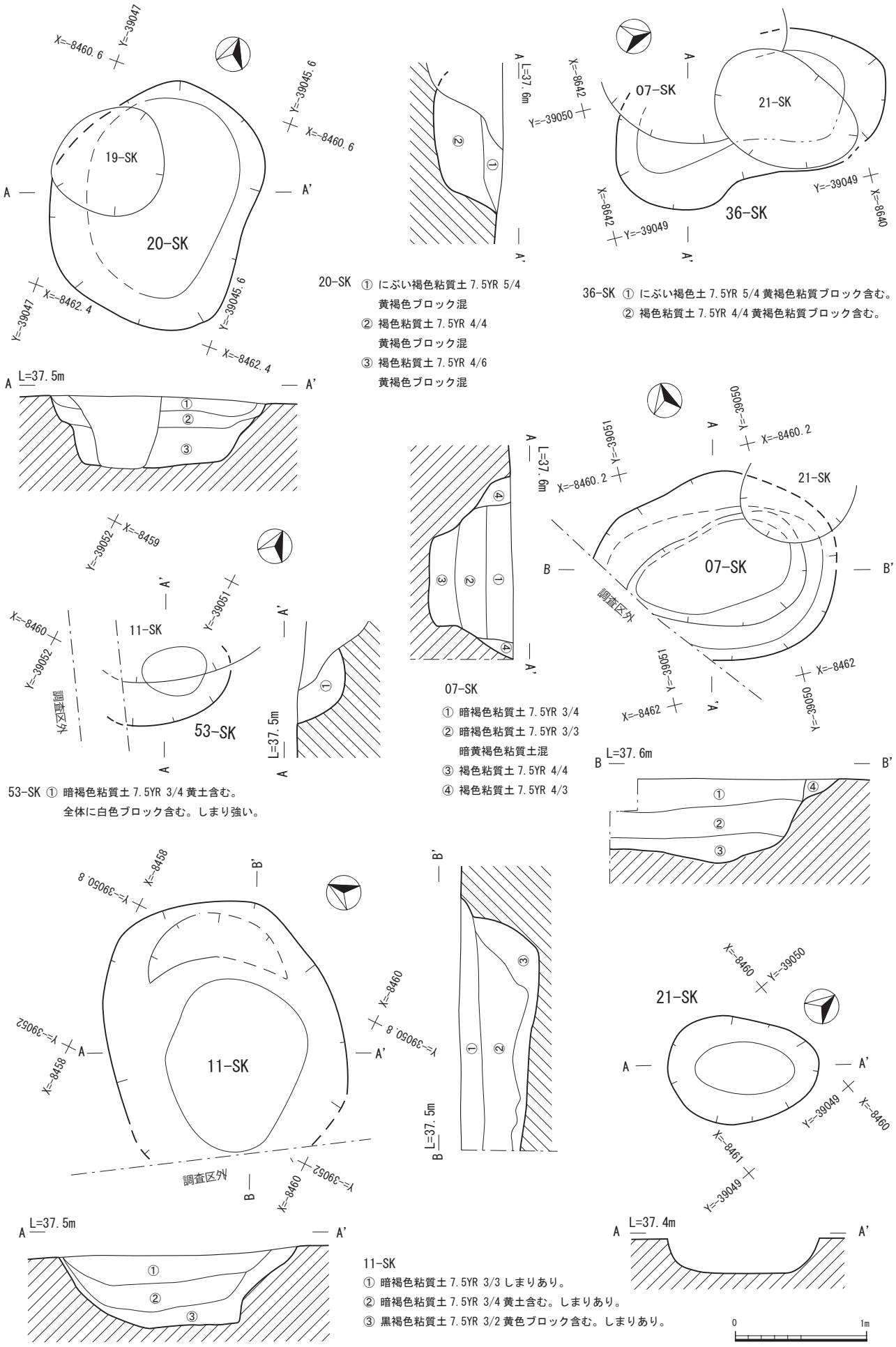
② 褐色粘質土 7.5YR 4/4 黄褐色ブロック混

③ 褐色粘質土 7.5YR 4/3 黄褐色ブロック混

④ 褐色粘質土 7.5YR 4/6 黄褐色が強い。

0 1m

PI.42 B2 区縄文時代土坑 35・01・04・19・16-SK 平面・断面図 (1/40)



20-SK ① にぶい褐色粘質土 7.5YR 5/4
黄褐色ブロック混
② 褐色粘質土 7.5YR 4/4
黄褐色ブロック混
③ 褐色粘質土 7.5YR 4/6
黄褐色ブロック混

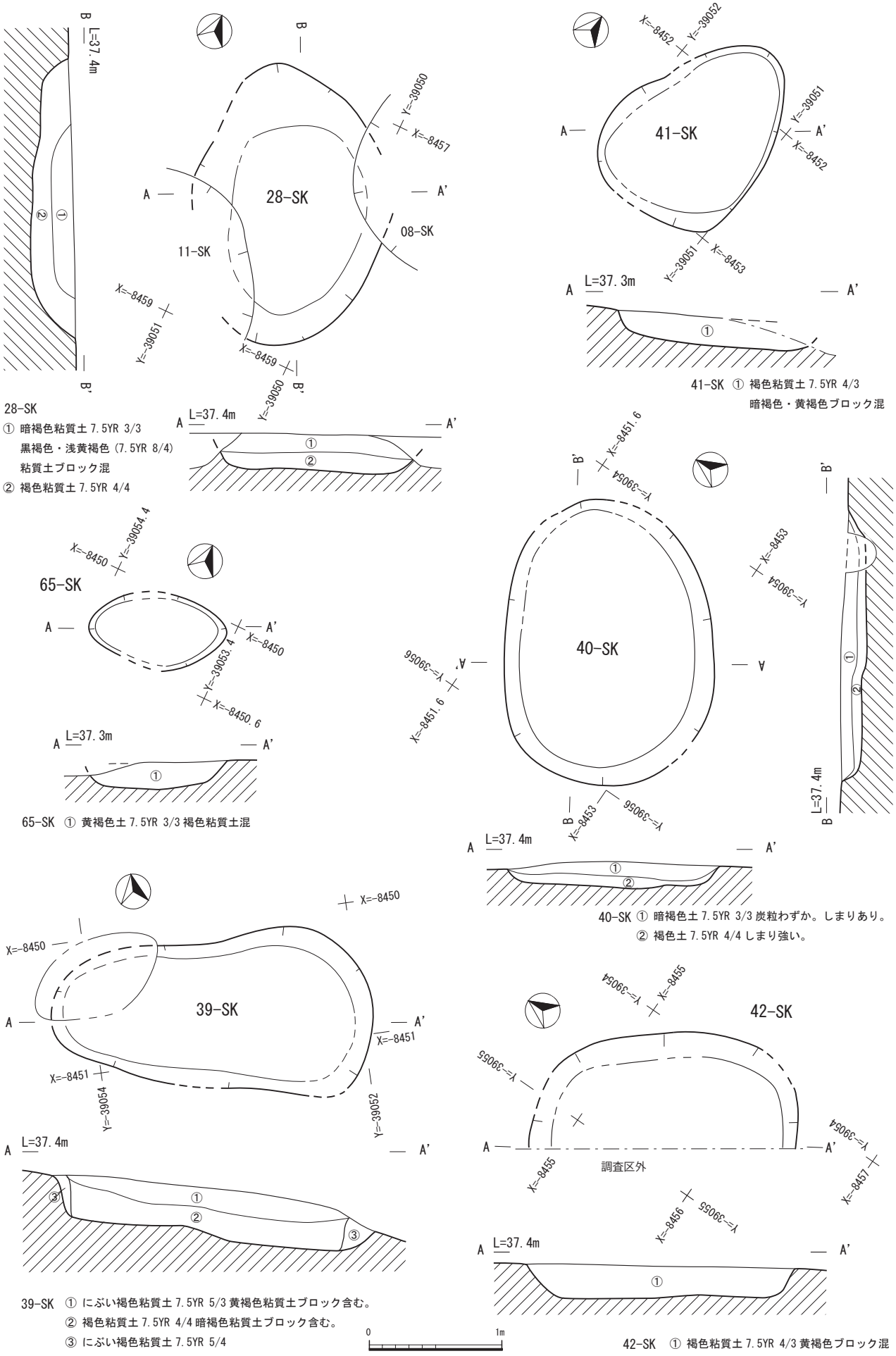
36-SK ① にぶい褐色土 7.5YR 5/4 黄褐色粘質ブロック含む。
② 褐色粘質土 7.5YR 4/4 黄褐色粘質ブロック含む。

07-SK
① 暗褐色粘質土 7.5YR 3/4
② 暗褐色粘質土 7.5YR 3/3
暗黄褐色粘質土混
③ 褐色粘質土 7.5YR 4/4
④ 褐色粘質土 7.5YR 4/3

53-SK ① 暗褐色粘質土 7.5YR 3/4 黄土含む。
全体に白色ブロック含む。しまり強い。

11-SK
① 暗褐色粘質土 7.5YR 3/3 しまりあり。
② 暗褐色粘質土 7.5YR 3/4 黄土含む。しまりあり。
③ 黒褐色粘質土 7.5YR 3/2 黄色ブロック含む。しまりあり。

Pl.43　B2 区縄文時代土坑　20・36・53・07・11・21-SK 平面・断面図 (1/40)



28-SK
① 暗褐色粘質土 7.5YR 3/3
黒褐色・浅黄褐色 (7.5YR 8/4)
粘質土ブロック混
② 褐色粘質土 7.5YR 4/4

41-SK ① 褐色粘質土 7.5YR 4/3
暗褐色・黄褐色ブロック混

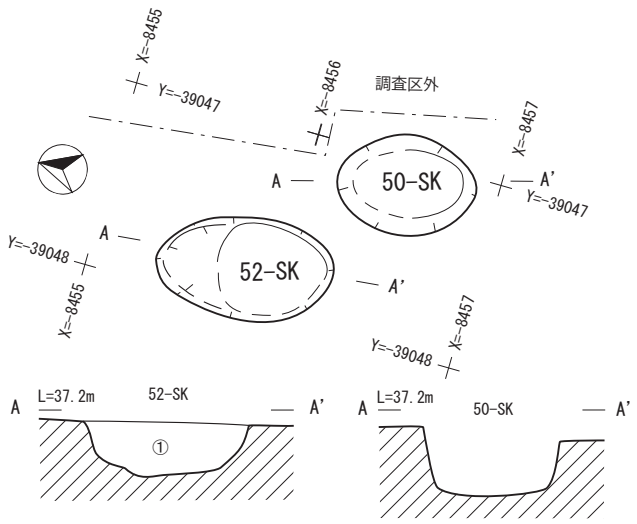
65-SK ① 黄褐色土 7.5YR 3/3 褐色粘質土混

40-SK ① 暗褐色土 7.5YR 3/3 炭粒わずか。しまりあり。
② 褐色土 7.5YR 4/4 しまり強い。

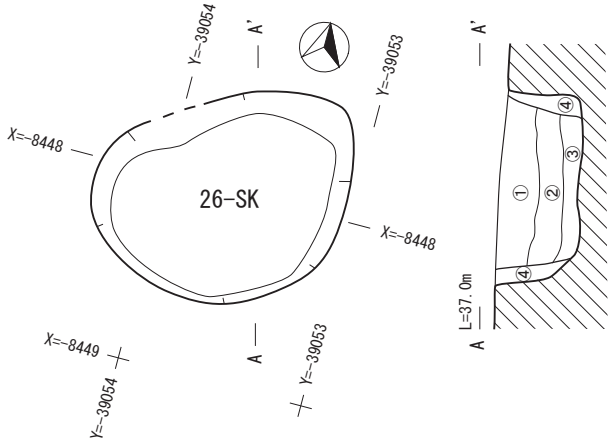
39-SK ① にぶい褐色粘質土 7.5YR 5/3 黄褐色粘質土ブロック含む。
② 褐色粘質土 7.5YR 4/4 暗褐色粘質土ブロック含む。
③ にぶい褐色粘質土 7.5YR 5/4

42-SK ① 褐色粘質土 7.5YR 4/3 黄褐色ブロック混

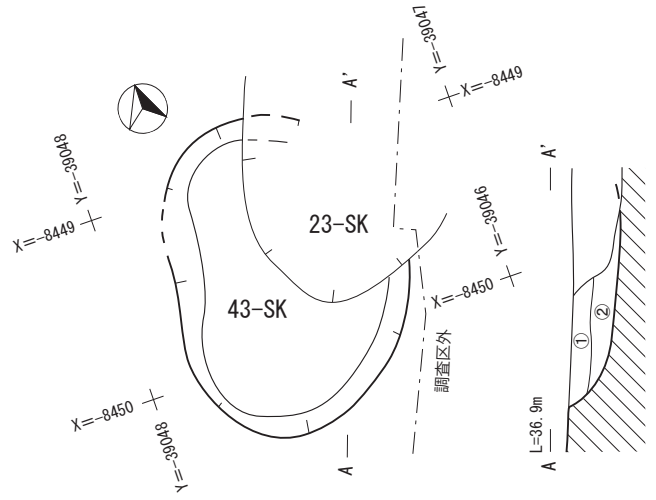
Pl.44 B2 区縄文時代土坑 28・41・65・40・39・42-SK 平面・断面図 (1/40)



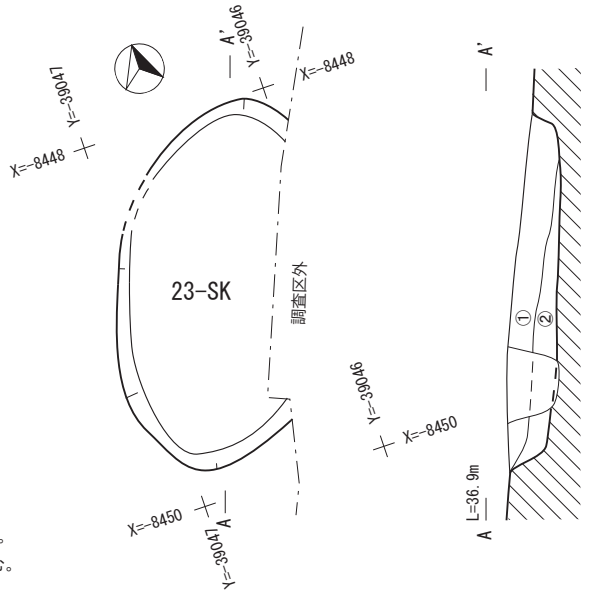
52-SK ① 褐色粘質土 7.5YR 4/6
暗黄褐色粘質ブロック混



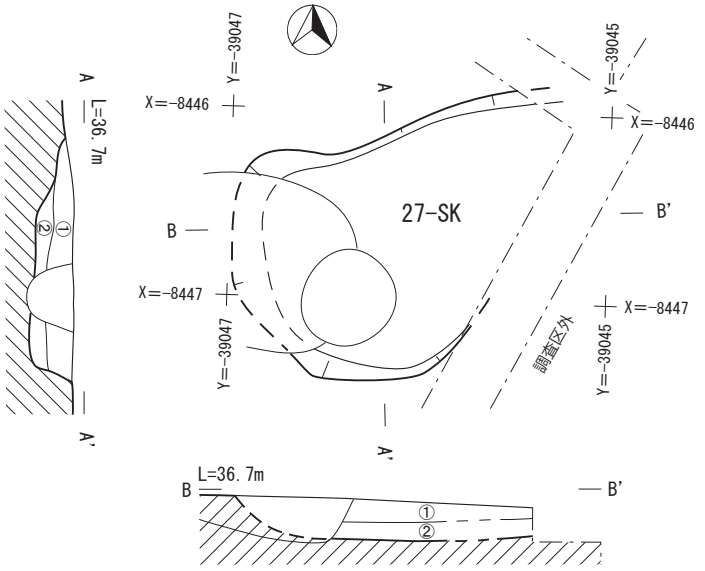
26-SK ① 暗褐色粘質土 7.5YR 3/3 茶褐色粘質土含む。
② 暗褐色粘質土 7.5YR 3/4 ①の土を含む。
③ 褐色粘質土 7.5YR 4/3 褐色粘質土　7.5YR 4/6 含む。
④ にぶい褐色粘質土 7.5YR 5/4　明褐色粘質土 7.5YR 5/6 含む。



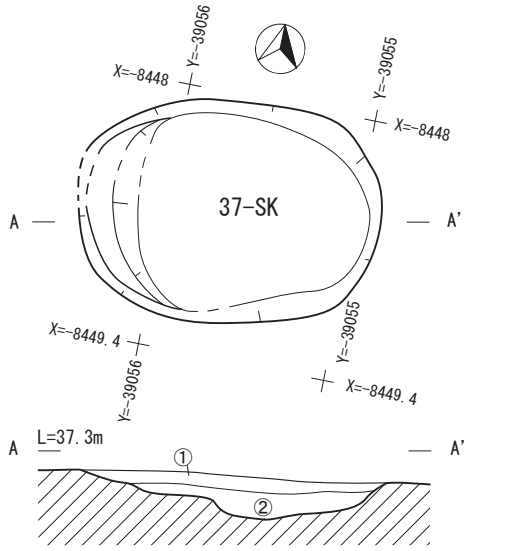
23-SK ① 褐色粘質土 10YR 4/4 暗褐色粘質ブロック含む。
② 褐色シルト 7.5YR 4/3 暗褐色粘質ブロック含む。



43-SK ① 暗褐色粘質土 7.5YR 3/4
② 褐色粘質土 7.5YR 4/6



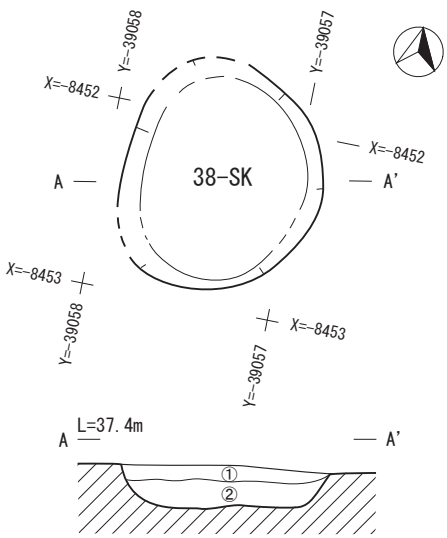
27-SK ① 暗褐色土 7.5YR 3/4
粘質の土。しまり弱い。
② 褐色土 7.5YR 4/6
地山を多く含む。①よりしまりあり。



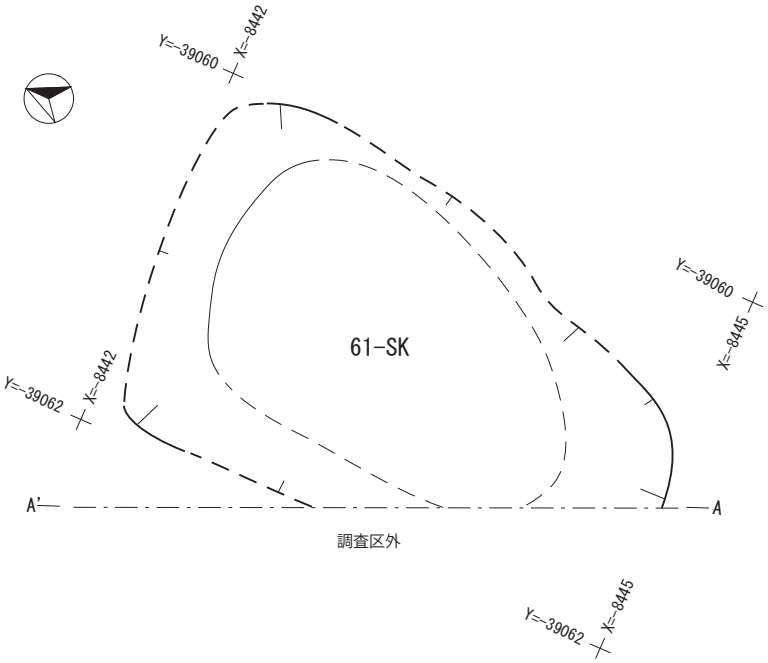
37-SK ① 暗褐色土 7.5YR 3/4 粘質の土。しまりあり。
② 褐色土 7.5YR 4/6 粘質の土。①よりしまりあり。

0　1m

Pl.45　B2 区縄文時代土坑　50・52・26・43・23・27・37-SK 平面・断面図 (1/40)



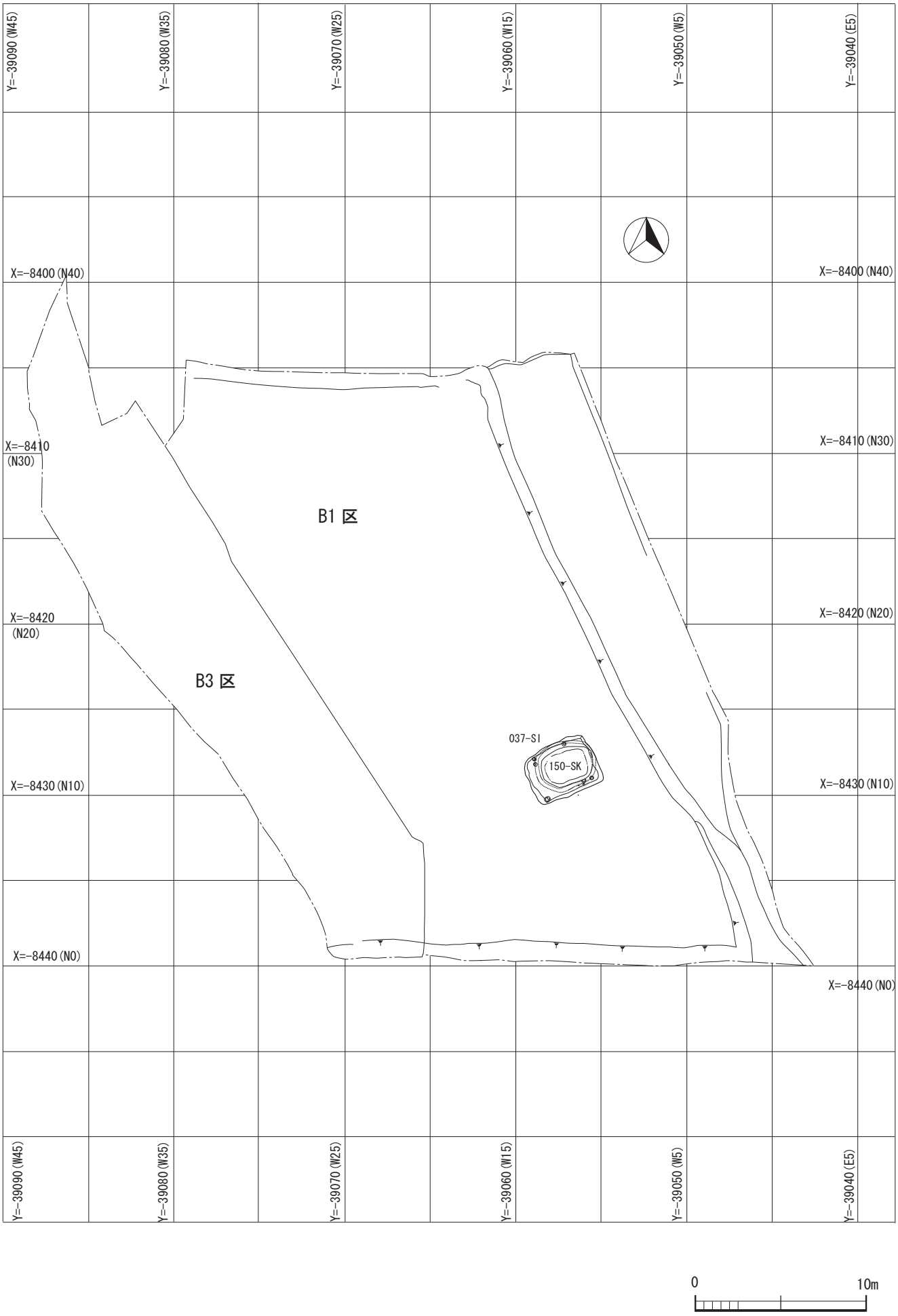
38-SK ① 暗褐色土 7.5YR 3/4 粘質の土。しまりあり。
② 褐色土 7.5YR 4/6 粘質の土。①よりしまりあり。



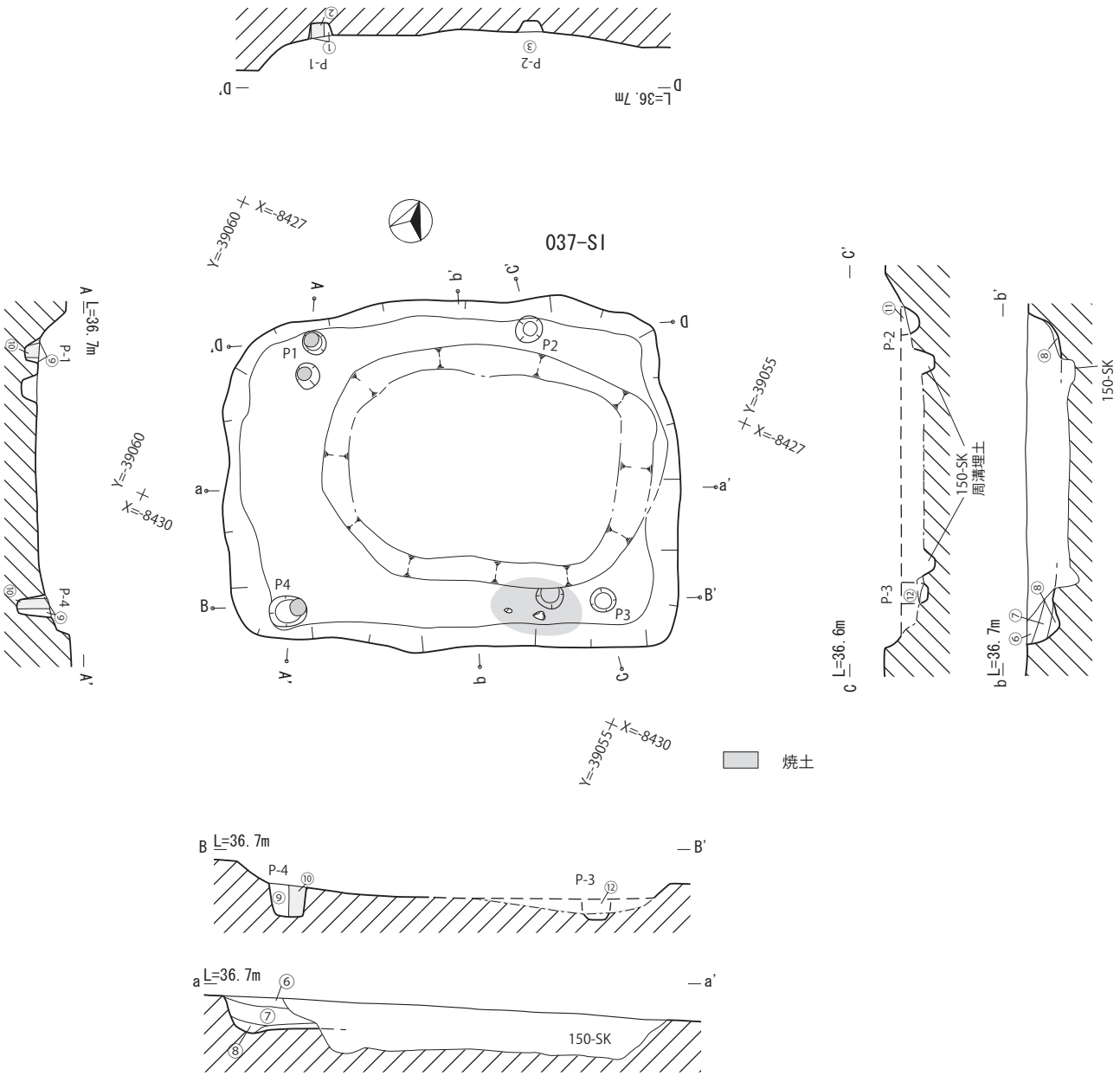
61-SK ① 暗褐色土 7.5YR 5/8 粘質大。地山ブロック混土。
② 褐色土 7.5YR 4/4 暗褐色粘質土ブロック（1〜3cm 大）多く含む。
粘質大。硬くしまっている。
③ 褐色土 7.5YR 4/4 暗褐色粘質土ブロック（1〜５cm 大）多く含む. 粘質大。
④ 暗褐色土 7.5YR 3/3 暗褐色粘質土ブロック（1cm 大）含む。粘質大。
硬くしまった粘質土ブロック含む。
⑤ 褐色土 7.5YR 4/4 やや粘質。

0 1m

Pl.46 B2 区縄文時代土坑 38-SK・61-SK（SX）平面・断面図（1/40）



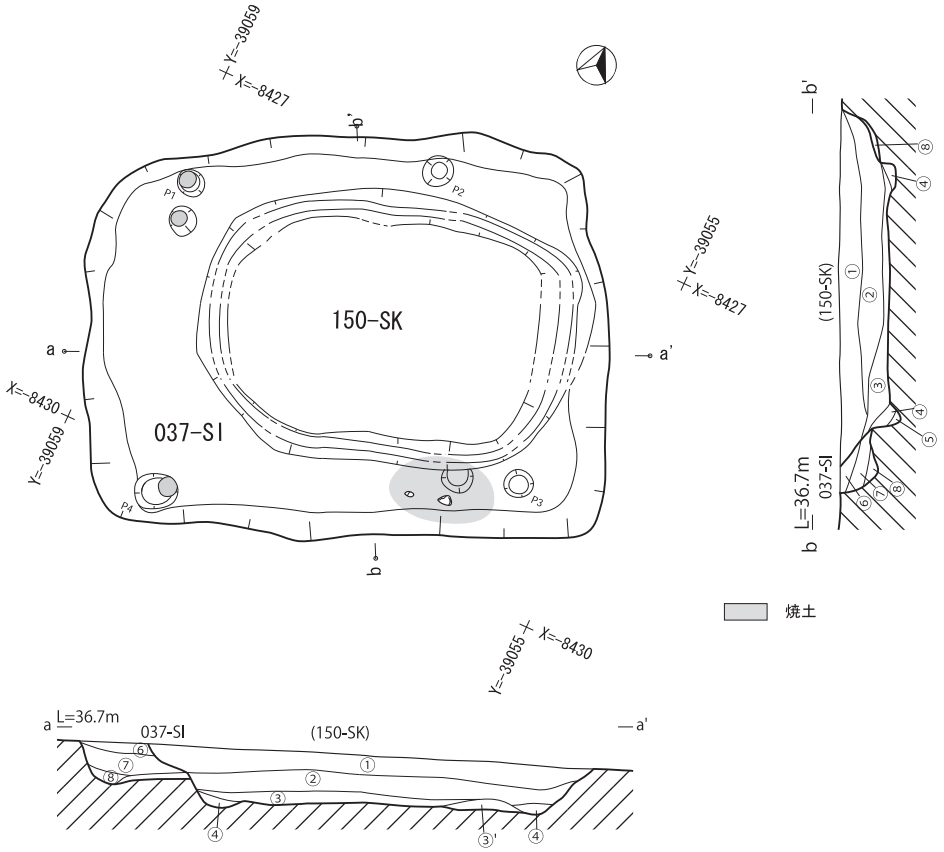
Pl.47　B1 区弥生時代後期～古墳時代遺構配置図　(1/300)



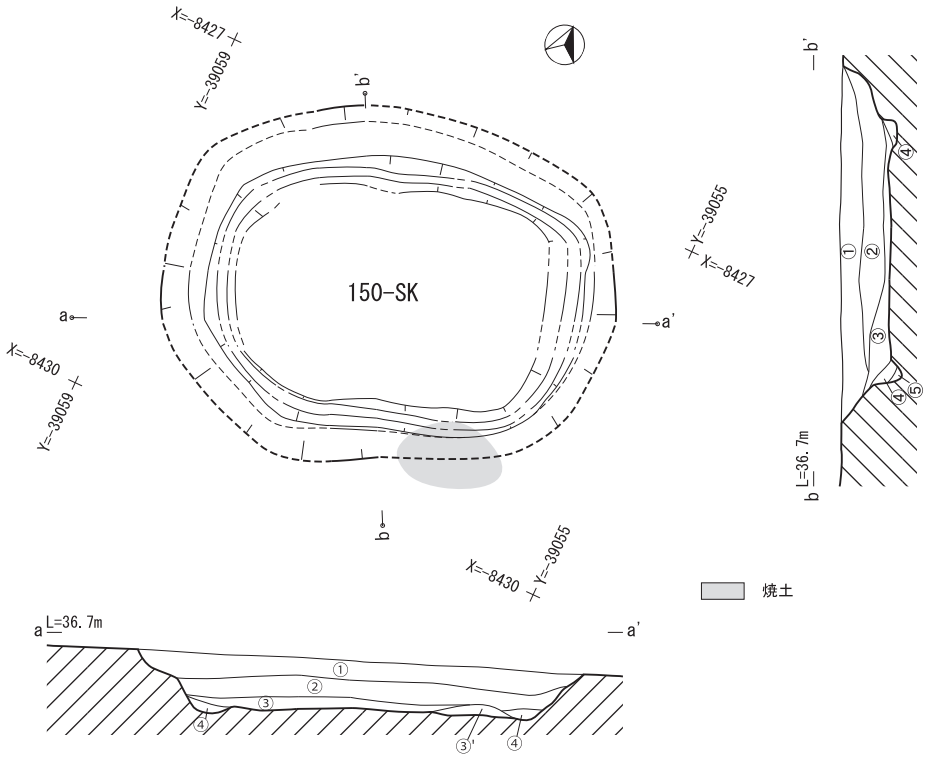
① 暗褐色シルト(Hue7.5YR3/4) やや粘質
② 褐色シルト(Hue7.5YR4/4) やや粘質 炭・黄色ブロック・暗褐色土混
③ 褐色シルト(Hue7.5YR4/4) にぶい褐色シルト(Hue7.5YR5/4)混
④ 褐色シルト(Hue7.5YR4/3)
⑤ 黒褐色シルト(Hue7.5YR2/2)
⑥ 褐色シルト(Hue7.5YR4/6)
⑦ 褐色シルト(Hue7.5YR4/4)
⑧ 褐色シルト(Hue10YR4/4) 黄褐色粘質土混
⑨ 暗褐色土(Hue7.5YR3/3) 柱痕である②に比べ、やや明るくなり、しまりも若干ゆるむ
⑩ 黒褐色土(Hue7.5YR3/2) ①に比べ、やや暗くなり、ややしまる
⑪ 褐色土(Hue7.5YR4/4) 明るい粘質土 しまりはあまりない
⑫ 褐色土(Hue10YR4/6) ややパサついた粘質土 ③よりやや暗い

0 2m

Pl.48 B1区 037-SI (SX) 平面・断面図 (1/60)



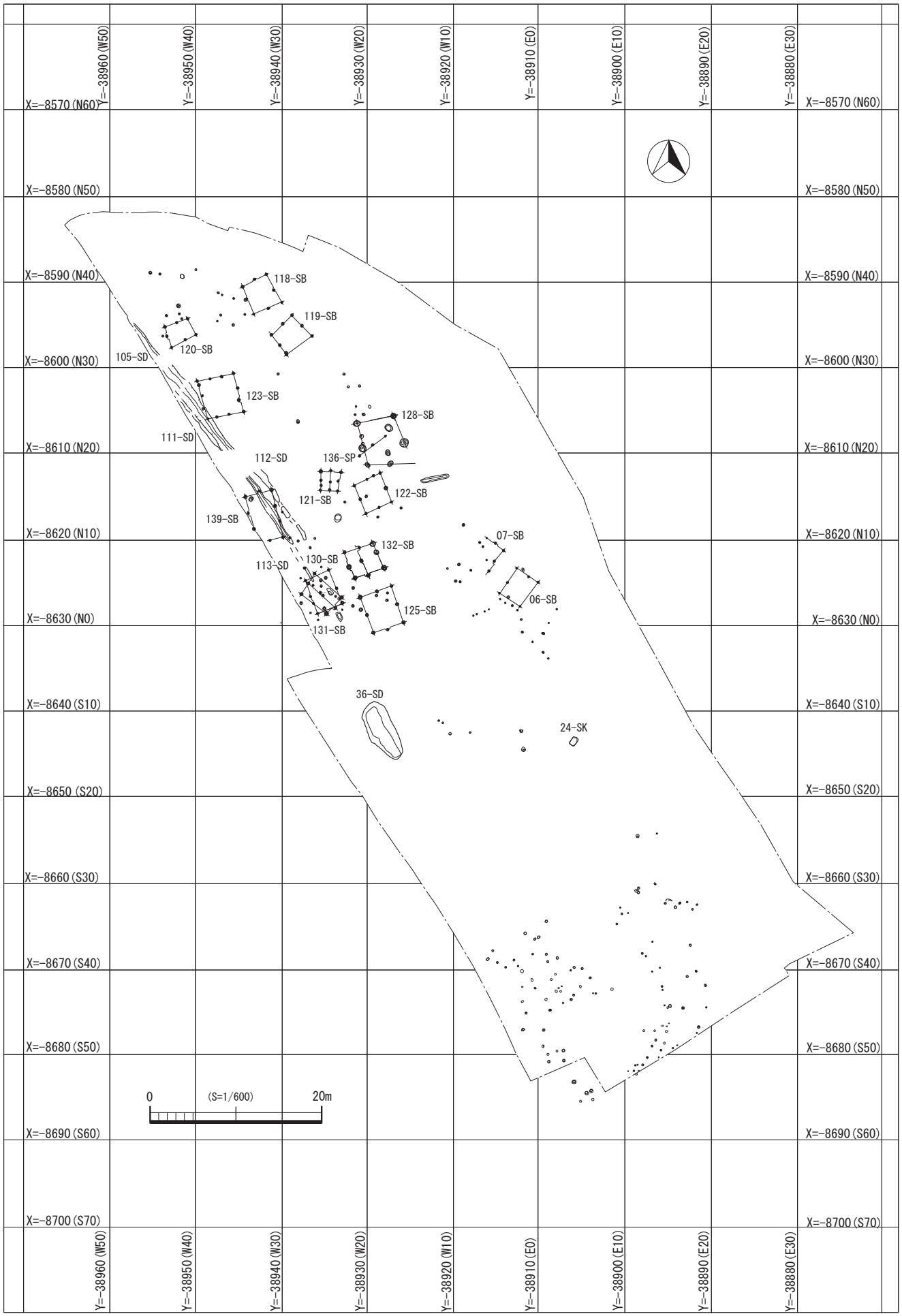
037-SI と 150-SK の関係図（検出状況）



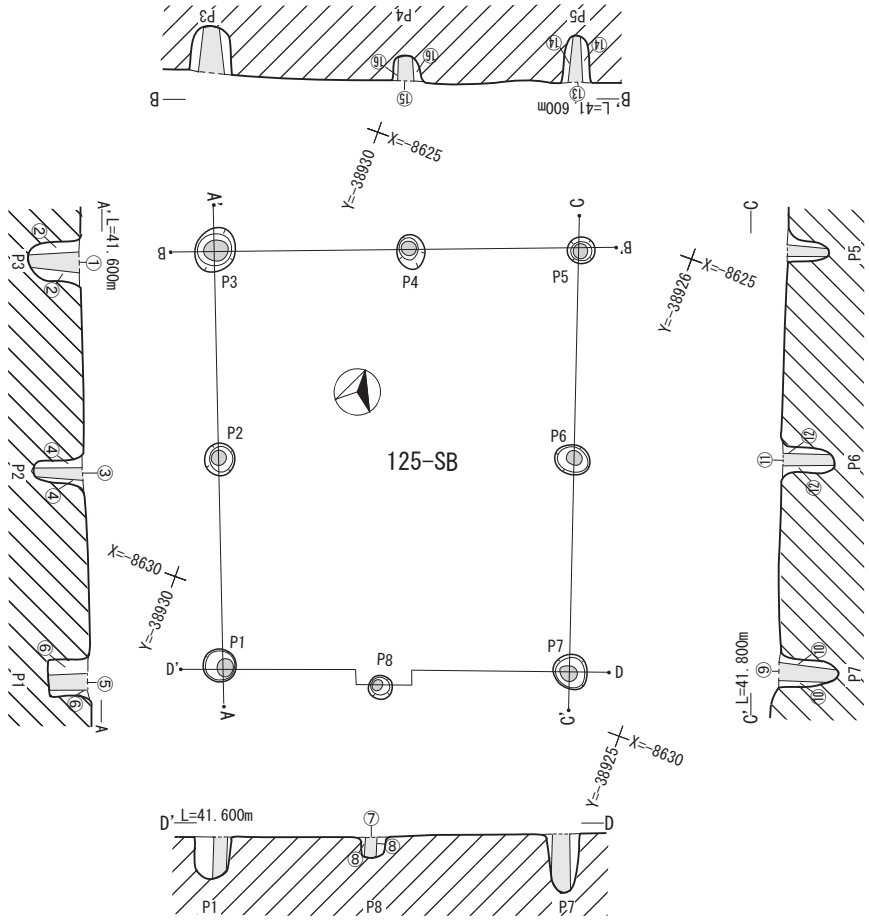
① 暗褐色シルト(Hue7.5YR3/4)　やや粘質
② 褐色シルト(Hue7.5YR4/4)　やや粘質　炭・黄色ブロック・暗褐色土混
③ 褐色シルト(Hue7.5YR4/4)　にぶい褐色シルト(Hue7.5YR5/4)混
④ 褐色シルト(Hue7.5YR4/3)
⑤ 黒褐色シルト(Hue7.5YR2/2)
⑥ 褐色シルト(Hue7.5YR4/6)
⑦ 褐色シルト(Hue7.5YR4/4)
⑧ 褐色シルト(Hue10YR4/4)　黄褐色粘質土混

0　2m

Pl.49　B1 区　037-SI（SX）・150-SK の関係図　150-SK 平面・断面図（1/60）



Pl.50　A区古代〜中世遺構配置図(1/600)



125-SB

① 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 黄色粒を全体的に含む。黄色ブロックわずかに含む。炭粒ごくわずか含む。中央部には多く含む。

② 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭粒わずかに含む。地山ブロックを含む。柱痕より明るく見える。しまり弱い。

③ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭粒わずかに含む。サラサラしている。しまり弱い。

④ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭粒ごくわずか含む。黄色粒わずかに含む為、柱痕部より明るく見える。サラサラしている。しまり弱い。

⑤ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭粒わずかに含む。黄色ブロックを全体的に含む。しまり弱い。底部はしまり強い。

⑥ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭粒ごくわずかに含む。黄色ブロックわずかに含む。黄粒全体的に含む。しまり弱い。

⑦ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 全体的に黄色ブロックを含む。炭粒わずかに含む。明褐色粒ごくわずかに含む。しまりやや強い。

⑧ 褐色土 (7.5YR 4/6) 暗褐色ブロックがやや入る。黄色、明褐粒ごくわずかに含む。炭粒ごくわずかに含む。しまり強い。

⑨ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭粒、黄色ブロック粒わずかに含む。しまり弱い。

⑩ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭粒わずかに含む。黄色ブロックを含む。柱痕部より多く入る為、やや明るい。しまり弱い。

⑪ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭粒、黄色ブロック粒わずかに含む。しまりやや強い。

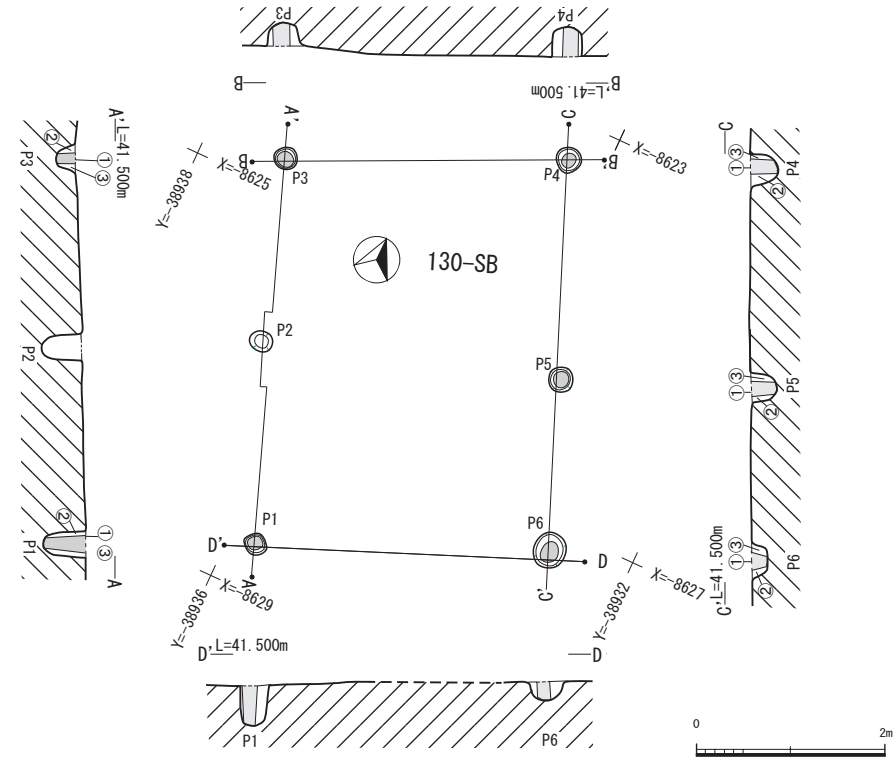
⑫ 暗褐色土（7.5YR 3/4) 炭粒、ごくわずかに含む。黄色ブロック全体的に含む。しまりやや強い。

⑬ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭粒、黄色ブロック、黄色粒わずかに含む。しまり弱い。

⑭ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭粒ごくわずかに含む。全体的に黄色ブロックを含む為柱痕部より明るく見える。しまり弱い。

⑮ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭粒含む。黄色ブロック含む為、明るく見える。しまりやや強い。

⑯ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 柱痕部に比べ、ブロックが少ない。しまりやや強い。



130-SB

① 黒褐色土 (10YR 3/2) 炭粒、褐色粒を含む。

② 暗褐色土 (7.5YR 4/3) 褐色粒を含む。

③ 褐色粘質土 (7.5YR 4/3) 炭粒、赤橙色粒含む。ややシルト質に近い軟質である。

④ 褐色粘質土 (10YR 4/4) 炭粒、赤橙色粒含む。軟質である。

⑤ 暗褐色粘質土 (10YR 4/3)10YR-4/6 褐色土を多くむ。軟質である。

⑥ 褐色粘質土 (10YR 4/6)①よりもやや硬質。内側には①の土が混じる。

⑦ 暗褐色粘質土 (7.5YR 4/3) 褐色粒を斑状に含む。

⑧ 褐色粘質土 (7.5YR 4/4)1cm 以下の礫含む。褐色粒あり。

⑨ 褐色粘質土 (7.5YR 4/4) 地山ブロックを多く含む。

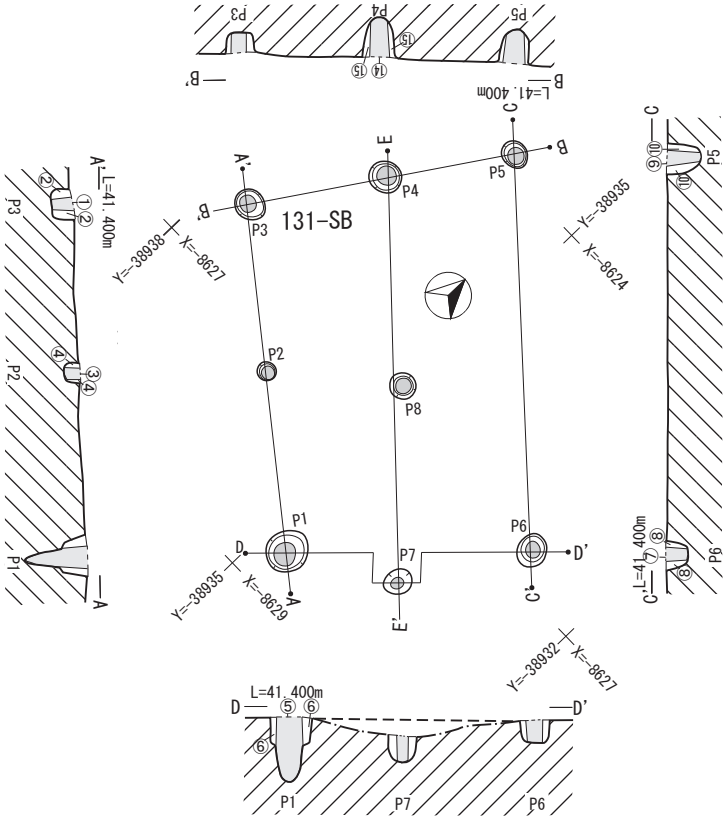
⑩ 暗褐色粘質土 (7.5YR 4/3) 褐色粒を微量含む。やや硬質である。

⑪ 褐色粘質土 (10YR 4/4) 褐色粒を少量含む。やや硬質である。

⑫ 暗褐色粘質土 (10YR 3/4) 地山ブロックを多く含む。軟質である

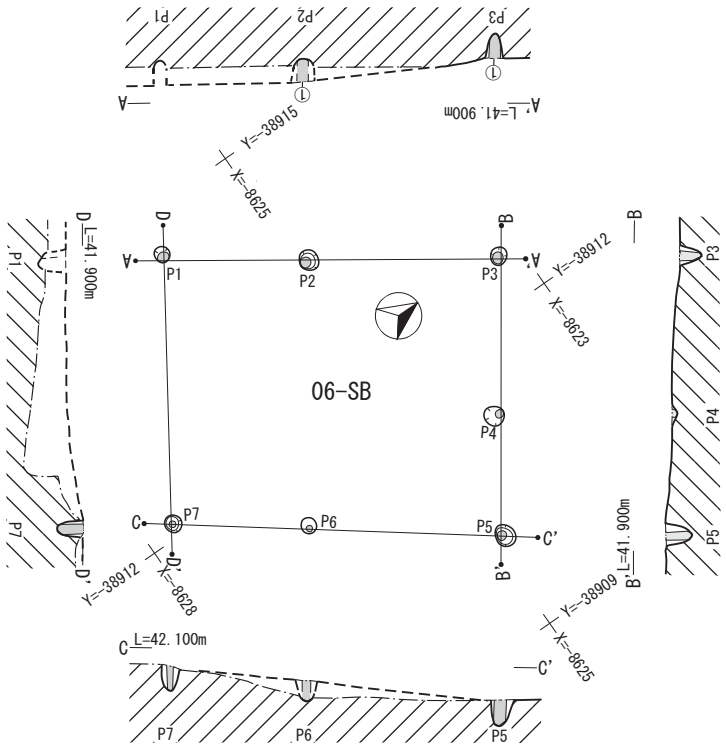
⑬ 褐色粘質土 (10YR 4/6)①より硬質。褐色粒を含む。

PI.51　A 区 125-SB・130-SB 平面・断面図 (1/80)



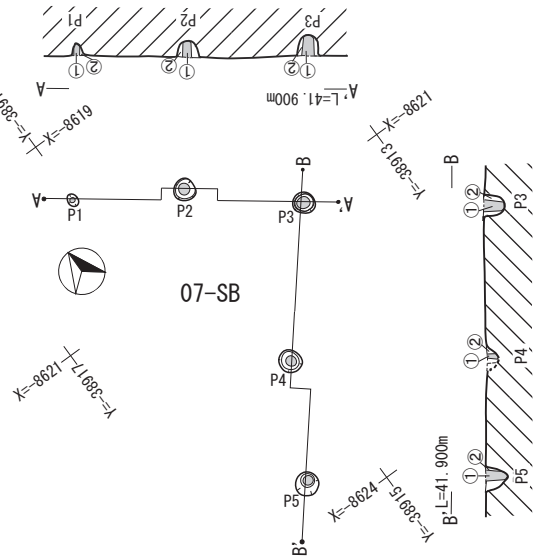
131-SB

① 暗褐色粘質土 (10YR 3/4) 炭粒、褐色粒を含む。
② 暗褐色粘質土 (7.5YR 3/4) 褐色粒をごくわずか含む。
③ 暗褐色粘質土 (7.5YR 4/3) 褐色粒、炭粒含む。やや軟質である。
④ 褐色粘質土 (7.5YR 4/6)①に比べてしまる。褐色粒を含む。
⑤ 黒褐色粘質土 (10YR 2/3) 軟質、褐色ブロック炭粒を含む。
⑥ 暗褐色粘質土 (10YR 3/4)①よりややしまる。褐色粒を含む。
⑦ 暗褐色粘質土 (7.5YR 3/4) 橙色粒、炭粒をわずかに含む。
⑧ 褐色粘質土 (7.5YR 4/4) 褐色粒をわずかに含む。
⑨ 暗褐色粘質土 (7.5YR 3/4) 軟質の炭化物、褐色粒を少量含む。
⑩ 褐色粘質土 (7.5YR 4/4)①よりややしまる。褐色ブロック多し。
⑪ 暗褐色粘質土 (7.5YR 3/4) 軟質、炭化物、橙色粒を少量含む。
⑫ 褐色粘質土 (7.5YR 4/4)①より硬質、褐色粒多し。
⑬ 褐色粘質土 (7.5YR 4/4)①の土に類似する。褐色粒含む。
⑭ 黒褐色粘質土 (10YR 2/3) 軟質、炭化物がかなりの割合で含まれている。
⑮ 暗褐色粘質土 (10YR 3/4)①よりやや硬質、褐色粒多し。



06-SB

① 褐色粘質土 (7.5YR 4/4) ややしまる。
② 褐色粘質土 (7.5YR4/4) しまる。
③ 灰黄褐色粘質土 (10YR 4/2) あまりしまらず、炭化物を少量含む。
④ にぶい黄褐色粘質土 (10YR 5/3) ややしまる。

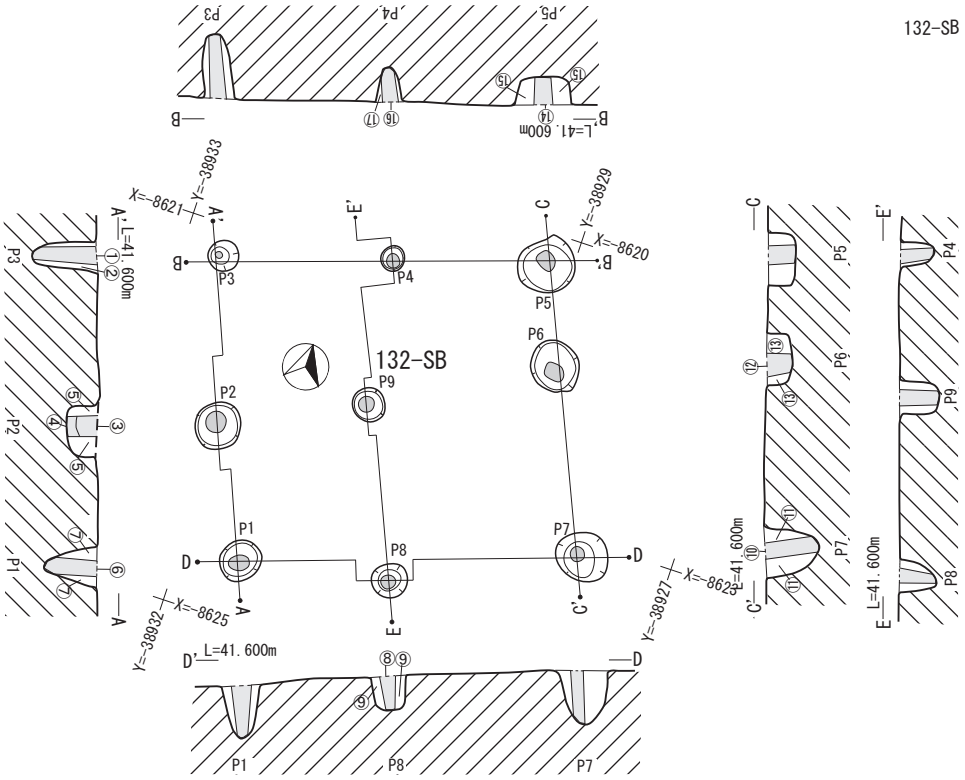


07-SB

① 褐色粘質土 (7.5YR 4/3) ややしまりがある。
② 褐色粘質土 (7.5YR 4/3) しまりがあり、白色の細粒を含む。

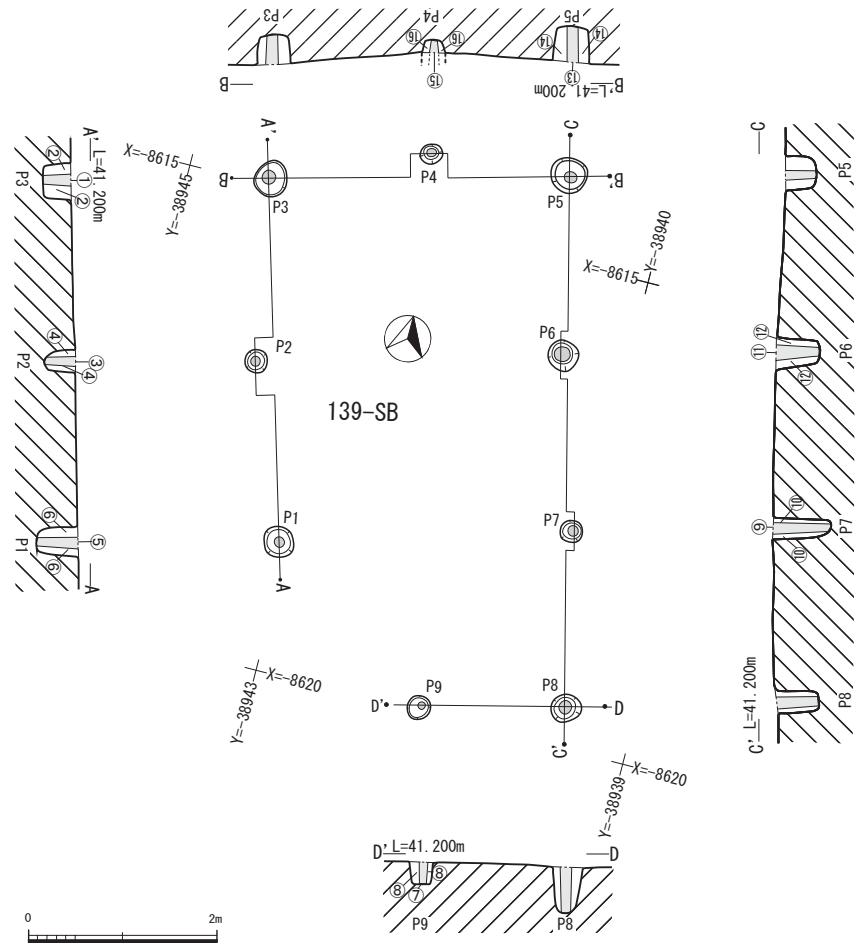
0 2m

PI.52 A区 131-SB・06-SB・07-SB 平面・断面図 (1/80)



132-SB

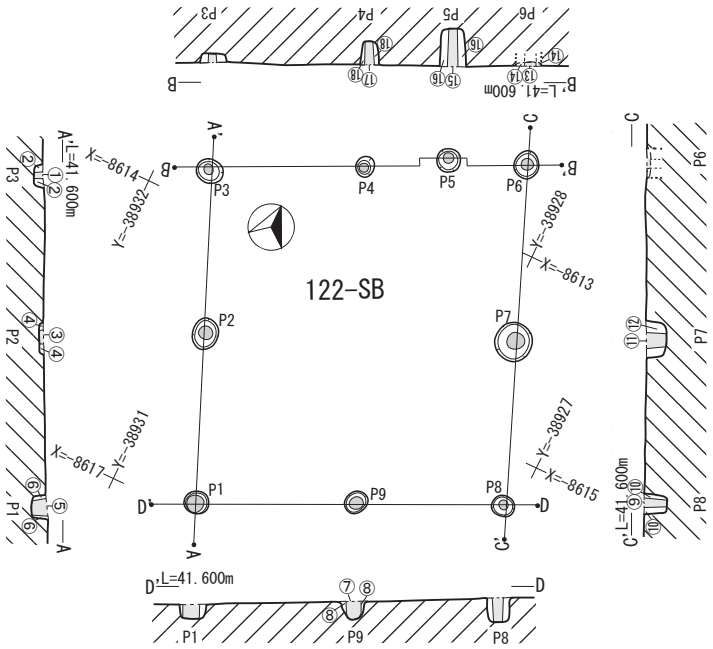
① 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭粒ごくわずか含む。黄褐色ブロックを全体的に含む。しまり弱い。
② 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 炭粒、黄褐色粒を含む。
③ 褐色土 (7.5YR 4/4) 炭粒ごくわずか含む。全体的に黄色ブロックを含む。しまり強い。
④ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭粒含む。黄色ブロックわずか含む。 しまりやや強い。
⑤ 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 炭粒ごくわずか含む。黄粒をわずかに上部に含む。下部に黄色ブロックを含む。しまり強い。
⑥ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭粒わずか含む。上部に多い。しまり弱い。
⑦ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭粒わずか含む。全体的に黄褐色のブロックを含む。しまり強い。
⑧ 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 黄色ブロック、粒わずかに含む。炭粒ごくわずか、しまり強い。
⑨ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 黄色ブロック、粒が柱痕部より多い為、やや明るく見える。炭粒ごくわずか含む。しまり強い 。
⑩ 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 黄色ブロックを全体的に含む。炭粒ごくわずか含む。中央部に赤色ブロック含む。
⑪ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 全体的に黄色ブロックを含む。柱痕部より多く含む為、明るく見える。炭、赤色ごくわずか含む。しまりやや強い。
⑫ 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 黄色ブロックを含む。炭粒ごくわずか含む。しまりやや強い。
⑬ 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 黄色ブロックを含む。柱痕より多く含む為、明るく見える。炭粒ごくわずか含む。しまり強い。
⑭ 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 黄褐色ブロック含む。炭粒ごくわずか含む。しまり強い。
⑮ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 黄褐色ブロックを柱痕部より多く含む為、やや明るい。しまり強い。
⑯ 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 炭粒を含む。全体的黄色ブロック含む。赤色粒ごくわずかに含む。
⑰ 黒褐色土 (7.5YR 3/2) 黒色ブロックわずかにむ。黄褐色ブロックが掘り方の下部に多く含む。炭粒ごくわずか、しまり強い。



139-SB

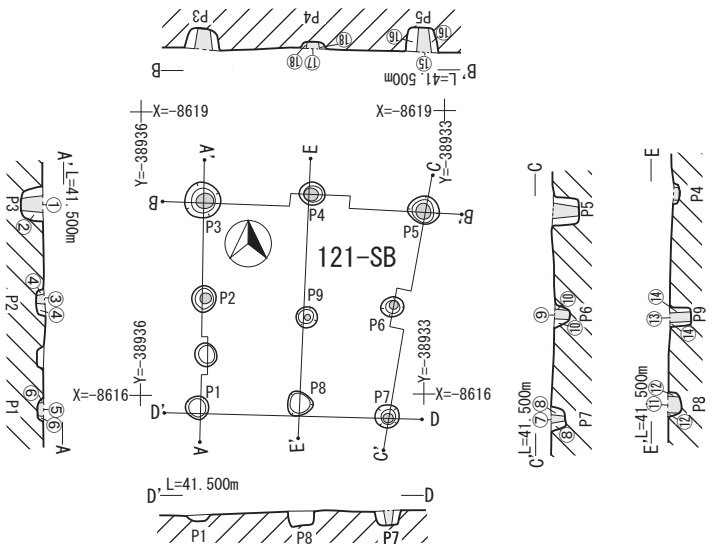
① 黒褐色土 (7.5YR 3/2) 炭粒、黄色粒ごくわずかに含む。しまり弱い。
② 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 黄色ブロック、炭粒ごくわずかに含む。しまり柱痕部より強い。
③ 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 黄色粒を含む。炭粒ごくわずか含む。しまり弱い。
④ 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 黄色粒を含む。柱痕部より多い為、明るく見える。炭粒ごくわずか含む。しまりやや強い。
⑤ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 黄色ブロックわずかに含む。炭粒ごくわずか含む。しまり弱い。
⑥ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 黄色ブロック、炭粒ごくわずか含む。しまりやや強い。
⑦ 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 黄色粒、炭粒ごくわずか含む。しまり弱い。
⑧ 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 黄色ブロック含む。柱痕部より多く含む為、明るく見える。赤色粒ごくわずか含む。しまり強い。
⑨ 黒褐色土 (7.5YR 3/2) 黄色粒、炭粒ごくわずかに含む。しまり弱い。
⑩ 黒褐色土 (7.5YR 3/2) 黄色粒、柱痕部より多く含む。炭粒ごくわずか含む。しまり弱い。
⑪ 黒褐色土 (7.5YR 3/2) 全体的に黄色粒を含む。炭粒ごくわずかに含む。下部に黄色粒を多く含む。しまり弱い。
⑫ 黒褐色土 (7.5YR 3/2) 黄色粒わずかに含む。炭粒ごくわずかに含む。下部に黄粒を多く含む。しまり弱い。
⑬ 黒褐色土 (7.5YR 3/2) 黄色ブロック、炭粒ごくわずかにしまり弱い。
⑭ 黒褐色土 (7.5YR 3/2) 黄色ブロック含む。西側に多い。柱痕部より多い。炭粒ごくわずか含む。しまり弱い。
⑮ 黒褐色土 (7.5YR 3/2) 黄色ブロック、炭粒ごくわずかに含む。しまり弱い。
⑯ 黒褐色土 (7.5YR 3/2) 黄色ブロック柱痕部より多く含む。炭粒ごくわずかに含む。しまりやや強い。

PI.53　A 区 132-SB・139-SB 平面・断面図 (1/80)



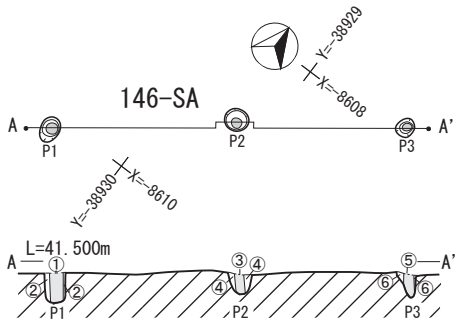
122-SB

① 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 炭粒ごくわずか。しまり強い。
② 褐色土 (7.5YR 4/4) 混入物なし。しまり強い。
③ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭粒わずかに含む。しまり弱い。
④ 褐色土 (7.5YR 4/4) 炭粒ごくわずかに含む。しまり強い。
⑤ 黒褐色土 (7.5YR 3/2) 炭粒ごくわずか含む。下部に黄色ブロックを多く含む。しまり弱い。
⑥ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 黄色土ブロックを全体的に含み、下部に多い。しまりやや強い。
⑦ 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 全体的に黄色ブロックを含む。炭粒、赤色土粒ごくわずかに含む。しまり弱い。
⑧ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 全体的に黄ブロックを含む。しまりやや強い。
⑨ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭粒わずかに含む。黄ブロックを上部に多く含む。しまり弱い。
⑩ 褐色土 (7.5YR 4/4) 炭粒ごくわずかに含む。黄ブロック含む。柱痕より多く含む。しまりやや強い。
⑪ 褐色土 (7.5YR 4/4) 全体的に暗褐色ブロックを含む。しまりやや弱い。
⑫ 褐色土 (7.5YR 4/6) 混入物無し。しまり強い。
⑬ 褐色土 (7.5YR 4/4) 炭粒ごくわずかに含む。 しまりやや強い。
⑭ 褐色土 (7.5YR 4/6) 混入物無し。しまり強い。
⑮ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭、黄色粒わずかに含む。しまりやや強い。
⑯ 褐色土 (7.5YR 4/4) 地山ブロックを多く含む為、やや明るく見える。
⑰ 褐色土 (7.5YR 4/3) 炭粒わずかに含む。黄色ブロックを下部に含む。しまり弱い。
⑱ 褐色土 (7.5YR 4/4) 炭粒ごくわずかに含む。しまりやや強い。



121-SB

① 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭粒わずか。黄色ブロック含む。しまり強い。
② 褐色土 (7.5YR 4/6) 暗褐色ブロック含む。炭粒ごくわずか、しまり強い。
③ 褐色土 (7.5YR 4/4) 炭粒、暗褐色ブロック、黄色粒わずかに含む。しまりやや弱い。
④ 褐色土 (7.5YR 4/6) 赤色粒ごくわずか、炭粒、黄色粒わずかに含む。しまりやや強い。
⑤ 褐色土 (7.5YR 4/4) 黄色ブロックをわずかに含む。炭粒わずか、赤色粒ごくわずかに含む。しまりやや強い。
⑥ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭粒わずかに含む。しまり弱い。
⑦ 褐色土 (7.5YR 4/4) 炭粒、ごくわずかに含む。黄ブロック含む。しまりやや強い。
⑧ 褐色土 (7.5YR 4/4) 炭粒ごくわずか、黄色ブロック (柱痕部より少ない) 為、暗く見える。しまりやや強い。
⑨ 褐色土 (7.5YR 4/6) 炭粒、赤色粒ごくわずか。しまり強い。
⑩ 褐色土 (7.5YR 4/4) 炭粒ごくわずか、赤色粒わずかに含む。しまり強い。
⑪ 褐色土 (7.5YR 4/4) 炭粒、赤色粒ごくわずかに含む。黄色ブロック含む。しまりやや強い。
⑫ 褐色土 (7.5YR 4/4) 炭粒、赤色粒ごくわずか、しまり強い。
⑬ 褐色土 (7.5YR 4/4) 炭粒含む。上部に黄ブロック含む。しまり強い。
⑭ 褐色土 (7.5YR 4/6) 炭粒ごくわずか、黄色ブロックを全体的に含む。しまり強い。
⑮ 褐色土 (7.5YR 4/4) 炭粒わずかに含む。黄色ブロックを全体的に含む。しまり強い。
⑯ 褐色土 (7.5YR 4/4) 炭粒 (柱痕部より少ない)。黄色ブロック含む。しまり強い。
⑰ 褐色土 (7.5YR 4/4) 炭粒ごくわずかに含む。しまり弱い。
⑱ 褐色土 (7.5YR 4/6) 炭粒ごくわずか、黄色ブロックわずか。しまり強い。

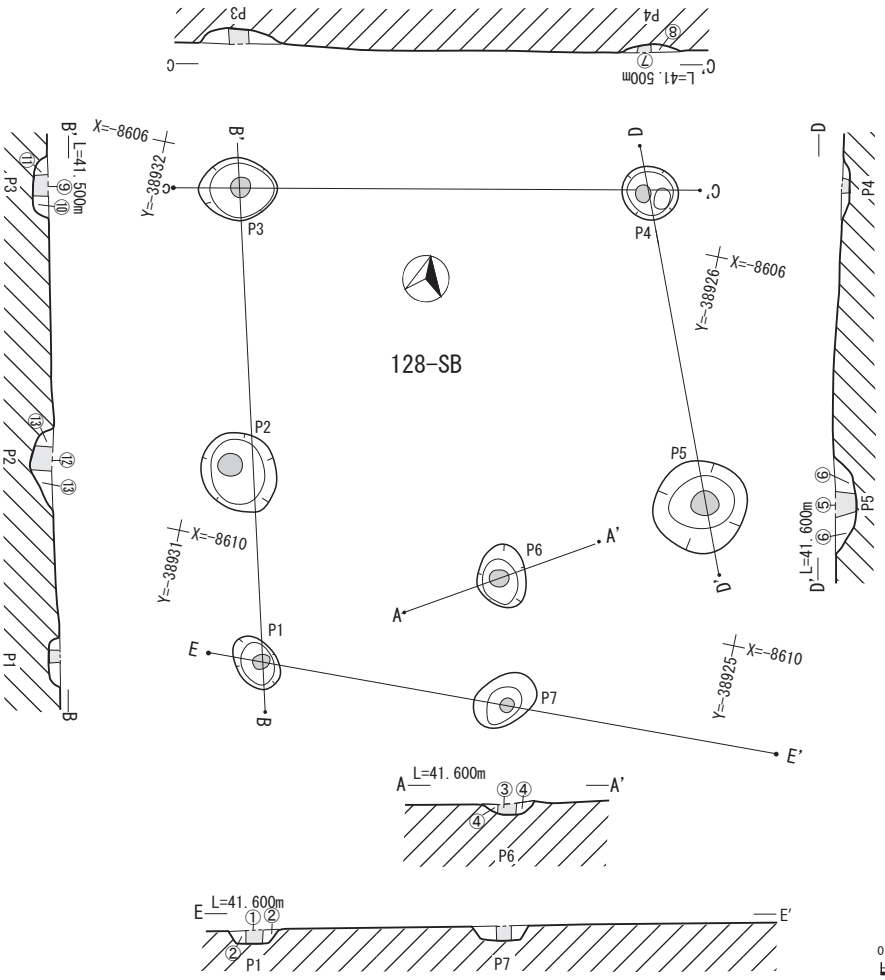


146-SA

① 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 全体的に炭粒を含む。しまりやや強い。
② 褐色土 (7.5YR 4/3) 暗褐色ブロックをわずかに含む。しまり強い。
③ 褐色土 (7.5YR 4/4) 暗褐色ブロックを含む。炭粒ごくわずか、しまり強い。
④ 褐色土 (7.5YR 4/4) 褐色ブロックわずかに含む。(柱痕部より少ない) しまり強い。
⑤ 暗褐色 (7.5YR 3/3) 炭粒ごくわずか、しまりやや強い。
⑥ 褐色 (7.5YR 4/4) 地山ブロック (2cm) を含む。しまりやや強い。

0 2m

PI.54 A 区 122-SB・121-SB・146-SA 平面・断面図 (1/80)



128-SB

① 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭粒ごくわずか。
黄色、赤色、褐色ブロックわずかに含む。
礫 (5mm) ごくわずかに含む。
しまりやや強い。

② 褐色土 (7.5YR 4/4) 黄色ブロック、炭粒、
赤褐色粒わずかに含む。しまりやや強い。

③ 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 炭粒、赤色粒ごく
わずかに含む。しまりやや強い。

④ 褐色土 (7.5YR 4/4) 黄土含む。炭粒、赤色粒
ごくわずかに含む。しまり強い。

⑤ 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 炭粒、黄色粒、赤色粒
ごくわずかに含む。 しまり弱い。

⑥ 褐色土 (7.5YR 4/6) 炭粒ごくわずかに含む。
しまり強い。

⑦ 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 炭粒、黄粒わずかに含む。
白粘土粒ごくわずか。しまり強い。

⑧ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 黄色粒。白粘土粒わずかに
含む。地山ブロックわずか。しまり強い。

⑨ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭粒わずかに含む。
しまりやや強い。

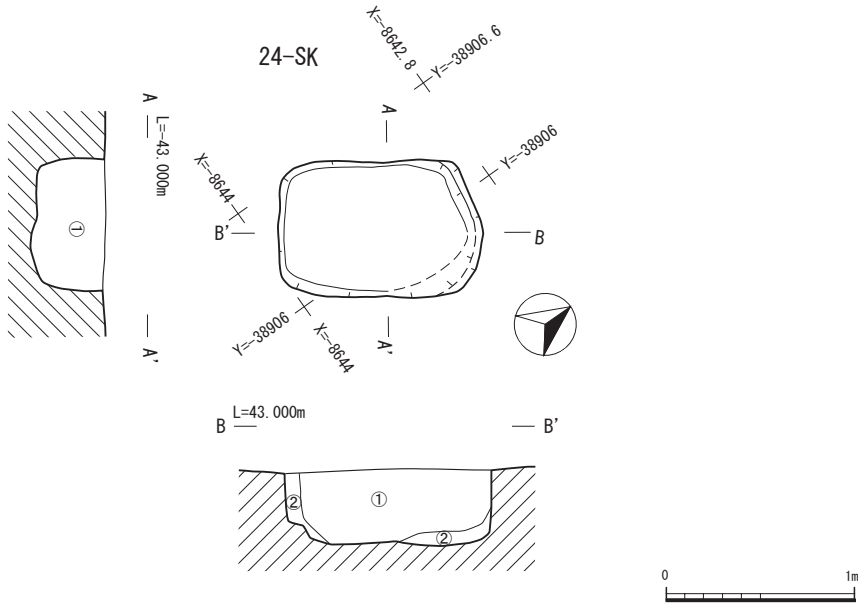
⑩ 褐色土 (7.5YR 4/6) 炭粒ごくわずか。
しまりやや強い。サラサラしている。

⑪ 褐色土 (7.5YR 4/6) 炭粒ごくわずか。
しまりある黄色土含む。

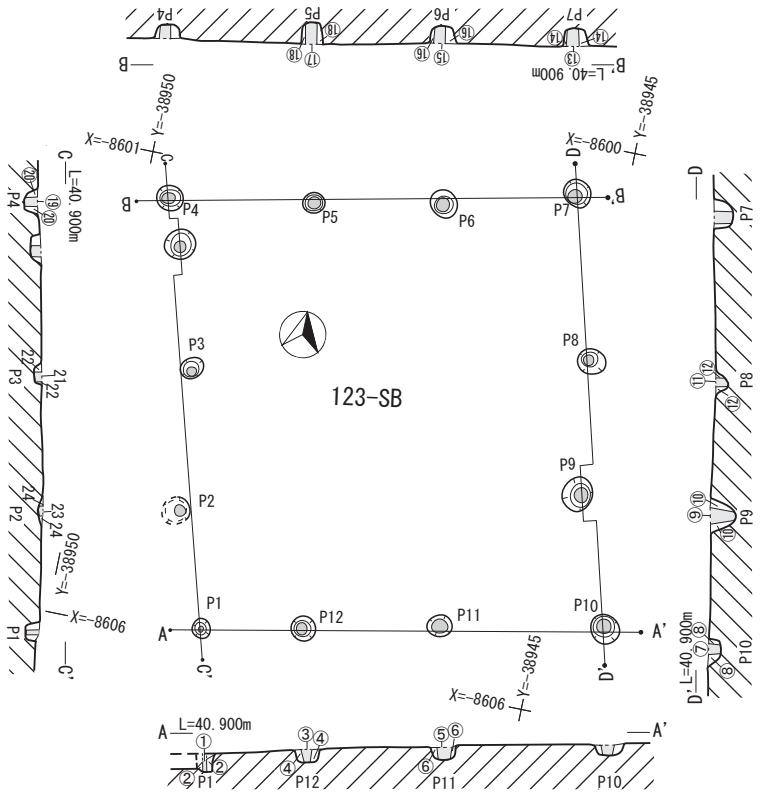
⑫ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 黄色粒、赤粒含む。
締まり屋や強い。サラサラしている。

⑬ 褐色土 (7.5YR 4/6) 炭粒わずか。しまり強い。

128-SB 平面・断面 (1/80)

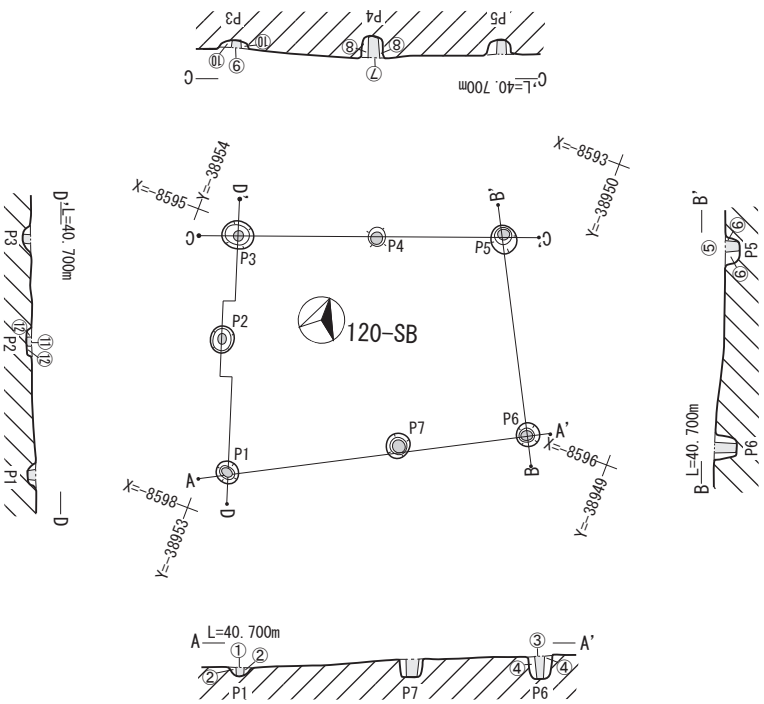


PI.55　A 区 128-SB (1/80)・24-SK(1/40) 平面・断面図



123-SB

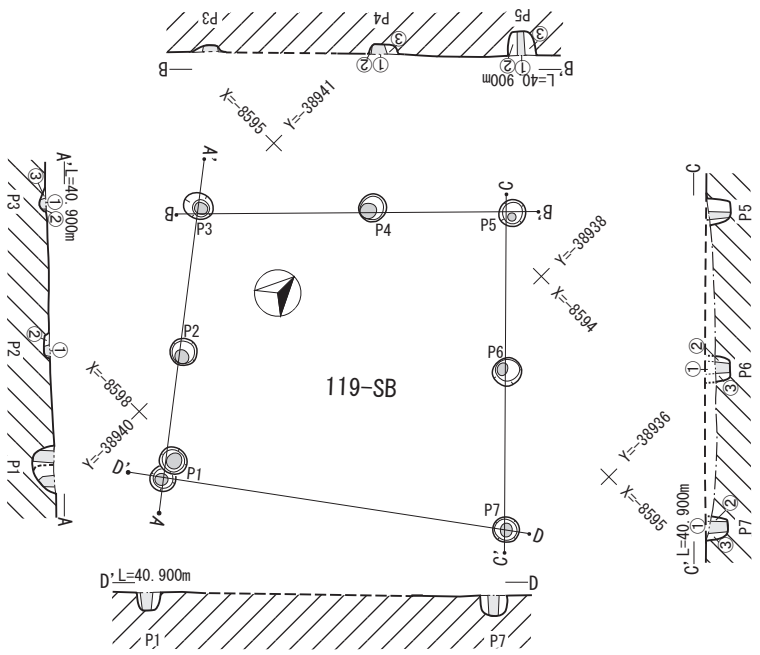
① 褐色土 (7.5YR 4/4) 白色粘土粒わずかに含む。しまりやや強い。
② 褐色土 (7.5YR 4/4) 黄色粒をごくわずかに含む。炭粒ごくわずか。しまり強い。
③ 褐色土 (7.5YR 4/4) 暗褐色粒、黄色粒ごくわずかに含む。しまり強い。
④ 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 炭粒ごくわずかに含む。しまり強い。
⑤ 褐色土 (7.5YR 4/4) 炭粒ごくわずかに含む。黄色粒ごくわずか。しまり強い。
⑥ 褐色土 (7.5YR 4/4) 炭粒ごくわずかに含む。しまり強い。
⑦ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 全体的に褐色ブロックを含む。赤色粒、炭粒、白粘土粒ごくわずかに含む。しまり強い。
⑧ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 褐色ブロックわずかに含む。黄粒、炭粒わずかに含む。しまりやや強い。
⑨ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 南側に褐色ブロックを含む。黄色粒、炭粒、白粘土粒をわずかに含む。しまり強い。
⑩ 褐色土 (7.5YR 4/6) 全体的に黄色粒を含む。白粘土ごくわずか。しまり強い。
⑪ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 黄色粒、炭粒ごくわずか含む。しまり強い。
⑫ 褐色土 (7.5YR 4/4) 外側に地山粒ブロックを含む。しまり強い。
⑬ 褐色土 (7.5YR 4/4) 全体的に褐色だが、掘り方より暗褐色土の割合が多い。しまりやや強い。
⑭ 褐色土 (7.5YR 4/6) 全体的に褐色土と暗褐色土が混じり合って、しまり強い。
⑮ 褐色土 (7.5YR 4/4) 黄色土を含む。しまり強い。
⑯ 褐色土 (7.5YR 4/4) 柱痕部より黄色土が多く、明るい。しまり強い。
⑰ 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 炭粒わずかに含む。黄色ブロックごくわずかに含む。しまり強い。
⑱ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 柱痕部より褐色土を多く含む。しまり強い。
⑲ 褐色土 (7.5YR 4/4) 白粘土がわずかに入っている為、明るく見える。しまり強い。
⑳ 褐色土 (7.5YR 4/6) 地山ブロックを多く含む。あまり色は変わらない。しまり強い。
㉑ 暗褐色土 (7.5YR 4/4) 白粘土、黄色ブロック、炭粒ごくわずかに含む。しまり強い。
㉒ 褐色土 (7.5YR 4/4) 全体的に地山ブロックを含む。明褐色粒ごくわずか。しまり強い。
㉓ 褐色土 (7.5YR 4/6) 赤色粒ごくわずかに含む。しまり強い。
㉔ 褐色土 (7.5YR 4/6) 炭粒、黄色ブロックをごくわずか含む。しまり弱い。



120-SB

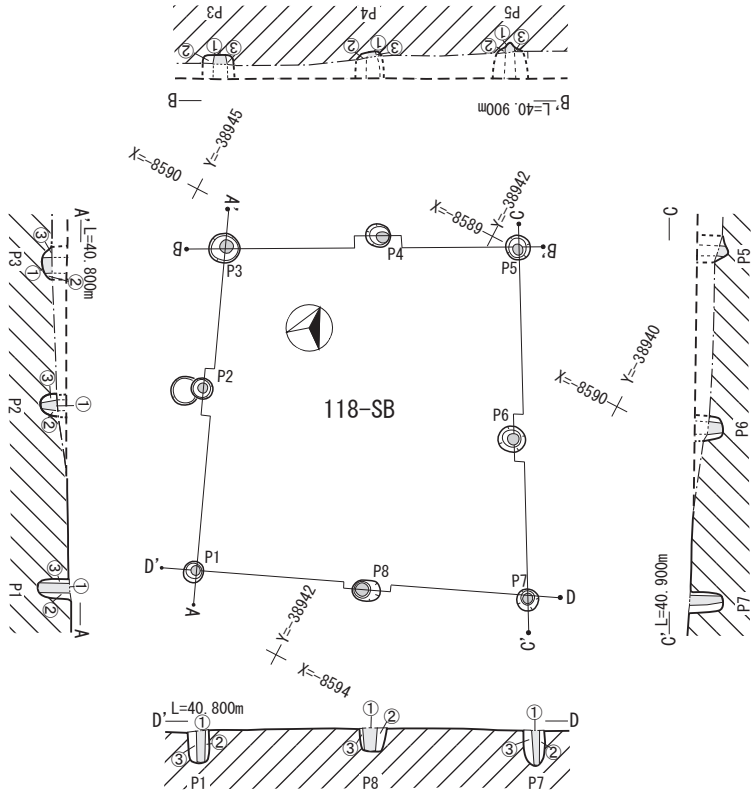
① 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 黒色、黄色粒含む。しまり強い。
② 暗褐色土 (7.5YR3/4) 地山粒を多く含む。しまり強い。
③ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 黄色粒含む。炭粒ごくわずか。しまりやや強い。
④ 褐色土 (7.5YR 4/4) 黄色粒を全体的に含む。し　り強い。
⑤ 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 黄色ブロックわずかに含む。炭粒ごくわずか含む。しまり弱い。
⑥ 褐色土 (7.5YR 4/4) 地山粒を含む。しまり強い。
⑦ 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 黄色ブロックわずかに含む。炭粒、中央に多く含む。しまりやや強い。
⑧ 褐色土 (7.5YR 4/4) 黄色ブロック全体的に含む。しまり強い。
⑨ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 黄褐色粒わずかに含む。炭粒ごくわずか含む。しまり強い。
⑩ 褐色土 (7.5YR 4/4) 全体的に地山粒を含む。炭粒ごくわずか含む。しまり強い。
⑪ 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 黄色粒ごくわずかに含む。しまり強い。
⑫ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 地山ブロック含む。しまりやや強い。

PI.56　A区 123-SB・120-SB 平面・断面図 (1/80)



119-SB

① 褐色土 (7.5YR 4/4) 全体的に黒褐色ブロック含む。しまりやや強い。
② 褐色土 (7.5YR 4/4) 黒褐色ブロックわずかに含む。しまり強い。
③ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭粒ごくわずか含む。しまり弱い。
④ 褐色土 (7.5YR 4/6) 炭粒、赤色粒ごくわずか含む。しまり強い。
⑤ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 黄粒、赤粒、炭粒ごくわずか。褐色ブロックわずかに含む。しまり強い。
⑥ 褐色土 (7.5YR 4/4) 黄粒わずかに含む。地山ブロック下部に含む。しまり強い。
⑦ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 黄粒、赤粒、炭粒ごくわずか。褐色ブロックわずかに含む。しまり強い。
⑧ 褐色土 (7.5YR 4/4) 黄粒わずかに含む。地山ブロック下部に含む。しまり強い。
⑨ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭粒、黄粒ごくわずか含む。しまり弱い。
⑩ 褐色土 (7.5YR 4/4) 炭粒、黄粒ごくわずかに含む。しまりやや強い。
⑪ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭粒、黄粒ごくわずかに含む。しまりやや強い。
⑫ 褐色土 (7.5YR 4/4) 炭粒ごくわずか。黄粒わずかに含む。しまり弱い。
⑬ 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 炭粒ごくわずかに含む。しまりやや強い。
⑭ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 炭粒ごくわずか含む。黄粒を含む、柱痕部より多い。しまりやや強い。
⑮ 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 褐色ブロックわずか含む。炭粒ごくわずか。しまり強い。
⑯ 褐色土 (7.5YR 4/6) 黒褐色ブロックわずかに含む。しまりやや強い。

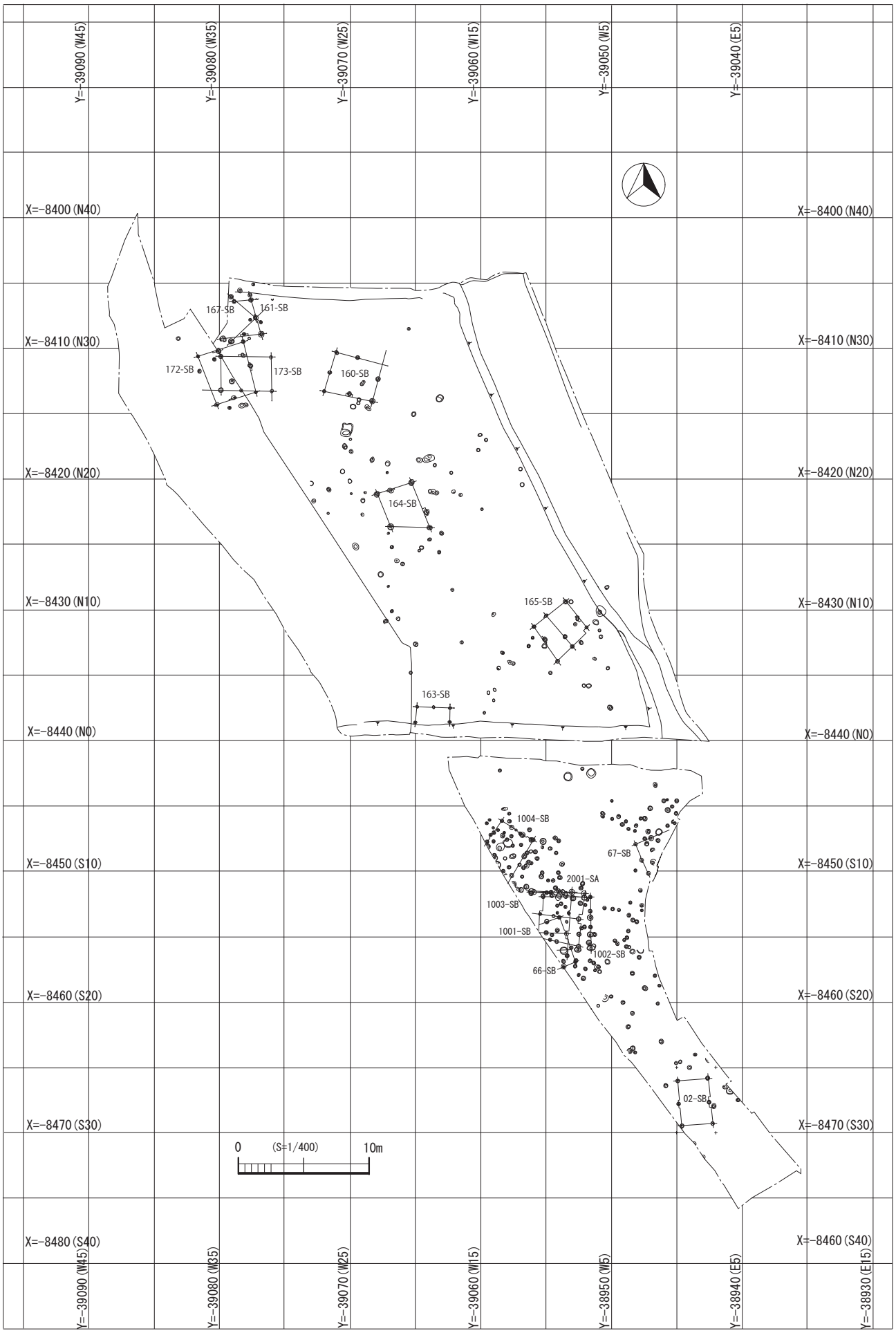


118-SB

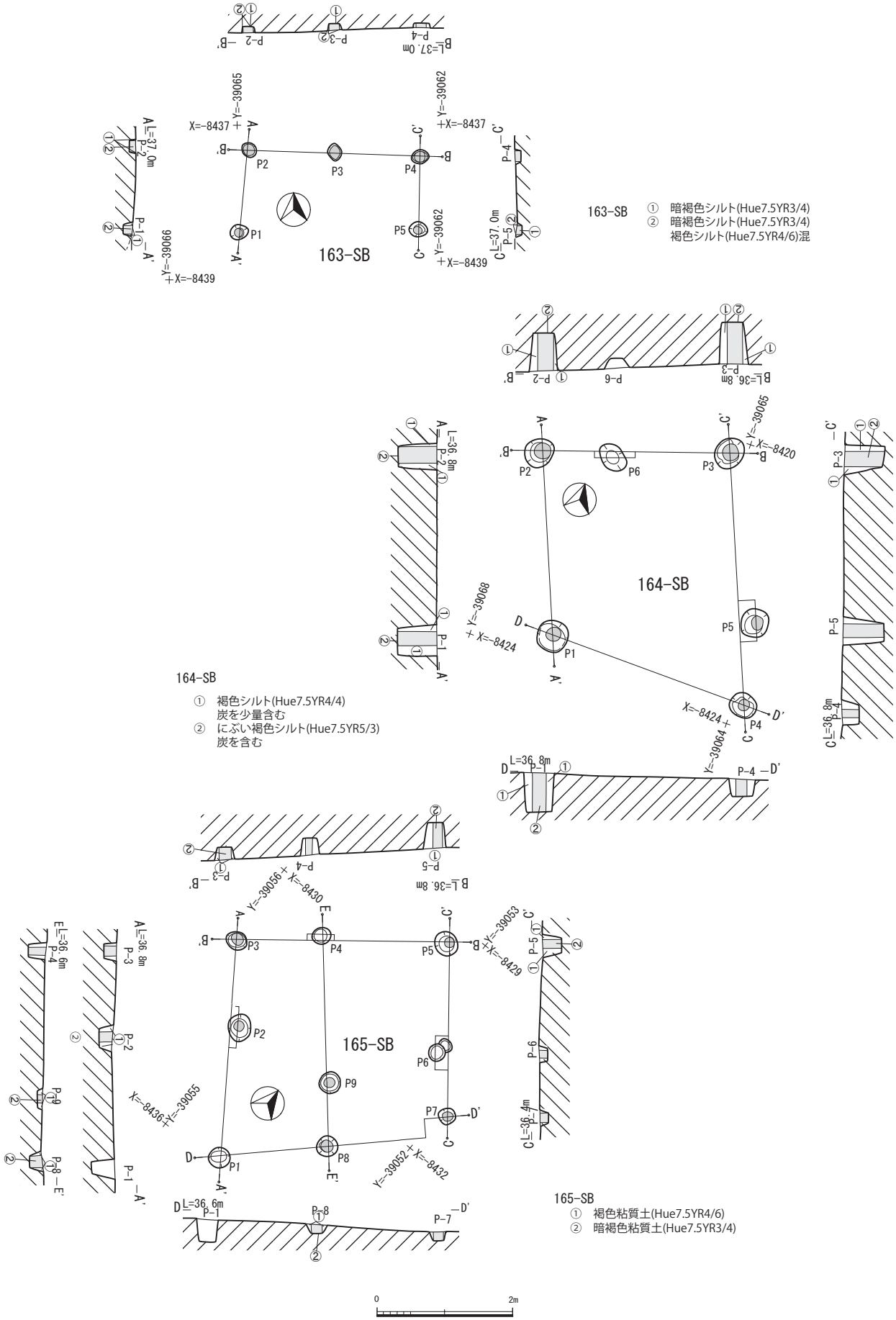
① 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 黄粒、北側に含む。炭粒ごくわずかに含む。しまり弱い。
② 褐色土 (7.5YR 4/6) 炭粒、赤粒、黄粒ごくわずかに含む。全体的に黄土含む。しまり強い。
③ 褐色土 (7.5YR 4/6)②よりも黄粒多く含む。

0 2m

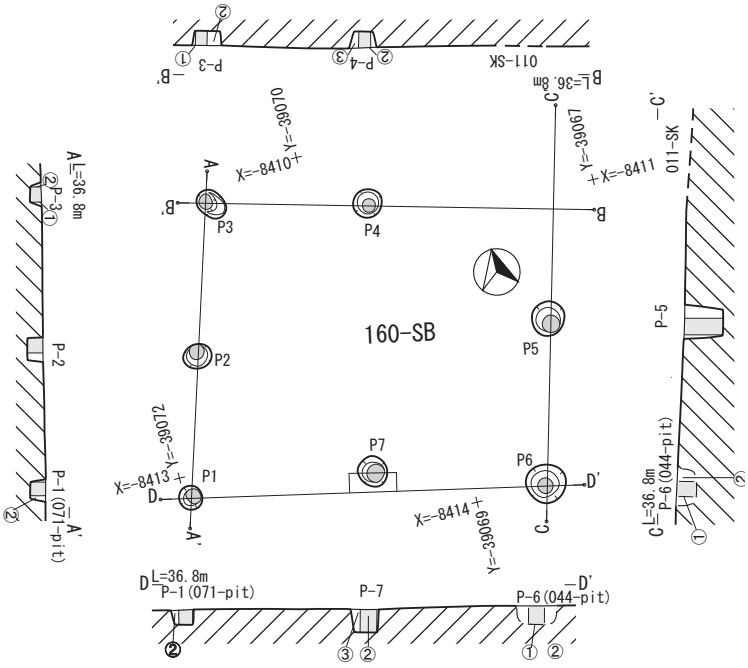
PI.57 A区 119-SB・118-SB 平面・断面図 (1/80)



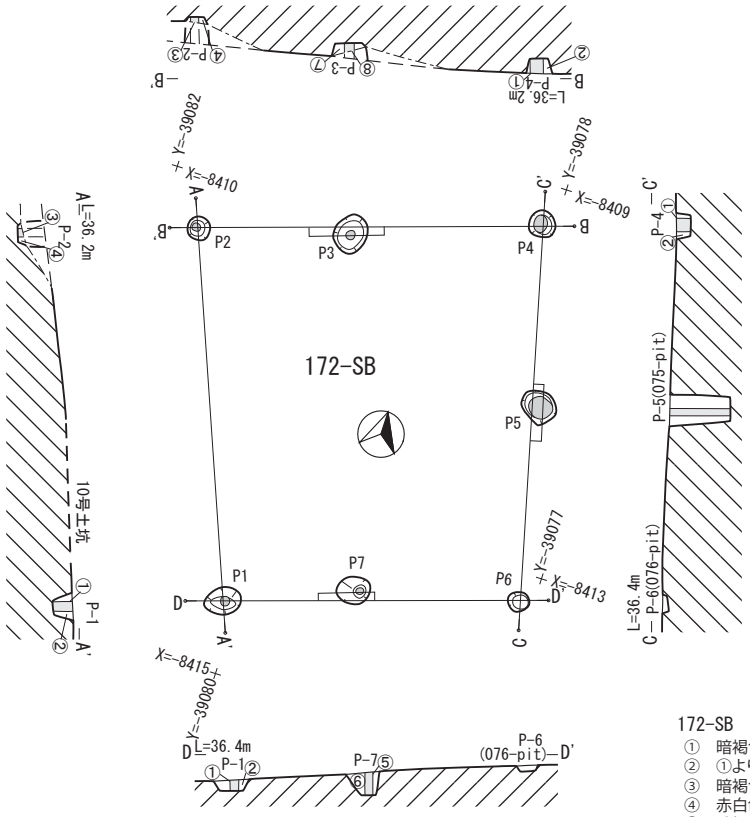
Pl.58　B区古代〜中世掘立柱建物配置図　(1/400)



PI.59 B1区 163-SB・164-SB・165-SB 平面・断面図 (1/80)



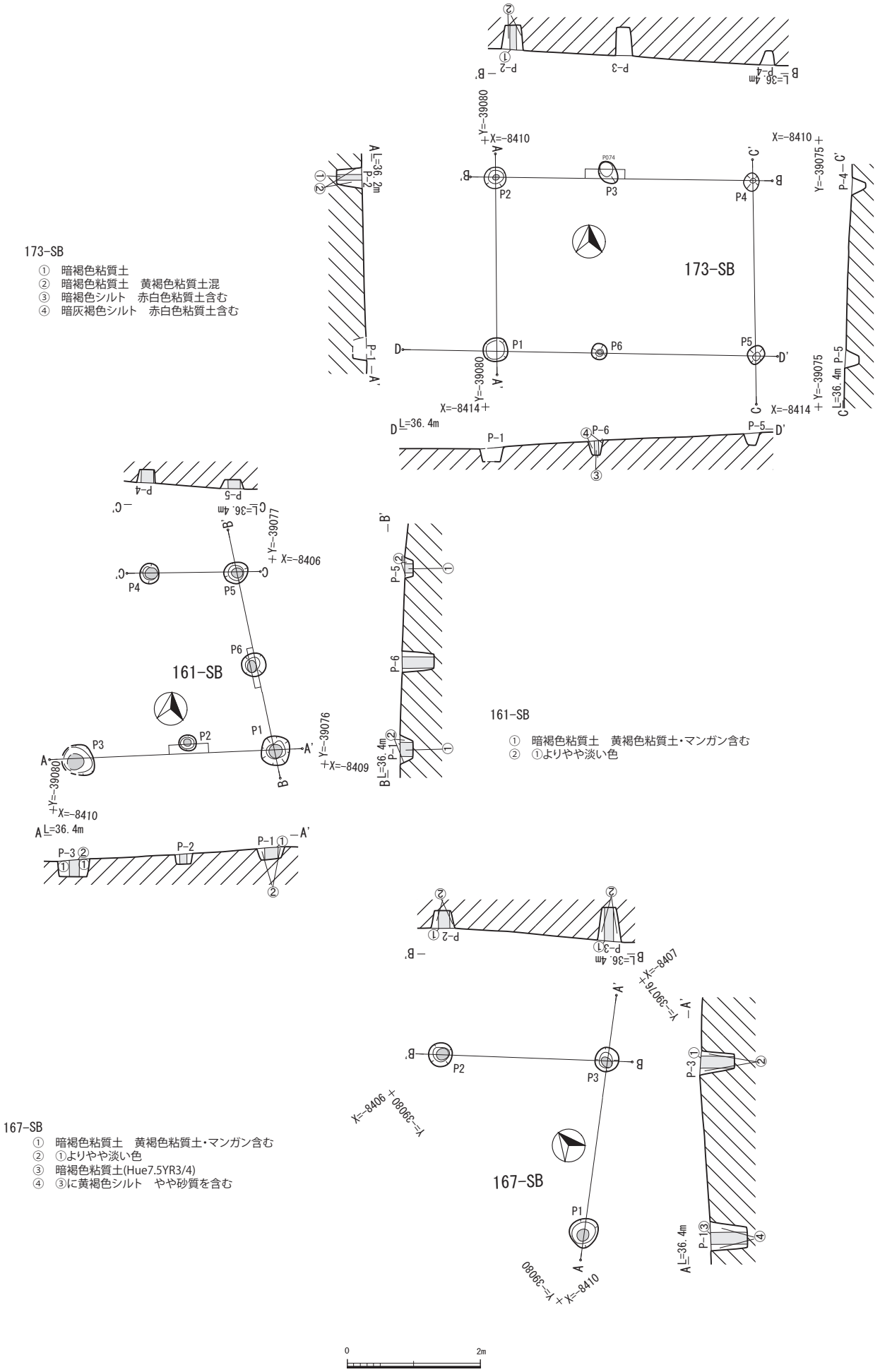
160-SB
① 褐色シルト(Hue7.5YR4/6)
② 暗褐色シルト(Hue7.5YR3/4)
③ 褐色シルト(Hue7.5YR4/4)



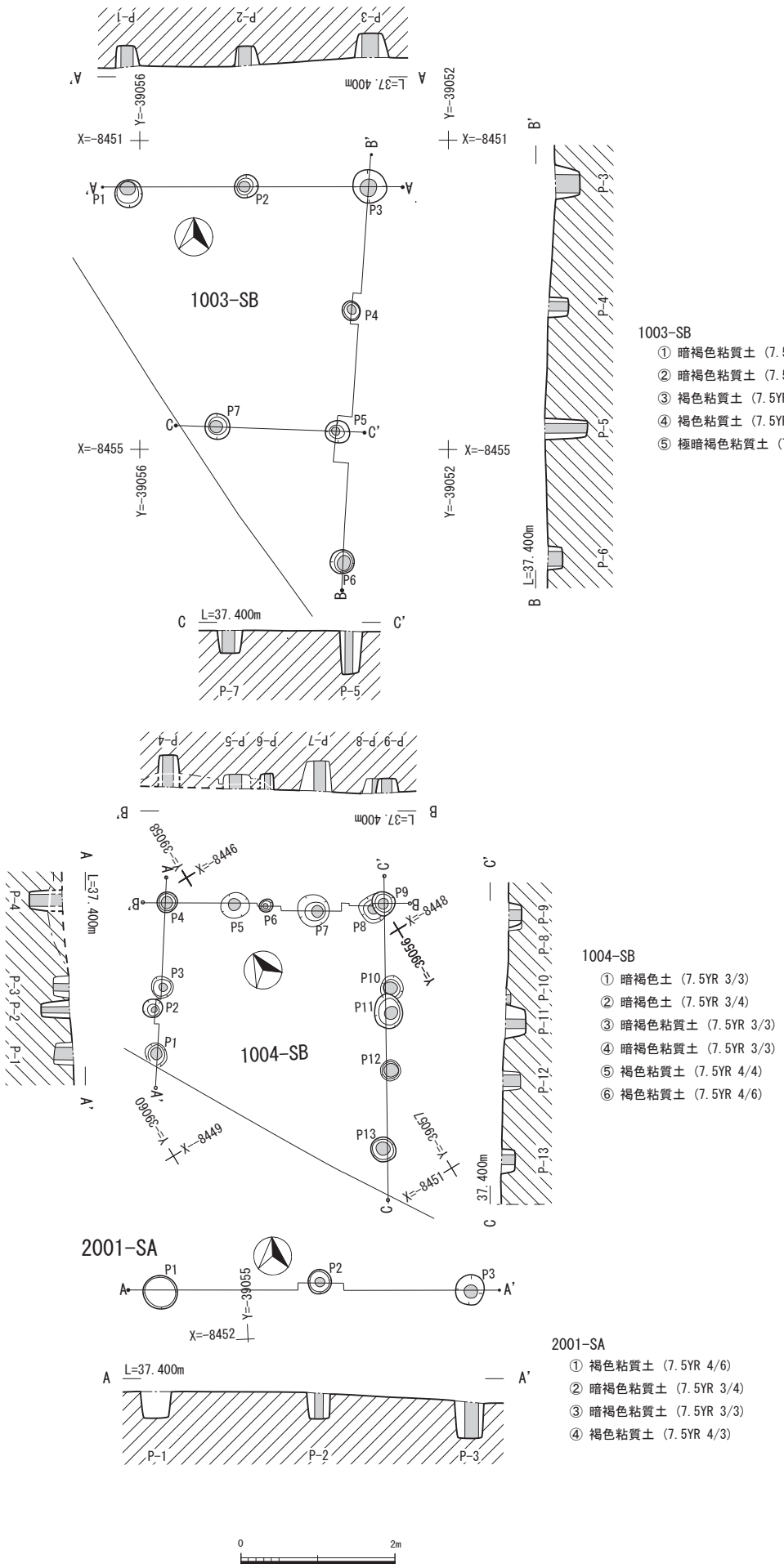
172-SB
① 暗褐色粘質土　黄褐色粘質土　マンガン含む
② ①よりやや淡い色
③ 暗褐色土
④ 赤白色粘質土混
⑤ 暗褐色シルト　赤白色粘質土含む
⑥ 暗灰褐色シルト　赤白色粘質土含む
⑦ 淡褐色粘質土　赤褐色粘質土混
⑧ 淡褐色粘質土

0　2m

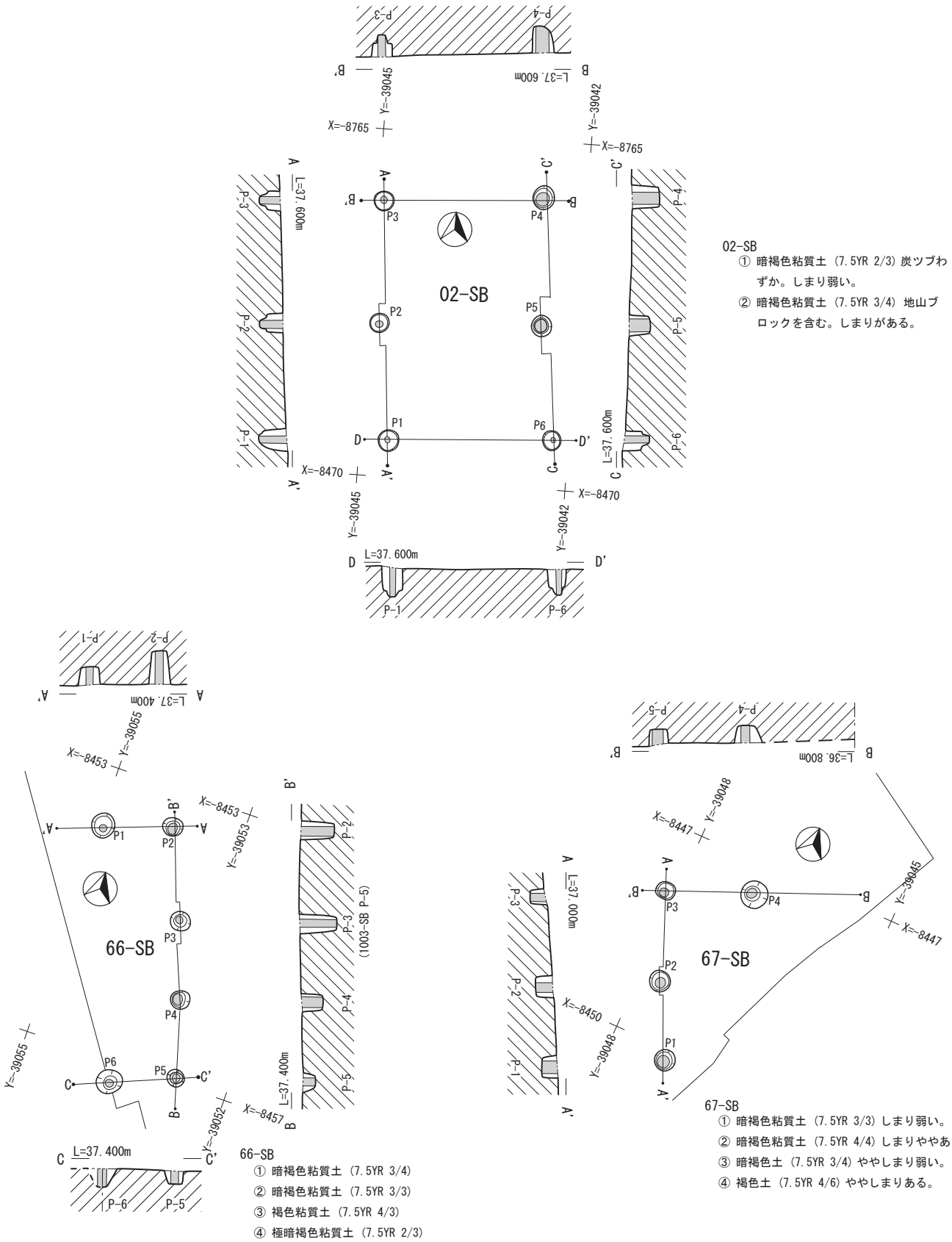
Pl.60　B1・B3 区 160-SB・172-SB 平面・断面図 (1/80)



Pl.61　B1・B3 区 173-SB・161-SB・167-SB 平面・断面図 (1/80)



PI.62　B2 区 1003-SB・1004-SB・2001-SA 平面・断面図 (1/80)



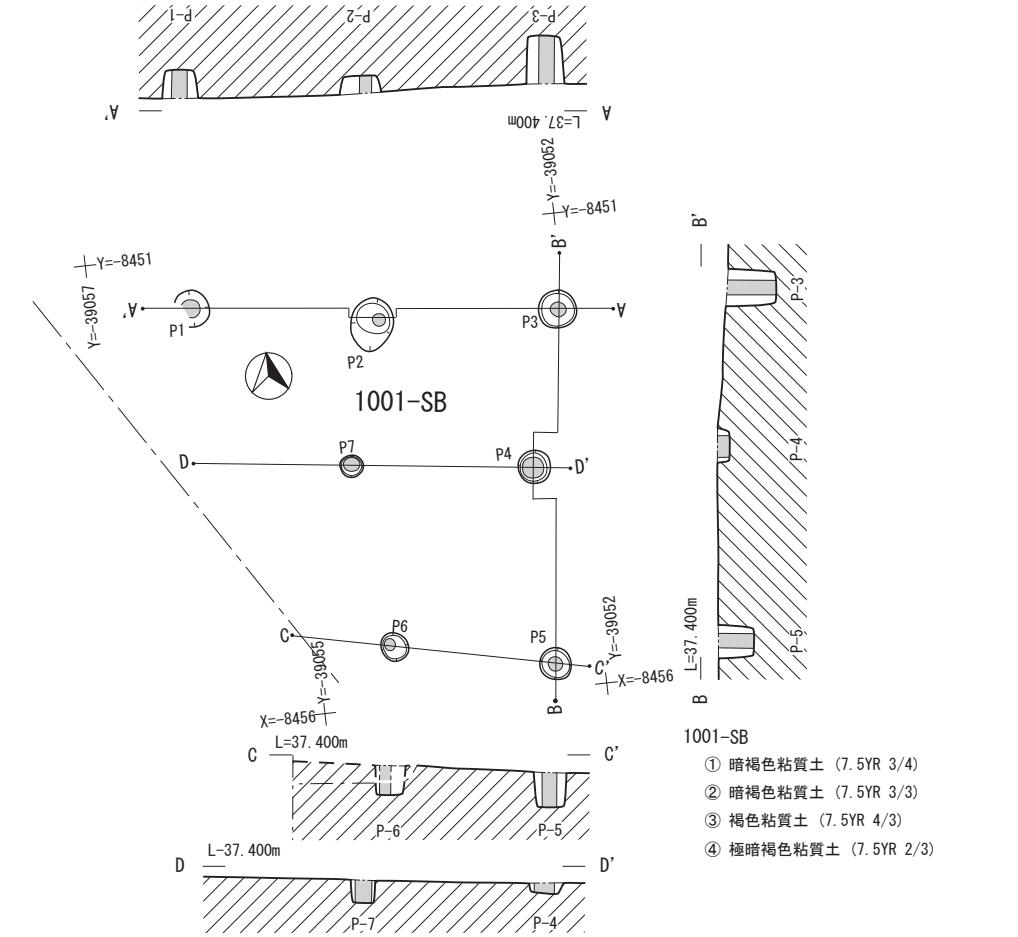
02-SB
① 暗褐色粘質土（7.5YR 2/3）炭ツブわずか。しまり弱い。
② 暗褐色粘質土（7.5YR 3/4）地山ブロックを含む。しまりがある。

67-SB
① 暗褐色粘質土（7.5YR 3/3）しまり弱い。
② 暗褐色粘質土（7.5YR 4/4）しまりややある。
③ 暗褐色土（7.5YR 3/4）ややしまり弱い。
④ 褐色土（7.5YR 4/6）ややしまりある。

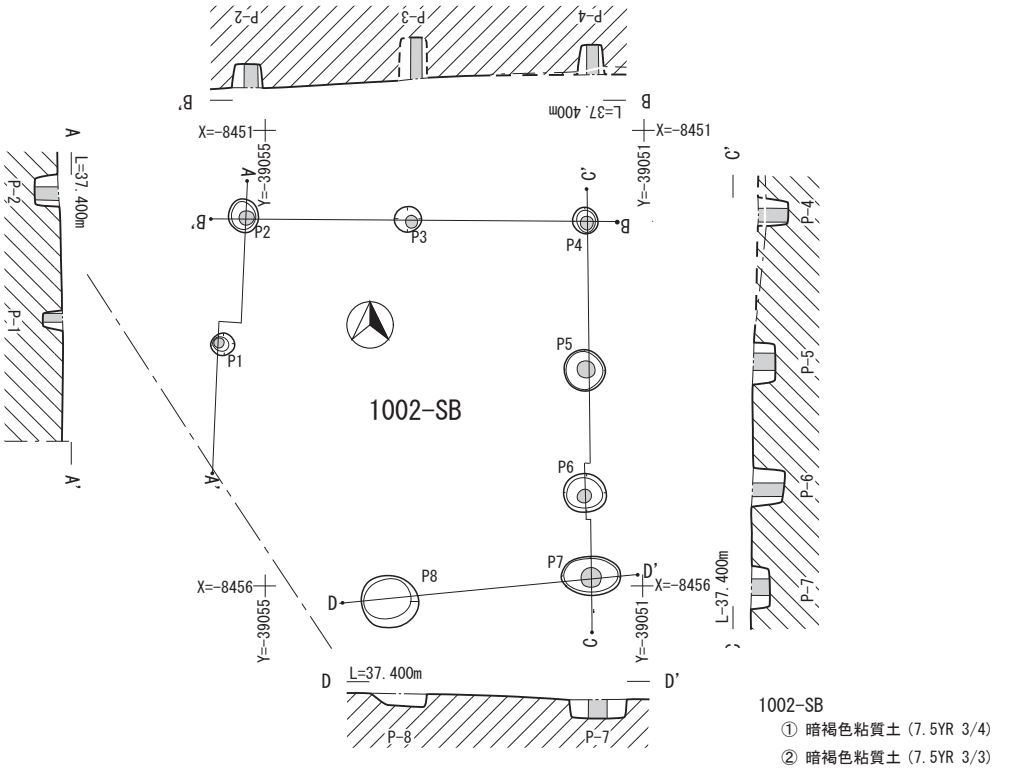
66-SB
① 暗褐色粘質土（7.5YR 3/4）
② 暗褐色粘質土（7.5YR 3/3）
③ 褐色粘質土（7.5YR 4/3）
④ 極暗褐色粘質土（7.5YR 2/3）

0　2m

Pl.63　B2 区 02-SB・66-SB・67-SB 平面・断面図（1/80）



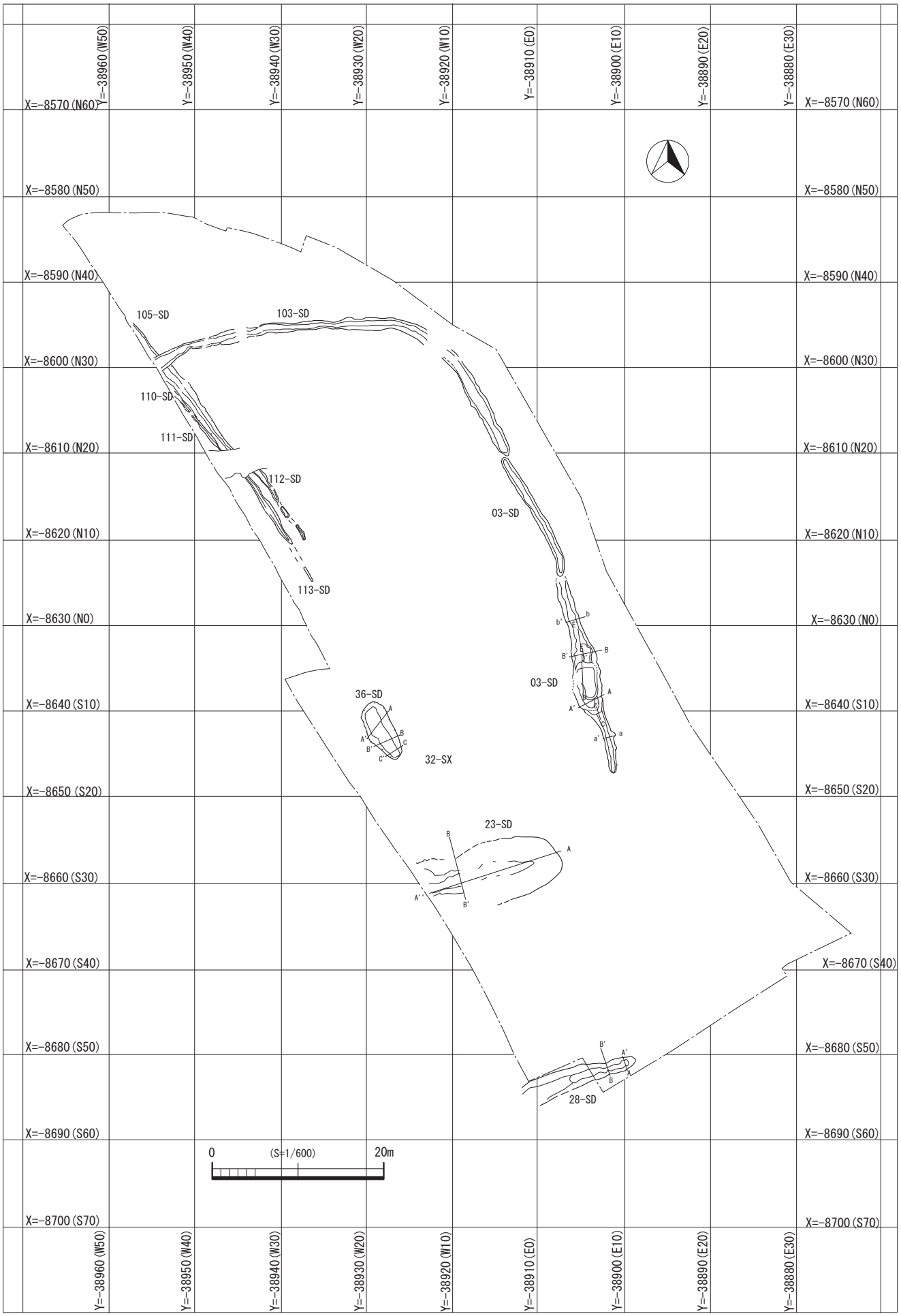
1001-SB
① 暗褐色粘質土 (7.5YR 3/4)
② 暗褐色粘質土 (7.5YR 3/3)
③ 褐色粘質土 (7.5YR 4/3)
④ 極暗褐色粘質土 (7.5YR 2/3)



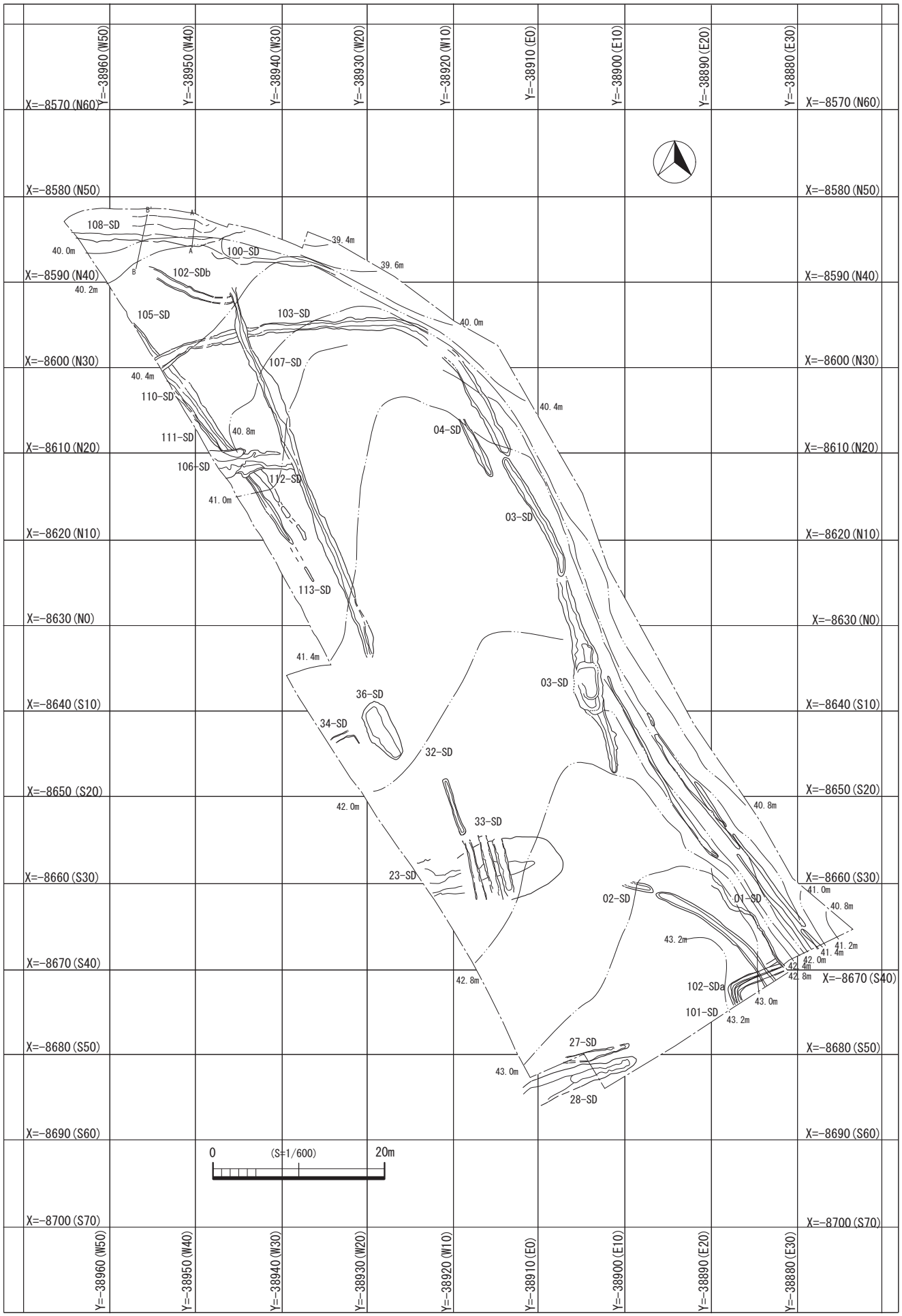
1002-SB
① 暗褐色粘質土 (7.5YR 3/4)
② 暗褐色粘質土 (7.5YR 3/3)
③ 暗赤褐色粘質土 (5YR 3/3)
④ 褐色粘質土 (7.5YR 4/3)
⑤ 褐色粘質土 (7.5YR 4/4)
⑥ 極暗褐色粘質土 (7.5YR 2/3)

0 2m

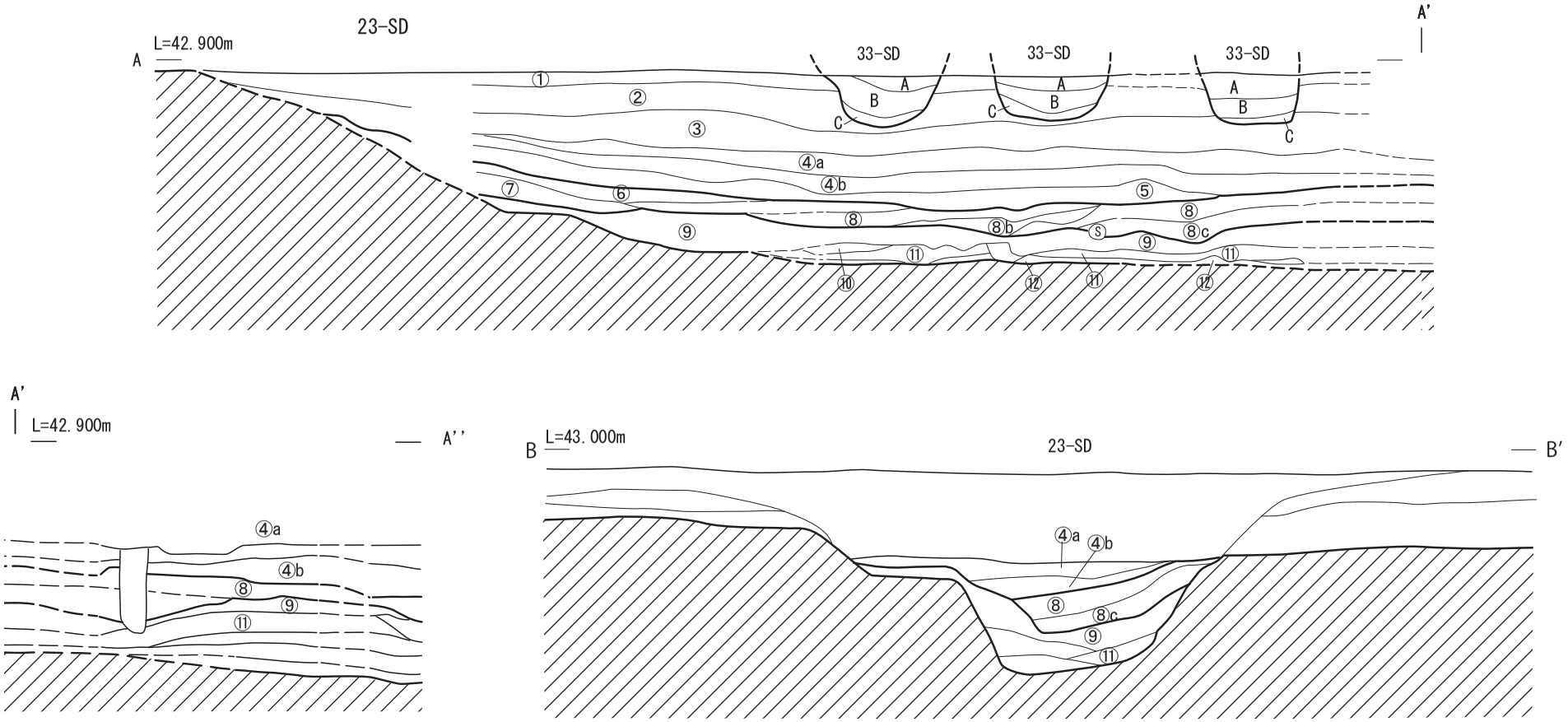
Pl.64 B2区 1001-SB・1002-SB 平面・断面図 (1/80)



Pl.65　A区中世後期溝配置図　(1/600)



Pl.66　近世以降溝＆等高線 (1/600)



23-SD

① 粘性があり中砂まじりの粗粒シルト (7.5YR4/3 褐色)
② ①より粘性が強く極粗砂混じりのやわらかい粗粒シルト (7.5YR4/4 褐色)
③ ②より粘性が強くやわらかいが、わずかに細礫混じりの黄色ロームが粒状に混じる粗粒シルト (7.5YR3/4 暗褐色)
④a ③より粘性が強く黄色の粒状ロームを多く包含する。細礫が若干混じるやわらかい粗粒シルト (7.5YR4/4 褐色)
④b ③より粘性が強くよくしまる。黄色の粒状ロームが若干混じる。わずかに中礫も混じるやわらかい中粒シルト (7.5YR3/4 暗褐色)
⑤ 4b より粘性が強いがしまりのないふわふわした微粒砂。明暗 2 つのタイプのロームが粒状に多く混じる (7.5YR4/6 褐色)
⑥ にぶい黄褐色。ブロック状にしまりのあるロームかニガ土を多く含む。ロームの粒子状の土を多く含む (10YR5/4)
⑦ ⑥と同様にブロック状にロームを多く含む、しまりのない土である (10YR4/4)
⑧ ロームの流れ出た土のようである。キメの細かな土で、ややしまる。(5YR6/6 橙色粘質土)
⑨ アソ 4 の土が崩壊したような土である。溝の最下面がアソ 4 に達しているため、その土が流出したようである。(5YR7/6 橙色粘質土)
⑧b キメは細かいが、しまりのない土。ロームをブロックで含む (10YR3/2 暗褐色)
⑧c キメの細かい土ではあるが、しまりはない。層中に凝灰岩を含む (10YR5/3 にぶい黄褐色) 8c 下層 8c 層よりややしまる。
⑨ 小石を多く、まんべんなく含む。ローム粒子が多く混ざり黄味がかる (10YR4/3 にぶい黄褐色)
⑩ レンズ状に堆積しており、横への広がりはない (10YR4/4 褐色土)
⑪ ロームブロックを含む (10YR3/3 暗褐色土)
⑫ 他の土の混入は見られない。堆積土である (10YR3/4 褐色土)

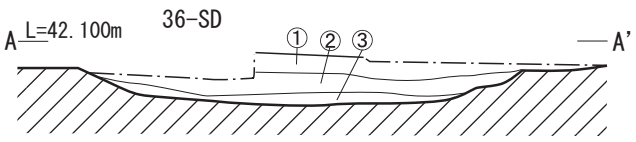
所見 ⑤より下層は、細かな土が入り乱れており、上層に比べ人的な作用による埋没があったのかもしれない。(ロームの乱土が多く見受けられる)
⑤より上層では、下層と比べると埋まる過程がおだやかで、ほぼ水平な堆積となっている。
遺構からの出土遺物は少なく、細片のため時期判定は難しい。

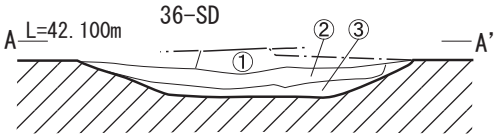
33-SD

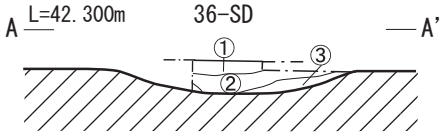
A 層 褐色粘土 (7.5YR4/4)
B 層 明褐色粘土。グレー色のシミがぼんやりと入る (7.5YR5/6)
C 層 褐色微粒シルト (7.5YR4/4)

0 2m

Pl.67 A 区中世後期〜近世溝 23・33-SD 断面図 (1/60)







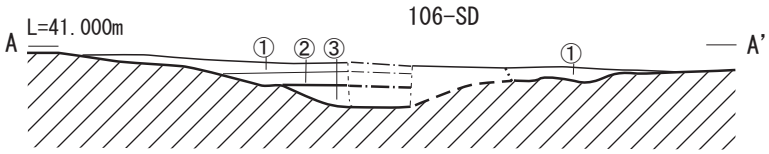
36-SD

① にぶい黄褐色土 (10YR 4/3) ローム粒を層の中に多く含む
キメの細かな土であり、しまっている。

② 暗褐色土 (10YR 3/3) 黒色土とローム粒を、層中にまんべんなく含む。

③ にぶい黄褐色土 (10YR 5/4) ローム直上の為、黄色味がかった土色になっているが土質は②層とほぼ同じ。

所見　いずれの層も、同じ質の上の流入による物と思われる。

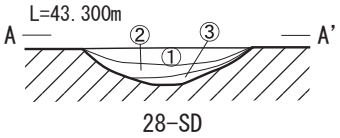


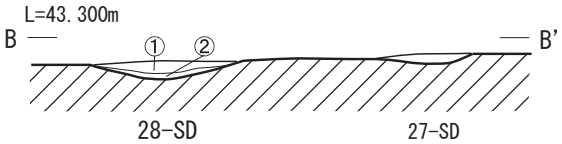
106-SD

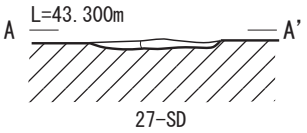
① 灰褐色シルト (礫、茶褐色粒を多く含む)

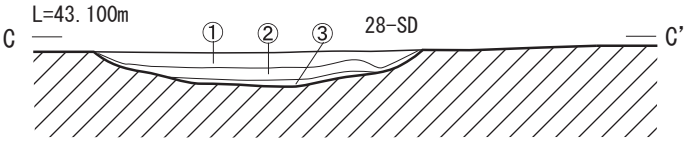
② 暗黄褐色ロームブロック混　灰褐色シルト

③ 暗黄褐色ロームブロック混　暗灰褐色シルト









28-SD

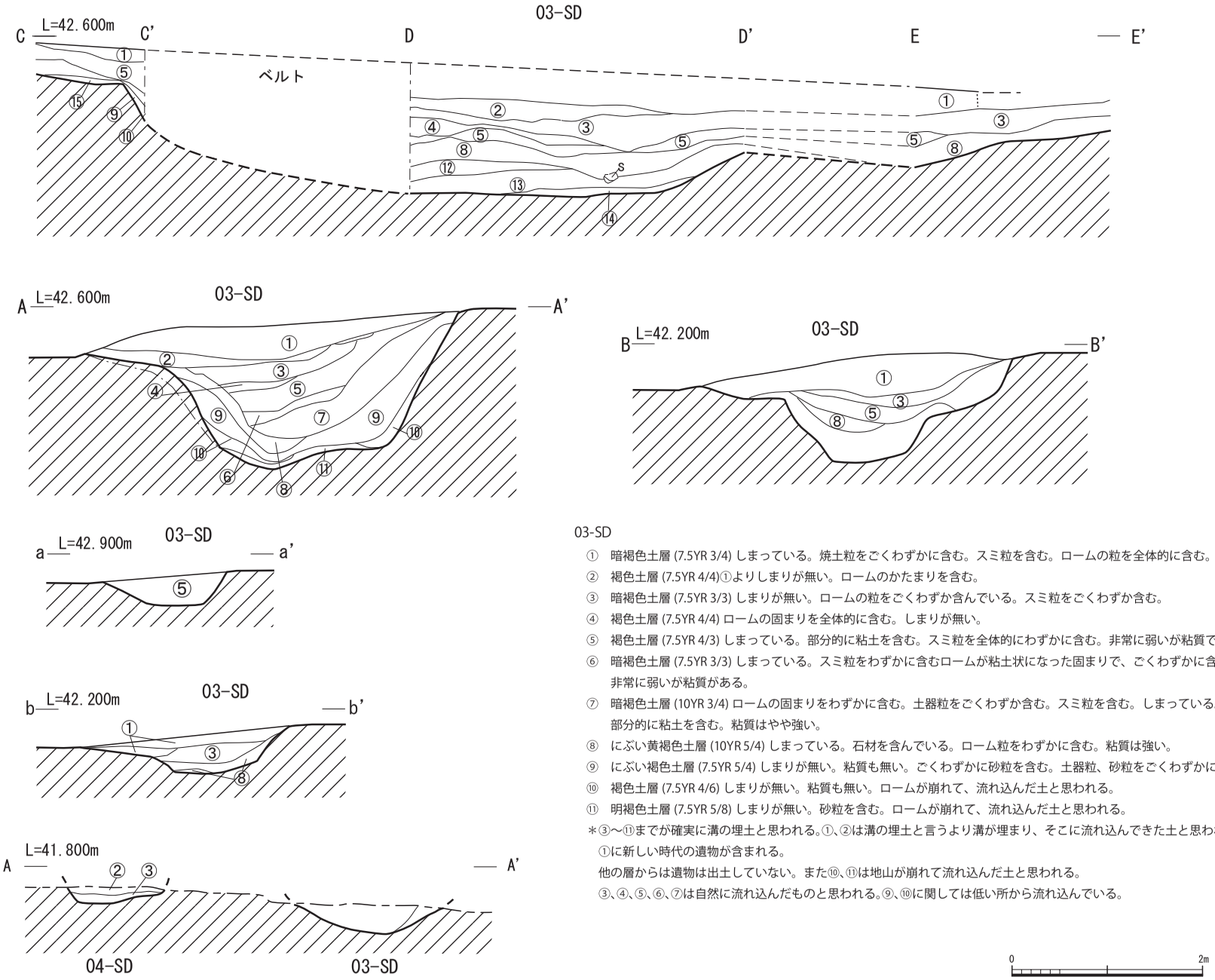
① にぶい黄褐色土 (10YR 5/3) 土中に砂粒を多く含み硬くしまる。キメの細かな土がベースになっており流入後硬くしまったようである。ほぼ均一に推積が見られる。

② 褐色（10YR 4/4)①と比べて砂粒の混入が少ない分ややしまりがない。
キメの細かな 土であり均一な推積がみられる。

③ 暗褐色土（10YR 3/3) キメの細かな土である。流れ込みによる推積のようである。
焼土粒をわずかに含む。

所見 いずれの土も①キメが細かい②均一な推積であるため自然推積により埋まったものと思われる。遺物は少なく時期は未定。③下に焼土を多く含む土壙が存在する。

Pl.68　A 区中世後期〜近世溝 36・28・27-SD 断面図　(1/60)



03-SD

① 暗褐色土層 (7.5YR 3/4) しまっている。焼土粒をごくわずかに含む。スミ粒を含む。ロームの粒を全体的に含む。

② 褐色土層 (7.5YR 4/4)①よりしまりが無い。ロームのかたまりを含む。

③ 暗褐色土層 (7.5YR 3/3) しまりが無い。ロームの粒をごくわずか含んでいる。スミ粒をごくわずか含む。

④ 褐色土層 (7.5YR 4/4) ロームの固まりを全体的に含む。しまりが無い。

⑤ 褐色土層 (7.5YR 4/3) しまっている。部分的に粘土を含む。スミ粒を全体的にわずかに含む。非常に弱いが粘質である。

⑥ 暗褐色土層 (7.5YR 3/3) しまっている。スミ粒をわずかに含むロームが粘土状になった固まりで、ごくわずかに含む。非常に弱いが粘質がある。

⑦ 暗褐色土層 (10YR 3/4) ロームの固まりをわずかに含む。土器粒をごくわずか含む。スミ粒を含む。しまっている。部分的に粘土を含む。粘質はやや強い。

⑧ にぶい黄褐色土層 (10YR 5/4) しまっている。石材を含んでいる。ローム粒をわずかに含む。粘質は強い。

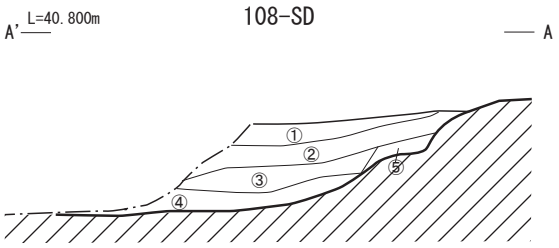
⑨ にぶい褐色土層 (7.5YR 5/4) しまりが無い。粘質も無い。ごくわずかに砂粒を含む。土器粒、砂粒をごくわずかに含む。

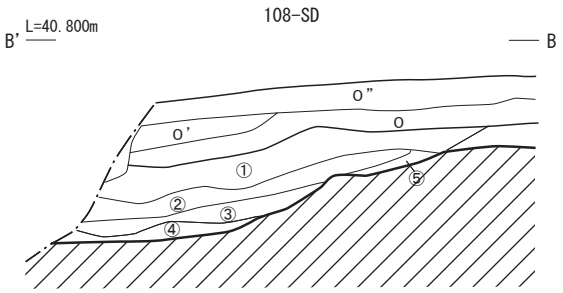
⑩ 褐色土層 (7.5YR 4/6) しまりが無い。粘質も無い。ロームが崩れて、流れ込んだ土と思われる。

⑪ 明褐色土層 (7.5YR 5/8) しまりが無い。砂粒を含む。ロームが崩れて、流れ込んだ土と思われる。

＊③～⑪までが確実に溝の埋土と思われる。①、②は溝の埋土と言うより溝が埋まり、そこに流れ込んできた土と思われる。
①に新しい時代の遺物が含まれる。
他の層からは遺物は出土していない。また⑩、⑪は地山が崩れて流れ込んだ土と思われる。
③、④、⑤、⑥、⑦は自然に流れ込んだものと思われる。⑨、⑩に関しては低い所から流れ込んでいる。

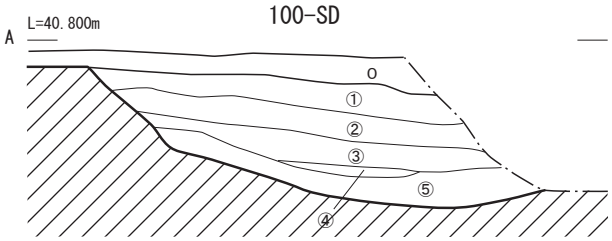
Pl.69　A区中世後期～近世溝 03・04-SD 断面図 (1/60)





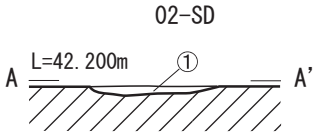
108-SD

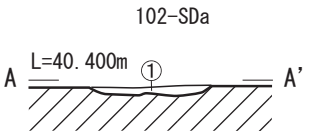
0　にぶい橙色シルト (7.5YR 7/4)100-SD 0 と同層。
①　(5YR 4/2) 灰褐色シルト①～②の礫、スミ混。
②　(5YR 4/3) にぶい赤褐色。やや明るい。赤色粒、スミ混。
③　(7.5YR 4/4) 褐色シルト。やや灰色。茶褐色ブロック、赤色粒が混じる。
④　(7.5YR 4/3) 褐色シルト。ロームブロック混。
⑤　(5YR 5/6) 明赤褐色粘質で明茶褐色ブロック混。

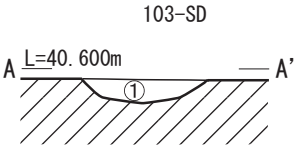


100-SD

0　にぶい橙色シルト (7.5YR 7/4) 橙色粒混。灰褐色シルト。
①　にぶい橙色シルト (7.5YR 6/4) 赤色粒混。
②　にぶい橙色シルト (7.5YR 7/4) 赤色粒混。
③　(7.5YR 5/3) にぶい褐色シルト。橙色粒混。
④　(7.5YR 6/8) 橙色シルト。やや灰色混。
⑤　(7.5YR 5/6) 明褐色粘質土 (5/6)④よりやや暗い。

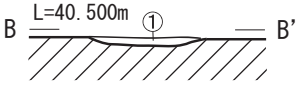


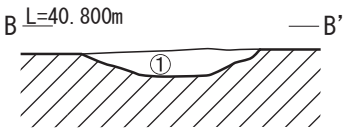




02-SD

①　褐色土層 (10YR 4/4) 焼土粒を含む。
　　しまりが無い . 小礫を、わずかに含む。

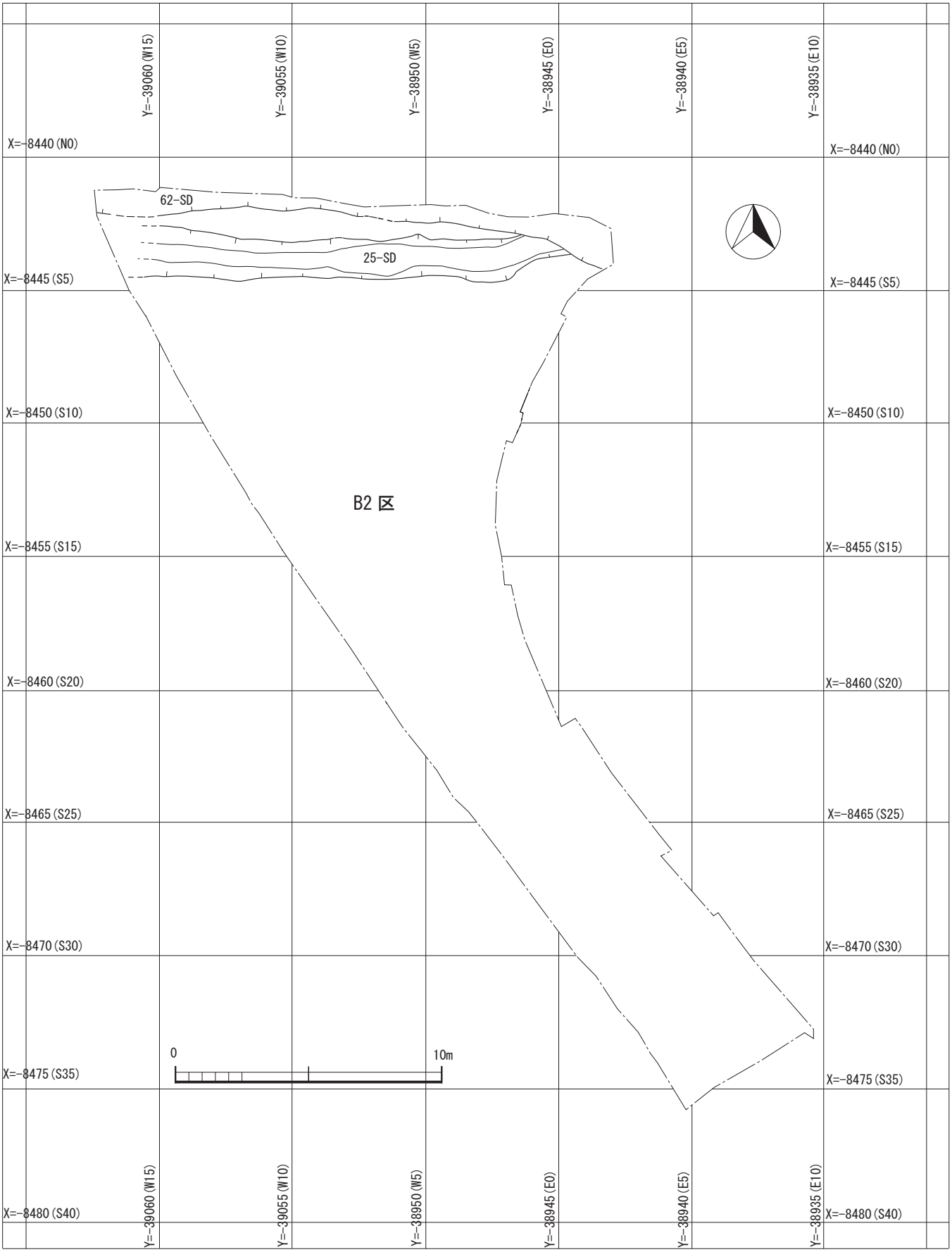




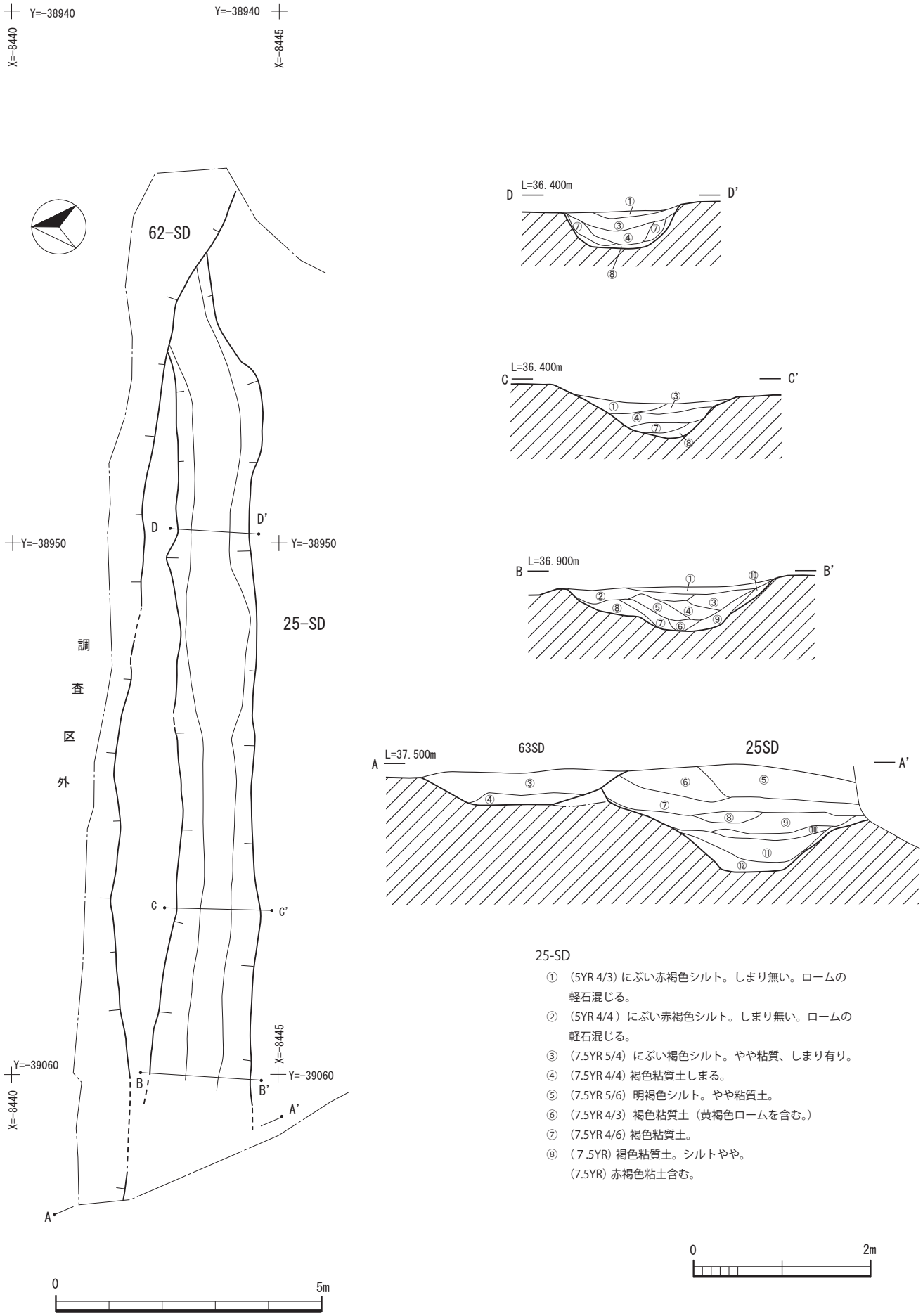
103-SD

①　褐色粘質土 (7.5YR 4/3) ややシルト。

Pl.70　A 区近世以降溝 100・108・106・02・102a・103-SD 断面図 (1/60)



Pl.71　B2 区近世以降溝遺構図 (1/200)



25-SD

① (5YR 4/3) にぶい赤褐色シルト。しまり無い。ロームの軽石混じる。

② (5YR 4/4) にぶい赤褐色シルト。しまり無い。ロームの軽石混じる。

③ (7.5YR 5/4) にぶい褐色シルト。やや粘質、しまり有り。

④ (7.5YR 4/4) 褐色粘質土しまる。

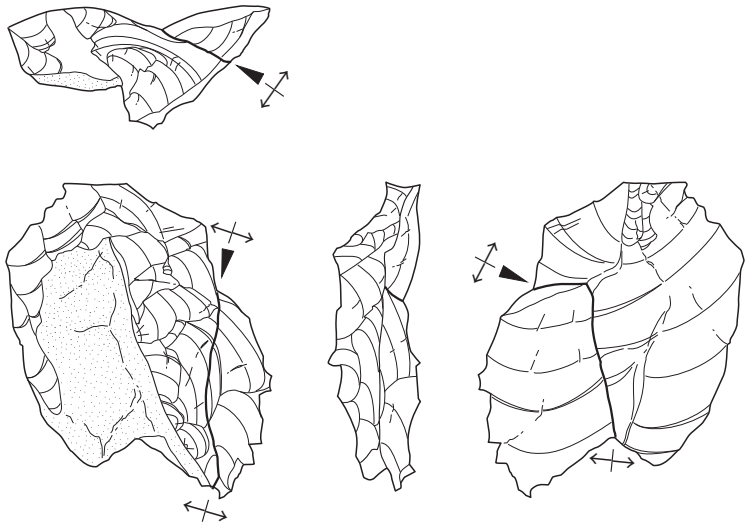
⑤ (7.5YR 5/6) 明褐色シルト。やや粘質土。

⑥ (7.5YR 4/3) 褐色粘質土（黄褐色ロームを含む。）

⑦ (7.5YR 4/6) 褐色粘質土。

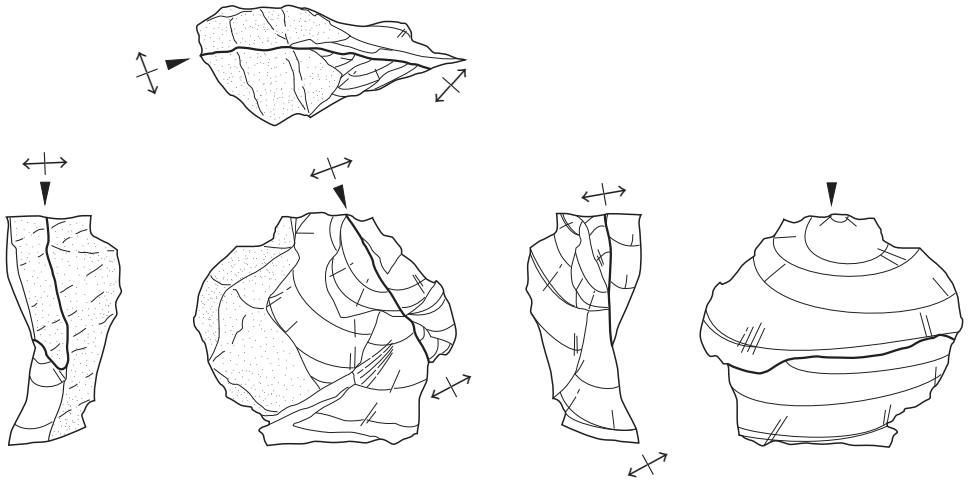
⑧ (7 .5YR) 褐色粘質土。シルトやや。
(7.5YR) 赤褐色粘土含む。

PI.72　B2 区近世溝 25-SD 平面図 (1/100) 断面図 (1/60)



1

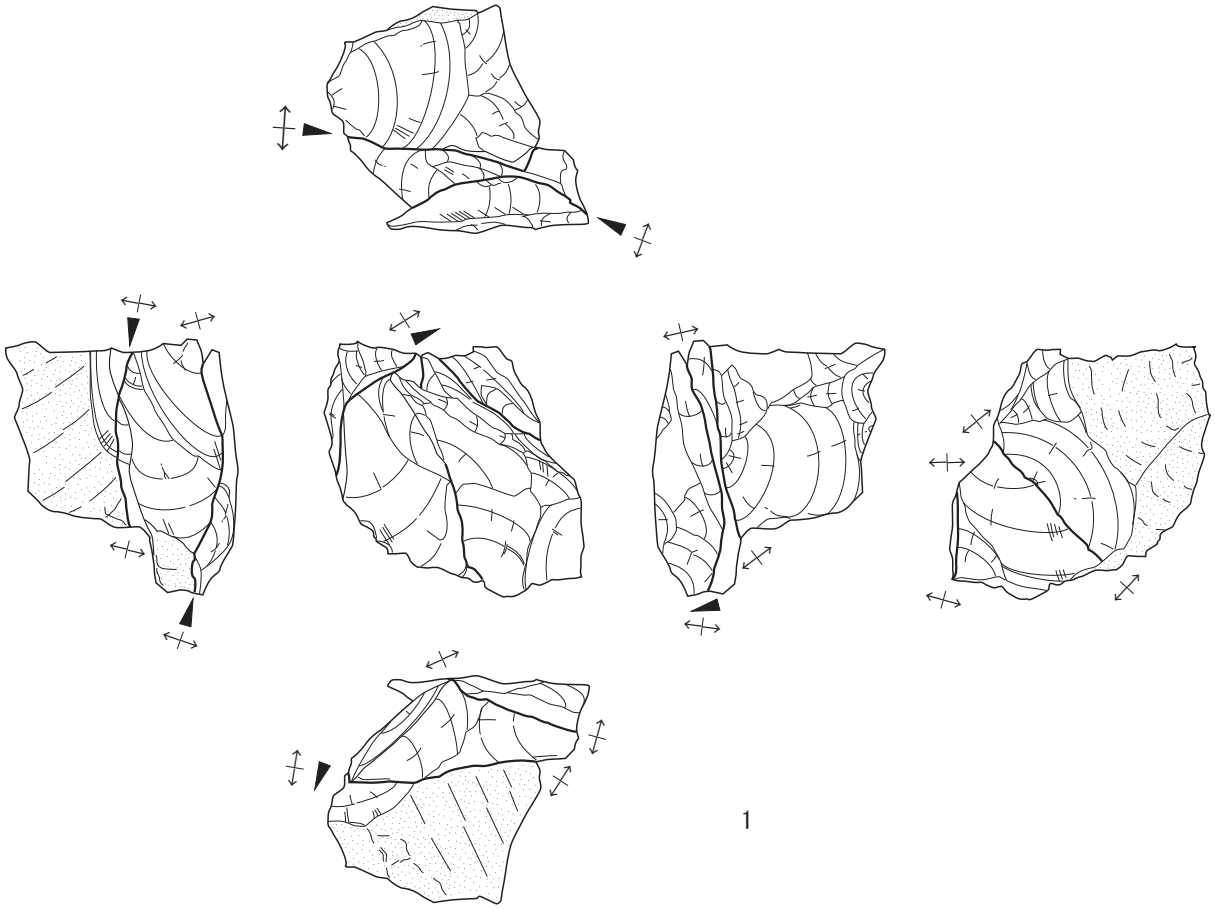
▼ 打撃方向を示す



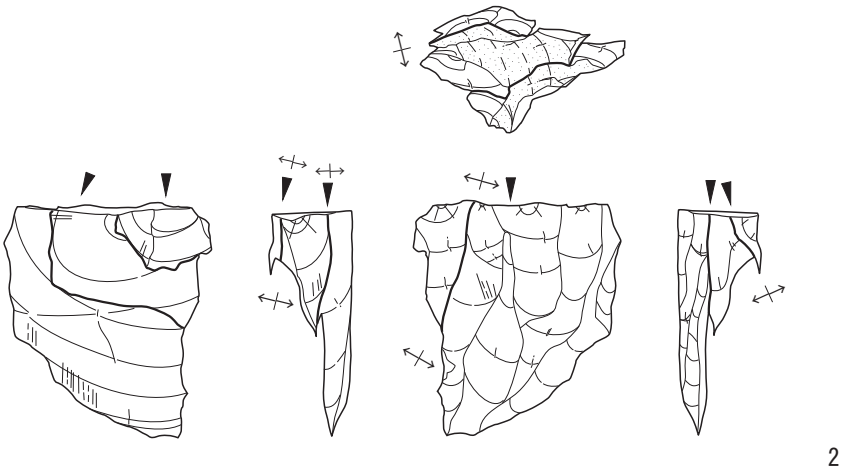
2

0 (S=1/1) 5cm

Pl.73 A区 08-SK出土黒曜石接合資料（1/1）

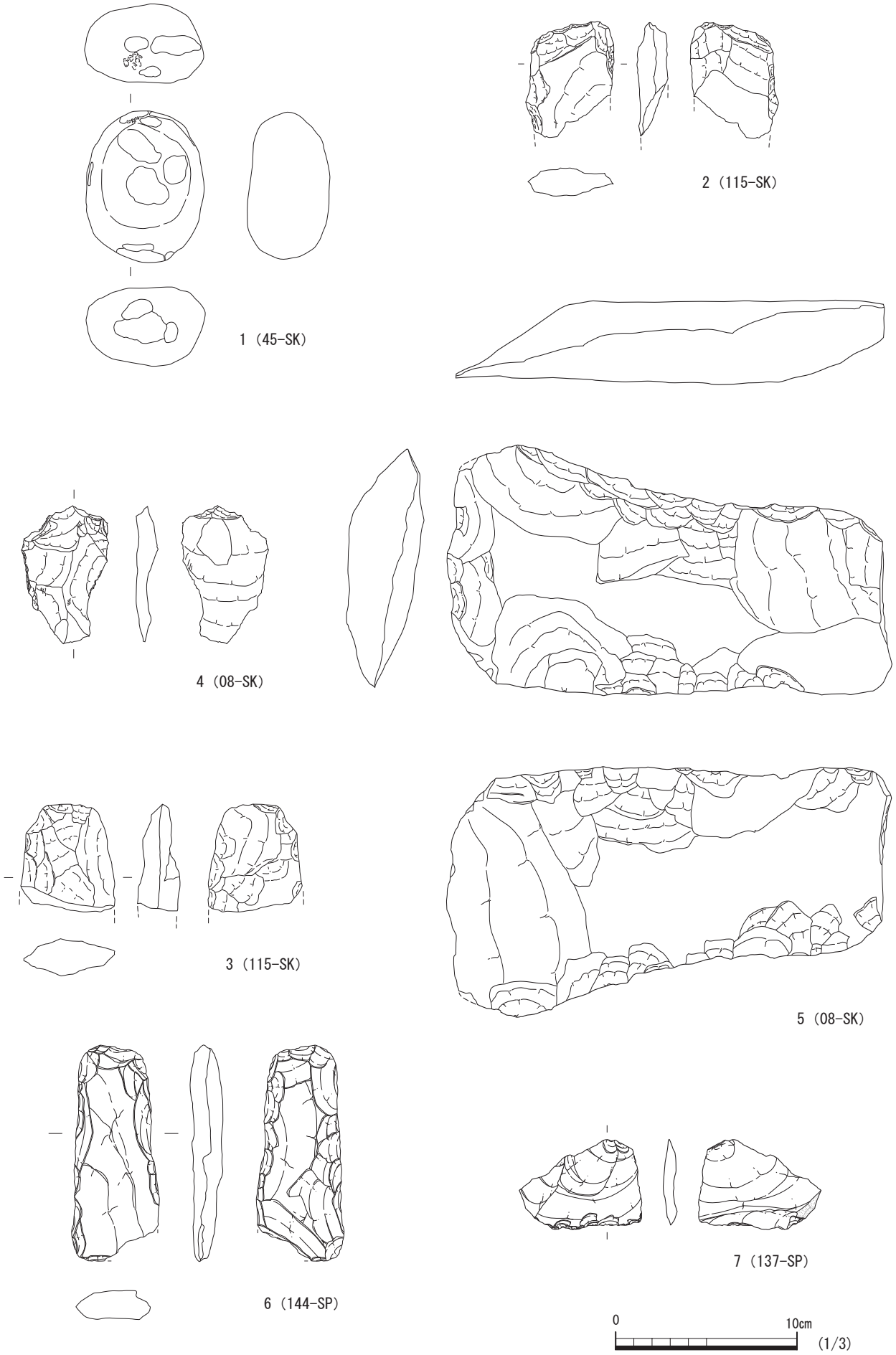


▼ 打撃方向を示す

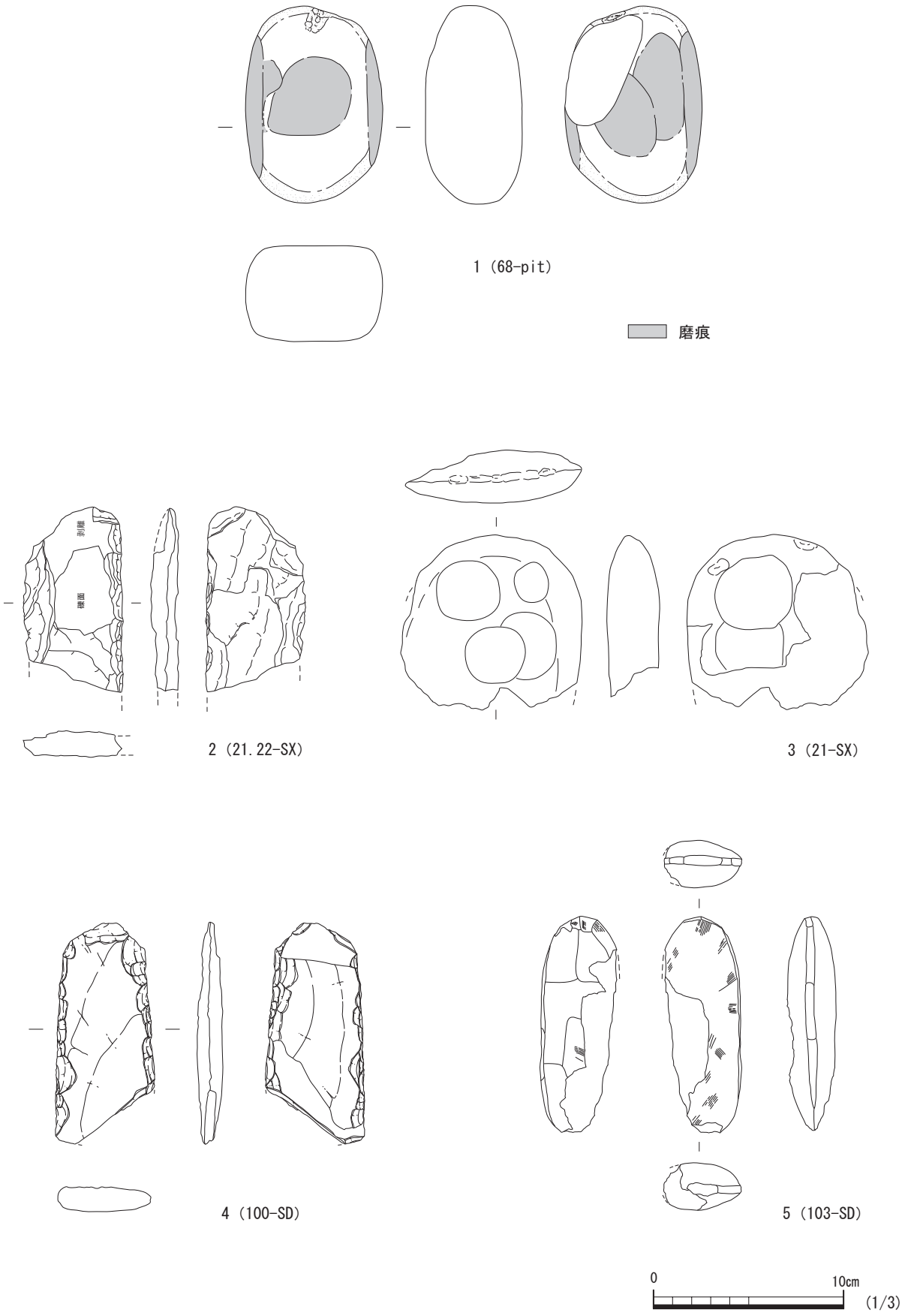


0 (S=1/1) 5cm

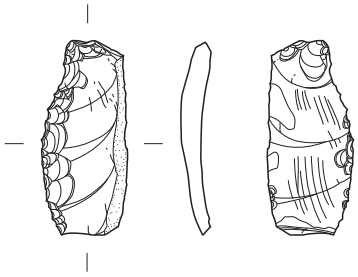
Pl.74 A区 08-SK出土黒曜石接合資料 (1/1)



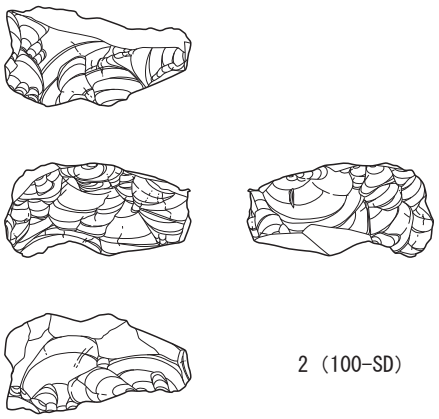
Pl.75　A区 SK・SP出土石器実測図　(1/3)



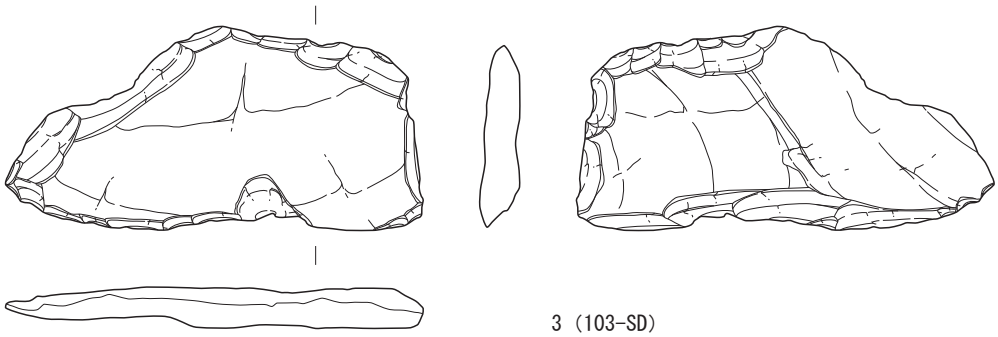
Pl.76　A区SP・SX・SD出土石器実測図　(1/3)



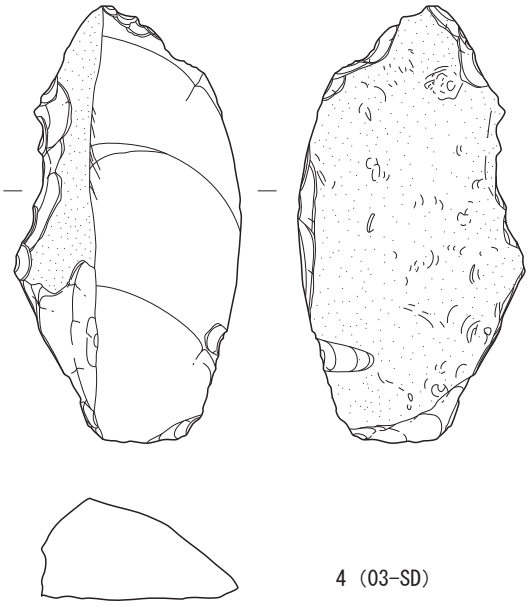
1（100-SD）



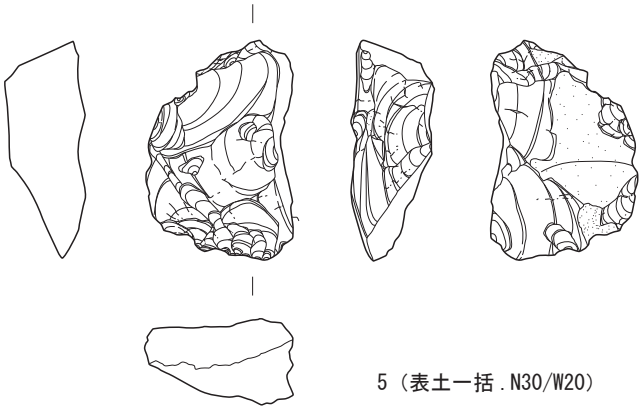
2（100-SD）



3（103-SD）



4（03-SD）

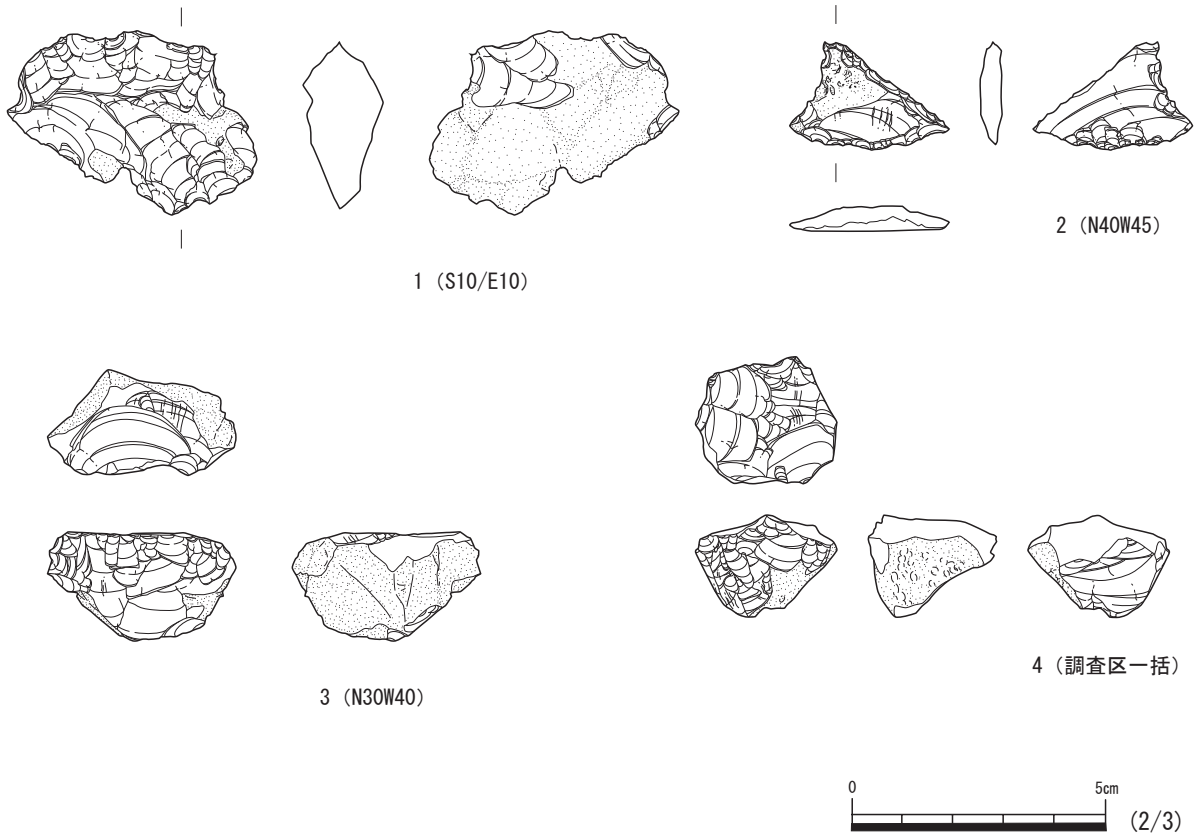


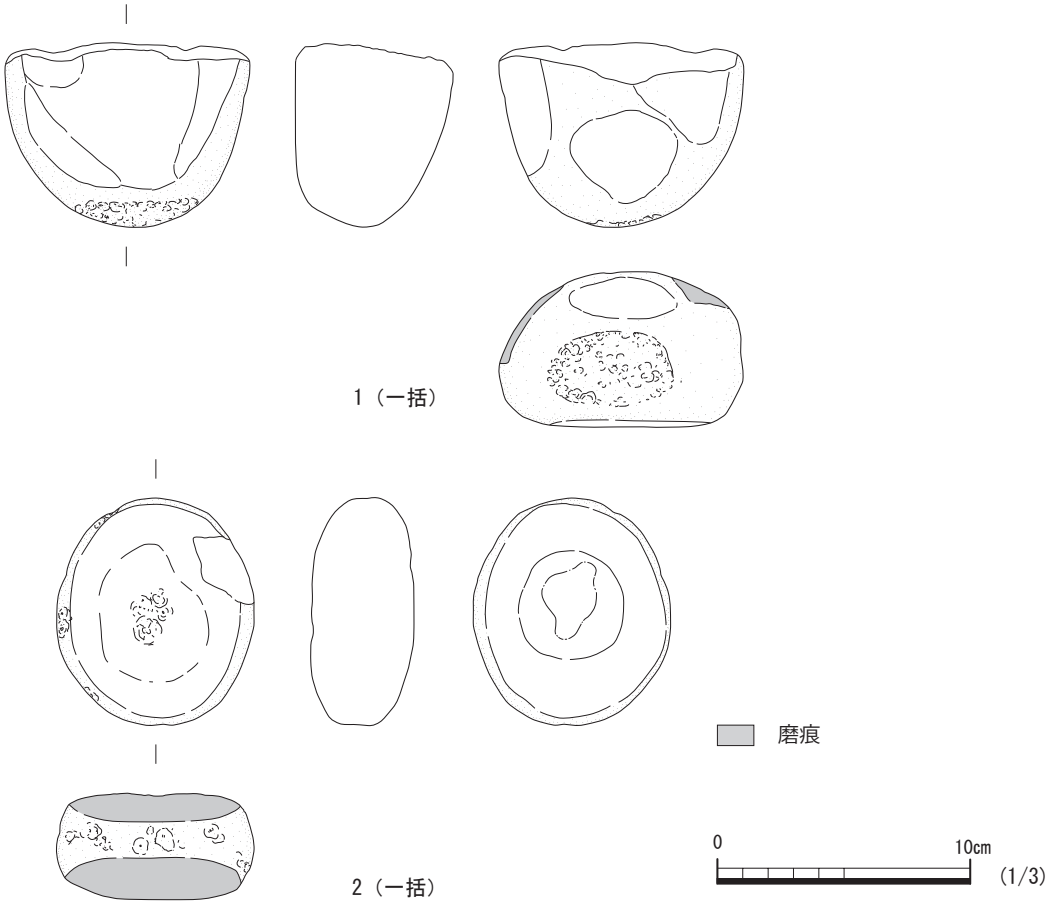
5（表土一括.N30/W20）

0　5cm

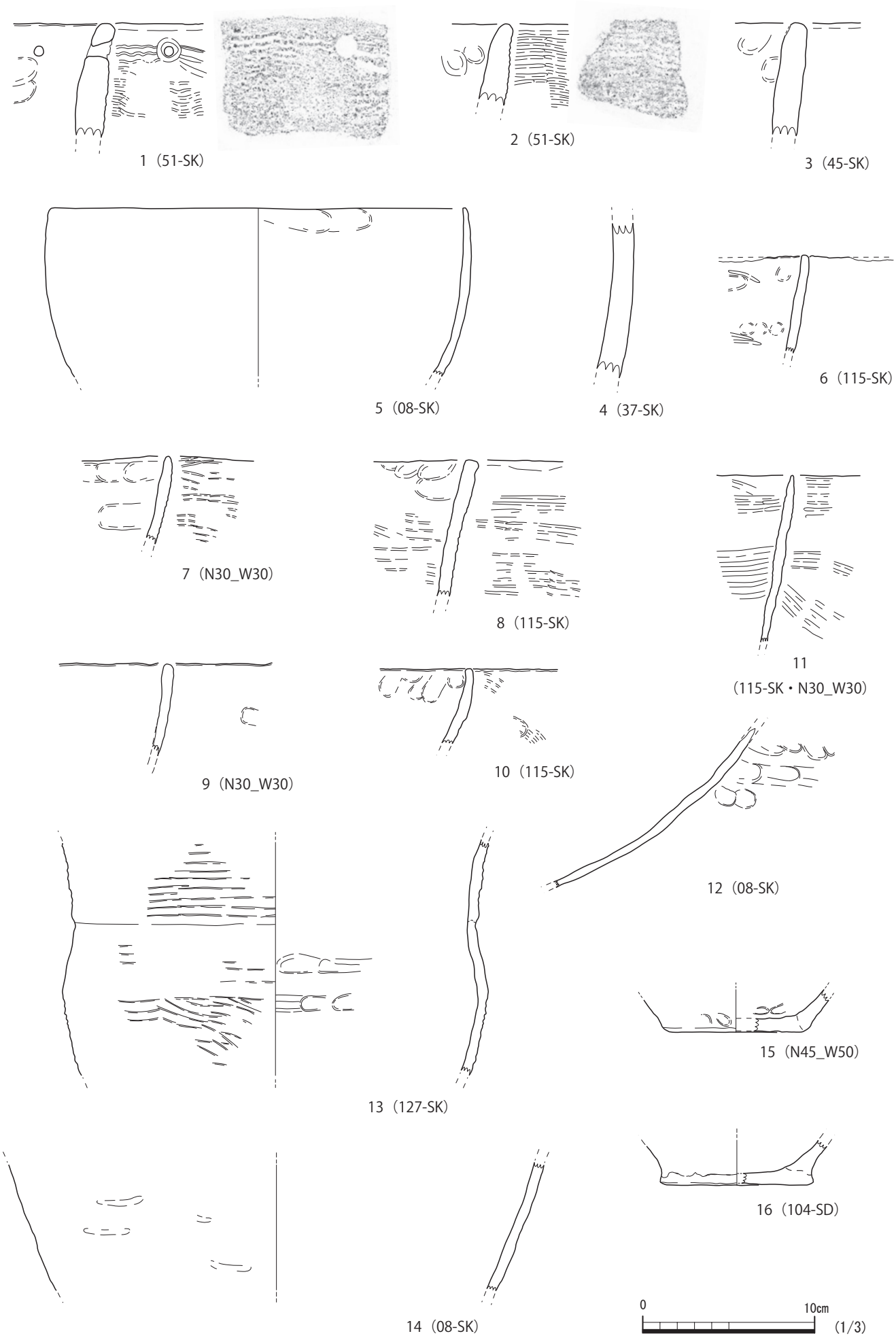
(2/3)

Pl.77　A区 SD・包含層出土石器実測図　(2/3)

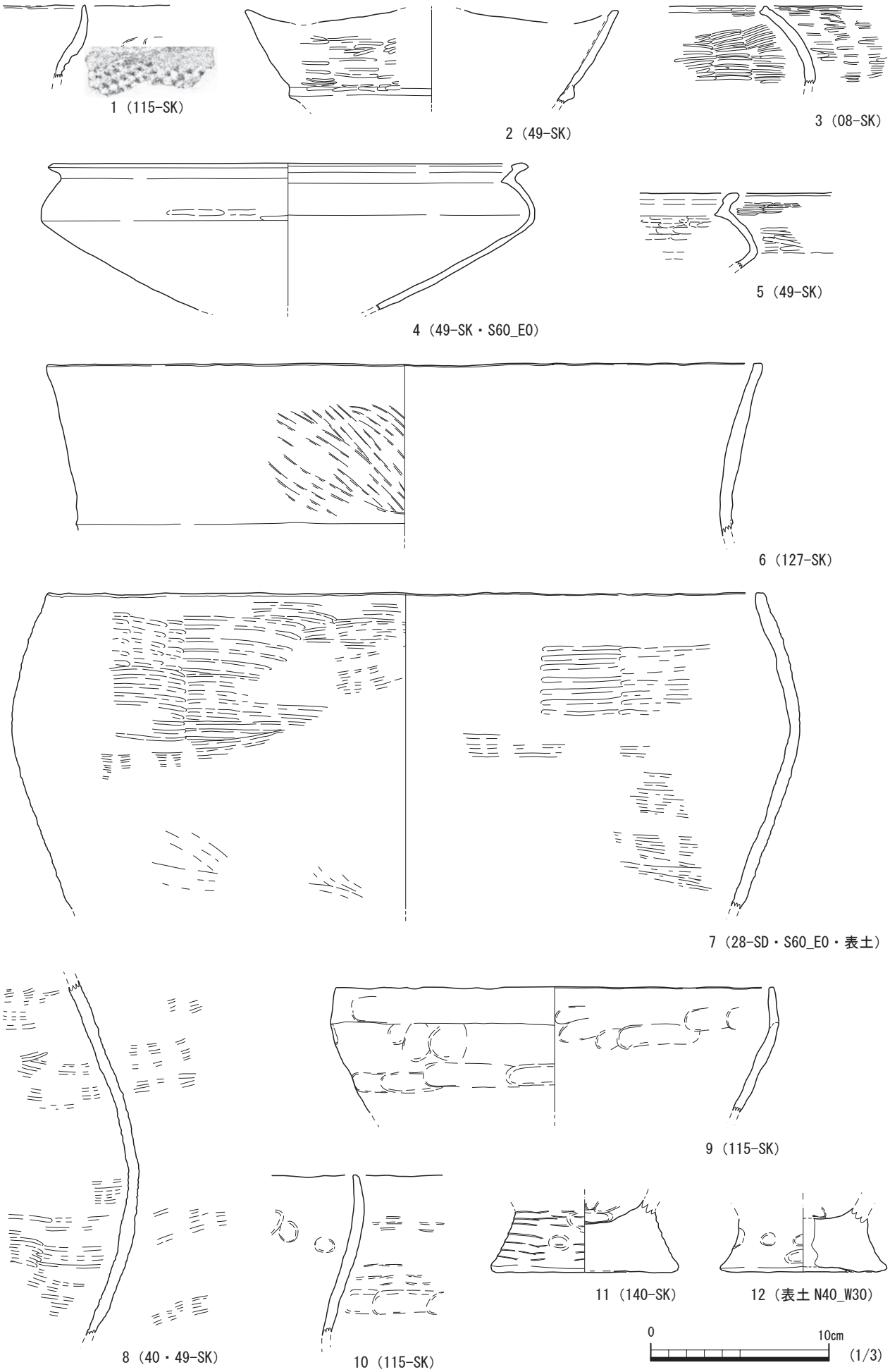




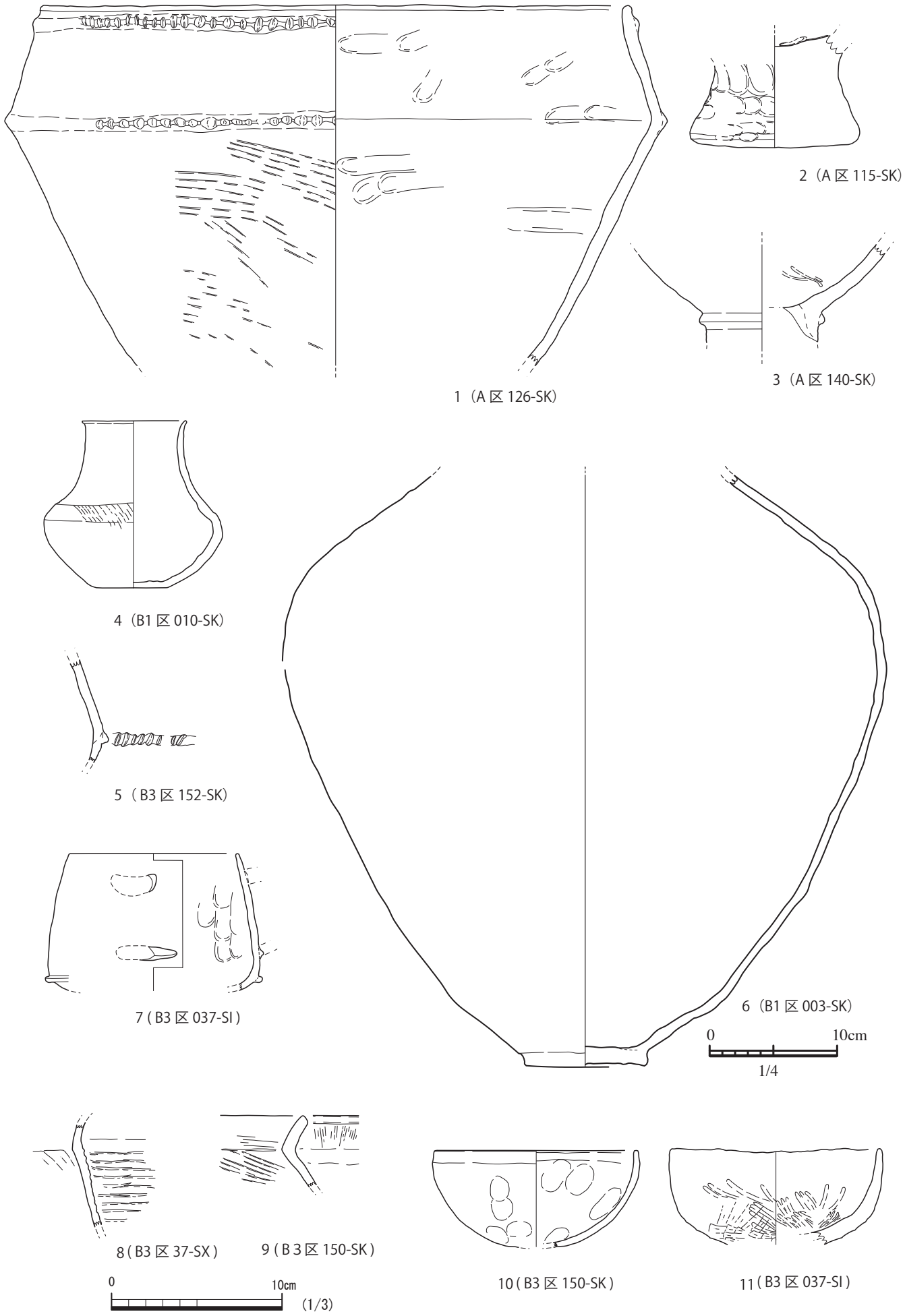
Pl.78　A区 包含層出土石器実測図 (2/3).(1/3)



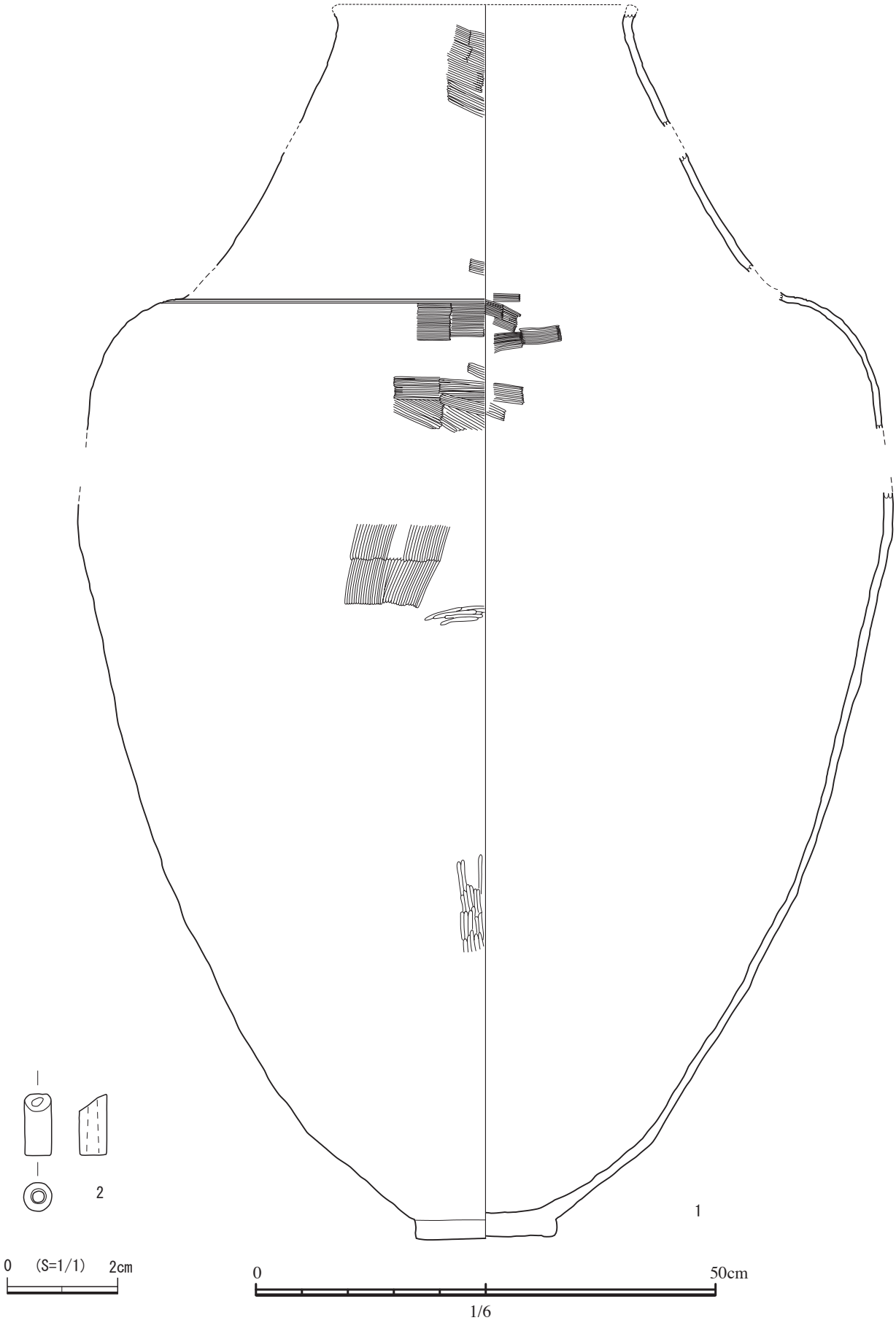
Pl.79　A区土坑・溝・包含層出土遺物実測図　（1/3）



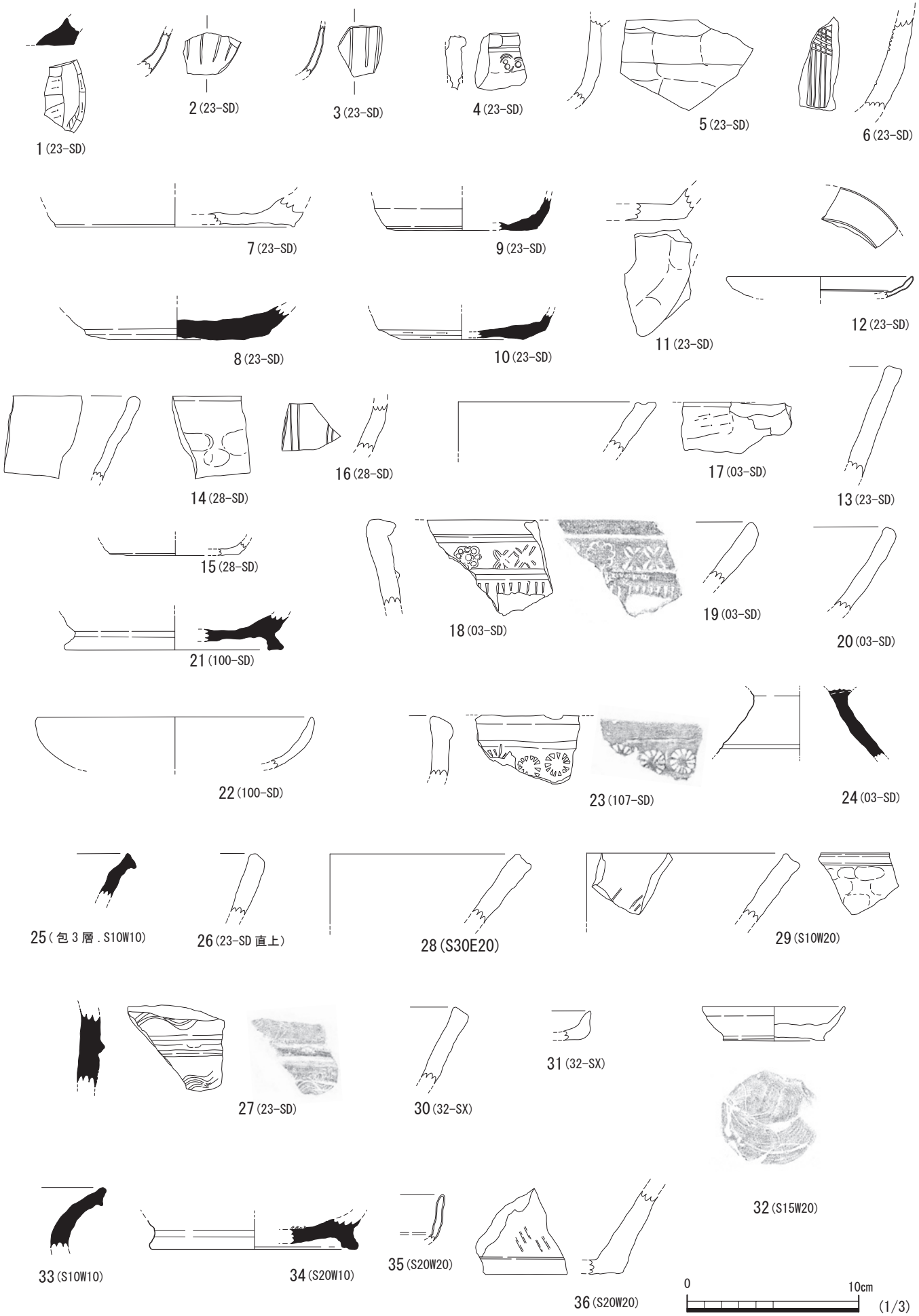
Pl.80　A区土坑・溝・包含層・表土出土縄文土器実測図　(S=1/3)



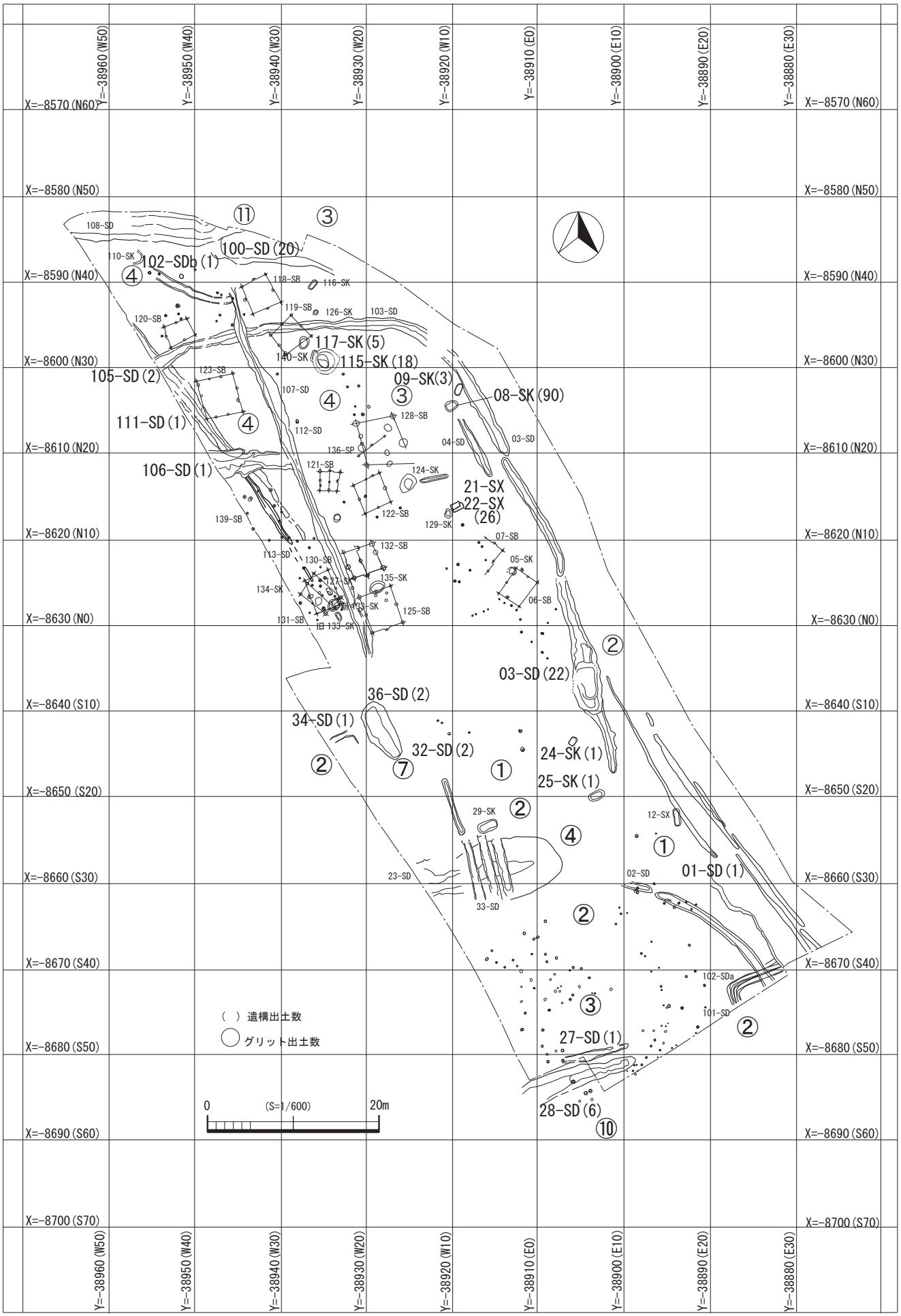
Pl.81　A・B1〜3 区土坑出土縄文土器実測図　（6 S=1/4　他 S=1/3）



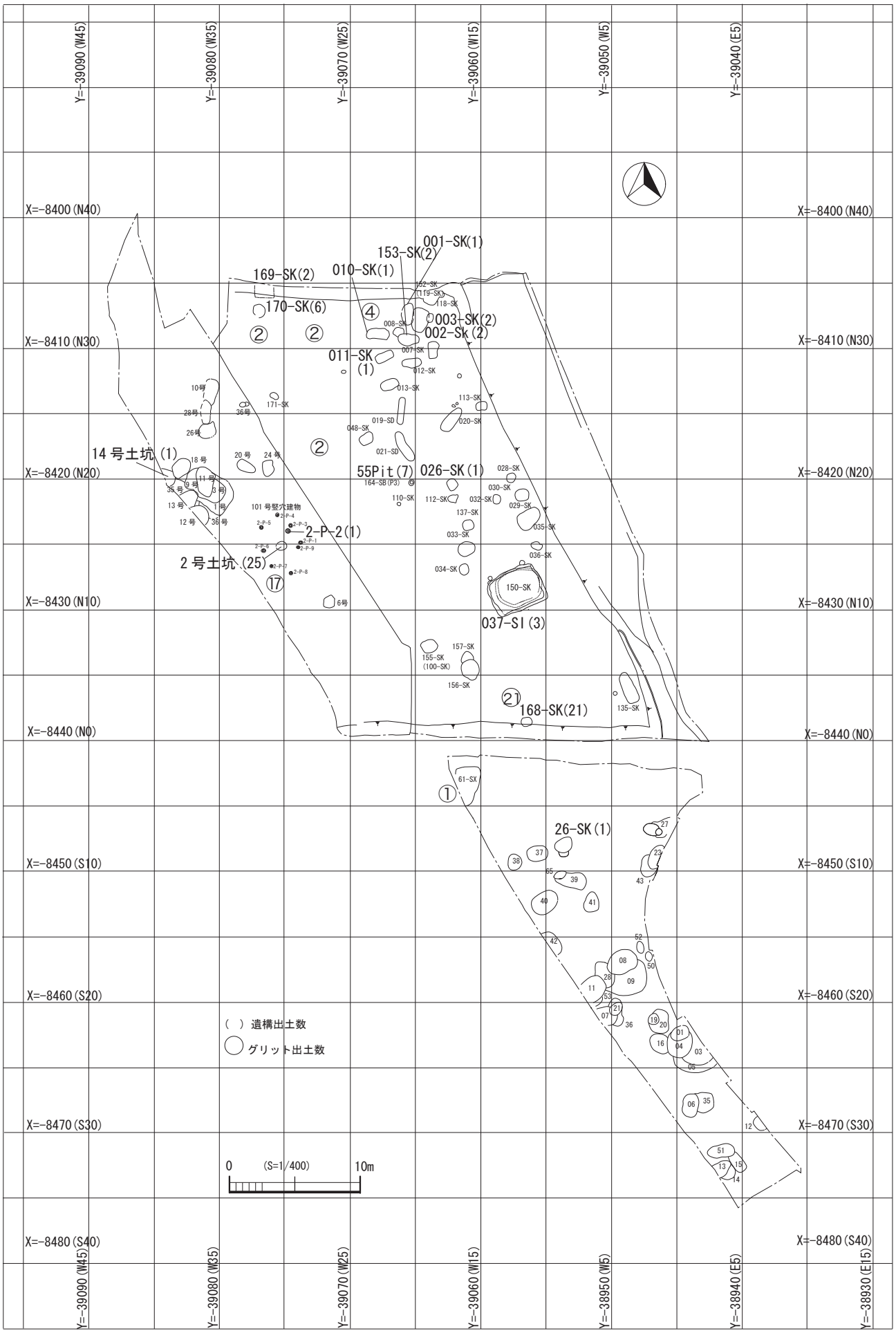
Pl.82 B1区001-SK出土土器棺(1/6)・棺玉実測図(1/1)



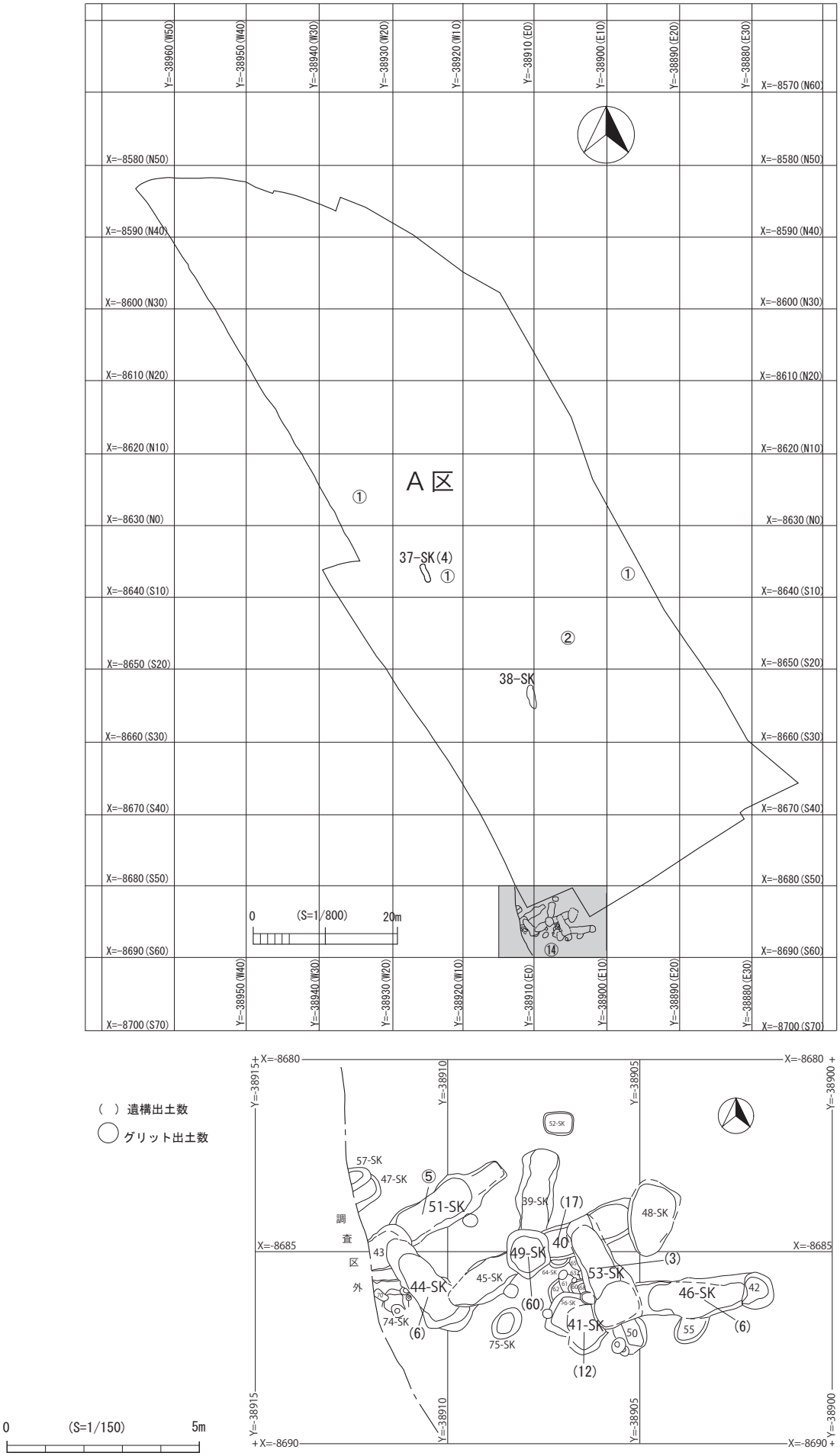
Pl.83　A区SD・SX・包含層出土遺物実測図 (1/3)



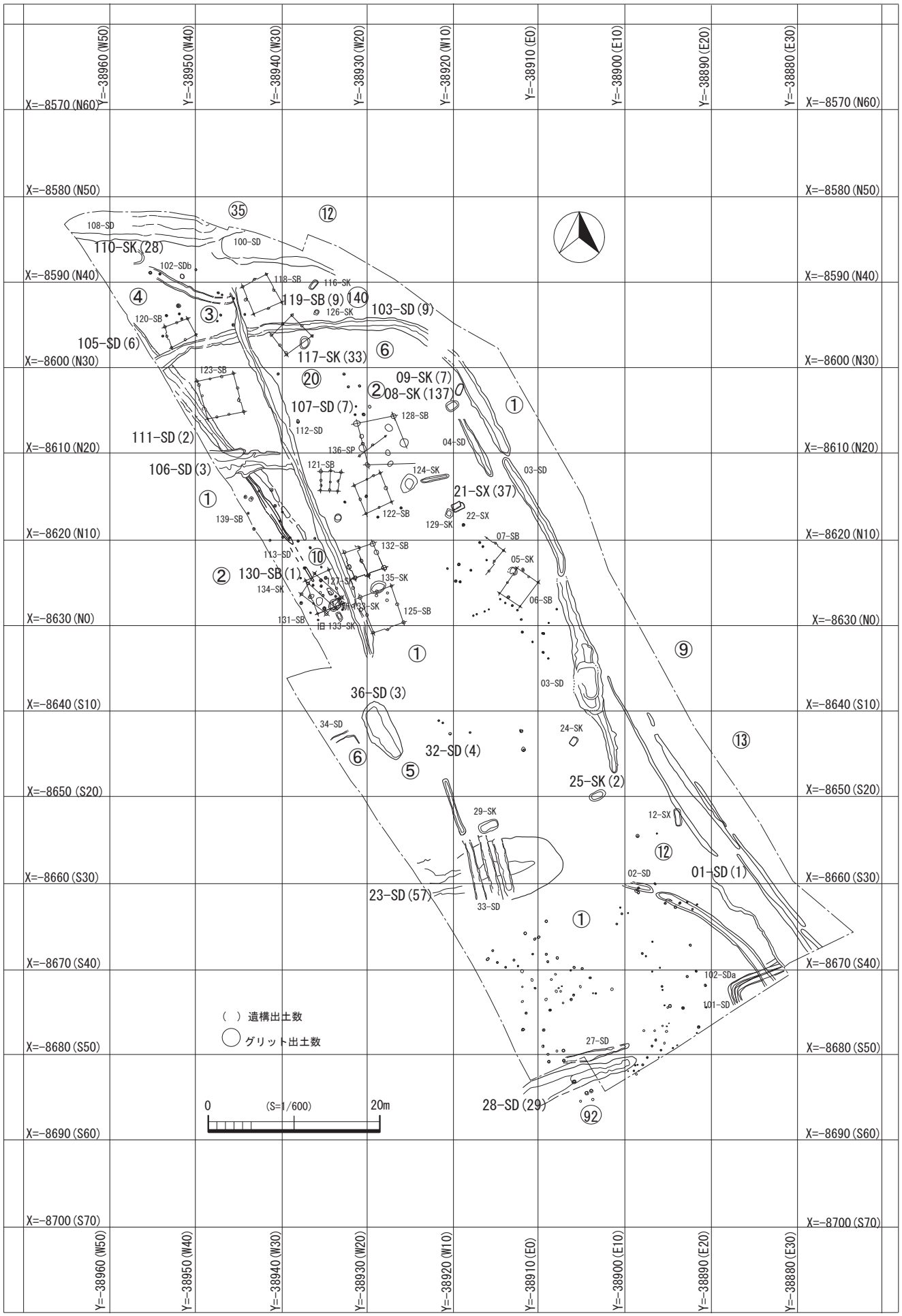
Pl.84　A区黒曜石出土分布図　(1/600)



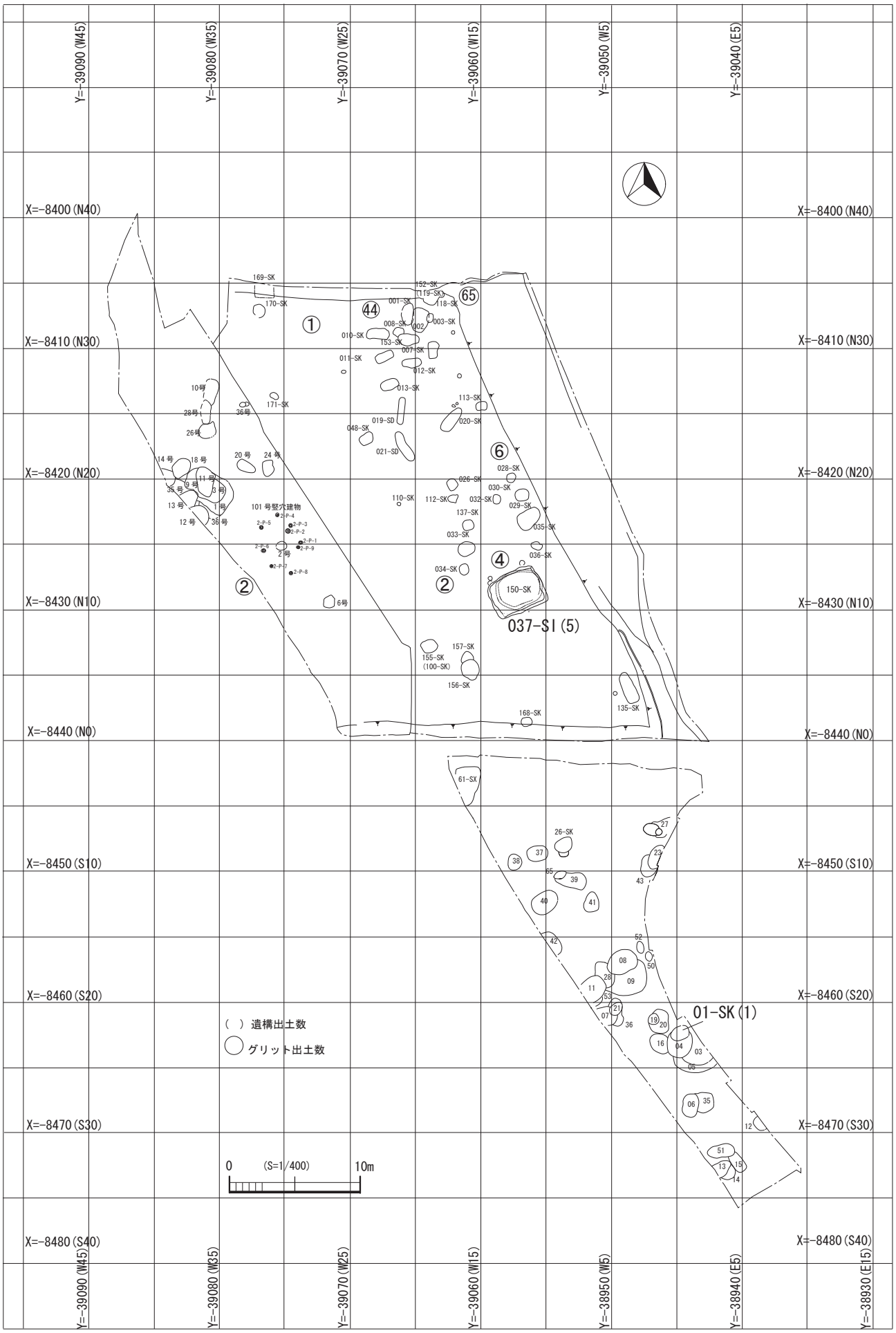
Pl.85 B区黒曜石出土分布図 (1/400)



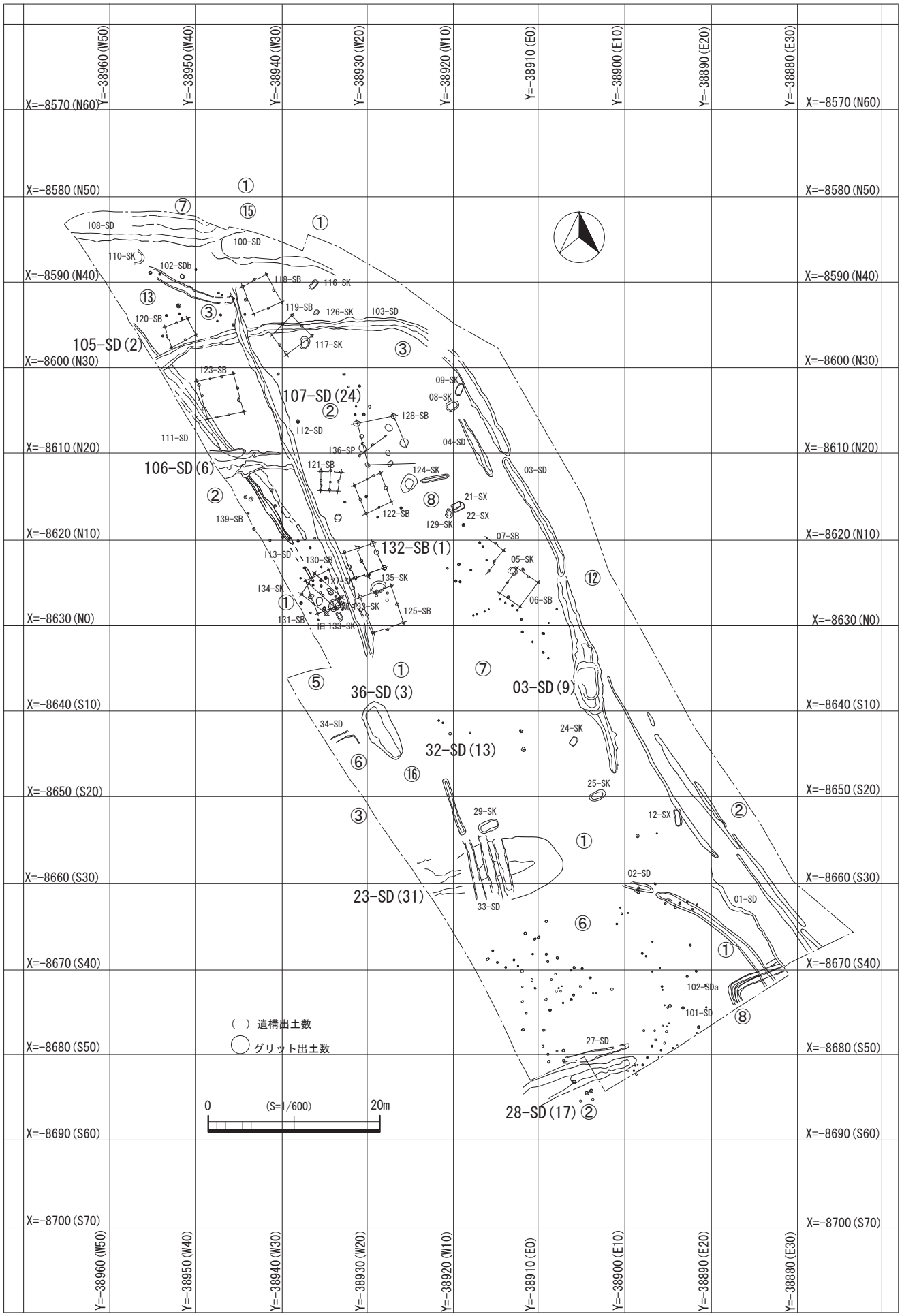
Pl.86 A区縄文時代早期土器出土分布図



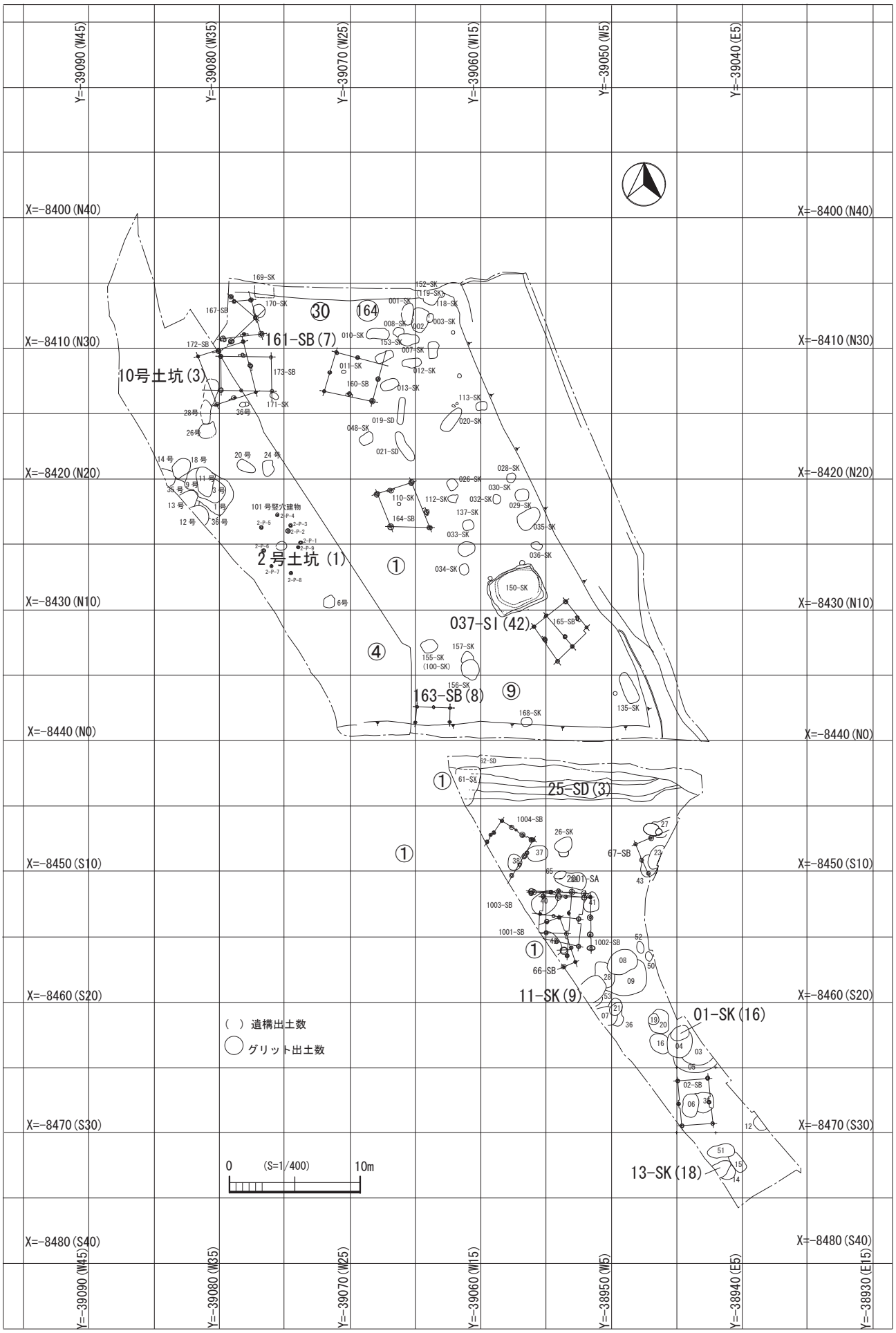
Pl.87　A区縄文時代土器出土分布図　(1/600)



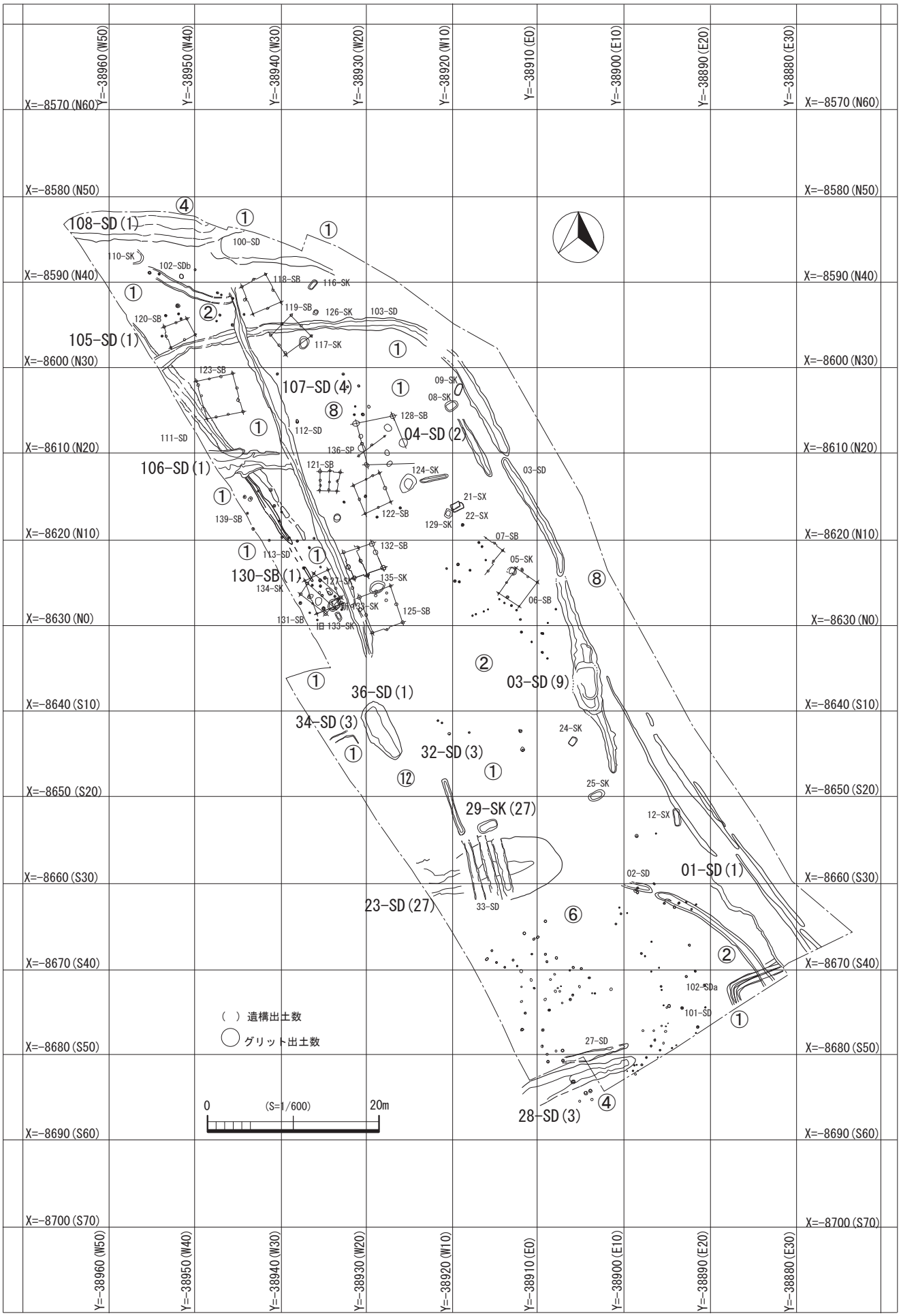
PI.88 B区縄文時代土器出土分布図 (1/400)



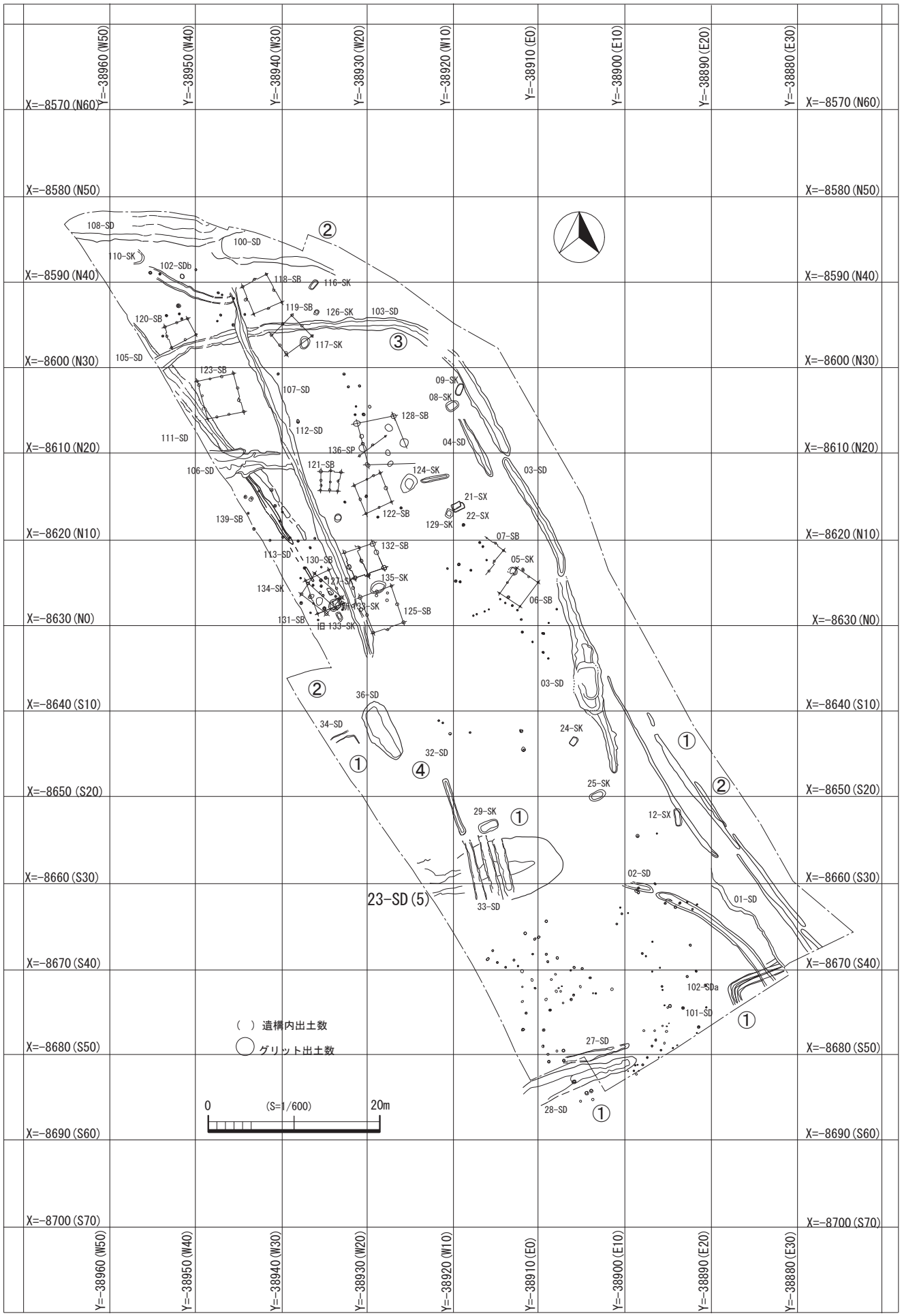
Pl.89　A区土師器出土分布図(1/600)



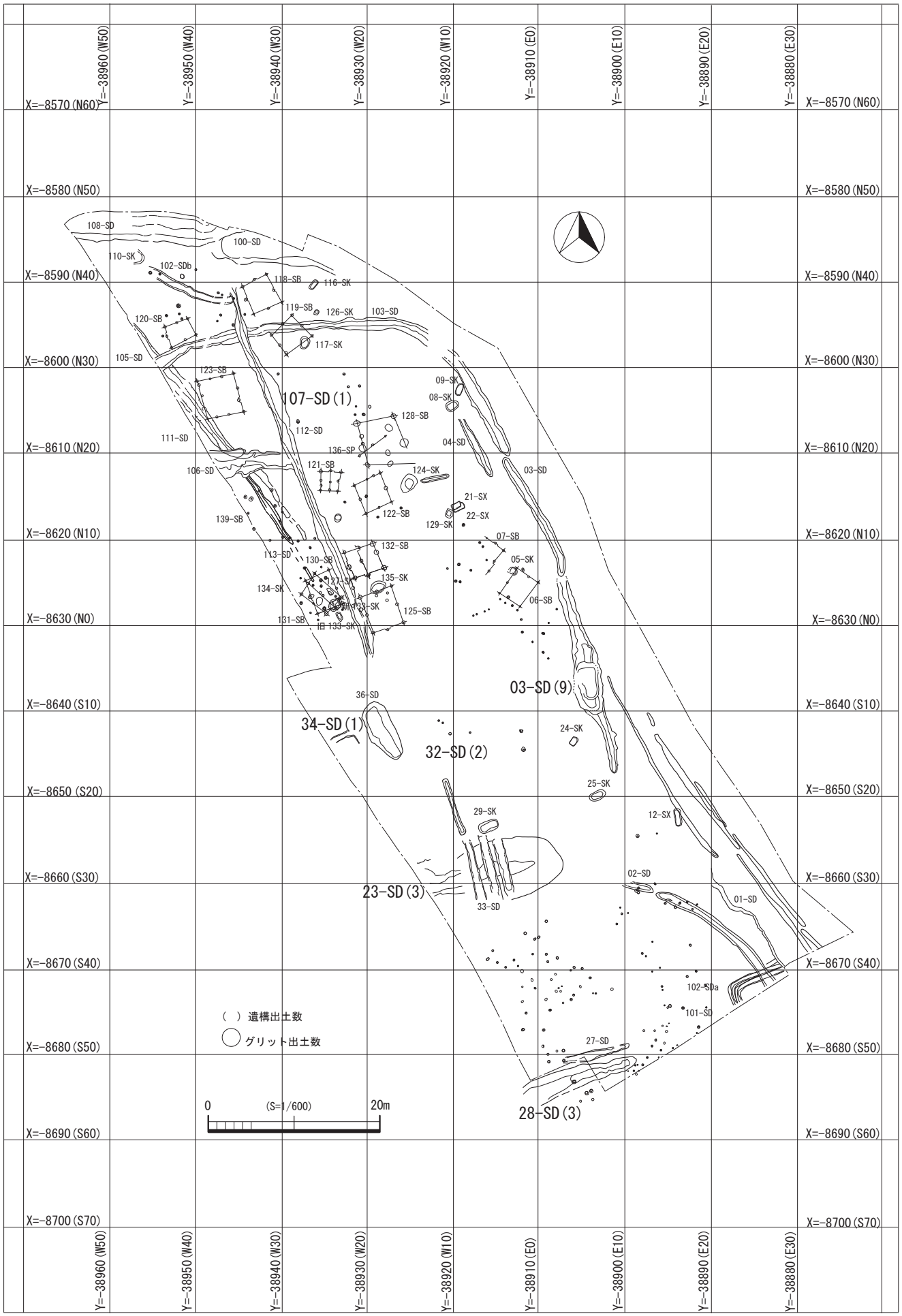
Pl.90 B区土師器出土分布図 (1/400)



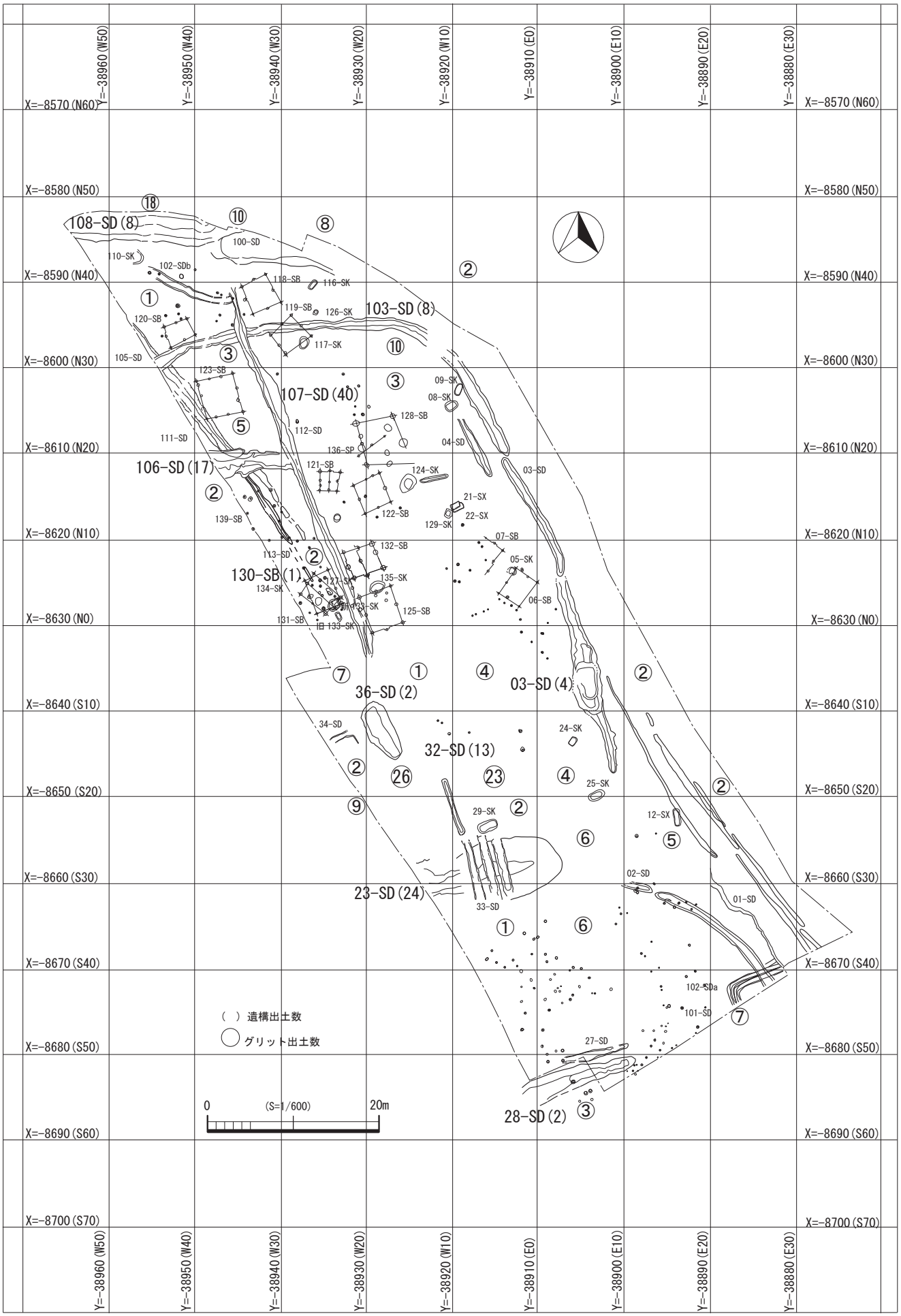
Pl.91　A区須恵器出土分布図　(1/600)



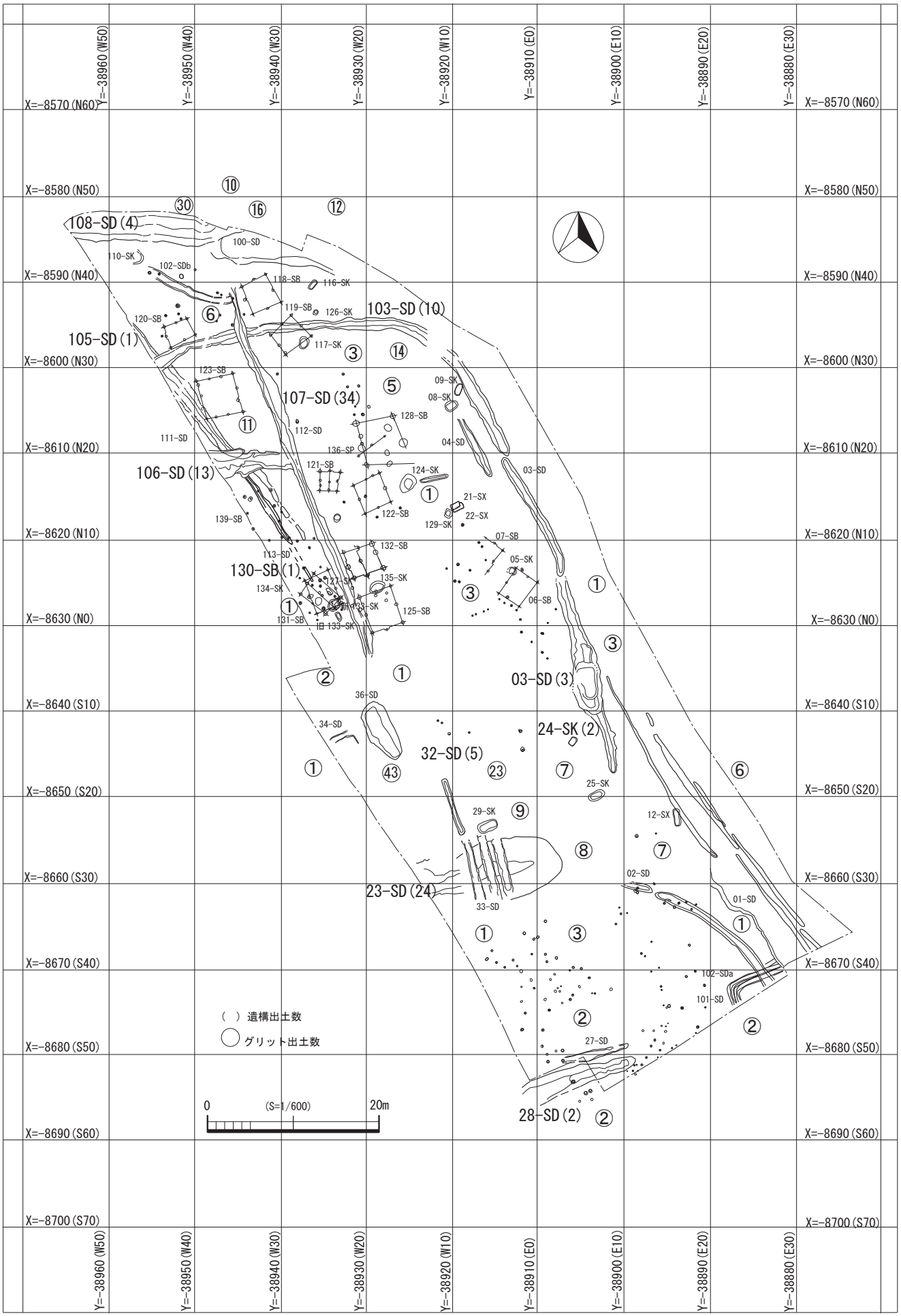
Pl.92 A区青磁出土分布図 (1/600)



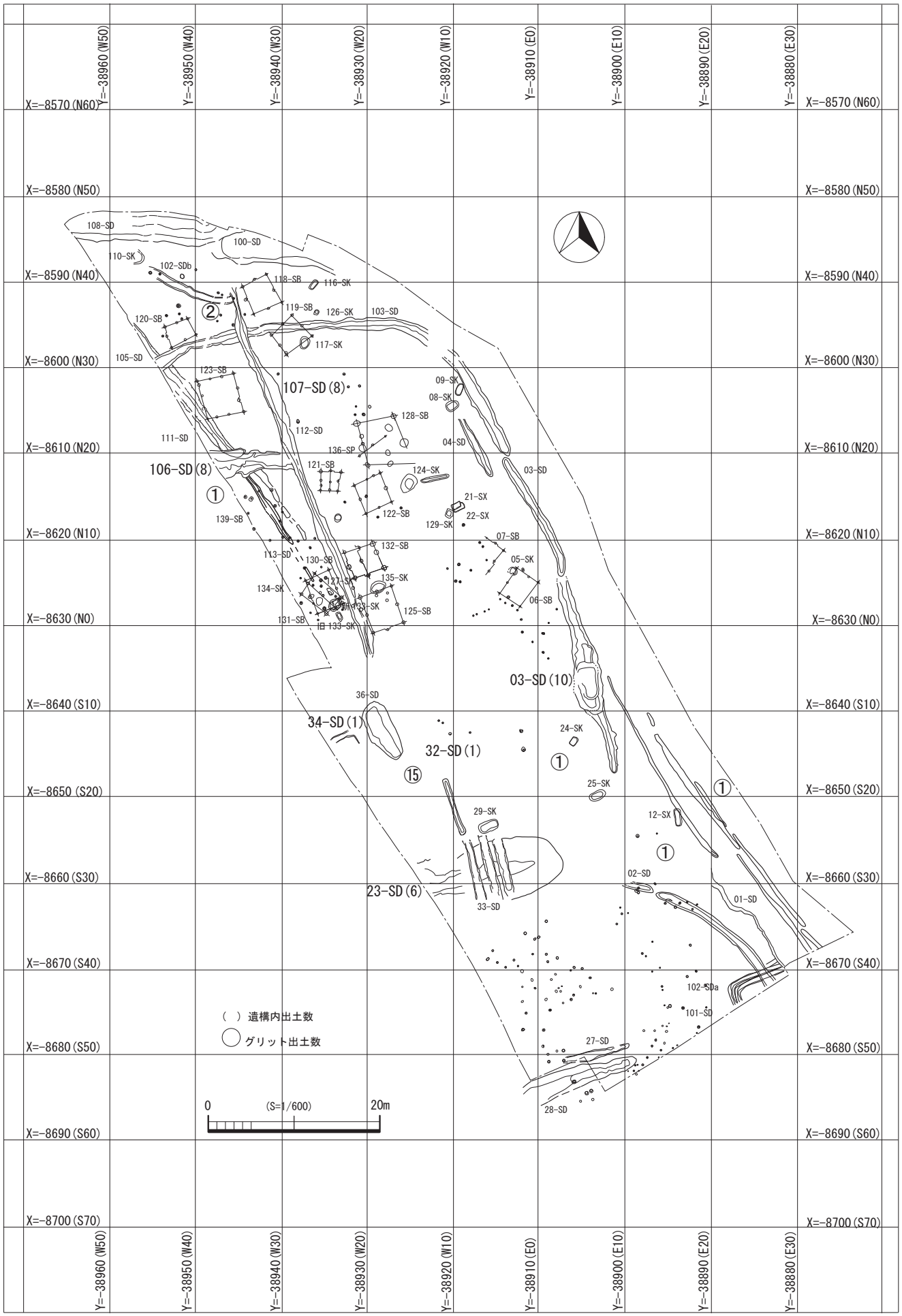
Pl.93　A区瓦質土器出土分布図　(1/600)



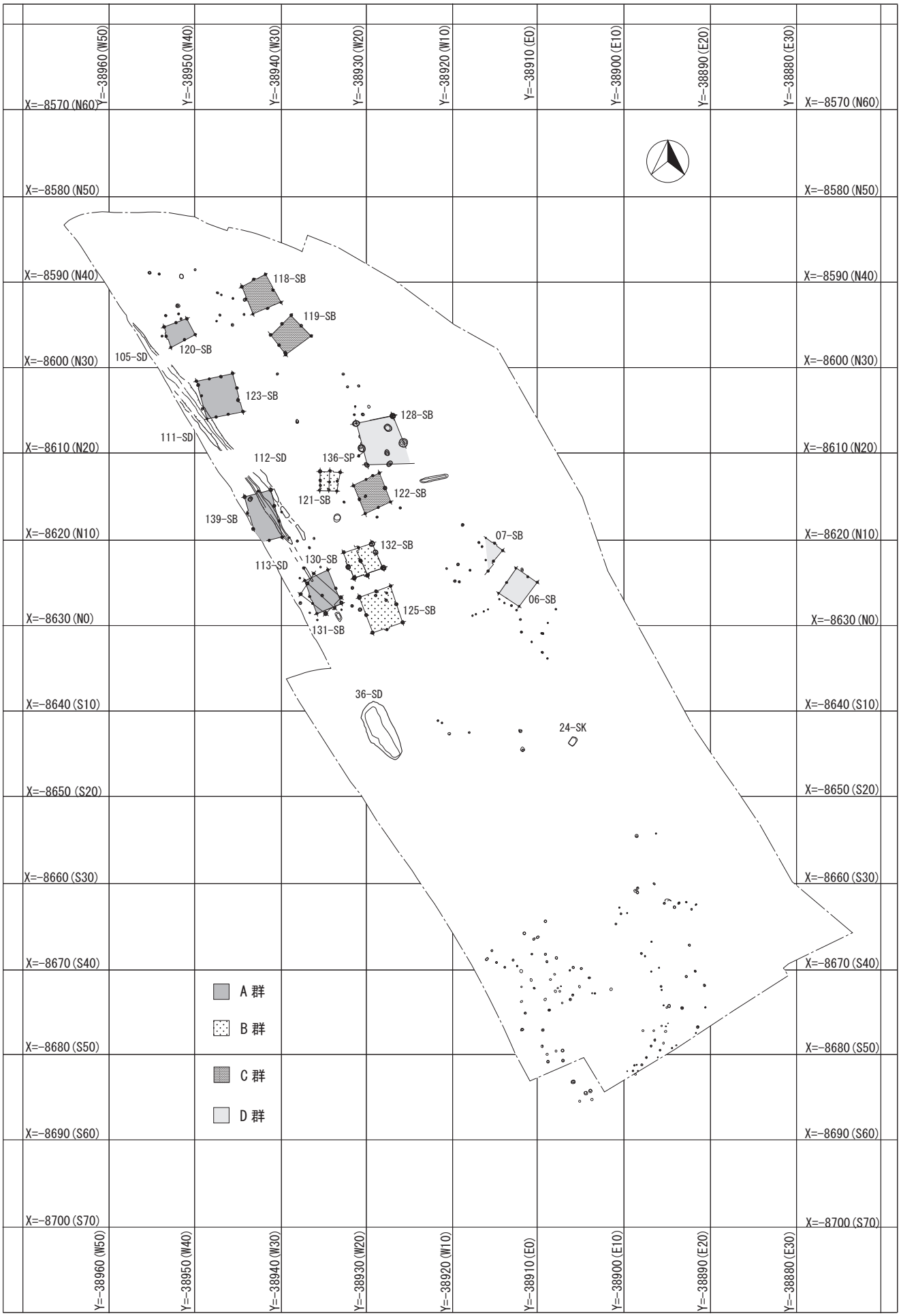
Pl.94　A区陶器出土分布図　(1/600)



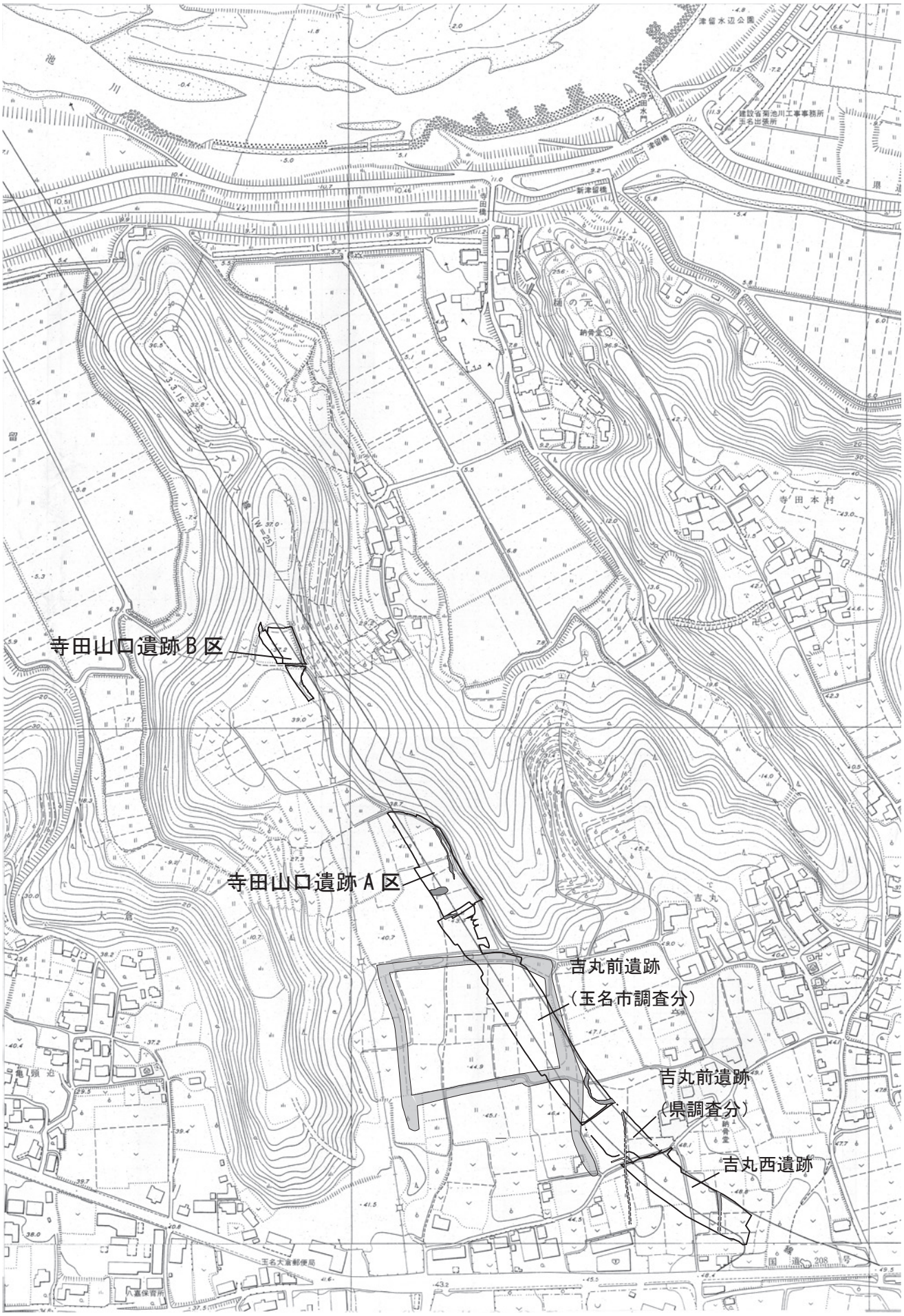
Pl.95　A区陶磁器出土分布図　(1/600)



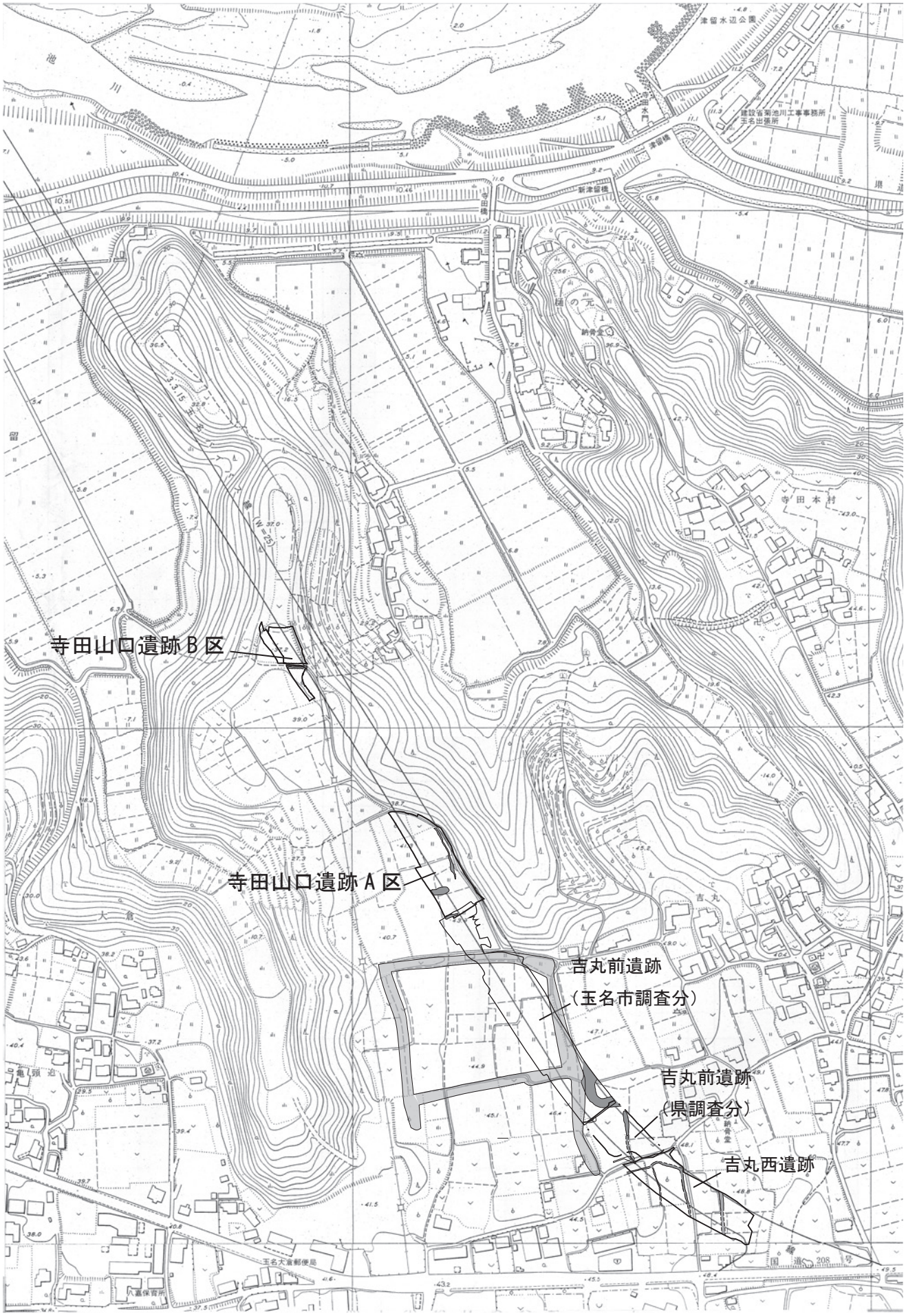
Pl.96　A区瓦出土分布図　(1/600)



Pl.97　A区掘立柱建物A〜D群分類図案(1/600)



区画溝想定図（中世）（1/5,000）



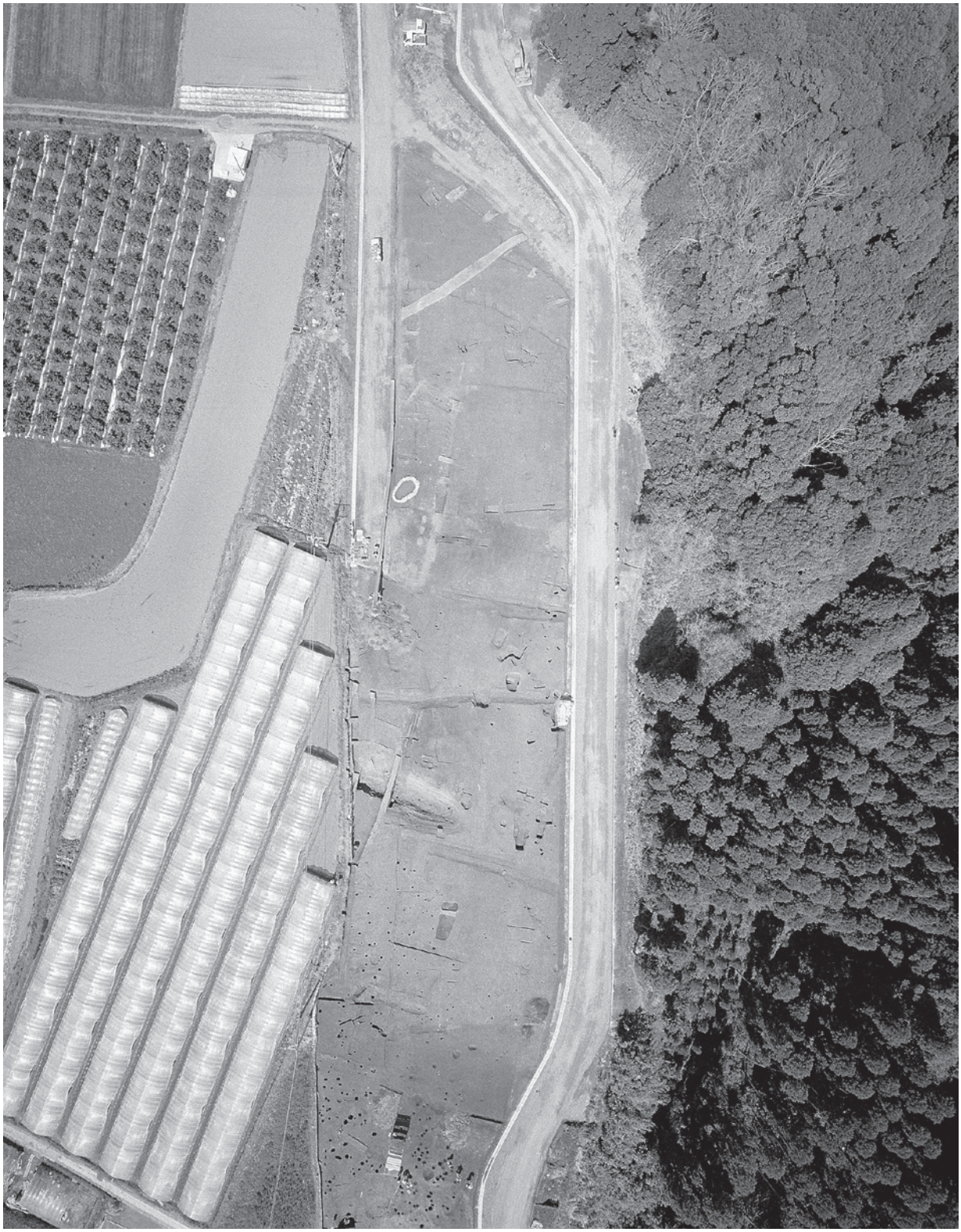
区画溝想定図（近世）（1/5,000）

図面・写真　図版

調査区 全景（北から）

Ph. 2

A区全景

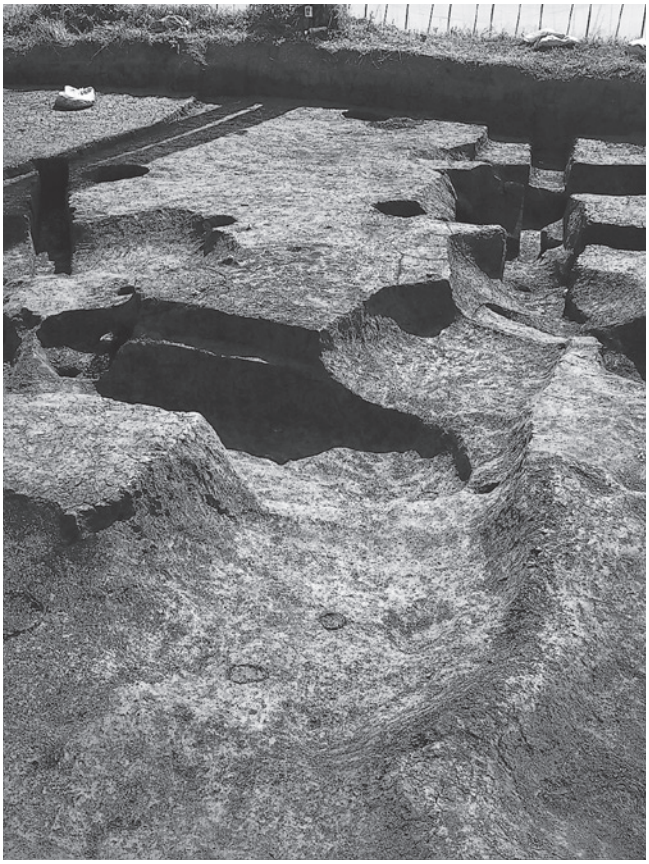


調査区　全景（北東から）

1.　連結土坑 全景（北西から）

2.　連結土坑 完掘全景（南西から）

1. 37-SK 完掘状況（南から）

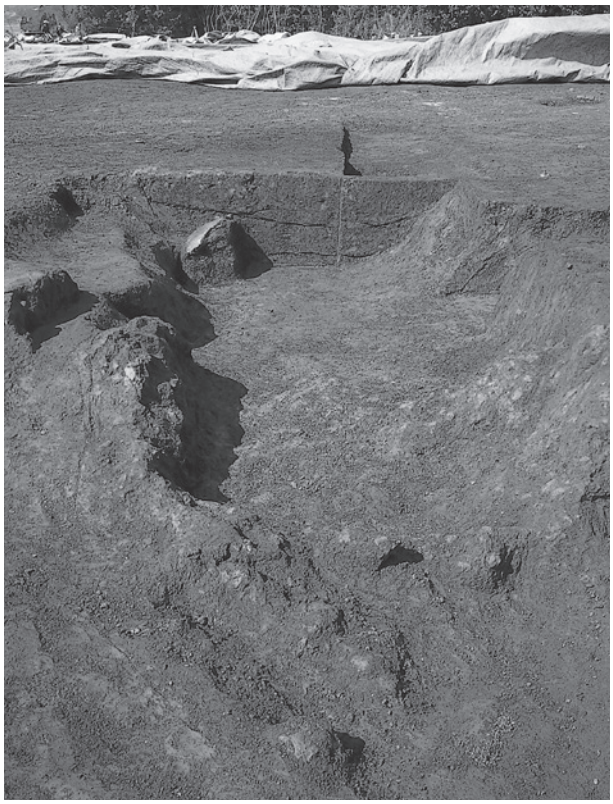


2. 40-SK 完掘状況（北東から）

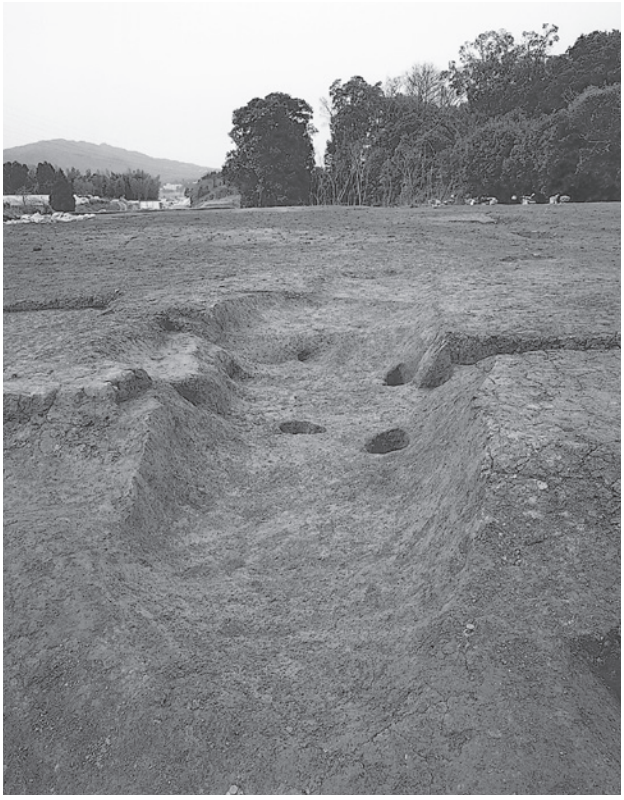
3. 39-SK 燃焼部（北から）

4. 39-SK 完掘状況（北東から）

1.　38-SK（北西から）



2.　38-SK 燃焼部・土層断面（南から）



3.　38-SK 完掘状況（南から）

1. 41-SK 遺物出土状況（北東から）

2. 41-SK 土層断面（東から）

3. 42-SK 完掘状況（南東から）

4. 42-SK 土層断面（南東から）

1. 43-SK 完掘状況（南東から）

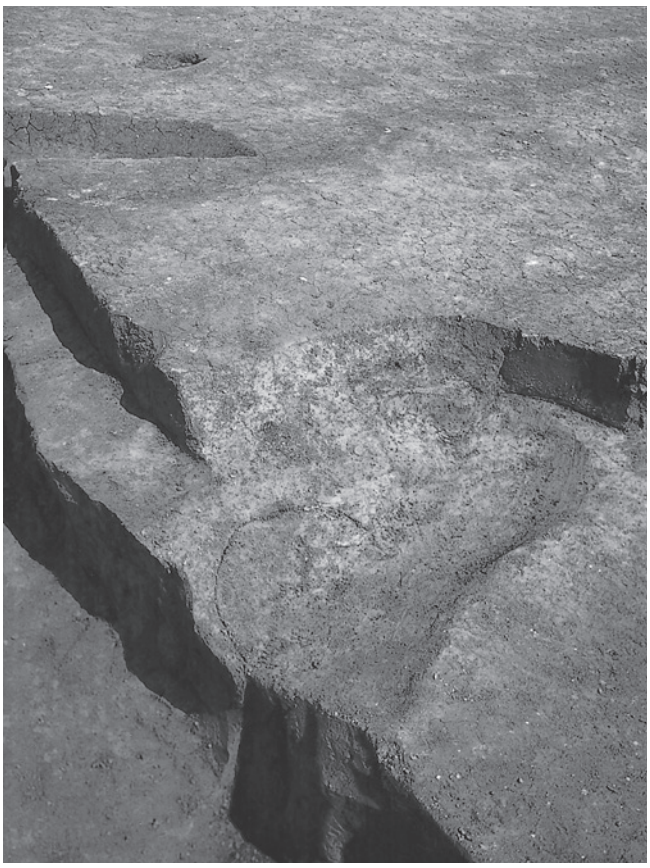
2. 43-SK 土層断面（東から）

3. 44-SK 天井部崩落検出状況（南西から）

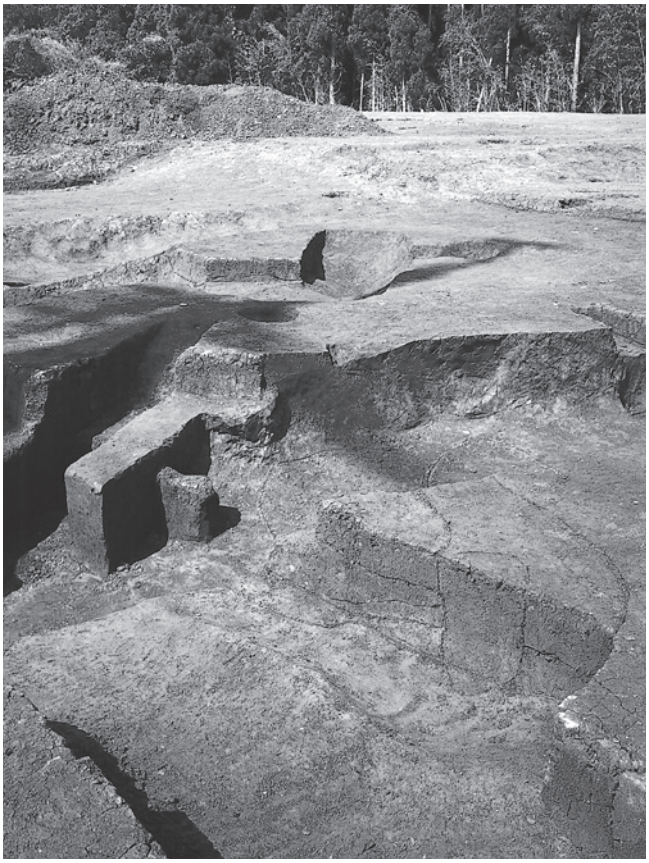
4. 44-SK 廃絶状況（南東から）

1.　45-SK 燃焼面検出状況（北東から）

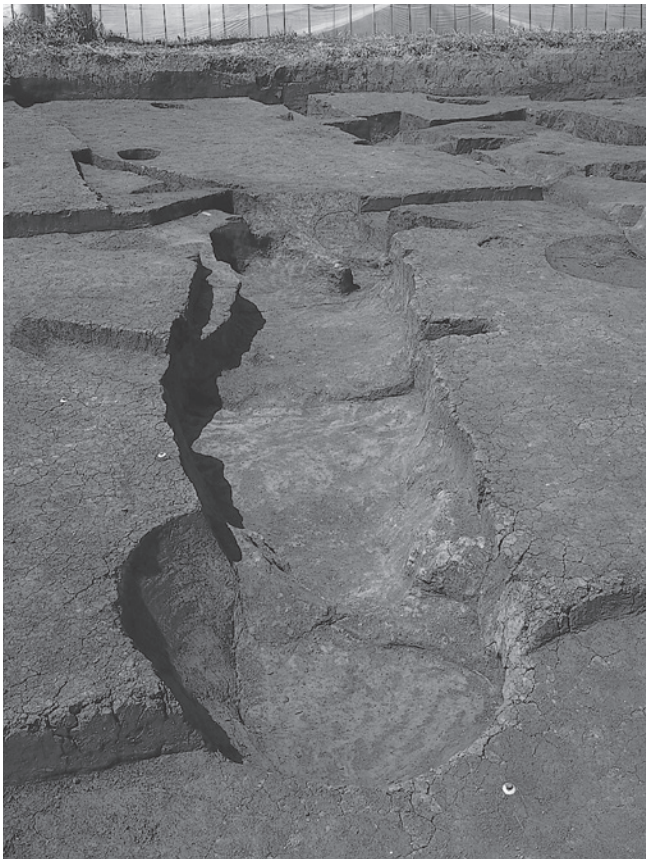
2.　45-SK 土層断面（西から）



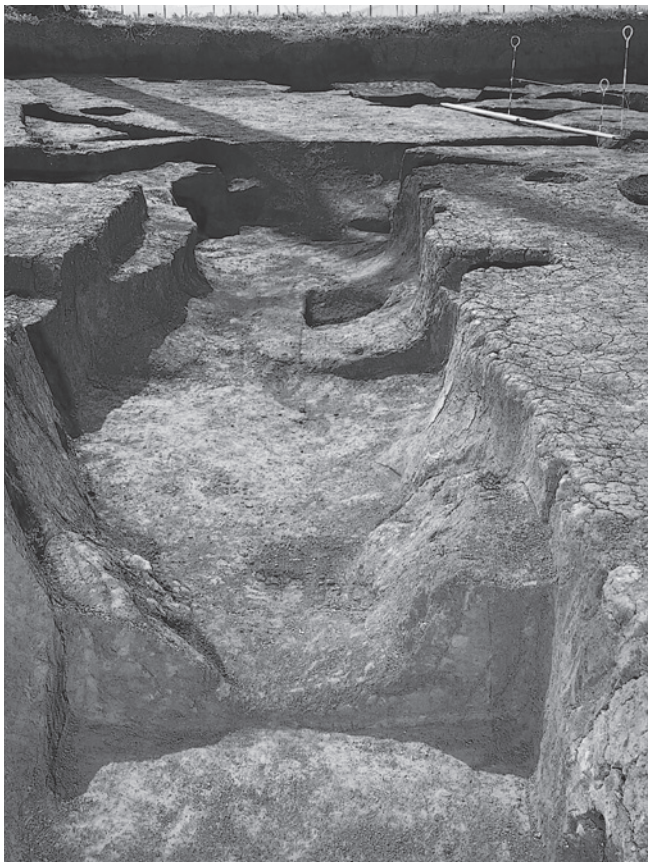
3.　50-SK 燃焼面検出状況（北西から）



4.　50-SK 土層断面（南西から）

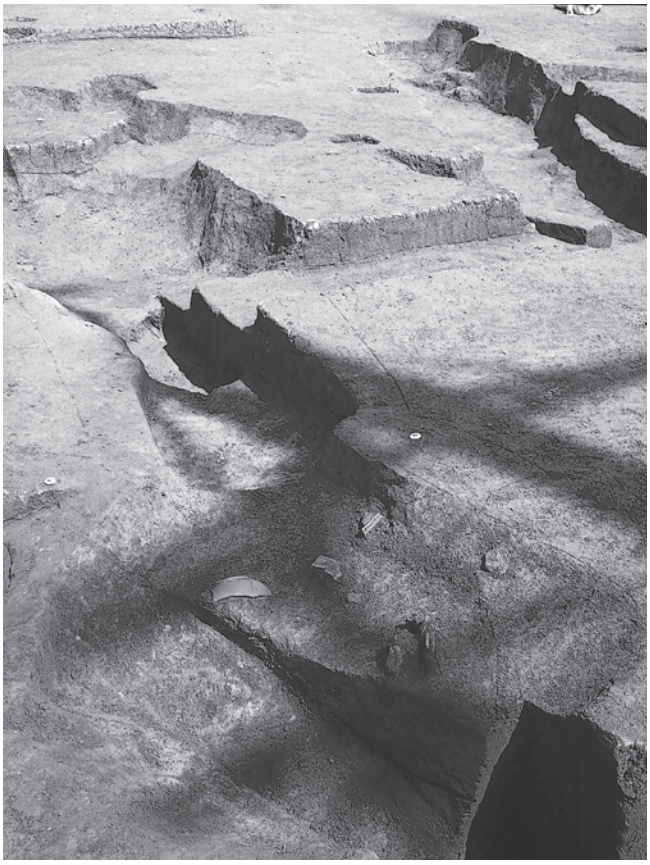


1.　46-SK 燃焼面検出状況（東から）



2.　46-SK 燃焼面土層断面（東から）

3.　46-SK 廃絶状況（西から）



4.　49-SK 遺物出土状況（西から）

1.　51-SK 燃焼面遺物出土状況（南西から）

2.　51-SK 燃焼面くびれ部（北東から）

3.　53-SK 燃焼面検出状況（南東から）

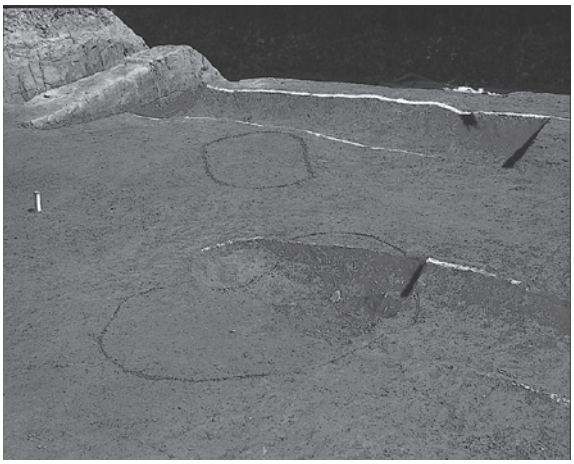
4.　53-SK 焼土立ち上がり状況（南東から）

1.　調査区 全景（南から）

2.　調査区 北側全景（東から）

1.　調査区南側全景（北から）

2.　調査区南側 Pit 群 全景（西から）



1.　08・09-SK 検出状況（南西から）

2.　133-SK（北東から）

3.　115-SK 完掘状況（南から）

4.　115-SK 土層断面（西から）

5.　124-SK 完掘状況（北東から）

6.　127-SK（北東から）

7.　126-SK 完掘状況（東から）

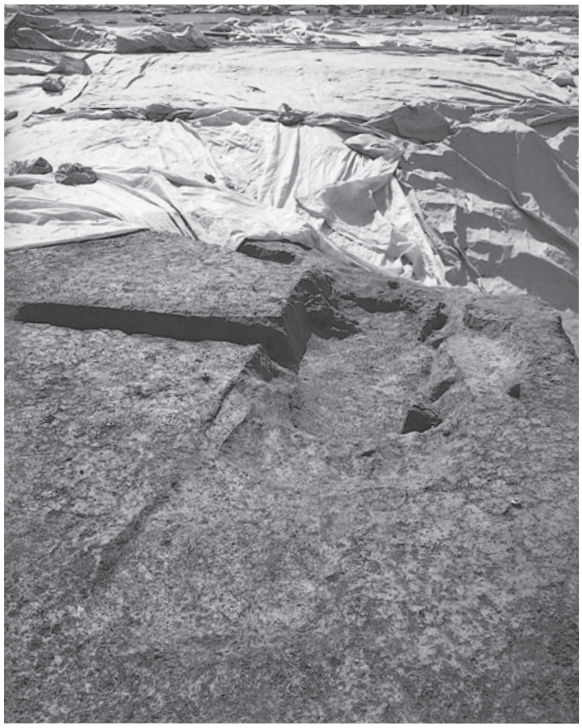
8.　126-SK 土層断面（南から）

1.　129-SK（南西から）

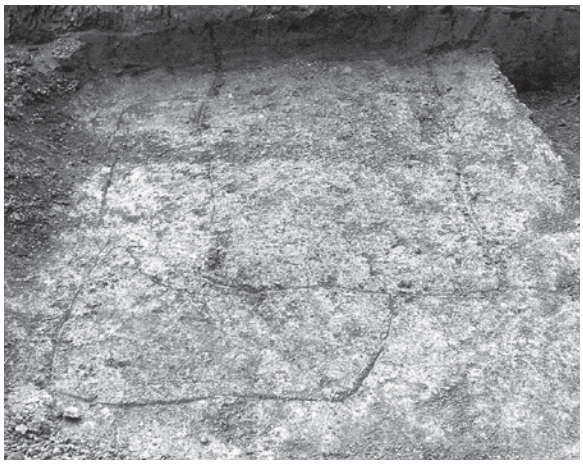
2.　135-SK（南東から）

3.　05-SK（南から）

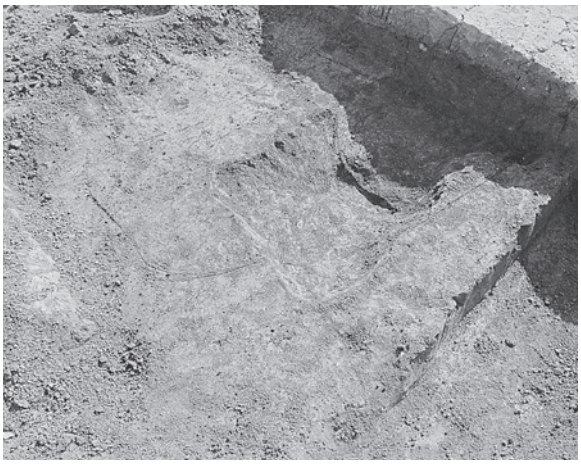
4.　12-SX（南西から）



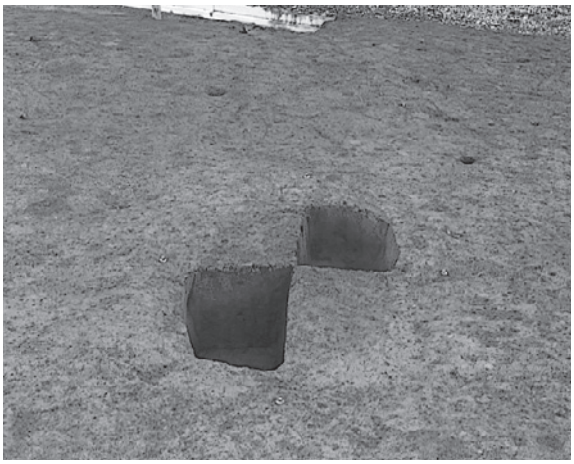
5.　16-SK 不確か



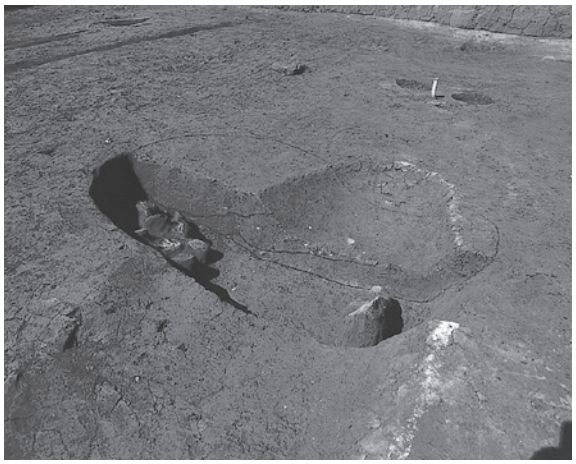
6.　21・22-SX（木棺部か）検出状況（東から）



7.　21・22-SX（木棺部か）完堀状況（西から）



1.　24-SK（南西から）



2.　08-SK（南東から）

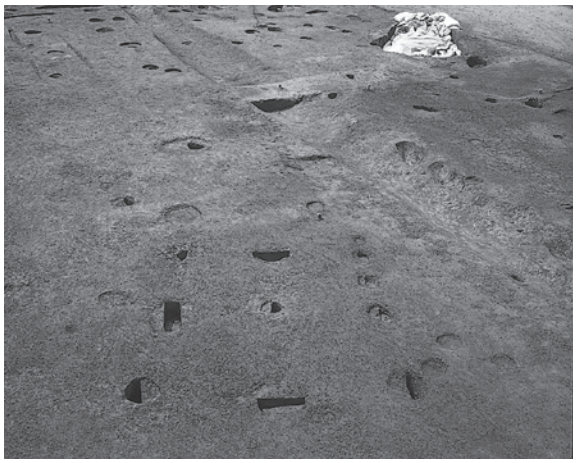
3.　110-SK（南西から）

4.　119-SB（西から）

5.　118-SB（西から）

6.　120-SB（東から）

7.　123-SB（北から）



8.　121-SB（北から）

1.　122-SB（北から）

2.　125・132-SB（北から）

3.　130・131-SB（北から）

4.　近代道路（北西から）

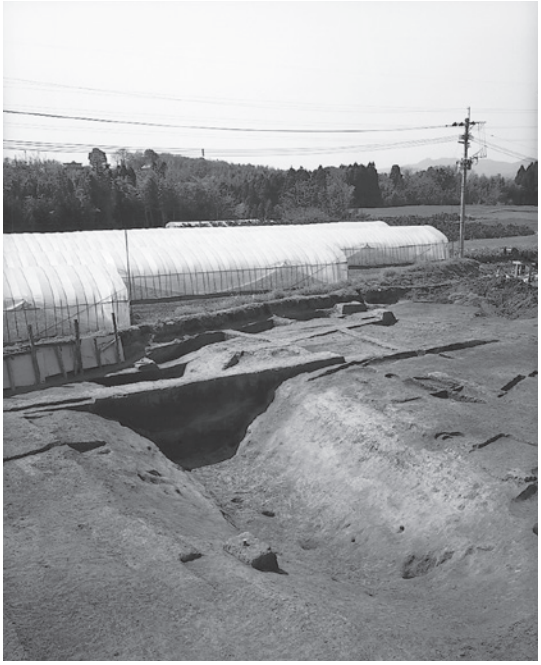
5.　139-SB（北から）

6.　03-SD（北西から）

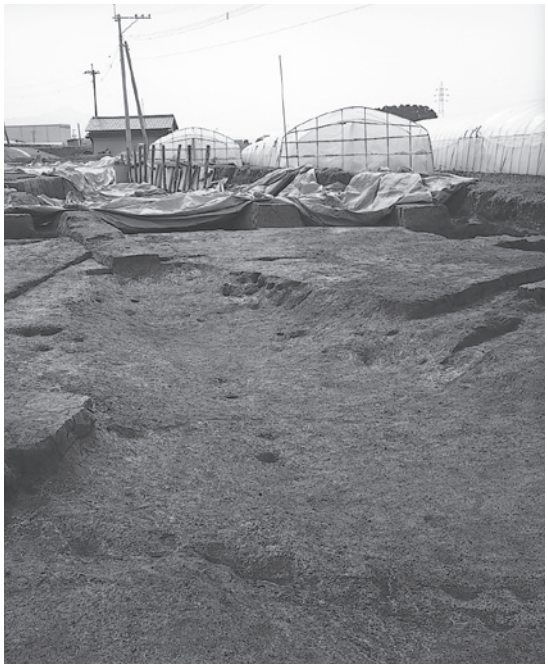
7.　28-SD（南西から）

8.　28-SD 土層断面（北西から）

1.　27・28-SD（南東から）

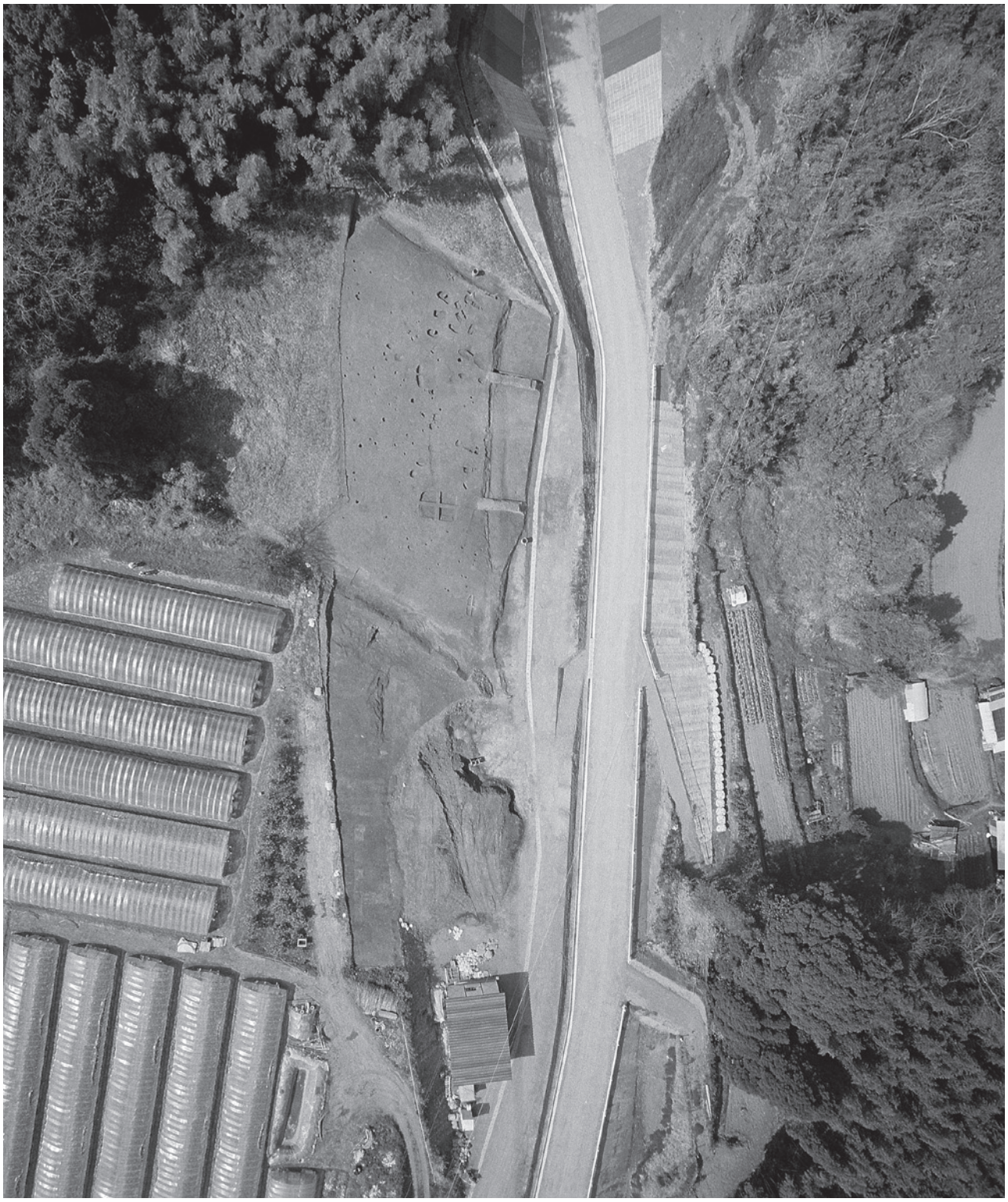


2.　23-SD（南東から）



3.　36-SD（北西から）

4.　調査区 北半（南から）



調査区 全景（南から）

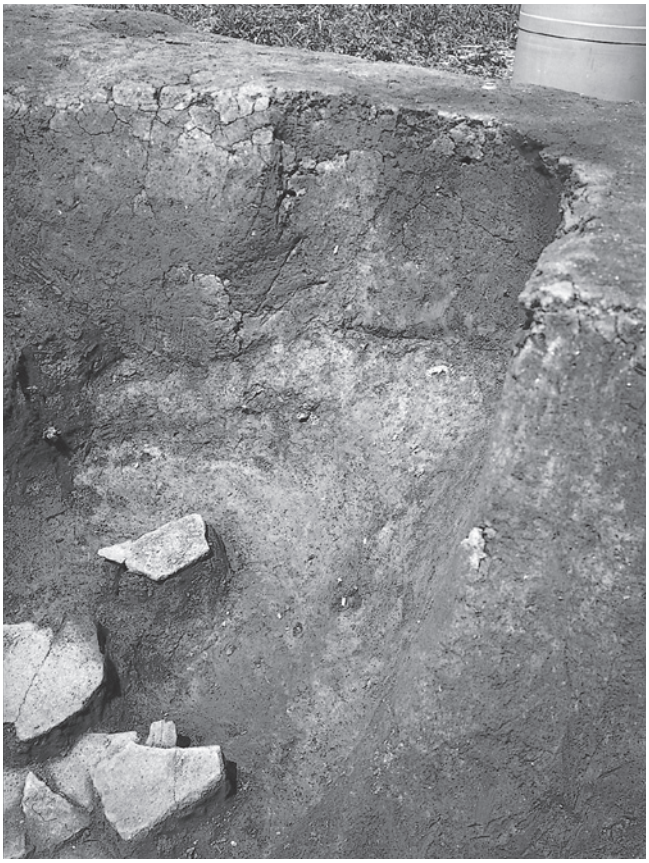
1.　調査区南西端（北東から）

2.　調査区北東端（東から）

1.　001・002・003-SK（東から）

2.　003-SK（東から）

3.　001-SK（北から）



4.　001-SK 管玉出土状況（南から）

1.　37-SI（南東から）

2.　008-SK（北東から）

3.　010-SK 周辺（東から）

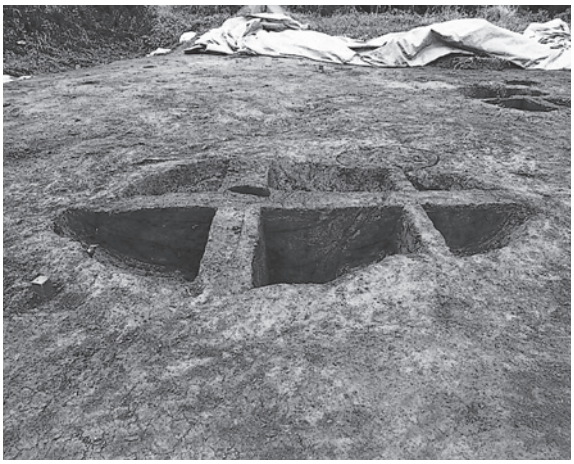
4.　010-SK（南西から）

5.　008・153・007-SK（北西から）

6.　154-SK（南から）

7.　152(119)-SK（北から）

8.　155（100）-SK（南東から）



1. 156・157-SK（東から）

2. 168-SK（南から）

3. 161-SB（南西から）

4. 163-SB（北から）

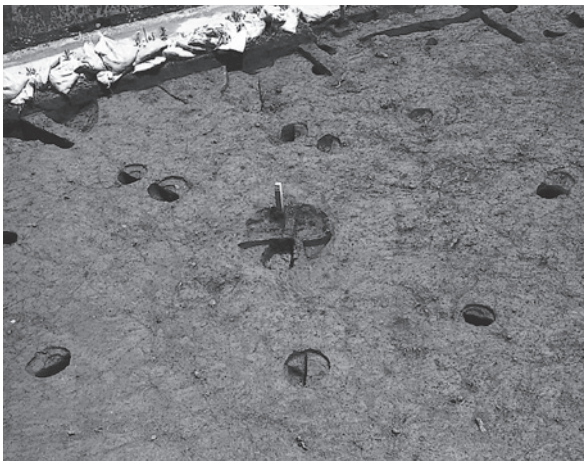
5. 164-SB（南から）

6. 165-SB（南から）

7. 167-SB（南から）

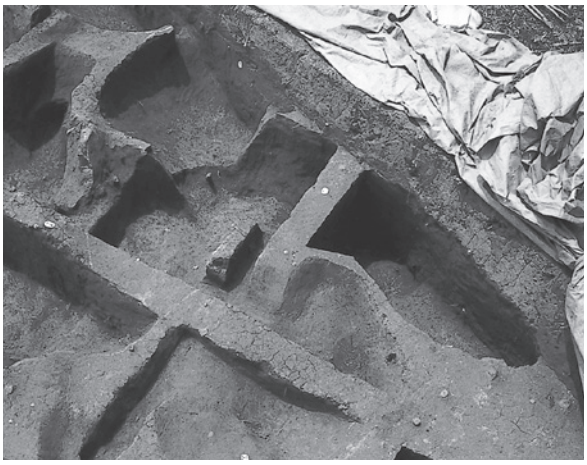
8. 160-SB（北から）

1.　2号土坑（南から）



2.　2号土坑周辺、住居跡削平状況（西から）

3.　03・09・11・13-SK（北から）

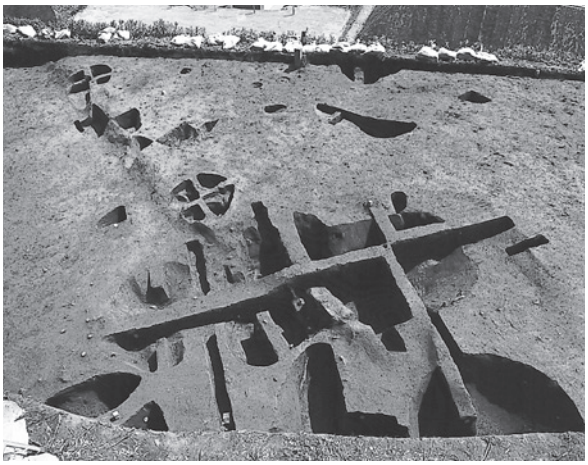


4.　09・13・35-SK（北から）

5.　10・28-SK（南西から）

6.　12号土坑（北西から）

7.　6号土坑（東から）



8.　調査区中央（南西から）

1.　調査区中央（南東から）

2.　調査区南端（北から）

1.　調査区北西端（南東から）

2.　調査区北半（南西から）

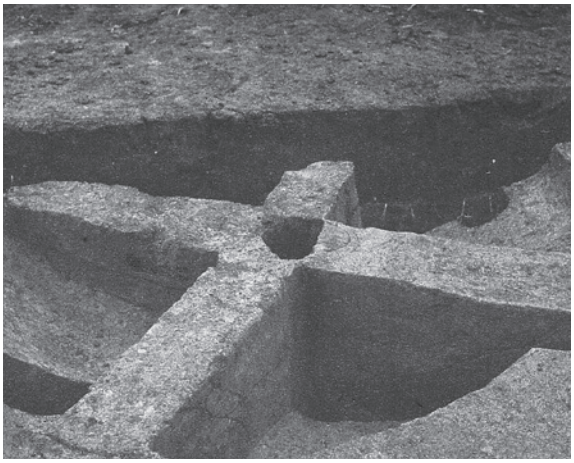
1.　調査区全景（北から）

2.　調査区西壁土層断面（東から）

1.　01・03〜05-SK（東から）

2.　01-SK 検出状況（東から）

3.　03-SK（北から）



4.　03-SK 土層断面（西から）

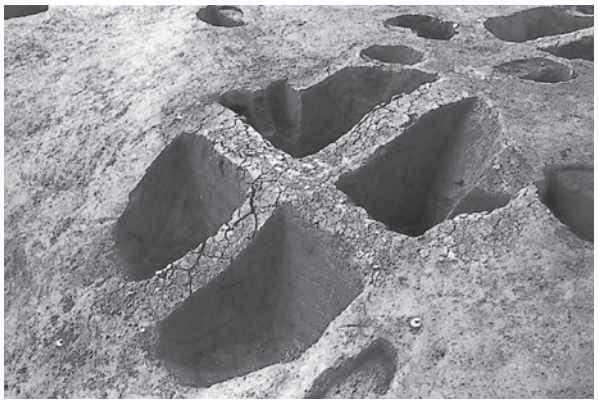
5.　06-SK 土層断面（東から）

6.　07〜09・11・21・28・36-SK（東から）

7.　07-SK 土層断面（南東から）

8.　11-SK 土層断面（北から）

1.　19・20-SK 土層断面（東から）

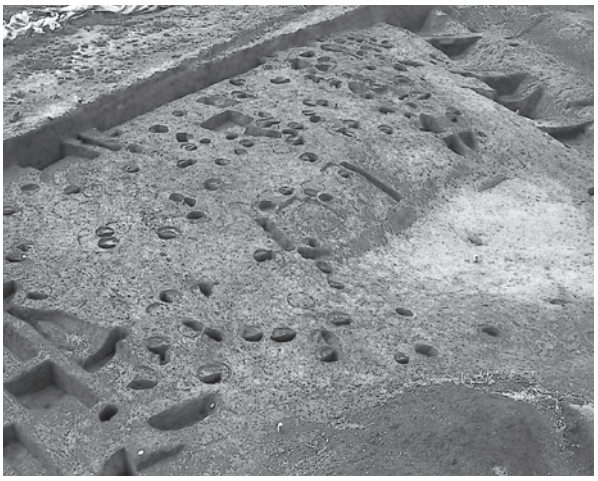


3.　26-SK（北から）

5.　35-SK 土層断面（南から）

6.　51-SK 土層断面（東から）

2.　25-SD（北西から）



4.　1001～1004-SB・2001-SA（東から）

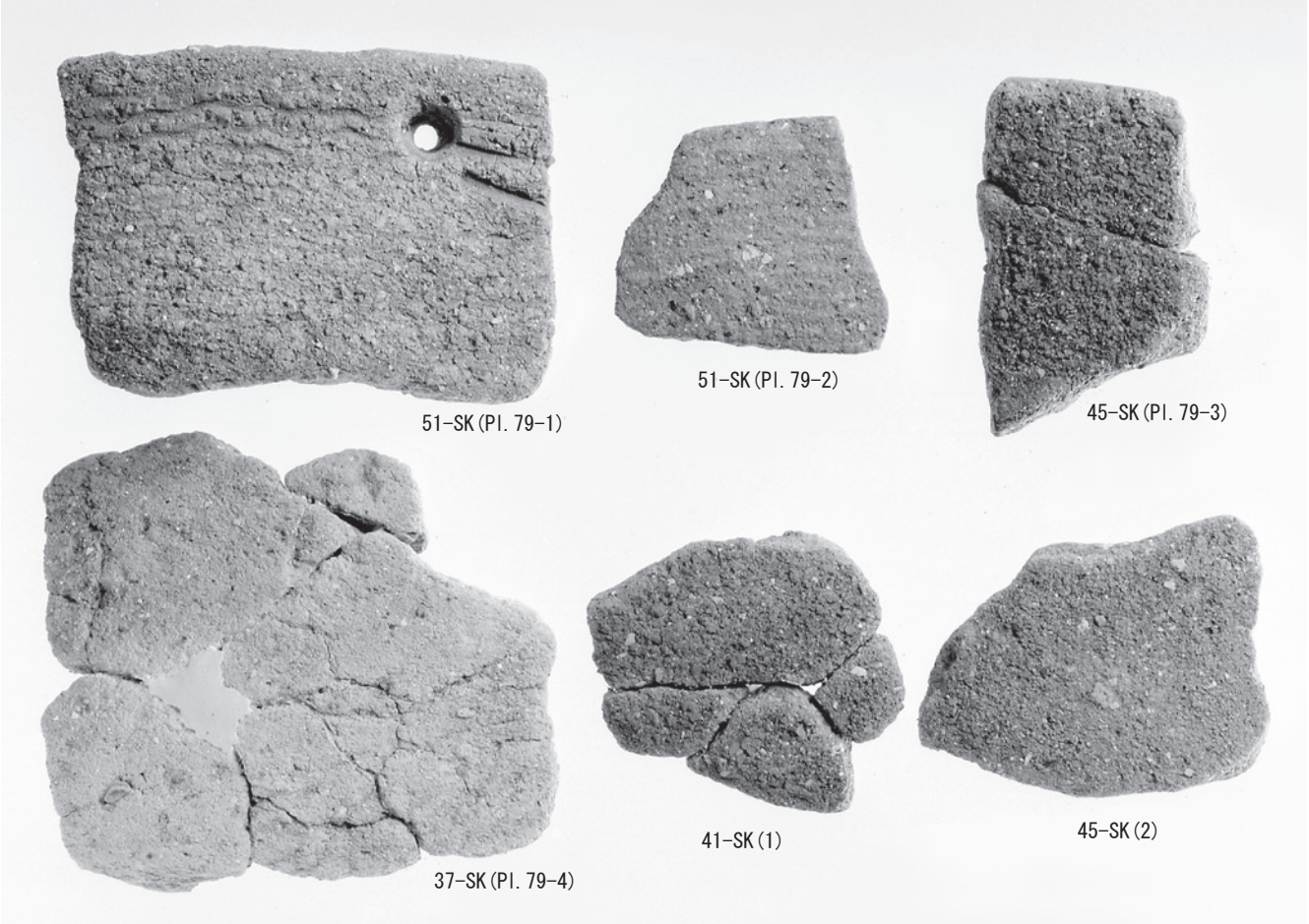
7.　1004-SB 周辺（北から）

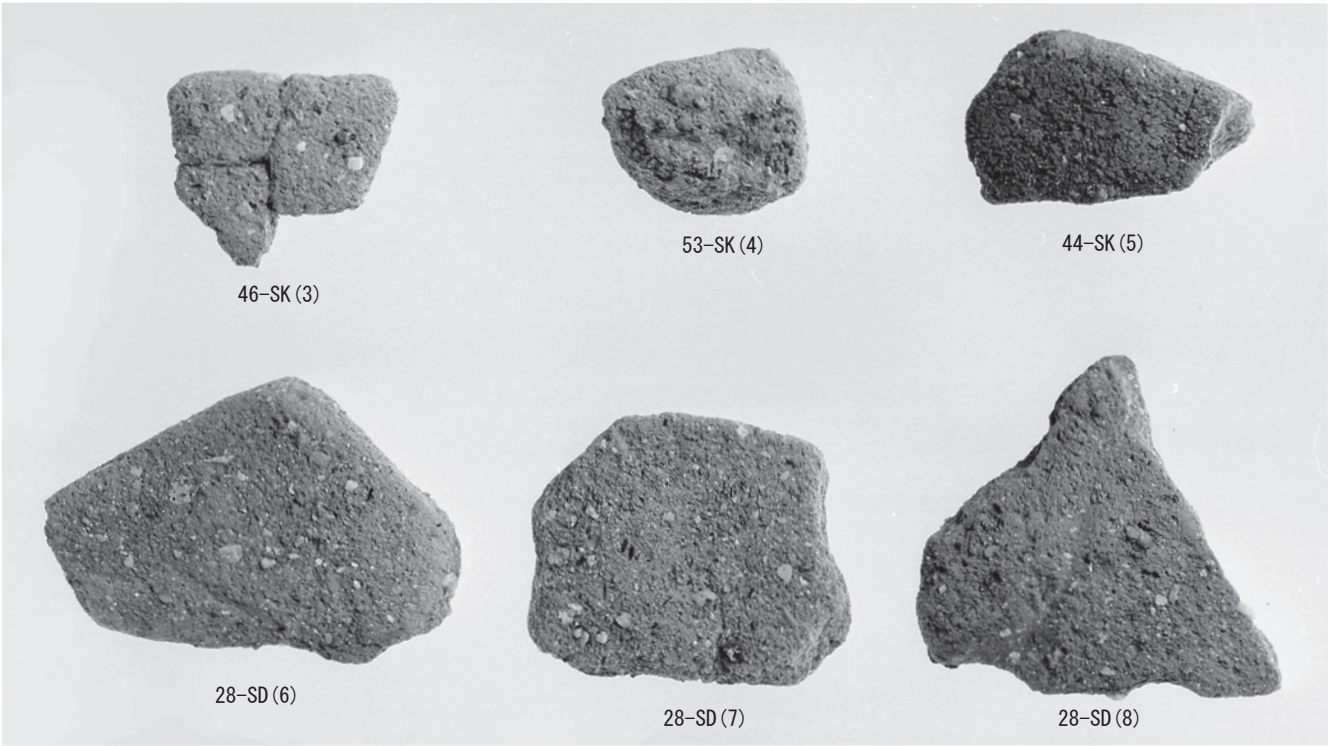
001-SK(Pl.82-1)

001-SK(Pl.82-1)

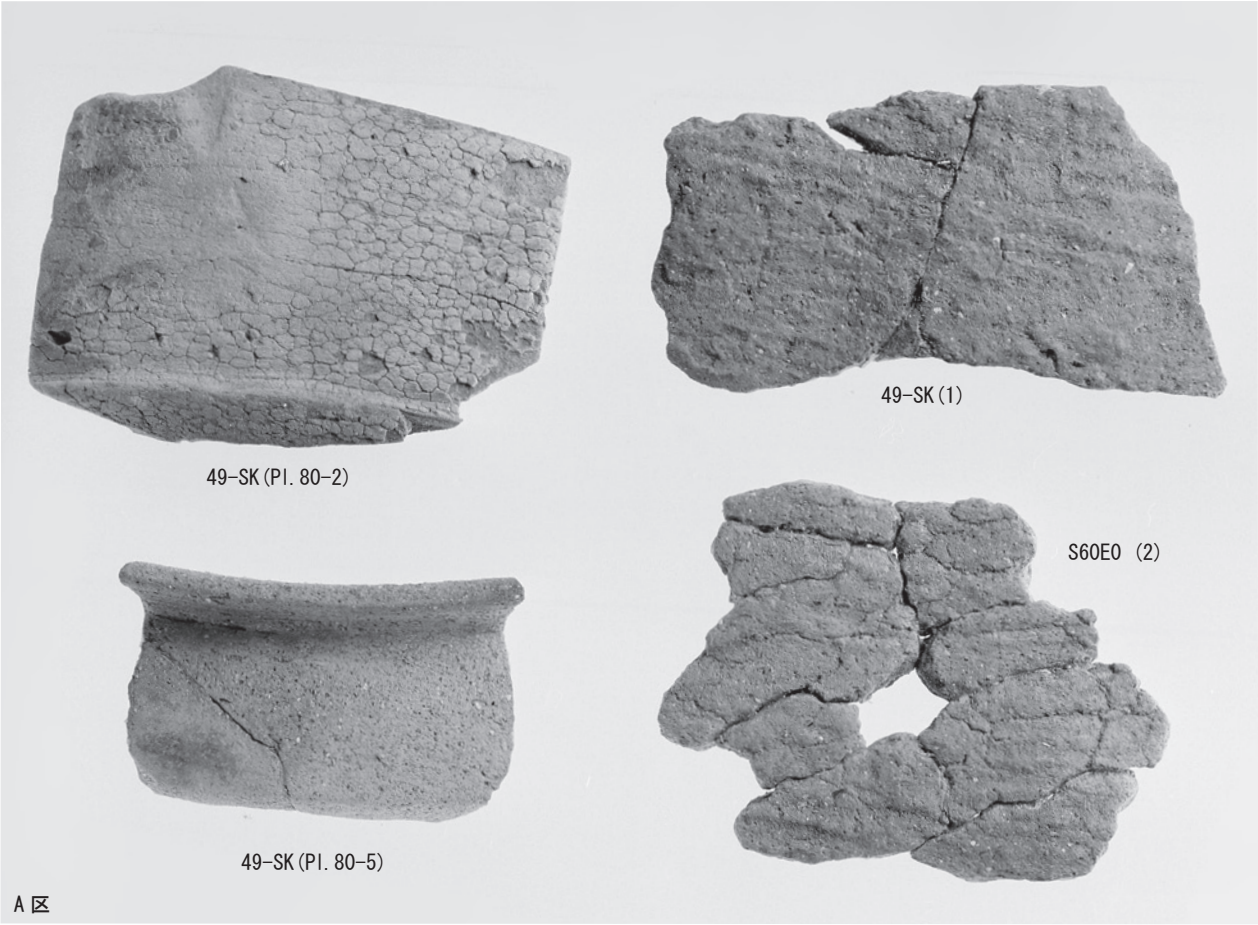
003-SK(Pl.81-6)

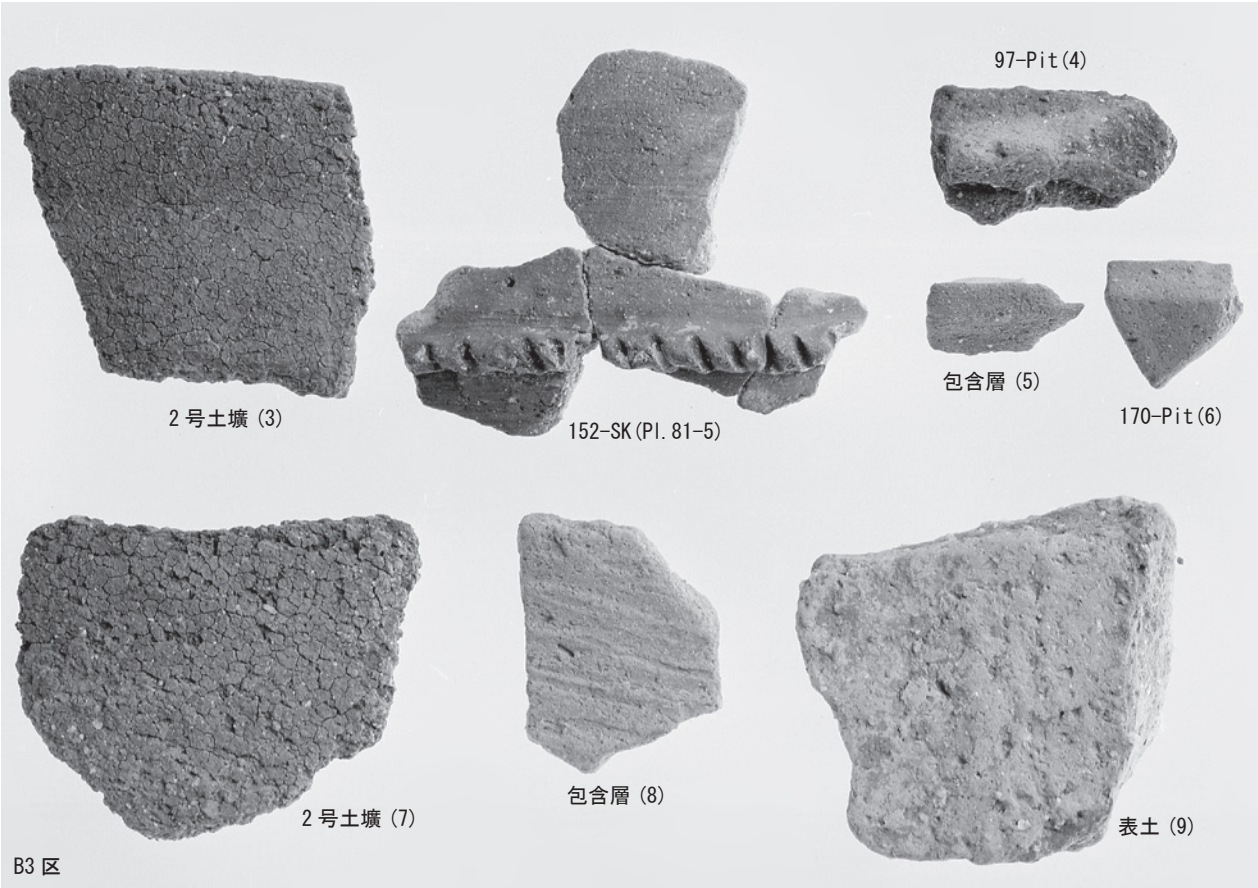
001-SK(Pl.82-1)

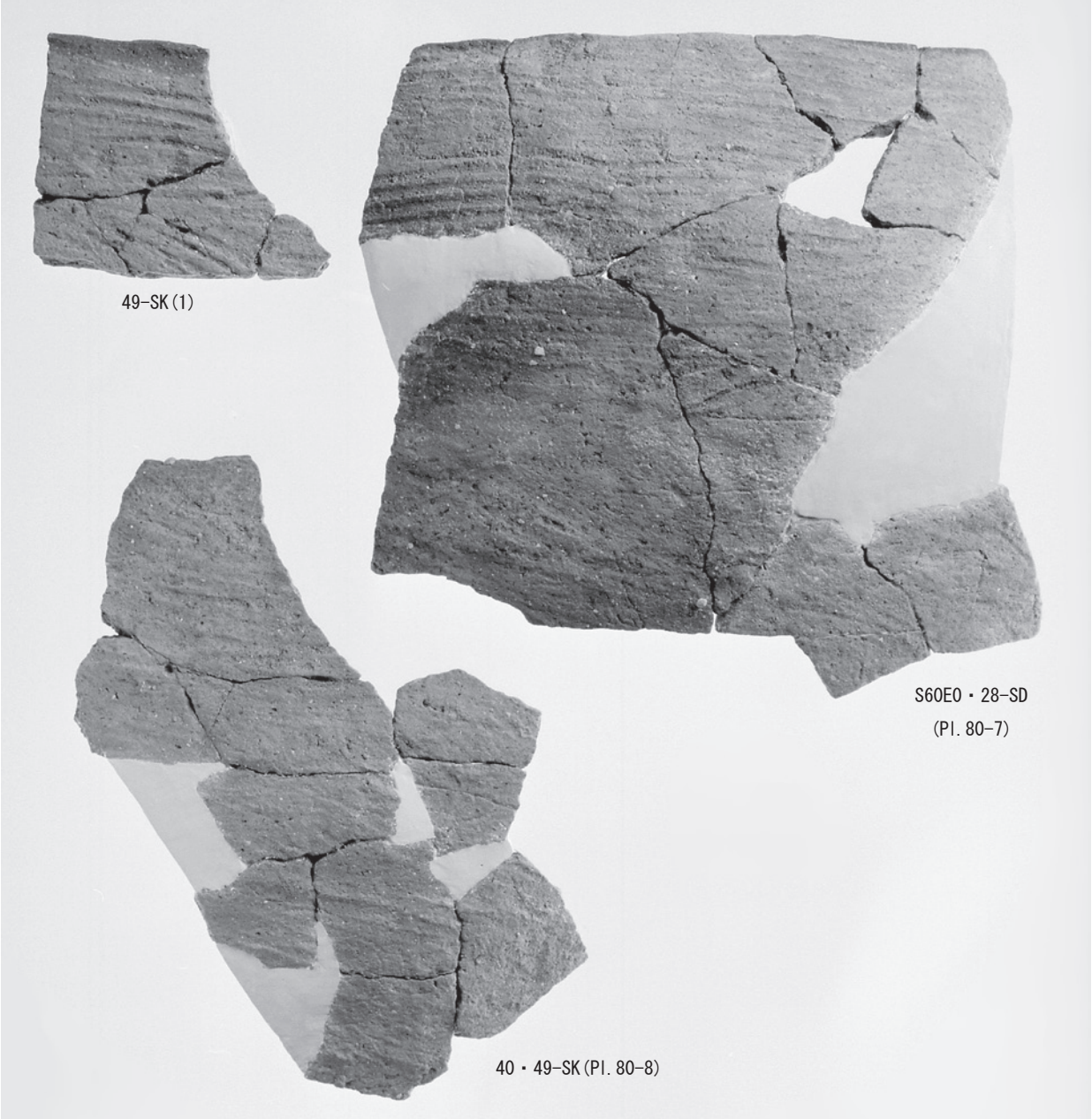

51-SK (Pl. 79-1)
51-SK (Pl. 79-2)
45-SK (Pl. 79-3)
37-SK (Pl. 79-4)
41-SK (1)
45-SK (2)

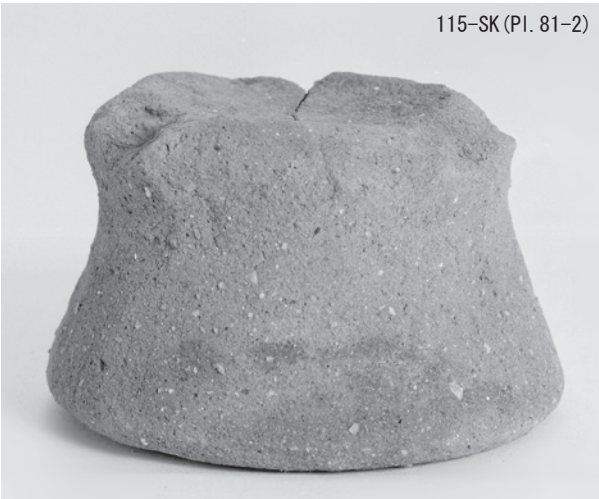

46-SK (3)
53-SK (4)
44-SK (5)
28-SD (6)
28-SD (7)
28-SD (8)

A、B3区出土縄文土器 2






49-SK(1)
S60E0・28-SD
(Pl. 80-7)
40・49-SK(Pl. 80-8)


115-SK(Pl. 81-2)

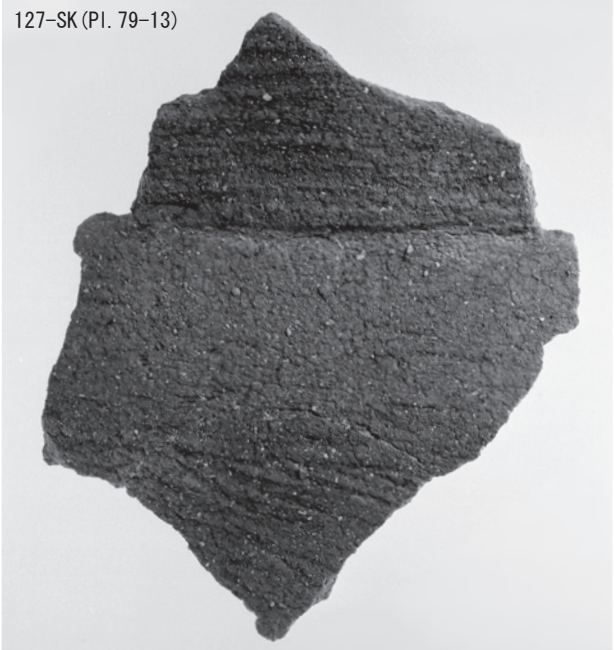
140-SK(Pl. 80-11)

08-SK (Pl. 79-14)

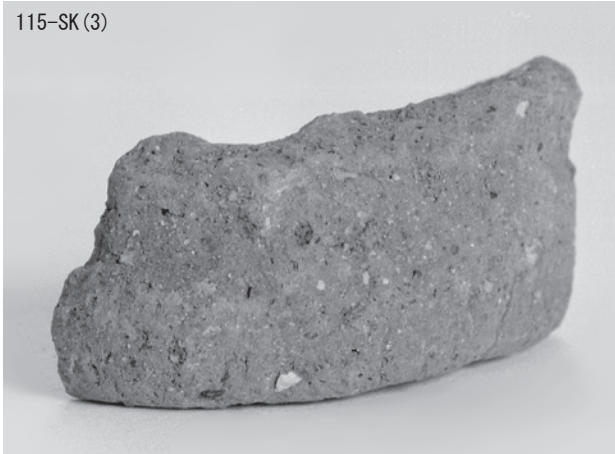
08-SK (1)

08-SK (2)

127-SK (Pl. 79-13)



115-SK (3)



127-SK (Pl. 80-6)

A区 126-SK (Pl. 81-1)

A区
140-SK(Pl. 81-3)

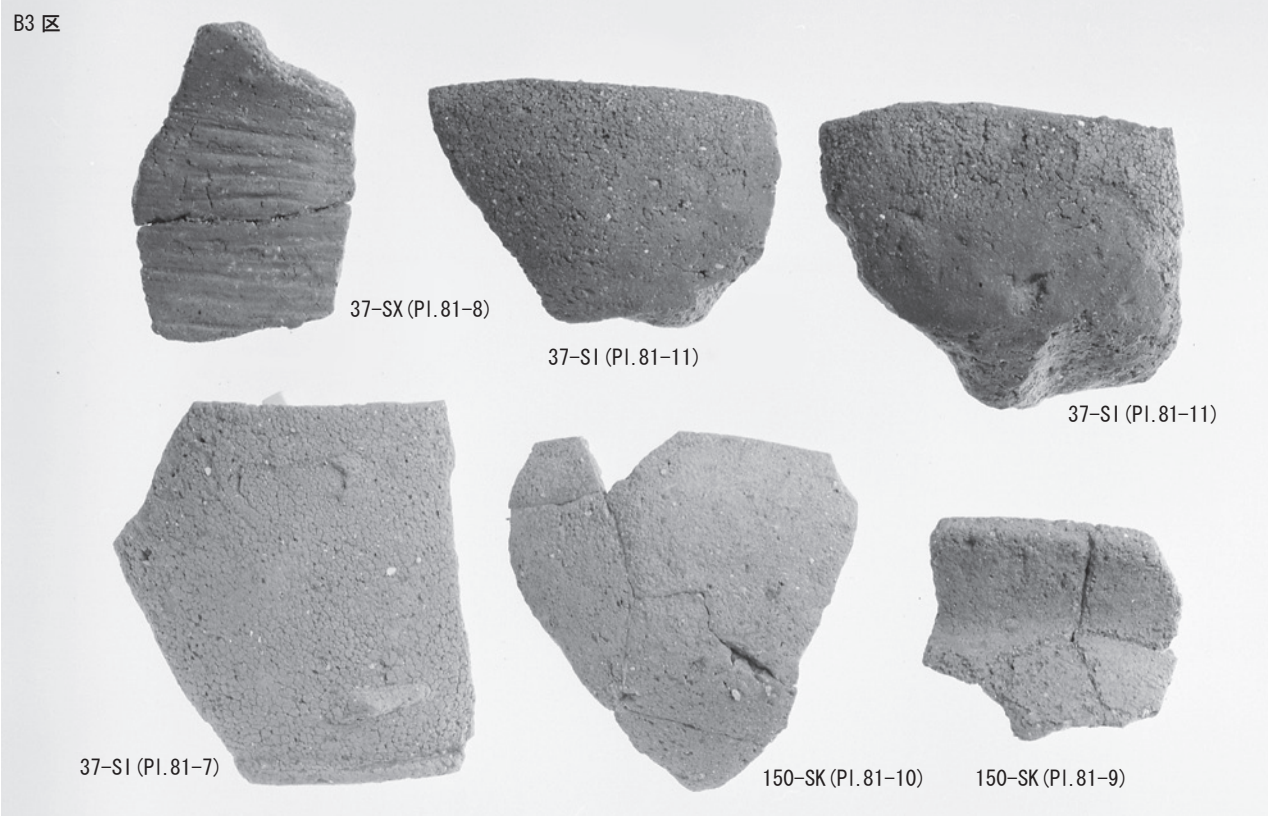
B1区
010-SK(Pl. 81-4)

A、B1・3区出土土器・埴輪

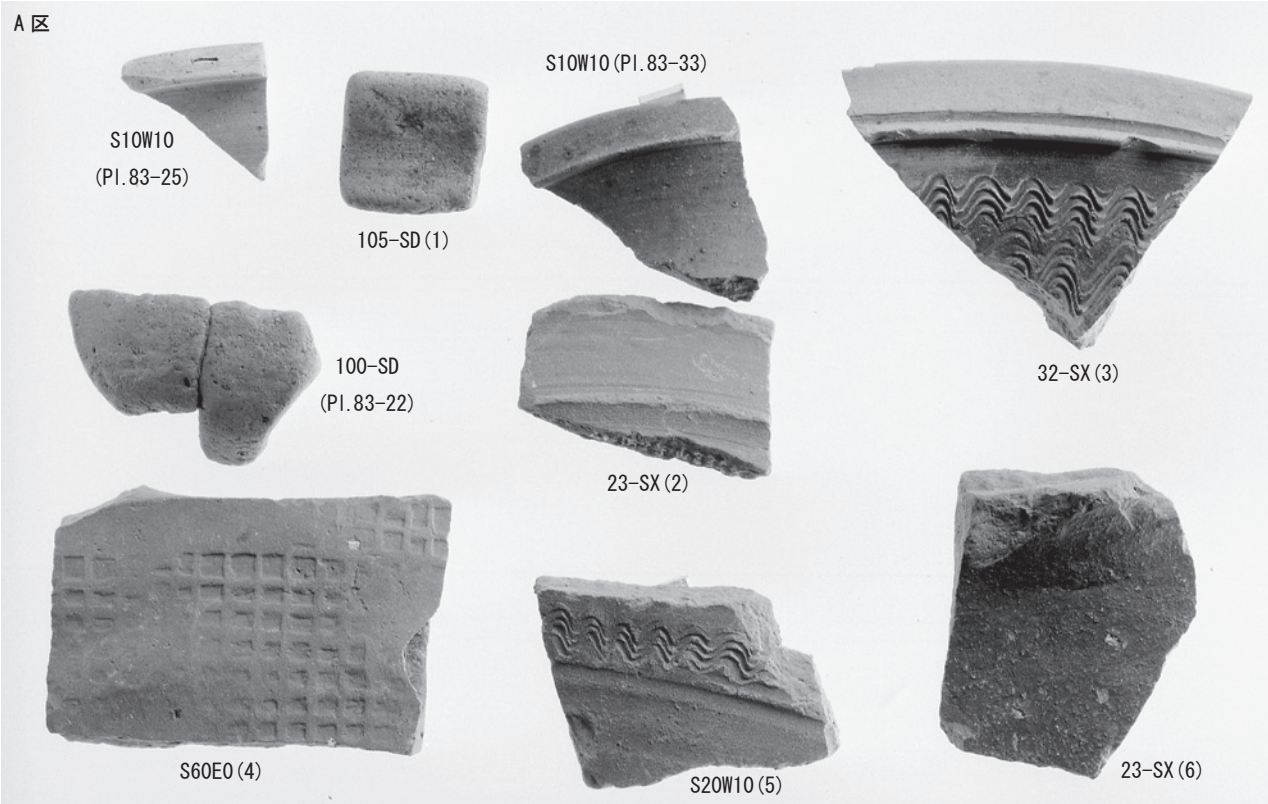
A区 S15W20(Pl.83-32)

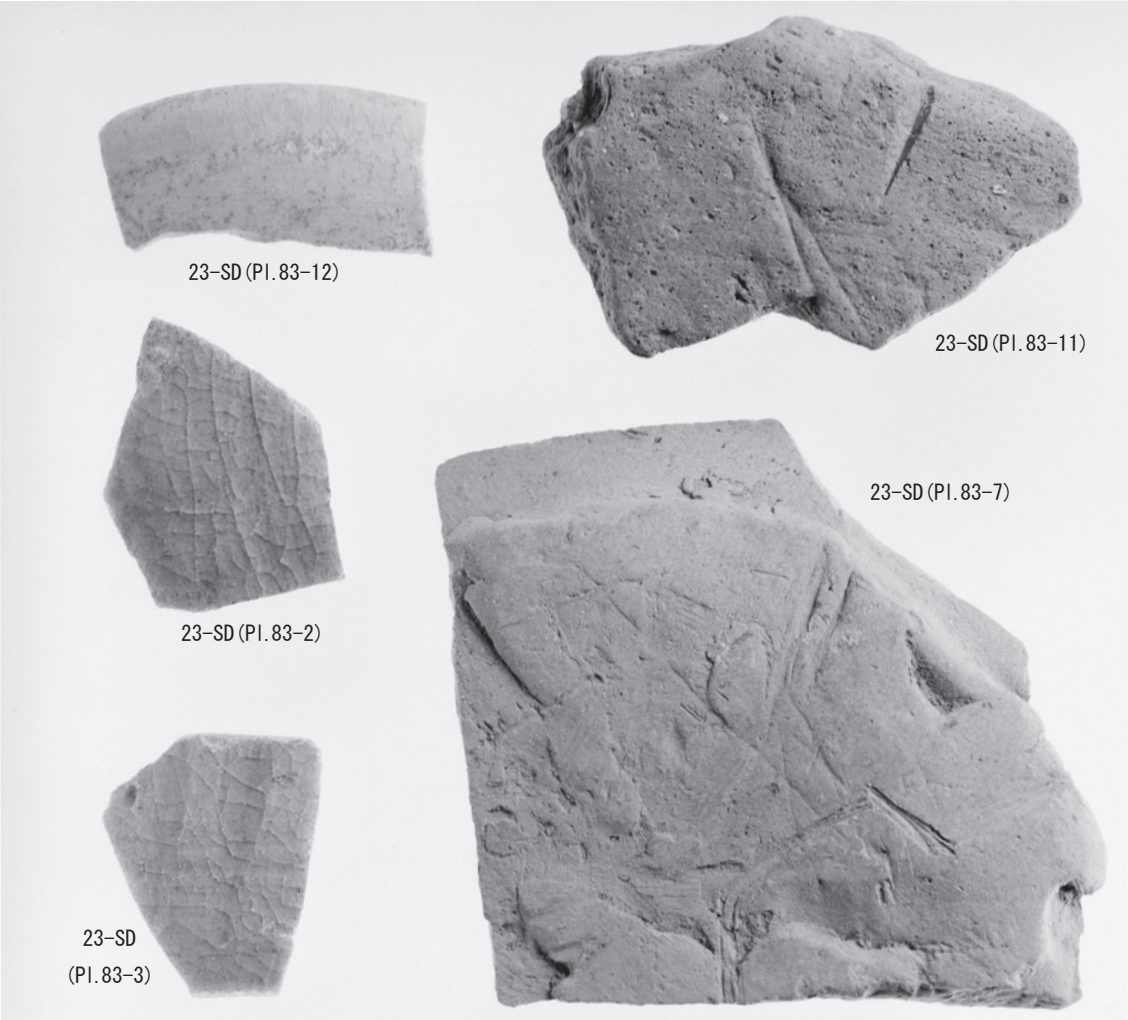
B1区 001-SK(Pl.82-2)

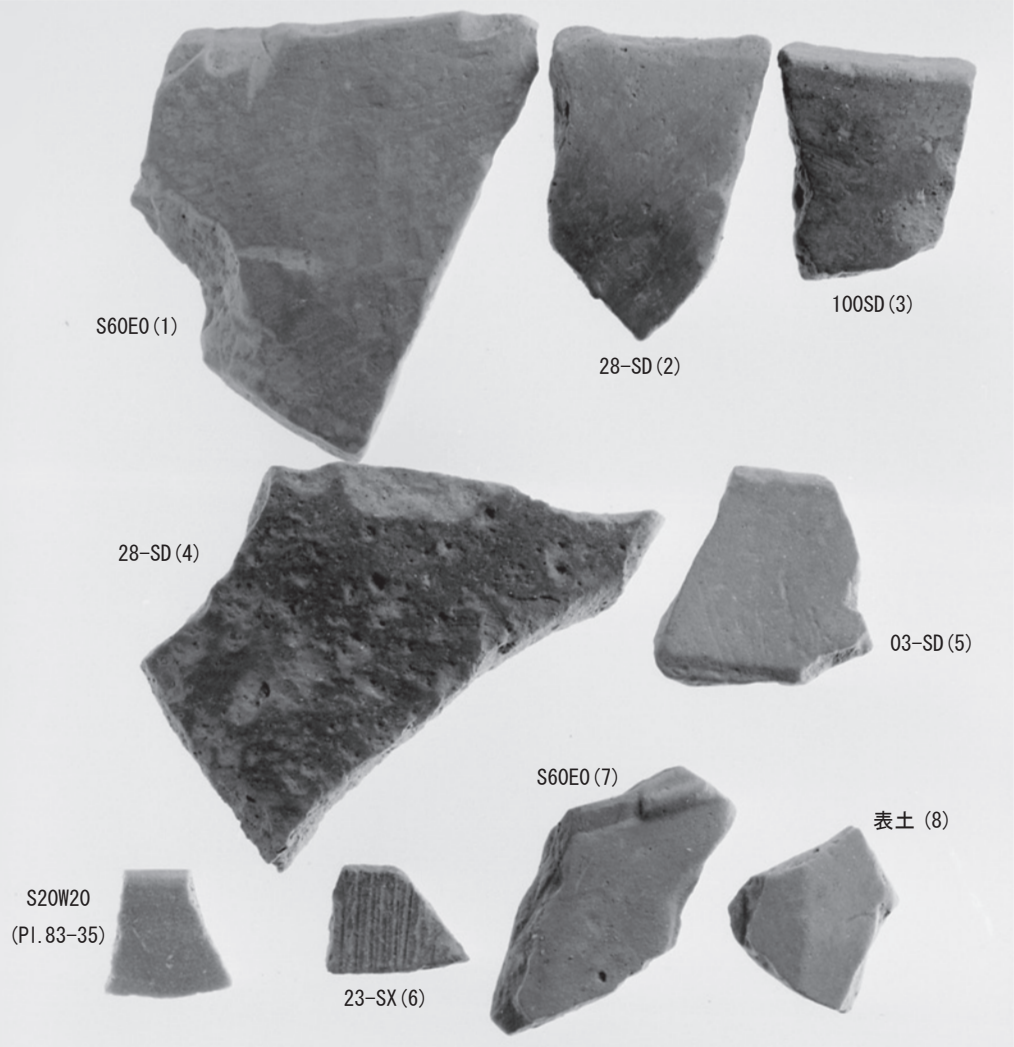
B3区

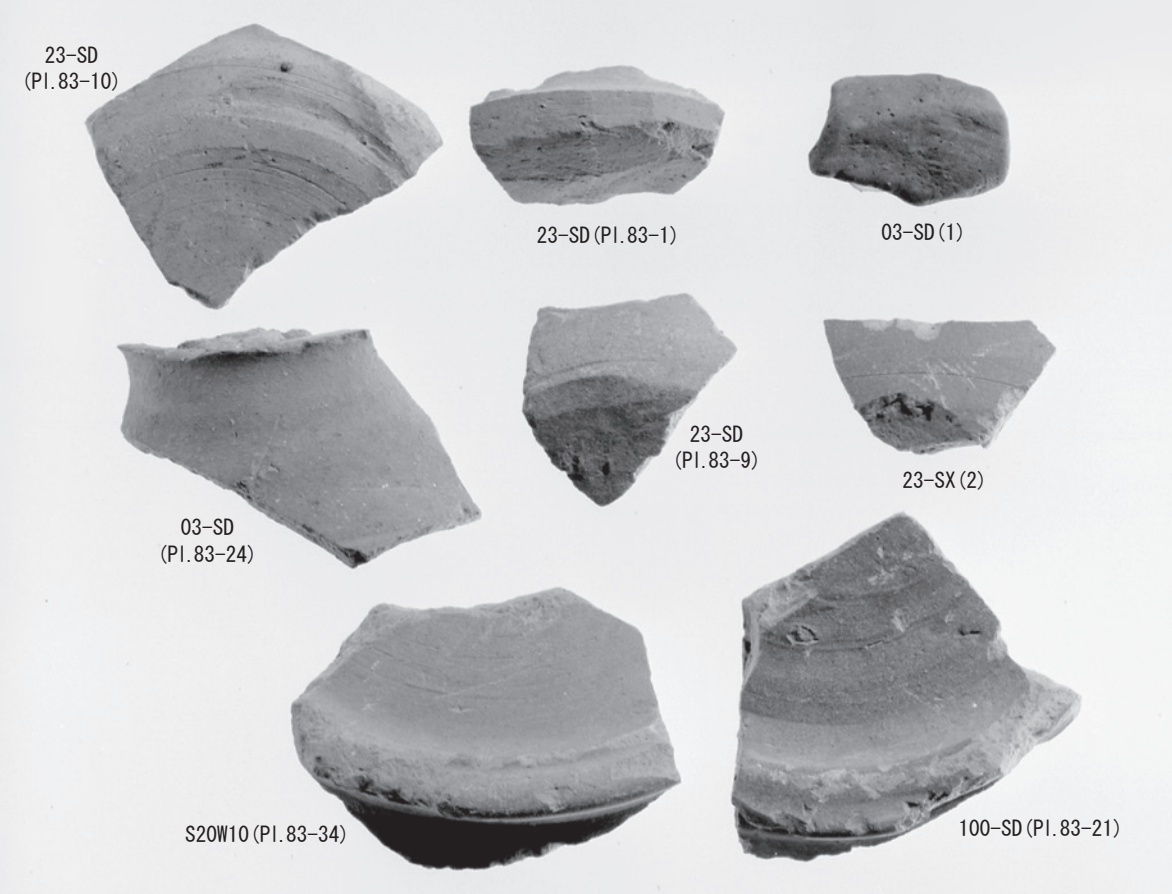


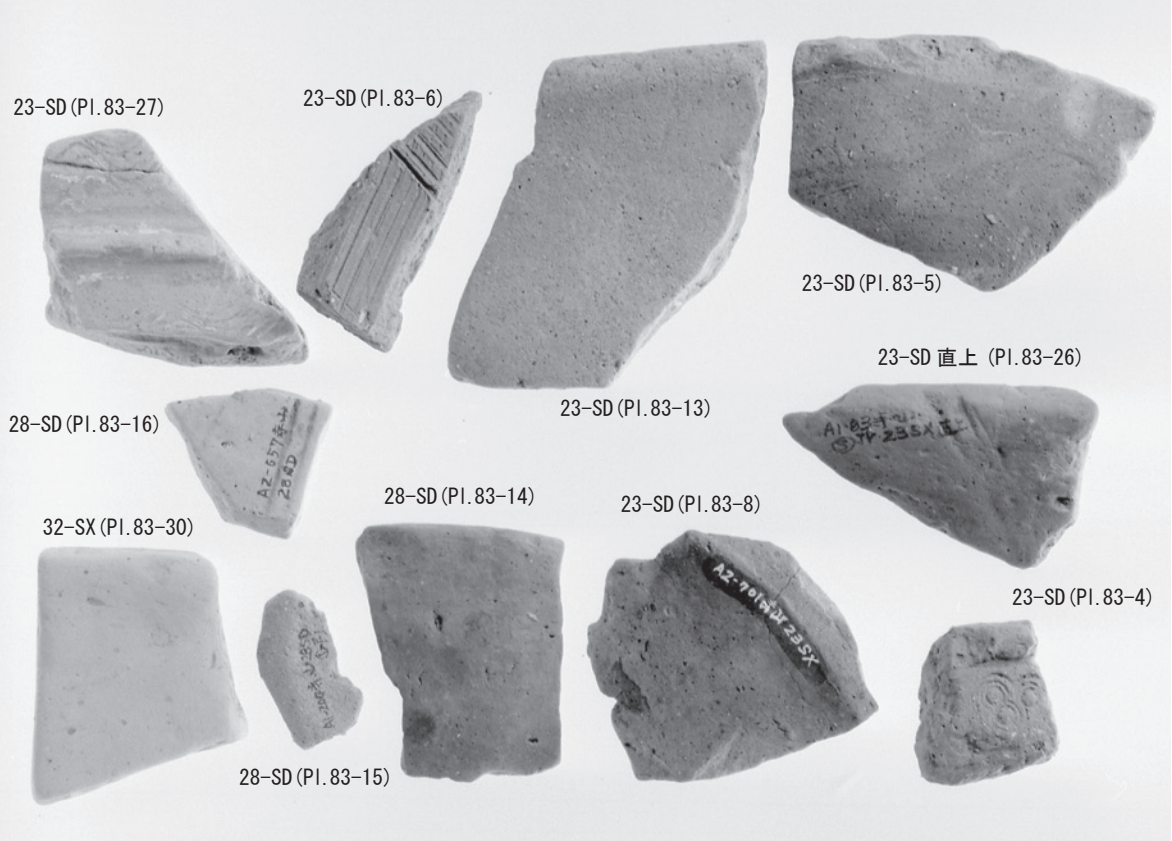
A区

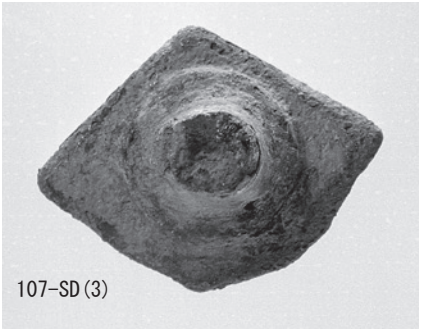


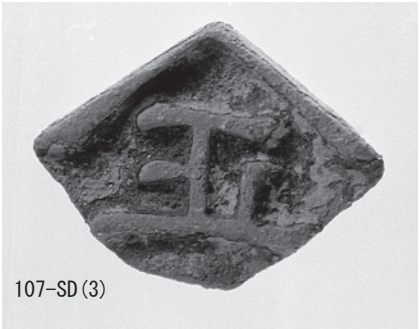

23-SD (Pl.83-12)
23-SD (Pl.83-11)
23-SD (Pl.83-7)
23-SD (Pl.83-2)
23-SD
(Pl.83-3)

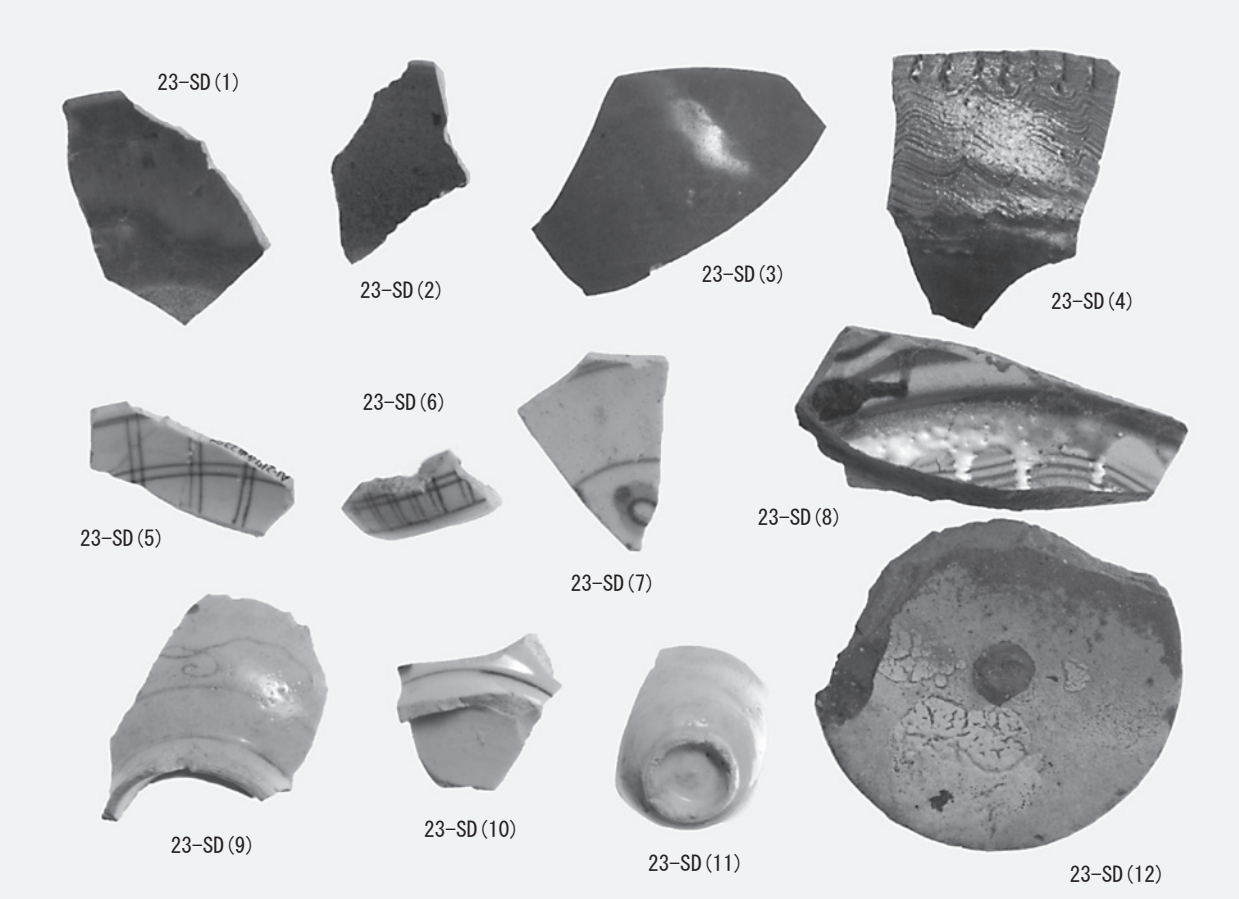

S60E0 (1)
28-SD (2)
100SD (3)
28-SD (4)
03-SD (5)
S60E0 (7)
表土 (8)
S20W20
(Pl.83-35)
23-SX (6)

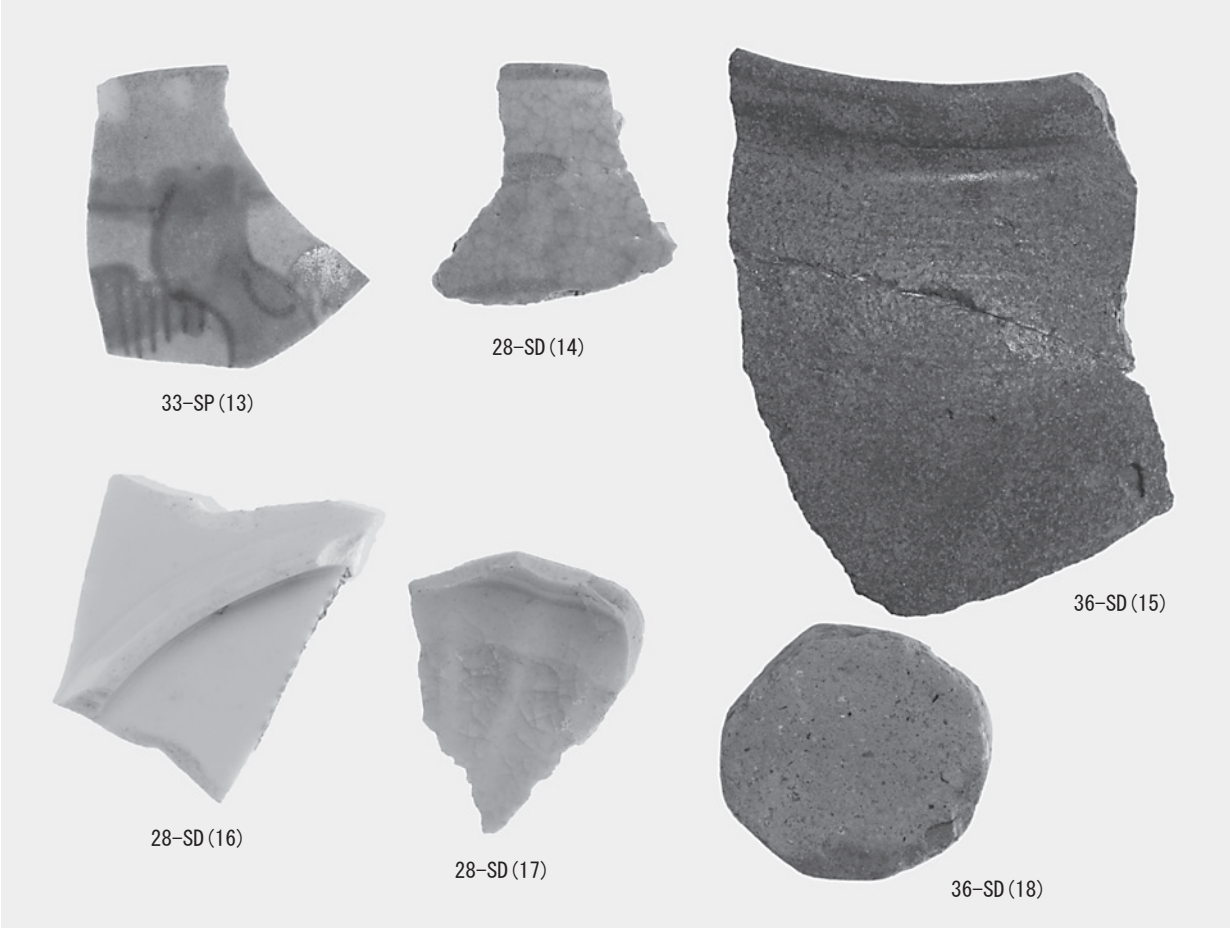

23-SD
(Pl.83-10)
23-SD (Pl.83-1)
03-SD (1)
23-SD
(Pl.83-9)
23-SX (2)
03-SD
(Pl.83-24)
S20W10 (Pl.83-34)
100-SD (Pl.83-21)

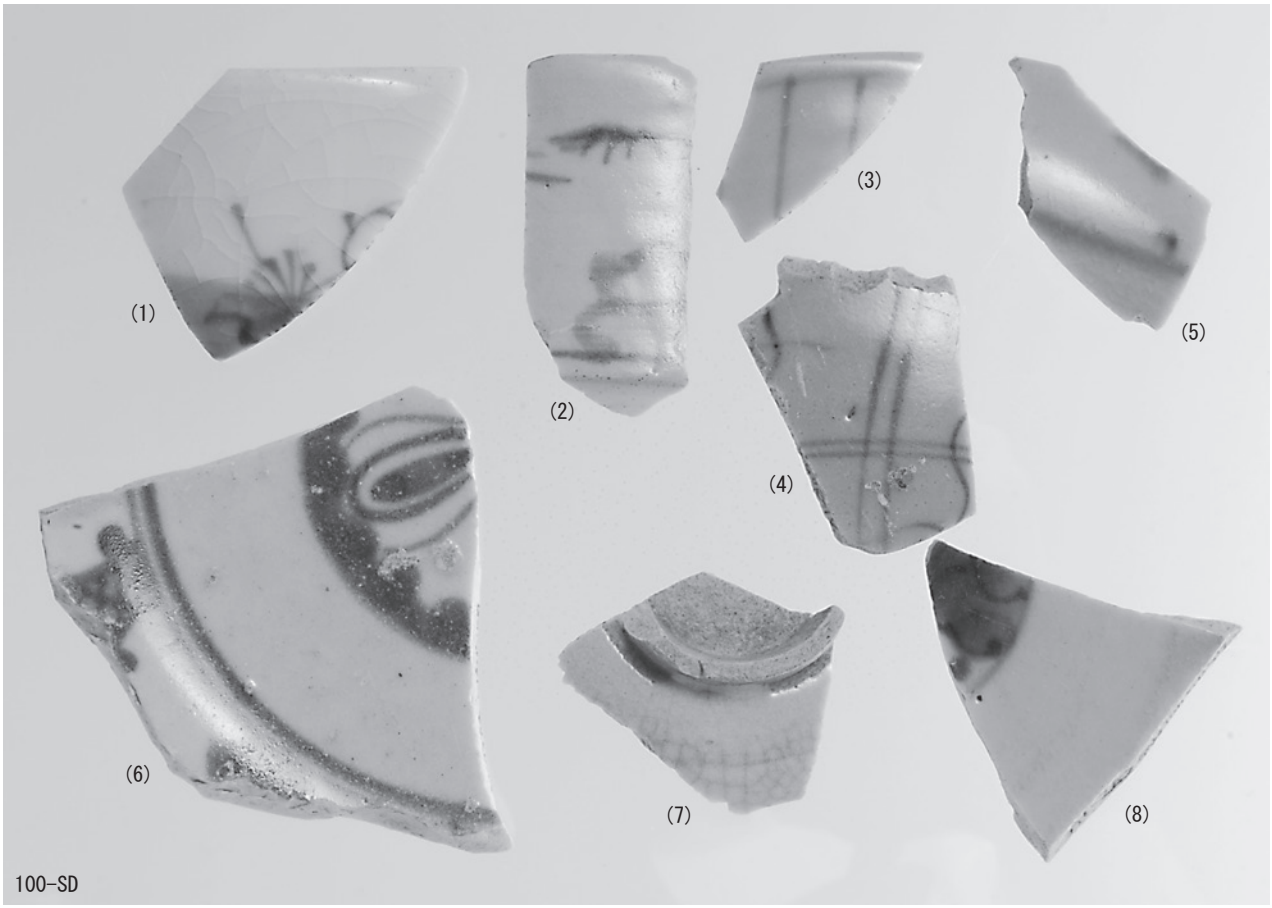

23-SD (Pl.83-27)
23-SD (Pl.83-6)
23-SD (Pl.83-5)
23-SD 直上 (Pl.83-26)
23-SD (Pl.83-13)
28-SD (Pl.83-16)
28-SD (Pl.83-14)
23-SD (Pl.83-8)
32-SX (Pl.83-30)
23-SD (Pl.83-4)
28-SD (Pl.83-15)

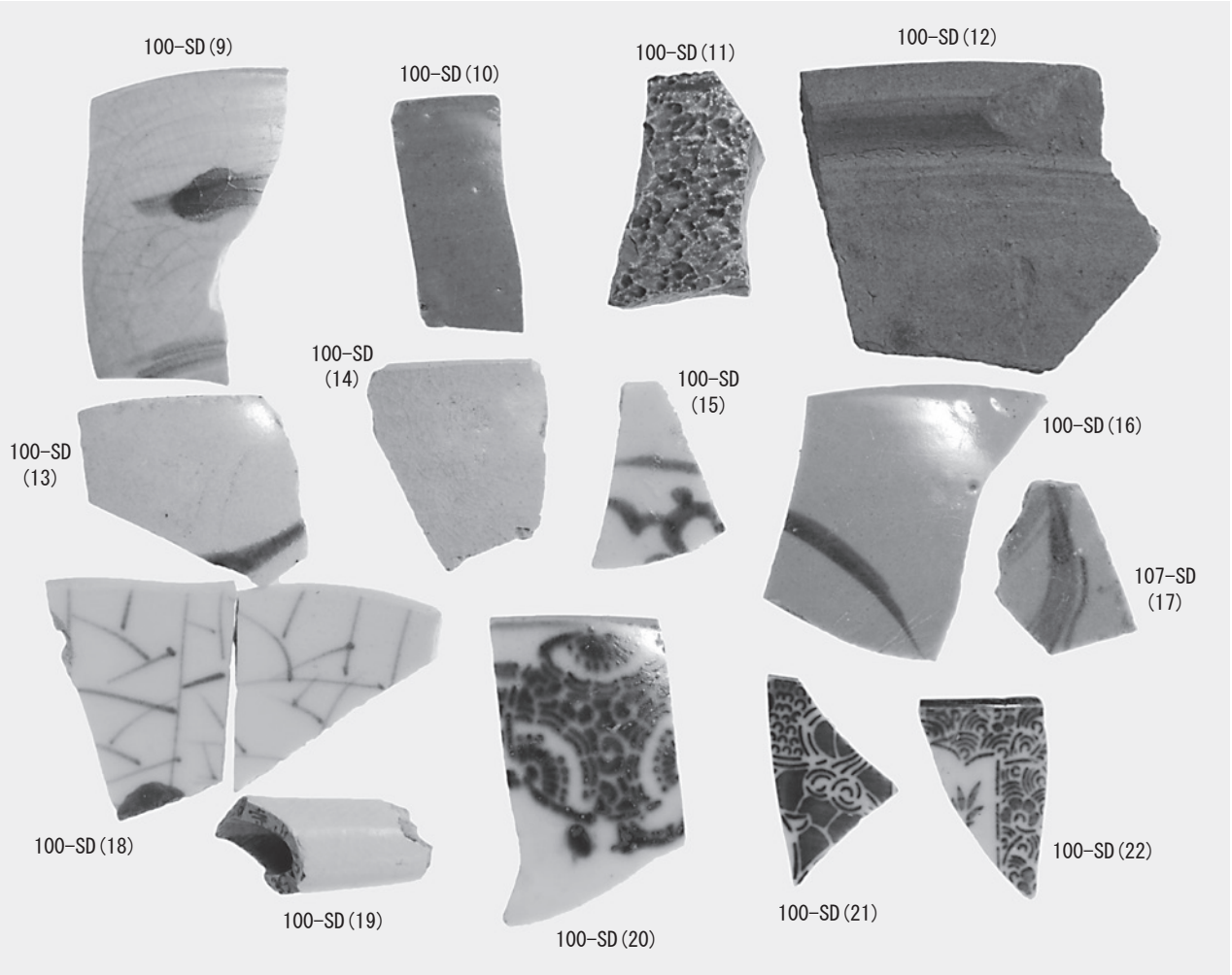

107-SD (3)

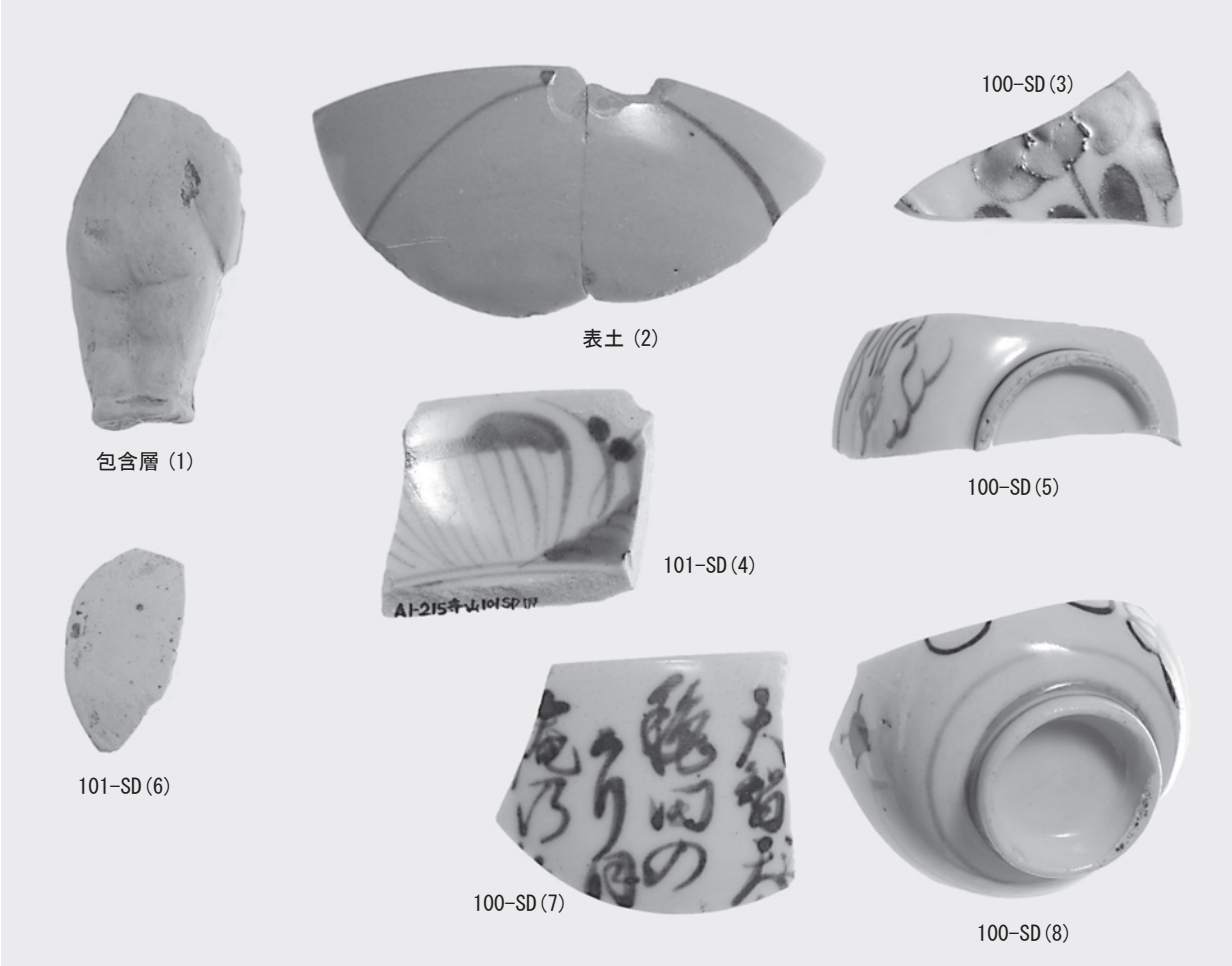

107-SD (3)

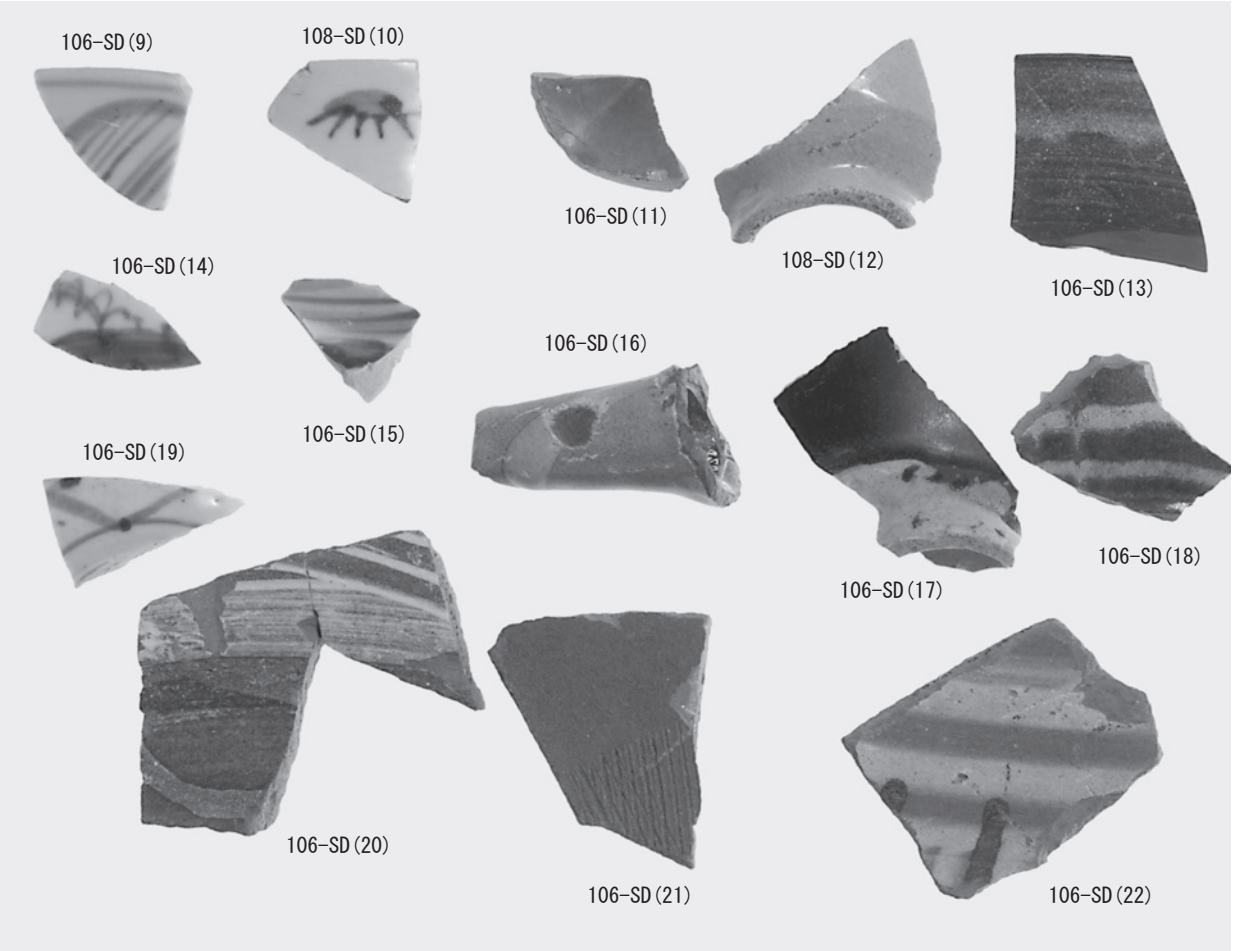

23-SD (1)
23-SD (2)
23-SD (3)
23-SD (4)
23-SD (6)
23-SD (5)
23-SD (7)
23-SD (8)
23-SD (9)
23-SD (10)
23-SD (11)
23-SD (12)

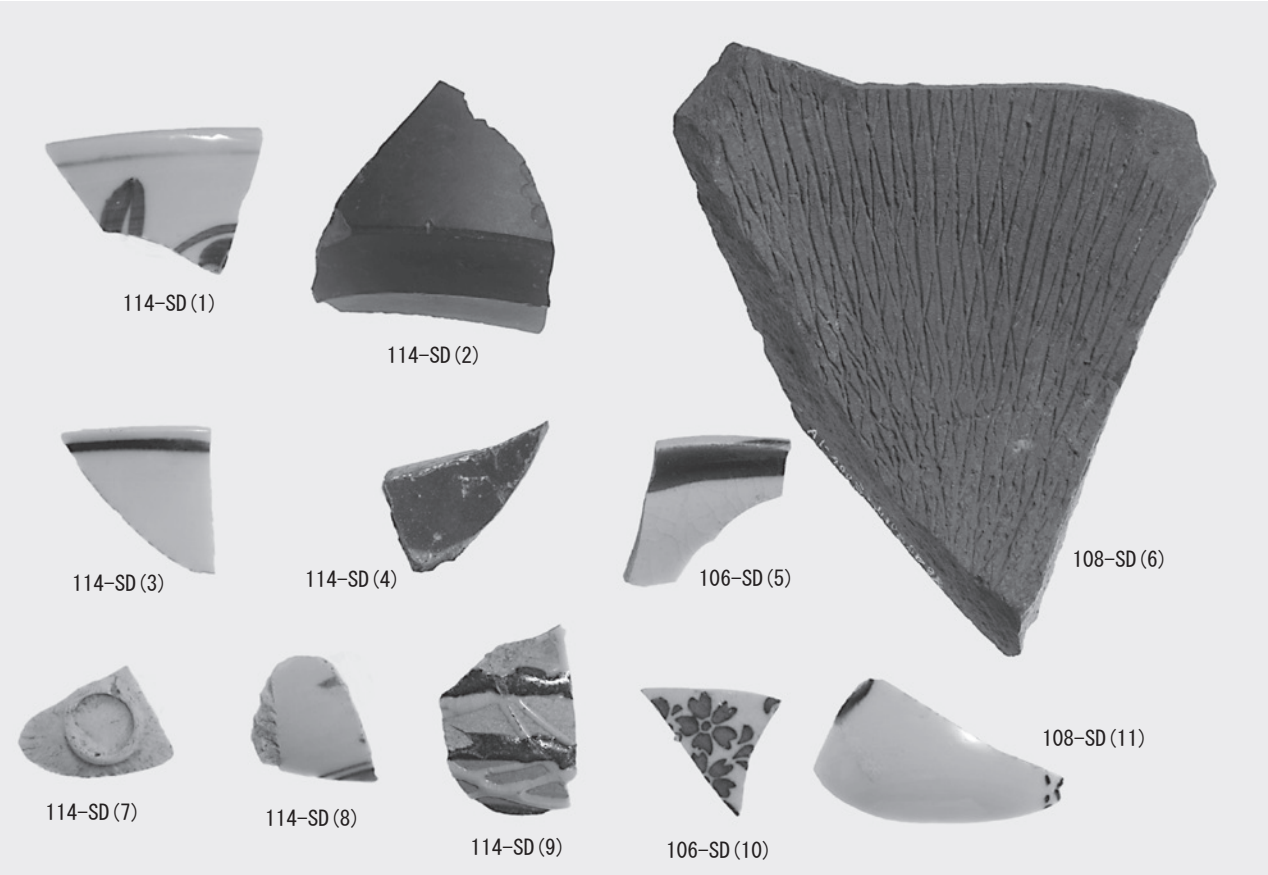

33-SP (13)
28-SD (14)
36-SD (15)
28-SD (16)
28-SD (17)
36-SD (18)

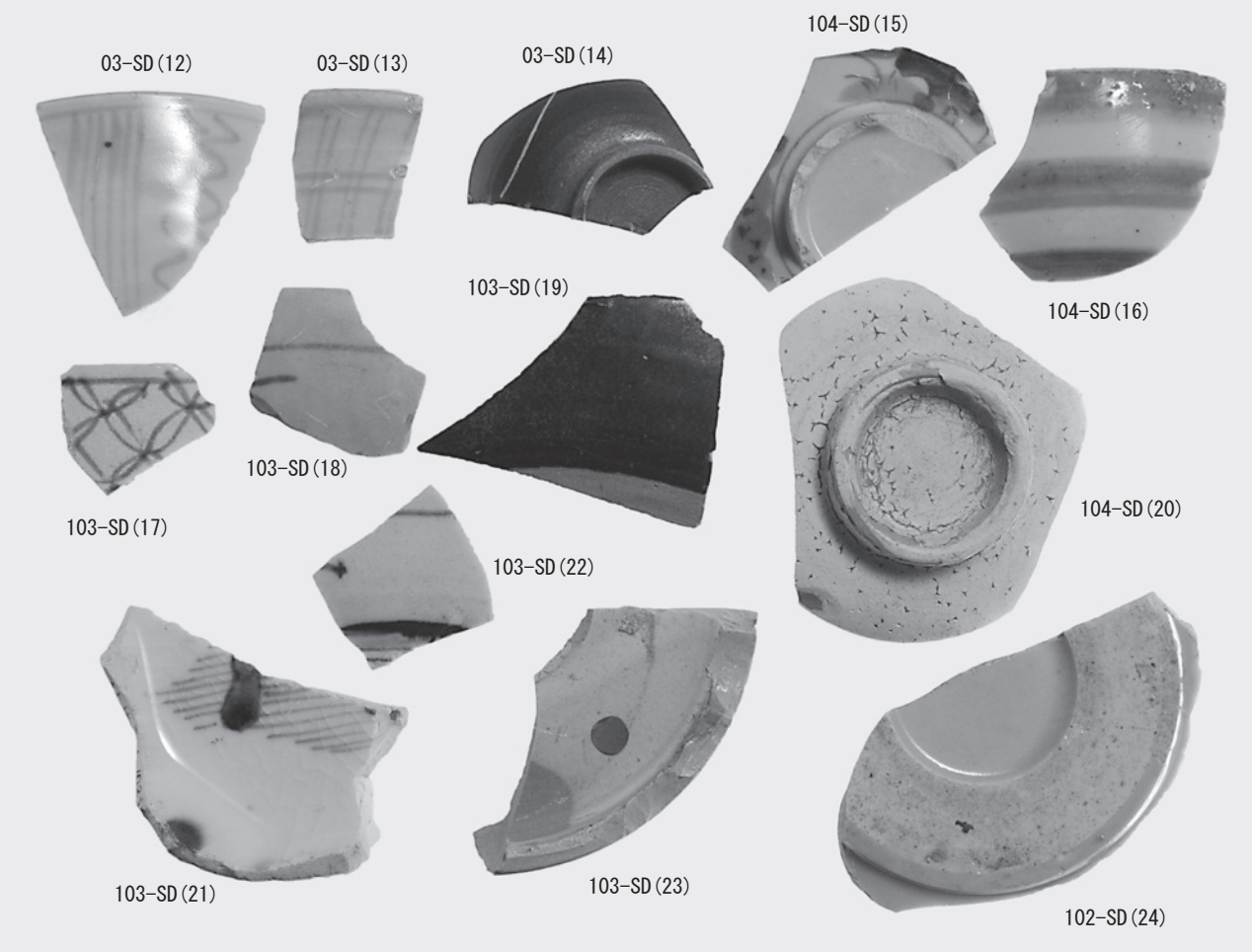

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)
(7)
(8)
100-SD

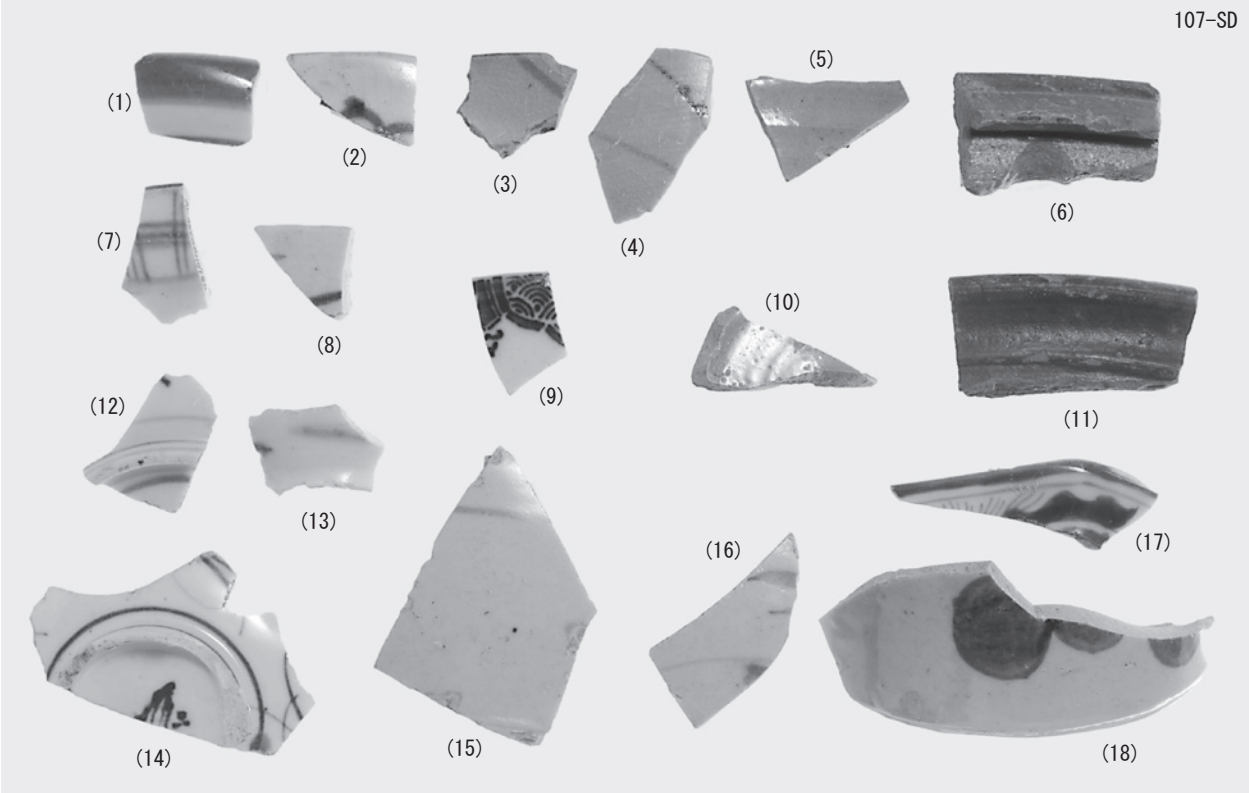

100-SD (9)
100-SD (10)
100-SD (11)
100-SD (12)
100-SD (13)
100-SD (14)
100-SD (15)
100-SD (16)
107-SD (17)
100-SD (18)
100-SD (19)
100-SD (20)
100-SD (21)
100-SD (22)

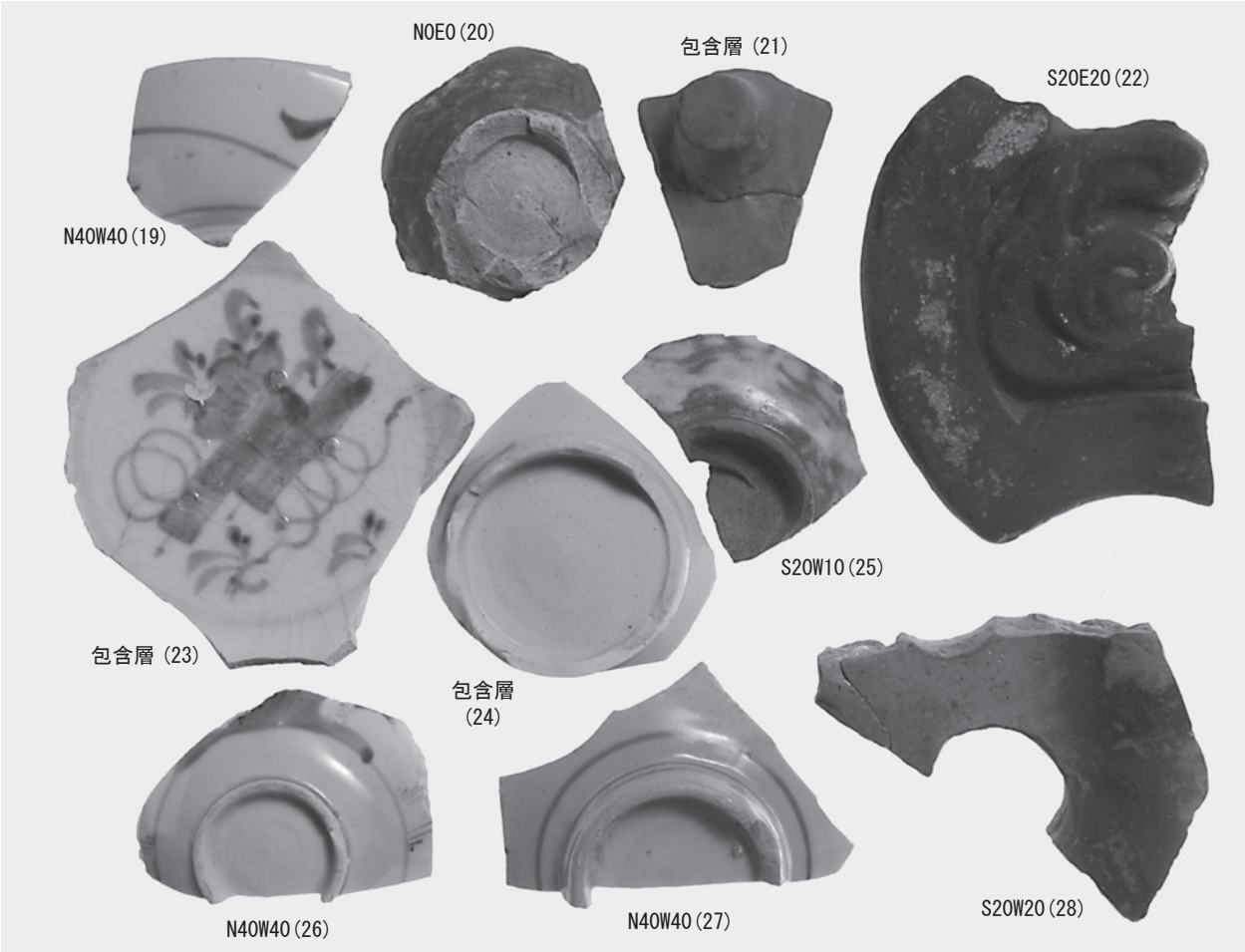

100-SD (3)
表土 (2)
包含層 (1)
100-SD (5)
101-SD (4)
101-SD (6)
100-SD (7)
100-SD (8)

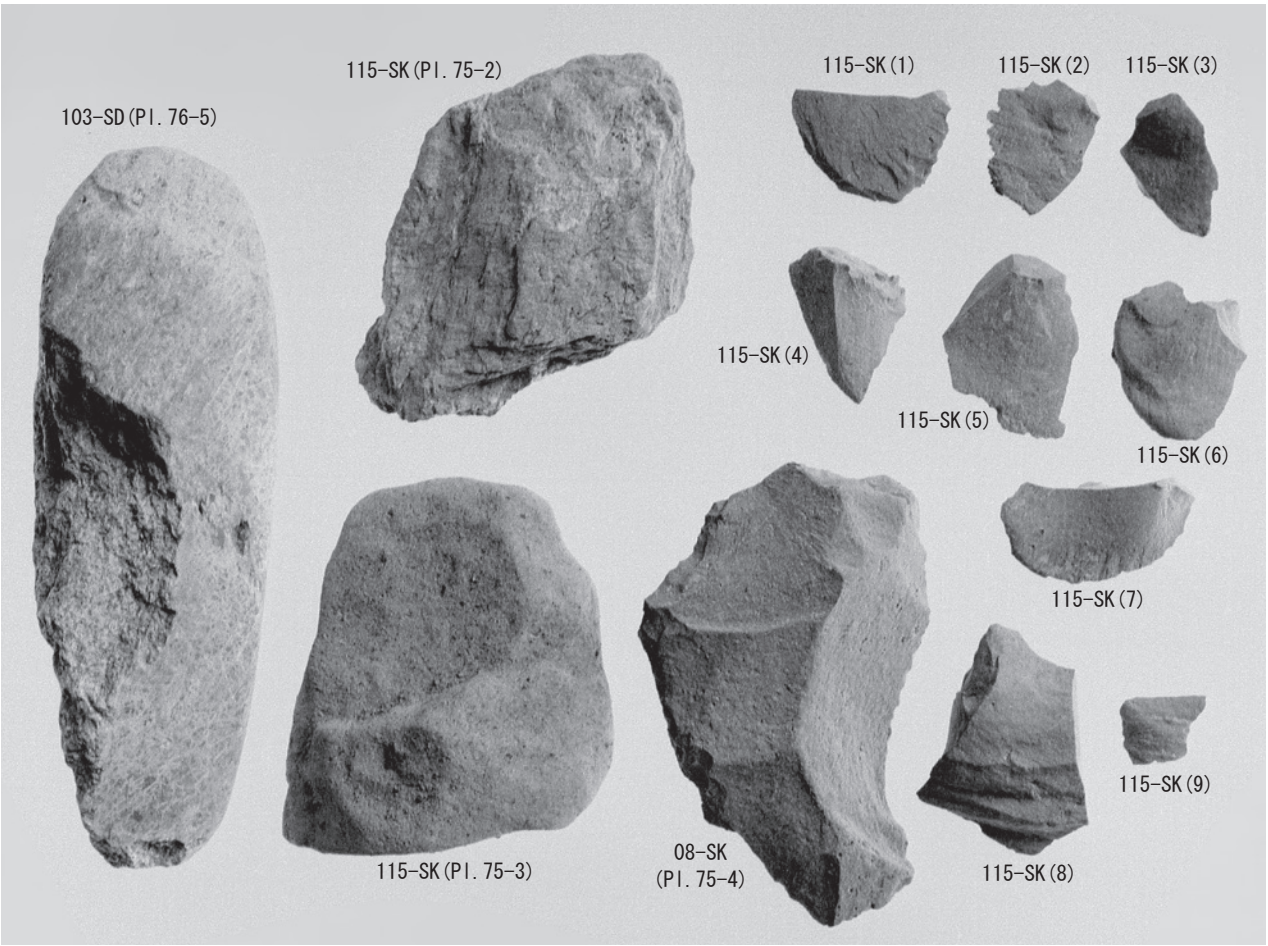

106-SD (9)
108-SD (10)
106-SD (11)
108-SD (12)
106-SD (13)
106-SD (14)
106-SD (15)
106-SD (16)
106-SD (17)
106-SD (18)
106-SD (19)
106-SD (20)
106-SD (21)
106-SD (22)

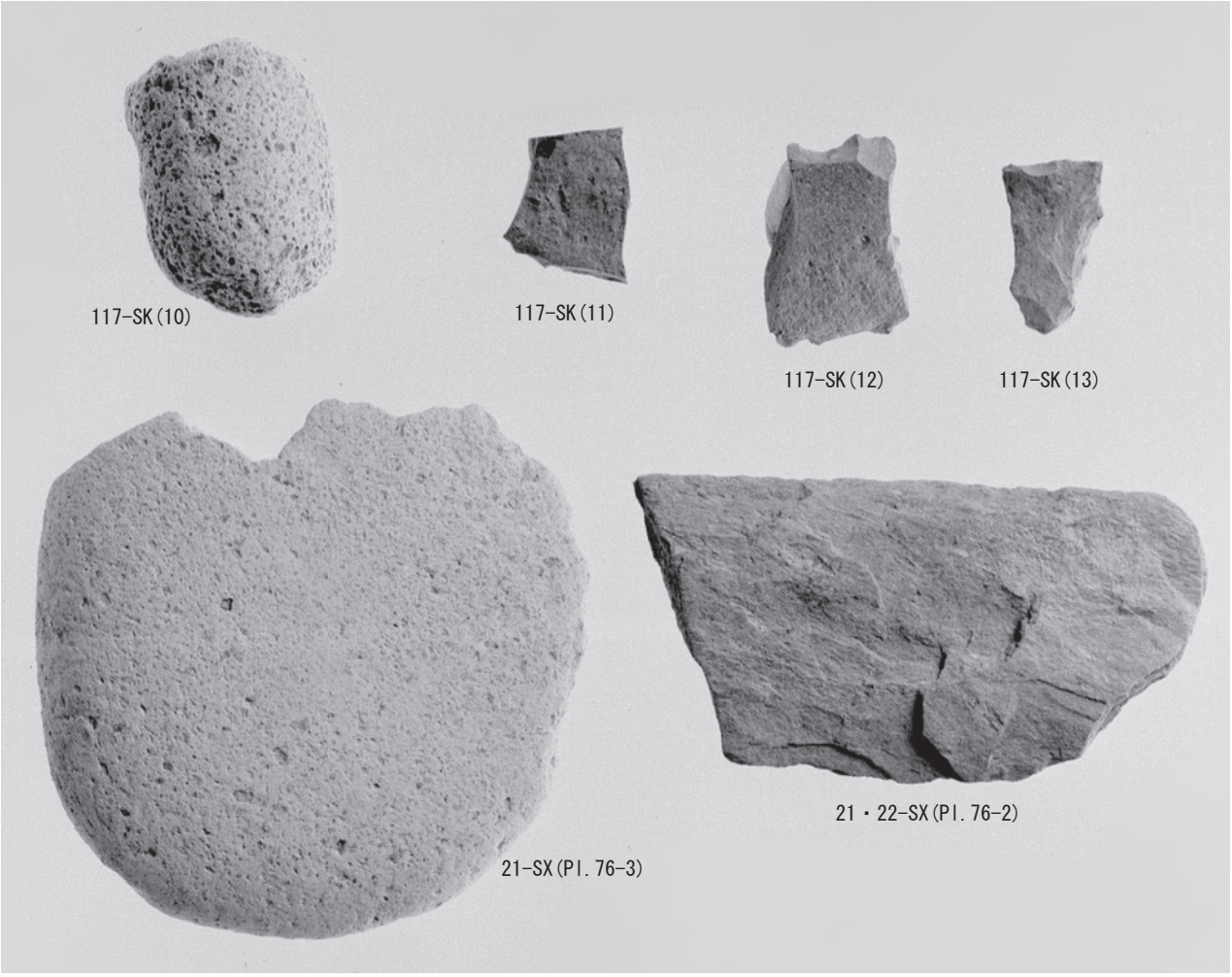

114-SD (1)
114-SD (2)
114-SD (3)
114-SD (4)
106-SD (5)
108-SD (6)
114-SD (7)
114-SD (8)
114-SD (9)
106-SD (10)
108-SD (11)


03-SD (12)
03-SD (13)
03-SD (14)
104-SD (15)
104-SD (16)
103-SD (17)
103-SD (18)
103-SD (19)
104-SD (20)
103-SD (21)
103-SD (22)
103-SD (23)
102-SD (24)


107-SD
(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)
(7)
(8)
(9)
(10)
(11)
(12)
(13)
(14)
(15)
(16)
(17)
(18)


N0E0(20)
包含層(21)
S20E20(22)
N40W40(19)
S20W10(25)
包含層(23)
包含層
(24)
N40W40(26)
N40W40(27)
S20W20(28)

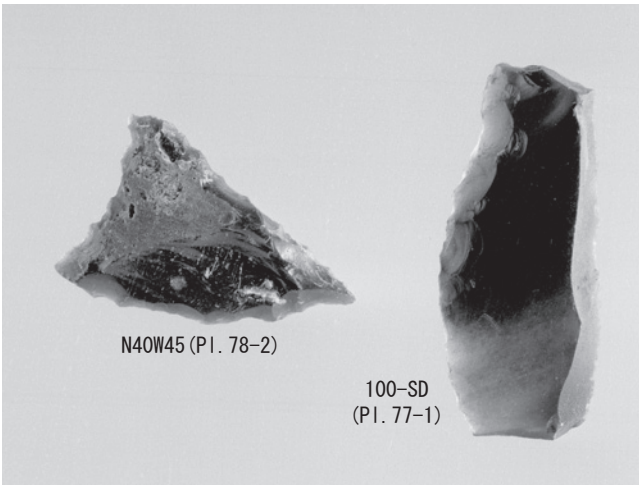

103-SD(Pl. 76-5)
115-SK(Pl. 75-2)
115-SK(1)
115-SK(2)
115-SK(3)
115-SK(4)
115-SK(5)
115-SK(6)
115-SK(7)
115-SK(9)
115-SK(Pl. 75-3)
08-SK
(Pl. 75-4)
115-SK(8)


117-SK(10)
117-SK(11)
117-SK(12)
117-SK(13)
21・22-SX(Pl. 76-2)
21-SX(Pl. 76-3)

08-SK(Pl. 75-5)

137-SP(Pl. 75-7)

03-SD(Pl. 77-4)



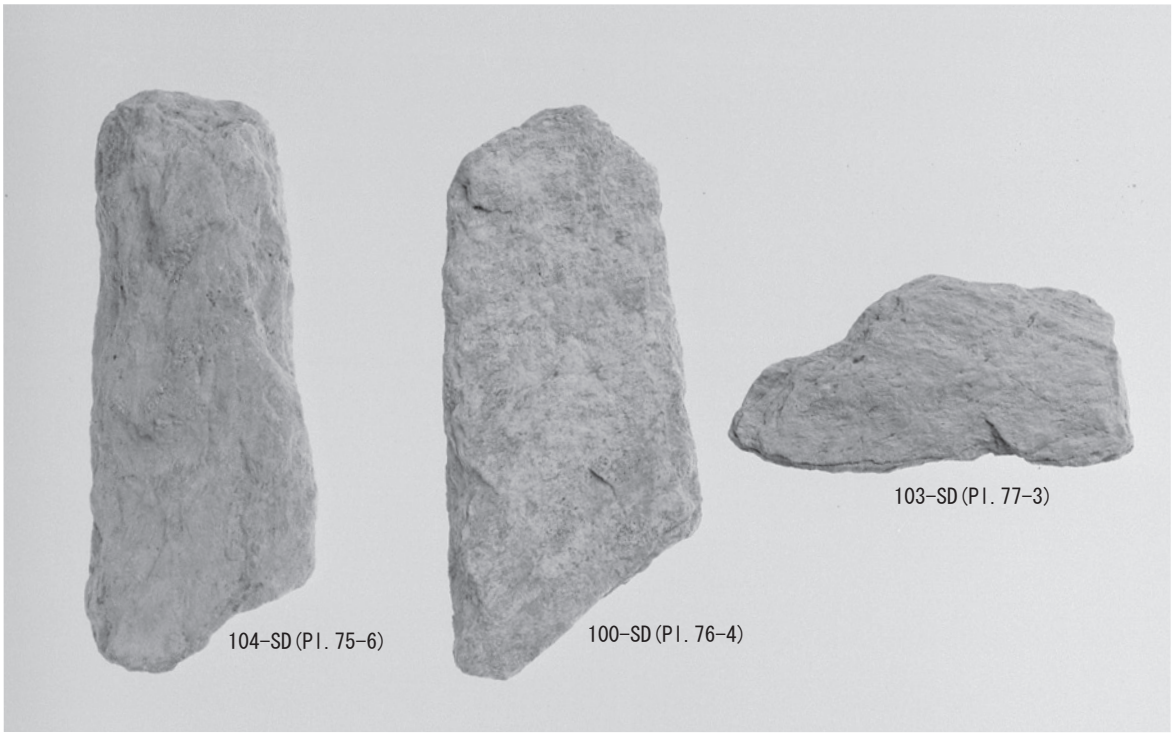
N40W45(Pl. 78-2)

100-SD
(Pl. 77-1)

包含層 (Pl. 78-6)

68-Pit(Pl. 76-1)

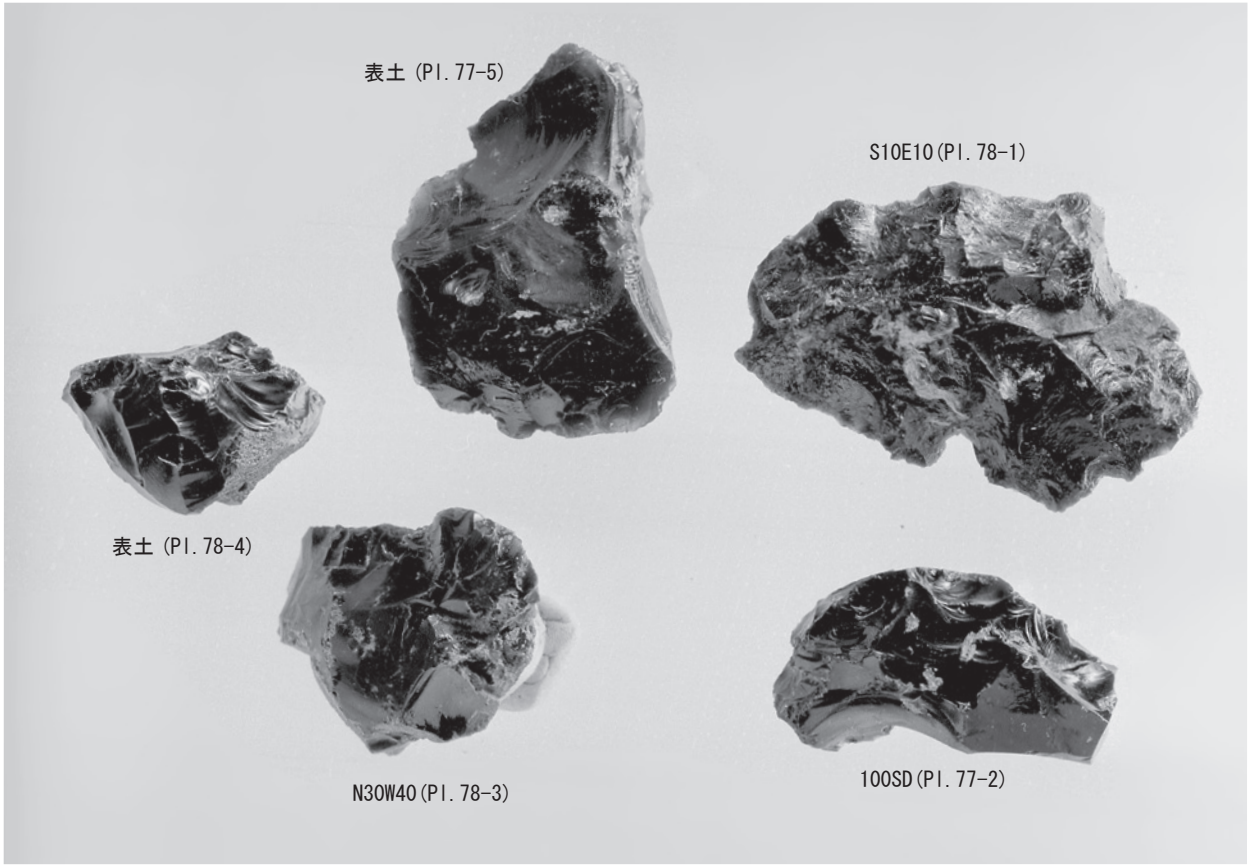
包含層 (Pl. 78-5)



104-SD(Pl. 75-6)

100-SD(Pl. 76-4)

103-SD(Pl. 77-3)

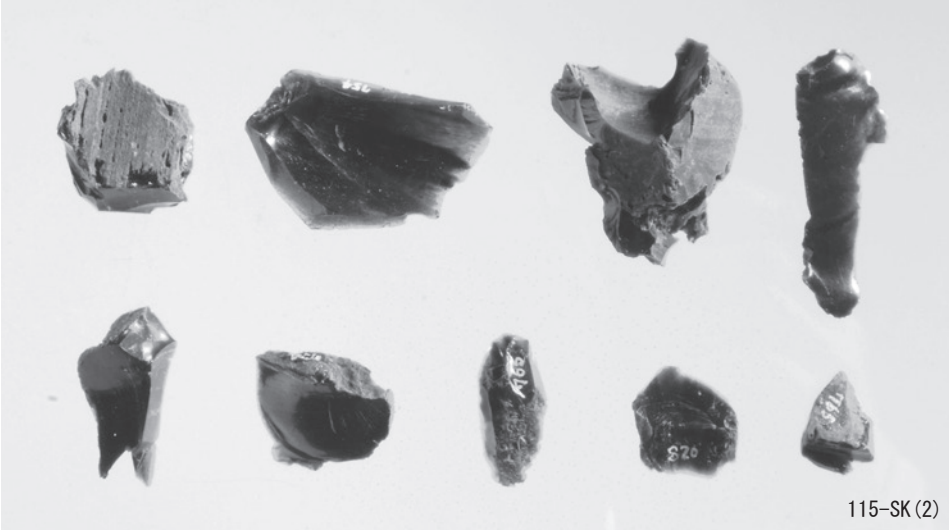


50-SK (1)

03-SD (2)

03-SD (3)

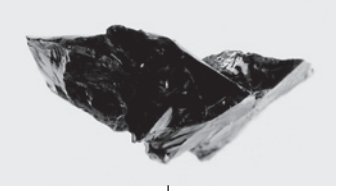
115-SK(1)

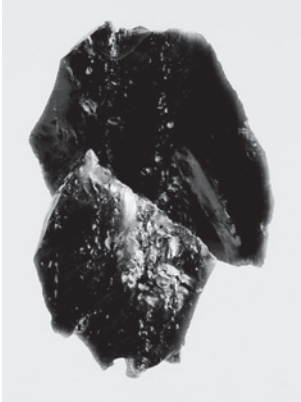


115-SK(2)

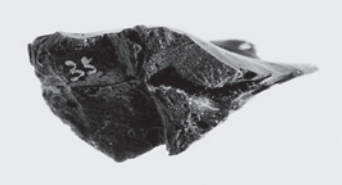
21・22-SX(3)

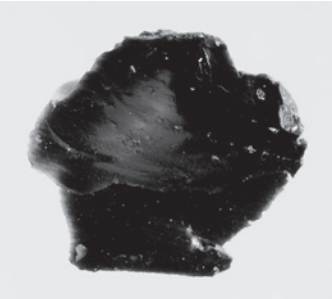
08-SK(Pl. 73-1)

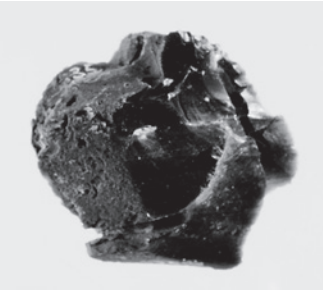


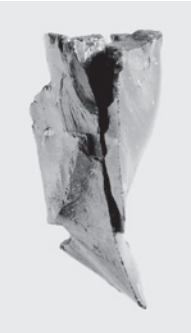


08-SK(Pl. 73-2)

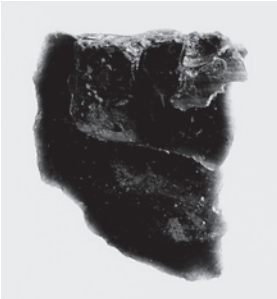


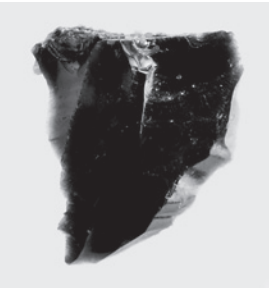


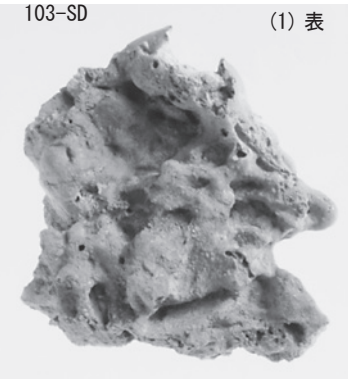


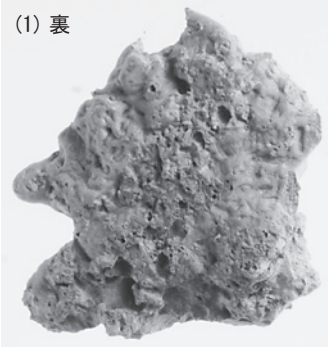


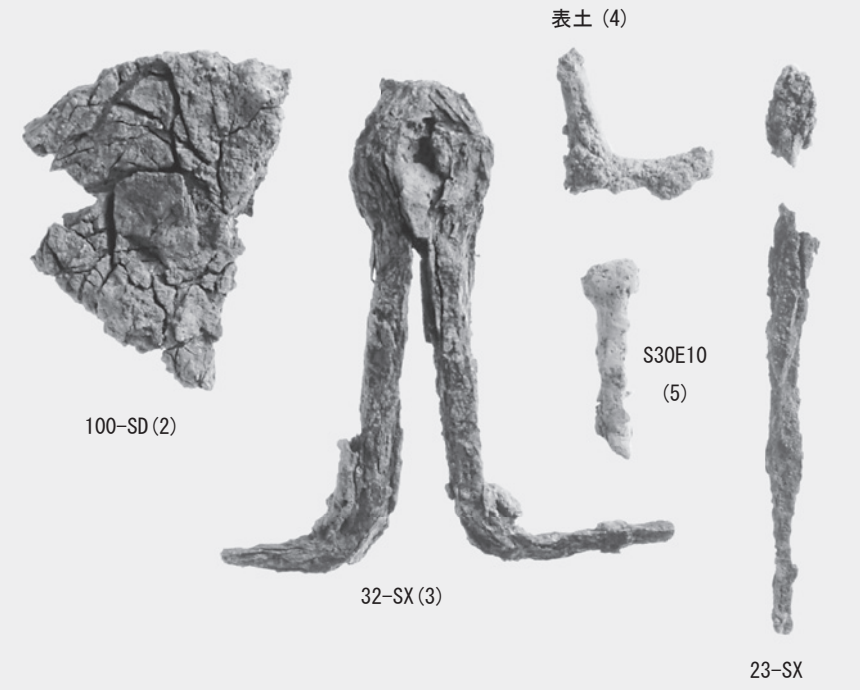
08-SK(Pl. 74-2)



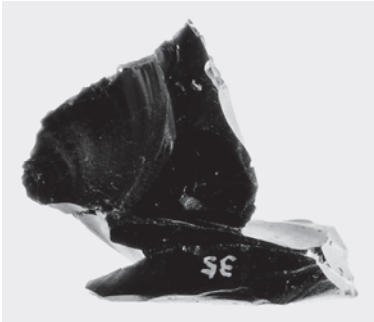


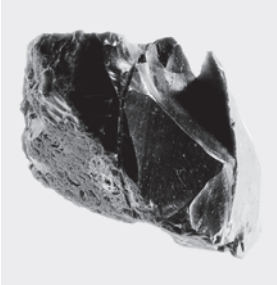


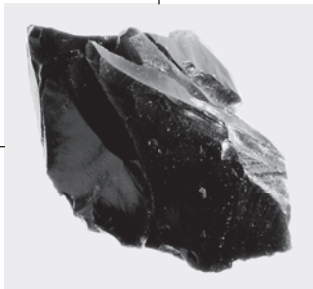


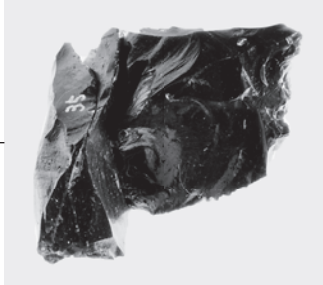


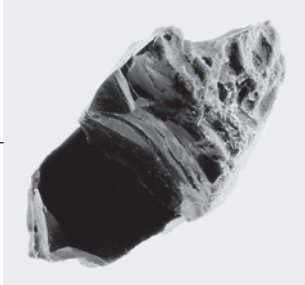
08-SK (Pl. 74-1)

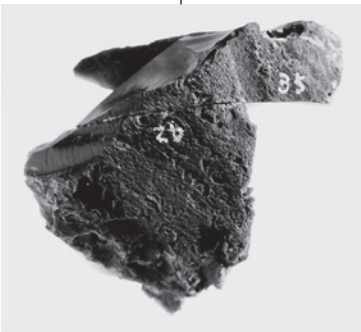






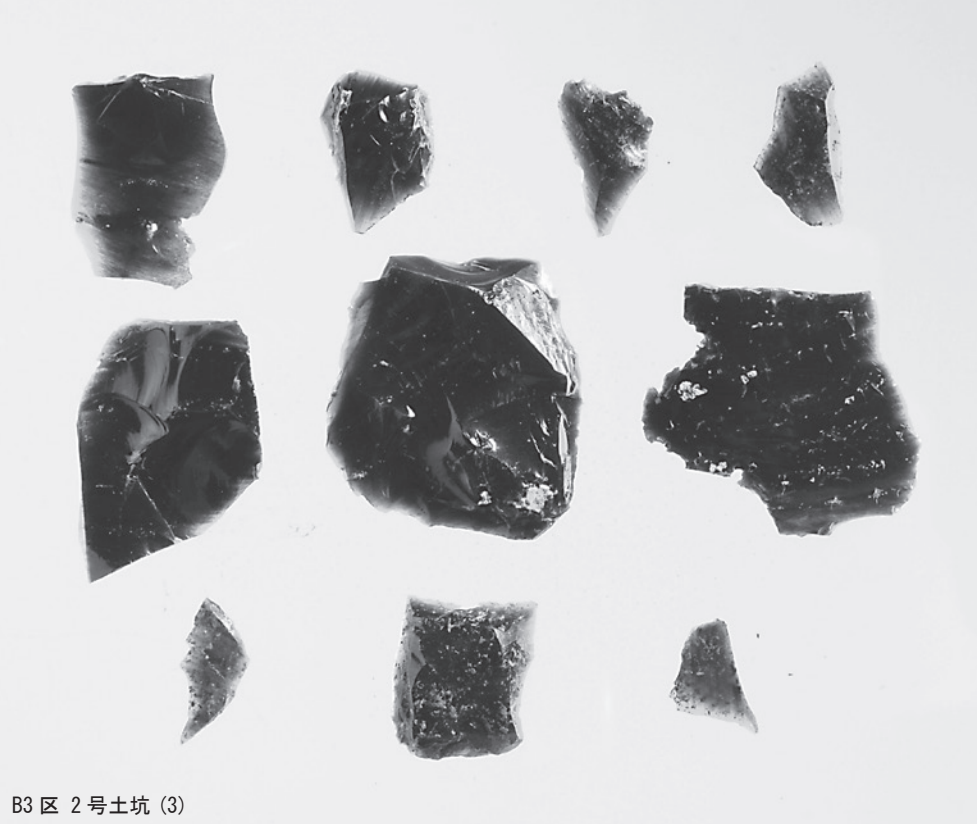






B1 区 168-SK 上層 (1)

B1 区 168-SK 下層 (2)



B3 区 2 号土坑 (3)

報告書抄録

ふりがな	てらだやまぐちいせき（じょうがつじじょうあと）
書　　名	寺田山口遺跡（城ヶ辻城跡）
調書名	一般国道２０８号玉名バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
巻　　次	熊本県文化財発掘調査報告書
シリーズ名	熊本県文化財調査報告
シリーズ番号	第２８７集
編集者名	亀田　学、藤島　友美
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒862-8609　　熊本市中央区水前寺６丁目 18 番１号
発行年月日	2013 年 3 月 29 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
寺田山口遺跡 （てらだ やまぐち いせき）	熊本県玉名市寺田 （くまもとけん たまな し てらだ）	43	492	32° 55′ 25″	130° 34′ 55″	2003 年 5 月 1 日 ～ 2006 年 6 月 30 日	約 4300 ㎡	一般国道 208 号 （玉名バイパス） 改築事業

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
寺田山口遺跡	城館、 集落、墓	縄文時代早期、縄文時代晩期、弥生時代、古代、中世後期	炉跡、墓、土坑、掘立柱建物、溝、	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器	円筒形条痕文土器土器棺

要約

連結土坑を 9 基以上検出した。そのうち、7 基は共有もしくは切り合いながら検出した。埋土の流れ込みの遺物に円筒形条痕文土器があったことから、縄文時代早期のものと判断した。

500m 南側の吉丸西遺跡では縄文時代後・晩期の竪穴建物を検出している。今回竪穴建物は削平等によりほとんど検出されなかったが、貯蔵穴等を数基、黒曜石のチップを含み石器を製作した跡と推定できる土坑を 2 基検出した。

遺物の出土量範囲や貯蔵穴や埋設土器、土器棺等から、集落の範囲がおぼろげながら推定でき、その結果、周りに検出した土坑を土器棺等とともに墓と推定している。

中世後期では隣接する吉丸前遺跡の調査結果により、南北 220m 以上、東西 170m 以上の連郭式城館と推定される。今回はさらにその時期と推定できる区画を北側に検出している。さらに広範囲に城館関連の敷地が広がっていたことが判明した。

この地は津に隣接した台地状にあり、重要な交通の地点として重要な位置を占めていたと考えられる。北東には菊池川の「津留」の地名も残っていることが、広範囲に土地利用に及んでいた理由であろう。

また、古代から中世にかけての区画溝及び掘立柱建物も検出した。遺物包含層出土遺物から 8 世紀代中葉～14 世紀代と推定できる。

隣接地の吉丸西遺跡は古代の古い段階から交通の要衝として、集落として立地したと思われる。今回、菊池川が見渡せる丘陵の北側まで集落が広がっていたことが確認できた。

あとがき

調査終了から数年を経てようやくその成果の一部を公表できることに感謝します。

この一冊の本ができるまではたくさんの人々の協力があって作成されています。事業者や地元各位はもちろん、現地調査で遺物包含層や遺構を掘削して頂いた作業員の皆様。現地から持ち帰った遺物の洗浄・注記・接合・復元をしないと、実測（図面）や写真として記録できません。

本報告の例言にお名前を挙げた方々に作業をお願いする前にさらにたくさんの方々に協力をお願いしています。

以下にお世話になった一部の方の御芳名を記して感謝の意を表します。

高木克巳、前田北征、山口義春、上田サワ子、松村健治、吉田ムツ子、岡本博子、小本三慧子、三森敏子、水村つよし、高木智恵子、平川ミツヨ、東信子、木下洋一、鹿本勝子、松村鈴子、岡田秀子、飯塚千恵美、山本美樹、品川タカ子、吉本スエ子、坂本弘子、眞田量之、松本肇、高西正也、武田昭男、谷口洋介、中村友、藤嶽康孝、田尻明、原田英佳、竹志田美奈子、田畑良勝、岡本昭洋、立野和彦、竹志田太、古川るみ子、杉本美智子、植尾寅吉、宮本てつ子、中川正美、坂田康夫、中西和人、森川耕司、堀田祐子、中嶋公輝、坂口沙耶花、福島寛啓、荒木康利、中村勇、廣田親雄、村上和子、大西ミツ子、田口一美、山内恵美子、大森ツヤ子、前田征由、谷口敬一、岡本昭洋、矢加部千佳子、渕上久史、田上俊子、高津千尋、北嶋百合子、坂門みつよ、入江賢二、永松サヤカ、西村清美、古川佐和子、尾浦公治、久木田仁美、高尾恵美、武田伸枝ほか（順不同）

本報告の編集者も報告書作業に携わる時間が少なく、かなりの部分を嘱託・作業員さんに頼らざるを得ませんでした。

現地調査及び報告書作成に携わって頂いた人々に感謝すると共に、本報告及び遺物等が地域で活用されることを希望します。

また、当遺跡の発掘の進展にあたり、地元諸氏や地元教育委員会や事業者の協力および理解があり、本報告書の刊行に至りました。記して感謝します。

熊本県文化財調査報告　第２８７集

寺田山口遺跡（城ヶ辻城跡）

－一般国道 208 号（玉名バイパス）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告－

平成 25 年 3 月 29 日

編集
発行　熊　本　県　教　育　委　員　会

〒862-8609 熊本県中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号

印刷　株式会社サンカラー

本社　〒 861-8035 熊本市東区御領 2-19-13

TEL 096-380-8131（代）FAX 096-389-0748

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 287 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名： 寺田山口遺跡
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話： 096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2015 年 12 月 8 日